ナンバリング（科目の記号と番号）について

授業科目には、それぞれ記号がついています（各学部・学科の「教育課程」表を参照)。

この記号と番号には、次のような意味が含まれています（履修登録に使われる授業コードとは異なります)。

MKTG　102
↓　　↓
科目記号　　科目番号
　　分類を表す　　上１ケタは開講学年を表す

１．科目記号

次のとおり、分類ごとの区分となっています。

SEMI	ゼミナール
ENG	英語
JPN	日本語
CHI	中国語
GER	ドイツ語
FRE	フランス語
PE	体育
TED	教職
INTD	総合
FOR	留学生
HIST	歴史
JLIT	日本文学
GEOG	地理学
MATH	数学
SCIE	科学
ECON	経済学
LAW	法学
POL	政治学
REM	外書講読
BCOM	基礎コンピュータ
COM	コンピュータ
SAP	留学/IBCS/Current Social Problems
BOKP	簿記
MKTG	マーケティング
FIN	金融

ACCT	会計学
MGMT	経営学
BMGM	企業経営
LMGM	経営法務
ENTP	起業・事業承継
INFO	情報
RELT	関連科目
HMSC	人間科学
PHIL	哲学
ETHC	倫理学
ED	教育学
HHS	健康科学
PSY	心理学
LING	言語学
SOC	社会学
GEN	ジェンダー
SLDC	社会・ライフデザイン
PCOM	心理・コミュニケーション
CED	児童教育

2．科目番号

100 番台	入門レベル。主に大学 1 年次を対象とした授業です。
200 番台	中級レベル。主に大学 2 年次を対象とした授業です。
300 番台	専門レベル。主に大学 3 年次を対象とした授業です。
400 番台	専門上級レベル。主に大学 4 年次を対象とした授業です。
500 番台	大学院レベル。主に大学院生が履修できる科目です。

科目名	ゼミⅠ(春学期)
英文科目名	Seminar Ⅰ
担当者名	本学専任教員
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SEMI101

授業の概要と到達目標

ゼミⅠは、大学生活を送る上で必要な基礎を身につけ、能動的な自己を確立することを目標とし、大学全体の教育の基礎となる科目となる。 ゼミⅠの授業は、アドバイザー制度とともに以下の４つの視点から構成される。【視点Ⅰ：スムーズな大学への接続】①オリエンテーションによる仲間づくり。②高千穂マスタープランによる年間行事予定の確認、学生生活目標管理シートによる１年次学習目標の設定・自己点検をとおした４年間の大学生活のイメージ。【視点Ⅱ：スタディスキル】①大学生として必要な基本的スタディスキルの習得。②「読む・書く・聴く・話す」力の基礎の養成。【視点Ⅲ：課題探求型学習】①ゼミⅡへの接続を念頭にした主体的学習態度の習得。②自発的な課題探求のプロセスの中で、問題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション能力の基礎を養成。【視点Ⅳ：キャリア】①アドバイザー制度により将来の自己を見つめる。②社会人基礎力診断を活用したプログラムにより大学生としての一般・社会常識を身につける

授業の方法

アクティブ・ラーニング（ノートテイキング、ワークシートによる要約・レポート作成、グループ・ディスカッション等）を、すべての授業回で実施する。また、一部授業ではスマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を行うことがある。

予習と復習

予習（90分）：ワークシート等、事前に教員から指示された課題に取り組み、要点の整理等の予習を行うこと。復習（90分）：授業内に教員から指示された復習を行うこと。

テキスト等

毎授業でオリジナルの教材を配布する。なおタームⅢでは学習技術研究会著『知へのステップ――大学生からのスタディ・スキルズ』（くろしお出版）を一部使用する。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	60%
ワークシート等課題の提出内容			20%	ワークシート等課題の提出状況			20%

原則として授業には毎回出席すること。各授業回におけるアクティブ・ラーニングの課題への取り組みに対して、適宜評価と所見を提示する。

授業計画

①［視点Ⅰ］学習計画・履修指導／イントロダクション
②［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ］図書館利用説明と図書借出し課題設定
③［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ］ 講義・授業の受け方を考える
④［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ］模擬授業・ノートテイキングと確認問題
⑤［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ］タームⅠの振り返り
⑥［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ］情報リテラシー
⑦［視点Ⅳ］キャリアに関する知識と意識の醸成
⑧［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ］情報を読み解く力[要点把握と文章要約課題]
⑨［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ］文章要約課題の添削
⑩［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ］タームⅡの振り返り
⑪［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ］レポート作成の基礎を学ぶ[共同授業]
⑫［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ］レポート作成の実践
⑬［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ］レポート相互添削・修正と相互評価
⑭［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ］タームⅢの振り返り
⑮［視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ］春学期の振り返りとまとめ

科目名	ゼミⅠ(秋学期)
英文科目名	Seminar Ⅰ
担当者名	本学専任教員
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SEMI101

授業の概要と到達目標	ゼミⅠは、大学生活を送る上で必要な基礎を身につけ、能動的な自己を確立することを目標とし、大学全体の教育の基礎となる科目となる。　ゼミⅠの授業は、アドバイザー制度とともに以下の４つの視点から構成される。【視点Ⅰ：スムーズな大学への接続】①オリエンテーションによる仲間づくり。②高千穂マスタープランによる年間行事予定の確認、学生生活目標管理シートによる１年次学習目標の設定・自己点検をとおした４年間の大学生活のイメージ。【視点Ⅱ：スタディスキル】①大学生として必要な基本的スタディスキルの習得。②「読む・書く・聴く・話す」力の基礎の養成。【視点Ⅲ：課題探求型学習】①ゼミⅡへの接続を念頭にした主体的学習態度の習得。②自発的な課題探求のプロセスの中で、問題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション能力の基礎を養成。【視点Ⅳ：キャリア】①アドバイザー制度により将来の自己を見つめる。②社会人基礎力診断を活用したプログラムにより大学生としての一般・社会常識を身につける。
授業の方法	アクティブ・ラーニング（ノートテイキング、ワークシートによる要約・レポート作成、グループ・ディスカッション等）を、すべての授業回で実施する。
予習と復習	予習（90分）：ワークシート等、事前に教員から指示された課題に取り組み、要点の整理等の予習を行うこと。復習（90分）：授業内に教員から指示された復習を行うこと。
テキスト等	毎授業でオリジナルの教材を配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	60%
	ワークシート等課題の提出内容			20%	ワークシート等課題の提出状況			20%
	原則として授業には毎回出席すること。各授業回におけるアクティブ・ラーニングの課題への取り組みに対して、適宜評価と所見を提示する。							

授業計画	①［視点Ⅱ・Ⅳ］成績確認と秋学期履修指導 ／ 夏期休業中課題の提出
	②［視点Ⅲ］論理的思考、問題発見・解決能力の養成―プレゼンテーションテーマの確定
	③［視点Ⅲ］共同授業：コース（専攻）ガイダンス
	④［視点Ⅲ］論理的思考、問題発見・解決能力の養成―プレゼンテーション内容の調査
	⑤［視点Ⅲ］論理的思考、問題発見・解決能力の養成―プレゼンテーション内容の検討
	⑥［視点Ⅲ］論理的思考、問題発見・解決能力の養成―プレゼンテーション内容の相互検討
	⑦［視点Ⅲ］論理的思考、問題発見・解決能力の養成―ゼミ内プレ・プレゼンテーション
	⑧［視点Ⅲ］論理的思考、問題発見・解決能力の養成―プレゼンテーション内容の再精査
	⑨［視点Ⅲ］論理的思考、問題発見・解決能力の養成―プレゼンテーション内容の再検討
	⑩［視点Ⅲ］論理的思考、問題発見・解決能力の養成―ゼミ内プレゼンテーションリハ
	⑪［視点Ⅲ］共同授業：プレゼンテーション　(Aグループ)
	⑫［視点Ⅲ］共同授業：プレゼンテーション　(Bグループ)
	⑬［視点Ⅳ］キャリアに対する意識を高めよう
	⑭［視点Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ］共同授業・プレゼンテーションの振り返り
	⑮1年間の総まとめ

科目名	基礎コンピュータⅠ/Ⅰ（再）
英文科目名	Introduction to Computer Science Ⅰ/Ⅰ(Re)
担当者名	笹金光徳,梅崎馨章,中尾暢見,大江親臣,青淵正幸
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BCOM101

授業の概要と到達目標	本科目と基礎コンピュータⅡで、実習を通してコンピュータおよびネットワークのリテラシーを学ぶ。その前半となる本科目では、他の授業でも必要となる多くのコンピュータ操作について習得することを目指す。10分間200字の入力ができることを最低限の目標の一つなので、キーボード操作をしっかり身につけること。受講開始時点での習熟度に応じて「普通クラス」と「中級クラス」にクラス分けを行うが基本的な到達目標は一致している。欠席や遅刻は厳禁である。■学習到達目標：基礎コンピュータⅠの到達目標は、コンピュータとネットワークの仕組み理解し、キーボード操作、マウス操作、日本語入力、電子メールの利用が十分できると共に日本語ワードプロセッサ(Word)および表計算ソフト(Excel)の基本操作が行えるようになることである。
授業の方法	基本的に実習を中心とした講義であり、実際にコンピュータを操作しながら自律的な学習を進めていく。必要に応じて、実習内容に関する質疑応答を実施する(アクティブ・ラーニング)。
予習と復習	予習（90分）毎回の授業内容と教科書の対応ページが書かれているWebサイトを参考にして，テキスト内の次回の講義に該当する箇所を精読しておくこと。復習（90分）当日の講義内容を自宅や開放されているコンピュータ室などで復習しておくこと。
テキスト等	編：実教出版企画開発部『30時間でマスター Office2024』（実教出版－購入）、『情報メディアセンター利用の手引き2026年版』(オンライン－購入不要)、さらに不足分は配布資料にて補う。

評価方法	定期試験	40%	授業内試験	10%	レポート	0%	平常点	10%
	授業で示すレポート・課題			40%				0%
	次のすべての条件を満たさなければ単位認定しない。①出席率80%以上、②授業内テストを必ず受験、③レポート・課題を全て提出。							

授業計画	①コンピュータの仕組み（歴史，ハードとソフト，OSとアプリケーション）
	②プログラミングとは何か（アルゴリズム，プロセス，データ，オブジェクト指向）
	③Windowsの基本操作（キーボード，マウス）
	④Windowsにおけるファイル管理（ファイル，フォルダ，拡張子）
	⑤インターネットのしくみ
	⑥日本語入力と電子メールの利用
	⑦WWWの原理とブラウザの基本的利用法
	⑧ワープロソフトの役割・基本概念とWordの基本操作
	⑨ワープロソフトWordによる文書作成
	⑩表計算ソフトウェアの基本概念（計算式）
	⑪表計算ソフトウェアExcelの基本的利用法1（相対参照と絶対参照）
	⑫表計算ソフトウェアExcelの基本的利用法2（関数，グラフ）
	⑬ 定期試験対策1（前半の復習）
	⑭文章入力実技試験の実施と定期試験対策2（後半の復習）
	⑮まとめと復習

科目名	基礎コンピュータⅡ/Ⅱ(再)
英文科目名	Introduction to Computer Science Ⅱ/Ⅱ(Re)
担当者名	笹金光徳,梅崎馨章,中尾暢見,大江親臣
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BCOM102

授業の概要と到達目標	基礎コンピュータⅠに引き続き、実習を通してコンピュータおよびネットワークのリテラシーを学ぶ。特に本科目では、基礎コンピュータⅠで習得した基礎をさらに発展させ、情報ネットワーク社会に積極的に参加する姿勢を身に付けることとデータサイエンスの基礎的な考え方を滋養することが目標である。よって、基礎コンピュータⅠ以上に積極的な学習態度が必要である。また、この科目の内容を習得することによって、2年生以降の情報関係科目や各学部の専門科目において、より高度なITの活用が可能になる。「普通クラス」と「中級クラス」のクラス分けは基礎コンピュータⅠのままとする。継続的な学習が欠かせないことから、欠席や遅刻は厳禁である。基礎コンピュータⅠとⅡを単位修得した時点で、大学内の他の授業で最低限必要となる情報リテラシーが身についているようになることが、到達目標である。■学習到達目標：基礎コンピュータⅠで習得した基礎をさらに発展させ、大学生活において、情報リテラシーを効果的に使いこなせるようにすることを目標としている。
授業の方法	基本的に実習を中心とした講義であり、実際にコンピュータを操作しながら自律的な学習を進めていく。必要に応じて、実習内容に関する質疑応答を実施する(アクティブ・ラーニング)。
予習と復習	予習（90分）毎回の授業内容と教科書の対応ページが書かれているWebサイトを参考にして，テキスト内の次回の講義に該当する箇所を精読しておくこと。復習（90分）当日の講義内容を自宅や開放されているコンピュータ室などで復習しておくこと。
テキスト等	編：実教出版企画開発部『30時間でマスター Office2024』（実教出版ー購入）、『情報メディアセンター利用の手引き2026年版』(オンラインー購入不要)、さらに不足分は配布資料にて補う。

評価方法	定期試験	40%	授業内試験	10%	レポート	0%	平常点	10%
	授業で示すレポート・課題			40%				0%
	次のすべての条件を満たさなければ単位認定しない。①出席率80%以上、②授業内テストを必ず受験、③レポート・課題を全て提出。							

授業計画	①ブラウザによる情報検索の基礎と生成AIの紹介
	②プレゼンテーションソフトの基本概念とPowerPointの基本操作
	③PowerPointによるスライド作成1（アウトラインと図の利用）
	④PowerPointによるスライド作成2（グラフ・アニメーション効果）
	⑤Wordの発展的学習1（ビジネス文書）
	⑥Wordの発展的学習2（画像・図形・数式の活用）
	⑦Excelの発展的学習1（多様なグラフ）
	⑧Excelの発展的学習2（IF関数と検索関数）
	⑨Excelによるデータリテラシー1（統計関数と集計）
	⑩Excelによるデータリテラシー2（箱ひげ図，散布図）
	⑪Word・Excel・ブラウザの連携操作
	⑫ウェブサイトの基本構造(HTML，CSS)
	⑬CMSによるウェブサイト作成・管理までの知識理解
	⑭定期試験対策1（前半の復習）
	⑮実技試験(データ処理とExcel，Wordの連携)の実施と定期試験対策2（後半の復習）

科目名	英語Ⅰ(Aレベル)
英文科目名	EnglishⅠ(A-Level)
担当者名	寺内一,瀧口晴美
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG101
授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。学年開始時に行われるプレースメントテストの成績上位者の学生を対象にします。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。＜到達目標＞「英語Ⅱ（リスニング・作文）」終了時にTOEIC 500点(TOEIC Bridge 150点)に達することを学習到達目標とします。（文法）中学卒業までに習得する基本的な文法や文型を概ね把握でき、接続詞や不定詞等の使用ルールについて理解できるようになりましょう。また、文章構造が複雑になっても、時制の適切な使用方法を理解できるようになることを目指します。（読解）手紙や看板などの短い文章をはじめ、長い文章であっても日常的で身近な事柄であれば要点や詳細を理解することを目指します。
授業の方法	この授業は週２回行われ、「文法・読解」を中心に学習します。文法事項を説明し、文法問題と読解問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで文章を音読・暗唱すること（アクティブ・ラーニング）で発音や理解度を確認します。
予習と復習	予習(90分/１週)：普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取組み、予習をしましょう。復習(90分/１週)：授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、復習しましょう。
テキスト等	北尾泰幸他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 －Advanced－［二訂版］』（朝日出版社）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%
単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。課題のフィードバック方法については授業時に担当教員から説明します。							

授業計画
①第1週：ガイダンス／到達目標設定
②第2週：Unit 1　Eating Out (Part 5／Part 6-7)
③第3週：Unit 2　Travel (Part 5／Part 6-7)
④第4週：Unit 3　Amusement (Part 5／Part 6-7)
⑤第5週：Unit 4　Meetings (Part 5／Part 6-7)
⑥第6週：Unit 5　Personnel (Part 5／Part 6-7)
⑦第7週：復習 (Unit 1-5)、授業内試験①／解説
⑧第8週：Unit 6　Shopping (Part 5／Part 6-7)
⑨第9週：Unit 7　Advertisement (Part 5／Part 6-7)
⑩第10週：Unit 8　Daily Life (Part 5／Part 6-7)
⑪第11週：Unit 9　Office Work (Part 5／Part 6-7)
⑫第12週：Unit 10　Business (Part 5／Part 6-7)
⑬第13週：Unit 11　Traffic (Part 5／Part 6-7)
⑭第14週：復習 (Unit 6-11)、授業内試験②／解説
⑮第15週：到達度の確認／まとめと総復習

科目名	英語Ⅰ(Bレベル)
英文科目名	EnglishⅠ(B-Level)
担当者名	松谷明美,小宮敦子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG101
授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。学年開始時に行われるプレースメントテストの成績中上位者の学生を対象にします。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。＜到達目標＞「英語Ⅱ（リスニング・作文）」終了時にTOEIC 450点(TOEIC Bridge 140点)に達することを学習到達目標とします。（文法）中学卒業までに習得する基本的な文法や文型を概ね把握でき、接続詞や不定詞等の使用ルールについて理解できるようになりましょう。また、文章構造が複雑になっても、時制の適切な使用方法を理解できるようになることを目指します。（読解）手紙や看板などの短い文章をはじめ、長い文章であっても日常的で身近な事柄であれば要点や詳細を理解することを目指します。
授業の方法	この授業は週２回行われ、「文法・読解」を中心に学習します。文法事項を説明し、文法問題と読解問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで文章を音読・暗唱すること（アクティブ・ラーニング）で発音や理解度を確認します。
予習と復習	予習(90分/１週)：普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取組み、予習をしましょう。復習(90分/１週)：授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、復習しましょう。
テキスト等	北尾泰幸他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 －Advanced－［二訂版］』（朝日出版社）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%
単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。								

授業計画
①第1週：ガイダンス（授業の説明、到達目標設定）
②第2週：Unit 1　Eating Out（Part 5／Part 6-7）
③第3週：Unit 2　Travel（Part 5／Part 6-7）
④第4週：Unit 3　Amusement（Part 5／Part 6-7）
⑤第5週：Unit 4　Meetings（Part 5／Part 6-7）
⑥第6週：Unit 5　Personnel（Part 5／Part 6-7）
⑦第7週：復習（Unit 1-5)、授業内試験①／解説
⑧第8週：Unit 6　Shopping（Part 5／Part 6-7）
⑨第9週：Unit 7　Advertisement（Part 5／Part 6-7）
⑩第10週：Unit 8　Daily Life（Part 5／Part 6-7）
⑪第11週：Unit 9　Office Work（Part 5／Part 6-7）
⑫第12週：Unit 10　Business（Part 5／Part 6-7）
⑬第13週：Unit 11　Traffic（Part 5／Part 6-7）
⑭第14週：復習（Unit 6-11)、授業内試験②／解説
⑮第15週：到達度の確認／まとめと総復習

科目名	英語Ⅰ(Cレベル)
英文科目名	EnglishⅠ(C-Level)
担当者名	中野重雄,三木千絵,髙見陽子,宮﨑太樹
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG101

授業の概要と到達目標

＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。学年開始時に行われるプレースメントテストの成績中位以下の学生を対象にします。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。最終的に「英語Ⅱ（リスニング・作文）」終了時にTOEIC 350点(TOEIC Bridge 130点)に達することを学習到達目標とします。＜到達目標＞（文法）中学卒業までに習得する基本的な文法や文型を概ね把握できることを目指します。接続詞や不定詞等の使用ルールについて理解できるようになりましょう。文章構造が複雑に（長く）なっても、時制の適切な使用方法を理解しましょう。（読解）日常的で身近な事柄であれば要点や詳細を理解することができるようになりましょう。手紙や看板などの短い文章をはじめ、長い文章であっても日常的で身近な内容であれば理解できることを目指します。

授業の方法

この授業は週２回行われ、「文法・読解」を中心に学習します。文法事項を説明し、文法問題と読解問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで文章を音読・暗唱すること（アクティブ・ラーニング）で発音や理解度を確認します。

予習と復習

予習(90分/１週)：普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取組み、予習をしましょう。復習(90分/１週)：授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、復習しましょう。

テキスト等

北尾泰幸他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 1 －Basic－［二訂版］』（朝日出版社）

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%

単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。

授業計画

①第1週：ガイダンス（授業の説明、到達目標設定）
②第2週：Unit 1　Eating Out（Part 5／Part 6-7）
③第3週：Unit 2　Travel（Part 5／Part 6-7）
④第4週：Unit 3　Amusement（Part 5／Part 6-7）
⑤第5週：Unit 4　Meetings（Part 5／Part 6-7）
⑥第6週：Unit 5　Personnel（Part 5／Part 6-7）
⑦第7週：復習　(Unit 1-5)、授業内試験①／解説
⑧第8週：Unit 6　Shopping（Part 5／Part 6-7）
⑨第9週：Unit 7　Advertisement（Part 5／Part 6-7）
⑩第10週：Unit 8　Daily Life（Part 5／Part 6-7）
⑪第11週：Unit 9　Office Work（Part 5／Part 6-7）
⑫第12週：Unit 10　Business（Part 5／Part 6-7）
⑬第13週：Unit 11　Traffic（Part 5／Part 6-7）
⑭第14週：復習　(Unit 6-11)、授業内試験②／解説
⑮第15週：到達度の確認／まとめと総復習

科目名	英語Ⅱ(Aレベル)
英文科目名	EnglishⅡ(A-Level)
担当者名	寺内一,瀧口晴美
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG102
授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。学年開始時に行われるプレースメントテストの成績上位者の学生を対象にします。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。＜到達目標＞「英語Ⅱ（リスニング・作文）」終了時にTOEIC 500点(TOEIC Bridge 150点)に達することを学習到達目標とします。（リスニング）発音がクリアで速度が遅ければ、簡単なメッセージやアナウンス、議論されている内容の要点を理解できるようになりましょう。また、テレビのニュース番組でも、アナウンス内容が映像の説明を直接説明していれば、概ね理解できることを目指します。（作文）日常的で、自身が経験したことのある内容であれば、「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞を使った短い文章が書けることを目指します。
授業の方法	この授業は週２回行われ、「リスニング・作文」を中心に学習します。リスニング問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで英文を音読したり、英文を書いてみることで理解度を確認します（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(90分/１週)：普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取組み、予習をしましょう。復習(90分/１週)：授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、復習しましょう。
テキスト等	北尾泰幸他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 ーAdvancedー［二訂版］』（朝日出版社）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度			60%				0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。課題のフィードバック方法については授業時に担当教員から説明します。							

授業計画
①第1週：ガイダンス／到達目標設定
②第2週：Unit 1　Eating Out (Part 1-2／Part 3-4)
③第3週：Unit 2　Travel (Part 1-2／Part 3-4)
④第4週：Unit 3　Amusement (Part 1-2／Part 3-4)
⑤第5週：Unit 4　Meetings (Part 1-2／Part 3-4)
⑥第6週：Unit 5　Personnel (Part 1-2／Part 3-4)
⑦第7週：復習　(Unit 1-5)、授業内試験①／解説
⑧第8週：Unit 6　Shopping (Part 1-2／Part 3-4)
⑨第9週：Unit 7　Advertisement (Part 1-2／Part 3-4)
⑩第10週：Unit 8　Daily Life (Part 1-2／Part 3-4)
⑪第11週：Unit 9　Office Work (Part 1-2／Part 3-4)
⑫第12週：Unit 10 Business (Part 1-2／Part 3-4)
⑬第13週：Unit 11 Traffic (Part 1-2／Part 3-4)
⑭第14週：復習 (Unit 6-11)、授業内試験②／解説
⑮第15週：到達度の確認／まとめと総復習

科目名	英語Ⅱ(Bレベル)
英文科目名	EnglishⅡ(B-Level)
担当者名	松谷明美,小宮敦子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG102
授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。学年開始時に行われるプレースメントテストの成績中上位者の学生を対象にします。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。＜到達目標＞「英語Ⅱ（リスニング・作文）」終了時にTOEIC 450点(TOEIC Bridge 140点)に達することを学習到達目標とします。（リスニング）発音がクリアで速度が遅ければ、簡単なメッセージやアナウンス、議論されている内容の要点を理解できるようになりましょう。また、テレビのニュース番組でも、アナウンス内容が映像の説明を直接説明していれば、概ね理解できることを目指します。（作文）日常的で、自身が経験したことのある内容であれば、「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞を使った短い文章が書けることを目指します。
授業の方法	この授業は週２回行われ、「リスニング・作文」を中心に学習します。リスニング問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで英文を音読したり、英文を書いてみることで理解度を確認します（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(90分/１週)：普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取組み、予習をしましょう。復習(90分/１週)：授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、復習しましょう。
テキスト等	北尾泰幸他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 －Advanced－［二訂版］』（朝日出版社）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%
単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。								

授業計画
①第1週：ガイダンス（授業の説明、到達目標設定）
②第2週：Unit 1　Eating Out（Part 1-2／Part 3-4）
③第3週：Unit 2　Travel（Part 1-2／Part 3-4）
④第4週：Unit 3　Amusement（Part 1-2／Part 3-4）
⑤第5週：Unit 4　Meetings（Part 1-2／Part 3-4）
⑥第6週：Unit 5　Personnel（Part 1-2／Part 3-4）
⑦第7週：復習（Unit 1-5)、授業内試験①／解説
⑧第8週：Unit 6　Shopping（Part 1-2／Part 3-4）
⑨第9週：Unit 7　Advertisement（Part 1-2／Part 3-4）
⑩第10週：Unit 8　Daily Life（Part 1-2／Part 3-4）
⑪第11週：Unit 9　Office Work（Part 1-2／Part 3-4）
⑫第12週：Unit 10　Business（Part 1-2／Part 3-4）
⑬第13週：Unit 11　Traffic（Part 1-2／Part 3-4）
⑭第14週：復習（Unit 6-11)、授業内試験②／解説
⑮第15週：到達度の確認／まとめと総復習

科目名	英語Ⅱ(Cレベル)
英文科目名	EnglishⅡ(C-Level)
担当者名	中野重雄,三木千絵,髙見陽子,宮﨑太樹
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG102
授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。学年開始時に行われるプレースメントテストの成績中以下者の学生を対象にします。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。＜到達目標＞「英語Ⅱ（リスニング・作文）」終了時にTOEIC 350点(TOEIC Bridge 130点)に達することを学習到達目標とします。（リスニング）発音がクリアで速度が遅ければ、簡単なメッセージやアナウンス、議論されている内容の要点を理解できるようになりましょう。また、テレビのニュース番組でも、アナウンス内容が映像の説明を直接説明していれば、概ね理解できることを目指します。（作文）日常的で、自身が経験したことのある内容であれば、「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞を使った短い文章が書けることを目指します。
授業の方法	この授業は週２回行われ、「リスニング・作文」を中心に学習します。リスニング問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで英文を音読したり、英文を書いてみることで理解度を確認します（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(90分/１週)：普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取組み、予習をしましょう。復習(90分/１週)：授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、復習しましょう。
テキスト等	北尾泰幸他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 1 －Basic－［二訂版］』（朝日出版社）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%
単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。								

授業計画
①第1週：ガイダンス（授業の説明、到達目標設定）
②第2週：Unit 1　Eating Out（Part 1-2／Part 3-4）
③第3週：Unit 2　Travel（Part 1-2／Part 3-4）
④第4週：Unit 3　Amusement（Part 1-2／Part 3-4）
⑤第5週：Unit 4　Meetings（Part 1-2／Part 3-4）
⑥第6週：Unit 5　Personnel（Part 1-2／Part 3-4）
⑦第7週：復習（Unit 1-5)、授業内試験①／解説
⑧第8週：Unit 6　Shopping（Part 1-2／Part 3-4）
⑨第9週：Unit 7　Advertisement（Part 1-2／Part 3-4）
⑩第10週：Unit 8　Daily Life（Part 1-2／Part 3-4）
⑪第11週：Unit 9　Office Work（Part 1-2／Part 3-4）
⑫第12週：Unit 10　Business（Part 1-2／Part 3-4）
⑬第13週：Unit 11　Traffic（Part 1-2／Part 3-4）
⑭第14週：復習（Unit 6-11)、授業内試験②／解説
⑮第15週：到達度の確認／まとめと総復習

科目名	英語Ⅰ(再)
英文科目名	EnglishⅠ(Re)
担当者名	舟木てるみ
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG101

授業の概要と到達目標

＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。＜到達目標＞文法と読解のスキルを向上させることを目標とします。（文法）中学卒業までに習得する基本的な文法や文型について概ね把握でき、接続詞や不定詞等の使用ルールについて理解できるようになりましょう。また、文章構造が複雑になっても、時制の適切な使用方法を理解できるようになることを目指します。（読解）手紙や看板などの短い文章をはじめ、長い文章であっても日常的で身近な事柄であれば要点や詳細を理解することを目指します。

授業の方法

この授業は週２回行われ、「文法・読解」を中心に学習します。文法事項を説明し、文法問題と読解問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで文章を音読・暗唱することで発音や理解度を確認します（アクティブ・ラーニング）。

予習と復習

予習(90分/１週)：普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取組み、予習をしましょう。復習(90分/１週)：授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、復習しましょう。

テキスト等

北尾泰幸他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 1 ーBasic ー［二訂版］』（朝日出版社）

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%

単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。

授業計画

①第1週：ガイダンス（授業の説明、到達目標設定）
②第2週：Unit 1　Eating Out（Part 5／Part 6-7）
③第3週：Unit 2　Travel（Part 5／Part 6-7）
④第4週：Unit 3　Amusement（Part 5／Part 6-7）
⑤第5週：Unit 4　Meetings（Part 5／Part 6-7）
⑥第6週：Unit 5　Personnel（Part 5／Part 6-7）
⑦第7週：復習(Unit 1~5)、授業内試験①／解説
⑧第8週：Unit 6　Shopping（Part 5／Part 6-7）
⑨第9週：Unit 7　Advertisement（Part 5／Part 6-7）
⑩第10週：Unit 8　Daily life（Part 5／Part 6-7）
⑪第11週：Unit 9　Office Work（Part 5／Part 6-7）
⑫第12週：Unit 10　Business（Part 5／Part 6-7）
⑬第13週：Unit 11　Traffic（Part 5／Part 6-7）
⑭第14週：復習(Unit 6~11)、授業内試験②／解説
⑮第15週：まとめと総復習

科目名	英語Ⅱ(再)
英文科目名	EnglishⅡ(Re)
担当者名	舟木てるみ
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG102

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。＜到達目標＞英語Iで習得した語彙力・文法力を基に、特にリスニング・作文のスキルを向上させます。（リスニング）発音がクリアで速度が遅ければ、簡単なメッセージやアナウンス、議論されている内容の要点を理解できるようになりましょう。また、テレビのニュース番組でも、アナウンス内容が映像の説明を直接説明していれば、概ね理解できることを目指します。（作文）日常的で、自身が経験したことのある内容であれば、「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞を使った短い文章が書けることを目指します。
授業の方法	この授業は週２回行われ、「リスニング・作文」を中心に学習します。リスニング問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで英文を音読したり、英文を書いてみることで理解度を確認します（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(90分/１週)：普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取組み、予習をしましょう。復習(90分/１週)：授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、復習しましょう。
テキスト等	北尾泰幸他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 1 ーBasic ー［二訂版］』（朝日出版社）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%
単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。								

授業計画
①第1週：ガイダンス（授業の説明、到達目標設定）
②第2週：Unit 1　Eating Out（Part 1-2／Part 3-4）
③第3週：Unit 2　Travel（Part 1-2／Part 3-4）
④第4週：Unit 3　Amusement（Part 1-2／Part 3-4）
⑤第5週：Unit 4　Meetings（Part 1-2／Part 3-4）
⑥第6週：Unit 5　Personnel（Part 1-2／Part 3-4）
⑦第7週：復習(Unit 1~Unit 5)、授業内試験①／解説
⑧第8週：Unit 6　Shopping（Part 1-2／Part 3-4）
⑨第9週：Unit 7　Advertisement（Part 1-2／Part 3-4）
⑩第10週：Unit 8　Daily life（Part 1-2／Part 3-4）
⑪第11週：Unit 9　Office Work（Part 1-2／Part 3-4）
⑫第12週：Unit 10　Business（Part 1-2／Part 3-4）
⑬第13週：Unit 11　Traffic（Part 1-2／Part 3-4）
⑭第14週：復習(Unit 6~Unit 11)、授業内試験②／解説
⑮第15週：まとめと総復習

科目名	日本語Ⅰ(概説･表現)
英文科目名	Japanese Ⅰ (Introduction and Writing)
担当者名	渡辺賢治
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	JPN101

授業の概要と到達目標	日本語Ⅰ（概説･表現）は、日本語全般に関する基礎的な知識の習得と理解力を養うことを目的とする授業であり、外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。日本語に関する概説として留学生に対し、日本語の文字、語彙、文法を中心にわかりやすく講義し、日本語を運用する実践力をつける。特に、各品詞をはじめとした文法の力を養い、自分の伝えたいニュアンスを正確に表現できることを目指す。そのために、出来るだけ多くの例文に触れ、日常生活での日本語運用の基礎を確認する。　なお、この科目は「日本語Ⅱ（読解･表現）」の前提科目となっているため、その履修に必要な日本語の基礎を身につけることを目指す。さらに、「日本語Ⅱ（読解･表現）」終了時には、自分の伝えたいニュアンスを正確に表現できることを目指す。　学習到達目標：日本語を運用する基礎力をつけ、日本語の細かなニュアンスの違いを理解して、伝達できることを目標とする。
授業の方法	毎回、資料を配付し、授業を行う。授業内課題の質疑応答（アクティブ・ラーニング）を毎回行い、授業内にてフィードバックする。また、適宜、学生同士のピアレビューも行う。
予習と復習	（予習45分）毎回、配付する資料に取り組み、意味の分からない語句や表現を調べるなどの準備を行う。（復習45分）授業で学んだ内容について、その日のうちに整理・理解し、配付資料や授業内課題を活用しながら復習を行い、授業内試験に備える。
テキスト等	テキストの指定は特に行わない。講義の際に資料を配付する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
			0%				0%

3分の2以上の出席をすること。出席回数不足の場合、単位取得を認めない。平常点には毎回の授業での授業内課題を含む（添削・返却し、個別に評価や所見を提示する）。出題時以外の授業内課題の提出は一切認めない。

授業計画
①イントロダクション―授業の進め方―
②日本語の文法（１）―動詞―
③日本語の文法（２）―自動詞と他動詞、受け身―
④日本語の文法（３）―形容詞―
⑤日本語の文法（４）―副詞―
⑥日本語の文法（５）―助動詞―
⑦日本語の文法（６）―助詞―
⑧「は」と「が」の区別と基本的な使い方
⑨ひらがなと漢字のバランス、文末表現
⑩使役文の基礎―例文から学ぶ―
⑪使役文を使った作文を書く
⑫受け身文の基礎―例文から学ぶ―
⑬受け身文を使った作文を書く
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習―日本語のさらなる運用をめざして―

科目名	日本語Ⅱ(読解･表現)
英文科目名	JapaneseⅡ (Reading and Writing)
担当者名	渡辺賢治
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	JPN102

授業の概要と到達目標

日本語Ⅱ（読解･表現）は、日本語文法の基礎を確かなものとして、読解力と表現力を基礎から実践へと高めていく授業であり、外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。表現においては、手紙や敬語など、社会生活において必要な知識の習得を行う。さらに課題文を読み、小論文を書くことで読解力を養うとともに、自身の考えを日本語によって論理的に伝達することを目指す。また、課題研究を中心として、文章読解力と表現能力を養う。レポート作成のための情報収集・分析から始まり、日本語によるレポート作成の方法を学び、学生生活と卒業後の社会生活において必要な日本語運用力を高めていく。そして「日本語Ⅰ（概説･表現）」で習得した知識を基礎に、自分の伝えたいニュアンスを正確に表現できることを目指す。　学習到達目標：自分の伝えたいニュアンスを正確に表現できることに加え、読解力と発表力を身につけることを目標とする。

授業の方法

毎回、資料を配付し、授業を行う。授業内課題の質疑応答（アクティブ・ラーニング）を毎回行い、授業内にてフィードバックする。また、適宜、学生同士のピアレビューも行う。

予習と復習

（予習45分）毎回、配付する資料に取り組み、意味の分からない語句や表現を調べるなどの準備を行う。（復習45分）授業で学んだ内容について、その日のうちに整理・理解し、配付資料や授業内課題を活用しながら復習を行い、授業内試験に備える。

テキスト等

二通信子・佐藤不二子『留学生のための論理的な文章の書き方（新訂版）』（スリーエーネットワーク 2020年）および、講義内の配付資料。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
			0%				0%

3分の2以上の出席をすること。出題回数不足の場合、単位取得を認めない。平常点には毎回の授業での授業内課題を含む（添削・返却し、個別に評価や所見を提示する）。出題時以外の授業内課題の提出は一切認めない。

授業計画

①イントロダクション―授業の進め方―
②敬語を学ぶ（１）―尊敬語―
③敬語を学ぶ（２）―謙譲語―
④敬語を学ぶ（３）―丁寧語―
⑤敬語を学ぶ（４）―その他の敬語（丁重語・美化語）―
⑥手紙文や挨拶文の書き方
⑦レポートの文体と基本的ルール
⑧句読点の打ち方、各種記号の使い方
⑨段落の展開と引用の仕方
⑩書き言葉を用いた表現
⑪接続詞と文章の構成
⑫文章の要約―比較や対象―
⑬小論文の書き方―テーマに沿って論じる方法―
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習―日本語の円滑な運用をめざして―

科目名	基礎英語（文法・読解） 基礎英語A
英文科目名	Basic English （grammar・reading) Basic English A
担当者名	高橋哲郎,篠原結城
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG103
授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。英語の文法・読解に困難さを感じている学生も初級レベルの文法・読解の練習を行うことで、英文法の特徴・日本語と英語の文法上の違いを学習します。英語で書かれた文章を読むときに必要とされる語彙やスキルを学び、英語を通じたコミュニケーション能力の基礎の習得を目指します。＜到達目標＞テキストの前半部分を使って、英文法の基礎を完全に習得することが目標です。さらに、英語の語彙を増やすと同時に英語で書かれた短いエッセイ等を読解できることを目指します。＜対象者＞2019年度以降の入学者は、Ｃレベルの学生を対象とします(※Ａレベル・Ｂレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、Ｂ・Ｃレベルの学生を対象とします。(※Ａレベルの学生は履修できません)。
授業の方法	受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。
テキスト等	船田秀佳『総合力をみがく基礎英文法　Easy Access to Basic English Grammar』 朝日出版社　およびプリント等補助教材を使用

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度			60%				0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							

授業計画
①ガイダンス
②Unit 1　be動詞　Practice A～D
③Unit 2　一般動詞　Practice A～D
④Unit 3　疑問詞　Practice A～D
⑤Unit 4　過去形　Practice A～D
⑥Unit 5　未来形　Practice A～D
⑦授業内試験①／解説
⑧Unit 6　現在完了形　Practice A～D
⑨Unit 7　助動詞　Practice A～D
⑩Unit 8　名詞・冠詞　Practice A～D
⑪Unit 9　受動態　Practice A～D
⑫Unit 10　前置詞　Practice A～D
⑬Unit 11　形容詞・副詞　Practice A～D
⑭授業内試験②／解説
⑮まとめと総復習

科目名	基礎英語（リスニング・作文） 基礎英語B
英文科目名	Basic English （listening・writing） Basic English B
担当者名	篠原結城,高橋哲郎
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG104

授業の概要と到達目標

＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。英語の聞き取りに困難さを感じている学生も初級レベルの聞き取りの練習を行うことで、英語特有の音声上の特徴を学習します。自分の言葉で意見・事象等を描写し、簡潔な英語で伝達できるライティングスキルを磨き、英語を通じたコミュニケーション能力の基礎の習得を目指します。＜到達目標＞テキストの後半部分を使って、リスニングの基礎固めを行い、簡単な短いトークが聞き取れるようになることを目標とします。英語の音声学上の特徴を身に付けることで、自信をもって単語のレベルから短いやり取りまで発音できるようになることを目指します。また、自分の考えなどを辞書を見なくても表現することに慣れ親しみましょう。＜対象者＞2019年度以降の入学者は、Ｃレベルの学生を対象とします(※Ａレベル・Ｂレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、Ｂ・Ｃレベルの学生を対象とします。(※Ａレベルの学生は履修できません)。

授業の方法

受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。

予習と復習

予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。

テキスト等

船田秀佳『総合力をみがく基礎英文法　Easy Access to Basic English Grammar』 朝日出版社　およびプリント等補助教材を使用□

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%

単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。

授業計画

①ガイダンス
②Unit 1　be動詞　Practice E～G
③Unit 2　一般動詞　Practice E～G
④Unit 3　疑問詞　Practice E～G
⑤Unit 4　過去形　Practice E～G
⑥Unit 5　未来形　Practice E～G
⑦授業内試験①／解説
⑧Unit 6　現在完了形　Practice E～G
⑨Unit 7　助動詞　Practice E～G
⑩Unit 8　名詞・冠詞　Practice E～G
⑪Unit 9　受動態　Practice E～G
⑫Unit 10　前置詞　Practice E～G
⑬Unit 11　形容詞・副詞　Practice E～G
⑭授業内試験②／解説
⑮まとめと総復習

科目名	英会話
英文科目名	English Conversation
担当者名	ﾜﾄｿﾝ,ﾊﾐﾙﾄﾝ,ｻﾄｳ
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG105

授業の概要と到達目標

＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。英語コミュニケーションを身に付けるには、「読む」「書く」「話す」「聞く」といった4技能をバランスよく向上させなければなりませんが、特にListeningとSpeakingを重視し、英語を通じたコミュニケーション能力の基礎の習得を目指します。＜到達目標＞実用英語検定試験準2級レベルの英語力の養成を目指します。中学、高校までの英語力を基礎として、実用英語検定試験、TOEIC、TOEFLなどの資格検定試験を考慮にいれて、各個人が英語能力をアップすることを目標とします。＜対象者＞2019年度以降の入学者は、Ｃレベルの学生を対象とします(※Ａレベル・Ｂレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、Ｂ・Ｃレベルの学生を対象とします。(※Ａレベルの学生は履修できません)。

授業の方法

英問英答を基本とし、受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。

予習と復習

予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。

テキスト等

授業時に担当教員から指示。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%

単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。課題のフィードバック方法については授業時に担当教員から説明します。

授業計画

①Orientation
②Personal Information
③My Interests
④Dining Out
⑤Part-Time Jobs
⑥Talking About Music & Movies
⑦Let's Go Shopping
⑧Summer Time
⑨What Does She Look Like?
⑩How Does It Taste?
⑪Long Time, No See
⑫My Boss Is A Really Nice Guy
⑬Ouch, That Hurts!
⑭Final Assignment due (授業内試験の実施と解説)
⑮まとめと総復習

科目名	ビジネス英語
英文科目名	Business English
担当者名	松谷明美,舟木てるみ,永田喜文
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG108

授業の概要と到達目標

＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。ビジネスの場面ごとに必要となる文法・語彙・表現を学びます。海外の取引先や外国人の同僚などと、英語でやり取りができるよう、リスニング・ライティング・スピーキング・プレゼンテーションのタスクに取り組むことで、スキルを磨きます。英語を使って仕事をするグローバルな時代にビジネスパーソンとして活躍できるようビジネス英語スキルを向上させましょう。＜到達目標＞様々なビジネスシーンで必要となる文法知識、口語表現、専門的な表現・用語を使い、自信を持って英語でコミュニケーションがとれるようになることを目標とします。＜対象者＞2019年度以降の入学者は、全レベルの学生を対象とします。2018年度以前の入学者は、Ｂ・Ｃレベルの学生を対象とします。(※Ａレベルの学生は履修できません)。□

授業の方法

受講生同士で回答を考える機会を設けて、ペアアクティビティあるいはグループワークを行うことで英語コミュニケーションスキルとビジネス社会の知識の習得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。

予習と復習

予習(45分)：授業に臨む前に、各ユニットの動画を見て理解を深め、指示にしたがい予習を行ってください。復習(45分)：授業の内容の振り返りをしたあと、授業で出された課題に取り組んでください。

テキスト等

『Rising Stars － On-the-job Learning with Grammar Videos』　金星堂□

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%

単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。授業内容の詳細については、担当教員から連絡がされますので、指示にしたがってください。

授業計画

①ガイダンス
②Unit 1 Interview with a Supervisor　[動詞（他動詞・自動詞）]
③Unit 2 Placing Orders　[名詞（可算・不可算）]
④Unit 4 Talking about Our Company　[現在形・過去形]
⑤Unit 5 Shipment Tracing　[現在進行形・過去進行形]
⑥Unit 6 Client Dinner　[未来表現]
⑦授業内中間試験
⑧Unit 8 Business Meeting　[比較級・最上級]
⑨Unit 9 Schedule Adjustment　[助動詞１（can・may）]
⑩Unit 10 Encouragement and Advice　[助動詞２（must・should・have to）]
⑪Unit 11 Business Trip　[動名詞]
⑫Unit 13 Preparing a Survey　[不定詞]
⑬Unit 14 Farewell Dinner　[現在完了形]
⑭授業内期末試験
⑮まとめと総復習

科目名	上級英会話
英文科目名	Advanced English Conversation
担当者名	サトウ
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG106

授業の概要と到達目標

＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。中学､高校までの英語力を基礎として､実用英語検定試験､TOEIC､TOEFLなどの資格検定試験を考慮にいれて、Listeningをもとにしたoutputとして Speakingを重視し、英語を通じたコミュニケーション能力の向上を目指します｡＜到達目標＞実用英語検定試験2級レベルの英語力の養成を目指します。アメリカ・カナダ・オーストラリアといった英語圏の大学での語学研修・留学生活や仕事で自信をもって英語でコミュニケーションできる能力の養成を目標とします。＜対象者＞2019年度以降の入学者は、Ａ・Ｂレベルの学生を対象とします(※Ｃレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、Ａレベルの学生を対象とします。(※Ｂ・Ｃレベルの学生は履修できません)。

授業の方法

英問英答を基本とし、受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。

予習と復習

予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。

テキスト等

授業中にプリントを配布します。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%

単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。課題のフィードバック方法については授業時に担当教員から説明します。

授業計画

①Orientation
②What made you who you are?
③What is good about you?
④Can you tell me about music?
⑤When do you ask for advice?
⑥Are you easy to live with?
⑦What is your type?
⑧How do you feel about compliments?
⑨Do you like me?!
⑩Can you guess?
⑪Can we work it out?
⑫How do you describe events?
⑬What are you into?
⑭ Final Assignment due (授業内試験の実施と解説)
⑮まとめと総復習

科目名	上級英作文
英文科目名	Advanced English Writing
担当者名	ハミルトン
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG107

授業の概要と到達目標

＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。アメリカ・カナダ・オーストラリアといった英語圏の大学に留学する際に、英語力を証明するために受けなければならないTOEFLのライティング・セクションでより高いスコアをとれるよう、そして英語圏で語学研修・留学・仕事を行うときに、英語で文書を作成してコミュニケーションを図る能力の向上を目指します。＜到達目標＞英語で自分の考えや連絡事項などを明確に伝えるために必要な語彙・表現を習得しましょう。実際のTOEFLライティングテストに合わせて、構成・表現・文法・内容に注意を払いながら、短いエッセイを英語で書けるよう練習しましょう。＜対象者＞2019年度以降の入学者は、Ａ・Ｂレベルの学生を対象とします(※Ｃレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、Ａレベルの学生を対象とします。(※Ｂ・Ｃレベルの学生は履修できません)。□

授業の方法

英問英答を基本とし、受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。

予習と復習

予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。

テキスト等

『Writing Exchange: English through Active Learning アクティブ・ラーニングで楽しく身につく英語ライティングスキル』

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%

単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。課題のフィードバック方法については授業時に担当教員から説明します。

授業計画

①Introducing Yourself
②Introducing a Friend
③Writing a Paragraph
④Writing to a Friend
⑤Writing a Memo
⑥Writing Casual Email
⑦Consultation and peer-review of mid-semester report
⑧Writing Business Email
⑨Writing about Your Summer
⑩Writing a Thank You Letter
⑪Describing People
⑫Writing a Short Essay
⑬Writing a Short Essay Part 2
⑭Writing about Your Future Plans（授業内試験の実施と解説）
⑮Consultation and peer-review of final report（まとめと総復習）

科目名	TOEIC英語
英文科目名	TOEIC English
担当者名	瀧口晴美,佐藤由美
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG110

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。この授業ではTOEIC試験対策に特化し、ビジネス上での英語を通じたコミュニケーション能力の向上を目指します。まずTOEIC試験の問題の傾向を知って、試験の内容項目に沿った単語や学習しながら試験に慣れていくように指導します。写真描写・応答問題・会話問題・説明文問題のリスニング内容と短文・長文穴埋め問題・読解問題のリーディング内容の問題を毎時間学習していきます。各問題には傾向と対策としての解き方のアドバイスもあるので、TOEICの全般的な問題に慣れていきましょう。＜到達目標＞授業終了時にTOEIC 500点 (TOEIC Bridge 150点)に達することを目標とします。＜対象者＞2019年度以降の入学者は、Ａ・Ｂレベルの学生を対象とします(※Ｃレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、Ａレベルの学生を対象とします。(※Ｂ・Ｃレベルの学生は履修できません)。
授業の方法	受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行いながら英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。
テキスト等	『The Ultimate Approach for the TOEIC Test』成美堂

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度			60%				0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。同一科目複数開講の科目に伴い、課題のフィードバック方法については授業時に担当教員から説明します。							

授業計画	
	①ガイダンス
	②Unit 1　Entertainment
	③Unit 2　Transportation/Airport
	④Unit 3　Technology/Office Supplies
	⑤Unit 4　Housing/Building/Construction
	⑥Unit 5　Sightseeing/Guided Tour
	⑦授業内試験①／解説
	⑧Unit 6　Eating Out/Restaurant
	⑨Unit 7　Hospital/Health
	⑩Unit 8　Finance/Budget/Salary
	⑪Unit 9　Hobby/Sports/Art
	⑫Unit 10　Education/Schools
	⑬Unit 11　Hotel/Service
	⑭授業内試験②／解説
	⑮まとめと総復習

科目名	TOEFL英語
英文科目名	TOEFL English
担当者名	宮﨑太樹
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENG110
授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。アメリカ・カナダ・オーストラリアの大学に留学する際に、英語力を証明するために受けなければならないTOEFLのスコアアップを目指し、英語を通じたコミュニケーション能力の向上を図ります。この授業では、基礎的な文法事項を学ぶとともにシャドーイングに取り組み、リーディングスキルとリスニングスキルを中心に英語力の向上を目指します。＜到達目標＞目標得点はTOEFL iBT 61点(TOEFL PBT 500点)です。＜対象者＞2019年度以降の入学者は、Ａ・Ｂレベルの学生を対象とします(※Ｃレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、Ａレベルの学生を対象とします。(※Ｂ・Ｃレベルの学生は履修できません)。
授業の方法	受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。
テキスト等	『はじめて受ける人のためのTOEFL iBT®テスト完全対策入門・初級編』（Ｊリサーチ出版）□

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度			60%				0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							

授業計画
①ガイダンス
②Unit 1　Reading: 歴史学
③Unit 2 Reading: 天文学
④Unit 3 Reading: 美術史
⑤Unit 4 Reading: 動物行動学
⑥Unit 5 Listening: 教授と学生
⑦授業内試験①と解説
⑧Unit 6 Listening: 学生同士
⑨Unit 7 Listening: 生物学
⑩Unit 8 Listening: 映画史
⑪Unit 9　Writing: エッセイの基本構造
⑫Unit 10 Writing:　基本5文型＆接続詞
⑬Unit 11 Speaking: スピーキング・セクションで大切なこと／基礎編＆実践編
⑭授業内試験②と解説
⑮まとめと総復習

科目名	実用英語 実用英語(海外研修)
英文科目名	Practical English Practical English (Study Abroad)
担当者名	寺内一,ワトソン
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。英語圏での生活（特に語学研修・留学・旅行など）における様々な場面において、英語で自己表現ができるようになることを目標とします。実生活で必要な語彙・表現を学習し、リスニング・スピーキングを中心とした英語コミュニケーション能力を向上させると同時に、渡航手続きや海外生活に必要な実用的な知識を身に付けましょう。この授業は海外に行くことや、英語を使ってコミュニケーションをとりたいと思っている学生を対象とした授業です。＜到達目標＞海外渡航・滞在で必要な語彙・表現を使って、自分の考えをある程度表現できるようにし、英語圏についての知識を身に付け、理解を深めましょう。実生活に関する会話について、聞き取りができるようになることを目標とします。
授業の方法	受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。
テキスト等	寺内先生　『AMERICAN　VIBES』ﾜﾄｿﾝ先生　『Passport: Second Edition Book 2』Oxford University Press

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度			60%				0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							

授業計画
①Orientation
②What's the purpose of your visit?
③How much is it?
④When is the next train to Xi'an?
⑤What is there to see?
⑥Tell me about your country.
⑦How was your weekend?
⑧授業内試験①／解説
⑨Would you like to visit the Temple of Heaven?
⑩Go straight along this road.
⑪Have you been to the Great Wall yet?
⑫Excuse me. Can you help us?
⑬I don't think this is right.
⑭授業内試験②／解説
⑮Topic Review

科目名	中国語Ⅰ　※2024年度以前入学生
英文科目名	Chinese Ⅰ
担当者名	李雲
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CHI101
授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。中国語は約65億人の世界総人口の中で約15億人が話している、英語に次ぐ世界共通語です。「中国語I」は中国語ネイティブの教員による授業で、中国語の学習経験がない学生を対象とします。中国語発音の基礎となる「ピンイン」や、日常のコミュニケーションに必要な単語や短い会話文などを習得します。さらに、中国語のイントネーションを楽しみながら、「聴く」ことと「話す」ことを中心に授業を進めていき、中国語を通したコミュニケーション能力の向上を図ります。なお「中国語Ⅰ」は発展科目である「中国語Ⅱ（会話）」「中国語Ⅱ（読解）」「中国語Ⅱ（作文）」の履修の前提となっています。＜学習到達目標＞「ピンイン」という中国語の発音システムを理解し、ほぼ正確に発音できること、その他に日常的に使われる単語や「初めまして、ようこそ」といった簡単な挨拶用語、名前の聞き方、答え方などの短い文を理解して発音できることを目標とします。
授業の方法	テキストにでてきた単語や会話文の意味、文法事項を説明した上で発音を練習します。最後にグループワークで文章を音読することで発音や理解度を確認します（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(45分)：次回の授業に出てくる単語と文法に目を通しましょう。復習(45分)：授業後、授業で出た単語を覚え、本文を何度も音読しましょう。
テキスト等	木村淳・泉田俊英・李原翔著　『じっくり学ぶ中国語』　（金星堂）

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
課題・授業参加度			60%				0%

単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。

授業計画

①ガイダンス（講義概要を説明する）
②声調（四声）、母音
③子音、変調、軽声
④アル化、ピンインのつづり方、発音練習
⑤発音の復習
⑥第１課「こんにちは。」簡体字について
⑦第２課「お名前は何ですか。」
⑧第３課「これは何ですか。」
⑨挨拶や、名前の聞き方などの復習
⑩第４課「どこの国の人ですか。」
⑪第５課「これは誰の鉛筆ですか。」
⑫第６課「今日は何曜日ですか。」
⑬第７課「今日は何日ですか。」
⑭授業内試験の実施と解説
⑮まとめと総復習

科目名	中国語Ⅱ(会話)　※2024年度以前入学生
英文科目名	ChineseⅡ (speaking)
担当者名	李雲
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CHI102
授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。「中国語Ⅰ」の単位を取得した学生を対象とします。「中国語Ⅱ(会話)」はネイティブ教員による授業で、中国語発音の基礎となる「ピンイン」をさらに強化して自然な発音ができるようにし、また、日常生活で使う単語や文法、短い会話文などを習得します。中国語のイントネーションや言葉のやり取りを楽しみながら、「聞く」ことと「話す」ことを中心に授業を進めていき、中国語を通したコミュニケーション能力の向上を図ります。＜学習到達目標＞「中国語Ⅰ」で習得した知識を基礎に、単語の「ピンイン」を見てほぼ発音できること、旅行程度の単語を使えるようにすること、そして曜日や一日のスケジュールなどを取り入れた会話文を理解できることを目標とします。
授業の方法	テキストにでてきた単語や会話文の意味、文法事項を説明した上で発音を練習します。最後にグループワークで文章を音読することで発音や理解度を確認します（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(45分)：次回の授業に出てくる単語と文法に目を通しましょう。復習(45分)：授業後、授業で出た単語を覚え、本文を何度も音読しましょう。
テキスト等	木村淳・泉田俊英・李原翔著　『じっくり学ぶ中国語』　(金星堂)

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度			60%				0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。課題のフィードバック方法については授業時に担当教員から説明します。							

授業計画
①ガイダンス（講義概要を説明する）
②復習―発音、声調（四声）
③第８課「いま何時ですか。」
④第９課「いくつですか。」
⑤第10課「いくらですか。」
⑥第11課「何を買うつもりですか。」
⑦時間や、年齢、買い物などの言い方の復習
⑧第12課「何人家族ですか。」
⑨第13課「すみません中国語教室はどこですか」
⑩第14課「図書館に中国語の本はありますか。」
⑪第15課「趣味は何ですか。」
⑫第16課「中国語が話せますか。」
⑬第17課「明日来られますか。」
⑭授業内試験の実施と解説
⑮まとめと総復習

科目名	中国語Ⅱ(読解)　※2024年度以前入学生
英文科目名	ChineseⅡ (reading)
担当者名	宮島琴美
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CHI291
授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。「中国語Ⅰ」の単位を取得した学生を対象とします。「中国語Ⅱ(読解)」はネイティブ教員による授業で、より高い水準の読解能力を身につけられるように、新たな単語や、言い回し、文型などを学び、中国語の少し長い文章でも日本語に訳せるように訓練します。今まで習得した内容を実際に作文する場面において活用するとともに、中国文化を一層理解し、中国語を通したコミュニケーション能力のさらなる向上を目標とします。＜学習到達目標＞「中国語Ⅰ」で習得した知識を基礎に、主に文章の「読む」力を養い、簡単な中国語の文章を音読し、意味を理解した上で、的確な日本語に訳せること、長めの文章購読ができることを目標とします。
授業の方法	テキストにでてきた単語や会話文の意味、文法事項を説明した上で発音を練習します。最後にグループワークで文章を音読することで発音や理解度を確認します（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(45分)：次回の授業に出てくる単語と文法に目を通しましょう。復習(45分)：授業後、授業で出た単語を覚え、本文を何度も音読しましょう。
テキスト等	楊凱栄・張麗群 著『身につく中国語［改訂新版」』（白帝社）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度			60%				0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。課題のフィードバック方法については授業時に担当教員から説明します。							

授業計画
①発音の復習
②人称代名詞と動詞述語文
③疑問文と副詞
④指示詞と“是”
⑤連体修飾、疑問詞疑問文と語気助詞
⑥形容詞述語文、反復疑問文と程度副詞
⑦陳述文や、疑問文などの復習
⑧数詞と日にちなど
⑨名詞述語文
⑩“的”の省略と場所を表す指示詞
⑪所在を表す文と距離の隔たりを表す文
⑫所有を表す文と主述述語文
⑬数量詞と親族の呼び方
⑭授業内試験の実施と解説
⑮まとめと総復習

科目名	中国語Ⅱ(作文)　※2024年度以前入学生 中国語ⅡB
英文科目名	Chinese Ⅱ (writing) Chinese ⅡB
担当者名	宮島琴美
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CHI292
授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。「中国語Ⅰ」の単位を取得した学生を対象とします。「中国語Ⅱ(作文)」はネイティブ教員による授業で、より高い水準の作文能力を身につけられるように、新たな単語や、言い回し、文型などを学び、日本語の少し長い文章でも中国語に訳せるように訓練します。今まで習得した内容を実際に作文する場面において活用するとともに、中国文化を一層理解し、中国語を通したコミュニケーション能力のさらなる向上を目標とします。＜学習到達目標＞「中国語Ⅰ」で習得した知識を基礎に、主に文章の「書く」力を養い、簡単な日本語の文章を正確に中国語に訳した上で音読もできること、より完成度の高い中国語の作文ができることを目標とします。
授業の方法	テキストにでてきた単語や会話文の意味、文法事項を説明した上で発音を練習します。最後にグループワークで文章を音読することで発音や理解度を確認します（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(45分)：次回の授業に出てくる単語と文法に目を通しましょう。復習(45分)：授業後、授業で出た単語を覚え、本文を何度も音読しましょう。
テキスト等	楊凱栄・張麗群 著『身につく中国語［改訂新版」』（白帝社）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度			60%				0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。課題のフィードバック方法については授業時に担当教員から説明します。							

授業計画
①連動文と助動詞
②手段を表す疑問文と動詞の重ね型
③時間の幅などと経験を表す文
④願望を表す文と選択疑問文
⑤完了の文と語気助詞
⑥場所を表す文
⑦文末の“了”と“再”と比較を表す前置詞
⑧複雑構文や、願望を表す文、過去を表す構文などの復習
⑨連動文と取り立ての文
⑩起点を表す文と方向補語
⑪動作の進行を表す文
⑫使役の文と時間の短いことを表す文
⑬受給などの文と結果補語等
⑭授業内試験の実施と解説
⑮まとめと総復習

科目名	基礎ドイツ語（文法・読解） 基礎ドイツ語(文法)
英文科目名	Basic German (Grammar・reading) Basic German (Grammar)
担当者名	井口祐介
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	GER101
授業の概要と到達目標	外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。ドイツ語をはじめて学ぶ学生を対象とし、ドイツ語の基礎的な文法事項を学び、ドイツ語の簡単な文章を読んでいきます。到達目標は、以下の①～⑥です。①音とつづり字との関係を正確に把握し、ドイツ語のことばを正しく発音できる。②ドイツ語の言い回しが使われる状況を正確に理解し、その言い回しを正しく発声できる。③実際にドイツ語を使う中でドイツ語の基礎的な文法規則を「発見」し、その規則を正しく運用できる。④失敗や言い間違いを恐れずに、ドイツ語で積極的に簡単な意思表示をすることができる。⑤自分の置かれた状況を正確に理解し、それに相応しいドイツ語の言い回しを選択することができる。⑥日本語や英語とも違った文法構造を持つドイツ語に触れることにより、異なる言語・文化を持つ他者の存在を意識することができる。
授業の方法	この授業においては、ﾍﾟｱﾜｰｸやｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ等のｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞを用いて授業を進めます。また場合によってはﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ課題を課すこともあります。受講者同士のコミュニケーションを重視する他、自律的にドイツ語を勉強できるようになることを目指します。
予習と復習	授業後に毎回課す課題（45分程度）には必ず取り組むこと。また授業前には前回授業の振り返りを行ない、授業の準備を行なうこと（45分程度）。
テキスト等	須藤勲、鶴田涼子、髙松佑介『新・フィール・エアフォルク！』、同学社、2025年。教科書・辞書を毎回持参してください（他の学生との共用不可）。授業内での生成AIおよび翻訳サイト・アプリの使用厳禁。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
			0%				0%

70%以上の出席を単位の認定要件とします。30分以上の遅刻は欠席として扱います。平常点60点、授業内試験40点の計100点満点で評価をし、60点以上を合格とします。授業態度および各回に課す課題のクオリティにより平常点を算出します。

授業計画
①ガイダンス、ドイツ語の挨拶、ドイツ語のアルファベート
②第０課　つづりと発音
③第１課①　動詞の現在人称変化
④第１課②　やや注意が必要な動詞の現在人称変化
⑤第１課③　ドイツ語の語順
⑥第２課①　名詞の性と格変化
⑦第２課②　名詞の格変化の用法
⑧第２課③　動詞seinとhaben
⑨第３課①　不規則動詞の現在人称変化
⑩第３課②　名詞の複数形と格変化
⑪第３課③　非人称のesと非人称動詞
⑫第５課②　接続詞・副文
⑬読解総復習
⑭試験前総復習と期末試験
⑮まとめと総復習、追試

科目名	基礎ドイツ語(会話・作文) 基礎ドイツ語(会話)
英文科目名	Basic German (Conversation・writing) Basic German (Conversation)
担当者名	井口祐介
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	GER102

授業の概要と到達目標	外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。ドイツ語をはじめて学ぶ学生を対象とし、日常生活での基本的な表現を理解し、ドイツ語でごく簡単なやりとりをできるようになることを目指します。ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のA1レベルに相当する教科書を使用し、受講者は実際にドイツ語を使う中で、少しずつドイツ語の文法規則や言い回しを身につけていきます。到達目標は、以下の①～⑥です。①音とつづり字との関係を正確に把握し、ドイツ語のことばを正しく発音できる。②ドイツ語の言い回しが使われる状況を正確に理解し、その言い回しを正しく発声できる。③実際にドイツ語を使う中でドイツ語の基礎的な文法規則を「発見」し、その規則を正しく運用できる。④失敗や言い間違いを恐れずに、ドイツ語で積極的に簡単な意思表示をすることができる。⑤自分の置かれた状況を正確に理解し、それに相応しいドイツ語の言い回しを選択することができる。⑥日本語や英語とも違った文法構造を持つドイツ語に触れることにより、異なる言語・文化を持つ他者の存在を意識することができる。
授業の方法	この授業においては、事情の許す限り、ﾍﾟｱﾜｰｸやｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ等のｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞを用いて授業を進めます。また場合によってはﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ課題を課すこともあります。受講者同士のコミュニケーションを重視する他、自律的にドイツ語を勉強できるようになることを目指します。
予習と復習	授業後に毎回課す課題（45分程度）には必ず取り組むこと。また授業前には前回授業の振り返りを行ない、授業の準備を行なうこと（45分程度）。
テキスト等	新倉真矢子、正木晶子、中野有希子『シュピッツェ！１』、朝日出版社、2018年。教科書・辞書を毎回持参してください（他の学生との共用不可）。授業内での生成AIおよび翻訳サイト・アプリの使用厳禁。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
				0%				0%
	70%以上の出席を単位の認定要件とします。30分以上の遅刻は欠席として扱います。平常点60点、授業内試験40点の計100点満点で評価をし、60点以上を合格とします。授業態度および各回に課す課題のクオリティにより平常点を算出します。							

授業計画
①ガイダンス、ドイツ語の挨拶、ドイツ語のアルファベート
②ドイツ語の発音規則
③第１課①　ドイツ語で挨拶をする
④第１課②　ドイツ語で名前を名乗る
⑤第１課③　ドイツ語で出身地・居住地・専攻について話す／書く
⑥第２課①　ドイツ語で職業を訊く・答える／書く
⑦第２課②　ドイツ語で国籍を訊く・答える／書く
⑧第２課③　ドイツ語で簡単な自己紹介の作文をする
⑨第３課①　ドイツ語で第三者を紹介する／紹介文を書く
⑩第３課②　ドイツ語の数詞を学ぶ
⑪第３課③　ドイツ語のメールに返信を書く
⑫作文総復習、会話総復習
⑬会話試験、筆記・作文の模擬試験と解説
⑭試験前総復習と筆記・作文試験
⑮まとめと総復習、追試

科目名	基礎フランス語（文法・読解） 基礎フランス語(文法)
英文科目名	Basic German (Grammar・reading) Basic French (Grammar)
担当者名	森真太郎
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FRE101
授業の概要と到達目標	外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を習得する科目です。フランス語がどんな仕組みでできているかを、基本的な文法事項を学んで理解し、簡単なフランス語を読解する土台をつくります。教材のそれぞれの課における定型文と発音を学習します。また、それをベースとして、応用表現をこころみたり、応用問題を解きます。また、随時フランス文化やヨーロッパの時事問題について、映像教材などに触れ、フランス語の背景にある文化についての知識も増やし、読解の伸ばしていきます。
授業の方法	２回の授業で１課を進めていく予定です。奇数回目：テーマとなる会話の学習と発音のチェック（課題の提出）偶数回目：奇数回目の解説、応用表現の作成、発音・会話練習アクティブ・ラーニングとして、「自分で調べる」、「実際に発音する」活動を中心とします。
予習と復習	予習（45分）：教材に付属の音声を聞く（奇数回）、会話練習や応用問題の準備（偶数回）復習（45分）：教員からのフィードバック、復習として指示された内容に取り組むこと。
テキスト等	藤田裕二『新・彼女は食いしん坊 1』朝日出版社＊教科書は必ず大学の売店で購入すること。

評価方法							
定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
			0%				0%

70%以上の出席を単位の認定要件とする。平常点については各回の授業で行われる活動への参加や課題への取り組みが評価の対象となる。

授業計画
①フランス語に親しむ。オリエンテーション。
②簡単なあいさつ。アルファベ。自分の名前を言う。
③国籍を言う。être（英語のbe動詞）
④国籍を言う。応用表現・問題。
⑤名前・職業を言う。形容詞（属詞）の男性形・女性形。
⑥名前・職業を言う。応用表現・問題。
⑦持ち物を尋ねる。avoir（英語のhave）
⑧持ち物を尋ねる。応用表現・問題。
⑨フランス語の発音と綴り字。母音・子音・記号。
⑩フランス語の発音と綴り字。複母音・鼻母音・アクセント。
⑪趣味を語る。-er動詞（フランス語の9割を占める動詞のかたち）
⑫趣味を語る。応用表現・問題。
⑬文法事項の補足と総合問題
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	基礎フランス語(会話・作文) 基礎フランス語(会話)
英文科目名	Basic French　(Conversation・writing) Basic French　(Conversation)
担当者名	森真太郎
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FRE102

授業の概要と到達目標	外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を習得する科目です。身の回りのこと、普段の生活、レストランや店でのやりとりなど、作文や会話ができるようになることがこの授業の目的です。教材を使って、それぞれの場面における定型表現と発音を学習します。学生同士で作文練習や会話練習を行ったりして、実践的な練習を積みます。また、随時フランス文化やヨーロッパの時事問題について、映像教材などに触れ、フランス語の背景にある文化についての知識も増やし、表現に生かせるようにするとともに、簡単な作文もできるようにします。
授業の方法	２回の授業で１課を進めていく予定です。奇数回目：テーマとなる会話の学習と発音のチェック（課題の提出）偶数回目：奇数回目の解説、応用表現の作成、発音・会話練習アクティブ・ラーニングとして、「自分で調べる」、「実際に発音する」活動を中心とします。
予習と復習	予習（45分）：教材に付属の音声を聞く（奇数回）、会話練習や応用問題の準備（偶数回）復習（45分）：教員からのフィードバック、復習として指示された内容に取り組むこと。
テキスト等	『セ・パルティ！』　トレフル出版＊教科書はかならず大学の販売所で購入すること。

定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
			0%				0%

70%以上の出席を単位の認定要件とする。平常点については各回の授業で行われる活動への参加や課題への取り組みが評価の対象となる。

授業計画
①出会いと自己紹介。会話練習。オリエンテーション。
②出会いと自己紹介。応用表現と練習。
③フランス語の音と文字。アルファベの練習。
④フランス語の音と文字。簡単な発音規則。
⑤好きなものを言う。会話練習。
⑥好きなものを言う。応用表現と練習。
⑦これは何ですか？　会話練習。
⑧これは何ですか？　応用表現と練習。
⑨ここはどこ？　会話練習。
⑩ここは何処？　応用表現と練習。
⑪日本料理店に行く。会話練習。
⑫日本料理店に行く。応用表現と練習。
⑬ディクテ（聞き取って書く練習）
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	中期留学事前英語演習 IBCS研修英語A
英文科目名	preliminary English course for mid-term study abroad program Cross-Cultural Training and Language Practice for
担当者名	2026年度休講
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SAP101

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞中期留学の選考に合格した学生を対象にしています。本学の留学プログラムである中期留学（ビクトリア大学）に参加するために必要なことを学び、英語を通じたコミュニケーション能力の向上を目指します。＜到達目標＞留学先でのプレースメントテストの対策をする、留学先の授業に対応できるように与えられたトピックについて自分の意見をまとめたり、ディスカッションできるようにする、現地の文化や習慣などを事前に調べる等、留学先で最大限の成果をあげるように準備することを目標とします。
授業の方法	英問英答を基本として、受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行いながら英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。
テキスト等	担当教員が授業時に適宜配布します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度			60%				0%
	授業中に出される課題の内容と授業への積極的な参加態度が60%、授業内試験が40%を占めることになります。授業内試験は返却して、個別に評価と所見を提示します。単位取得のためには原則授業回数の70%以上の出席を必要とします。							

授業計画
①Introduction & Self directed language learning
②Unit 1: Introduction & Class information
③Unit 2: The future of the American dream
④Unit 3: Elon musk
⑤Unit 4: America's lave with food culture & Vocabulary review
⑥Vocabulary test & Unit 9: Costs of American Higher Education
⑦Unit 10: The man behind the music Dr. Luke
⑧Midterm evaluation
⑨Unit 7: America's increasing Militarism with war on Terror
⑩Unit 11: After Steve Jobs
⑪Unit 13: Pros and cons of legalizing Marijuana
⑫Vocabulary test & presentation preparation
⑬Presentation and Summarizing
⑭授業内試験の実施と解説
⑮まとめと総復習

科目名	中期留学事後英語演習 IBCS研修英語B
英文科目名	Follow-up English course Cross-Cultural Training and Language Practice for
担当者名	2026年度休講
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SAP102

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞中期留学を修了した学生を対象にしています。この授業は、本学の留学プログラムである中期留学（ビクトリア大学）を修了した後に行われる集中講義です。留学先で培った英語によるコミュニケーション能力のさらなる向上を目指します。＜到達目標＞留学先で経験したことを振り返りながらディスカッションする、TOEFLの教材を使って学んできた英語のスキルをさらに向上させることを目標とします。
授業の方法	英問英答を基本とし、受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行いながら英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。
テキスト等	教材は授業時に教員より随時配布されます。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度			60%				0%
	授業中に出される課題の内容と授業への積極的な参加態度が60%、授業内試験が40%を占めることになります。授業内試験は返却して、個別に評価と所見を提示します。単位取得のためには原則授業回数の70%以上の出席を必要とします。							

授業計画
①Debriefing session
②Summarizing self-directed language
③Setting goals for self-directed learning
④Preparation for TOEFL - Listening
⑤Preparation for TOEFL - Reading
⑥Preparation for TOEFL - Speaking
⑦Preparation for TOEFL - Writing
⑧Integrated Speaking Tasks
⑨Integrated Writing Tasks
⑩Reviewing self-directed learning
⑪Working on preparation difficulties
⑫Preparation for TOEFL - Speaking
⑬Preparation for TOEFL - Writing
⑭授業内試験の実施と解説
⑮まとめと総復習

科目名	健康体力づくり
英文科目名	Health promotion
担当者名	【春学期】青葉,織田,森田【秋学期】齋藤武比斗,浅井
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PE101
授業の概要と到達目標	本科目は、健康と体力についての理解と実践を学ぶための科目である。健康的な身体は、より充実した生活を送るための基礎となり、生涯にわたり充実した生活をおくるために、健康を維持増進することは必要不可欠である。この授業では、健康的で充実した生涯を送るための体力の維持・増進方法を教養として身につけることを目標とする。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Ｔシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。必要に応じて体力測定を行う。
予習と復習	予習（45分）として自らの体力（形態・筋力・持久力など）を評価し、理解するように努力する。必要に応じて、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として健康の維持・増進方法の実践を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。								

授業計画
①オリエンテーション(更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合)
②W-upとC-downの実践と注意点、授業内容02から14は順不同
③ウォーキングの実践と注意点
④ジョギングの実践と注意点
⑤筋力トレーニングの実践と注意点
⑥ボールを使用した体力維持増進法の実践と注意点
⑦ボール未使用の体力維持増進法の実践と注意点
⑧体力維持増進法の応用実践（体育・運動の重要性を意識して）
⑨体力維持増進法の応用実践（楽しみ方を中心に意識して）
⑩体力維持増進法の応用実践（持久力を中心に意識して）
⑪体力維持増進法の応用実践（筋力を中心に意識して）
⑫体力維持増進法の応用実践（心肺機能を中心に意識して）
⑬体力維持増進法の応用実践（筋持久力を中心に意識して）
⑭体力維持増進法の応用実践（コーディネーションを中心に意識して）
⑮まとめと復習

科目名	生涯スポーツ(バドミントン)
英文科目名	Physical life design (Badminton)
担当者名	【秋学期】青葉,織田
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PE103/PE109
授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。バドミントンは多くの人に親しまれている。バドミントンの基礎技術、ゲームが出来ることを目標とする。本講義は、基礎技術をゲームで確認、向上させる知識習得を軸として行う。ルールを理解し技術と戦術を向上させるとともに、互いに協力し自ら進んで追求する学習態度を取ること。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Ｔシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。
予習と復習	予習（45分）としてルール･マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。							

授業計画
①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）
②基礎技術練習（グリップ、ドライブ）
③基礎技術練習（サービス、クリア）
④基礎技術練習（スマッシュ）
⑤基礎技術練習（ドロップ）
⑥基礎技術練習（ヘアピン）
⑦シングルスゲームのルールの理解と練習
⑧シングルスゲーム（個人技術）
⑨シングルスゲーム（戦術）
⑩ダブルスゲームのルールの理解と練習
⑪ダブルスゲームの応用練習
⑫ダブルスゲーム（連携）
⑬ダブルスゲーム（戦術）
⑭総合練習及びゲーム（楽しみ方）
⑮まとめと復習

科目名	生涯スポーツ(卓球)
英文科目名	Physical life design (Table tennis)
担当者名	【春学期】浅井 【秋学期】青葉
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PE105/PE110/PE111

授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。卓球は手軽に楽しむことができるスポーツであり、幅広い年齢層の人に愛好されている。授業では基本技術を習得し、ゲームができることを目標とする。そして卓球を通じ、健康・体力、生涯スポーツについて理解を深める。ルールを理解し、技術・戦術を向上させゲームに取り組む。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Ｔシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。
予習と復習	予習（45分）としてルール･マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。							

授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）
	②基礎技術練習（フォアハンド、バックハンド）
	③基礎技術練習（ツッツキ）
	④基礎技術練習（ドライブ）
	⑤基礎技術練習（スマッシュ）
	⑥基礎技術練習（各種サービス、レシーブ）
	⑦シングルスゲームのルールの理解と応用練習
	⑧シングルスゲーム（個人技術）
	⑨シングルスゲーム（戦術）
	⑩ダブルスゲームのルールの理解と応用練習
	⑪ダブルスゲームの応用練習
	⑫ダブルスゲーム（連携）
	⑬ダブルスゲーム（戦術）
	⑭総合練習及びゲーム（楽しみ方）
	⑮まとめと復習

科目名	生涯スポーツ(レクリエーション・スポーツ)
英文科目名	Physical life design (Recreation sports)
担当者名	新井健之
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PE106

授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。健康的な身体の維持増進には、身体運動の継続が必要不可欠である。本講義では、特定のスポーツ種目に特化せず、多様種目の経験・熟達から、身体運動の継続に対する基礎的手法を学ぶことを目標とする。状況により担当教員が種目選択を行う。チーム戦を通して社会性や積極性を養う。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Tシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。
予習と復習	予習（45分）としてルール･マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。							

授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）
	②レクリエーション種目（例アイスブレイク・ゲーム）
	③レクリエーション種目（例グループワーク・ゲーム）
	④レクリエーション種目（例ユニホック・ルール説明、基本練習）
	⑤レクリエーション種目（例ユニホック・実践）
	⑥レクリエーション種目（例ペタング・ルール説明、基本練習）
	⑦レクリエーション種目（例ペタング・実践）
	⑧レクリエーション種目（例キャッチザスティック・ルール説明、基本練習・実践）
	⑨レクリエーション種目（例インディアカ・ルール説明、基本練習）
	⑩レクリエーション種目（例インディアカ・実践）
	⑪レクリエーション種目（例フライングディスク・ルール説明、基本練習）
	⑫レクリエーション種目（例フライングディスク・実践）
	⑬レクリエーション種目（例ソフトバレーボール・ルール説明、基本練習・実践）
	⑭レクリエーションの楽しみ方（選択種目）
	⑮まとめと復習

科目名	生涯スポーツ(バスケットボール)
英文科目名	Physical life design (Basketball)
担当者名	【秋学期】森田重貴
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PE108

授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。バスケットボールは、スピード感あふれるスポーツであり、瞬時の判断の難しさが面白い。技術・戦術を理解・実践が目標である。基礎技術練習と試合を軸に進めていく。また、身体運動、チームワーク、健康管理の意義を理解し、勝敗や失敗を恐れず追求する学習態度を取ること。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Ｔシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。
予習と復習	予習（45分）としてルール･マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。							

授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）
	②基本技術の習得（ドリブル）
	③基本技術の習得（パス）
	④基本技術の習得（シュート）
	⑤ルールの理解およびゲームの進め方
	⑥ゲーム中の連携、ポジションの確認
	⑦個人戦術、グループ戦術の理解（基礎）、ゲーム
	⑧個人戦術、グループ戦術の理解（応用）、ゲーム
	⑨ゲーム（楽しみ方）
	⑩ゲーム（個人技術）
	⑪ゲーム（個人戦術）
	⑫ゲーム（連携）
	⑬ゲーム（グループ戦術）
	⑭実技試験とゲーム
	⑮まとめと復習

科目名	生涯スポーツ(フットサル)
英文科目名	Physical life design (Futsal)
担当者名	【春学期】齋藤武比斗
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PE107

授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。主にグランドで行う。フットサルを通じて協調的実践を目指す。また戦術への理解を深めグループでの技能向上と協調的コミュニケーションを取ったプレーを目指す。ゲームを中心に戦術の理解とチームワーク技能の獲得を目指す。健康的な学生生活を送るためのストレッチやトレーニングも学習する。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合はケガ等に十分注意し万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Ｔシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は順不同で行い授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。
予習と復習	予習（45分）としてルール･マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。							

授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）
	②トレーニングマッチ　ルールの確認
	③トレーニングマッチ　コンディショニング
	④トレーニングマッチ　コーディネーション
	⑤ゲーム（ファンドリル）
	⑥ゲーム（パス）
	⑦4：4ミニゲーム　パス＆ラン（パス）
	⑧4：4ミニゲーム　パス＆ラン（連携）
	⑨トレーニングマッチ　ボールコントロール
	⑩プレシーズンマッチ　戦術
	⑪リーグ戦　ポゼッション　（楽しみ方）
	⑫リーグ戦　ポゼッション　（連携）
	⑬リーグ戦　ポゼッション　（戦術）
	⑭プレーオフ　セットプレー
	⑮まとめと復習

科目名	生涯スポーツ(ソフトボール)
英文科目名	Physical life design (Softball)
担当者名	【秋学期】織田憲嗣
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PE102

授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。幅広い層で親しまれているソフトボールの基礎・応用技術、ゲーム進行や戦術を学ぶ。また、チームプレーを通して人間性を養い、生涯スポーツの一環として、安全に楽しく実践できる態度を身につける。受講者の経験は問わない。身体運動、チームワーク、健康管理の意義を理解する。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Ｔシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。
予習と復習	予習（45分）としてルール･マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。参考書：攻撃ソフトボール（成美堂出版）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。							

授業計画
①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）
②基礎練習（ボールに慣れる）
③基礎練習（グラブに慣れる）
④基礎練習（バットに慣れる）
⑤応用練習（守備）
⑥応用練習（攻撃）
⑦応用練習（戦術）
⑧攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（楽しみ方）
⑨攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（攻撃の戦術・打撃）
⑩攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（攻撃の戦術・走塁）
⑪攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（攻撃の戦術・連携）
⑫攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（守備の戦術・捕球）
⑬攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（守備の戦術・連携）
⑭攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（守備の戦術・投球）
⑮まとめと復習

科目名	生涯スポーツ(バレーボール)
英文科目名	Physical life design (Volleyball)
担当者名	【春学期】浅井泰詞
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PE104

授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。バレーボールの競技特性を理解し、個人技能上達を目指す。個人技能(パス/レシーブ/トス/スパイク/サーブなど)の習得なしに集団技能の発展や、ゲームの楽しみを理解する事は難しい。そこで、個人技能の習得方法を理解し、生涯スポーツとしてのバレーボールの理解を目標とする。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Ｔシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。
予習と復習	予習（45分）としてルール･マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。							

授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）
	②ネット設営・撤去方法，アンダーパス
	③アップとオーバーパス
	④アンダーハンドサーブ
	⑤スパイクの基礎技術
	⑥スパイクの応用技術
	⑦レシーブ，トス，スパイクの三段攻撃
	⑧三段攻撃とブロック
	⑨各種のゲーム法
	⑩ミニゲーム（個人技術）
	⑪ミニゲーム（連携）
	⑫ゲーム（楽しみ方）
	⑬ゲーム（戦術）
	⑭実技試験とゲーム
	⑮まとめと復習

科目名	生涯スポーツ(キャンプ)
英文科目名	Physical life design (Camp)
担当者名	【秋学期】新井健之
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PE114

授業の概要と到達目標

2026年度は秋学期に実施、2027年度休講。本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。
キャンプは大自然の中に身を置き、鳥の鳴き、風のささやきを聞きながら自然の厳しさやおおらかさに触れ人間の基本生活のあり方をさぐることが出来る。また、そこで行われる共同生活を通して自律性や社会性を養い、人間的成長が出来る。授業では自分で住む場所を設営し、薪で食事を作り、ろうそくの火で照明するといった生活様式の経験方法を学ぶ。自己の生活を見直すのみならず、災害時の対応を学ぶこと目標とする。一部集中授業で行う。集中ではキャンプ実践をキャンプ場で学ぶ。集中授業はキャンプとスキー・スノーボードを隔年で行う。場所は未定（決まり次第掲示する）、費用は2万円程度を予定。日程は、学内事前授業が初回授業、キャンプは複数回に分ける可能も有る。詳細は授業時に説明。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画は順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する

授業の方法

この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー（実習日誌）提出などを行う。

予習と復習

予習（45分）として自らの体力（形態・筋力・持久力など）を評価し、理解するように努力する。必要に応じて、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として健康の維持・増進方法の実践を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。

テキスト等

テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。［参考書］
『キャンプ指導者入門』　（公益社団法人日本キャンプ協会）

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
授業中の態度等から評価する			30%	集中授業中の日誌			20%

出席率82%以上を評価対象とする。平常点は授業への参加度を評価し、欠席-10点/回、遅刻-5点/回。遅延証明書は要持参。授業中の態度等は取組により評価する。集中授業中に行われる日誌は、内容で評価する。最後に全体的な評価と所見を伝える。

授業計画

①オリエンテーション（更衣不要,写真3cm×4cm持参,球技室
②学内授業（更衣不要指定教室集合,キャンプと自然・キャンプ用具,参加費について
③学内授業（更衣不要指定教室集合,キャンプ場でのマナー,入金確認と合宿届）
④学内授業（更衣不要指定教室集合,キャンプでの生活と用具理解）
⑤直前学内集中　（用具の確認）
⑥集中授業　（住居設営・野外調理方法）
⑦集中授業　（ナイトウォークの方法）
⑧集中授業　（自然・歴史散策1）
⑨集中授業　（自然・歴史散策2）
⑩集中授業　（星見会）
⑪集中授業　（お好み活動1）
⑫集中授業　（お好み活動2）
⑬集中授業　（食事コンテスト）
⑭集中授業　（住居撤収・環境整備）
⑮まとめと復習

科目名	生涯スポーツ(スキー・スノーボード)
英文科目名	Physical life design (Ski・Snowboard)
担当者名	2026年度休講
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PE112

授業の概要と到達目標	2026年度は休講。2027年度は新たなカリキュラムとして実施予定。スノースポーツは生涯スポーツとして長く楽しめるスポーツである。短期間で楽しめるようになり、長期間上達を楽しめる奥の深いスポーツといえる。自然や人との関わりを学び、スノースポーツへの理解を深め教養として身につけることを目標とする。　集中授業（最終授業日直後予定）で行うが、オリエンテーションを含め数回の学内授業を行う。初回授業以外は掲示板にて連絡する。スノースポーツとしてスキーおよびスノーボードを選択する。また、様々な体験を通して、楽しみ方の幅を広げる。体力・技術能力別にクラス分けを行う。スキー・スノーボード共に実技試験としてSAJ公認級別テストを実施する（希望者は認定可能）。場所：白馬五竜スキー場を予定。費用：約６～８万円（宿泊・食事・リフト含む）コロナ禍の変動のため、上下の可能性有り。日程は学年歴で変更あり。
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。
予習と復習	予習（45分）としてルール･マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書を提出を必須とする。テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価する			30%	集中授業中の日誌			20%
	出席率82%以上を評価対象とする。平常点は授業への参加度を評価し、欠席-10点/回、遅刻-5点/回。遅延証明書は要持参。授業中の態度等は取組により評価する。集中授業中に行われる日誌は、内容で評価する。最後に全体的な評価と所見を伝える。							

授業計画	①初回授業日オリエンテーション：更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館
	②学内事前授業　月１回(レンタル)、(実習費・持ち物)、（直前確認）
	③集中授業１日目午後、班分け・滑りの基本
	④集中授業１日目夜、雪山での体調管理
	⑤集中授業２日目午前、種目別技術向上（楽しみ方）
	⑥集中授業２日目午後、種目別技術向上（停止）
	⑦集中授業２日目夜，技術理論
	⑧集中授業３日目午前、種目別技術向上（滑走）
	⑨集中授業３日目午後，スノースポーツの楽しみ方
	⑩集中授業３日目夜，滑りの自己分析
	⑪集中授業４日目午前、種目別技術向上（安全）
	⑫集中授業４日目午後、種目別技術向上（コントロール）
	⑬集中授業４日目夜、夜の楽しみ方（レク）
	⑭集中授業５日目午前、種目別技術向上（自立）
	⑮事後授業最終授業「まとめと復習」

科目名	健康生涯スポーツ(テニス)
英文科目名	Physical life design and health promotion (tennis)
担当者名	新井健之
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PE113

授業の概要と到達目標	健康と体力・スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。健康体力づくりと生涯スポーツを同時に連続２コマで実施する。テニスは生涯スポーツとして広く人々に親しまれている。テニスを通じて健康で豊かな人生を送り生涯を通じて積極的に身体活動の意識を高めることが目標である。教養として楽しむための技術・知識の習得を目指す。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合はケガ等に十分注意し万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。　授業開始前に更衣し実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Ｔシャツなど）で臨み必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画03～14は順不同で行い03以降は登戸で実施、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。必要に応じて体力測定を行う。
予習と復習	予習（90分）としてルール･マナーおよび自らの体力（形態・筋力・持久力など）を評価し、理解するように努力する。授業中に質問できるようにまとめる。復習（90分）として健康の維持・増進方法の実践を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。1回2コマ実施。平常点は授業への参加度を評価。欠席-5点/コマ届出欠席-4点/コマ遅刻-5点/回。遅延等は要状況写真。授業中の態度等は取組を評価。授業中の理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価し最後に全体的な評価と所見を伝える。							

授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）
	②W-upとC-downの実践と注意点/ウォーキングの実践と注意点（体育館集合）
	③ラケッティング/ジョギングの実践と注意点（以降登戸グランド）
	④ボレーの基本技術/筋力トレーニングの実践と注意点
	⑤ストローク/ボールを使用した体力維持増進法の実践と注意点
	⑥サーブ・レシーブ/ボール未使用の体力維持増進法の実践と注意点
	⑦雁行陣のポジショニング/体力維持増進法の応用実践（体育・運動の重要性を意識して）
	⑧アプローチ/体力維持増進法の応用実践（楽しみ方を中心に意識して）
	⑨サーブorレシーブ＆ボレー/体力維持増進法の応用実践（持久力を中心に意識して）
	⑩平行陣のポジショニングと戦略/体力維持増進法の応用実践（筋力を中心に意識して）
	⑪平行陣練習（VvsS）/体力維持増進法の応用実践（心肺機能を中心に意識して）
	⑫平行陣練習（VvsV）/体力維持増進法の応用実践（筋持久力を中心に意識して）
	⑬ルールとマナー/体力維持増進法の応用実践（コーディネーションを中心に意識して）
	⑭ハーフコート練習（ストレート/クロス）
	⑮まとめと復習

科目名	総合科目(春) 総合科目A
英文科目名	General Subject(Spring) General Subject A
担当者名	鈴木岳人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	INTD201

授業の概要と到達目標	【テーマ】ミライをデザインする私たちのLIVES【目　標】我々の生活（LIVES）を豊かにするとはどういうことなのか、各講師の多彩な専門分野と文理融合の視点から紐解いていく。【授業の概要】一見明確に答えられない「豊かに生きることとは何か」という問いに対して、多様な知見を持つ講師陣の講義のもとに自分なりの解答を探し出すことを目指す。我々の生活はあまりにも多様な側面に切り分けることができるが、その各側面に豊かさのヒントは隠されている。人間科学部の講師陣が持つ専門分野の多様性を利用し、それを引き出すことを考える。特に文理融合の視点からこのプロセスを突き詰めれば生き方についてより深い示唆が得られるであろう。各自のミライの生き方の指針を見つけ出すきっかけとなる科目である。
授業の方法	・本学教員と外部講師によるクロストークを基本とした講義を行う。各回の講義担当者が質疑応答の時間を設け、アクティブ・ラーニング（ディスカッション等）を実施する。
予習と復習	・予習（90分）各回のテーマに関して事前に調べ、要点をまとめて質問を考えておく。・復習（90分）授業内容を振り返り、自分の考えを文章にまとめる。トピックスに関する内容について調べて理解を深める。
テキスト等	・テキストの指定なし。・毎回、資料を提示または配布する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	30%
				0%				0%
	・授業回数の3分の2以上の出席およびリアクションペーパー等の提出を評価の前提条件とし、遅刻・早退・欠席は、平常点より減点する。・評価：キーコンセプトの理解に基づいた論述を重視する。・レポート等：提出された答案は返却せず、評価と所見を提示する。							

授業計画
①ガイダンス　（鈴木岳人）
②Land Conservation　（土地保全）：松谷明美×藤田卓（日本自然保護協会）
③Labor　（労働）：柴田徹平×石橋孝宜（Timee執行役員、スポットワーク研究所所長）
④Literature　（文学）：渡辺賢治×橋本竜（株式会社エンバウンド代表取締役）
⑤Intercultural communication　（異文化コミュニケーション）：吉村竜×竹内淨
⑥Interpersonal relationship　（対人関係）：吉原千賀×吉村由依子（亀屋良長取締役）
⑦Visual cognition　（視覚認知）：時津裕子×酒井雅裕（神奈川工大情報メディア学科）
⑧Vitality　（活力）：新井健之×新田渉世（川崎新田ボクシングジム会長）
⑨Education　（教育）：徳田治子×古新舜（映画監督）
⑩Environment　（環境）：竹内淨×吉村竜
⑪Ethics　（倫理）：小平健太×外部講師
⑫Social studies　（社会科）：鈴木隆弘×外部講師
⑬Society　（社会）：三津田悠×原貫太（フリーランス国際協力師）
⑭Science　（自然科学）：鈴木岳人×加藤愛太郎（東京大学地震研究所）
⑮まとめと復習　（鈴木岳人）

科目名	総合科目(秋) 総合科目B
英文科目名	General Subject(Autumn) General Subject B
担当者名	大芝周子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	INTD202
授業の概要と到達目標	テーマ：「地域を創る」
授業の方法	・学外講師あるいは本学教員による講義が実施される。講義担当者による質疑応答でアクティブ・ラーニング（ディスカッション等）を実施するとともに、レポート課題が付与されることがある。
予習と復習	・予習（90分）講義テーマに関連する書籍について簡単に確認しておく。復習（90分）授業内容を再確認し、内容をまとめる。
テキスト等	・テキストの指定なし。・毎回、資料を提示もしくは配布する。

評価方法							
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	50%
			0%				0%
最後に全体的な評価と所見を伝える。							

授業計画
①①ガイダンス
②②
③③
④④
⑤⑤
⑥⑥
⑦⑦
⑧⑧（ゼミ発表会）中間内容まとめ
⑨⑨
⑩⑩
⑪⑪
⑫⑫
⑬⑬
⑭⑭
⑮⑮まとめと復習

科目名	日本の文化と歴史 日本事情A
英文科目名	The culture and the history of Japan
担当者名	五野井郁夫
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FOR101
授業の概要と到達目標	「日本の文化と歴史」は、留学生が総合的な視点から日本に関する教養を身につけるための科目である。本講義では、日本の文化、歴史などに関わる諸事情を学び、自国との違いを考察する力を養うとともに、それらを伝える力を身につけることを目的とする。具体的なテーマは、授業計画の通りである。ただし、授業計画のテーマ内容及びその順序は変更することがある。
授業の方法	・オムニバス形式で実施する。各回の担当教員については授業計画を参照のこと。・毎回、リアクションペーパーの提出を求める。それをもとに質疑応答・意見交換を行い、講義内容の理解を深める（アクティブ・ラーニング）。オンライン・オンデマンド講義も活用する。
予習と復習	予習（90分）次回のテーマについて調べておくこと。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	教場にてプリントなどの資料を配布する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%

ここでの平常点とは、リアクションペーパーの内容および教員との対話を指す。それらへのフィードバックを最終回に実施し、全般的な評価と所見を提示する。４回以上欠席した場合、単位を認めない。

授業計画
①ガイダンス
②日本の環境問題
③日本の文学
④日本の文化
⑤日本の健康観
⑥日本の企業
⑦近代日本の歴史
⑧ゼミナール発表会聴講振替
⑨日本の家族
⑩日本の学校教育
⑪日本の社会
⑫日本の観光の現状
⑬日本の宣伝・広告
⑭日本の哲学と思想
⑮まとめと総復習

科目名	日本史(古代・中世・近世)
英文科目名	Japanese History(ancient, medieval and early modern)
担当者名	似鳥雄一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	HIST101

授業の概要と到達目標	人文分野の視点から教養を身につけるための科目です。本講義では、日本の前近代史をおおよそ年代順にみていきます。それによって基礎的な知識を獲得するとともに、歴史の流れを理解することを目指します。その際に重要なことは、単に歴史上の用語を暗記するだけではなく、知識をもとにして考えることです。例えば、歴史的な出来事がなぜ起こったのか、当時の人々が何を思いどのように考えていたのか、現代の我々はそれらのことをどのようにして知りうるのか、といったことが課題になります。突き詰めていえば、歴史を学ぶことの意義とは、時間の経過とともに変わったことと変わらないことを見極め、人間と社会の本質をつかむことにあります。本講義でも、現代の日本と世界について深く考えるためのヒントを示せればと思います。
授業の方法	基本的には講義形式ですが、アクティブ・ラーニングとして、毎回の授業のなかでランダムに受講生への問いかけを発し、知識の確認と理解の促進のためのディスカッションの場とします。
予習と復習	予習（90分）：授業で示された参考文献に目を通し、日本史に関する知識を確かめておくこと。復習（90分）：毎回の授業後、次回までに講義内容を再確認して理解を深めておくこと。
テキスト等	プリントを配布します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	論述式の試験で評価します。フィードバックとして、全体的な評価と所見をT-Naviで配信します。							

授業計画
①ガイダンス
②［古代１］古墳～飛鳥時代（３～７世紀）
③［古代２］奈良時代（８世紀）
④［古代３］平安初期（９～10世紀）
⑤［古代４］摂関時代（10～11世紀）
⑥［中世１］院政時代（11～12世紀）
⑦［中世２］鎌倉時代（12～14世紀）
⑧［中世３］南北朝時代（14世紀）
⑨［中世４］室町時代（15世紀）
⑩［中世５］戦国時代（16世紀）
⑪［近世１］織豊～江戸初期（16～17世紀）
⑫［近世２］江戸前期（17～18世紀）
⑬［近世３］都市社会と村社会
⑭［近世４］江戸後期（18～19世紀）
⑮まとめと総復習

科目名	日本史(近代・現代)
英文科目名	Japanese History(modern and contemporary)
担当者名	似鳥雄一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	HIST102

授業の概要と到達目標

人文分野の視点から教養を身につけるための科目です。本講義では、日本の近現代史をおおよそ年代順にみていきます。それによって基礎的な知識を獲得するとともに、歴史の流れを理解することを目指します。その際に重要なことは、単に歴史上の用語を暗記するだけではなく、知識をもとにして考えることです。例えば、歴史的な出来事がなぜ起こったのか、当時の人々が何を思いどのように考えていたのか、現代の我々はそれらのことをどのようにして知りうるのか、といったことが課題になります。突き詰めていえば、歴史を学ぶことの意義とは、時間の経過とともに変わったことと変わらないことを見極め、人間と社会の本質をつかむことにあります。本講義でも、現代の日本と世界について深く考えるためのヒントを示せればと思います。

授業の方法

基本的には講義形式ですが、アクティブ・ラーニングとして、毎回の授業のなかでランダムに受講生への問いかけを発し、知識の確認と理解の促進のためのディスカッションの場とします。

予習と復習

予習（90分）：授業で示された参考文献に目を通し、日本史に関する知識を確かめておくこと。復習（90分）：毎回の授業後、次回までに講義内容を再確認して理解を深めておくこと。

テキスト等

プリントを配布します。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

論述式の試験で評価します。フィードバックとして、全体的な評価と所見をT-Naviで配信します。

授業計画

①ガイダンス
②明治維新
③自由民権運動・帝国憲法制定
④日清・日露戦争と帝国主義
⑤大陸進出と第一次世界大戦
⑥大正デモクラシー
⑦近代の社会と民衆
⑧相次ぐ恐慌、大陸の権益
⑨ファシズムと日中戦争
⑩アジア・太平洋戦争
⑪占領改革と東西冷戦
⑫戦後の復興と混迷
⑬「経済大国」日本、変わる世界秩序
⑭平成、そして令和へ
⑮まとめと総復習

科目名	外国史(古代・中世)
英文科目名	World History(Ancient & Medieval History)
担当者名	岡田泰介
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	HIST103

授業の概要と到達目標	この科目は、人間科学部のディプロマシーポリシーの一つ、「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる」ことを目的としている。２１世紀に生きる私たちの社会や文化、人間関係、感情といったものは過去の人類の長い歴史の延長上にあり、その影響を受けている。それだけに現在を生きる私たちは誰であっても、よりよく生きるために歴史を学ぶ必要がある。この授業を受講する皆さんには、単に過去のできごとや年代を学ぶだけではなく、それらが自分自身の時代にどう痕跡を残しているのか、という点を重視してもらいたい。その上で私たちの世界の現状と未来について考えを深めることがこの授業の到達目標である。　具体的には、ヨーロッパ（と近代以降のアメリカ）の歴史を古代から現代まで学ぶ。現代の政治・経済・社会・国際関係のしくみのほとんど（民主政・株式会社・社会保険制度・国際法など）はで生まれたものであり、ヨーロッパの歴史を学ぶことは、商学部・経営学部・人間科学部のいずれの学生にとっても確実に役に立つであろう。
授業の方法	アクティブラーニングの方法として、毎回の授業について小テストを行い、点数を開示する。
予習と復習	〈予習（90分）〉下に挙げたテキストを事前に読み、該当する時代について全体像を把握しておくことが望ましい。〈復習（90分）〉授業ノートを読み直し、以下に挙げたテキストや他の文献を用いながら理解を深める。疑問点は自分で調べるか、担当教員に質問すること。
テキスト等	教科書は特に指定しないが、高等学校の世界史B程度の内容は理解していることを前提に授業するので、きちんと予習して出席すること。図書館には『もういちど読む山川世界史』（山川出版社2006）、『詳説世界史研究』（山川出版社2017）』などがある。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	毎回の授業について小テストを課す（各10点、合計140点）。60点以上取得した者に単位を認定する。期末テストはおこなわない。出席は成績に影響しないが、出席しなければ小テストは零点となる。							

授業計画
①ガイダンス
②古代地中海世界ーギリシアとローマ
③欧州中世世界の成立
④欧州中世世界の展開
⑤近世西欧諸国の形成
⑥グローバル化の始まり
⑦近代市民革命と産業革命
⑧欧州における国民国家の形成
⑨アメリカ合州国の台頭
⑩帝国主義の時代
⑪二つの世界大戦
⑫世界大戦期のロシアとアメリカ合州国
⑬東西冷戦
⑭ポスト冷戦
⑮まとめ

科目名	外国史(近代・現代)
英文科目名	World History (Modern History)
担当者名	岡田泰介
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	HIST104

授業の概要と到達目標	この科目は、人間科学部のディプロマシーポリシーの一つ、「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる」ことを目的としている。２１世紀に生きる私たちの社会や文化、人間関係、感情といったものは過去の人類の長い歴史の延長上にあり、その影響を受けている。それだけに現在を生きる私たちは誰であっても、よりよく生きるために歴史を学ぶ必要がある。この授業を受講する皆さんには、単に過去のできごとや年代を学ぶだけではなく、それらが自分自身の時代にどう痕跡を残しているのか、という点を重視してもらいたい。その上で私たちの世界の現状と未来について考えを深めることがこの授業の到達目標である。　具体的には、ヨーロッパ（と近代以降のアメリカ）の歴史を古代から現代まで学ぶ。現代の政治・経済・社会・国際関係のしくみのほとんど（民主政・株式会社・社会保険制度・国際法など）はで生まれたものであり、ヨーロッパの歴史を学ぶことは、商学部・経営学部・人間科学部のいずれの学生にとっても確実に役に立つであろう。
授業の方法	アクティブラーニングの方法として、毎回の授業について小テストを行い、点数を開示する。
予習と復習	〈予習（90分）〉下に挙げたテキストを事前に読み、該当する時代について全体像を把握しておくことが望ましい。〈復習（90分）〉授業ノートを読み直し、以下に挙げたテキストや他の文献を用いながら理解を深める。疑問点は自分で調べるか、担当教員に質問すること。
テキスト等	テキストは特に指定しないが、高等学校の世界史B程度の内容は理解していることを前提に授業するので、きちんと予習して出席すること。図書館には『もういちど読む山川世界史』（山川出版社2006）、『詳説世界史研究』（山川出版社2017）』などがある。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

毎回の授業について小テストを課す（各10点、合計140点）。60点以上取得した者に単位を認定する。期末テストはおこなわない。出席は成績に影響しないが、出席しなければ小テストは零点となる。

授業計画
①ガイダンス
②古代ギリシアの戦争
③古代ローマの戦争
④中世の戦争（1）フランク王国の盛衰とヘースティングスの戦い
⑤中世の戦争（2）十字軍と百年戦争
⑥近世の戦争（1）傭兵の時代
⑦近世の戦争（2）常備軍の時代
⑧近世の戦争（3）大砲と要塞・帆船
⑨近代の戦争（1）フランス革命とナポレオン戦争
⑩近代の戦争（2）南北戦争
⑪現代の戦争（1）第一次世界大戦
⑫現代の戦争（2）第二次世界大戦
⑬現代の戦争（1）冷戦期の戦争
⑭現代の戦争（2）ポスト冷戦期の戦争
⑮まとめ

科目名	日本文学
英文科目名	Japanese Literature
担当者名	渡辺賢治
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	JLIT101

授業の概要と到達目標	明治時代以降、日本は西洋化・近代化が急速に進んだことにより、価値観や社会制度が大きく変化した。とりわけ近現代に出現した新たなメディアの台頭は、文学の表現や受容のあり方にも大きな転換が生じさせ、高度に発達する情報ネットワークの中、読者や同時代の社会状況をより意識した作品が発表されるようになった。こうした潮流の中で、文学は社会や人間をどのように受け止めたのだろうか。　本講義では、明治から現代までの文学作品を取り上げ、私たちの捉える「社会」や「個人」といった問題に迫る。併せて、文学を表現してきた古今のメディアも確認しつつ原文に触れ、言葉の深みや表現技巧、物語の奥深さを味わう。また、社会や人間に向ける文学の視線や問題意識を探ることにより、名作の魅力を自らの言葉で説明できることを目指す。　本講義は、人文分野の日本文学および日本文化に関する教養を身につけるための科目である。
授業の方法	毎回、資料を配付し、授業を行う。また、一部の授業回において、個人または隣同士の学生で担当教員から示されたテーマについて考え、話し合い、発表を行う（アクティブ・ラーニング）。その地、授業に関連するゲスト講師の招聘も予定。
予習と復習	（予習90分）次回分の作品に目を通し、意味の分からない語句や表現を調べるなどの準備を行う。（復習90分）授業で学んだ内容について、その日のうちに整理・理解し、配付資料を活用しながら振り返りの学修を行い、期末試験に備える。
テキスト等	テキストの指定は特に行わない。講義の際に資料を配付する。　（参考文献）伊藤整『改訂 文学入門』（講談社、2004年）、安藤宏『日本近代小説史 新装版』（中央公論新社、2020年）

評価方法								
定期試験	60%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
			0%				0%

3分の2以上の出席をすること。出席回数不足の場合、単位取得を認めない。平常点には毎回の授業中に出す小課題（10分程度）を含む（次回の授業にてフィードバック（受講生の全般的な評価と所見を提示）する）。出題時以外の小課題の提出は一切認めない。

授業計画
①イントロダクション―文学へのアプローチ―
②猫の視点と明治・現代―夏目漱石『吾輩は猫である』永森裕二『ねこタクシー』を読む―
③近代における孤独とは―夏目漱石『坊つちやん』を読む―
④現代における孤独とは―西村賢太『苦役列車』を読む―
⑤若き日の屈折と個の姿―太宰治「黄金風景」を読む―
⑥自己と他者の世界―夏目漱石『こころ』を読む―
⑦個の「システム化」とは―村田沙耶香『コンビニ人間』を読む―
⑧揺らぐ個と他者との関わり―小林恭二『小説伝』綿矢りさ『インストール』を読む―
⑨他者への思いと欲望の是非―芥川龍之介「魔術」を読む―
⑩明治社会における「偉さ」とは―森鷗外「舞姫」を読む―
⑪現代社会における「偉さ」とは―山崎豊子『白い巨塔』を読む―
⑫明治のものづくり小説から個の「信念」を学ぶ―幸田露伴「一口剣」「五重塔」を読む―
⑬突き抜けた個の姿とは何か―中島敦「名人伝」を読む―
⑭温泉地という非日常空間と個―川端康成「雪国」を読む―
⑮まとめと総復習―教養としての文学―

科目名	日本文学史
英文科目名	History of Japanese Literature
担当者名	渡辺賢治
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	JILT102

授業の概要と到達目標	上代から近現代までの文学を概観し、各時代における文学の特徴や性格を大まかに捉え、代表的な作品や作家についての基礎的な知識を身に付ける。また、原文に触れながら文学を表現してきた古今のメディアにも触れながら、言葉の深みや表現技巧、物語の奥深さなどを味わい、それらの魅力を自らの言葉で説明できることを目指す。文学史は単に作品名や作家名を暗記するものではなく、実際に作品の原文を読むことで、その作品の内容を具体的に把握･理解し、作者の世界観や表現力、モチーフやテーマを知ることにもつながる。加えて、その作品が生まれた時代・社会背景にまで視野を広げることで、現代を生きる私たちが「人間いかに生きるか」といった、文学的命題にも接続していく。　本講義は、人文分野の日本文学および日本文化に関する教養を身につけるための科目である。
授業の方法	毎回、資料を配付し、授業を行う。また、一部の授業回において、個人または隣同士の学生で担当教員から示されたテーマについて考え、話し合い、発表を行う（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	（予習90分）配布資料に目を通し、高校時代に使用した『国語便覧』等も参考にしながら、文学史の流れを確認しておく。（復習90分）授業で学んだ内容について、その日のうちに整理・理解し、配付資料を活用しながら振り返りの学修を行い、期末試験に備える。
テキスト等	テキストの指定は特に行わない。講義の際に資料を配付する。（参考文献）秋山虔・三好行雄『原色 新日本文学史(増補版)』（文英堂 2016年）

評価方法								
定期試験	60%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
			0%				0%

3分の2以上の出席をすること。出席回数が不足の場合、単位取得を認めない。平常点には毎回の授業中に出す小課題（10分程度）を含む（次回の授業にてフィードバック（受講生の全般的な評価と所見を提示）する）。出題時以外の小課題の提出は一切認めない。

授業計画
①イントロダクション―文学史としての区分と時代・社会・個人との関わり―
②上代の文学―『古事記』『日本書紀』と神話・伝説の世界―
③上代の文学―『風土記』と地域の物語―
④中古の文学―『竹取物語』とＳＦ的視点―
⑤中古の文学―『枕草子』―宮廷貴族の生活様式・文化・風習―
⑥中世の文学―『方丈記』『徒然草』における無常観と仏教―
⑦中世の文学―『源氏物語』『平家物語』など多彩な物語の展開―
⑧近世の文学―『奥の細道』と紀行文、元禄文化について―
⑨近世の文学―戯作文学（小説・俳諧・川柳・狂歌）の展開―
⑩近代の文学―明治期の作品と近代社会の幕開け―
⑪近代の文学―自然主義・耽美派・白樺派の展開と大正デモクラシー―
⑫近代の文学―昭和前期（戦前・戦時中）の作品―
⑬近現代の文学―昭和後期（戦後・高度経済成長期）の作品―
⑭近現代の文学―平成･令和時代の文学と多様化するメディア―
⑮まとめと総復習―文学史を学ぶ意味―

科目名	自然地理学
英文科目名	Physical Geography
担当者名	本多啓太
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	GEOG101

授業の概要と到達目標	【授業目標】地理学的な視点や手法を通して基本的な世界の自然の成り立ちを理解すること、人と自然の関わりについて理解することを目標とする。特に地形の成り立ちや気候の成り立ちについてんの学びを通して、自然環境や自然災害の理解を深め、自然との向き合い方を主体的に考えていく力を養成することを目標とする。【授業概要】地形、気候、植生・土壌など地理的視点から自然環境の基礎を学び、現在、世界的に大きな関心事となっている地球環境問題や自然災害について、その特徴を説明していく。また、問題解決に向けて、地図の活用や地域調査など地理学的な方法についても説明していく。
授業の方法	基本は講義形式で行う。スライドや配布教材をもとに説明し、授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内容に関する世の中の諸課題について、個人やグループによるワーク活動、フィールドワークなどのアクティブラーニングの時間を設ける。
予習と復習	予習（90分）前回の内容を確認するとともに、シラバスや授業時の予告をもとに、次の内容に関する地理的テーマを探しておく。復習（90分）講義後、その都度受けた授業内容について、ノートやメモを見直して内容を整理し、要点の理解に努める。
テキスト等	スライドをまとめたレジュメを配布。特にテキストは指定しないが、授業毎に参考となる文献を紹介する。高校で利用した地図帳、もしくはタブレットなどで地図を確認できるようにしておくこと。また、地図の着色などワーク活動で色鉛筆を使用する場合がある。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
			0%				0%

毎回の授業時に実施するリアクションペーパーの提出と課題の取り組みなどで平常点を評価。また、授業内試験を実施し、講義内容についての理解の到達度を確認し、評価する。

授業計画	
	①ガイダンス　地理学への招待：自然地理と人文地理、地誌の関係
	②地理と地図　地図の発展と地理情報、地図から読み解くサンゴ礁の島々と地球環境問題
	③世界の大地形　地球の構造とプレートテクトニクス、世界の山脈
	④災害の特性１　地震・火山分布と火山地形、火山災害の特徴
	⑤沖積平野の地形と自然環境１　扇状地の成り立ちと土砂運搬、地滑りや土石流災害
	⑥沖積平野の地形と自然環境２　氾濫原とデルタの成り立ちと河川災害
	⑦災害の特性２　地震災害の特徴、地震動や津波被害
	⑧気候の特徴１　世界の気候区分と緯度ごとの暮らしの特徴
	⑨気候の特徴２　森林と水：たたらと禿山、水収支とバーチャルウォーター
	⑩気候の特徴３　過去の気候変動と人類、そして未来
	⑪海岸地形　海岸の特徴、人間の活動と海岸変化
	⑫江戸・東京の地形　なぜ坂が多いのか？、段丘地形
	⑬フィールドワーク　大学周辺の地形を歩く・自然環境を観察する
	⑭授業内試験と解説　理解の到達度把握
	⑮まとめと総復習

科目名	人文地理学
英文科目名	Human Geography
担当者名	新井智一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	GEOG102

授業の概要と到達目標	この授業では、現象の分布を通じて場所や地域を理解する学問である地理学の観点から、文化をめぐる現象とそれを取り巻く地域とのかかわりについて説明します。それを通じて、「文化地域」「文化景観」「下位文化」「文化と政治」についての知識と関心が深まることと、文化についての分布図や統計表を難なく読解できることを目標とします。この授業は人文分野から教養を身につけるための科目の一つです。
授業の方法	基本的に講義形式で行います。一部の授業回で反転学習（アクティブ・ラーニング）を実施します。複数回の小テストを授業内に行います。
予習と復習	予習（90分）あらかじめ提示された資料を熟読しておく復習（90分）資料と地図帳を用いて授業内容を理解する
テキスト等	教科書：使用しませんが、学修支援システム（Google Classroom）であらかじめ資料を提示します。参考書：『文化地理学ガイダンス（改訂版）』（ナカニシヤ出版）　　中学校、高校で使用した地図帳

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

複数回の授業内小テストの解答、解説、全般的な評価と所見は、次回の授業で示します。

授業計画
①文化をめぐる地理学の視点
②文化地域－方言周圏論とは？
③文化地域－方言と新方言
④文化地域－方言の基礎知識
⑤文化地域－日本の食文化の東西差
⑥伝統食と地域－昆虫食
⑦伝統食と地域－鮒鮓とサバ缶
⑧文化伝播－情報の拡散とシミュレーション
⑨人文地理学の方法－頭の中の地図
⑩人文地理学の方法－時間地理学とは？
⑪文化景観－「つくられた伝統」と地域
⑫文化景観－町並み保存運動と地域
⑬下位文化－アニメ産業と地域
⑭文化と政治－路上パフォーマンスとスケートボード専用広場にみる
⑮まとめと総復習

科目名	経済学(ミクロ基礎)
英文科目名	Introduction to microeconomics
担当者名	柴田舞
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ECON101

授業の概要と到達目標	この授業はミクロ経済学の基礎を学ぶ。具体的内容は、消費者はどのように考えてモノを買うのか、企業はどのようにして生産量を決めるのか、といった消費者や企業行動や、価格メカニズムを中心に勉強する。また、経済の問題を需要と供給の概念を利用して考えていく。なお、本科目は社会分野の視点から教養を身につけるための科目である。
授業の方法	講義を中心に行う。アクティブ・ラーニングとして一部の授業回でグループワークを実施することがある。
予習と復習	予習（90分）課題に取り組み、その解答を授業に持参すること。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	【テキスト】柴田舞著『初めて学ぶミクロ経済学』（新世社）、2023年。【配布物】授業資料を配布する予定である。

評価方法								
定期試験	60%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
課題			40%				0%

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】一部の課題について添削して返却し、評価を提示する。

授業計画
①ミクロ経済学概要
②市場の理論
③消費者行動の理論
④価格・所得の変化と最適消費点
⑤市場の需要曲線
⑥生産の理論
⑦利潤最大化
⑧供給曲線
⑨完全競争市場
⑩均衡分析の応用
⑪余剰分析
⑫独占
⑬外部効果と情報の非対称性
⑭不確実性とリスク
⑮まとめと総復習

科目名	経済学(マクロ基礎)
英文科目名	Introduction to macroeconomics
担当者名	柴田舞
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ECON102

授業の概要と到達目標	この授業はマクロ経済学の基礎を学ぶ。国や一つの経済圏などの範囲で景気や物価などを考え、日本の経済を担う主体（家計、企業、政府）からの視点をもとに、経済理論を学ぶ。具体的内容は、経済を把握するGDPなどの経済指標、経済全体でのモノの売買、貨幣などの金融市場、さらに、それらをまとめて経済全体での景気状況を把握し、政策の効果を判断する方法を学ぶ。なお、本科目は社会分野の視点から教養を身につけるための科目である。
授業の方法	講義を中心に行う。アクティブ・ラーニングとして一部の授業回でグループワークを実施することがある。
予習と復習	予習（90分）課題に取り組み、その解答を授業に持参すること。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	【配布物】授業資料を配布する予定である。

評価方法								
定期試験	60%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
課題			40%				0%

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】一部の課題について添削して返却し、評価を提示する。

授業計画
①マクロ経済学概要
②マクロ経済学と日本経済
③国民所得の概念
④消費関数
⑤企業の投資行動
⑥政府支出
⑦総需要
⑧経済における貨幣の役割
⑨貨幣市場の均衡
⑩財政金融政策
⑪IS曲線
⑫LM曲線
⑬IS-LMモデルを使った分析
⑭物価の分析
⑮まとめと総復習

科目名	憲法(人権)
英文科目名	Constitutional Law (human rights)
担当者名	山根雅昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LAW101

授業の概要と到達目標	社会分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。憲法は主権者である市民の自由を守るために国家権力を縛っておく重要な役割を持っている法規範である。しかし、日常で憲法を意識するということはほとんどなかろう。それは一つには、すでに憲法に体現されている考え方がいわば常識となっていて、改めて問い直す必要を感じないためであろう。また、名宛人が国家である憲法を市民の側が意識するということは国家が憲法によって定められているところから外れていることを問題にすることでもあるからである。この講義は実際の日本の憲法をめぐる問題状況がどのようなものなのかを考えていこうとするものである。憲法(人権)では、主に人権保障について取り扱う。<準備学修(予習・復習)>範囲を指定するので事前にテキストを予習しておくこと。
授業の方法	講義形式。アクティブラーニングとしてフィールドワーク（例）国立ハンセン病資料館を見学したうえで、人権侵害の歴史を学び、レポートにまとめる。
予習と復習	予習（90分）指定教科書を読む。復習（90分）講義内容を、教科書・ノート等で復習する。
テキスト等	麻生多聞他『初学者のための憲法学〔新版〕』（北樹出版）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
				0%				0%
	レポート(論述式)と平常点（出席状況）により評価する。フィードバック方法は、全般的な評価と所見を授業内で提示。							

授業計画
①憲法総論
②基本的人権の原理
③人権の制約と適用範囲
④包括的基本権
⑤平等
⑥表現の自由
⑦思想良心の自由
⑧信教の自由・政教分離
⑨社会権
⑩教育
⑪人身の自由
⑫経済的自由権
⑬家族と憲法
⑭参政権
⑮まとめと総復習

科目名	憲法(統治)
英文科目名	Constitutional Law (state)
担当者名	山根雅昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LAW102

授業の概要と到達目標	社会分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。憲法は主権者である市民の自由を守るために国家権力を縛っておく重要な役割を持っている法規範である。しかし、日常で憲法を意識するということはほとんどなかろう。それは、すでに憲法に体現されている考え方がいわば常識となっていて、改めて問い直す必要を感じないためであろう。また、名宛人が国家である憲法を市民の側が意識するということは国家が憲法によって定められているところから外れていることを問題にすることでもあるからである。この講義は実際の日本の憲法をめぐる問題状況がどのようなものなのかを考えていこうとするものである。憲法(統治)では主に統治機構について取り扱う。＜準備学修(予習・復習)＞範囲を指定するので事前にテキストを予習しておくこと。
授業の方法	講義形式。アクティブラーニングとしてフィールドワーク（例）司法・立法・行政各機関を見学したうえで、統治構造を学び、レポートにまとめる。
予習と復習	予習（90分）指定教科書を読む。復習（90分）講義内容を、教科書・ノート等で復習する。
テキスト等	麻生多聞他『初学者のための憲法学〔新版〕』（北樹出版）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
				0%				0%
	レポート(論述式)と平常点（出席状況）により評価する。フィードバック方法は、全般的な評価と所見を授業内で提示。							

授業計画
①統治機構総論
②国民主権・天皇制
③選挙制度・国民投票
④国会の機能・構造・権限
⑤二院制
⑥内閣
⑦行政各部
⑧議院内閣制・政党制
⑨裁判所・司法制度
⑩違憲審査制
⑪憲法訴訟・裁判員制度
⑫財政
⑬平和主義
⑭地方自治
⑮まとめと総復習

科目名	法律学(生活と法)
英文科目名	Jurisprudence (Life and Law)
担当者名	村上誠,山里盛文
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LAW103

授業の概要と到達目標

この講義では法、とくに私法といわれる民法の基礎を勉強します。現代社会の様々な紛争解決の手段として、法及び司法とその代替的紛争処理機関の役割は増大しています。長い歴史と伝統を持つ法律と裁判の思考様式は、皆さんに様々な示唆や新鮮な視点を与えてくれるに違いありません。春学期は日常生活で出会う身近な法律問題について扱います。法律学は二名の教員が担当しますので、履修する場合にはどちらか一方の講義を選択してください。本科目は、社会分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目です。

授業の方法

一部の授業回でアクティブ・ラーニング（反転学習等）の時間を設ける。具体的な方法は担当教員の指示による。

予習と復習

予習（90分）と復習（90分）の課題は、適宜授業のなかで指示するのでそれに従うこと。＜準備学修(予習･復習)＞予習は講義内容に関連するニュースや情報を事前に確認すること。復習はノートや配布物を再度見直し、課題がある場合にはそれに取り組むこと。

テキスト等

担当教員の指示による。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
レポート等の授業課題			70%	平常点やまとめ課題			30%

「レポート等の授業課題」「平常点やまとめ課題」の詳細については担当教員が指示します。課題の全般的な評価と所見については授業時またはグーグルクラスルームにおいて提示します。

授業計画

①法律学への招待
②私法の基礎
③私法の解釈
④民法について
⑤人について（その１　自然人と法人）
⑥人について（その２　権利能力、意思能力、行為能力）
⑦法律行為（その１　問題のある意思表示（心裡留保・虚偽表示等））
⑧法律行為（その２　問題のある意思表示（錯誤等））
⑨法律行為（その３　代理、取消と無効）
⑩契約（その１　主要な契約の特徴）
⑪契約（その２　契約の成立と効力、消滅）
⑫物権変動
⑬担保物権
⑭利息制限法、クレジット契約と保証債務、連帯保証
⑮まとめと復習

科目名	法律学(社会と法)
英文科目名	Jurisprudence (Life and Society)
担当者名	村上誠,山里盛文
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LAW104

授業の概要と到達目標	この講義では、皆さんが社会人になってから関係することの多い法律について勉強します。具体的には、婚姻を含む親族に関する法制度に始まり、相続の問題、監督義務者（親権者等）の不法行為責任について学び、その後、刑法、消費者保護、労働に関係する法制度、会社法が規定する株式会社制度について、裁判例やその時々のニュース等も参考にしながら講義します。法律学は二名の教員が担当しますので、履修する場合にはどちらか一方の講義を選択してください。本科目は、社会分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目です。
授業の方法	一部の授業回でアクティブ・ラーニング（反転学習等）の時間を設ける。具体的な方法は担当教員の指示による。
予習と復習	予習（90分）と復習（90分）の課題は、適宜授業のなかで指示するのでそれに従うこと。＜準備学修(予習･復習)＞予習は講義内容に関連するニュースや情報を事前に確認すること。復習はノートや配布物を再度見直し、課題がある場合にはそれに取り組むこと。
テキスト等	担当教員の指示による。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	レポート等の授業課題			70%	平常点やまとめ課題			30%
	「レポート等の授業課題」「平常点やまとめ課題」の詳細については担当教員が指示します。課題の全般的な評価と所見については授業時またはグーグルクラスルームにおいて提示します。							

授業計画
①社会人になってから関係する法律の紹介
②親族（親族の範囲・扶養義務等）
③親族（婚姻・離婚）
④相続（法定相続・遺言相続）
⑤相続（遺留分等）
⑥監督義務者（親権者等）の不法行為責任
⑦特殊な不法行為（使用者責任等）
⑧刑法（構成要件該当性）
⑨刑法（違法性・有責性）
⑩消費者保護のための様々な法律
⑪消費者保護の具体例
⑫労働に関係する法制度
⑬会社法（株式会社制度の基本）
⑭会社法（株主の権利等）
⑮まとめと復習

科目名	政治学
英文科目名	Political Science
担当者名	五野井郁夫
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	POSC101

授業の概要と到達目標	本講義では、古代から現代まで，政治はどう変わってきて今後どの方向に向かうのか，そして政治学はこの歴史と現状をどう捉えてきたのかを考える。政治学の基本概念や日本の政治の変遷を中心に講義を行う。社会分野の視点から広く教養を身につけるための科目である。
授業の方法	講義形式で行い、アクティブラーニングとして理解度把握のために講義内での小テストも実施する。映像資料も積極的に活用する。ゲスト講師も適宜招聘予定である。授業計画は変更される場合もある。オンデマンド講義等も適宜活用する。
予習と復習	教科書等での予習(90分)にくわえて，講義では適宜参考文献を提示するので，各自で読み，講義の復習(90分)に充てること。「Ｔ－Ｎａｖｉ」にて予習・復習用の文献やレポート課題等を配信する場合もある。
テキスト等	犬塚他『政治学入門 -- 歴史と思想から学ぶ』 有斐閣、川出良枝・谷口将紀編『政治学 第2版』東京大学出版会、その他参考文献等は随時紹介する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	授業内試験で評価を行う。講義内では小テスト等も実施し，適宜評価に加点する。ただしコロナ禍が続く場合は、毎回の講義でのレポートと期末レポートを評価へと振り替える。							

授業計画
①イントロダクション：政治とは何か
②権力と自由
③国家・集団・個人
④法と政治
⑤政治と非政治
⑥デモクラシーの思想と来歴、そしてその敵たち
⑦リベラル・デモクラシーの発展
⑧福祉国家の諸問題
⑨非民主的体制
⑩日本の政党政治
⑪政治家と官僚
⑫政治参加と選挙
⑬ジェンダーと政治
⑭メディアと政治
⑮まとめと復習：政治のこれまでとこれから

科目名	国際政治
英文科目名	International Politics
担当者名	五野井郁夫
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	POSC102

授業の概要と到達目標	本講義では，国際政治学という学問的視座から，政治を体系的に学ぶことを目的とする。国際政治学の理論と歴史，そして基本的な諸概念を，現実の国際政治の動態とも関連させながら説明してゆく。社会分野の視点から広く教養を身につけるための科目である。
授業の方法	講義形式で行い、アクティブラーニングとして理解度把握のために講義内での小テストも実施する。映像資料も積極的に活用する。ゲスト講師も適宜招聘予定である。授業計画は変更される場合もある。オンデマンド講義等も適宜活用する。
予習と復習	教科書等での予習(90分)にくわえて，講義では適宜参考文献を提示するので，各自で読み，講義の復習(90分)に充てること。「Ｔ－Ｎａｖｉ」にて予習・復習用の文献やレポート課題等を配信する場合もある。
テキスト等	村田 晃嗣 ，君塚 直隆他編『国際政治学をつかむ 第3版』有斐閣、その他参考文等は開講時に開示する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	授業内試験で評価を行う。講義内では小テスト等も実施し，適宜評価に加点する。ただしコロナ禍が続く場合は、毎回の講義でのレポートと期末レポートを評価へと振り替える。							

授業計画	
	①イントロダクション：国際政治とは何か
	②世界の中の日本
	③国際秩序と正義
	④主権と国際制度
	⑤古典的安全保障とその変容
	⑥冷戦期以降の安全保障
	⑦人間の安全保障・人間開発
	⑧貧困と飢餓
	⑨グローバリゼーション
	⑩国際政治経済
	⑪地域主義、ナショナリズム
	⑫地球環境問題と人新世
	⑬ジェンダーと国際政治
	⑭情報と国際政治
	⑮まとめと復習：国際政治のこれまでとこれから

科目名	数理科学 基礎数学(代数・幾何)
英文科目名	mathematical sciences Fundamental Mathematics(Algebra&Geomentry)
担当者名	竹内淨
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MATH101

授業の概要と到達目標	「数理科学」は、自然分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。本講義の目標は、データサイエンスを数理的に理解する上で必要な基礎知識を習得することである。講義内容は、集合、指数関数、対数関数、微分、積分、線形代数学の基礎とデータサイエンスにおけるこれらの応用例である。企業や自治体での実務経験を活かして講義を行う。データサイエンスは、原理を数理的に深く理解できないとしてもプログラミングなどを通して活用することは可能である。数学的な裏付けを知りたい学生には、本講義の履修を推奨する。講義の難易度は「統計学」よりも高いため、予習復習を意欲的に行って欲しい。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして一部の授業回で実習(問題演習)を行う。
予習と復習	予習(90分)　授業計画に示したテーマについて事前に確認すること。復習(90分)　講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	教場にて資料を配布する。〈参考文献〉数理･データサイエンス･AI教育強化拠点コンソーシアム『リテラシーレベル教材4-1統計および数理基礎』http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

授業内試験について全般的な評価と所見を提示する。授業内試験は持込不可。

授業計画
①集合
②指数関数
③対数関数
④数理と社会
⑤指数関数と対数関数の応用
⑥微分･導関数
⑦微分の応用
⑧積分とその応用
⑨順列･組合せ
⑩確率
⑪確率分布
⑫ベクトルと行列
⑬線形代数の応用
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	統計学 基礎数学(確率・統計)
英文科目名	statistics Fundamental Mathematics (Probability Theory & Statistics)
担当者名	竹内淨
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MATH102

授業の概要と到達目標	「統計学」は、自然分野の視点から教養を身につけるための科目である。本講義の目標は、統計学に関する基礎知識を習得することである。企業や自治体での実務経験を活かして講義を行う。統計学とは、データの特徴を理解するための学問であり、記述統計と推測統計から構成される。記述統計では、情報が揃っているデータの特徴を1つの数値に代表させたり、数値の現れ方を可視化して示したりする。一方、推測統計では、調査や観測で全ての情報を得ることができないようなデータにおいて、得られているいくつかの数値(標本)の現れ方を正規分布などで想定することによって、対象とする全ての数値の集合(母集団)の傾向を推測、検討する。統計学は、定量的に情報を解析し、その特徴を理解する上で重要なものである。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして一部の授業回で実習(問題演習)を行う。
予習と復習	予習(90分)　授業計画に示したテーマについて事前に確認すること。復習(90分)　講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	教場にて資料を配布する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

授業内試験について全般的な評価と所見を提示する。授業内試験は持込不可。

授業計画
①度数分布表とヒストグラム、平均値の役割と捉え方
②分散と標準偏差、標準偏差の評価
③正規分布、正規分布による予測
④統計と社会
⑤仮説検定の考え方、区間推定
⑥母集団と統計的推定、母分散と母標準偏差
⑦標本平均の考え方、標本平均の利用
⑧母平均の区間推定、カイ二乗分布
⑨母分散の推定、カイ二乗分布に比例する統計量
⑩母平均が未知の場合の区間推定、t分布
⑪t分布による仮説検定と区間推定
⑫統計学および確率論の補足説明
⑬仮説検定と区間推定の実用例
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	地球科学
英文科目名	Introduction to Earth Science
担当者名	鈴木岳人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SCED101

授業の概要と到達目標	我々が住んでいる「地球」を題材に、自然科学の教養・科学史的教養を深めることがまずは大きな目標である。地球の内部構造、地震、プレートテクトニクス、地形の形成、火山、海洋、気象、オーロラなどを取り上げる。加えて、その背後において統一的な論理的枠組みが構築されている過程にも触れてもらいたい。地球は当然身近なものであり、人類が自然科学というものを築き上げるのに格好の題材であった。そして人類は実際に理路整然とした理論体系を作り上げたのである。目の前の現象を題材にして論理的思考により新たな世界を開く、という過程と、実社会で向き合う問題の解決とのアナロジーを感じてもらいたい。自然科学に関する知識・思考は生活の上で必要ないように感じるかもしれないが、決してそうではないのである。自然分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。
授業の方法	基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を行う。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、簡単な課題提出やディスカッション、授業内試験によって講義内容の理解を確認する。
予習と復習	予習(90 分）授業で扱う項目について調べておくこと。復習(90 分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	参考書として西村祐二郎他『基礎地球科学　第３版』（朝倉書店）酒井治孝『地球学入門』（東海教育研究所）J. E. アンドリューズ他『地球環境化学入門』（丸善出版）を挙げる。その他は適宜紹介する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	67%	レポート	0%	平常点	33%
				0%				0%
	授業回数の3分の2以上の出席（課題提出）を評価の前提条件とする。試験答案及び毎回課す予定の簡易な課題の解答を2:1の割合で評価する。なお、提出された答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①イントロダクション（地球概観）
②地球の特徴、地球の構造、地球の歴史
③固体地球－１（地震－１：地震の発生メカニズム）
④固体地球－２（地震－２：地震の統計則、地震波の伝播、マントル・核、自由振動）
⑤固体地球－３（大陸移動説、プレートテクトニクス、付加体）
⑥固体地球－４（地形形成・特に日本列島）
⑦固体地球－５（地殻の化学的性質）
⑧固体地球－６（火山）
⑨海洋－１（海洋の基礎、海水の物理・化学特性、海面波、潮汐）
⑩海洋－２（海流、海水の大循環、エル・ニーニョ、ラ・ニーニャ）
⑪大気－１（気象現象）
⑫大気－２（各地域の気候、気候変動）
⑬プラズマ圏・生命圏（電場・磁場・オーロラ、生命史）
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	宇宙科学
英文科目名	Introduction to Astrophysics
担当者名	鈴木岳人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SCED102

授業の概要と到達目標	我々が存在している「宇宙」を題材に、自然科学の教養・科学史的教養を深めることがまずは大きな目標である。具体的には太陽系・恒星・星座・銀河系・相対論・ブラックホール・重力波などをとり上げる。我々の生活を支える太陽、夜空の星、あるいははるか彼方の特殊な天体に関するものまで、聞いたことはあっても詳しくは知らない事象・現象が多数出て来ると思うが、それらをしっかりと理解するという経験をしてもらえれば幸いである。加えて、その背後において統一的な論理的枠組みが構築されている過程にも触れてもらいたい。宇宙というものを題材に、人類はいかにして自然科学というものを築き上げてきたのか、そもそも自然科学とは何なのか、その一端に触れて欲しい。得られた自然に関する知識を題材にして論理的思考により新たな世界を開く、という自然科学がなしてきた過程は、まさに実社会で行われていることと同じなのである。自然科学に関する知識・思考は生活の上で必要ないように感じるかもしれないが、決してそうではないのである。自然分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。
授業の方法	基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を行う。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、簡単な課題提出やディスカッション、授業内試験によって講義内容の理解を確認する。
予習と復習	予習(90 分）授業で扱う項目について調べておくこと。復習(90 分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	参考書として尾崎洋二『宇宙科学入門』（東京大学出版会）Newton別冊『相対性理論がよくわかる』（ニュートンプレス）を挙げる。その他は適宜紹介する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	67%	レポート	0%	平常点	33%
				0%				0%
	授業回数の3分の2以上の出席（課題提出）を評価の前提条件とする。試験答案及び毎回課す予定の簡易な課題の解答を2:1の割合で評価する。なお、提出された答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画	①イントロダクション（宇宙概観）
	②太陽－１（太陽の大きさ・温度など各種データ）
	③太陽－２（太陽系：惑星・小惑星・彗星）
	④太陽－３（電場・磁場・プラズマ・オーロラ）
	⑤恒星－１（星座とその歴史）
	⑥恒星－２（恒星が光る仕組み、明るさ、対数スケール）
	⑦恒星－３（星の一生、ヘルツシュプルング・ラッセル（HR）図）
	⑧銀河・銀河系・星団・星雲・系外惑星
	⑨相対論－１（特殊相対論：ローレンツ変換）
	⑩相対論－２（一般相対論：双子のパラドックス）
	⑪相対論－３（エネルギーの変換、重力波）
	⑫ブラックホール・クエー サー・γ線バースト
	⑬宇宙の進化（インフレーション、ビッグバン、力の統一）
	⑭授業内試験と解説
	⑮まとめと総復習

科目名	生命科学
英文科目名	Life Science
担当者名	清水隆
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SCED103

授業の概要と到達目標	「生命科学」は自然分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目です。現代社会を生きる上で、生命科学の知見と無縁でいることはできません。本講義では、生命科学の基礎知識や考え方を身につけ、日常的に接する生命科学に関するニュースや新知見を理解し、自らの意見を持つ力を養います。そのために、まず基本用語に親しみ、その意味を理解します。また、物事を科学的に判断することの意味を考えます。さらに、メディアで報道される様々な科学ニュースを読み、意見を述べる課題に取り組みます。
授業の方法	講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、講義冒頭に、前回の内容に関する用語チェックを実施する。また、最近の科学ニュースを読み、グループディスカッションをして意見をまとめる提出課題を課す。
予習と復習	予習（90分）科学ニュースに触れ、気になるトピックスを選び、その内容をまとめておく。復習（90分）次回の用語チェックに向けて基本用語のリストを作成し、意味をまとめる。
テキスト等	【テキスト】やさしい基礎生物学 第３版（南雲保／編著　羊土社　2025年）

評価方法							
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	80%	平常点	20%
			0%				0%
毎回講義の冒頭で基本用語に関する用語チェックを行う。最近の科学ニュースを読み、意見をまとめる提出課題を課す。期間内にレポートが４回課される。レポートについては、全般的な評価と所見をT-Naviにて配信する。							

授業計画
①ガイダンス　科学的に考えるとは
②生物学の歴史となりたち　分類　遺伝
③生命体を構成する物質　細胞の構造
④遺伝子としてのDNA　転写と翻訳
⑤呼吸　ATPの産出
⑥光合成　代謝のネットワーク
⑦授業内試験と解説
⑧細胞周期とDNA修復
⑨生殖と発生
⑩生殖医療の現在
⑪免疫と感染症
⑫生物多様性はなぜ重要か
⑬遺伝子組換え技術と社会
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと復習

科目名	物質科学
英文科目名	Material Science
担当者名	竹内淨
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SCED104

授業の概要と到達目標	「物質科学」は、自然分野の視点から教養を身につけるための科目である。本講義の目標は、物質の性質や化学の基礎知識を習得することである。企業や自治体での実務経験を活かして講義を行う。物質は、工業、医療、農業、環境など、様々な分野で我々の生活に関わっている。物質量(モル)、濃度のような化学量論、化学反応などの基礎的概念をはじめ、物質が関わる現象の理解、材料や素材の開発、科学技術への応用など、身のまわりにある物質の化学的な原理を理解しながら、物質に関する教養を深めて欲しい。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして一部の授業回で実習(問題演習)を行う。
予習と復習	予習(90分)　授業計画に示したテーマについて事前に確認すること。復習(90分)　講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	教場にて資料を配布する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

授業内試験について全般的な評価と所見を提示する。授業内試験は持込不可。

授業計画
①物質の成り立ち
②物質量
③物質の分類
④食生活と物質
⑤水の科学
⑥気体の性質
⑦物質と社会
⑧金属の性質
⑨微生物と物質
⑩衣類の科学
⑪化学物質と環境問題
⑫毒物と毒性
⑬エネルギーと物質
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	心の科学
英文科目名	Science of mind
担当者名	小平健太
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SCED105

授業の概要と到達目標	【目標】私たちの「心」のあり方をめぐり、それに対する理論と思考法をさまざまな思想家や科学者、研究者から学び、「心」や「精神」をめぐる科学史の基礎を知ることで、最終的に自ら主体的に考えをまとめ、説明できるようになることが本科目の目標です。【概要】日常生活の中で、笑ったり、喜んだり、ときに泣いたり、怒ったり…実は私たちの心の働きは不思議でいっぱいです。喜怒哀楽を経験するとき私たちの心はどんな働きをしているのでしょう？　そもそも、「心」は私たちの身体と違って実体がなく、実際に目に見ることができません。そんな「心」について、科学の世界では、どんな説明が与えられているのでしょう？「心」を扱う学問は、自然科学の他にも哲学、心理学等、様々です。本講義は、とくに自然分野の視点から幅広く教養を身に付けるための科目であり、心や精神のはたらきの特徴を明らかにしてきた研究の歴史を丁寧に紐解き、解説を行います。なお、本科目は単元の必要性に応じて専門の外部講師を招聘し、授業を行うことがあります。
授業の方法	本科目は配布資料、スライドを参照しつつ、適宜板書を行う講義形式の授業ですが、各回において教員と学生の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間も設定し、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を行ってもらいます。
予習と復習	授業中に各主題に即した参考文献を適宜挙げるので、その都度該当箇所を読んで授業に出席すること（予習：90分）。また、毎回の授業において配布するスライド資料・板書した内容を復習し、「課題シート」に従ってまとめを作成すること（復習90分）。
テキスト等	基本的に毎授業、資料とレジュメを配布します。授業の内容に直接関連する一次文献は、その都度授業中に指示します。参考図書：菅野理樹夫『見るちから―古代のものの見方から現代の知覚論まで―増補２版』北樹出版（2012）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	60%
			0%				0%

平常点とは単なる「出席点」ではありません。毎回の授業では、終了時にリアクションペーパーを提出してもらいます。コメントの内容はその水準に応じて、成績に加点されます。総合成績の60点以上を合格点とし、全体の1/3以上の欠席は、成績評価の対象外とします。

授業計画
①オリエンテーション：授業の内容・進め方
②（１）心の科学の歴史―古代ギリシア時代の魂についての考え方
③（２）心の科学の歴史―古代ローマ時代医師ガレノスの考え方
④（３）心の科学の歴史―近世までの脳と神経と身体（１）精神の座の変遷
⑤（４）心の科学の歴史―デカルトの精神の座
⑥（１）「美しさ」と認知科学：人はなぜ「美しさ」がわかるのか
⑦（２）「美しさ」と社会心理学：「流行現象」における集団的心理
⑧（３）「エモい」ってなんだろう？：私たちの感性の働きと現代
⑨心のはたらきと脳の機能研究（１）脳の全体の構造と機能　大脳を中心に
⑩心のはたらきと脳の機能研究（２）脳の全体の構造と機能　小脳、中脳などを中心に
⑪心のはたらきと脳の機能研究（３）脳内の神経細胞　ニューロンとシナプス
⑫期末レポートの概要・作成要項の説明
⑬ゲシュタルト心理学の小さな歴史・観察と実験
⑭様々な知覚の恒常性：色彩・形・大きさ・運動
⑮まとめと総復習

科目名	コンピュータ概論Ⅰ
英文科目名	How Computers Work Ⅰ
担当者名	吉田高志、古屋俊彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	COM101

授業の概要と到達目標	本科目では情報社会における基本的な考え方を修得するため、特にコンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みとその働きに関する基礎的な知識や技術を学ぶ。コンピュータにおいて情報がどのように扱われているのかを体系的に学ぶことで、今後の情報化社会の進展にも対応できるような基盤を得ることを目指す。具体的には、情報のデジタル化や、ハードウェアの基本要素である論理回路の基礎、ソフトウェアの基本要素としてアルゴリズムの基礎等の項目を取り上げる。知識や技術を実際に応用可能なものとして定着させるために、容易に扱えるプログラミング環境を用いた実習等を行う。本科目は「コンピュータ概論Ⅱ」の前提科目となっており、合わせて受講することで、コンピュータについてより体系的な理解が得られる構成となっている。また、パソコンの操作が必要なため、「基礎コンピュータⅠ」は受講済みであることが望ましい。■学習到達目標：本授業で扱うコンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みとその働きに関する基礎的な知識や技術について説明できる。
授業の方法	この授業では、講義と実習を行う。実習は、講義で得た知識を元に、与えられた課題を自ら解決する体験（アクティブ・ラーニング）を通して、より理解を深めることを目的とする。
予習と復習	予習（90分）事前に授業の予定表から内容を予習しておくことが望ましい。復習（90分）授業で取り上げられた実習課題を授業終了後理解できるまで何回も繰り返して実習練習を行うこと。
テキスト等	【参考資料】坂村 健『痛快！コンピュータ学』（集英社）魚田勝臣他『コンピュータ概論 - 情報システム入門』（共立出版）他、授業内で紹介する。

定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	20%	平常点	10%
			0%				0%

【注意】単位取得には、毎回課題を全て提出し、かつ出席率80%以上が必要である。また授業内テストの配点が高いので注意すること。【レポート（実習課題）に対するフィードバック】講義中に行う.

授業計画
①情報理論
②情報の「コード化」
③情報の原子「ビット」
④10進数と2進数
⑤デジタルとアナログ
⑥音のデジタル化
⑦画像のデジタル化
⑧フォン・ノイマン型コンピュータ
⑨ブール代数と足し算回路
⑩簡単なプログラミング（アルゴリズムの基本）
⑪簡単なプログラミング（プログラミング入門）
⑫簡単なプログラミング（アルゴリズムからプログラムへ）
⑬簡単なプログラミング（課題の作成）
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと復習

科目名	コンピュータ概論Ⅱ
英文科目名	How Computers Work Ⅱ
担当者名	吉田高志、古屋俊彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	COM102

授業の概要と到達目標	本科目では情報社会における基本的な考え方を修得するため、特にコンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みとその働きに関する基礎的な知識や技術を学ぶ。コンピュータにおいて情報がどのように扱われているのかを体系的に学ぶことで、今後の情報化社会の進展にも対応できるような基盤を得ることを目指す。具体的には、「コンピュータ概論Ⅰ」での学習内容を前提に、アルゴリズム、半導体・トランジスタ・IC、オペレーティングシステム、ネットワーク、セキュリティ、プログラミングなどの項目を取り上げる。本科目を履修するには、「コンピュータ概論Ⅰ」の単位を取得していることが必要である。■学習到達目標：本授業で扱うコンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みとその働きに関する基礎的な知識や技術について説明できるようになる。
授業の方法	この授業では、講義と実習を行う。実習は、講義で得た知識を元に、与えられた課題を自ら解決する体験（アクティブ・ラーニング）を通して、より理解を深めることを目的とする。
予習と復習	予習（90分）事前に授業計画表を元に予習しておくことが望ましい。復習（90分）授業で取り上げられた実習課題を授業終了後理解できるまで何回も繰り返して実習練習を行うこと。
テキスト等	【参考資料】坂村 健『痛快！コンピュータ学』（集英社）魚田勝臣他『コンピュータ概論 - 情報システム入門』（共立出版）他、授業内で紹介する。

定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	20%	平常点	10%
			0%				0%

【注意】単位取得には、毎回課題を全て提出し、かつ出席率80%以上が必要である。また授業内テストの配点が高いので注意すること。【レポート（実習課題）に対するフィードバック】講義中に行う。

授業計画
①アルゴリズム
②クイックソート
③半導体・トランジスタ・IC
④Operating System
⑤GUI・CUI
⑥メモリの管理
⑦情報ネットワーク
⑧TCP／IPとWWW
⑨セキュリティ
⑩簡単なプログラミング（変数）
⑪簡単なプログラミング（配列）
⑫簡単なプログラミング（合計値を求めるアルゴリズム）
⑬簡単なプログラミング（最大値・最小値を求めるアルゴリズム）
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと復習

科目名	情報リテラシー
英文科目名	Information Literacy
担当者名	永戸哲也,青淵正幸
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	INF0101

授業の概要と到達目標	この科目は情報社会についての基本的な考え方と情報リテラシーを修得する科目である。＜授業目標＞現代の情報社会を生きていくための基礎的な知識を身に着ける。具体的には以下の4項目を様々な視点から考えていく。(1)情報とは何か､情報化とはどのような現象なのかを整理･理解する。(2)現代の情報技術の特徴を理解する。(3)情報化によって生じている問題・負の影響を理解する。(4)情報社会におけるリスクと倫理について考える。＜授業概要＞情報技術革新は人間社会に大きな影響を与えている。それは個人の日常生活から企業の経営活動、さらには社会全体にまで及ぶものである。情報化の波はマクロレベルの環境変化と捉えることができ。われわれは好むと好まざるとにかかわらず情報化への対応を迫られている。本科目では現代の情報技術の特徴を捉え、技術革新による社会の変容とそこから生じる社会的問題について考察する。これらはすべての学部において現代的問題を考察するときの基礎となると同時に他の情報科目において技術的課題を扱う前提となる知識である。
授業の方法	基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、自律的な学習を促進するため、小テストやリアクション・ペーパーによる講義内容の理解確認を行う。アクティブ・ラーニングとして一部の授業で反転学習を実施する。
予習と復習	（予習90分）ICT(情報通信技術)に関連したニュースなどに関心を持ち、チェックする（復習90分）授業内容を十分理解するために復習に取り組む。例えば、ICT用語の整理、参考資料や参考文献の読み込み、授業で気になったことや疑問に思ったことを調べるなど
テキスト等	テキストは使用しない。Google-Classroomで授業用レジュメ・参考資料等を事前に配布する。その他、参考文献を授業中に紹介する。

評価方法								
	定期試験	35%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	45%
				0%				0%
	定期試験が実施できない場合は授業内試験とする。6回以上欠席した場合にはY3評価とする。授業内、Google-Classroomなどで各課題についての全般的な評価と所見を開示する。							

授業計画
①ガイダンス
②情報とは何か?
③情報技術革新の歴史
④現代の情報技術の特徴
⑤情報化とはどういうことか?
⑥コミュニケーションとメディアの諸相
⑦人工知能(AI)の現状と課題
⑧情報化とライフデザイン
⑨電子商取引とデジタル経済
⑩情報社会の諸問題1：情報セキュリティとプライバシー
⑪情報社会の諸問題2：知的財産権
⑫情報社会の諸問題3：意思決定と情報の信頼性
⑬情報社会の諸問題4：デジタルデバイド
⑭情報社会の諸問題5：情報化による心身への影響
⑮まとめと総復習

科目名	データサイエンス入門 情報社会論
英文科目名	Introduction to Data Science Information Technology and Society
担当者名	永戸哲也,竹内淨
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	INF0102

授業の概要と到達目標	この科目はデータサイエンスの基礎的な知識と考え方を習得するための科目である。＜授業目標＞データを適切に活用するために必要な基礎的な知識を身につける。具体的には以下の3項目を目標として学ぶ。(1)社会におけるデータやAIの活用を理解する。(2)データリテラシーを身につける。(3)データやAIの活用において留意すべき事項を理解する。＜授業概要＞世の中にあふれる多くのデータは収集するだけでは役に立たないが、データを意味のある情報として活用することで、問題解決の糸口をみつけたり、新たな価値を発見したりすることが可能となる。本科目では、詳細な方法を学ぶのではなく、データサイエンスの概要、利用価値や可能性、データを扱うための心得などの基礎的な知識について、テキストを用いて学んでいく。社会において常識や教養となりつつあるデータサイエンスについて、多くの学生が学ぶことを期待している。
授業の方法	基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を行う。また、自律的な学習を促進するため、小テストやリアクション・ペーパーによる講義内容の理解確認を行う。アクティブ・ラーニングとして一部の授業回で反転学習を実施する。
予習と復習	（予習90分）各回の講義の該当部分についてテキストを通読する。（復習90分）講義内容を十分理解するために復習に取り組む。
テキスト等	テキストは指定しない。参考となる文献を授業内で適宜紹介する。Google Classroomで授業資料を配信する。

評価方法	定期試験	35%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	45%
				0%				0%
	定期試験が実施できない場合は授業内試験とする。6回以上欠席した場合にはY3評価とする。授業内、Google-Classroomなどで各課題についての全般的な評価と所見を開示する							

授業計画	①ガイダンス：データサイエンスの学び
	②情報をめぐる世の中の潮流
	③データの情報デザインと視覚化
	④社会で活用されるデータ
	⑤データ分析の基礎
	⑥データの収集とサンプリング
	⑦データの分析方法
	⑧さまざまなデータ分析
	⑨AIの発展の歴史と現在
	⑩機械学習の基礎
	⑪ディープラーニングとその利用
	⑫AI・データサイエンスの社会利用
	⑬AI・データサイエンスと情報セキュリティ
	⑭秩序あるデータの重要性
	⑮まとめと総復習

科目名	応用表計算(関数)
英文科目名	Advanced Spread Sheet(Function)
担当者名	【春学期】降簱徹馬,古屋俊彦,吉田高志【秋学期】吉田高志
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	COM201

授業の概要と到達目標	表計算ソフトは現代のビジネスシーンにおいて，利用頻度・重要性ともに高く，その習熟度を高めることは，将来ビジネス界で活躍する皆さんにとって大きな意味をもつ．本科目は表計算への理解とスキルに磨きをかけることを目的とした講義・演習である．Excelの実習を通し，数あるワークシート関数の中でも利用頻度の高い関数・機能を中心にして，どのように活用されるかを理解し，自らが業務で必要となるデータ処理能力を培うことを目的とする．本年度は基礎コンピュータⅠ／ⅡにおいてExcelの基礎を習得していることを前提とし，データリテラシーの内容を大幅に組み込んでいる．なお，本科目は・情報社会についての基本的な考え方と情報リテラシーを修得する科目の一つである．
授業の方法	自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するために，実習を取り入れ，毎回の課題による内容の理解確認を行う．
予習と復習	内容をしっかり理解するためには自主的な学習が必要であるので，配布テキストに基づき，自宅のPCで，あるいは，開放されているコンピュータ室を授業時間外に積極的に利用して予習（90分）・復習（90分）を行うこと．
テキスト等	オリジナルのテキストを配布する．

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
				0%				0%
	（1）出席率80%以上であること，（2）レポートをすべて提出していること，のいずれかでも満たさない項目があれば単位認定しない．レポートについては全般的な評価と所見を提示することでフィードバックを行う．							

授業計画	①Excelの基礎
	②相対参照と絶対参照
	③グラフによるデータの可視化
	④データの入手と可視化
	⑤データの抽出
	⑥集計機能
	⑦条件付き集計関数
	⑧検索関数
	⑨文字列操作
	⑩基本統計量とデータのばらつき
	⑪散布図と相関関係
	⑫回帰直線
	⑬回帰分析
	⑭時系列分析
	⑮まとめと総復習（総合課題）

科目名	応用表計算(マクロ)
英文科目名	Advanced Spread Sheet(Macro Program)
担当者名	降簱徹馬,古屋俊彦,吉田高志
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	COM202

授業の概要と到達目標	本講義は主に2年生を対象とし，プログラミングの基礎を学びながら実務において役に立つワークシートの一連の操作手順を記述できるようにすることを目的としている．そのためにプログラム言語VBA（Visual Basic for Applications）を取り上げる．VBAは簡易言語と捉えられる向きもあるが，Officeアプリケーション上でWindowsアプリケーションを開発でき，基本情報技術者試験の選択言語の一つとして採用されている立派なプログラム言語である．Excelさえあれば学修できるので，特殊な環境を必要とせず，自宅でも容易に学修を行うことができる．本講義ではVBAとプログラムを記述するためのアルゴリズムの基礎を実習を通じて学修する．なお，アルゴリズムの基礎に関しては，他の科目での取り扱いもあるため，より実践的な内容にテキストを書き換える場合がある．本科目は情報社会についての基本的な考え方と情報リテラシーを修得する科目の一つである．
授業の方法	自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するために，実習を取り入れ，毎回の課題による内容の理解確認を行う．
予習と復習	オリジナルの配布テキストに基づき，予習（90分）・復習（90分）を講義時間外に行うこと．
テキスト等	オリジナルのテキストを配布する．

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
				0%				0%
	（1）出席率80%以上であること，（2）レポートをすべて提出していること，のいずれかでも満たさない項目があれば単位認定しない．レポートについては，全般的な評価と所見を提示することでフィードバックを行う．授業内試験は最終課題をさす．							

授業計画
①マクロの記録と実行
②VBAの基本
③VBAプログラムにおける変数
④選択処理
⑤繰り返し処理(1)　For～Nextステートメント
⑥繰り返し処理(2)　Do～Loopステートメント
⑦配列
⑧総合課題
⑨アルゴリズムとは？フローチャートの書き方
⑩再帰呼び出し
⑪ソート（バブルソートとクィックソート）
⑫探索・キューとスタックおよび文字列処理
⑬最適化(1)回帰係数を求める
⑭最適化(2)主成分得点を求める
⑮まとめと総復習

科目名	基礎プログラミングⅠ
英文科目名	Introduction to Computer Programming Ⅰ
担当者名	【春学期】大録誠広,児島宏明【秋学期】児島宏明
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	COM203
授業の概要と到達目標	授業の概要本授業では企業活動に活かせるICTの知識とスキルを身につけることを目標として、プログラミングについて学習する。プログラミングとはコンピュータに指示するためのプログラムを作成する技術のことを指す。本授業では、プログラミング言語Pythonを用いてプログラミングの基本を学習する。また、本授業ではプログラミングの基本的な概念（変数や繰り返しなど）を理解し簡単なプログラムを作成できるようになることを目指す。また、授業の後半ではオブジェクト指向という考え方に触れる。学習内容として、基本的なPythonの使い方、繰り返しや条件分岐といった概念、クラスなどである。到達目標・プログラミングについて知る・簡単なプログラムが作成できるようになる・オブジェクト指向について知る担当教員の企業における実務経験を踏まえ、講義を行う。
授業の方法	本授業はアクティブラーニング形式で進める。従って、授業では事前に授業で扱うトピックについて教科書等で学習し、授業では学習内容に基づいた演習課題に取り組む反転授業で行う。コンピュータを用いて実際にプログラミングしながら学習するハンズオン形式で行う。
予習と復習	予習(90分):各授業で扱うトピックについて、事前に教科書を読み理解し授業の準備をする復習(90分):各授業で扱うトピックについて理解度確認課題を提示する。各自で課題に取り組み次の授業時に提出する。
テキスト等	教科書: できるイラストで学ぶ　プログラミング1年目からのPython, 齋藤大輔（著), 坂本一憲（著), できるシリーズ編集部（著）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%
	授業内課題			60%	0			0%
	単位の取得条件として全授業の2/3以上出席すること授業内課題・レポートへの取り組み状況で総合的に評価する							

授業計画
①オリエンテーション(プログラミングとは?)
②文字の表示と簡単な計算(簡単な構文、四則演算)
③変数(変数について)
④データ型・演算子(数字や文字の違い)
⑤複数の値を束ねる(リスト、タプル、辞書)
⑥複数の値を束ねる(集合型)
⑦条件分岐(単一条件, if)
⑧条件分岐(複数条件、if-else)
⑨繰り返し(特定の処理を繰り返す。for)
⑩繰り返し(条件によって繰り返す。while)
⑪関数(関数の基本)
⑫関数(引数、戻り値)
⑬クラス(クラスの基本)
⑭クラス(クラスの作成)
⑮まとめと総復習

科目名	基礎プログラミングⅡ 基礎プログラミングB
英文科目名	Introduction to Computer Programming Ⅱ Introduction to Computer Programming B
担当者名	大録誠広
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	COM204

授業の概要と到達目標	授業の概要本授業では企業活動に活かせるICTの知識とスキルを身につけることを目標として、プログラミングについて学習する。プログラミングとはコンピュータに指示するためのプログラムを作成する技術のことを指す。本授業では、基礎プログラミング１の授業を基にプログラミングについてさらに理解を深める。本授業ではプログラミング言語としてPythonを用いる。また、本授業では、ファイル入出力や例外処理といった高度な使用方法、代表的なアルゴリズムについて学習し、より実践的にプログラミングができるようにする。加えて、授業の後半では社会でどのようにプログラミングが活用されているか紹介する。到達目標・アルゴリズムについて理解する・複雑なプログラムを作成できるようになる・プログラミングの活用方法について知る担当教員の企業における実務経験を踏まえ、講義を行う。
授業の方法	本授業はアクティブラーニング形式で進める。従って、授業では事前に授業で扱うトピックについて教科書等で学習し、授業では学習内容に基づいた演習課題に取り組む反転授業で行う。コンピュータを用いて実際にプログラミングしながら学習するハンズオン形式で行う。
予習と復習	予習(90分):各授業で扱うトピックについて、事前に教科書を読み理解し授業の準備をする復習(90分):各授業で扱うトピックについて理解度確認課題を提示する。各自で課題に取り組み次の授業時に提出する。
テキスト等	教科書: できるイラストで学ぶ　プログラミング1年目からのPython, 齋藤大輔 (著), 坂本一憲 (著), できるシリーズ編集部 (著)参考書: アルゴリズム図鑑 絵で見てわかる26のアルゴリズム, 石田 保輝(著)、宮崎 修一(著), 翔泳社

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%
	授業内課題			60%				0%
	単位の取得条件として全授業の2/3以上出席すること授業内課題・レポートへの取り組み状況で総合的に評価する							

授業計画
①オリエンテーション(Pythonのおさらい)
②Pythonの基礎(モジュールとパッケージ)
③Pyhtonの基礎(例外処理)
④Pythonの基礎(ファイルの入出力)
⑤Pythonとアルゴリズム(再帰的な処理)
⑥Pythonとアルゴリズム(値を並び替える)
⑦Pythonとアルゴリズム(値を見つける)
⑧Pythonとアルゴリズム(スタックとキュー)
⑨Pythonとアルゴリズム(数学問題を解いてみる)
⑩Pythonの活用(標準ライブラリ、外部ライブラリ)
⑪Pythonの活用(簡単なデータ分析)
⑫Pythonの活用(グラフの描画)
⑬Pythonの活用(データ処理)
⑭Pythonの活用(IoT)
⑮まとめと総復習

科目名	データベースⅠ
英文科目名	Introduction of Database Ⅰ
担当者名	笹金光徳,鈴木里史
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	COM205

授業の概要と到達目標	3学部のディプロマポリシー達成のために共通となる情報社会におけるプラスアルファの教養を身に着けるための科目である。「データベース」は、現行ICT社会のいたるところで活躍している。データベースⅠ/Ⅱの共通の目標は、代表的データモデルに基づくリレーショナルデータベース管理システム(RDBMS)の基本概念、データ設計、データ操作、およびデータ管理の原理と方法を理解することである。本科目はその入門編であり、基本操作に加え、主キー、正規化に関連するITパスポート試験の問題が解けるレベルになっていることが、具体的目標となっている。RDBMSとしてAccessを用い、テーブル、クエリ、フォーム、レポート、マクロについて一通り基礎的な実習を行う。「データベースⅡ」の前提科目となっているので、その履修に必要なリレーショナルデータベースの基本概念を理解することを目指します。
授業の方法	理解を深めるために、講義と実習を並行して行う。毎回、質疑応答の時間を十分に設ける(アクティブ・ラーニング)。なお、オンライン授業期間であっても必ずAccessを動作できる環境で受講しなければならないことに注意されたい。
予習と復習	内容をしっかり理解するためには、毎週最低でも3時間程度の自発的学習（予習90分および復習・課題作成90分）が必要である。予習は教科書の次回範囲の精読を中心に行うこと。復習・課題作成は自宅または開放されているコンピュータ室で実習中心に行うこと。
テキスト等	実教出版編修部 編『60時間でエキスパート Access 2007/2010』(実教出版)

評価方法								
	定期試験	40%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%
	授業内で課す課題・レポート･実技試験			50%				0%
	次のすべての条件を満たさなければ単位認定しない。①出席率80%以上、②授業内期末試験を受験、④レポート･課題を全て提出。							

授業計画
①データベース(DB)とは
②DB発展の歴史(階層型、ネットワーク型)
③キーの種類(候補キー、主キー、複合キー)
④データの正規化･リレーションシップ
⑤Accessの基礎知識とオブジェクト
⑥データベースの構築の準備
⑦テーブルの操作
⑧選択クエリの操作
⑨アクションクエリとフォームの操作
⑩レポートとマクロの操作
⑪書籍管理システム1(システム概要)
⑫書籍管理システム2(テーブルの設計と構築)
⑬正規化と主キーに関する練習問題
⑭期末試験対策と実技試験
⑮期末試験対策とまとめ

科目名	データベースⅡ
英文科目名	Introduction of Database Ⅱ
担当者名	笹金光徳,鈴木里史
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	COM206

授業の概要と到達目標	3学部のディプロマポリシー達成のために共通となる情報社会におけるプラスアルファの教養を身に着けるための科目である。データベースIが基礎編であるのに対し、本科目は応用編なので、データベースIの単位修得を履修の前提としている。本科目の前半では「販売管理システム」という実用的なデータベースをAccessで取り扱うことにより、データベースの有効性を理解することを目標とする。さらに後半には、SQLの基礎を理解してデータベース言語SQL Ⅰ/Ⅱの基礎力を養うことを目標としている。このようにして、データベースⅠ/Ⅱを通して、ITパスポート試験のデータベース関連問題が解けるレベルになっていることが望まれる。自発的学習のため「コンピュータ室開放」を利用すること。
授業の方法	理解を深めるために、講義と実習を並行して行う。毎回、質疑応答の時間を十分に設ける(アクティブ・ラーニング）。なお、オンライン授業期間であっても必ずAccessを動作できる環境で受講しなければならないことに注意されたい。
予習と復習	内容をしっかり理解するためには、毎週最低でも3時間程度の自発的学習（予習90分および復習・課題作成90分）が必要である。予習は教科書の次回範囲の精読を中心に行うこと。復習・課題作成は自宅または開放されているコンピュータ室で実習中心に行うこと。
テキスト等	実教出版編修部 編『60時間でエキスパート Access 2007/2010』(実教出版)

評価方法								
	定期試験	40%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%
	授業内で課す課題・レポート･実技試験			50%				0%
	次のすべての条件を満たさなければ単位認定しない。①出席率80%以上、②授業内期末試験を受験、④レポート･課題を全て提出。							

授業計画	
	①データベースⅠの復習とガイダンス
	②販売管理システム1(システム概要)
	③販売管理システム2(テーブル･フォームの作成)
	④販売管理システム3(クエリ･レポートの作成)
	⑤販売管理システム4(メニューの作成)
	⑥販売管理システム5(メニューの作成)
	⑦販売管理システム6(発展課題)
	⑧SQLとは(データ定義言語とデータ操作言語)
	⑨Accessを用いたSQLの基本操作
	⑩SELECT文の基本的な操作
	⑪SELECT文の発展的な操作
	⑫SELECT文による集計操作
	⑬SQLに関する練習問題の解答と解説（実技試験対策）
	⑭期末試験対策と実習試験
	⑮期末試験対策とまとめ

科目名	データベース言語SQL データベース言語SQL Ⅰ
英文科目名	Programming by Database Language SQL Programming by Database Language SQL Ⅰ
担当者名	大録誠広
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	INF0305

授業の概要と到達目標	授業概要本授業では企業活動に活かせるICTの知識とスキルを身につけることを目標として、リレーショナルデータベースでデータを扱うために使用されるSQLを学習する。リレーショナルデータベースは多くのシステム（顧客管理やオンラインショッピングなど）で利用されている。こういったデータベースの構築にはSQLと呼ばれる専用言語が用いられることが一般的である。特に本授業ではSQLを用いてデータベースからデータを検索する方法を中心に学習する。学習内容としてはデータ検索の基本、データの集約、データの並び替えなどである。到達目標・リレーショナルデータベースについて知る・SQLについて理解する・SQLを用いて情報を検索できるようになる。担当教員の企業における実務経験を踏まえ、講義を行う。
授業の方法	本授業はアクティブラーニング形式で進める。従って、授業では事前に授業で扱うトピックについて教科書等で学習し、授業では学習内容に基づいた演習課題に取り組む反転授業で行う。また、本授業ではSQLを用いて実際にデータを検索するハンズオン形式の授業を行う。
予習と復習	予習(90分):各授業で扱うトピックについて、事前に教科書を読み理解し授業の準備をする復習(90分):各授業で扱うトピックについて理解度確認課題を提示する。各自で課題に取り組み次の授業時に提出する。
テキスト等	教科書: SQL 第2版 ゼロからはじめるデータベース操作 (プログラミング学習シリーズ), ミック(著), 翔泳社

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%
	授業内課題	60%						0%
	単位の取得条件として全授業の2/3以上出席すること授業内課題・レポートへの取り組み状況で総合的に評価する							

授業計画
①ガイダンス(データベースとは？SQLとは？)
②データの検索(SELECT)
③データの検索(重複の削除、WHERE句)
④算術演算子(加算、減算、乗算、除算)
⑤比較演算子(大小、等しい)
⑥論理演算子(論理和、論理積、論理否定)
⑦テーブルの集約(集約関数)
⑧テーブルの集約(合計、平均値)
⑨テーブルの集約(最大値、平均値)
⑩テーブルをグループに切り分ける
⑪集約結果と条件
⑫検索結果の並び替え
⑬ソートキー（複数指定、別名の使用）
⑭SQLデータベースの作成方法
⑮まとめと総復習

科目名	AI基礎 データベース言語SQLⅡ
英文科目名	Basiics of Artificial Intelligence Programming by Database Language SQL II
担当者名	大録誠広
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	INFO306

授業の概要と到達目標	授業概要本授業では企業活動に活かせるICTの知識とスキルを身につけることを目標として、リレーショナルデータベースでデータを扱うために使用されるSQLを学習する。リレーショナルデータベースは多くのシステム（顧客管理やオンラインショッピングなど）で利用されている。こういったデータベースの構築にはSQLと呼ばれる専用言語が用いられることが一般的である。特に本授業ではデータベース言語SQL1の授業を基に、SQLを用いてデータベースの構築方法を中心に学習する。データベースとしてはPostgreSQLを使用し、テーブルの作成、データの登録、更新、削除などについて学習する。到達目標・リレーショナルデータベースについて理解する・データベースが構築できるようになる・SQLを用いてテーブルの作成やデータの登録・更新などができるようになる。担当教員の企業における実務経験を踏まえ、講義を行う。
授業の方法	本授業はアクティブラーニング形式で進める。従って、授業では事前に授業で扱うトピックについて教科書等で学習し、授業では学習内容に基づいた演習課題に取り組む反転授業で行う。SQLを用いて実際にデータベースを作成する方法をハンズオン形式の授業を行う。
予習と復習	予習(90分):各授業で扱うトピックについて、事前に教科書を読み理解し授業の準備をする復習(90分):各授業で扱うトピックについて理解度確認課題を提示する。各自で課題に取り組み次の授業時に提出する。
テキスト等	教科書: SQL 第2版 ゼロからはじめるデータベース操作 (プログラミング学習シリーズ), ミック(著), 翔泳社

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%
	授業内課題	60%						0%
	単位の取得条件として全授業の2/3以上出席すること授業内課題・レポートへの取り組み状況で総合的に評価する							

授業計画	①イントロダクション(SQLについて)
	②データベースの作成とテーブルの作成
	③テーブルの削除と変更(DROP TABLE, ALTER TABLE)
	④データの登録(INSERT)
	⑤データの削除と更新(DELETE, UPDATE)
	⑥複雑な問い合わせ(ビュー)
	⑦複雑な問い合わせ(サブクエリ、相関サブクエリ))
	⑧関数(関数について)
	⑨述語(述語について)
	⑩条件分岐(CASE式)
	⑪集合演算(テーブルの足し算、引き算、結合)
	⑫SQLでの高度な処理
	⑬データベースの活用方法(プログラムからのSQL)
	⑭データベースの活用方法(設計について)
	⑮まとめと総復習

科目名	マルチメディア マルチメディアⅠ
英文科目名	Multimedia Multimedia Ⅰ
担当者名	降簱徹馬
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	INFO303

授業の概要と到達目標	本科目の目的は，表現メディアの種類と特性（文字・図形・静止画・音・動画）および画像のディジタル化（画像の標本化・画像の量子化）の概念を踏まえたうえで，これら全般的な編集の基礎を学ぶことである．本科目は実習科目であるので，3年次での履修を勧める．＜到達目標＞マルチメディア情報の編集の基礎を習得することを到達目標とする．＜カリキュラム・ポリシーとの関連＞ICT（情報通信技術）を経営に生かすために必要な知識・スキルを学ぶ．
授業の方法	本講義では，講義と課題作成実習を行う．すべての課題作成実習において，与えられた課題を学修者自身が試行錯誤を繰り返しながら何とか自分で作成できるような相互交流型の学習（アクティブ・ラーニング）を実施する．
予習と復習	予習（90分）実習課題の作成方法を記述したファイルを事前に読んでおくこと．復習（90分）授業で取り上げられた実習課題を授業終了後理解できるまで何回も繰り返して実習練習を行うこと．
テキスト等	オリジナルのテキストを配布する．その他参考文献は授業時に紹介する．

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
				0%				0%
	【注意】単位を得るには，レポート（実習課題を保存したファイルも含む）を全て提出する必要がある．【レポート（実習課題）に対するフィードバック】講義中に行う実習課題について全般的評価と所見を個別に提示する．							

授業計画
①表現メディアの種類と特性（文字・図形・静止画・音・動画）
②ラスター画像の編集（基本操作・カラーモデル）
③ラスター画像の編集（ヒストグラム・トーンカーブ）
④ラスター画像の編集（画像合成）
⑤ベクトル画像の編集（基本操作・ベジェ曲線）
⑥ベクトル画像の編集（作品制作実習）
⑦3Dグラフィックス（基本操作）
⑧3Dグラフィックス（作品制作実習）
⑨音・音楽の編集（基本操作と楽曲制作実習）
⑩動画の編集（ゼミ発表動画の作成と編集）
⑪Webデザイン（デザインの重要性）
⑫Webデザイン（HTML）
⑬Webデザイン（CSSとAPI）
⑭Webデザイン（作品制作実習）
⑮まとめと総復習

科目名	データサイエンス基礎 マルチメディアⅡ
英文科目名	Basics of Data Science Multimedia Ⅱ
担当者名	降簱徹馬
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	INF0304

授業の概要と到達目標	本科目の目的は，データの可視化に関する技法や手法を学修することにある．近年，データサイエンス・AIの重要性が増し，この潮流に合わせて授業内容の改訂を行った．実習に使用する専用ソフトウェアは自宅PCでも授業時間外学修ができるよう選択している．また，実習ではPythonのプログラムを利用するので，2年次に基礎プログラミングⅠを履修済みであるか，あるいは，参考書に基づき学修しておくことが望ましい．なお，本科目は実習科目である．＜到達目標＞データの可視化の基礎を習得することを到達目標とする．＜カリキュラム・ポリシーとの関連＞ICT（情報通信技術）を経営に生かすために必要な知識・スキルを学ぶ．
授業の方法	本講義では講義と実習を行う．すべての実習において，与えられた課題を学修者自身が試行錯誤を繰り返しながら，何とか自分で作成できるような相互交流型の学習（アクティブ・ラーニング）を実施する．
予習と復習	予習（90分）事前に配布テキストの該当箇所を十分検討しておくこと．復習（90分）授業で取り上げられた実習課題を授業終了後理解できるまで何回も繰り返して実習練習を行うこと．
テキスト等	オリジナルのテキストを配布する．その他参考文献は授業時に紹介する．

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
				0%				0%
	【注意】単位を得るにはレポート（実習課題を保存したファイルも含む）をすべて提出する必要がある．【レポート（実習課題）に対するフィードバック】講義中に行う実習課題について全般的評価と所見を個別に提示する．							

授業計画	①ガイダンス（データの可視化）
	②データ処理（Pythonの基礎）
	③データ処理（前処理と基本集計）
	④データ処理（グラフによるデータの可視化）
	⑤因果関係（回帰分析の基礎）
	⑥因果関係（回帰分析の実践）
	⑦データの次元削減（主成分分析の基礎）
	⑧データの次元削減（主成分分析の実践）
	⑨分類（クラスター分析）
	⑩分類（決定木分析）
	⑪相関ルール（アソシエーション分析）
	⑫時系列データ（機械学習による将来予測）
	⑬空間データの可視化
	⑭テキストアナリティクス（テキストの可視化）
	⑮まとめと総復習

科目名	情報ネットワークⅠ
英文科目名	Information Network Ⅰ
担当者名	齋藤大輔
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	INF0307

授業の概要と到達目標	授業概要本授業では企業活動に活かせるICTの知識とスキルを身につけることを目標として、ネットワークの仕組みの基礎について学習する。現代社会において多くの情報、データなどがネットワークを通じて共有、伝達されている。従って、情報化社会においてネットワークの活用は必要不可欠となっている。本授業では、情報やデータがどのようにネットワーク上で扱われているのか？について学習する。学習内容としてはデータ、データ通信、インターネット、ネットワークモデル、IPアドレスなどについてである。到達目標・情報ネットワークは何か？について理解する・データの仕組みについて理解する・ネットワークモデルについて理解する
授業の方法	本授業はアクティブラーニング形式で進める。従って、授業では事前に授業で扱うトピックについて教科書等で学習し、授業では学習内容に基づいた演習課題に取り組む反転授業で行う。本授業ではコンピュータを用いて実際にネットワークの様子の観察や仕組みを構築する。
予習と復習	予習(90分):各授業で扱うトピックについて、事前に教科書を読み理解し授業の準備をする復習(90分):各授業で扱うトピックについて理解度確認課題を提示する。各自で課題に取り組み次の授業時に提出する。
テキスト等	教科書: 図解でやさしくわかる ネットワークのしくみ超入門, 網野 衛二(著), 技術評論社参考書: ネットワークがよくわかる教科書, 福永 勇二(著), SBクリエイティブ

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%
	授業内課題	60%						0%
	単位の取得条件として全授業の2/3以上出席すること授業内課題・レポートへの取り組み状況で総合的に評価する							

授業計画	①イントロダクション(ガイダンス・ネットワークとは？)
	②データ(ビット、バイト、符号化、デジタル化)
	③データ通信(回線、パケット)
	④ネットワークの分類(LANとWAN)
	⑤インターネット1(Webとwww)
	⑥インターネット2(データの流れを観察してみよう)
	⑦OSI参照モデル(プロトコルとカプセル化)
	⑧OSI参照モデル(各階層の役割)
	⑨TCP/IPモデル(OSIとの違い)
	⑩ネットワークにおけるハードウェア(ハブ)
	⑪イーサネットとMACアドレス(有線LAN、インターフェース固有のアドレス)
	⑫IPアドレス(IPアドレスの役割)
	⑬ルーター(ルーターの役割)
	⑭TCP/UDPについて(TCPとは？、UDPとは？)
	⑮まとめと総復習

科目名	情報ネットワークⅡ
英文科目名	Information Network Ⅱ
担当者名	齋藤大輔
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	INFO308

授業の概要と到達目標	授業概要本授業では企業活動に活かせるICTの知識とスキルを身につけることを目標として、ネットワークの仕組みの基礎について学習する。現代社会において多くの情報、データなどがネットワークを通じて共有、伝達されている。従って、情報化社会においてネットワークの活用は必要不可欠となっている。本授業では、情報ネットワーク1の授業を基に、情報やデータの共有、伝達方法として、使用されるプロトコルやサーバについて学習する。学習内容としてはファイル共有、メールの送受信、Webの仕組みやファイヤーウォールや暗号化といった情報ネットワークのセキュリティなどである。到達目標・プロトコルについて理解する・情報ネットワークのセキュリティについて知る。また、対策できるようになる・情報ネットワークにおけるリテラシーの知識を深める
授業の方法	本授業はアクティブラーニング形式で進める。従って、授業では事前に授業で扱うトピックについて教科書等で学習し、授業では学習内容に基づいた演習課題に取り組む反転授業で行う。本授業ではコンピュータを用いて実際にネットワークの様子の観察や仕組みを構築する。
予習と復習	予習(90分):各授業で扱うトピックについて、事前に教科書を読み理解し授業の準備をする復習(90分):各授業で扱うトピックについて理解度確認課題を提示する。各自で課題に取り組み次の授業時に提出する。
テキスト等	教科書: 図解でやさしくわかる ネットワークのしくみ超入門, 網野 衛二(著), 技術評論社参考書: ネットワークがよくわかる教科書, 福永 勇二(著), SBクリエイティブ

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%
	授業内課題			60%				0%
	単位の取得条件として全授業の2/3以上出席すること授業内課題・レポートへの取り組み状況で総合的に評価する							

授業計画	①ガイダンス（授業の進め方、Linux環境について）
	②Linuxの使い方
	③サーバーとプロトコル
	④ファイル共有(FTP)
	⑤データベースの仕組み
	⑥メールの仕組み(SMTP, POP3)
	⑦Webの仕組み(HTTP)
	⑧プロキシサーバーの仕組み
	⑨DHCPサーバーの仕組み
	⑩DNSの仕組み
	⑪情報ネットワークとセキュリティ
	⑫ファイアウォール
	⑬情報漏洩を防ぐ（データの暗号化）
	⑭情報ネットワークと知的財産権(著作権など)
	⑮まとめと総復習

科目名	簿記Ⅰ/Ⅰ(再)
英文科目名	Accounting Practice Ⅰ/Ⅰ(Re)
担当者名	榎本恒,川﨑芙有,三浦紘嵩,吉田直美,北井不二男【秋学期(再)】榎本恒,北井不二男
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BOKP101

授業の概要と到達目標

簿記とは､企業の経営活動を記録･計算・報告するための技術です。簿記を学ぶことで企業の経営状況を数字の面から把握できるようになるため、商学または経営学を学ぶためには必要不可欠なものです。本科目は、「商学・経営学の基礎となる簿記の知識を身につける」「商学・経営学の基本となる取引の記録を知る」ことを目的とします。【目標】複式簿記の基本原理、基本的な取引の仕訳・転記の方法及び決算までの一連の手続き（簿記一巡）を理解します。【概要】複式簿記とよばれる企業で行われる簿記の基礎を学習します｡この科目で扱う複式簿記の基本原理は、この科目の上位科目である「簿記Ⅱ」を履修する際に必要になります。この科目の内容を踏まえて「簿記Ⅱ」では、財務諸表という書類の作成を行うために必要な決算手続などを学びます。

授業の方法

講義を中心に行います。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）として、講義中に演習やレポートの作成などを行うとともに、一部の授業回で、必要に応じて授業内容を確認するためのディスカッションの時間を設けるなどします。

予習と復習

（予習45分）テキストまたは配布資料の該当箇所を事前に読んでください。（復習45分）授業で扱った問題などを繰り返し解いてください。

テキスト等

開講時に指定します（担当教員によってテキストが異なります）。

評価方法

定期試験	50%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
			0%				0%

平常点の具体的内容、採点結果に関する全般的な評価と所見については、担当教員が授業内で開示します。

授業計画

①ガイダンス
②取引と勘定
③仕訳と転記
④仕訳帳、総勘定元帳及び補助簿
⑤決算（試算表の作成、帳簿の締切り）
⑥決算（財務諸表の作成、精算表の作成）
⑦現金
⑧預金
⑨小口現金
⑩商品（3分法）
⑪商品（仕入帳、売上帳）
⑫商品（商品有高帳）
⑬売掛金と買掛金、前払金と前受金
⑭まとめと総復習
⑮まとめと総復習

科目名	簿記Ⅱ/Ⅱ(再)
英文科目名	Accounting Practice Ⅱ/Ⅱ(Re)
担当者名	榎本恒,川﨑芙有,三浦紘嵩,吉田直美,北井不二男【春学期(再)】榎本恒,北井不二男
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BOKP102

授業の概要と到達目標

この科目は、「簿記Ⅰ」の内容をさらに発展させたものであるため、「簿記Ⅰ」の単位を修得していなければ履修することはできません。本科目は、「商学・経営学の基礎となる簿記の知識を身につける」「商学・経営学の基本となる取引の記録を知る」ことを目的とします。【目標】応用的な取引の仕訳・転記、決算手続及び財務諸表や精算表の作成について理解します。【概要】この科目では、「簿記Ⅰ」で扱わなかった取引の仕訳・転記と財務諸表という書類を作成するために必要となる決算手続を中心に学習します。

授業の方法

講義を中心に行います。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）として、講義中に演習やレポートの作成などを行うとともに、一部の授業回で、必要に応じて授業内容を確認するためのディスカッションの時間を設けるなどします。

予習と復習

（予習45分）テキストまたは配布資料の該当箇所を事前に読んでください。（復習45分）授業で扱った問題などを繰り返し解いてください。

テキスト等

開講時に指定します（担当教員によってテキストは異なります）。

評価方法

定期試験	50%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
			0%				0%

平常点の具体的内容、採点結果に関する全般的な評価と所見については、担当教員が授業内で開示します。

授業計画

①ガイダンス
②その他の債権債務（貸付金・借入金、未収入金・未払金）
③その他の債権債務（立替金・預り金など）
④手形（受取手形・支払手形）
⑤手形（電子記録債権・電子記録債務など）
⑥有形固定資産
⑦貸倒損失と貸倒引当金
⑧資本（設立・増資）
⑨資本（利益剰余金・配当）
⑩収益と費用
⑪税金
⑫簿記一巡（決算整理、財務諸表の作成など）
⑬簿記一巡（精算表の作成）、伝票
⑭まとめと総復習
⑮まとめと総復習

科目名	マーケティング論A
英文科目名	Marketing A
担当者名	永井竜之介,齋藤典晃
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG101

授業の概要と到達目標	マーケティング論Ａでは、マーケティングの基本的な考え方の解説にはじまり、マーケティングにおける消費者、生活者の視点、情報システムおよび市場調査、そしてマーケティング戦略の概要について解説を行う。基礎的なレベルについて理解できるまでの知識を身につけることを目標とする。グローバル化、社会貢献、環境変化、消費動向変革など企業には大きな課題が存在する。特に以上の事項を各講義項目で事例として提示する。この授業は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。また、この授業では外部講師を招聘し、実際のマーケティングについて講演してもらう予定である。
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、一部の授業回でプレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）もしくはディベートを実施するとともに、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。
予習と復習	＜予習（90分）＞各講義の最後に次回学習課題を指示するのでその内容についての所見を列記しておくこと。＜復習（90分）＞当日の講義内容を図表の解説を中心にまとめておくこと。
テキスト等	新津重幸・庄司真人編『新版マーケティング論』（白桃書房２０２５年）　参考文献については、講義中に紹介する。また、資料を配布する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	0%
	授業中課題			40%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							

授業計画
①ガイダンス：マーケティングの定義と全体構造
②顧客志向と利潤志向
③マーケティング近眼視と事業領域
④顧客時点主導の市場戦略
⑤消費パターンとライフスタイル
⑥マーケティング情報と情報流通システム
⑦市場調査の役割
⑧サンプルの抽出と調査方法
⑨質問票の作成と集計
⑩標的市場の設定と市場細分化
⑪ターゲティング
⑫マーケティング・ミックス
⑬マーケティングを取り巻く環境変化
⑭レポート課題の実施と解説
⑮総まとめと復習：マーケティングの課題

科目名	マーケティング論B
英文科目名	Marketing B
担当者名	永井竜之介,齋藤典晃
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG102

授業の概要と到達目標	ヒット商品の二極化（低価格商品・高付加価値商品）、消費の二極化（モノからサービスへ）等、消費構造は大きく変化している。そして、携帯（モバイル）、Web等のネット社会の到来で、コミュニケーションの在り方も変化してきている。そして、企業は生き残りを掛けてその体質変革を迫られている。マーケティング論Ｂでは、マーケティング手段の複合的戦略を解説する。商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。また、この講義では外部講師を招聘し、マーケティングの現状について講演してもらうことがある。
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークを実施する。
予習と復習	＜予習（90分）＞各講義の最後に次回学習課題を指示するのでその内容についての所見を列記しておくこと。＜復習（90分）＞当日の講義内容を図表を中心にまとめておくこと。
テキスト等	新津重幸・庄司真人編『新版マーケティング論』（白桃書房２０２５年）　参考文献については、講義中に紹介する。また、資料を配布する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	0%
	授業内課題			40%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							

授業計画
①マーケティング戦略
②製品の構造
③ブランドとブランド・エクイティ
④サービスとアフターサービス
⑤ライフサイクルの諸段階と管理
⑥価格政策と価格設定
⑦プロモーション・ミックス
⑧広告戦略
⑨人的販売
⑩営業戦略
⑪販売促進（SP）
⑫パブリシティとコミュニケーション戦略
⑬流通チャネルと物流
⑭マーケティングの発展領域
⑮まとめと総復習

科目名	広告論A
英文科目名	Advertising A
担当者名	齋藤典晃
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG201

授業の概要と到達目標	企業は、テレビ、新聞、インターネット、SNSなど多様なメディアを通じてプロモーション活動を行っている。これらのプロモーション活動において中核的な役割を果たすのが広告であり、広告は私たちの日常生活とも密接に関わる企業活動の一つである。こうした活動の多くは、消費者とのコミュニケーションを目的としており、その意味で広告はマーケティング・コミュニケーションの重要な構成要素である。とりわけインターネットの普及は、企業と消費者のコミュニケーションの在り方を大きく変化させており、企業には数多くの選択肢の中から目的に応じて効果的なメディアを選択・活用する能力が求められている。本講義の目的は、広告論およびマーケティング・コミュニケーションに関する基礎的知識を修得することである。具体的には、企業のプロモーション活動を理論的に理解するとともに、それらを実務的・応用的に説明できる力を養うことを目指す。本講義は、商学部のディプロマ・ポリシーである「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができる能力」の育成に資する科目として位置づけられる。
授業の方法	この講義では基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。毎回の授業終了時にはディスカッション（アクティブラーニング）の時間を設ける。また、自律的学習（アクティブラーニング）を促進するために小テスト、ミニレポートを適宜行う。
予習と復習	予習（90分）各講義の最後に次回学習課題を提示する。その課題に対してポイントを箇条書きで整理しておくこと。復習（90分）講義中に学習した用語や理論を自身の関心事に関連づけて考察すること。
テキスト等	指定なし。参考文献については講義中に紹介する、また資料を配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	0%
	平常点課題			30%				0%
	基本的にレポートの返却は行わない。評価と所見を講義中に示す。授業の2/3以上に出席しないと評価の対象とならないので注意すること。							

授業計画	①ガイダンス　広告論の基本
	②マーケティングの基本と広告の機能
	③広告とコミュニケーション
	④プロモーション・ミックス
	⑤広告計画の流れ
	⑥広告の効果測定
	⑦広告の分類：新聞広告と雑誌広告
	⑧広告の分類：テレビ広告とラジオ広告
	⑨インターネット広告
	⑩SNSを活用したマーケティング
	⑪その他の広告と販売促進
	⑫製品差別化と広告
	⑬広告クリエイティブ
	⑭レポート課題の解説
	⑮まとめと総復習

科目名	広告論B
英文科目名	Advertising B
担当者名	齋藤典晃
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG202

授業の概要と到達目標	広告のような企業活動は、消費者とのコミュニケーションを目的とするものであり、本質的にはマーケティング・コミュニケーションに内包される活動である。近年のICTの発達は、企業と消費者とのコミュニケーションのあり方を大きく変化させており、ICTを活用したマーケティング・コミュニケーション戦略の重要性は一層高まっている。本講義の目的は、広告論における現代的な課題を取り上げ、現代企業における広告・プロモーション活動の特徴を理解することにある。具体的には、ブランド構築におけるプロモーションの役割や、ICTを活用した広告・プロモーション戦略について理論的に学び、それらを応用的に説明できる力を養うことを目的とする。本講義は、商学部のディプロマ・ポリシーである「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができる能力」の育成に資する科目である。
授業の方法	この講義では基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。毎回の授業終了時にはディスカッション（アクティブラーニング）の時間を設ける。また、自律的学習（アクティブラーニング）を促進するために小テスト、ミニレポートを適宜行う。
予習と復習	予習（90分）各講義の最後に次回学習課題を提示する。その課題に対してポイントを箇条書きで整理しておくこと。復習（90分）講義中に学習した用語や理論を自身の関心事に関連づけて考察すること。
テキスト等	指定なし。参考文献については講義中に紹介する、また資料を配布する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	0%
平常点課題			30%				0%

基本的にレポートの返却は行わない。評価と所見を講義中に示す。授業の2/3以上に出席しないと評価の対象とならないので注意すること。

授業計画
①はじめに：広告論の基礎
②マーケティング・コミュニケーション戦略 - 双方向型コミュニケーションの考え方
③統合型マーケティング・コミュニケーション（IMC）
④広告と価格戦略
⑤参照価格と広告
⑥ブランド・マネジメント戦略
⑦ブランド・マネジメントと広告
⑧ブランド・エクイティ
⑨ブランド・ロイヤルティ
⑩ブランド・ロイヤルティと広告
⑪ラグジュアリー・ブランドにおけるプロモーション戦略
⑫地域のプロモーション：地域ブランディング
⑬地域のプロモーション：アニメ聖地巡礼
⑭レポート課題の解説
⑮まとめと総復習：ICTを活用したマーケティングの展望

科目名	消費者行動論A
英文科目名	Consumer Behavior A
担当者名	上原義子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG203

授業の概要と到達目標	経済活動が高度化し、情報技術も劇的に進歩した今日では、我々消費者も実に複雑なプロセスを経て、意識的・無意識的に商品に関する情報処理を行い、無数の商品の中から特定の商品を購入している。本講義では、消費者の購買意思決定プロセス、個人が持つ背景や価値観が消費者行動にどのように結び付いているのかなど、消費者行動に関する基礎的な知識を体系的に修得する。高名なマッカーシーが唱えた4つのP（Price,Product,Place,Promotion）の中心に消費者がおかれていることに鑑みれば、消費者行動を学ぶことが今日のマーケティングを学ぶ上でいかに重要であるかが分かる。したがって、本講義で得られる知識は様々なマーケティング関連科目を理解するための礎となるであろう。１．消費者行動の基本的な枠組みや知識を説明できる２．消費者行動を規定する多様な要因を説明できる３．消費者の情報処理プロセスに関する基本的な枠組みを説明できる商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。
授業の方法	消費者行動は専門用語が多く難解であるため、受け身で聞いているだけでは不十分である。講義内では、PBL課題解型学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れて、学生の主体的、能動的な学修を促し、知識の定着を図る。
予習と復習	予習90分（事前に指定テキストを精読し、要点をまとめておくこと）復習90分（講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること）
テキスト等	【テキスト】青木幸弘ほか『消費者行動論』、有斐閣アルマ、2012年【参考図書】 フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー著 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編 第3版 』、恩蔵直人監修、月谷真紀翻訳、2014年

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	100%	平常点	0%
			0%				0%

授業中の発言、任意レポートの提出などを随時求める予定である。これらは加点方式で成績に反映させるので、筆記試験のみでは不安を感じる学生は各回の授業で着実に得点を積むこと。これらの評価は適宜受講生に対して全般的に提示して学習意欲、成果を高める。

授業計画
①現代社会における消費の諸相
②消費者行動とマーケティング　市場の把握と消費者理解の重要性
③消費者行動への心理学的接近
④消費者行動研究の歴史
⑤消費様式の選択メカニズム①　分析単位としての家族と家計
⑥消費様式の選択メカニズム②　消費行動分析の3つのアプローチ
⑦これまでのまとめと中間テスト
⑧消費者の問題認識と購買意思決定
⑨意思決定プロセスと購買行動の多様性
⑩情報探索と選択肢評価
⑪消費者の情報処理①　情報処理プロセス
⑫消費者の情報処理②　消費者知識の構造的側面
⑬消費者行動の多様性と動機づけ（関与水準）
⑭授業内試験と解説　秋学期に向けて
⑮まとめと総復習

科目名	消費者行動論B
英文科目名	Consumer Behavior B
担当者名	上原義子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG204

授業の概要と到達目標	消費者行動論Aでは、主に消費者の意思決定に関する基本的な考え方を学んだ。消費者行動論Bでは、その知識を基にマーケティングの視点で消費者行動に接近する。たとえば、広告という刺激を受けた消費者の反応、価格の違いに対する消費者の反応、店舗の設計と購買行動の関係など、我々が消費者としてとる行動にマーケティングの視点から切り込んでいく。また、消費者行動の最終プロセスである廃棄にまで踏み込み、コンシューマリズムやグリーンマーケティングといった、これからの消費者や企業に求められてくる視点も取り上げる。１．消費者行動に関する基本的知識に関して、マーケティングの視点から説明できる２．情報化社会における消費者行動の変容と市場への影響を説明できる３．消費者が近い将来に求められるグリーンな消費者行動が説明できる商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。
授業の方法	消費者行動は専門用語が多く難解であるため、受け身で聞いているだけでは不十分である。講義内では、課題解決型学習、アクティブ・ラーニングを取り入れて、学生の主体的、能動的な学修を促し、知識の定着を図る。
予習と復習	予習90分（事前に指定テキストを精読し、要点をレポートにまとめておくこと）復習90分（講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること）
テキスト等	【テキスト】青木幸弘ほか『消費者行動論』、有斐閣アルマ、2012年松井剛ほか『1からの消費者行動論』碩学舎、2016年

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	授業中の発言、任意レポートの提出などを随時求める予定である。これらは加点方式で成績に反映させるので、筆記試験のみでは不安を感じる学生は各回の授業で着実に得点を積むこと。これらの評価は適宜受講生に対して全般的に提示して学習意欲、成果を高める。							

授業計画	
	①前期の復習と消費者行動Bの概要
	②知識構造の理解とブランド構築（ブランド知識の構築ステップ）
	③消費者の多様性と動機づけ
	④消費者の態度と変容　（様々な説得的コミュニケーションと態度変容）
	⑤消費者の知覚①　（広告との接触、注意、解釈）
	⑥消費者の知覚②　（知覚とマーケティング戦略）
	⑦これまでのまとめと中間テスト
	⑧消費者の状況要因とマーケティング戦略（心理的財布、計画・非計画購買）
	⑨口コミと消費者行動（口コミの発生条件、有効性、オピニオンリーダー）
	⑩消費プロセスの変容と市場への影響　（消費者行動とマーケティング3.0）
	⑪消費者行動の解釈主義アプローチ
	⑫購買決定後の過程
	⑬消費者行動と環境
	⑭授業内試験と解説
	⑮まとめと総復習

科目名	物流論A
英文科目名	Physical Distribution A
担当者名	嘉瀬英昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG205

授業の概要と到達目標	本講義の目標は、荷主企業（小売業、卸売業、製造業）の物流管理と物流戦略を理解することである。荷主企業にとって物流は「企業活動に必要な製品・原料等のモノの物的移動にかかわる諸活動」と定義される。この様な活動は、かつては生産・販売に付随して発生する活動として考えられ重要視されていなかった。しかし、近年実務において急速にその重要性が認識されるようになってきている。また、物流の考え方を発展させたロジスティクスやサプライチェーンマネジメントといった概念も注目されるようになってきている。講義では理論だけではなく、企業の事例を交えながら進行していく。　なお、本科目は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークを実施する。
予習と復習	予習(90分)授業で指定した書籍やインターネット等を閲覧しておくこと。復習(90分)授業時間内で配布した資料を十分に読んでおくこと。
テキスト等	授業時に資料を配布または配信する。主な参考書は、齊藤実他著『物流論(第3版)』（中央経済社）、中田伸哉他編著『ロジスティクス概論』（実教出版）。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	0%
	授業時間内の課題等			20%				0%
	授業内試験は2回実施する（合計で全体評価の80%）。60%以上出席していない場合は単位を認めない。							

授業計画
①物流概論
②在庫管理と物流①ー企業経営と在庫ー
③在庫管理と物流②ー在庫量の管理ー
④物流コスト管理①ー物流コストの把握と削減方法ー
⑤物流コスト管理②ー物流ABCー
⑥小売業の物流管理①ーチェーンストアの物流ー
⑦小売業の物流管理②ーコンビニエンスストアの物流、ネット通販の物流ー
⑧授業内試験第1回
⑨脱炭素への対応
⑩製造業の物流管理
⑪ロジスティクスについて
⑫サプライチェーンマネジメントについて
⑬物流技術の進化と課題
⑭授業内試験第2回
⑮荷主企業の物流の課題（グループワーク）

科目名	物流論B
英文科目名	Physical Distribution B
担当者名	嘉瀬英昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG206

授業の概要と到達目標

本講義の目標は、物流業の現状と課題を理解することである。物流業とは、トラック輸送業、鉄道貨物輸送業、海運業、航空貨物輸送業、倉庫業等のことを指す。これらは、産業としての規模が大きいことに加え、様々な現代的課題への対応が迫られている。講義で取り上げる具体的な論点としては、規制緩和による業界構造の変化、環境問題や安全問題への対応、製造業等の国際化への対応、労働者不足への対応等である。講義は、理論だけではなく企業の事例を交えながら進行する。　なお、本科目は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。

授業の方法

アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワーク等を実施する。

予習と復習

予習(90分)授業で指定した書籍やインターネット等を閲覧しておくこと。復習(90分)授業時間内で配布した資料を十分に読んでおくこと。

テキスト等

授業時に資料を配布または配信する。主な参考書は、齊藤実他著『物流論(第3版)』（中央経済社）、中田伸哉他編著『ロジスティクス概論』（実教出版）、苦瀬博仁『ロジスティクスの歴史物語』（白桃書房）である。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	0%
授業時間内の課題等			20%				0%

授業内試験は2回実施する（合計で全体評価の80%）。60%以上出席していない場合は単位を認めない。

授業計画

①物流業概論
②トラック輸送業①全体概論
③トラック輸送業②環境問題
④トラック輸送業③安全問題
⑤トラック輸送業④宅配便と小口輸送サービス
⑥鉄道貨物輸送業
⑦授業内試験第1回
⑧ゼミ発表の振替
⑨内航海運業と外航海運業
⑩国際物流概論
⑪航空貨物輸送業
⑫港湾と空港
⑬日本の物流政策
⑭授業内試験第2回
⑮日本の物流業の課題（グループワーク）

科目名	市場調査論A
英文科目名	Marketing Research A
担当者名	上原義子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG207

授業の概要と到達目標	顧客を理解し、戦略的なマーケティング活動を実施するための実践的な手法を学ぶ。具体的には、ヒアリング調査やアンケート調査の有効性と実施方法、さらに調査結果の簡単な分析を学んでいく。こうした市場調査の手法は、専門的には質的調査、量的調査に分類されるが、これらは決して個別に扱われるものではなく、市場調査における両輪として機能する。前期においては、主に調査の種類、設計方法、ならびに量的調査のうち記述統計を取り上げるが、これらは市場調査Bで学ぶ推測統計の基礎となる重要な部分である。１．マーケティングにおける市場調査の重要性が説明できる２．情報を収集、分析するための様々な手法を知ることができる３．自らインタビュー調査やアンケート調査ができるようになる商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。
授業の方法	講義形式が主だが、アンケート作成などの課題解決作成（アクティブラーニング）も入れる。マーケティング分析に必要な調査手法を学ぶ講義であるため、数理統計の視点は主体にしない。数式を使わないよう配慮するので、数学に不安のある学生も奮って受講されたい。
予習と復習	予習90分（事前に指定テキストを精読し、要点をまとめておくこと）復習90分（講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること）
テキスト等	【テキスト】恩蔵直人、冨田健次編『1からのマーケティング分析』碩学舎2011佐藤郁哉『質的データ分析法―原理・方法・実践』新曜社2008【参考図書】佐藤郁哉 『暴走族のエスノグラフィー』新曜社1984酒井隆 『調査・リサーチ活動の進め方』日経文庫2002

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

授業計画

①市場調査とは　身の回りの市場調査とマーケティング
②質的調査と量的調査①　質的調査の有効性と種類　事例：P&G
③質的調査と量的調査②　量的調査の有効性と種類　事例：POSシステム
④データ収集の計画、方法、デザイン
⑤全数調査と標本調査
⑥質的調査の手法　ヒアリング調査、エスノグラフィー
⑦質的調査の手法　フォーカスグループインタビューとKJ法
⑧これまでのまとめと中間テスト
⑨質問票の作り方
⑩エクセルによるデータ入力の方法
⑪エクセルによる基本統計量の算出
⑫グラフの種類、かき方、分析
⑬記述統計と推測統計　事例：世の中にある数字のからくり
⑭授業内試験と解説　秋学期に向けて
⑮まとめと総復習

科目名	市場調査論B
英文科目名	Marketing Research B
担当者名	上原義子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG208

授業の概要と到達目標	市場調査は我々にとって思いのほか身近な存在である。商品を買うときに使う電子マネーやポイントカードによる購買履歴は、小売業にとって顧客情報の宝庫であり、日々、調査の精度を高める努力をしている。市場調査論Aでは、マーケティングにおける市場調査の重要性、質的および量的なデータ収集の使い分け、リサーチデザインの方法などを修得した。市場調査論Bでは、その知識を基礎として、集めたデータをどのように分析し、マーケティング活動につなげているのかを学ぶ。１．記述統計と推測統計の違いが説明できる２．統計的仮説検定の考えが説明できる３．様々な分析手法を使い分けて市場調査を実施できる商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。
授業の方法	講義形式が主だが、アンケート作成などのアクティブラーニングも入れる。マーケティング分析に必要な調査手法を学ぶ講義であるため、数理統計の視点は主体にしない。数式を使わないよう配慮するので、数学に不安のある学生も奮って受講されたい。
予習と復習	予習90分（事前に指定テキストを精読し、要点をまとめておくこと）復習90分（講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること）
テキスト等	【テキスト】恩蔵直人、冨田健次編『1からのマーケティング分析』碩学舎【参考書】浦上昌則、脇田貴文 『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書豊田秀樹 『購買心理を読み解く統計学ー実例で見る心理・調査データ解析28』東京図書

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

授業計画

①市場調査論Aの振り返りと今期に向けて
②仮説検定の意味と手順
③平均と標準偏差 事例：データサイエンティストの活躍（映像教材）
④相関分析
⑤χ2 検定
⑥t検定　事例：スポーツにおける統計の活用
⑦これまでのまとめと中間テスト
⑧分散分析
⑨回帰分析 事例：駅の自動販売機　From AQUAの落ちないキャップ
⑩因子分析
⑪コンジョイント分析
⑫共分散構造分析
⑬実証論文の読み方
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	流通経営論A
英文科目名	Retailing and Wholesaling Management A
担当者名	庄司真人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG209

授業の概要と到達目標	この授業では小売業および卸売業の概要について説明する。小売業の店舗形態についての基本的な知識の習得を授業の目標とするものである。本授業では、スーパーマーケット、コンビニエンスストアといった食品を中心とする小売業、百貨店や専門店など衣料品を中心とする小売業を中心に店舗形態（ストアフォーマット）の種類、類型について解説する。小売形態の変化要因を理解してもらうことになる。この科目を履修する前に、マーケティング論Ａ・Ｂを履修していることが望ましい。この科目では、外部講師を呼び、実際の流通業の動向について話しをしてもらうことがある。また、この授業は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークの実施と、スマートフォン等を用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を行う。
予習と復習	＜予習(90分)＞　事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をレポートにまとめておくこと。＜復習(90分)＞　講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	井上崇通・村松潤一・庄司真人編著『ベーシック流通論』（同文舘出版）改訂版。2023年

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							

授業計画
①流通プロセスにおける小売業・卸売業
②小売業の定義
③小売業の店舗形態
④小売業の組織形態
⑤小売業と消費者行動
⑥卸売業の定義
⑦卸売業の種類
⑧小売業、卸売業における競争戦略
⑨小売業における人的資源管理
⑩サプライチェーンマネジメントと小売業、卸売業
⑪小売業、卸売業における情報システム
⑫小売業における顧客関係管理
⑬商業集積（ショッピングセンター、商店街）
⑭レポート課題と解説
⑮まとめと復習：小売業の現代的課題

科目名	流通経営論B
英文科目名	Retailing and Wholesaling Management B
担当者名	庄司真人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG210

授業の概要と到達目標	この授業では、小売業のマーチャンダイジングおよび店舗管理について説明する。適正な商品を適正な時期に適正な場所で、適正な数量を適正な価格で販売するマーチャンダイジングの流れと小売業の拠点となる店舗管理について理解することを目標とする。マーチャンダイジングは小売業経営にとって最も重要な問題である。仕入れから販売にいたるマーチャンダイジングのプロセスについて説明し、特に仕入管理、在庫管理、価格管理、マージン管理を中心に基本的概念について説明する。なお、この科目では、外部講師を呼び、実際の流通経営の現場について話をしてもらうことがある。また、この授業は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークの実施と、スマートフォン等を用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を行う。
予習と復習	＜予習（90分）＞事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をレポートにまとめておくこと。＜復習（90分）＞授業内容を整理し、課題を実施すること。
テキスト等	井上崇通・村松潤一・庄司真人編著『ベーシック　流通論』（改訂版）同文舘出版、2023年。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	20%
	授業内課題			20%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							

授業計画
①小売業の戦略
②マーチャンダイジング
③マーチャンダイジングの発展
④小売業における価格設定
⑤マージン管理
⑥均衡在庫
⑦小売業のブランド戦略
⑧プライベート・ブランド
⑨仕入管理
⑩仕入商品の選定
⑪コミュニケーション戦略
⑫店舗管理
⑬店舗レイアウト
⑭課題の実施と解説
⑮まとめと復習：小売業の技術革新

科目名	マーケティング情報論A
英文科目名	Marketing Information Theory A
担当者名	永井竜之介
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG211

授業の概要と到達目標	消費者と企業を取り巻く情報環境は大きく変わってきており、２，３年前のマーケティング戦略では通用しない局面が増えてきている。本講義では、マーケティングの「変化する側面」と「変化しない側面」に注目し、マーケティングの本質と実態について考察していく。春学期のマーケティング情報論Ａでは、変化について考察する視点を持ったうえで、デジタル・マーケティングとデジタル・イノベーションについて学び、主体的に考えることを目的とする。さらに、実務におけるマーケティングをプレーヤー別に捉えながら、マーケティングの本質と実態についての問題意識を養ってもらう。事前にマーケティング関連科目を履修していることが望ましい。本講義は、商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。
授業の方法	講義内容に基づき、学生同士でのグループワーク・プレゼンテーション・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を実施する。また、授業内でスマートフォンを用いたクリッカー（Google フォームでのプレゼンテーション評価）による双方向授業を複数回実施する。
予習と復習	予習（90分）：テキスト等の予習。次回講義に関するビジネス・トピックスの情報収集。復習（90分）：講義資料・ノート等の復習。講義で紹介した事例に関する情報収集。
テキスト等	教科書：永井竜之介『マーケティングの鬼100則』（明日香出版社）参考書：村元康・永井竜之介『メガ・ベンチャーズ・イノベーション』（千倉書房）その他の資料については講義中に随時紹介する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	80%	平常点	0%
	出席および授業内課題			20%				0%
	課題やグループワークの結果は、採点基準の公表と優秀な記述内容の発表等をもって受講生にフィードバックを行う。							

授業計画	
	①イントロダクション：第四次産業革命
	②マーケティングとイノベーション
	③テーマ①「デジタル・イノベーションの移り変わり」：レクチャー、課題
	④テーマ①「デジタル・イノベーションの移り変わり」：グループワーク
	⑤テーマ①「デジタル・イノベーションの移り変わり」：発表、評価
	⑥テーマ②「マーケティング・インサイトによる事例分析」：レクチャー、課題
	⑦テーマ②「マーケティング・インサイトによる事例分析」：グループワーク
	⑧テーマ②「マーケティング・インサイトによる事例分析」：発表、評価
	⑨テーマ③「イノベーションのタイプを知る・考える」：レクチャー、課題
	⑩テーマ③「イノベーションのタイプを知る・考える」：グループワーク
	⑪テーマ③「イノベーションのタイプを知る・考える」：発表、評価
	⑫テーマ④「三つのプレーヤーの存在」：レクチャー、課題
	⑬テーマ④「三つのプレーヤーの存在」：グループワーク
	⑭テーマ④「三つのプレーヤーの存在」：発表、評価
	⑮まとめと総復習

科目名	マーケティング情報論B
英文科目名	Marketing Information Theory B
担当者名	永井竜之介
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG212

授業の概要と到達目標	マーケティング情報論では、マーケティングの「変化する側面」と「変化しない側面」に注目して、マーケティングの本質と実態について考察していく。秋学期のマーケティング情報論Ｂでは、ケース課題およびプレゼンテーションに取り組むグループワークと、世界のマーケティングのトレンドの学習を通じて、「マーケティングの実践」に挑戦することを目的とする。具体的には、世界のデジタル・イノベーションをリードする米国・中国のベンチャー群について学び、それと比較する形で日本企業のマーケティングとイノベーションについて主体的に考えてもらう。マーケティング関連科目を履修していることが望ましい。計４回のプレゼンテーションのために、グループ毎での授業時間外学習が求められる。本講義は、商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。
授業の方法	講義内容に基づき、学生同士でのグループワーク・プレゼンテーション・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を実施する。また、授業内でスマートフォンを用いたクリッカー（Google フォームでのプレゼンテーション評価）による双方向授業を複数回実施する。
予習と復習	予習（90分）：テキスト等の予習。次回講義に関するビジネストピックスの情報収集。復習（90分）：講義資料・ノート等の復習。講義で紹介した事例に関する情報収集。
テキスト等	教科書：永井竜之介『分不相応のすすめ』（CROSS-POT）参考書：永井竜之介・村元康『イノベーション・リニューアル』（千倉書房）その他の資料については講義中に随時紹介する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	80%	平常点	0%
	課題・グループワーク			20%				0%
	課題・グループワークの結果について、採点基準の公表と優秀な記述内容の発表等をもって受講生にフィードバックを行う。							

授業計画	①イントロダクション：日本と世界の現在地を知る
	②テーマ①　「デジタル・イノベーションの最前線」：レクチャー、課題
	③テーマ①　「デジタル・イノベーションの最前線」：発表、評価
	④テーマ①　「デジタル・イノベーションの最前線」：講評、解説
	⑤テーマ②　「ベンチャーとイノベーションの関係」：レクチャー、課題
	⑥テーマ②　「ベンチャーとイノベーションの関係」：発表、評価
	⑦テーマ②　「ベンチャーとイノベーションの関係」：講評、解説
	⑧テーマ③　「日本のヒトと組織の課題解決」：レクチャー、課題
	⑨テーマ③　「日本のヒトと組織の課題解決」：発表、評価
	⑩テーマ③　「日本のヒトと組織の課題解決」：講評、解説
	⑪テーマ④　「分不相応になるためのマーケティング思考」：レクチャー、課題
	⑫テーマ④　「分不相応になるためのマーケティング思考」：発表、評価
	⑬テーマ④　「分不相応になるためのマーケティング思考」：講評、解説
	⑭日本企業のマーケティングのこれから
	⑮総括

科目名	サービスマーケティング論A
英文科目名	Service Marketing A
担当者名	竹内慶司
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG301

授業の概要と到達目標

消費の多様化・個性化が叫ばれて久しいが最近の消費動向の変化は目まぐるしく、新たなサービス商品が次々と創り出されている。　本講義では、基本的なマーケティング理論をベースにしながらも、サービス・マーケティングのフレーム・ワークを確認していく。　サービス・マーケティングでは理論と実際の両面からのアプローチが求められる。そこで本講義においては、実際のサービス・ビジネスの現場の理解を深めるため、授業時間内に実務専門家を招聘し講演して頂く予定である。　商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。

授業の方法

②アクティブ・ラーニングの一環として、一部の授業回でプレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）を実施する。

予習と復習

事前に参考書等の当該箇所をよく読んでに関する記事を読んで要点を整理しておくこと。講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。　準備学修は予習（90分）復習（90分）。

テキスト等

最初の講義時に参考書を紹介する。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
小レポート			0%				0%

授業時間内に数回レポートの提出を求める。レポートは返却しないが、次回の授業時に全般的な評価と所見を提示する。

授業計画

①オリエンテーション
②サービス・マーケティングの研究領域
③モノとサービスの分類学的アプローチ
④モノとサービスの２分割論
⑤機能論的アプローチ
⑥サービス２分割論
⑦モノとサービスの一元化論（1）有用性について
⑧モノとサービスの一元化論（2）戦略性について
⑨統合体アプローチ（１）経験財と探索財
⑩統合体アプローチ（２）信頼財
⑪分子論的アプローチ
⑫効用論的アプローチ
⑬ＤＨＩアプローチ
⑭外部講師による講演
⑮まとめと復習

科目名	サービスマーケティング論B
英文科目名	Service Marketing B
担当者名	竹内慶司
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG302

授業の概要と到達目標	一般にサービス商品は、生産と同時に消費されることが多く、有形財を対象として構築されたマーケティング理論と合致しない側面もみられる。　本講義では、基本的なマーケティング理論をベースにしながらも、サービス・マーケティングのフレーム・ワークを確認していく。また、サービス・マーケティングでは理論と実際の両面からのアプローチが求められる。そこで本講義においては、実際のサービス・ビジネスの現場の理解を深めるために、授業時間内に実務専門家を招聘し講演して頂く予定である）。　商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。
授業の方法	②アクティブ・ラーニングの一環として、一部の授業回でプレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）を実施する。
予習と復習	事前に参考書等の当該箇所をよく読んでに関する記事を読んで要点を整理しておくこと。講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。　準備学修は予習（90分）復習（90分）。
テキスト等	最初の講義時に参考書を紹介する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%
	授業時間内にレポートの提出を求める。レポートは返却しないが、次回の授業時に全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①オリエンテーション
②サービス・マーケティングのフレームワーク
③経済のサービス化（１）
④情報化とサービス社会
⑤高齢化とサービス社会
⑥国際化とサービス社会
⑦サービス商品の分類
⑧顧客価値の実現とサービス組織
⑨サービス・プロフィット・チェーン
⑩サービス・マーケティング・ミックス（１）商品・場所・販売促進・価格について
⑪サービス・マーケティング・ミックス（２）人材・物的環境要素・提供過程について
⑫サービス・マーケティングの事例研究（1）米国の宿泊施設の概要
⑬サービス・マーケティングの事例研究（2）日本の宿泊施設の概要
⑭外部講師による講演
⑮まとめと復習

科目名	観光マーケティング論
英文科目名	Tourism Marketing
担当者名	嘉瀬英昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG305

授業の概要と到達目標	観光ビジネスは、少子高齢化が進み様々な分野で需要が減少する中、新たな需要を生むことから国や地域、企業等で注目されている領域である。特に、近年は訪日外国人数の急増により市場が拡大し注目されている。一方、重要な課題としては、旅行者ニーズの多様化やインターネットの普及による販売・プロモーション方法の変化に対応しなければならないことが挙げられる。　本講義では，観光に関連するビジネスについて、各業界の現状と課題を理解し、事例研究を通して観光需要を取り込むためのマーケティング戦略について理解することを目標とする。 なお、本科目は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークを実施する。
予習と復習	予習(90分)授業で指定した書籍やインターネット等を閲覧しておくこと。復習(90分)授業時間内で配布した資料を十分に読んでおくこと。
テキスト等	授業時にプリントを配布または配信する。主な参考書は、観光庁『観光白書』、日本交通公社『旅行年報』である。これらは全文ダウンロード可能である。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	40%	平常点	0%
	授業時間内の課題等			10%				0%
	60%以上出席していない場合は単位を認めない。レポートや課題についのフィードバックは返却せずに講義中に全般的所見を提示する。							

授業計画
①観光の定義と重要性について
②インバウンド概論
③日本の観光の歴史
④旅行業①旅行業界の収益構造と課題
⑤旅行業②事例研究とマーケティング戦略
⑥航空業①航空業界の収益構造と課題
⑦航空業②事例研究とマーケティング戦略
⑧運輸業(航空以外)①鉄道会社の観光事業戦略
⑨運輸業(航空以外)②クルーズ船事業について
⑩宿泊業①宿泊業界の収益構造と課題
⑪宿泊業②事例研究とマーケテイング戦略
⑫集客交流施設（テーマパーク、水族館、動物園等）
⑬授業内試験
⑭日本政府の戦略
⑮まとめと総復習

科目名	地域ビジネス論
英文科目名	Regional business
担当者名	庄司真人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG306

授業の概要と到達目標	この授業は観光地域プログラムの一部として、地域ビジネスについてその理論と実践を取り上げる。地域ビジネスは、その必要性が捉えられながらも、個別事例が独立して進められており、統一的に行われているわけではない。さらに、そのアプローチは多種多様であり、総合的に取り上げる必要がある。そこで、ここではマーケティングやマネジメント、経済的観点から総合的に地域の課題について取り上げるものである。本科目は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。また、外部講師を呼び、地域ビジネスに関して講演をしてもらうことを予定している。
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークの実施と、スマートフォン等を用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を行う。
予習と復習	＜予習（90分）＞各講義の最後に学習課題(予習課題）を指示するのでその内容についての所見を列記しておくこと。＜復習（90分）＞当日の講義内容を図表を中心にまとめておくこと。
テキスト等	資料配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	80%	平常点	20%
				0%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							

授業計画
①地域の現状
②マーケティングの基礎
③サービスマネジメント
④非営利組織の経営とマーケティング
⑤授業内課題
⑥地域マーケティングの基礎
⑦地域ブランド概論
⑧地域ブランド研究
⑨地域経済
⑩地域とクラスター
⑪地域とサービス・エコシステム
⑫サービス・エコシステム：制度
⑬授業内ワーク
⑭授業内グループワーク
⑮総まとめ

科目名	流通論A
英文科目名	Distribution A
担当者名	嘉瀬英昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG307

授業の概要と到達目標	本講義は、わが国の第二次世界大戦後の流通史について理解を深めることを目標とする。わが国の流通機構は歴史的に、欧米先進国と比較して小売業の規模が小さく商店数が過多であり、また流通経路が多段階となっているのが特徴である。しかし、このような特徴は戦後様々な要因により大きな変化を遂げてきている。講義では、戦後の流通機構に変化をもたらした代表的な事象について順に論じる予定である。また、流通機構に大きな影響を及ぼした大規模小売店舗に対する規制についても議論する。流通論はＡ・Ｂを通じて、個々の企業の視点ではなく、流通機構全体を対象として論じていく。　なお、本科目は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、受講者が60名に満たない場合は授業内で全員プレゼンテーションを実施する。60名を超えた場合はグループワークを実施する。
予習と復習	予習(90分)授業で指定した書籍やインターネット等を閲覧しておくこと。復習(90分)授業時間内で配布した資料を十分に読んでおくこと。
テキスト等	授業時にプリントを配布または配信する。主な参考書は、満薗勇著『日本流通史: 小売業の近現代』（有斐閣）、中田伸哉・橋本雅隆編者『基本流通論』（実教出版株式会社）である。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	0%
授業時間内の課題等			20%				0%
授業内試験は2回実施する（合計で全体評価の80%）。60%以上出席していない場合は単位を認めない。							

授業計画
①戦後流通史概論
②統計に見る日本の流通の特徴
③百貨店の歴史
④百貨店の経営の特徴
⑤総合スーパーの歴史
⑥総合スーパーの経営の特徴
⑦メーカーのマーケティング活動と流通系列化
⑧授業内試験第1回
⑨コンビニエンスストアの歴史
⑩コンビニエンスストアの経営の特徴
⑪専門店チェーンの誕生と発達
⑫大規模小売店舗に対する規制
⑬小売業態発展理論
⑭授業内試験第2回
⑮まとめと総復習（グループワーク）

科目名	流通論B
英文科目名	Distribution B
担当者名	嘉瀬英昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MKTG308

授業の概要と到達目標	本講義は、わが国の流通政策について理解を深めることを目標とする。具体的には、市場における公平な競争を促進する政策、大規模小売店舗への調整と中小小売業への振興に関する政策、消費者を保護するための政策を中心に学ぶ。さらに、近年新たな課題として対応が迫られている買物弱者問題等についても論じてゆく。講義では企業の事例や地域で生じている問題点等をなるべく多く交えながら進行していく。講義を受講する前提として「経済学Ａ・Ｂ」および「民法ＩＡ・Ｂ」を履修しているのが望ましい。　なお、本科目は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、受講者が60名に満たない場合は授業内で全員プレゼンテーションを実施する。60名を超えた場合はグループワークを実施する。
予習と復習	(予習)授業で指定した書籍やインターネット等を閲覧しておくこと。(復習)授業時間内で配布した資料を十分に読んでおくこと。
テキスト等	授業時にプリントを配布または配信する。主な参考書は、岡野純司他著『流通政策の基礎』（五絃舎）、渡辺達郎著『流通政策入門第5版』（中央経済社）である。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	0%
	授業時間内の課題等			20%				0%
	授業内試験は2回実施する（合計で全体評価の80%）。60%以上出席していない場合は単位を認めない。							

授業計画
①流通政策概論
②競争を促進するための政策①ー独占禁止法についてー
③競争を促進するための政策②ー流通業と独占禁止法ー
④競争を促進するための政策③ーコンビニエンスストアに関する事例研究ー
⑤競争を促進するための政策④ー大手流通業者に関する事例研究ー
⑥競争を促進するための政策⑤ープラットフォーマーへの対応ー
⑦授業内試験第1回
⑧ゼミ発表の振替
⑨消費者を保護するための政策①ー全体概要ー
⑩消費者を保護するための政策②ー消費者契約法についてー
⑪消費者を保護するための政策③ー景品表示法、割賦販売法等についてー
⑫調整政策と振興政策
⑬新たな課題に対応した流通政策について
⑭授業内試験第2回
⑮まとめと総復習（グループワーク等）

科目名	金融総論A
英文科目名	Introduction to Monetary Economics A
担当者名	楠美将彦,内田稔
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN101

授業の概要と到達目標	商学部金融コースにて履修する各科目を理解するために必要な基礎知識の修得と前提となる日本経済、市場経済のメカニズムを学ぶ。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための基礎科目である。金融は資本主義社会において中核的な役割を果たしており、家計・企業・政府・海外部門のいずれの主体にとっても金融抜きには成り立たない。金融総論Ａでは金融市場の全体像と金融機関について鳥瞰的に学習する。具体的には市場経済における資本市場の位置づけや、中央銀行による金融政策、銀行の果たす役割、証券会社、保険会社などの金融機関の役割、学国為替などの基礎的な金融用語を学び、日々報道される金融関連記事の内容を理解できるようにする。
授業の方法	講義を中心に行う。アクティブラーニングとして、授業内でキーワード・内容に関する質疑応答やディスカッションを行うことがある。
予習と復習	予習（90分）日本経済新聞などで金融に関する記事を読むか、各回のテーマに関するウェブサイトを閲覧しておくこと。復習（90分）授業終了後、その日のうちに、要点をノートにまとめたり、復習しておくこと。
テキスト等	テキストの指定はない。毎回、授業内容に関する資料を配付する。金融の基礎レベルの参考文献として、日本経済新聞出版社『金融入門〈第3版〉(日経文庫)』(2020/3)などがある。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	上記の比率で総合評価する。単位取得のための出席条件は第1回授業で詳細を説明する。毎週の小課題が授業内試験に相当する。小課題はGoogleフォームを利用する。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】課題について、解説と所見を提示する。							

授業計画	①ガイダンス
	②市場原理と市場の失敗、政府の役割
	③資本市場　～直接金融と間接金融、金利の決まり方～
	④金融機関の種類
	⑤株式と債券１　～債券価格と債券利回り～
	⑥株式と債券２　～株式市場と株価の見方～
	⑦銀行の役割１　～３大業務と信用創造～
	⑧銀行の役割２　～貸出、審査～
	⑨信託銀行と証券投資信託
	⑩保険会社
	⑪株式会社　～上場企業と企業統治～
	⑫企業買収
	⑬中央銀行の役割１　～貨幣～
	⑭中央銀行の役割２　～金融政策～
	⑮まとめと復習

科目名	金融総論B
英文科目名	Introduction to Monetary Economics B
担当者名	楠美将彦,内田稔
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN102

授業の概要と到達目標	商学部金融コースにて履修する各科目を理解するために必要な基礎知識の修得と前提となる日本経済、市場経済のメカニズムを学ぶ。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための基礎科目である。金融総論Ａで学んだ基礎知識とも関連付けながら、金融コースで学ぶ保険・金融工学・証券化などの概要を解説する。また、日本のバブル崩壊による金融危機やリーマンショックによる世界的な金融危機発生についても触れていく。このような内容について学習することで、新聞報道される金融に関するカレントな出来事について、その事象の本質的な意味が理解できるようにする。
授業の方法	講義を中心に行う。アクティブラーニングとして、授業内でキーワード・内容に関する質疑応答やディスカッションを行うことがある。
予習と復習	予習（90分）日本経済新聞などで金融に関する記事を読むか、各回の内容に関するウェブサイトを閲覧しておくこと。復習（90分）授業終了後、その日のうちに、要点をノートにまとめたり、復習しておくこと。
テキスト等	テキストの指定はない。毎回、授業内容に関する資料を配付する。金融の基礎レベルの参考文献として、日本経済新聞出版社『金融入門〈第3版〉　(日経文庫)』(2020/3)などがある。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%

上記の比率で総合評価する。単位取得のための出席条件は第1回授業で詳細を説明する。毎週の小課題が授業内試験に相当する。小課題はGoogleフォームを利用する。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】課題について、解説と所見を提示する。

授業計画
①ガイダンス
②年金制度
③外国為替１　～歴史～
④外国為替２　～相場決定理論～
⑤金融バブルと不良債権の発生
⑥金融危機と異例な金融緩和策の採用
⑦証券化とリーマンショック
⑧中間まとめ
⑨暗号資産
⑩デリバティブ１　～先渡契約と先物取引～
⑪デリバティブ２　～オプションとスワップ～
⑫ポートフォリオ理論
⑬行動ファイナンス
⑭最近の金融経済状況
⑮まとめと総復習

科目名	証券論A
英文科目名	Finance A
担当者名	柴田舞
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN203

授業の概要と到達目標	本授業は証券市場について総合的な理解を得ることを目標とする。日本のみならず世界各国において、経済活動を円滑に進めるために金融市場は欠かせない存在である。金融の中でも本授業では証券市場に注目し、その仕組みや市場の役割などを学ぶ。なお、本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。
授業の方法	講義を中心に行う。アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークを実施する。
予習と復習	予習（90分）練習問題に取り組み、その解答を授業に持参すること。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	テキストは指定しない。授業内に、参考文献を紹介する。なお、授業資料を配布する予定である。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	0%
	課題			40%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】一部の課題について添削して返却し、評価を提示する。							

授業計画
①証券論概要
②直接金融と間接金融
③証券市場の機能
④証券市場の歴史
⑤現在価値と将来価値
⑥不確実性とリスク
⑦統計分析
⑧正規分布
⑨株式市場（市場の役割を中心に）
⑩株式市場（理論価格）
⑪債券市場（市場の役割を中心に）
⑫債券市場（イールドカーブ）
⑬マーケット・マイクロ・ストラクチャー
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	証券論B
英文科目名	Finance B
担当者名	柴田舞
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN204

授業の概要と到達目標	本授業は、証券市場について学ぶ。中でもポートフォリオ理論を中心とした現代ファイナンス論を中心に学ぶ。なお、本授業の理解に必要な統計学の知識については復習しながら授業を進めていく予定である。なお、本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。
授業の方法	講義を中心に行う。アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークを実施する。
予習と復習	予習（90分）練習問題に取り組み、その解答を授業に持参すること。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	テキストは指定しない。授業内に、参考文献を紹介する。また、授業資料を配布する予定である。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	0%
	課題			40%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】一部の課題について添削して返却し、評価を提示する。							

授業計画
①証券論B概要
②経済における金融市場の役割
③リスクとリターン
④ポートフォリオのリスクとリターン
⑤平均分散アプローチ
⑥最適ポートフォリオ
⑦ベータリスク、マーケットモデル
⑧リスク・プレミアム
⑨CAPM
⑩シングル・ファクター・モデル
⑪効率的市場仮説
⑫マルチファクターモデル
⑬ポートフォリオのパフォーマンス評価
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	保険論A
英文科目名	Insurance A
担当者名	恩藏三穂
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN205

授業の概要と到達目標	＜授業の目標＞本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。＜授業の概要＞日本の保険市場は、生・損保とも世界ランキング上位を占める大規模なものである。戦後、我が国の保険市場は閉鎖的であると指摘されてきたが、1996年の保険業法の大改正後、保険の自由化が推進されている。本講義では、まず保険の意義、仕組み等の基礎知識を習得するとともに、保険市場がどのような役割を担っているのかについて解説する（外部講師を招聘する場合あり）。
授業の方法	この授業では、主として講義を行い、積極的な発言や質問を推奨する。また、自立的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、小テストやレポート等に取り組んでもらう（小テストやレポート等は一定水準を満たさない場合、評価対象外）。
予習と復習	予習（90分）授業計画に基づき次回の講義に該当する記事などを読み、関心を高めておくこと。復習（90分）授業で出された課題への取り組み、および当日の授業内容を再度チェックして各自でまとめること。
テキスト等	堀田一吉・中浜隆編『現代保険学』(2023)有斐閣

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
小テストや課題等			60%	学期末点（レポートあるいはテスト）			40%
【課題（試験やレポート）に対するフィードバック】授業中に行う小テスト等 については、適宜、解答を提示する（一定水準以下のものは、評価対象外）。履修者が100人を超える場合は、「学期末点（レポートあるいはテスト）」のかわりに定期試験を実施する。								

授業計画
①イントロダクション
②保険の意義と役割
③日本の保険市場
④保険の分類：法律に基づく分類など
⑤保険の分類：経営主体による分類など
⑥保険料の構成：純保険料と付加保険料
⑦保険料の算定方法：収支相等の原則
⑧保険料の算定方法：給付・反対給付均等の原則
⑨保険契約の要素：当事者など
⑩保険契約の要素：その他
⑪保険に関する法律：保険業法
⑫保険に関する法律：保険法など
⑬保険業界と隣接業界
⑭最近の保険の動向
⑮まとめと総復習

科目名	保険論B
英文科目名	Insurance B
担当者名	恩藏三穂
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN206

授業の概要と到達目標	＜授業の目標＞本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。＜授業の概要＞私たちの生活は、交通事故、火災、地震、病気、ケガなど様々なリスクにさらされている。これらの危険から私たちの生活を守るために、保険は欠くことのできない存在となっている。本講義では、火災保険（地震保険も含む）、自動車保険、生命保険、そして第三分野の保険（傷害保険、疾病保険、介護保険）といった各種保険の意義と役割について解説する。また、保険業をめぐる最近の動向についても適宜触れる予定である（外部講師を招聘する場合あり）。
授業の方法	この授業では、主として講義を行い、積極的な発言や質問を推奨する。また、自立的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、小テストやレポート等に取り組んでもらう（小テストやレポート等は一定水準を満たさない場合、評価対象外）。
予習と復習	予習（90分）授業計画に基づき次回の講義に該当する記事などを読み、関心を高めておくこと。復習（90分）授業で出された課題への取り組み、および当日の授業内容を再度チェックして各自でまとめること。
テキスト等	堀田一吉・中浜隆編『現代保険学』(2023)有斐閣

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	通常点（授業毎の小テストや課題等）			50%	学期末点（レポートあるいはテスト）			40%
	【小テストや課題等に対するフィードバック】通常授業時における小テストや課題等については、適宜、解答を提示する（一定水準以下のものは、評価対象外）。履修者が100人を超える場合は、「学期末点（レポートあるいはテスト)」のかわりに定期試験を実施する。							

授業計画
①イントロダクション
②私たちを取り巻くリスクと保険
③火災保険の意義と役割
④火災保険の種類
⑤地震保険の意義と役割
⑥自動車保険の意義と役割：自賠責保険
⑦自動車保険の意義と役割：任意の自動車保険
⑧生命保険の意義と役割
⑨生命保険料の仕組み
⑩生命保険の種類
⑪第三分野の保険の種類
⑫民間保険の位置付け
⑬保険業における近年の動向
⑭保険業における今後の課題
⑮まとめと復習

科目名	マクロ経済学A
英文科目名	Macro Economics A
担当者名	楠美将彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ECON201

授業の概要と到達目標	この講義では、私たちの暮らしを左右する「国全体の経済（マクロ経済）」を分析するマクロ経済学の知識を修得し、理論的に検討していく。特に需要サイドに注目し、価格が硬直的な「短期」における需要と所得の関係や経済政策の仕組みなどを説明できることを目指す。具体的にはGDPの定義、有効需要の原理、45度線分析、IS-LM分析、財政・金融政策、国際マクロ経済などを体系的に学ぶ。単にその経済事象がどのようなことを示しているのかを知るだけではなく、変数間の因果関係を踏まえ論理的に説明していく。到達水準としては公務員試験に対応できるマクロ経済学の知識の修得を想定する。「経済学（マクロ基礎）」を履修していることが望ましいが、初学者でも理解できるように基本事項の確認をしながら進めていく。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。
授業の方法	テキストと配布レジュメに沿って説明を進める。現実の経済事象や経済データにも触れながら進めていく。小課題などを利用して、アクティブラーニングの形式で受講生に対して質疑応答をする。
予習と復習	予習(90分)として、テキストの該当箇所で基本事項を確認してくる。復習(90分)として、授業内容の確認とキータームを振り返り、課題を提出する。余裕がある場合はテキストの理解度チェックテストにも取り組んで欲しい。
テキスト等	テキストとして、中谷巌『入門　マクロ経済学　第６版』（日本評論社）を利用する。参考文献として、大竹文雄『スタディガイド入門マクロ経済学 第5版』（日本評論社）、福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門　第6版』（有斐閣）などがある。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
				0%				0%
	平常点は毎週の小課題と授業内の取り組みを対象とする。小課題はGoogleフォームなどを利用する。授業内試験は２回を予定している。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							

授業計画
①ガイダンス
②マクロ経済学とは
③GDPを理解する
④マクロ経済学における「短期」と「長期」
⑤GDPはどのように決まるか1　消費関数
⑥GDPはどのように決まるか2　有効需要の原理、乗数効果
⑦中間考査
⑧貨幣の需給と利子率１　貨幣需要
⑨貨幣の需給と利子率２　貨幣市場の均衡
⑩IS-LM分析と財政金融政策1　IS曲線、LM曲線
⑪IS-LM分析と財政金融政策2　財政・金融政策の効果
⑫国際マクロ経済学1　国際収支、マンデル＝フレミング・モデル
⑬国際マクロ経済学2　固定為替相場、変動為替相場
⑭期末考査
⑮まとめと総復習

科目名	マクロ経済学B
英文科目名	Macro Economics B
担当者名	楠美将彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ECON202

授業の概要と到達目標	この講義では、私たちの暮らしを左右する「国全体の経済（マクロ経済）」を分析するマクロ経済学の知識を修得し、理論的に検討していく。特に供給サイドに注目し、物価や雇用の調整を含めた長期モデルや経済成長、現代の政策論争などを説明できることを目指す。具体的には物価や雇用の関係、AD-AS分析、インフレ・デフレ、経済成長などを体系的に学ぶ。単にその経済事象がどのようなことを示しているのかを知るだけではなく、変数間の因果関係を踏まえ論理的に説明していく。到達水準としては公務員試験に対応できるマクロ経済学の知識の修得を想定する。「経済学（マクロ基礎）」を履修していることが望ましいが、初学者でも理解できるように基本事項の確認をしながら進めていく。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。
授業の方法	テキストと配布レジュメに沿って説明を進める。現実の経済事象や経済データにも触れながら進めていく。小課題などを利用して、アクティブラーニングの形式で受講生に対して質疑応答をする。
予習と復習	予習(90分)として、テキストの該当箇所で基本事項を確認してくる。復習(90分)として、授業内容の確認とキータームを振り返り、課題を提出する。余裕がある場合はテキストの理解度チェックテストにも取り組んで欲しい。
テキスト等	テキストとして、中谷巌『入門　マクロ経済学　第６版』（日本評論社）を利用する。参考文献として、大竹文雄『スタディガイド入門マクロ経済学 第5版』（日本評論社）、福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門　第6版』（有斐閣）などがある。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
				0%				0%
	平常点は毎週の小課題と授業内の取り組みを対象とする。小課題はGoogleフォームなどを利用する。授業内試験は２回を予定している。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							

授業計画
①ガイダンス
②短期モデルと長期モデルの比較
③物価水準はどのように決まるか
④インフレとデフレ1　フィリップス曲線
⑤インフレとデフレ2　自然失業率仮説
⑥経済成長の理論1　ソロー・モデル
⑦中間まとめ
⑧経済成長の理論2　日本の成長要因分析
⑨中間考査
⑩消費と貯蓄
⑪投資決定の理論
⑫ケインジアン・マネタリスト以降のマクロ経済学
⑬マクロ経済政策の有効性について
⑭期末考査
⑮まとめと復習

科目名	国際金融論A
英文科目名	International Finance A
担当者名	内田稔
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN207

授業の概要と到達目標	本講は、金融コース専門科目の中の選択必修科目（必要単位24単位以上）であり、ディプロマポリシーの「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を目指すものである。本講では金融政策やマーケット、様々な金融商品（為替、株、債券など）を学び、インフレや老後2000万円問題に立ち向かう実践的な知識の習得を目指す。金融総論AおよびBを履修済みであること（且つ合格していること）が望ましい。また、授業計画は全体の進捗に応じて変更することがある。尚、本講は金融機関（銀行）において、外国為替市場の分析や調査、相場予測といった経験を積んだ実務家教員によるものである。
授業の方法	講義を中心に行うが、受講人数により、アクティブラーニングとしてキーワードに関するディスカッションや質疑応答の時間を設けることがある。
予習と復習	予習（90分）・・・事前にレジュメを精読し、内容を把握した上で受講すること。復習（90分）・・・当日中に講義で学んだことを振り返りること。
テキスト等	レジュメを用いるほか、必要に応じて参考図書を紹介する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	初回および第2回を除いて授業内テストを実施（全13回）し、通算の正解率で評価する。尚、6回以上欠席した学生は授業内テストの成績にかかわらず不合格となるので注意すること（出席による加点はなし）。							

授業計画
①ガイダンス
②おカネの話（インフレと老後への備え）
③株①世界の株式市場
④株②株価の見方（基礎と実践）
⑤金利①中央銀行と金融政策
⑥金利②様々な金利
⑦金利③債券（金利と価格は逆行する）
⑧外国為替①金利差と実質金利
⑨外国為替②国際収支と購買力平価
⑩外国為替③様々な通貨（基軸通貨ドル）
⑪暗号資産
⑫コモディティ
⑬REIT
⑭投資信託
⑮総まとめと復習

科目名	国際金融論B
英文科目名	International Finance B
担当者名	内田稔
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN208

授業の概要と到達目標	本講は金融コース専門科目の中の選択必修科目（必要単位24単位以上）であり、ディプロマポリシーの「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を目指すものである。本講では、現実のマーケットを採り上げて、生涯にわたって役立つ投資に必要な実践的な知識の習得を目指す。国際金融論Aを履修していることが望ましい。尚、本講は金融機関（銀行）において、外国為替市場の分析や調査、相場予測といった経験を積んだ実務家教員によるものである。
授業の方法	講義を中心に行うが、受講人数により、アクティブラーニングとしてキーワードに関するディスカッションや質疑応答の時間を設けることがある。
予習と復習	予習（90分）・・・事前にレジュメを精読し、内容を把握した上で受講すること。復習（90分）・・・当日中に講義で学んだことを振り返りること。
テキスト等	レジュメを用いるほか、必要に応じて参考図書を紹介する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	初回および第2回を除いて授業内テストを実施（全13回）し、通算の正解率で評価する。尚、出席が全体の2/3を下回った学生は不合格とするので注意すること。							

授業計画	①ガイダンス（インフレヘッジとしての投資の意義）
	②老後2000万円問題と日本の年金制度
	③iDeCo（イデコ）と投資信託、証券会社の選び方
	④チャート分析の基礎と相場情報の取り方
	⑤日銀の政策と目的
	⑥米FRBの政策と目的
	⑦米10月FOMCの振り返り
	⑧米中間選挙の振り返りと市場への影響
	⑨外国為替相場の決定理論と現状
	⑩日米の株式市場の現状
	⑪債券相場と金利の関係
	⑫国際金融のトピックス
	⑬米12月FOMCの振り返り
	⑭為替相場の振り返りと2027年の見通し
	⑮総まとめと復習

科目名	ファイナンシャルプランニング論A
英文科目名	Financial Planning A
担当者名	井上智紀
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN209

授業の概要と到達目標	本講義は、商学部のディプロマ・ポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を達成するための科目である。ファイナンシャルプランニングは、家計における現在および将来の支出と収入、資産や負債の状況についての分析を通じて、将来にわたる豊かな生活や夢の実現を支援するものです。本講義では、人口・世帯構造の変化および生活者の金融選択行動に関する研究経験を活かし、生活者の生活設計と金融選択の状況および金融・保険商品選択上の留意点を中心に座学による解説を加えるとともに、学生自身で演習に取り組んでいただくことを通じて以下の４点を到達目標とします。①日常生活に関わる様々な「お金」についての知識を身につけ、説明できる②ファイナンシャルプランニングの基礎知識について理解を深める③家計収支の問題点を見出す上でのポイントについて説明できる④資産運用や管理の基礎知識を身につけ、金融商品の選択についてアドバイスできる
授業の方法	毎回講義終了時または開始時に課題および参考情報を提示し、講義時間および次回講義までの期間に取り組むPBL（課題解決型学習）方式にて行います（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習（90分）講義内容について確認し、必要に応じてWeb検索などを通じて自分なりに調べておくこと。復習（90分）講義内容を振り返り、報道等から得られる実生活に関する情報との関係について考察すること。
テキスト等	・教科書：毎回の講義に合わせて事前または当日にGoogle Classroomを通じてレジュメを配布する。・参考書：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編『ファイナンシャル・プランニング入門 -for Students-』

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	原則として理解の程度を測るための小テスト（２回程度の予定）により評価する予定です。（変更がある場合は事前にお知らせします）							

授業計画	①ガイダンス／ファイナンシャルプランニングとは
	②金融・経済環境に関する基礎知識
	③金融商品・資産運用に関する基礎知識
	④ライフプランニング：結婚資金設計
	⑤ライフプランニング：教育資金設計
	⑥ライフプランニング：住宅資金設計
	⑦社会保険制度：医療・介護保険の仕組みと経済的準備
	⑧社会保険制度：公的年金制度の仕組み
	⑨社会保険制度：公的年金制度の負担と給付と老後資金準備
	⑩企業保障制度
	⑪私的な保障手段：各種の金融商品と税制優遇制度
	⑫私的な保障手段：損害保険
	⑬私的な保障手段：生命保険と医療保険
	⑭私的な保障手段：個人年金保険
	⑮まとめと復習

科目名	ファイナンシャルプランニング論B
英文科目名	Financial Planning B
担当者名	井上智紀
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN210

授業の概要と到達目標	本講義は、商学部のディプロマ・ポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を達成するための科目である。現代では家族のあり方の多様化が進んでいます。一方で、高齢化の進展は相続や企業経営者における事業承継を難しくする側面もあるようです。ファイナンシャルプランニングにおいては、こうした多様な家族のあり方を前提としつつ、当人の夢や希望を正しくくみ取りプランに反映していくことが求められます。本講義では、「ファイナンシャルプランニングＡ」の内容を前提としつつ、人口・世帯構造の変化や生活者の金融選択行動に関する研究経験を活かし、社会の変化を踏まえた生活者の生活設計と金融商品選択上の課題を中心に座学による解説および演習を通じて以下の３点を到達目標とします。①家族のあり方の多様化の状況および税・社会保障など家計に関わる諸制度について理解を深める②計画的な資産形成の重要性と資産形成の手段について理解を深める③相続や事業承継の仕組みについて理解し、プランニング上の留意点について説明できる
授業の方法	毎回講義終了時または開始時に課題および参考情報を提示し、講義時間および次回講義までの期間に取り組むPBL（課題解決型学習）方式にて行います（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習（90分）講義内容について確認し、必要に応じてWeb検索などを通じて自分なりに調べておくこと。復習（90分）講義内容を振り返り、報道等から得られる実生活に関する情報との関係について考察すること。
テキスト等	・教科書：毎回の講義に合わせて事前または当日にGoogle Classroomを通じてレジュメを配布する。・参考書：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編『ファイナンシャル・プランニング入門 -for Students-』

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	原則として理解の程度を測るための小テスト（２回程度の予定）により評価する予定です。（変更がある場合は事前にお知らせします）							

授業計画
①ガイダンス／ファイナンシャルプランニングとは
②ライフコースの多様化がもたらす家族の多様性
③多様な家族のあり方とライフプランニング
④多様なライフコースのライフプランニング：生涯未婚
⑤多様なライフコースのライフプランニング：DINKS
⑥多様なライフコースのライフプランニング：その他のライフコースにおける留意点
⑦多様なライフコースのライフプランニング：金融・保険商品選択上の留意点
⑧ライフプランニングと税制・社会保障制度
⑨高齢化の進展と相続の実態
⑩相続に関わる諸制度
⑪相続を想定したライフプランニング：相続税の計算
⑫相続を想定したライフプランニング：不動産相続
⑬事業承継を想定したライフプランニング：事業承継時の留意点
⑭事業承継を想定したライフプランニング：事業承継のプランニング
⑮まとめと復習

科目名	金融工学A
英文科目名	Financial Technology A
担当者名	楠美将彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN301

授業の概要と到達目標	この授業では、株価が理論的にいくらになるかを学習する。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。その骨子は、ポートフォリオ理論として知られているものである。自分で資産を管理しなくてはならない現在、金融商品を正しく理解し、評価することは必要不可欠なこととなってきている。株価予想が完全にできないなかで、理論株価を知ることは重要である。また、株式を複数保有する効果についても紹介していく。説明の際、数学的表現は基本的な内容に留め、理論の核となる構造を中心に進めていく。金融総論A／Bなどの金融の基礎科目を履修していることが望ましい。
授業の方法	講義内容に沿ったレジュメを配付する。演習問題などを利用して、アクティブラーニングの形式で受講生に質疑応答をする。
予習と復習	予習(90分)として、レジュメを見て基本的なキーワードを確認してくる。復習(90分)として、授業内容の確認と演習問題の振り返りをして、課題を提出する。
テキスト等	授業時に講義資料を配付する。テキストはなく、参考文献として、大村敬一・楠美将彦『ファイナンスの基礎』(金融財政事業研究会)、大村敬一『ファイナンス論 －入門から応用まで 』(有斐閣ブックス)などがある。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
				0%				0%
	平常点は毎週の小課題と授業内の取り組みを対象とする。課題はGoogleフォームなどを利用する。授業内試験は２回を予定している。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							

授業計画	
	①ガイダンス
	②簡単な枠組みでの株式の評価
	③簡単な枠組みでの債券の評価
	④株式の期待リターン
	⑤株式のリスク
	⑥投資家のリスク選好
	⑦ポートフォリオとリスク分散効果
	⑧授業内中間試験と解説
	⑨株式の選択
	⑩株式市場のリスクと分離定理
	⑪株式価格の決定
	⑫CAPMの利用
	⑬投資パフォーマンス
	⑭授業内期末試験と解説
	⑮まとめと総復習

科目名	金融工学B
英文科目名	Financial Technology B
担当者名	楠美将彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN302
授業の概要と到達目標	この授業では、先物・オプションなどのデリバティブ商品の価格が理論的にどのように求められるかを学習する。また、企業の資金調達に使われる負債と株式の評価についても触れていく。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。デリバティブは保険商品をはじめとして多くの金融機関の商品に組み込まれるようになってきた。デリバティブの特徴は何か、どのように利用できるのか、その価格はいくらになるのか、といった疑問に答えていく。また、企業の資本構成の決定についても説明する。資金調達手段である株式と負債の評価も紹介する。説明の際、数学的表現は基本的な内容に留め、理論の核となる構造を中心に進めていく。講義内容に沿ったレジュメ資料を配付する。金融総論A／Bなどの金融の基礎科目を履修していることが望ましい。
授業の方法	講義内容に沿ったレジュメを配付する。演習問題などを利用して、アクティブラーニングの形式で受講生に対して質疑応答をする。
予習と復習	予習(90分)として、レジュメを見て基本事項を確認してくる。復習(90分)として、授業内容の確認と演習問題の振り返りをして、課題を提出する
テキスト等	授業時に講義資料を配付する。テキストはなく、参考文献として、大村敬一・楠美将彦『ファイナンスの基礎』(金融財政事業研究会)、大村敬一『ファイナンス論 －入門から応用まで 』(有斐閣ブックス)などがある。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
				0%				0%
	平常点は毎週の小課題と授業内の取り組みを対象とする。課題はGoogleフォームなどを利用する。授業内試験は２回を予定している。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							

授業計画
①ガイダンス
②先物と先渡し
③スワップ
④オプションと投資戦略
⑤オプションプレミアムの決定要因
⑥簡単なオプションモデル：2項モデル
⑦ブラック＝ショールズ＝マートン・モデル
⑧中間まとめ
⑨授業内中間試験と解説
⑩MMの第１命題
⑪MMの第２命題
⑫MMモデルの拡張
⑬エージェンシーコスト仮説
⑭授業内期末試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	金融論A
英文科目名	Monetary Economics A
担当者名	楠美将彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN303

授業の概要と到達目標	この講義では、金融総論などの必修科目で覚えた金融知識をベースに、様々な金融の問題や事象に対して、理論的な検討を行っていく。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。単にその問題がどのようなことを示しているのかを知るだけではなく、その問題が起きた理由、行われている対策や解決方法についても考えていく。最終的に、金融市場の役割、資産選択、企業の資金調達、金融政策の実際などの説明ができることを目指す。この授業では、講義内容に沿ったレジュメ資料を配付し、なるべく平易な説明を行う。金融総論A／Bなどの金融の基礎科目を履修していることが望ましい。
授業の方法	講義内容に沿ったレジュメ資料を配付する。講義は教科書とレジュメに沿って説明を進める。小課題などを利用して、アクティブラーニングの形式で受講生に対して質疑応答をする。
予習と復習	予習(90分)として、該当箇所の教科書とレジュメを見て基本事項を確認してくる。復習(90分)として、授業内容の確認とキータームの振り返りをして、課題を提出する。
テキスト等	テキストとして、福田慎一『金融論- 市場と経済政策の有効性［新版］』（有斐閣）を利用する。参考文献として、畫間文彦『基礎コース 金融論』（新世社）がある。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
				0%				0%
	平常点は毎週の小課題と授業内の取り組みを対象とする。課題はGoogleフォームなどを利用する。授業内試験は２回を予定している。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							

授業計画	
	①ガイダンス
	②金融の役割１　資金フロー
	③金融の役割２　銀行の情報生産
	④貯蓄と危険回避的行動１　家計の貯蓄行動
	⑤貯蓄と危険回避的行動２　期待効用仮説
	⑥最適な資産選択　平均分散アプローチとCAPM
	⑦資産価格と資産選択１　債券市場
	⑧授業内中間試験と解説
	⑨資産価格と資産選択２　株式市場
	⑩資金貸借市場１　設備資金の需要と資金貸借市場
	⑪資金貸借市場２　金融市場における情報の非対称性
	⑫企業の資金調達１　企業の設備投資
	⑬企業の資金調達２　情報の非対称性と信用割り当て
	⑭授業内期末試験と解説
	⑮まとめと総復習

科目名	金融論B
英文科目名	Monetary Economics B
担当者名	楠美将彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN304

授業の概要と到達目標	この講義では、金融総論などの必修科目で覚えた金融知識をベースに、様々な金融の問題や事象に対して、理論的検討を学んでいく。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。単にその問題がどのようなことを示しているのかを知るだけではなく、その問題が起きた理由、行われている対策や解決方法についても考えていく。最終的に、金融危機、金融政策、金融市場、インフレ・デフレなどの説明ができることを目指す。この授業では、講義内容に沿ったレジュメ資料を配付し、なるべく平易な説明を行う。また、毎週、金融関連の新聞記事を紹介することで、理論と現実のつながりを実感してもらう。金融総論A／Bなどの金融の基礎科目を履修していることが望ましい。
授業の方法	講義内容に沿ったレジュメ資料を配付する。講義は教科書とレジュメに沿って説明を進める。小課題などを利用して、アクティブラーニングの形式で受講生に対して質疑応答をする。
予習と復習	予習(90分)として、該当箇所の教科書とレジュメを見て基本事項を確認してくる。復習(90分)として、授業内容の確認とキータームの振り返りをして、課題を提出する。
テキスト等	テキストとして、福田慎一『金融論- 市場と経済政策の有効性［新版］』（有斐閣）を利用する。参考文献として、畫間文彦『基礎コース 金融論』（新世社）がある。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
				0%				0%
	平常点は毎週の小課題と授業内の取り組みを対象とする。課題はGoogleフォームなどを利用する。授業内試験は２回を予定している。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							

授業計画
①ガイダンス
②短期金融市場１　コール市場
③短期金融市場２　信用創造とシステミックリスク
④貨幣の理論１　貨幣の機能
⑤貨幣の理論２　貨幣需要
⑥日本銀行と金融政策
⑦中間まとめ
⑧授業内中間試験と解説
⑨伝統的経済政策とその有効性
⑩インフレとデフレ１　インフレ
⑪インフレとデフレ２　デフレ
⑫非伝統的な金融政策１　ゼロ金利下の金融政策
⑬非伝統的な金融政策２　わが国の非伝統的な金融政策
⑭授業内期末試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	リスクマネジメント論A
英文科目名	Risk Management A
担当者名	恩藏三穂
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN307
授業の概要と到達目標	＜授業の目標＞本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。＜授業の概要＞社会人になるにあたり、自分たちを取り巻くリスクはどのようなものがあるのか、そして、それらのリスクとどう向き合うのかについて考える知識を習得する必要がある。大学卒業後、例えば、就職、結婚、子供の出産や進学、住宅取得や老後生活など、様々なライフ・ステージ毎にリスクがある。これらのリスクを認識し、自分にあったライフ・プランを作成するためには、リスクマネジメントの一手段として活用される保険の知識が重要である。本講義では、私たちにとって身近なリスクマネジメントについて理解を深めるとともに、社会保険を含む保険についての基礎的な知識を解説する（外部講師を招聘する場合あり）。
授業の方法	この授業では、主として講義を行い、積極的な発言や質問を推奨する。また、自立的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、小テストやレポート等に取り組んでもらう（小テストやレポート等は一定水準を満たさない場合、評価対象外）。
予習と復習	予習（90分）授業計画に基づき次回の講義に当該する記事などを読み、関心を高めること。復習（90分）当日の授業内容を再度チェックして、各自まとめること。
テキスト等	堀田一吉・中浜隆編『現代保険学』(2023)有斐閣

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
小テストや課題等			60%	学期末点（レポートあるいはテスト）			40%
【課題（試験やレポート）に対するフィードバック】授業中に行う小テスト等については、適宜、解答を提示する（一定水準以下のものは、評価対象外）。							

授業計画
①イントロダクション
②私たちのくらしを取り巻くリスク
③リスクマネジメントの意義
④リスクマネジメントの基本
⑤保障の必要性
⑥社会保険：年金保険
⑦社会保険：医療保険、介護保険
⑧社会保険：労働者災害補償保険、雇用保険
⑨保険の種類：生命に関する保険
⑩保険の種類：財産に関する保険
⑪保険の種類：賠償に関する保険
⑫保険と共済等
⑬契約者保護等
⑭最近のリスクマネジメントの動向
⑮まとめと総復習

科目名	リスクマネジメント論B
英文科目名	Risk Management B
担当者名	恩藏三穂
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FIN308

授業の概要と到達目標	＜授業の目標＞本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。＜授業の概要＞企業を取り巻くリスクが多様化・複雑化する中、リスクマネジメントはますます重要性を高めている。本講義では、リスクマネジメントに関する基礎知識を習得した上で、リスクマネジメントの一手段である保険や代替的リスク移転（ART）等について解説する予定である（外部講師を招聘する場合あり）。
授業の方法	この授業では、主として講義を行い、積極的な発言や質問を推奨する。また、自立的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、小テストやレポート等に取り組んでもらう（小テストやレポート等は一定水準を満たさない場合、評価対象外）。
予習と復習	予習（90分）授業計画に基づき次回の講義に該当する記事などを読み、関心を高めておくこと。復習（90分）当日の授業内容を再度チェックして、各自、まとめること。
テキスト等	堀田一吉・中浜隆編『現代保険学』(2023)有斐閣

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	小テストやレポート等			60%	学期末点（レポートあるいはテスト）			40%
	【小テストや課題等に対するフィードバック】授業毎の小テストや課題等については、適宜、解答を提示する（一定水準以下のものは、評価対象外）。							

授業計画
①イントロダクション
②企業リスクとリスクマネジメント
③リスクの分類
④リスクマネジメント・プロセス：基本
⑤リスクマネジメント・プロセス：具体例
⑥リスクマネジメントとＢＣＰ（授業継続計画）：基本
⑦リスクマネジメントとＢＣＰ（授業継続計画）：具体例
⑧リスクマネジメントとCSR
⑨リスクマネジメントにおける保険の役割
⑩代替的リスク移転：キャプティブ
⑪代替的リスク移転：保険デリバティブ
⑫代替的リスク移転：リスクの証券化
⑬リスクマネジメントにおける今後の課題
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと復習

科目名	会計学総論A
英文科目名	An Introductory Accounting A
担当者名	西山徹二,川﨑芙有
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT101
授業の概要と到達目標	【目標】商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目です。この授業は、財務会計の基礎を学修することを目的としています。【概要】春学期に開講される会計学総論Aでは、企業がその経営状況を投資家など外部の関係者にどのように報告するか学ぶ財務会計を扱います。　なお、外部講師を招聘して、お話を伺うこともあります。
授業の方法	テキストに基づいて講義を行います。授業中に企業の会計情報を検索したり、授業内容や課題等に関するディスカッションを実施する（アクティブ・ラーニング）。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を実施することがあります。
予習と復習	【予習】テキストの該当箇所を読んだり、関連する内容を検索して情報収集したりしてください(90分)。【復習】テキストの該当箇所を読み返し、各自で講義内容を再確認してください(90分)。
テキスト等	上野清貴編著『スタートアップ会計学』第3版（同文舘出版）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
			0%				0%

平常点の具体的内容については、担当教員が授業内で公表します。また、小テスト、レポート、授業内試験などの課題を提出した場合のフィードバック方法（課題を返却するかどうか、評価と所見をどのように開示するか）についても担当教員が授業内で公表します。

授業計画
①ガイダンス
②会計とは何か？【1章】
③会計情報の利用（ROE）【3章】
④会計情報の利用（企業間比較）【3章】
⑤企業の経営成績（損益計算書）【4章】
⑥企業の経営成績（その他の財務諸表）【4章】
⑦会計情報の作成（貸借対照表・損益計算書）【7章】
⑧会計情報の作成（複式簿記の仕組み）【7章】
⑨会計制度（制度会計）【8章】
⑩会計制度（連結財務諸表）【8章】
⑪国際会計（会計ルール統一化）【11章】
⑫国際会計（IFRSs）【11章】
⑬会計の歴史【15章】
⑭まとめと総復習
⑮まとめと総復習

科目名	会計学総論B
英文科目名	An Introductory Accounting B
担当者名	西山徹二,川﨑芙有
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT102
授業の概要と到達目標	【目標】商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目です。この授業では、管理会計、税務会計および会計監査など会計学の諸分野の基礎を学修することを目的としています。【概要】秋学期に開講される会計学総論Bでは、企業が製造した製品の原価の計算方法や原価を低減させる工夫を学ぶ管理会計、企業が支払わなければならない法人税をどのように計算すべきか学ぶ税務会計、企業の作成した会計情報の信頼性をどのように保証するか学ぶ会計監査を中心に扱います。　なお、外部講師を招聘して、お話を伺うこともあります。
授業の方法	テキストに基づいて講義を行います。授業中に企業の会計情報を検索したり、授業内容や課題等に関するディスカッションを実施する（アクティブ・ラーニング）。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を実施することがあります
予習と復習	【予習】テキストの該当箇所を読んだり、関連する内容を検索して情報収集したりしてください(90分)。【復習】テキストの該当箇所を読み返し、各自で講義内容を再確認してください(90分)。
テキスト等	上野清貴編著 『スタートアップ会計学』第3版（同文舘出版）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
			0%				0%

平常点の具体的内容については、担当教員が授業内で公表します。また、小テスト、レポート、授業内試験などの課題を提出した場合のフィードバック方法（課題を返却するかどうか、評価と所見をどのように開示するか）についても担当教員が授業内で公表します。

授業計画
①ガイダンス
②経営管理と会計（CVP分析）【5章】
③経営管理と会計（意思決定会計）【5章】
④製品の原価計算（費目別計算）【6章】
⑤製品の原価計算（部門別計算）【6章】
⑥製品の原価計算（製品別計算）【6章】
⑦財務諸表の監査（財務諸表監査の目的）【9章】
⑧財務諸表の監査（監査意見）【9章】
⑨企業と税金（法人税の意義）【10章】
⑩企業と税金（課税所得の計算）【10章】
⑪環境と会計【12章】
⑫NPO法人と会計【13章】
⑬自治体と会計【14章】
⑭まとめと総復習
⑮まとめと総復習

科目名	財務会計論A
英文科目名	Financial Accounting A
担当者名	西山徹二
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT201
授業の概要と到達目標	【目標】商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目であり、財務会計における基礎的な理論の習得を目標としています。【概要】企業がどのように一会計期間における利益を計算するのかを中心に授業を進めていきます。また、会計制度と会計基準や利益の計算と資産評価の関係についても扱います。
授業の方法	スライドを用いて説明を行い、テキストの該当箇所を確認することで理解を深めます。授業内容や課題等に関するディスカッションを実施します（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	【予習】各授業のテーマに関連するテキストの範囲を読み、わからないことをネットで調べるようにしてください（90分）。【復習】各授業の内容を再確認し、テキストをしっかりと読んでください（90分）。
テキスト等	桜井久勝著『財務会計講義』第27版（中央経済社）　2026年3月出版

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
				0%				0%
	平常点の内訳は授業内に担当教員が説明します。課題を提出した場合は、個別に返却して評価を提示します。							

授業計画
①ガイダンス
②財務会計の機能と制度（テキスト第1章）
③利益計算の仕組み（テキスト第2章）
④会計基準の必要性（テキスト第3章）
⑤企業会計原則の一般原則（テキスト第3章）
⑥現金主義会計と発生主義会計（テキスト第4章）
⑦資産評価の基準（テキスト第4章）
⑧現金預金（テキスト第5章）
⑨有価証券（テキスト第5章）
⑩収益認識（テキスト第6章）
⑪売上債権（テキスト第6章）
⑫売上原価（テキスト第7章）
⑬棚卸資産の期末評価（テキスト第7章）
⑭授業内試験
⑮まとめと総復習

科目名	財務会計論B
英文科目名	Financial Accounting B
担当者名	西山徹二
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT202
授業の概要と到達目標	【目標】商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目であり、財務会計における基礎的な理論の習得を目標としています。【概要】資産会計、負債会計および純資産会計を中心として授業を行います。また、連結財務諸表や外貨建取引等の換算も扱います。
授業の方法	スライドを用いて説明を行い、テキストの該当箇所を確認することで理解を深めます。授業内容や課題等に関するディスカッションを実施します（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	【予習】各授業のテーマに関連するテキストの範囲を読み、わからないことをネットで調べるようにしてください（90分）。【復習】各授業の内容を再確認し、テキストをしっかりと読んでください（90分）。
テキスト等	桜井久勝著『財務会計講義』第27版（中央経済社）2026年3月出版

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
				0%				0%
	平常点の内訳は授業内に担当教員が説明します。課題を提出した場合は、個別に返却して評価を提示します。							

授業計画
①ガイダンス
②有形固定資産の減価償却（テキスト第8章）
③リース会計（テキスト第8章）
④無形固定資産（テキスト第9章）
⑤引当金（テキスト第10章）
⑥税効果会計（テキスト第10章）
⑦純資産（テキスト第11章）
⑧財務諸表（テキスト第12章）
⑨連結財務諸表の公表制度（テキスト第13章）
⑩連結財務諸表の作成手続（テキスト第13章）
⑪持分法（テキスト第13章）
⑫外貨建取引の換算（テキスト第14章）
⑬在外支店・在外子会社の財務諸表項目の換算（テキスト第14章）
⑭授業内試験
⑮まとめ

科目名	管理会計論A
英文科目名	Management Accounting A
担当者名	三浦紘嵩
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT301

授業の概要と到達目標	［授業の概要］「管理会計」に対して、どのようなイメージをお持ちだろうか。多くの学生は、売上や原価といった「財務指標」を管理するための理論という印象を持っているかもしれない。しかし、現代の管理会計がカバーする領域は、物量や品質などの「非財務指標」まで含んでおり、想定以上に広範である。 そこでこの授業では、具体的な企業事例の検討を通じて、管理会計の機能や役割を多角的に学習する。特に春学期においては、非財務指標との比較の基礎とするため、まずは財務指標を用いた管理手法に焦点をあて、管理会計の本質的な仕組みについて理解を深めていく。なお本科目は、商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための専門科目として位置づけられる。［到達目標］〇管理会計の言葉の意味を説明できる。〇管理会計の具体的な使い方を理解する。
授業の方法	〇授業時間の途中で、ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間を設ける。〇スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。
予習と復習	〇予習（90分）事前にスライドや教科書を精読し、要点をノートにまとめておくこと。〇復習（90分）授業後、その日のうちに授業内容を再確認し、例題や章末問題を解くこと。
テキスト等	教科書：清水孝・庵谷治男『基礎管理会計』（中央経済社）。参考書：浅田孝幸・頼誠・鈴木研一・中川優・佐々木郁子『管理会計・入門［第4版］』（有斐閣）。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%
	〇毎回の授業で課す課題（選択・計算・記述）に基づき、全般的な評価と所見を提示する。〇評価基準については初回授業で説明するので、必ず参加すること。〇課題の一部について、全般的な評価と所見を授業内で開示する。							

授業計画	①イントロダクション
	②業績管理会計の意義
	③短期利益計画Ⅰ：短期利益計画の基礎概念、CVP分析の前提としての変動費と固定費
	④短期利益計画Ⅱ：CVP分析
	⑤予算管理Ⅰ：予算管理の基礎概念、予算編成
	⑥予算管理Ⅱ：予算統制、予算管理の革新（脱予算経営）
	⑦バランスト・スコアカード
	⑧中間まとめ
	⑨資金管理Ⅰ：資金管理の基礎概念
	⑩資金管理Ⅱ：資金繰表の作成、資金運用表の作成
	⑪事業部制会計と業績評価Ⅰ：事業部制組織とカンパニー制組織、直接原価計算
	⑫事業部制会計と業績評価Ⅱ：セグメント別損益計算書、事業部ROI・残余利益・EVA
	⑬ミニ・プロフィット・センター
	⑭アメーバ経営
	⑮まとめと総復習

科目名	管理会計論B
英文科目名	Management Accounting B
担当者名	三浦紘嵩
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT302

授業の概要と到達目標	［授業の概要］秋学期では、財務指標（売上・原価等）と、その背後にある非財務指標（物量・品質等）をいかに統合して管理するかを学習する。 営利企業の究極的な目的は利益の創出にあるが、利益という「結果」を改善するためには、生産効率や製品品質といった「プロセス（非財務情報）」の適切な管理が不可欠である。 この授業では、具体的な企業事例の検討を通じて、財務・非財務の両指標を連動させる具体的な管理手法を考察する。これにより、企業の管理会計担当者が、いかにして現場の活動を全社的な業績向上へと結びつけているのか、その実務的なメカニズムを理解することを目指す。なお本科目は、商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための専門科目として位置づけられる。［到達目標］〇管理会計の言葉の意味を説明できる。〇管理会計の具体的な使い方を理解する。
授業の方法	〇授業時間の途中で、ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間を設ける。〇スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。
予習と復習	〇予習（90分）事前にスライドや教科書を精読し、要点をノートにまとめておくこと。〇復習（90分）授業後、その日のうちに授業内容を再確認し、例題や章末問題を解くこと。
テキスト等	教科書：清水孝・庵谷治男『基礎管理会計』（中央経済社）。参考書：浅田孝幸・頼誠・鈴木研一・中川優・佐々木郁子『管理会計・入門［第4版］』（有斐閣）。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%
	〇毎回の授業で課す課題（選択・計算・記述）に基づき、全般的な評価と所見を提示する。〇評価基準については初回授業で説明するので、必ず参加すること。〇課題の一部について、全般的な評価と所見を授業内で開示する。							

授業計画	①イントロダクション
	②戦略管理会計の意義
	③原価管理Ⅰ：原価管理の基礎概念、原価維持
	④原価管理Ⅱ：原価改善
	⑤原価管理Ⅲ：原価企画の意義と展開プロセス
	⑥原価管理Ⅳ：原価企画の手段的特徴
	⑦ライフサイクル・コスティング
	⑧品質管理会計
	⑨中間まとめ
	⑩活動基準原価計算Ⅰ：伝統的な部門別個別原価計算の問題点
	⑪活動基準原価計算Ⅱ：ABCの基礎概念、ABCの計算方法
	⑫活動基準原価計算Ⅲ：ABCの計算例（実際配賦）、ABMの考え方
	⑬レベニュー・マネジメントⅠ：コスト・ベースの販売価格設定
	⑭レベニュー・マネジメントⅡ：マーケット・ベースの販売価格設定
	⑮まとめと総復習

科目名	工業簿記Ⅰ
英文科目名	Cost Accounting Practice Ⅰ
担当者名	三浦紘嵩
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT203

授業の概要と到達目標	［授業の概要］製品の製造に際しては、材料や労働力、機械などが用いられる。このような製造活動において、原価要素の支払いや消費を記録するのが、工業簿記である。正確な手続きで記録することは、正確な財務諸表の作成や原価管理のために重要である。この授業を通じ、原価計算の手続きや、経営管理における原価情報の重要性を理解してほしい。なお本科目は、商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための専門科目として位置づけられる。［到達目標］〇工業簿記・原価計算の基本的な考え方と記録の方法を身に着ける。
授業の方法	〇授業時間の途中で、ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間を設ける。〇スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。
予習と復習	〇予習（90分）事前にスライドや教科書を精読し、要点をノートにまとめておくこと。〇復習（90分）授業後、その日のうちに授業内容を再確認し、設例や基本例題を解くこと。
テキスト等	教科書：TAC株式会社『合格テキスト 日商簿記２級 工業簿記 Ver.10（よくわかる簿記シリーズ)』（TAC出版）※2026年4月時点で最新の版を使う。電卓：授業内問題演習で使用する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

〇授業内試験で評価をおこなう。感染症の蔓延等で実施が難しい場合には、期末レポートに切り替える可能性がある。〇試験について、全般的な評価と所見を授業内で開示する。

授業計画
①イントロダクション
②工業簿記の基礎・工業簿記の勘定連絡
③材料費計算Ⅰ：材料費の分類、実際消費数量の計算など
④材料費計算Ⅱ：予定価格法、棚卸減耗費の計算など
⑤労務費計算Ⅰ：労務費の分類、賃金の支払い
⑥労務費計算Ⅱ：賃金の消費
⑦経費計算
⑧授業内試験①：費目別原価計算のまとめ
⑨個別原価計算Ⅰ：製造間接費の実際配賦、仕損・作業屑
⑩個別原価計算Ⅱ：製造間接費の予定配賦、製造間接費配賦差異の分析
⑪部門別個別原価計算Ⅰ：原価部門への集計
⑫部門別個別原価計算Ⅱ：製造部門費の実際配賦
⑬部門別個別原価計算Ⅱ：製造部門費の予定配賦
⑭授業内試験②：個別原価計算のまとめ
⑮まとめと総復習

科目名	工業簿記Ⅱ
英文科目名	Cost Accounting Practice Ⅱ
担当者名	三浦紘嵩
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT204

授業の概要と到達目標	［授業の概要］製品の製造に際しては、材料や労働力、機械などが用いられる。このような製造活動において、原価要素の支払いや消費を記録するのが、工業簿記である。正確な手続きで記録することは、正確な財務諸表の作成や原価管理のために重要である。この授業を通じ、原価計算の手続きや、経営管理における原価情報の重要性を理解してほしい。なお本科目は、商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための専門科目として位置づけられる。［到達目標］〇工業簿記・原価計算の基本的な考え方と記録の方法を身に着ける。
授業の方法	〇授業時間の途中で、ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間を設ける。〇スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。
予習と復習	〇予習（90分）事前にスライドや教科書を精読し、要点をノートにまとめておくこと。〇復習（90分）授業後、その日のうちに授業内容を再確認し、設例や基本例題を解くこと。
テキスト等	教科書：TAC株式会社『合格テキスト 日商簿記２級 工業簿記 Ver.10（よくわかる簿記シリーズ)』（TAC出版）※2026年4月時点で最新の版を使う。電卓：授業内問題演習で使用する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

〇授業内試験で評価をおこなう。感染症の蔓延等で実施が難しい場合には、期末レポートに切り替える可能性がある。〇試験について、全般的な評価と所見を授業内で開示する。

授業計画
①イントロダクション
②総合原価計算Ⅰ：総合原価計算の基礎と月末仕掛品の評価
③総合原価計算Ⅱ：月初仕掛品の存在、直接材料の投入時点
④総合原価計算Ⅲ：正常仕損費の処理（仕損品の評価額がない場合）
⑤総合原価計算Ⅲ：正常仕損費の処理（仕損品の評価額がある場合）
⑥総合原価計算Ⅳ：工程別総合原価計算
⑦総合原価計算Ⅴ：組別、等級別総合原価計算
⑧総合原価計算の計算演習
⑨授業内試験①：総合原価計算のまとめ
⑩標準原価計算Ⅰ：標準原価の基礎と計算
⑪標準原価計算Ⅱ：原価差異の計算と分析
⑫直接原価計算Ⅰ：全部原価計算と直接原価計算
⑬直接原価計算Ⅱ：短期利益計画とCVP分析
⑭授業内試験②：標準原価計算のまとめ
⑮まとめと総復習

科目名	原価計算論A
英文科目名	Cost Accounting A
担当者名	成田博
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT205

授業の概要と到達目標	【目標】製造業の取引を対象とする原価計算について、その基礎概念および一連の原価計算プロセス，特に費目別計算と部門別計算までの計算プロセスを理解することを目標とする。【概要】原価の諸概念および原価計算プロセスにおける材料費、労務費、経費の具体的計算方法や部門費の配賦プロセスについて講義する。宿題としてレポートや計算問題を課す予定である。継続して出席し、これらの課題に取り組むことが重要となる。計算演習も含まれるため、授業には計算機を持参すること。「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献」することを達成するための科目である。
授業の方法	レジュメとテキストを中心として講義を進めるが、アクティブ・ラーニング促進のため、計算テストやリアクションペーパーによる理解確認を行う。
予習と復習	「予習(90分)　事前に提供されるレジュメとテキストの該当部分を精読し、要点をノートにまとめておくこと。」 「復習(90分)　講義終了後には復習そしてテキスト等の計算問題を解くことで理解を確実なものとすること。」
テキスト等	上埜　進編著　『工業簿記・原価計算の基礎　理論と計算』　税務経理教会

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	10%	平常点	20%
				0%				0%
	レポート・小テストについては全体的な評価と解説を行い返却する。毎回の講義後に実施する復習テストを平常点として評価対象とするので、授業を欠席しないことが重要である。なお、理由を問わず授業３回を超えて欠席した場合は原則として単位取得資格を失う。							

授業計画
①講義ガイダンスおよび原価計算の概念
②原価計算の基礎概念
③原価計算と工業簿記
④原価計算の目的・類型と原価の諸概念
⑤材料費の計算
⑥まとめと小テスト①
⑦労務費の計算
⑧経費の計算
⑨製造間接費の計算と配賦
⑩まとめと小テスト②
⑪部門別計算の意義と目的
⑫部門共通費の配賦プロセス
⑬補助部門費の製造部門への配賦
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	原価計算論B
英文科目名	Cost Accounting B
担当者名	成田博
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT206
授業の概要と到達目標	【目標】製造業を対象とした種々の製品別原価計算の方法について、その意義と記録・計算プロセスを理解することを目標とする。【概要】前半は、制度として実施される財務会計目的の原価計算を中心として解説し、後半では管理会計目的の原価計算について最近の新しい手法を含めて解説する。「原価計算論Ａ」を履修しておくことが望ましいが、初学者にも対応可能な講義を予定している。宿題としてレポートや計算問題を課す予定である。継続して出席し、これらの課題に取り組むことが重要となる。計算演習も含まれるため、受講の際には計算機を持参すること。「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献」することを達成するための科目である。
授業の方法	レジュメとテキストを中心として講義を進めるが、アクティブ・ラーニング促進のため、計算テストやリアクションペーパーによる理解確認を行う。
予習と復習	「予習(90分)　事前にＴ-Ｎａｖｉで配布されるレジュメとテキストの該当部分を精読し、要点をノートにまとめておくこと。」「復習(90分)　講義終了後には復習そしてテキスト等の計算問題を解くことで理解を確実なものとすること。」
テキスト等	上埜　進編著　『工業簿記・原価計算の基礎　理論と計算』　税務経理教会

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	10%	平常点	20%
				0%				0%
	レポート・小テストについては全体的な評価と解説を行い返却する。毎回の講義後に実施する復習テストを平常点として評価対象とするので、授業を欠席しないことが重要である。なお、理由を問わず授業3回を超えて欠席した場合は原則として単位取得資格を失う。							

授業計画
①講義ガイダンスおよび原価計算の基礎
②原価の概念と費目別計算
③原価計算のプロセスと部門別計算
④製品別計算と個別原価計算の概念
⑤個別原価計算のプロセスと仕損費等の処理
⑥まとめと小テスト①
⑦個別原価計算と総合原価計算
⑧総合原価計算の概念と類型
⑨総合原価計算のプロセスと仕損費等の処理
⑩工程別・等級別総合原価計算
⑪標準原価計算の概念と原価管理
⑫標準原価差異の計算と分析
⑬直接原価計算と損益分岐点分析
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	コンピュータ会計A
英文科目名	Computer Accounting A
担当者名	櫻井康弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT207
授業の概要と到達目標	【目標】会計業務のコンピュータ化において、財務諸表の産出を主な機能として構築される総勘定元帳システム（G／Lシステム）を理解することを目標とする。【概要】会計業務における手作業とコンピュータ処理との相違を確認しながら、総勘定元帳システムの構築要件と構造を学ぶ。講義内容の理解をより確実とすることを目的として、講義に加えて表計算ソフトおよび会計パッケージ・ソフトを利用した演習を実施するが、高度なプログラミング能力や会計的知識を必要とするものではない。この科目は「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献」することを達成するための科目である。
授業の方法	Excel（表計算ソフト）や会計ソフトを利用したコンピュータ実習を実施する。アクティブ・ラーニング促進のため、復習テストやリアクションペーパーによる理解確認を行う。
予習と復習	「予習(90分)　事前に提供されるレジュメとテキストの該当部分を精読し、要点をノートにまとめておくこと。」 「復習(90分)　講義終了後には講義・実習内容について再度確認して理解を確実なものとすること。」
テキスト等	河合久・櫻井康弘・成田博・堀内恵『コンピュータ会計基礎（新版）』創成社

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	0%	平常点	70%
			0%				0%

上記の方法で総合評価する。なお、理由を問わず授業３回を超えて欠席した場合は単位取得資格を失う。実習課題などの提出物、復習テストは成績評価における平常点の対象となる。

授業計画
①企業活動と会計システム
②会計システムの構造：取引処理システムと総勘定元帳（G/L）システム
③総勘定元帳システムの基本構造①：G/Lシステムの基本設計
④総勘定元帳システムの基本構造②：取引入力サブシステムの設計と運用
⑤総勘定元帳システムの基本構造③：試算表作成サブシステムの設計と運用
⑥総勘定元帳システムの基本構造④：元帳作成サブシステムの設計と運用
⑦総勘定元帳システムの基本構造⑤：決算処理と期末試算表作成サブシステム
⑧総勘定元帳システムの基本構造⑥：売上損益計算における手記簿記との違い
⑨会計ソフトの概要
⑩会計ソフトの運用①：導入処理
⑪会計ソフトの運用②：会計取引の入力
⑫会計ソフトの運用③：帳簿出力
⑬会計ソフトの運用④：決算処理
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	コンピュータ会計B
英文科目名	Computer Accounting B
担当者名	櫻井康弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT208

授業の概要と到達目標	企業では、購買業務や販売業務によって発生する業務データを処理する業務処理システムと総勘定元帳システム（G/Lシステム）とが連動して財務諸表を産出する取引処理システム（TPS）が構築・運用されている。授業では、業務データの入力から財務諸表の産出までのプロセスを学び、取引処理システムの構築要件と会計処理の基本概念を理解することを目標とする。さらに、経営管理に役立つための会計情報を産出するプロセスについても学習する。講義内容の理解をより確実とするため、講義にくわえて表計算ソフト等を利用した演習も実施する。この科目は「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献」することを達成するための科目である。
授業の方法	Excel（表計算ソフト），Access（データベースソフト），会計ソフトを利用したコンピュータ実習を実施する。アクティブ・ラーニング促進のため、復習テストやリアクションペーパーによる理解確認を行う。
予習と復習	「予習(90分)　事前に提供されるレジュメとテキストの該当部分を精読し、要点をノートにまとめておくこと。」 「復習(90分)　講義終了後には講義・実習内容について再度確認して理解を確実なものとすること。」
テキスト等	河合久・櫻井康弘・成田博・堀内恵『コンピュータ会計基礎（新版）』創成社

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	0%	平常点	70%
			0%				0%

上記の方法で総合評価する。なお、理由を問わず授業３回を超えて欠席した場合は単位取得資格を失う。実習課題などの提出物、復習テストは成績評価における平常点の対象となる。

授業計画
①取引処理システム（TPS）の形態
②準統合型TPSの基本構造①：販売管理システム
③準統合型TPSの基本構造②：購買管理システム
④準統合型TPSの基本構造③：在庫管理システム
⑤準統合型TPSの基本構造④：在庫管理システム
⑥準統合型TPSの基本構造⑤：自動仕訳システム
⑦準統合型TPSの基本構造⑥：月次決算処理に関する実務的特徴
⑧準統合型TPSの基本構造⑦：3月取引処理
⑨準統合型TPSの基本構造⑧：3月決算処理
⑩統合型TPSの基本構造：リアルタイム処理と売上原価対立法
⑪会計ソフトの部門別運用①：導入処理
⑫会計ソフトの部門別運用②：取引入力と帳簿産出
⑬会計ソフトの部門別運用③：決算処理と部門別損益計算
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	高等簿記Ⅰ
英文科目名	Intermediate Accounting Practice Ⅰ
担当者名	北井不二男
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT209

授業の概要と到達目標

〈授業の概要〉高等簿記Ⅰでは、すでに基礎的な簿記の知識・技能を修得した学生を対象として、簿記Ⅰ・簿記Ⅱで取り扱ってきた諸取引に関し、より高度な処理について学習する。簿記の学習は、いきおい検定試験対策に偏りがちだが、履修者には、企業活動のしくみや意義を考えてもらうため、実際の企業を題材とした調査やレポートも課すこととする。〈到達目標〉諸取引に関する内容の理解と、適切な処理能力を身に付けることを目標とする。商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目である。

授業の方法

単元ごとに講義を行い、アクティブ・ラーニングとしてこれを確認するため、問題演習と解説を行う。

予習と復習

予習（90分）次回授業分として配布する講義プリントを精読しておくこと。　復習（90分）当日の授業内容を復習し、演習問題を再確認すること。

テキスト等

授業内容に即したプリントを毎回配布する。Ａ４サイズのポケットファイル、12桁の電卓を用意すること。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	20%	平常点	0%
授業中に実施する課題など			10%				0%

授業中に実施する課題、レポートについて全般的所見を提示する。

授業計画

①ガイダンス
②簿記一巡の流れ
③現金
④預金
⑤報告式損益計算書の構造
⑥商品売買（１）　商品売買の処理
⑦商品売買（２）　売上原価の算定、期末商品の評価
⑧電子記録債権・電子記録債務
⑨有価証券（１）　有価証券の種類と分類、有価証券の購入・売却
⑩有価証券（２）　有価証券の評価
⑪固定資産（１）　有形固定資産の取得、減価償却
⑫固定資産（２）　有形固定資産の売却、除却、廃棄、滅失　　無形固定資産
⑬収益と費用
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	高等簿記Ⅱ
英文科目名	Intermediate Accounting Practice Ⅱ
担当者名	北井不二男
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT210

授業の概要と到達目標	〈授業の概要〉高等簿記Ⅱでは、主として株式会社を対象とした会計処理について学習する。現代社会において、株式会社は経済活動の中心的な役割を果たしている。授業では会社と株主の関係を踏まえ、株式会社の会計と個人企業の会計の違いを明確にする。また、経済社会で行われているハイレベルな取引についても触れ、その意義や処理方法を学ぶ。実際の企業の財務諸表や決算公告なども取り入れて授業を進める。〈到達目標〉株式会社会計などを理解し、適切な処理能力を身に着けることを目標とする。商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目である。
授業の方法	単元ごとに講義を行い、アクティブ・ラーニングとしてこれを確認するため、問題演習と解説を行う。
予習と復習	予習（90分）次回授業分として配布する講義プリントを精読しておくこと。　復習（90分）当日の授業内容を復習し、演習問題を再確認すること。
テキスト等	授業内容に即したプリントを毎回配布する。Ａ４サイズのポケットファイル、１２桁の電卓を用意すること。

評価方法							
定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	30%	平常点	0%
授業中に行う課題（小テストを含む）			10%				0%

授業中に実施する課題、レポートについて全般的所見を提示する。

授業計画
①ガイダンス
②株式会社のしくみ
③株式会社の純資産項目
④株式の発行
⑤剰余金の配当と処分（１）　損益の計算と処理
⑥剰余金の配当と処分（２）　準備金積立額の計算
⑦ここまでの復習と演習
⑧税金の処理（１）租税公課、法人税等
⑨税金の処理（２）追徴・還付、消費税
⑩外貨建取引（１）換算、換算替え
⑪外貨建取引（２）為替予約
⑫財務諸表の構造
⑬有価証券報告書
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	会計史A
英文科目名	Accounting History A
担当者名	桑原正行
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT303

授業の概要と到達目標	<授業の概要>本講義の概要は下記の授業計画に示していますが、古代社会の文明国の簿記からイタリア・ルネッサンス時代に複式簿記が出現するまでの経緯、そしてそのイタリア式簿記が現代の形式に改善・工夫されていく発展、そして産業革命の中心であるイギリスにおける複式簿記の理論や実務を中心にを講義していきます。<授業の目標>簿記の発展、特に複式簿記に関して、その出現の前後を通して、経済・商業（貿易）・企業規模と密接に結びついていることを理解し、今日に至る簿記会計理論がいかに生成・発展してきたかを理解することにあります。<ディプロマ・ポリシー>本講義は、概要で記載したように、今日の簿記会計理論の意義や特徴を理解することによって、財務・会計知識を習得することができ、作成された会計情報を多面的に適切に活用し企業活動に貢献できる人材を育成します。
授業の方法	予め配布するパワーポイントの資料をもとに授業を行い、随時、質疑応答を実施します。また自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、講義理解度確認の小試験またはミニ・レポートを課題として課すので、期限内に必ず作成した回答を送信してください。
予習と復習	予習（90分）事前に資料を精読し、サブノートを作成し、要点や疑問点についてまとめておき、授業時間に質問ができるようにしてください。復習（90分）当日の講義内容を資料や得られた解説や質問へのコメントをもとに、疑問点を解決させてサブノートを完成させてください
テキスト等	中野常男・清水泰洋（共編著）『近代会計史入門』（第2版）同文舘出版・・・会計史Bでも使用します。その他の参考図書等については、授業の都度紹介します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	授業最後の時に、授業内試験を行います。試験時間は60分で、授業で各自が作成したサブノート、テキスト、配布資料は持込み可とします。その他の平常点やレポート点については、最初の講義の時に説明します。一定の出席がない学生は，評価の対象とはなりません。							

授業計画
①ガイダンス
②会計史研究とは何か
③歴史の見かたについて
④文明のはじまりと「会計」の起源
⑤勘定の形成とその体系化：複式簿記の起源
⑥イタリア（ヴェネツィア）式簿記の特徴について
⑦ルカ・パチョーリと彼の簿記論（1494）
⑧複式簿記の伝播前後のフランス、スペイン、および、南ドイツと北ドイツの会計事情
⑨ヨーロッパにおける南北貿易圏の接合と複式簿記の伝播
⑩南ネーデルランド（特にブルッヘ）の会計事情
⑪南ネーデルランド（特にアントウェルペン）の簿記事情
⑫ネーデルランド（特にアムステルダム）の会計事情
⑬イギリス（イングランド）への複式簿記の伝播
⑭イギリスにおける初期の複式簿記解説書と簿記教授法の工夫
⑮まとめと総復習（授業内試験）

科目名	会計史B
英文科目名	Accounting History B
担当者名	桑原正行
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT304

授業の概要と到達目標	<授業の概要>本講義は、近代的な会社組織である株式会社がどのように生成され、会計と関連していったかを東インド会社を対象に考察し、その後現代の会計理論等が出来上がるまでの展開を、特に19・20世紀のアメリカにおける資本主理論を念頭においた簿記会計理論の説明を中心に進めていきます。<授業の目標>今日の簿記会計に関する理論・基準・実務等が出来上がるまでの変遷を理解することにあります。授業計画に示すように、現代の会計基準・理論がどのような歴史的展開のもとに出来上がってきたのかを理解することによって、将来、企業環境が変化した際に、会計に関する理論・基準はどのようにあるべきかを考えることができる能力を身につけることにあります。<ディプロマ・ポリシー>本講義は、現行の基準等が成立するまでの過程を理解することによって、財務・会計知識を正確に習得でき、会計情報を活用して企業活動に貢献でき、さらには将来への変更にも十分対応できる人材を育成します。
授業の方法	予め配布するパワーポイントの資料をもとに授業を行い、随時、質疑応答を実施します。また自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、講義理解度確認の小試験またはミニ・レポートを課題として課すので、期限内に必ず作成した回答を送信してください。
予習と復習	予習（90分）事前に資料を精読し、サブノートを作成し要点や疑問点についてまとめておき、授業時間に質問ができるようにしてください。復習（90分）当日の講義内容を資料や得られた解説や質問へのコメントをもとに、疑問点を解決させてサブノートを完成させてください。
テキスト等	中野常男・清水泰洋（共編著）『近代会計史入門』（第2版）同文舘出版・・・会計史Aでも使用します。その他の参考図書等については、授業の都度紹介します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	授業最後の時に、授業内試験を行います。試験時間は60分で、授業で各自が作成したサブノート、テキスト、配布資料は持込み可とします。その他の平常点やレポート点については、最初の講義の時に説明します。一定の出席がない学生は，評価の対象とはなりません。							

授業計画	
	①ガイダンス
	②株式会社の起源：オランダ東インド会社の誕生（1602）と同社の会計事情
	③イギリス東インド会社の組織改革と近代的株式会社の出現
	④17世紀イギリス東インド会社の会計事情：複式簿記の導入と財務報告
	⑤18世紀スコットランドの簿記書と資本主理論の萌芽
	⑥産業革命期イギリスにおける複式簿記の革新と資本主理論の生成
	⑦植民地時代から独立革命前後のアメリカ会計事情
	⑧南北戦争前後のアメリカの会計事情と会計教育の発展
	⑨19世紀後半アメリカにおける資本主理論の展開
	⑩C.E.Spragueと資本主理論の確立
	⑪H.R.Hatfieldにおける近代会計学の誕生：資本主理論の転換
	⑫W.A.Patonにおける簿記会計理論の特徴：企業実体理論の特徴
	⑬アメリカにおける1920・1930年代の特徴と証券取引法
	⑭アメリカにおける企業会計原則の制定とその展開
	⑮まとめと総復習（授業内試験）

科目名	国際会計論A
英文科目名	International Accounting A
担当者名	土井充
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT305

授業の概要と到達目標	＜目標＞　商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目です。＜授業の概要＞　この講義では、国際的な会計基準が必要とされるようになった歴史的経緯を学ぶとともに、現在、130を越える国と地域で採用されている国際財務報告基準（ＩＦＲＳ）の背後にある概念的な枠組みや、ＩＦＲＳに基づく財務諸表の体系を学びます。　こうしたＩＦＲＳに関する知識を修得することは、企業において会計情報を作成する力や活用する力を養うことになります。＜到達目標＞　この講義では、以下の財務会計の知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できるようになることを目指します。ＩＦＲＳの必要性の理解　ＩＦＲＳの理論的特徴の理解　ＩＦＲＳに基づく財務諸表の体系とわが国会計基準に基づく財務諸表の体系の異同の理解＜履修条件＞　この講義では、簿記 Ｉ・簿記 IIの学修内容に関する知識を有していることを前提とします。
授業の方法	講義の始めに、レジュメやスライドなどを用いて授業の内容を説明します。その後、講義の論点についての記帳練習やミニレポートの作成の時間を設けます。その際、一部の授業回では課題解決型学習（アクティブラーニング）を実施します。
予習と復習	【予習】事前に配布するレジュメを読んだり、情報収集してきてください。（90分）【復習】レジュメや記帳練習を見直し、各自でまとめておくようにしてください。また、課題が出された場合は、解決策について主体的に学修し、学修したことを要約してください。（90分）
テキスト等	講義の教材等は、事前に授業中に配布します。追加の参考資料等は、必要に応じて講義時に指示します。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	0%
	授業ごとの課題			40%				0%
	上記の方法により総合評価します。レポートおよび授業ごとの課題(記帳練習やミニレポート等)について、返却せずに全般的評価と所見を提示します。なお、出席が過度に不良の場合、「Y3 評価（過度の出席不良）」の不合格とします。							

授業計画
①ガイダンス（講義概要の説明）
②国際会計の必要性
③各国の会計制度
④国際会計基準審議会（ＩＡＳＢ）／国際財務報告基準（ＩＦＲＳ）の歴史
⑤各国のＩＦＲＳ対応
⑥ＩＦＲＳの特徴
⑦概念フレームワーク１：一般目的財務報告の目的
⑧概念フレームワーク２：有用な財務情報の質的特性
⑨概念フレームワーク３：財務諸表の構成要素
⑩概念フレームワーク４：認識および測定
⑪財務諸表の表示１：財政状態計算書、包括利益計算書
⑫財務諸表の表示２：キャッシュフロー計算書など
⑬わが国会計基準との異同　その１
⑭わが国会計基準との異同　その２
⑮まとめと総復習

科目名	国際会計論B
英文科目名	International Accounting B
担当者名	土井充
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT306

授業の概要と到達目標	＜目標＞　商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目です。＜授業の概要＞　この講義は、国際会計基準審議会（ＩＡＳＢ）が作成する国際財務報告基準（ＩＦＲＳ）の概要を理解するとともに、各基準の根底にある会計理論を理解することを通じてＩＦＲＳの特徴を体系的に理解することを目的とします。また、そのため、適宜わが国会計基準との比較も行います。　こうしたＩＦＲＳに関する知識を修得することは、企業において会計情報を作成する力や活用する力を養うことになります。＜到達目標＞　この講義では、以下の財務会計の知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できるようになることを目指します。　ＩＦＲＳの主要な会計処理方法の概要の理解　ＩＦＲＳとわが国会計基準との異同の理解＜履修条件＞　この講義は、簿記 Ⅰ・簿記 IIの講義内容に関する知識を有していることを前提とします。
授業の方法	講義の始めに、レジュメやスライドなどを用いて授業の内容を説明します。その後、講義の論点についての記帳練習やミニレポートの作成の時間を設けます。その際、一部の授業回では課題解決型学習（アクティブラーニング）を実施します。
予習と復習	【予習】事前に配布するレジュメを読んだり、情報収集してきてください。（90分）【復習】レジュメや記帳練習を見直し、各自でまとめておくようにしてください。また、課題が出された場合は、解決策について主体的に学修し、学修したことを要約してください。（90分）
テキスト等	講義の教材等は、事前に授業中に配布する。追加の参考資料等は、必要に応じて講義時に指示する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	0%
	授業ごとの課題			40%				0%
	上記の方法により総合評価します。レポートおよび授業ごとの課題(ミニレポート等)について、返却せずに全般的評価と所見を提示します。なお、出席が過度に不良の場合、「Y3 評価（過度の出席不良）」の不合格とします。							

授業計画	①ガイダンス
	②ＩＦＲＳの概要
	③収益
	④棚卸資産
	⑤有形固定資産
	⑥無形資産
	⑦資産の減損
	⑧引当金
	⑨従業員給付およびストック・オプション
	⑩金融商品
	⑪企業結合
	⑫わが国会計基準との異同
	⑬ＩＦＲＳの動向
	⑭ＩＦＲＳの課題
	⑮まとめと総復習

科目名	税務会計論A
英文科目名	Tax Accounting A
担当者名	伊藤義之
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT307

授業の概要と到達目標	近年の経済のグローバル化・デジタル化などを背景に租税を巡る環境は課題山積でしたが、BEPSプロジェクトの下での国際的な課税上の合意実現と各国の対応整備に加え、企業会計基準の見直しなどにより、会計や法人税(法)を取り巻く環境も益々変化しつつあります。こうした中、会計と法人税法を繋ぐ税務会計を学習する重要性が高まっています。そこで、税務会計論Aでは、これ迄に学習した簿記・会計の知識を活用し、企業活動に貢献できる企業人・スペシャリストを目指し、履修生の税務会計基礎知識固めを目標とします。本科目は、商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる人材育成」を達成するための科目です。具体的には、法人税について、その仕組みと税額算出の方法を学習しますが、税務会計や法人税を巡る新聞記事なども随時紹介し実務的な素養も身に付けます。また、ガイダンス時には、学習目標明確化のためシラバスを説明します。なお、国税組織等行政庁の勤務経験を活かし、法人税法や会社法などと企業会計との関連について実例を踏まえて指導します。
授業の方法	毎回授業冒頭に前回授業振返りと要点確認、当日の授業内容・学習目標を説明した上で授業を開始します。また授業は、基本的に講義を中心に行いますが、一部の授業回でディスカッション(アクティブ・ラーニング)など対話型・双方向授業を実施します。
予習と復習	予習(90分)　次回授業に該当するテキストの箇所を事前に精読し、各自要点をレポートにまとめておくこく。復習(90分)　授業後、その日のうちにテキスト、レジュメ・参考資料等とともに授業内容を再確認すること。
テキスト等	谷川喜美江『入門　税務会計[最新版]』(税務経理協会)をテキストとします。国税庁・税務大学校HPに掲載されている税大講本－『税法入門』・『法人税法(基礎編)』も適宜活用しますが、毎回レジュメや参考資料等を配付します。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック】授業内試験において筆記試験を行いますが、結果について返却せずに全般的な評価と所見を掲示等(クラスルーム・ストリーム掲載含む)します。							

授業計画	①ガイダンス－授業の進め方や評価方法などシラバスを基に説明
	②納税義務者と申告・納税等
	③確定決算主義と税務調整
	④益金の概要①－収益計上時期
	⑤益金の概要②－益金不算入
	⑥損金の概要①－棚卸資産
	⑦損金の概要②－減価償却と繰延資産
	⑧損金の概要③－役員給与
	⑨損金の概要④－寄附金と交際費等
	⑩損金の概要⑤－租税公課等、貸倒損失と圧縮記帳
	⑪損金の概要⑥－引当金
	⑫有価証券
	⑬税額の計算
	⑭授業内試験と解説
	⑮同族会社等をめぐる税制のほかまとめと総復習

科目名	税務会計論B
英文科目名	Tax Accounting B
担当者名	伊藤義之
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT308

授業の概要と到達目標	税務会計論Bでは、これ迄に学習した簿記・会計の知識を発展させ、税務会計について専門的な知識を身に付けることを目標としますので、税務会計論Aに比べ詳細な内容となり、例えば、リース取引や企業税務における重要課題としての国際課税、消費税の仕組みと経理処理や企業集団税制などについても取り上げ学習します。従って、税務について一応の知識がある方は別として、できるだけ、税務会計論Aを受講していただきたいと思います。本科目は、商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる人材育成」を達成するための科目です。また、ガイダンス時には、学習目標明確化のためシラバスを説明します。なお、国税組織等行政庁の勤務経験を活かし、法人税法や会社法などと企業会計との関連について実例を踏まえて指導します。
授業の方法	毎回授業冒頭に前回授業振返りと要点確認、当日の授業内容・学習目標を説明した上で授業を開始します。また授業は、基本的に講義を中心に行いますが、一部の授業回でディスカッション(アクティブ・ラーニング)など対話型・双方向授業を実施します。
予習と復習	予習(90分)　次回授業に該当するテキストの箇所を事前に精読し、各自要点をレポートにまとめておくこと。復習(90分)　授業後、その日のうちにテキスト、レジュメ・参考資料等とともに授業内容を再確認すること。
テキスト等	成道秀雄ほか『現代税務会計論[最新版]』(中央経済社)をテキストとします。国税庁・税務大学校HPに掲載されている税大講本－『税法入門』・『法人税法(基礎編)』も適宜活用しますが、毎回レジュメや参考資料等を配付します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	【課題(試験やレポート等)】に対するフィードバック】授業内試験において筆記試験を行いますが、結果について返却せずに全般的な評価と所見を掲示等(クラスルーム・ストリーム掲載含む)します。							

授業計画
①ガイダンス－授業の進め方や評価方法などシラバスを基に説明
②固定資産と減価償却費・繰延資産等
③有価証券と外貨
④資産の評価損益、貸倒とその他経費
⑤非営利法人税制
⑥圧縮記帳
⑦借地権
⑧組合課税
⑨リース取引
⑩税額計算と申告手続
⑪国際課税①－企業や個人をめぐる国際的な経済活動の実態と国際租税法の仕組み等
⑫国際課税②－国際的二重課税や租税回避などに対する税制措置や各国課税当局の対応等
⑬消費税の仕組みと経理処理
⑭授業内試験と解説
⑮企業集団税制のほかまとめと総復習

科目名	会計情報システム論A
英文科目名	Accounting Information Systems A
担当者名	成田博
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT309
授業の概要と到達目標	【目標】多くの企業で財務会計、管理会計を包括したものとして構築・運用されている会計情報システムについて、その機能と構造および具体的な会計情報の利用について体系的に理解することを目標とする。【概要】この授業では、会計測定過程とコンピュータによるデータ処理との関係、主要サブシステムである総勘定元帳システム、取引処理システムの機能と構造そしてそれらの関係についての理解を前提として、会計情報システムの体系および会計アプリケーションの機能と構造について講義する。「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献」することを達成するための科目である。
授業の方法	レジュメを中心として講義を進めるが、アクティブ・ラーニング促進のため、授業中多くの発問をし、各自の見解を披露してもらう。また、小テストやリアクションペーパーによる理解確認を行う。
予習と復習	「予習(90分)　事前に提供されるレジュメを印刷、精読し、要点をノートにまとめておくこと。」「復習(90分)　講義終了後には講義内容について再度確認して理解を確実なものとすること。」
テキスト等	T-Naviにてレジュメを配布する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	10%	平常点	20%
			0%				0%

上記の項目により総合評価するが、理由を問わず授業３回を超えて欠席した場合は原則として単位取得資格を失う。小テストやレポートについては全体的な評価と解説を行い返却する。授業内で実施する小テストも授業内試験に含めて評価対象とする。

授業計画
①講義ガイダンスおよび会計総論
②会計の定義再考と情報システム
③会計の体系と機能
④取引処理システムと総勘定元帳システム
⑤会計情報システムの枠組み
⑥まとめと小テスト①
⑦計画情報システムと統制情報システム①　ー意思決定支援システムとしての分岐点分析ー
⑧計画情報システムと統制情報システム②　ー予算の機能と予算編成システムー
⑨取引処理システムの基本構造
⑩まとめと小テスト②
⑪取引処理システムの形態とファイル構成
⑫会計情報システムの体系①　ーコンピュータ会計と会計情報システムー
⑬会計情報システムの体系②　ー会計情報システムと管理会計ー
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	会計情報システム論B
英文科目名	Accounting Information Systems B
担当者名	成田博
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT310
授業の概要と到達目標	【目標】企業で構築・運用されている会計情報システムについて、その構成要素であるアプリケーションの機能と構造について体系的に理解するとともに、管理会計情報の活用局面を理解することも目標とする。【概要】この授業では、総勘定元帳システム、取引処理システムの機能と構造および関係の理解を前提として、会計情報システムのアプリケーションの機能と構造および管理会計情報の活用局面、そして、企業の情報システムおよび会計情報システムの発展過程等についても講義する。「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献」することを達成するための科目である。
授業の方法	レジュメを中心として講義を進めるが、アクティブ・ラーニング促進のため、授業中多くの発問をし、各自の見解を披露してもらう。また、小テストやリアクションペーパーによる理解確認を行う。
予習と復習	「予習(90分)　事前に提供されるレジュメを印刷、精読し、要点をノートにまとめておくこと。」「復習(90分)　講義終了後には講義内容について再度確認して理解を確実なものとすること。」
テキスト等	T-Naviにてレジュメを配布する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	10%	平常点	20%
				0%				0%

上記の項目により総合評価するが、理由を問わず授業３回を超えて欠席した場合は原則として単位取得資格を失う。小テストやレポートについては全体的な評価と解説を行い返却する。授業内で実施する小テストも授業内試験に含めて評価対象とする。

授業計画
①講義ガイダンスおよび会計総論
②企業活動と会計情報システム
③取引処理システムと基幹業務システム
④購買業務と購買情報システム
⑤販売業務と販売情報システム
⑥まとめと小テスト①
⑦原価計算と原価情報システム
⑧基幹業務と原価情報システム
⑨基幹業務システムと棚卸資産管理システム
⑩資金管理の概要と資金管理システム
⑪まとめと小テスト②
⑫固定資産管理システムと人件費システム
⑬情報技術の進展と会計情報システム
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	会計監査論A
英文科目名	Auditing A
担当者名	島崎主税
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT311

授業の概要と到達目標	会計監査論の総論部分及び企業会計審議会が公表している「監査基準」の「一般基準」を理解することが目標になります。会計監査とは、会計帳簿等に対しそれに関与していない第三者が検討を加え、その正否について意見を表明するものですが、中でも現在の社会において最も重要なものが公認会計士による財務諸表監査です。会計監査論はこの財務諸表監査をメインテーマとする学問であり、授業ではかかる会計監査論について学習します。商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を目指す科目です。
授業の方法	講義が中心であるが、一部の授業回でプレゼンテーション （アクティブ・ラーニング）を実施する。
予習と復習	（予習９０分）日頃から、日本経済新聞の会計・監査に関する記事に関心を持ち、読んでおくこと。（復習９０分）講義後、遅滞なく講義内容を再確認すること.
テキスト等	蟹江章、高原利栄子、藤岡英治著『わしづかみシリーズ 監査論を学ぶ』（株式会社税務経理協会）

評価方法								
定期試験	100%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%
解答用紙は返却はしませんが、全般的な評価と所見を授業内に提示します。								

授業計画
①ガイダンス(講義概要を説明します)
②監査の意義(1)定義
③監査の意義(2)目的
④監査の生成要因と監査の種類
⑤ディスクロージャーの機能と財務諸表監査
⑥財務諸表監査の特質(1)監査主体
⑦財務諸表監査の特質(2)監査対象と財務諸表監査の限界
⑧監査制度の生成と展開
⑨我が国の監査制度の意義と内容
⑩「監査基準」総論
⑪「監査基準」の「一般基準」(1)「一般基準」1・2･3
⑫「監査基準」の「一般基準」(2))「一般基準」4・5・6
⑬「監査基準」の「一般基準」(3))「一般基準」7・8・9
⑭春学期の授業（第二回から第八回）のまとめ
⑮春学期の授業（第九回から第十三回）のまとめ

科目名	会計監査論B
英文科目名	Auditing B
担当者名	島崎主税
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT312

授業の概要と到達目標	財務諸表監査における概念フレームワークであるリスク･アプローチについて理解することが主要な目標となります。会計監査とは、会計帳簿等に対しそれに関与していない第三者が検討をし、その正否について意見を表明するものです。中でも、現在の社会において最も重要なものが、公認会計士による財務諸表監査であり、会計監査論はこの財務諸表監査をメインテーマとする学問です。授業では、財務諸表監査において監査意見の形成過程を学習しますが、その中心となるのが、上述のリスク･アプローチに対する理解です。商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを目指す科目です。
授業の方法	講義が中心であるが、一部の授業回でプレゼンテーション（アクティブ・ラーニング ）を実施する。
予習と復習	（予習９０分）日頃から、日本経済新聞の会計・監査に関する記事に関心を持ち、読んでおくこと。（復習９０分）講義後、遅滞なく講義内容を再確認すること.
テキスト等	蟹江章､高原利栄子､藤岡英治著『わしづかみシリーズ 監査論を学ぶ』(株式会社税務経理協会)

評価方法	定期試験	100%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	答案等については返却はしませんが、全般的な評価と所見を授業内に提示します。							

授業計画
①監査プロセスの全体像
②財務諸表監査における要証命題
③経営者の主張と監査要点
④監査証拠(1)監査証拠の分類
⑤監査証拠(2)監査証拠の評価
⑥監査手続と試査
⑦リスク･アプローチの意義
⑧監査上の重要性
⑨監査戦略と監査計画
⑩監査計画と継続企業の前提の評価
⑪リスク･プローチに基づく監査プロセス(1)意義等
⑫リスク･プローチに基づく監査プロセス(2)ビジネス・リスク・アプローチ
⑬監査報告書
⑭秋学期の授業内容’（第二回から第八回）のまとめ
⑮秋学期の授業内容’（第九回から第十三回）のまとめ

科目名	経営分析A
英文科目名	Financial Statements Analysis A
担当者名	石井康彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT313

授業の概要と到達目標	商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目である。経営分析の考え方と分析指標について理解することを目標とする。この科目では、企業が公表する財務諸表をもとにしたベーシックな比率分析の指標について解説する。受講者には、それぞれの分析指標の使い方と意味を理解することが求められる。なお、財務諸表に関する基礎的な知識があることを前提に講義はすすめる予定である。なお、後半で外部講師を招聘し講演してもらう可能性がある。
授業の方法	原則としてスライドを使用して講義する。配布したプリントの穴埋めをしながら進める。後半では証券報告書（一部抜粋）を配布するので、これを各自で分析し、質疑を交えながら議論をする。（アクティブラーニング）
予習と復習	前半は次回とりあげる内容を紹介するので、事前に読んで理解すること（予習90分）。講義後は、配布したプリントを利用して授業後に復習をすること（復習90分）。講義内で紹介した財務比率等はレポートを作成するために必要であるので、復習し、理解しておくこと。
テキスト等	テキストは指定しない。毎回配布するプリントを使って授業を進める。参考書は授業内で適宜指示す

評価方法							
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	30%
			0%				0%

レポートは最終回に返却する予定である。期末のレポートの代わりに、最終回に口頭発表をすることも可能である。口頭発表については発表後に講評する。

授業計画
①経営分析とは何か
②財務諸表の概要とその相互関係
③貸借対照表の概要
④損益計算書の概要
⑤キャッシュ・フロー計算書の概要
⑥収益性の分析（１）ROAとその分解
⑦収益性の分析（２）ROE
⑧安全性の分析
⑨効率性の分析
⑩利益の質と利益操作
⑪非財務情報の分析
⑫事例研究（1）イオンの分析（変更の可能性あり）
⑬事例研究（2）NIDECの分析（変更の可能性あり）
⑭レポート課題の作成方法・受講者による企業分析プレゼンテーション
⑮レポート返却・成績告知

科目名	経営分析B
英文科目名	Financial Statements Analysis B
担当者名	石井康彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT314

授業の概要と到達目標	商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目である。企業価値の評価に用いられる基礎的な手法を理解することを目標とする。この講義では、企業と証券市場との関係を念頭に置きながら、企業価値を評価する方法について解説する。これを踏まえて、証券アナリストによる企業評価レポートを読んだり、また実際に簡単な企業評価を行ってみる予定である。カリキュラム上は経営分析Ａの履修は当該科目の前提科目となっていないが、セットでの履修を強くすすめる。
授業の方法	原則として、スライドを使用して講義を進める。各回の講義時間内でプリントを配布するので、話を聞きながら必要事項を記入すること。後半のケースでは証券報告書（一部抜粋）を各自読んで、議論を交えながら進めて行く（アクティブラーニング）。
予習と復習	予習の必要はない。講義後は、授業終了時にアップされる課題をやり、配布したプリントを利用して復習をすること（復習180分）。講義内で紹介した財務比率等はレポートを作成するために必要であるので、十分に理解しておくこと。
テキスト等	テキストは指定しない。毎回配布するプリントを使って授業を進める。参考書は授業内で適宜指示する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	30%
				0%				0%
	レポートは最終回に返却する予定である。期末のレポートの代わりに、最終回に口頭発表をすることも可能である。口頭発表については、発表後に講評する。							

授業計画
①企業価値評価の視点
②現在価値計算の基礎
③株式の評価
④NPVとその他の評価基準の比較
⑤株主資本コスト（CAPM、β）
⑥加重平均資本コスト(WACC)
⑦資本構成、ROE・ROAとWACCの関係
⑧ゼミ発表会の聴講（振替授業）
⑨WACCの計算練習
⑩EVAとその他の類似指標
⑪企業価値の算定
⑫会計情報と株価の関係
⑬事例：イオンの分析（対象企業変更の可能性あり）
⑭まとめと復習、受講生によるプレゼンテーション
⑮レポート返却・成績告知

科目名	税理士・簿記論(基礎)
英文科目名	Advanced Bookkeeping Ⅰ
担当者名	川﨑芙有
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT103

授業の概要と到達目標	【目標】商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目です。この授業は税理士試験の簿記論に合格する基礎力を養成することを目的としています。そのため、日商簿記検定2級・全商簿記検定1級・全経簿記検定1級相当以上の資格を有していないと、この授業を履修することはできません。また、ただ単に資格の要件を満たしているだけではなく、日商簿記検定1級や税理士試験または公認会計士試験など、より高度な資格の取得を真剣に目指すことを求めています。【概要】税理士試験の簿記論合格のための基礎知識を獲得するため、日商簿記検定1級（商業簿記・会計学分野）程度の内容を、問題演習により学びます。
授業の方法	毎回、指定した範囲について問題演習を行います。学生に問題を解いてもらい、また、教員と学生でディスカッション（アクティブ・ラーニング）を行い、論点を整理します。
予習と復習	予習（90分）指定範囲のテキストを精読してください。また、指定された問題を解いてください。復習（90分）授業で扱った問題を繰り返し解いてください。
テキスト等	渡部裕亘・片山覚・北村敬子編『検定簿記講義／1級商業簿記・会計学 上巻〔2026年度版〕』中央経済社

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%
	平常点の具体的内容、問題演習の結果に関する全般的な評価と所見については、授業内で開示します。							

授業計画
①ガイダンス
②資産の定義、認識、測定
③資産の各勘定（流動資産）
④資産の各勘定（固定資産、繰延資産）
⑤負債の定義、認識、測定
⑥負債の各勘定（社債）
⑦負債の各勘定（引当金）
⑧純資産（株主資本）
⑨純資産（評価・換算差額等、新株予約権）
⑩収益及び費用（基礎概念）
⑪収益及び費用（個別論点）
⑫税効果会計の基礎
⑬税効果会計（個別論点）
⑭財務諸表
⑮まとめと総復習

科目名	税理士・簿記論(応用)
英文科目名	Advanced Bookkeeping Ⅱ
担当者名	川﨑芙有
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT104

授業の概要と到達目標	【目標】商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目です。この授業は税理士試験の簿記論に合格する基礎力を養成することを目的としています。そのため、日商簿記検定2級・全商簿記検定1級・全経簿記検定1級相当以上の資格を有していないと、この授業を履修することはできません。また、ただ単に資格の要件を満たしているだけではなく、日商簿記検定１級や税理士試験または公認会計士試験など、より高度な資格の取得を真剣に目指すことが求められます。【概要】税理士試験の簿記論合格のための基礎知識を獲得するため、日商簿記検定1級（商業簿記・会計学分野）程度の内容を、問題演習により学びます。
授業の方法	毎回、指定した範囲について問題演習を行います。学生に問題を解いてもらい、また、教員と学生でディスカッション（アクティブ・ラーニング）を行い、論点を整理します。
予習と復習	（予習90分）指定範囲のテキストを精読してください。また、指定された演習問題を解いてください。（復習90分）授業で扱った問題を繰り返し解いてください。
テキスト等	渡部裕亘・片山覚・北村敬子編『検定簿記講義／1級商業簿記・会計学 下巻〔2026年度版〕』中央経済社

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%
	平常点の具体的内容、演習問題の結果に関する全般的な評価と所見については、授業内で開示します。							

授業計画
①ガイダンス
②金融商品会計（有価証券、デリバティブ）
③金融商品会計（複合金融商品）
④外貨換算会計（換算方法）
⑤外貨換算会計（為替予約など）
⑥退職給付会計
⑦リース会計
⑧減損会計
⑨本支店会計
⑩企業結合・事業分離会計
⑪連結会計（連結基礎概念）
⑫連結会計（資本連結など）
⑬連結会計（未実現損益の消去など）
⑭連結会計（持分法）
⑮まとめと総復習

科目名	税理士・財務諸表論(基礎)
英文科目名	Advanced Financial Statements Ⅰ
担当者名	石井康彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT105

授業の概要と到達目標	商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目である。この講義は税理士試験の財務諸表論（または同等レベルの会計資格試験）の受験を考えている学生向けの講義である。受講者は、日商簿記検定２級もしくはこれと同等の検定試験に合格していなければならない。授業では、税理士試験（財務諸表論）の理論問題を解くために必要な会計制度とその理論的基礎を学ぶことを目標とする。個別の論点や個別基準の細部にわたる理解ではなく、各々の基準の基本的な考え方と、相互関係についての理解が進むような講義を心がけたいと考えている。また、上記の理解をふまえて、基本的な論点を問う論述問題の答案作成の方法の説明と練習を行う。
授業の方法	事前に指定した内容について受講生に発表してもらい、それをもとに質疑を交えながら講義を進める。区切りのいいところで論述問題をとき、受講者相互にチェックする時間を設ける(アクティブラーニング) 。
予習と復習	次回の講義でとりあげる箇所を指示するので、該当箇所のまとめをして提出すること（予習90分）。あわせて講義での学習をうけた課題をとき、復習もすること（90分）。
テキスト等	桜井久勝著『財務会計講義』（中央経済社）中央経済社編『会計法規集』（中央経済社）いずれも4月時点の最新版を使用。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	毎回の講義での課題			100%				0%
	講義中または自宅学習の論述課題については、添削して返却する。テキストの要約については講義開始または終了時に確認し、必要に応じてその場でコメントする。							

授業計画
①オリエンテーション、面接
②会計の社会的機能・会計公準
③一般原則
④財務会計の概念フレームワーク
⑤利益計算と資産評価の基本原則
⑥現金・預金、有価証券
⑦売上高と売上債権
⑧棚卸資産と売上原価
⑨有形固定資産と減価償却
⑩リース資産・負債
⑪無形固定資産と繰延資産
⑫繰延税金
⑬負債・資産除去債務
⑭税理士試験（財務諸表論)の過去問題を使った答案作成練習
⑮まとめと復習

科目名	税理士・財務諸表論(応用)
英文科目名	Advanced Financial Statements Ⅱ
担当者名	石井康彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT106

授業の概要と到達目標	商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目である。税理士試験（財務諸表論）の理論問題の答案が作成のための基礎知識と論述の仕方を身につけることを目標とする。講義を前半３分の２程度にとどめ、３分の１程度は答案作成の練習に当てる予定である。毎回、テキスト・基準書のまとめや論述などの課題があり、次回の講義で確認する。
授業の方法	事前に指定した内容について受講生に発表してもらい、それをもとに質疑を交えながら講義を進める。区切りのいいところで論述問題をとき、受講者相互にチェックする時間を設ける(アクティブラーニング）。
予習と復習	次回の講義でとりあげる箇所を指示するので、該当箇所のまとめをして提出すること（予習90分）。あわせて講義での学習をうけた課題をとき、復習もすること（90分）。
テキスト等	桜井久勝著『財務会計講義』（中央経済社）中央経済社編『会計法規集』（中央経済社）いずれも4月時点の最新版を使用。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	毎回の講義での課題			100%				0%
	講義中または自宅学習の論述課題については、添削して返却する。テキストの要約については講義開始または終了時に確認し、必要に応じてその場でコメントする。							

授業計画
①退職給付（１）年金資産・負債と退職給付費用
②退職給付（２）過去勤務費用と未認識過去勤務費用
③株主資本と純資産
④M&Aの会計処理
⑤連結基礎概念と連結原則
⑥連結貸借対照表
⑦連結損益計算書
⑧連結キャッシュ・フロー計算書
⑨外貨建取引
⑩外貨表示財務諸表の換算
⑪ディスクロージャー制度（１）会社法・証券取引法にもとづく開示制度
⑫ディスクロージャー制度（２）取引所の要請による開示
⑬会計基準の国際的動向
⑭答案作成の練習（過去問）
⑮まとめと復習

科目名	税理士・税法（総論） 税理士・税法(基礎)
英文科目名	Tax・Law Ⅰ Tax・Law Ⅰ
担当者名	伊藤義之
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT107

授業の概要と到達目標	税理士・税法(総論)は、税理士養成プログラムとして、将来、職業会計人としての税理士等を志望し、試験合格に向けて自助努力する学生を支援する科目であり、商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる人材育成」を達成するための科目でもあります。具体的には、租税法全般に亘る基礎的な知識の付与と法律的な思考力が身に付けられるよう授業を行いますが、租税法の基本的な構造・枠組みと理論のみならず税制度の背景についても理解が深まるように学習します。そして、履修生の皆さんが、税理士を始め会計の専門家として税に取り組む礎を構築することを目標とします。その他、租税(法)をめぐる新聞記事などの随時紹介とディスカッションを行い実務的な素養も身に付けます。また、ガイダンス時には、学習目標明確化のためシラバスを説明します。なお、国税組織等行政庁の勤務経験を活かし、法律(税法等)・行政と政治、経済そして社会との関連について実例を踏まえて指導します。
授業の方法	授業は、自律的な学習を促進するため、講義に関しての質疑応答やディスカッション(アクティブ・ラーニング)を始め、具体的な租税事件(裁判例など)を取り上げて全員で事案概要や判旨・評釈などを輪読・ディスカッションを行うなど毎回対話型・双方向授業を実施します。
予習と復習	予習(180分)　次回授業に該当する基本教材の箇所を事前に精読し、各自要点をレポートにまとめておくこと。復習(180分)　授業後、その日のうちに基本教材、レジュメ・参考資料等とともに授業内容を再確認すること。
テキスト等	テキスト指定はありません。国税庁・税務大学校ＨＰに掲載されている税大講本－『税法入門』の他、『各税法編』を基本教材としますが、毎回レジュメや参考資料等を配付します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
				0%				0%
	【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック】授業内試験において筆記試験を行いますが、結果について返却せずに全般的な評価と所見を掲示等(クラスルーム・ストリーム掲載含む)します。							

授業計画
①ガイダンス－授業の進め方や評価方法などシラバスを基に説明ほか税理士(制度)について
②租税法概論①－租税の意義・仕組み・役割、租税(法)体系、税務行政など
③租税法概論②－租税債権の成立、税務調査と滞納整理(徴収)、権利救済制度など
④租税法概論③－租税法概論に関する判例などの事例学習
⑤所得税法①－所得税の概要、申告と納付など
⑥所得税法②－所得税に関する判例などの事例学習
⑦法人税法①－法人税の概要、申告と納付など
⑧法人税法②－法人税に関する判例などの事例学習
⑨国際課税－国際課税の概要、判例などの事例学習
⑩相続税法①－相続税・贈与税・財産評価の概要、申告と納付など
⑪相続税法②－相続税・贈与税・財産評価に関する判例などの事例学習
⑫消費税法－消費税の概要、申告と納付、判例などの事例学習
⑬間接諸税－酒税などの間接諸税の概要、申告と納付、判例などの事例学習
⑭授業内試験と解説
⑮地方税法－地方税の概要、申告と納付、判例などの事例学習のほかまとめと総復習

科目名	税理士・税法(法人税法) 税理士・税法(応用)
英文科目名	Tax Law Ⅱ Tax Law Ⅱ
担当者名	住倉毅宏
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ACCT108
授業の概要と到達目標	本授業は、税理士試験を目指す人のために、主に法人税法について詳しい説明を行い、法人税法全般について受験に必要な基礎的な理解を深めることを目標とします。法人税法は課税所得の算出において、企業の利益計算に多くの修正を加えます。授業では、法人法が企業の利益計算に修正を加えるその背景や制度趣旨、次いでその具体的な所得計算、さらには重要な裁判例について説明を行います。また、国税の職場での勤務経験も踏まえ、社会で実際に問題となっていることにも触れたいと思っています。授業の範囲としては、法人税法の基本的な制度に加え、グループ法人税制、連結納税制度、グループ通算制度、組織再編税制、国際課税などについても扱う予定です。 この授業は、「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる人材を育成する」というディプロマ・ポリシーを達成するための科目です。したがって、税法の学習には、簿記・会計の知識を必須とし、さらに法律の応用科目として憲法・民法の知識も求められます。履修に当たってはこれらの分野の学習も心掛けてください。
授業の方法	講義形式で行いますが、判例研究を行うとともに、その際にディスカッション（アクティブ・ラーニング）を実施します。また、計算問題も扱います。また、レポート作成に役立つ資料収集方法の実習を図書館において行うことも予定しています。
予習と復習	予習（９０分）事前にテキストとして配付するレジュメを精読し、要点をまとめておくこと復習（９０分）授業後、その日のうちに授業内容を再確認すること
テキスト等	テキストとして毎回の講義においてレジュメを配布。参考資料として税務大学校講本『法人税法』、『税法入門』（税務大学校HP）その他講義内で示すもの
評価方法	定期試験 0% / 授業内試験 0% / レポート 50% / 平常点 50% 0% / 0% 平常点は、出席及び授業の場での発言状況により評価します。レポート　学期内に理解度を確認するために、１回実施。レポートについての全般的な所見を授業内等で伝達します。
授業計画	①ガイダンス及びわが国における租税制度の概要等 ②法人税法総論（１）（法人税の基本構造） ③法人税法総論（２）（課税所得の計算原理） ④益金の額の計算（１）（収益の計上等） ⑤益金の額の計算（２）（受取配当益金不算入等） ⑥損金の額の計算（１）（費用計上時期、役員給与等） ⑦損金の額の計算（２）（寄附金課税、交際費等） ⑧損金の額の計算（３）（減価償却等） ⑨損金の額の計算（４）（引当金） ⑩損金の額の計算（５）（損失）、繰越欠損金 ⑪税額控除、申告等 ⑫公益法人に対する課税、租税争訟制度 ⑬グループ法人税制 ⑭グループ通算制度、組織再編税制 ⑮まとめと総復習

科目名	経営学概論A
英文科目名	Introduction to Business Management A
担当者名	小林康一,木佐森健司,大芝周子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT101

授業の概要と到達目標	本科目では、経営学やビジネスを学ぶその第一歩として、会社に関する知識を広く学びます。みなさんは、将来、会社の社員あるいは経営者として活躍することを目標としているはずです。そのため、将来的には、経営学の主要科目である経営管理論や経営組織論、経営戦略論を履修すると思います。ところが、これらの専門科目を十分理解するには、まず、最初に会社に関する広い知識と深い理解が何よりも大切です。経営学とは、会社を対象とする学問だからです（ちなみに、顧客を対象とするのは、マーケティングです）。なお、本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を育成するための科目です。
授業の方法	テキストまたはその他資料等を使用して授業を行います。講義の仕方は、パワーポイントもしくはレジュメを配布して行います。アクティブラーニングとして、学生に発言を求めます。
予習と復習	テキストまたはその他資料等について、予習と復習をしてください。
テキスト等	テキストまたはその他資料等については、ガイダンス時に教員が指示します。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
	授業内で出される課題			60%				0%
	著しく欠席が多い場合は、たとえ定期試験ができたとしても、大幅な減点となりますのでご注意ください（詳細については、ガイダンスでお知らせします）。							

授業計画	①ガイダンス
	②仕事とは何か（人は何のために働くのか）
	③仕事とは何か（仕事とは）
	④仕事とは何か（雇用と就職・転職）
	⑤経済とは何か（日本の経済と産業）
	⑥経済とは何か（国際経済）
	⑦会社とは何か（大企業・中小企業・多国籍企業）
	⑧会社とは何か（長寿企業、ベンチャー企業）
	⑨会社とは何か（ブラック&ホワイト企業、NGO）
	⑩株式会社とは何か（定義、仕組み）
	⑪株式会社とは何か（運営、株主）
	⑫株式会社とは何か（コーポレートガバナンス）
	⑬会計とは何か（会計とは）
	⑭会計とは何か（経営における会計の役割）
	⑮まとめと総復習

科目名	経営学概論B
英文科目名	Introduction to Business Management B
担当者名	小林康一,木佐森健司,大芝周子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT102

授業の概要と到達目標	本科目では、経営学やビジネスを学ぶその第一歩として、会社に関する知識を広く学びます。みなさんは、将来、会社の社員あるいは経営者として活躍することを目標としているはずです。そのため、将来的には経営学の主要科目である経営管理論や経営組織論、経営戦略論を履修すると思います。そうした次年度の専門科目の学習に向けて、それぞれの基本的な内容を本講座では網羅的に学んでいきます。なお、本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を育成するための科目です。
授業の方法	テキストまたはその他資料等を使用して授業を行います。講義の仕方は、パワーポイントもしくはレジュメを配布して行います。アクティブラーニングとして、学生に発言を求めます。
予習と復習	テキストまたはその他資料等について、予習と復習をしてください。
テキスト等	テキストまたはその他資料等は、ガイダンスの時に教員から指示します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
	授業内で出される課題			60%				0%
	著しく欠席が多い場合は、たとえ定期試験ができたとしても、大幅な減点となりますのでご注意ください（詳細については、ガイダンスでお知らせします）。							

授業計画
①ガイダンス
②経営学の体系と学び
③経営戦略（成長を目指す戦略（全社戦略））
④経営戦略（競争優位の戦略（事業戦略））
⑤経営戦略（ビジネスの仕組みを考える（ビジネスモデリング））
⑥マーケティング（顧客を考える（STP））
⑦マーケティング（ビジネスをつくる（4P））
⑧経営組織（”カイシャ”視点からみる組織）
⑨経営組織（”ヒト”視点からみる組織）
⑩HRM（日本の雇用）
⑪HRM（採用と給与）
⑫生産管理（ものづくりの経営）
⑬経営と情報（その意義と職場の情報化）
⑭経営と法務（職場で求められる法律とは）
⑮まとめと復習

科目名	はじめての経営学
英文科目名	Business Management Studies for Beginners
担当者名	木佐森健司
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT103

授業の概要と到達目標	この講義は、経営学部教員の担当者がオムニバス形式で行い、各教員が、経営学部で学べる領域や専門分野の導入部分を解説していく。学生には、①経営学部における学びの全体像を理解すること、②自らの興味・関心に応じた学びに対する動機付けを行うこと、③２年次からの専門ゼミナール選択やコース選択に向けての基礎情報を得ることを目標とする。授業では質疑等において積極的な発言を促すことで主体的な学びに向けて、一歩前に踏み出す力（主体性）の基本的な態度、能力の育成を目指す。またディプロマポリシーとの関連については、経営学部もディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」としての必要な幅広い基礎的知識や興味関心を培うことを目的としている。
授業の方法	オムニバス形式で講義をおこなう。講義では担当者の裁量に応じてアクティブラーニング(授業内ワーク、質疑応答、グループワーク、ディベート等)を取りいれる。※ 新型コロナウィルス感染防止策に関する要請等により方法・計画等を適宜変更する場合があります。
予習と復習	（予習）各回の担当教員の指示に従い、課題の提出や事前の準備を行うこと。（復習）授業で配布された資料等を読み返す。高千穂大学の経営学部専門科目のシラバスを再読し、履修のイメージをつくる。
テキスト等	特になし。各回において担当教員が資料等を準備する。

評価方法								
定期試験	100%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

授業計画で示した授業内試験の日程は、講義進行の状況等に応じて変更する場合があります。

授業計画
①ガイダンス
②中小企業の面白さを学ぶ
③イノベーションと新たな価値創造
④高千穂大学経営学部での学びと創造的企業人
⑤経営学と経営組織論
⑥さまざまな組織のマネジメント
⑦ものづくりの経営学
⑧経営学と販売管理論
⑨経営学と人のこころ
⑩経営学からヒトをみる
⑪取締役の選解任から学ぶ株式会社制度
⑫社会・生活の基盤としての「契約」
⑬経営におけるさまざまなIT化
⑭プラットフォーマーの経営戦略
⑮まとめ

科目名	経営史A
英文科目名	Business History A
担当者名	大島久幸
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT201

授業の概要と到達目標	<授業の概要>目まぐるしく変化する経済状況を現代の視点だけから後追い的に見るだけでは変化の本当の意味を捉えることはできない。本講義では18世紀から20世紀までのイギリス・アメリカのビジネスの歴史を概観することによって、長期にわたる経営システムの変遷を理解する。<到達目標>本講義では、企業が歴史上の様々な時期において直面した経営上の課題やその解決の具体像、企業行動の背後の問題や経緯を理解しつつ、現代にいたる企業経営行動の歴史的発展傾向を把握することを目的とする。なお本講義は、企業経営、経営法務、起業・事業承継、情報のコース制の下、専門的知識の深化を目指すための科目である。
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、自律的な学習(アクティブ・ラーニング)を促進するため、小テストやリアクションペーパーによる講義内容の理解確認を行う。
予習と復習	予習(90分)テキスト・配布資料をもとに次回の講義にか関する内容を調べ、疑問点についてまとめておくこと。復習(90分)当日の講義内容について、配布資料をもとに復習し、重要な点などを追記しておくこと。
テキスト等	安部悦生・壽永欣三郎・山口一臣・宇田理・高橋清美・宮田憲一『ケースブック　アメリカ経営史(新版)』(有斐閣、2020年)

評価方法								
定期試験	50%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
毎回授業後のオンライン試験			50%				0%
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							

授業計画
①経営史学の思考方法
②経済覇権の変遷
③ガーシェンクロンモデル
④アメリカ型経営の発展・停滞・再生
⑤鉄道業の発展と衰退
⑥アメリカ鉄鋼業とカーネギー
⑦ロックフェラーと石油産業
⑧デュポン社
⑨自動車産業とフォード
⑩フォードとGM
⑪シアーズ
⑫チャンドラー・モデルとアメリカの経営発展
⑬チャンドラーモデルの世界
⑭まとめと総復習
⑮まとめと総復習

科目名	経営史B
英文科目名	Business History B
担当者名	大島久幸
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT202

授業の概要と到達目標	〈授業の概要〉現代企業が直面する様々な問題に対処する上で、近代以降の企業経営の歴史から多くの示唆を得ることができよう。本講義では、近代から現代までの日本企業の歴史的な起源や日本の経済発展を各時代に中核的なトピックを取り上げながら学んでいきたい。〈到達目標〉日本の企業発展の基本的な視点と考え方についての知識の把握を到達目標とする。なお本講義は、企業経営、経営法務、起業・事業承継、情報のコース制の下、専門的知識の深化を目指す科目である。
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、自律的な学習(アクティブ・ラーニング)を促進するため、小テストやリアクションペーパーによる講義内容の理解確認を行う。
予習と復習	予習(90分)配布資料をもとに次回の講義にか関する内容を調べ、疑問点についてまとめておくこと。復習(90分)当日の講義内容について、配布資料をもとに復習し、重要な点などを追記しておくこと。
テキスト等	宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編著『１からの経営史』碩学舎

評価方法	定期試験	50%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	0%
	特になし			0%	特になし			0%

【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。

授業計画
①江戸時代の経営
②明治の企業家たち
③近代産業経営の成立
④財閥の多角化と組織
⑤重化学工業化と新興財閥
⑥技術経営の誕生
⑦「日本的」人事管理とサラリーマンの誕生
⑧都市型ビジネスの成立
⑨経済民主化と企業変革
⑩大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展
⑪企業集団とメインバンク
⑫日本的生産システムの形成
⑬流通イノベーション
⑭変貌する総合商社
⑮日本的経営とその変容

科目名	経営管理論A
英文科目名	Business Management A
担当者名	大芝周子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT203

授業の概要と到達目標

　この授業では、経営管理の基本概念や理論を紹介します。「経営とは何か」を考える経営管理論が、組織、経営者、労働者、環境に対する見方がどのように変遷してきたのかを、毎回１つずつ、学びましょう。特にスケジュール前半に扱うのは19世紀のことだったりしますが、そこから経営学が少しずつ進化してきた過程を丁寧に整理し、いまの私たちとの関連をみていきましょう。現代の企業事例やニュースもまぜて紹介します。　到達目標は、①興味のある理論やキーワードを１つ見つける、②興味のある事例を見つける、の２つです。　経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学び、ライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」の育成を達成するための科目です。

授業の方法

・「経営学概論A/B」受講済みを前提とし、授業を展開します・一部の授業回で、ディスカッションやプレゼンテーション(アクティブ・ラーニング)を実施します・PCやタブレットを持参ください

予習と復習

〈予習(90分)〉次回テーマのキーワードについて、調べてみましょう〈復習(90分)〉その日の授業内容について、感じたことをメモしておきましょう

テキスト等

・資料はGoogle Classroomにアップロードします（紙媒体での配布は行いません）・参考文献等は、授業内で適宜、紹介します

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
			0%				0%

授業計画

①ガイダンス
②古典的管理論①科学的管理法
③古典的管理論②管理過程論
④古典的管理論③人間関係論
⑤近代的管理論①バーナード
⑥近代的管理論②サイモン
⑦組織行動論
⑧コンティンジェンシー論
⑨組織文化論
⑩イノベーション論
⑪資源ベース論
⑫ダイナミック・ケイパビリティ論
⑬非営利組織の経営管理（行政組織）
⑭非営利組織の経営管理（特定非営利法人）
⑮まとめと総復習

科目名	経営管理論B
英文科目名	Business Management B
担当者名	大芝周子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT204

授業の概要と到達目標	この授業では、経営管理の概念や理論を、具体的事例を通して紹介します。経営管理論Aでは、理論や概念を中心におく授業構成です。理論や概念から入るのでも、具体的事例から入るのでも良いので、経営管理論に興味を持つきっかけになればと考えています。具体的事例としては、国レベルのもの、地域ベルのもの、個人商店レベルのもの、また、営利的な組織や観点以外も含め、広範に扱います。一部の授業回で、アクティブラーニングを取り入れます（履修人数を考慮しながら、双方向的な意見交換の機会設定などを予定しています）到達目標は、①経営管理の理論やキーワードを知る、②興味のある産業や組織を見つける、③ ②について、経営管理論から説明できるようになる、です。経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学び、ライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」の育成を達成するための科目です。
授業の方法	・授業で使用する資料は、Google Classroomにアップします（紙媒体での配布は行いません）・参考資料として、新聞記事もアップします。
予習と復習	〈予習(90分)〉次回テーマについて、Google Classroomにアップされる参考資料（新聞記事）を読んでください 〈復習(90分)〉その日の授業内容について、まとめてみたり、感じたことをメモしておきましょう
テキスト等	・教科書は指定しません・参考図書は、適宜、紹介します

評価方法								
定期試験	100%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

授業計画
①ガイダンス
②『失敗の本質』
③リーダーシップ論
④BOPビジネス
⑤衰退産業の環境分析
⑥研究発表会
⑦文化輸出と国家戦略
⑧個人商店と商店街マネジメント
⑨地方中小企業の持続的経営
⑩地域産業の人材育成
⑪行政組織とイノベーション
⑫持続可能な観光ビジネス
⑬医療機関のマネジメント
⑭経営管理を学ぶということ
⑮まとめと総復習

科目名	経営戦略論A
英文科目名	Business Strategy A
担当者名	松﨑和久
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT209

授業の概要と到達目標	本授業では、伝統的な経営戦略論から最近のデジタル経営戦略まで幅広く取り上げます。まず伝統的な経営戦略論では、戦略論の主流を大きく８つのスクール（学派）に分け、それぞれの起源から今日までの発展そして代表的な学説等を詳しく学びます。また、近年のビジネスシーンでは、DXやＡＩ、IoTなど最先端技術の飛躍的な進歩から、ビジネスモデル、マネタイズ、サブスク、プラットフォームそしてエコシステムなど、従来の戦略論とは異なる新しい概念が登場しています。そこで、これらデジタル経営戦略に関する最新の知見等についても授業で取り上げます。本授業では、国内外の代表的な企業の事例研究を盛り込み、学習者の理解と知識の定着を促進することに加え、実務家の方を招待して授業をお願いすることも考えています。最後に、本授業は、経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目です。当該科目を学生が学修するにあたり、併せて履修することが望ましい科目として、国際経営論があげられます。
授業の方法	本授業は、パワーポイントを使用して行ないます。その内容は基本テキストを要約したものなので、詳細や不明な点等は、基本テキストで再度確認してください。また、授業中に積極的な質問や意見を受け付けるアクティブ・ラーニングを実施します。
予習と復習	「復習90分」授業後、その日のうちに基本テキストを通じて講義内容を再確認すること。
テキスト等	教科書は、松崎和久（2022）『デジタル時代のエコシステム経営』同文館出版。参考書は、松崎和久（2024）『経営戦略の方程式』改訂版　税務経理協会。前書の内容は、最新のデジタル経営戦略について、後書は、経営戦略論の体系と基本について整理しています。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	30%	平常点	30%
			0%				0%
授業や課題などで不明な点は、クラスルームにある質問フォームを通じて、その都度、回答します。								

授業計画
①ガイダンス（本講義の狙いと進め方）
②戦略論の出発点（戦略論の起源）& エコシステムの高まり（ビックテック）
③戦略論の出発点（主な軍事戦略論）& エコシステムの高まり（モジュール化）
④戦略の構築（戦略マネジメントプロセス）& 概念の応用（応用化の実態）
⑤戦略研究の系譜（成長、分析、競争）& 台頭する理由（生物学、新経済、デジタル）
⑥戦略研究の系譜（資源、ゲーム、新戦略論） & 台頭する理由（規制、IoT、オープン）
⑦企業成長（多角化、戦略的撤退）& エコシステムとは何か（概念、VP、GVC）
⑧企業成長（内部開発、戦略提携）& エコシステムの構成要素（オーケストレーター）
⑨企業成長（M&Ａ）& エコシステムの構成要素（コンプリメンター）
⑩企業成長（イノベーション）& エコシステムの構成要素（フレネミー）
⑪企業成長（標準化）& エコシステムの構成要素（補完財と代替財）
⑫企業成長の戦略論（知財）& エコシステムによる戦い方（マインドセット）
⑬企業分析（全般的環境、業界環境、内部環境、経験曲線）& 戦い方（競争）
⑭企業分析（ＰＬＣ、ＰＰＭ、アナリティクス）& 戦い方（協働）
⑮まとめと総復習

科目名	経営戦略論B
英文科目名	Business Strategy B
担当者名	松﨑和久
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT210

授業の概要と到達目標	本授業では、伝統的な経営戦略論から最近のデジタル経営戦略まで幅広く取り上げます。まず伝統的な経営戦略論では、戦略論の主流を大きく８つのスクール（学派）に分け、それぞれの起源から今日までの発展そして代表的な学説等を詳しく学びます。また、近年のビジネスシーンでは、DXやＡＩ、IoTなど最先端技術の飛躍的な進歩から、ビジネスモデル、マネタイズ、サブスク、プラットフォームそしてエコシステムなど、従来の戦略論とは異なる新しい概念が登場しています。そこで、これらデジタル経営戦略に関する最新の知見等についても授業で取り上げます。本授業では、国内外の代表的な企業の事例研究を盛り込み、学習者の理解と知識の定着を促進することに加え、実務家の方を招待して授業をお願いすることも考えています。最後に、本授業は、経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目です。当該科目を学生が学修するにあたり、併せて履修することが望ましい科目として、国際経営論があげられます。
授業の方法	本授業は、パワーポイントを使用して行ないます。その内容は基本テキストを要約したものなので、詳細や不明な点等は、基本テキストで再度確認してください。また、授業中に積極的な質問や意見を受け付けるアクティブ・ラーニングを実施します。
予習と復習	「復習90分」授業後、その日のうちに基本テキストを通じて講義内容を再確認すること。
テキスト等	教科書は、松崎和久（2022）『デジタル時代のエコシステム経営』同文舘出版。参考書は、松崎和久（2024）『経営戦略の方程式』改訂版　税務経理協会。前書の内容は、最新のデジタル経営戦略について、後書は、経営戦略論の体系と基本について整理しています。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	授業や課題などで不明な点は、クラスルームにある質問フォームを通じて、その都度、回答します。							

授業計画
①ガイダンス（本講義の狙いと進め方）
②競争戦略（競争戦略）& ビジネス・エコシステム（キーストーン戦略）
③競争戦略（競争地位）& ビジネス・エコシステム（ダイナミックケイパビリティ）
④競争戦略（同業種内と異業種間）& ビジネス・エコシステム（ライフサイクル）
⑤資源ベース（経営資源論）& プラットフォーム・エコシステム（意味と定義）
⑥資源ベース（RBV、コア・コンピタンス）& プラットフォーム・エコシステム（研究）
⑦資源ベース（コアリジリティ）& プラットフォーム・エコシステム（形成者）
⑧ゲーム理論（囚人のジレンマ等）& プラットフォーム・エコシステム（論理）
⑨ゲーム理論（コーペティション）& プラットフォーム・エコシステム（レベニュー）
⑩ブルーオーシャン（BOSとROS）& プラットフォーム・エコシステム（事例）
⑪ブルーオーシャン（BOSとROSの比較）& プラットフォーム・エコシステム（事例）
⑫収益化（ビジネスモデルとは何か）& イノベーション・エコシステム（戦略とリスク）
⑬収益化（マネタイゼーション） & イノベーション・エコシステム（Ｓ字カーブ）
⑭収益化（様々なビジネスモデル）& イノベーション・エコシステム（事例）
⑮まとめと復習

科目名	経営組織論A
英文科目名	Business Organization A
担当者名	木佐森健司
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT211

授業の概要と到達目標	〈授業の概要〉私達は、一人では難しいけれども他者と協働することで成し遂げることのできる出来事へ直面したとき、組織を形成します。現代の社会生活は、企業組織あるいは公務組織、学校、家庭といった様々な組織を通じて成り立っています。経営組織論はこれら組織の中でも、特に企業組織について学ぶ学問です。授業では、さまざまな人々の活動で成り立っている組織を動かすために必要となる理論と方法について、会社で働くことを念頭に置きながら、仕事の様々な場面で、組織といかに関わるか、どのようなマネジメントが求められるのか、経営組織の理論に言及しつつ、事例とともに講義します。なお、外部講師（１回）を招聘する場合があります。 〈到達目標〉企業経営に関する基礎的な理解をふまえ、組織現象を捉えるための視点として組織の本質、ならびに組織形態の基本類型を理解することを目指します。経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」および「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目である。
授業の方法	講義を中心とする。適切な内容理解がなされているか確認するとともに理解を深めるため必要に応じ授業内討議（アクティブ・ラーニング）を取り入れる。学生の理解度および進捗にあわせ授業計画は適宜変更する。
予習と復習	＜予習（９０分）＞ 事前に指定範囲のテキストを精読し要点を整理しておくこと。＜復習（９０分）＞ 復習を心がけ、特に講義内容について記載したノートを確認するとともに、身近な組織現象と講義内容を照らし合わせ理解を深めること。
テキスト等	稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝（2022）『キャリアで語る経営組織〔第2版〕：個人の論理と組織の論理』有斐閣.※　その他の文献は適宜案内する。

評価方法								
定期試験	100%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

授業計画
①イントロダクション
②個人の欲求と会社の目的
③入社する：社会化と組織文化
④会社と仕事に慣れる：モチベーションと規則の関係
⑤人事異動：会社の中でキャリア開発？
⑥部下を持つ：リーダーシップ
⑦部内をまとめる：集団のダイナミズム
⑧内と外で学ぶ：個人と組織の学習メカニズム
⑨トラブル発生：コンフリクト・マネジメント
⑩いざ組織の再編成へ：組織デザイン
⑪部長たちの奮闘：環境のマネジメント
⑫組織の変革を任される：一点突破と全面展開
⑬ついに社長就任：経営理念とビジネスシステム
⑭仲間と会社を起こす：アントレプレナーとエコシステム
⑮ビジネスのさらに先へ：経営にできること

科目名	経営組織論B
英文科目名	Business Organization B
担当者名	木佐森健司
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT212

授業の概要と到達目標	〈授業の概要〉本講義は、企業組織をデザインするために必要となる経営組織の諸理論を概説します。一人では成し遂げられないことに直面した時、経営組織論の蓄積を活用しつつ、自分自身で組織をデザインできるようになることを目指します。〈到達目標〉組織をデザインするという観点から、経営組織に関する諸理論を理解することで、組織現象を捉えマネジメントするための力を獲得することが、本講義の目標です。経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」および「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目である。
授業の方法	講義を中心とする。適切な内容理解がなされているか確認するとともに理解を深めるため必要に応じ授業内討議（アクティブ・ラーニング）を取り入れる。学生の理解度および進捗にあわせ授業計画は適宜変更する。
予習と復習	＜予習（９０分）＞ 事前に指定範囲のテキストを精読し要点を整理しておくこと。＜復習（９０分）＞ 復習を心がけ、特に講義内容について記載したノートを確認するとともに、身近な組織現象と講義内容を照らし合わせ理解を深めること。
テキスト等	鈴木竜太(2018)『はじめての経営学：経営組織論』東洋経済新報社.※　その他の文献は適宜案内する。※　その他、参考文献は適宜、講義中に案内する。

評価方法							
定期試験	100%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

授業計画
①イントロダクション
②組織論とはどのような学問か
③組織を動かす基本設計
④組織を動かすメカニズム
⑤効率的に目標を達成する - 組織の構造
⑥個人に能力を発揮してもらう - モティベーションとリーダーシップ
⑦ベクトルを揃える
⑧中間まとめ
⑨より良い意思決定を行う
⑩環境と折り合う
⑪個々人の成長を促す
⑫新たなことを学ぶ
⑬外の力を活かす
⑭組織を変える
⑮最終まとめ

科目名	国際経営論A
英文科目名	International Business Management A
担当者名	松﨑和久
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT301

授業の概要と到達目標	本講義では、現代のグローバル企業について2つの側面から学習します。それは、国際経営論の基本とグローバル企業を巡る新たな動向です。講義の前半では、国際経営論の基礎となる世界の政治、経済、文化、民族の違いと日本企業の国際化の歴史・進化について深く学びます。講義の後半では、今日のグローバル企業を取り巻く新たな変化や動向として、シェアリング・エコノミー、人工知能、ロボットや３Ｄプリンター、ＩｏＴなど、新技術や新プロセスについて広く学びます。なお、本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシー「国際的経営センスを有するビジネス・パーソンの養成」を育成するための科目です。
授業の方法	授業のしかたは、パワーポイントで行ないます。パワーポイントで説明した資料を配布資料として毎回準備しますので、学生諸君は配布資料に特記事項などを書き込み、理解に努めて下さい。授業では、アクティブ・ラーニング（ディスカッション）をおこないます。
予習と復習	毎回、インターネットベースで配布する講義資料と指定した基本テキストを使用し、予習(90分)と復習(90分)に努めてください。 特に、復習(90分)は、講義後、その日のうちに講義内容を再確認してください。
テキスト等	松崎和久（2024）『デジタル・テクノロジー経営入門』同友館

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	著しく欠席が多い場合は、たとえ定期試験ができたとしても、大幅な減点となりますのでご注意ください（詳細については、ガイダンスでお知らせします）。							

授業計画
①ガイダンス
②世界の対立＆シェアリング・エコノミー
③世界の人間と環境　PART1＆シェアリング・エコノミー企業
④世界の人間と環境　PART２＆コンピュータの未来
⑤世界の思想と哲学（宗教）＆ＤＡＲＰＡ
⑥世界の新しい成長エンジン＆人工知能
⑦TOP市場戦略＆人工知能
⑧BOP市場戦略＆自動運転
⑨BTOとオフショアリング＆産業用ロボット
⑩国の競争優位とは何か＆産業用ロボット
⑪国の競争優位と国家戦略＆サービスロボット
⑫グローバル市場参入戦略（輸出、海外生産）＆３Ｄプリンター
⑬総合商社の機能と役割＆３Ｄプリンター
⑭多国籍企業とは何か＆IoT
⑮まとめと総復習

科目名	国際経営論B
英文科目名	International Business Management B
担当者名	松﨑和久
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MGMT302

授業の概要と到達目標

本講義では、現代のグローバル企業について２つの側面から学習します。それは、国際経営論の基本とグローバル企業を巡る新たな変化や動向です。講義の前半では、国際税務、タックスヘイブン、国際調達、国際ＨＲＭ、国際経営戦略、国際経営組織、国際企業文化等について深く学びます。講義の後半では、今日のグローバル企業の経営に強い影響を及ぼす新技術や新プロセスがグローバル企業の「マネジメント」「モノづくり」「製品」「雇用」等にどんなインパクトを与えるのかについて広く学びます。なお、本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシー「国際的経営センスを有するビジネス・パーソンの養成」を育成するための科目です。

授業の方法

授業のしかたは、パワーポイントで行ないます。パワーポイントで説明した資料を配布資料として毎回準備しますので、学生諸君は配布資料に特記事項などを書き込み、理解に努めて下さい。授業では、アクティブ・ラーニング（ディスカッション）をおこないます。

予習と復習

毎回、インターネットベースで配布する講義資料と指定した基本テキストを使用し、予習(90分)と復習(90分)に努めてください。特に、復習(90分)は、講義後、その日のうちに講義内容を再確認してください。

テキスト等

松崎和久（2024）『デジタル・テクノロジー経営入門』同友館

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
			0%				0%

著しく欠席が多い場合は、たとえ定期試験ができたとしても、大幅な減点となりますのでご注意ください（詳細については、ガイダンスでお知らせします）。

授業計画

①ガイダンス（本講義の狙いと進め方）
②国際税務戦略＆マネジメントに与える影響
③タックス・ヘイブン＆マネジメントに与える影響
④カントリーリスク＆マネジメントに与える影響
⑤国際調達戦略＆モノづくりに与える影響
⑥国際人的資源管理＆モノづくりに与える影響
⑦グローバル・マネジャー＆モノづくりに与える影響
⑧マルチドメスティック産業と戦略＆製品に与える影響
⑨グローバル産業と戦略＆製品に与える影響
⑩多国籍企業の構造と組織＆製品に与える影響
⑪トランスナショナルとメタナショナル＆雇用に与える影響
⑫クロスボーダー・イノベーション＆雇用に与える影響
⑬多国籍企業と企業文化＆雇用に与える影響
⑭国境を超えたM&Aと提携＆雇用に与える影響
⑮まとめと復習

科目名	生産管理論A
英文科目名	Production Management A
担当者名	中山景央
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM201

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞生産管理論Aでは、企業が製品やサービスを生産する際にどのような対象（モノ、情報）をどの様に管理すれば良いのかを学習します。主に製造業を対象に、その中心機能である生産活動を管理するための方法論についてモノの流れ（フロー）と在庫（ストック）についてどのような管理方式があり、またそれぞれの管理方式はどのような場面で有効なのかを講義していきます。＜到達目標＞生産管理手法の基礎知識の習得と、各管理手法のメリットデメリットを理解すること。＜ディプロマ・ポリシーとの関係＞経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材の育成
授業の方法	配布資料をベースに学習を行っていただきます．授業時はクリッカーとしてgoogleフォーム（スマートフォン使用）による双方向授業を実施します．上記に加えてgoogle classroomのスレッドにて質疑やディスカッションを行ってもらいます．（アクティブラーニング）
予習と復習	【予習（90分）】教科書や講義終了時に指定されたキーワードを次回までに調査することを通して予習を行っていただきます。【復習（90分）】配布したレジュメや教科書を用いて復習を行っていただきます。
テキスト等	レジュメを配布します．必要に応じて適宜，書籍や資料は紹介します．【参考図書】「図解　工場のしくみが面白いほどわかる本」　石川　和幸，　中京出版

評価方法	定期試験	50%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	授業内課題			20%	中間テスト			30%
	・評価点の合計が60点以上を合格とする．（最終試験不受験者及び，最終試験成績が50点未満の者は不合格）・欠席回数が5回以上の者は成績評価の対象としない（第1回授業もカウントに含む）．・授業内課題は次会授業時に解説及び質疑対応にてフィードバックを行う							

授業計画
①ガイダンス，生産管理の概要
②生産管理とは何か
③見込み生産方式Ⅰ：需要予測
④見込み生産方式Ⅱ：生産計画
⑤見込み生産方式Ⅲ：在庫マネジメント-在庫とは？-
⑥見込み生産方式Ⅳ：在庫マネジメント-在庫マネジメント手法-
⑦中間試験と解説
⑧見込み生産方式Ⅴ：在庫マネジメント-発注点の決め方とEOQ-
⑨様々な生産方式とその狙い
⑩フローマネジメントⅠ：生産スピードの決定要因
⑪フローマネジメントⅡ：負荷と生産時間の関係
⑫フローマネジメントⅢ：仕事の優先順位と生産率の関係
⑬現場改善Ⅰ：改善の指標と5S活動，業務モデリング技法の紹介
⑭現場改善Ⅱ：業務モデリング技法演習
⑮まとめと総復習

科目名	生産管理論B
英文科目名	Production Management B
担当者名	中山景央
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM202

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞生産管理論Bでは生産管理論Aの内容を基礎知識として、生産をマネジメントするシステムの概論について講義を行います。従来からある代表的な生産システムに加え、顧客ニーズの多様化や市場のグローバル化に対応するためにどの様な生産システムが運用されているのかを学習します。＜到達目標＞代表的な生産システムについての理解と、その目的及び適用場面の理解。＜ディプロマ・ポリシーとの関係＞経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材の育成
授業の方法	原則として講義を聞きながら配布資料の穴埋めをする形で授業を展開していきます．授業時はｸﾘｯｶｰとしてgoogle ﾌｫｰﾑ（ｽﾏｰﾄﾌｫﾝ使用）による双方向授業を実施します．適宜，講義内でのﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝやgoogle classroomを用たQ&Aなどを行いｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞを行います．
予習と復習	【予習（90分）】教科書や講義終了時に指定されたキーワードを次回までに調査することを通して予習を行っていただきます。【復習（90分）】配布したレジュメや教科書を用いて復習を行っていただきます。
テキスト等	レジュメを配布します．必要に応じて適宜，書籍や資料は紹介します．【参考図書】「図解　工場のしくみが面白いほどわかる本」　石川　和幸，　中京出版

評価方法	定期試験	50%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	授業内課題			20%	中間テスト			30%
	・評価点の合計が60点以上を合格とする．（最終試験不受験者及び，最終試験成績が50点未満の者は不合格）・欠席回数が5回以上の者は成績評価の対象としない（第1回授業もカウントに含む）．・授業内課題は次会授業時に解説及び質疑対応にてフィードバックを行う．							

授業計画
①ガイダンス・生産システムとは
②SCMⅠ：SCMゲーム
③SCMⅡ：SCMの理論
④SFCの方式Ⅰ（工程管理と負荷の計画）
⑤SFCの方式Ⅱ（日程の計画とその手法）
⑥SFCの方式Ⅲ（購買管理とその手法）
⑦ゼミ発表聴講
⑧中間テストと解説
⑨工程設計
⑩原価管理
⑪新製品開発
⑫品質管理
⑬グローバル生産システム
⑭フレキシブル生産システムとは
⑮まとめと総復習

科目名	販売管理論A
英文科目名	Sales Management A
担当者名	竹内慶司
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM203

授業の概要と到達目標	本講義では、企業と市場との相互関係を見きわめ、適切な販売予測やその実現が可能になるよう運営のあり方を考えていく。具体的には、市場環境の分析、製品戦略、流通経路戦略、価格戦略、販売促進戦略に関しそれらの理論と実際を学んでいく。春学期においては、主に市場環境の分析と製品戦略を中心に進めていく。　また本講義では、授業時間内に実務専門家を招聘し講演して頂く予定である。　経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。
授業の方法	②アクティブ・ラーニングの一環として、一部の授業回でプレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）を実施する。
予習と復習	事前に参考書等の当該箇所をよく読んでに関する記事を読んで要点を整理しておくこと。講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。　準備学修は予習（90分）復習（90分）。
テキスト等	竹内慶司編著『市場創造（改訂版）』（学文社）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
	小レポート			0%				0%
	授業時間内にレポートの提出を求める。レポートは返却しないが、授業時に全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①オリエンテーション
②販売管理論とマーケティング
③マーケティング・コンセプトと顧客志向
④マーケティング・ミックス
⑤マーケティング環境とセグメンテーション
⑥市場のつかみ方（１）ＳＷＯＴ分析
⑦市場のつかみ方（２）ＰＰＭ
⑧市場のつかみ方（３）市場ポジショニング分析
⑨限定マーケティング（エリア・マーケティング）
⑩製品の考え方と製品分類
⑪新製品開発の手法
⑫製品ライフサイクルと製品ミックス
⑬ブランドの役割とブランド・ロイヤルティ
⑭外部講師による講義
⑮まとめと復習

科目名	販売管理論B
英文科目名	Sales Management B
担当者名	竹内慶司
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM204

授業の概要と到達目標	本講義では、企業と市場との相互関係を見きわめ、適切な販売予測やその実現が可能になるよう運営のあり方を考えていく。秋学期においては、主に価格戦略、チャネル戦略、販売促進戦略を中心に進めていく。 また本講義では、授業時間内に実務専門家を招聘し講演して頂く予定である。 経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。
授業の方法	②アクティブ・ラーニングの一環として、一部の授業回でプレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）を実施する。
予習と復習	事前に参考書等の当該箇所をよく読んでに関する記事を読んで要点を整理しておくこと。講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。 準備学修は予習（90分）復習（90分）。
テキスト等	竹内慶司編著『市場創造』（学文社）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%
	授業時間内にレポートの提出を求める。レポートは返却しないが、授業時に全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①オリエンテーション
②価格設定のメカニズム
③新製品の価格政策
④差別価格政策
⑤メーカー希望小売価格とオープン・プライス
⑥心理的価格政策
⑦チャネル政策の類型
⑧流通系列化
⑨チェーン・ストアの類型
⑩流通機能の役割
⑪プロモーションの領域
⑫コミュニケーションプロセスとＡＩＤＭＡ
⑬広告とメディア・ミックス
⑭外部講師による講義
⑮まとめと復習

科目名	経営心理学A
英文科目名	Management Psychology A
担当者名	小林康一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM205

授業の概要と到達目標	企業組織の活動における心理的側面についての諸研究を幅広く検討していくことで、「経営組織と人間」とはどのような関係にあり、どのように形成・維持されているのかを考える。前期では主に個人の行動に焦点を当て、パーソナリティやモチベーション、意思決定などの伝統的な産業心理学の扱うテーマを中心に、古典から現代までの理論的変遷や現代における実践現場での活用について検討していく。特に経営現場での活用については、担当教員の企業におけるプレイヤーならびにマネジャーとしての実務経験を踏まえた実践的事例を元に議論を深めていく。 ディプロマポリシーとの関連については、経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」の育成を目的とした科目である。また、人間科学部においてはディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わ交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」の育成を目的としている。秋学期に開かれる経営心理学Ｂをあわせて受講することを推奨する。
授業の方法	教室内での教員への質疑やディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、一部の授業回で実施する。
予習と復習	予習(90分)前回講義の終了時に紹介をした書籍や記事などを参考に、次回講義で扱うテーマや問題点を事前に把握し自分なりの意見をまとめておく。復習(90分)講義内で配布したレジュメの空欄への記入に抜け落ちがないか確認し、講義の内容の理解や疑問点を明確化する。
テキスト等	特になし。毎回の授業でレジュメを配布し、それに沿って授業を行います。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	20%
	各テーマ終了時に実施する小テスト			30%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義内もしくは終了後に回収するGoogle Formを使用したリアクションペーパーにもとづき、質疑に対する回答やフィードバックをおこなう。							

授業計画
①ガイダンス
②経営心理学とはなにか
③個人と行動 ① ～能力・スキルとパーソナリティ ～
④個人と行動 ② ～ 今後求められるコンピテンシーとは ～
⑤個人と行動 ③～ パーソナリティ ～
⑥モチベーション ①　～ モチベーション理論の概要 ～
⑦モチベーション ②　～ モチベーションの「強度」（1）欲求理論 ～
⑧モチベーション ③　～ モチベーションの「方向性」（1）価値と期待 ～
⑨モチベーション ④　～ モチベーションの「方向性」（2）目標とはなにか ～
⑩モチベーション ⑤　～ モチベーションの「持続力」（1）報酬と行動分析 ～
⑪モチベーション ⑥　～ モチベーションの「持続力」（2）行動の中止 ～
⑫意思決定 ①　～意思決定とはなにか～
⑬意思決定 ②　～合理的意思決定とバイアス～
⑭意思決定 ③　～意思決定の心理学～
⑮まとめ

科目名	経営心理学B
英文科目名	Management Psychology B
担当者名	小林康一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM206

授業の概要と到達目標	経営心理学Ｂでは特にコミュニケーションや対人認知を中心に、理論的な理解と同時に実際の経営の現場で生かせるような具体的なコミュニケーション・スキルを学んでいく。また、1 on 1のコミュニケーションだけでなくコミュニケーションの束としてのグループやチームの動態や活用についても議論する。また、担当教員の企業における営業やコンサルティングの経験を踏まえた実践的な理論の活用も視野に入れる。具体的には営業活動におけるコミュニケーションの重要性や職場におけるチームの活用などを事例を元に解説する。ディプロマポリシーとの関連については、経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」の育成を目的とした科目である。また、人間科学部においてはディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」の育成を目的としている。春学期に開かれる経営心理学Aならびに経営組織論、キャリアデザイン論をあわせて受講することを推奨する。
授業の方法	教室内での教員への質疑やディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、一部の授業回で実施する。
予習と復習	予習(90分)前回講義の終了時に紹介をした書籍や記事などを参考に、次回講義で扱うテーマや問題点を事前に把握し自分なりの意見をまとめておく。復習(90分)講義内で配布したレジュメの空欄への記入に抜け落ちがないか確認し、講義の内容の理解や疑問点を明確化する。
テキスト等	特になし。毎回の授業でレジュメを配布し、それに沿って授業を行います。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	20%
	各テーマ終了時に実施する小テスト			30%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義内もしくは終了後に回収するGoogle Formを使用したリアクションペーパーにもとづき、質疑に対する回答やフィードバックをおこなう。							

授業計画
①ガイダンス
②コミュニケーション ①　～コミュニケーションの基礎～
③コミュニケーション ②　～自己開示とアサーション～
④コミュニケーション ③　～自己呈示の手法～
⑤影響力 ①　～対人魅力～
⑥影響力 ②　～返報性～
⑦影響力 ③　～一貫性と社会的証明～
⑧グループ・ダイナミクス ①　～グループの力～
⑨グループ・ダイナミクス ②　～グループとチーム～
⑩グループ・ダイナミクス ③　～グループの闇「グループシンク」～
⑪グループ・ダイナミクス ④　～グループの闇「フリーライダー」～
⑫リーダーシップ ①　～リーダーシップとはなにか～
⑬リーダーシップ ②　～リーダーシップの理論～
⑭リーダーシップ ③　～リーダーシップの心理学～
⑮講義のまとめ

科目名	経営工学A
英文科目名	Management Engineering A
担当者名	降簱徹馬
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM301

授業の概要と到達目標	情報化やグローバル化，IoT・AI・ビッグデータによるイノベーションなど企業を取り巻く環境の変化が激しい現代社会において，企業活動の計画やマネジメントに工学的な考え方・方法・技法を適用し，問題解決を図る実践的な学問である経営工学の重要性が一層増している．本講義では，ヒト，モノ，カネ，情報を経営資源としている企業活動（オペレーションやマネジメント活動）に対して，問題，課題，実態に関する認識，知識や解決のための考え方，手順，手法，技法を取り上げる．講義は経営工学が広範な領域を持つことから重要な事柄に焦点をしぼり，事例や例題を提示しながら平易に解説していく．春学期は意思決定手法と経済性評価を取り上げる．「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントを行う人材」の育成に寄与する科目である．
授業の方法	基本的には講義を中心に行うが，自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するために，授業内にて質疑応答を実施するとともに，ワークシートによる理解度確認を行う．
予習と復習	予習（90分）事前に配布する講義資料を熟読した上で講義に参加すること復習（90分以上）毎回実施するワークシート課題の回答を作成すること
テキスト等	講義用資料を配布する．参考書は，千住鎮雄・伏見多美雄『経済性工学の基礎』（日本能率協会マネジメントセンター）などをはじめ多数あるので，その他は講義中に紹介する．

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
	なし			0%	なし			0%
	レポート課題と平常点で総合的に評価する．レポートに関しては全般的な評価と所見を提示する．出席が2/3に満たない場合はY3評価とする．なお，本科目は毎回ワークシート課題を出題するので，3年次での履修を勧める．							

授業計画	①企業経営と経営工学
	②決定技法（１）意思決定とは
	③決定技法（２）デシジョンツリー
	④決定技法（３）階層化意思決定法
	⑤決定技法（４）不確実性下の意思決定
	⑥経済性工学（１）経済的有利さの比較
	⑦経済性工学（２）現在価値と将来の価値
	⑧経済性工学（３）投資の時間換算計算
	⑨経済性工学（４）投資案の評価方法
	⑩経済性工学（５）不確実な状況下での評価
	⑪数理的決定法の基本
	⑫数理的決定法の応用（各種計画問題）
	⑬経営効率分析法の基本
	⑭経営効率分析法の応用（分析事例）
	⑮まとめと総復習

科目名	経営工学B
英文科目名	Management Engineering B
担当者名	降簱徹馬
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM302

授業の概要と到達目標	情報化やグローバル化，IoT・AI・ビッグデータによるイノベーションなど企業を取り巻く環境変化が激しい現代において，企業活動の計画やマネジメントに工学的な考え方・方法・技法を適用し，問題解決を図る実践的な学問である経営工学の重要性が一層増している．本講義では，ヒト，モノ，カネ，情報を経営資源としている企業活動（オペレーションやマネジメント活動）に対して，課題、実態に関する認識，知識や解決のための考え方，手法，技法を取り上げる．講義は経営工学が広範な領域を持つことから重要な事柄に焦点をしぼり，事例や例題を提示しながら平易に解説していく．秋学期はいくつかの計画・マネジメント手法を取り上げる．「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントを行う人材」の育成に寄与する科目である．
授業の方法	基本的には講義を中心に行うが，自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するために，授業内で質疑応答を実施するとともに，ワークシートによる理解度確認を行う．
予習と復習	予習（90分）事前に配布する講義資料を熟読した上で講義に参加すること復習（90分以上）毎回実施するワークシート課題の回答を作成すること
テキスト等	講義用資料を配布する．その他参考書は講義中に紹介する．

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
	なし			0%	なし			0%
	レポート課題と平常点で総合的に評価する．レポートに関しては全般的な評価と所見を提示する．なお，出席が2/3に満たない場合はY3評価とする．							

授業計画
①経営工学におけるマネジメントの考え方
②製品開発における経営工学の役割
③基本統計量の意味再考
④需要予測（時系列分析）
⑤需要予測（回帰分析）
⑥在庫マネジメント（考え方）
⑦在庫マネジメント（管理方式）
⑧品質マネジメント
⑨プロジェクト・マネジメント
⑩サプライチェーン・マネジメント（誕生・発展・SCMの基礎）
⑪サプライチェーン・マネジメント（SCMの戦略的活用）
⑫制約理論（TOC）
⑬顧客満足と顧客価値創造（形成メカニズム）
⑭顧客満足と顧客価値創造（価値創造について）
⑮まとめと総復習（データドリブン経営）

科目名	情報管理論A
英文科目名	Management of Information System A
担当者名	永戸哲也
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	INFO201

授業の概要と到達目標	【履修登録にあたっての注意】　この科目は経営学部企業経営コース/情報コース専門科目、商学部他学部聴講科目となる。この科目を履修しても学部基礎科目(情報)の単位とはならないので注意すること　経営学部のディプロマポリシー「ICT(情報通信技術)を経営に生かすために必要な知識・スキルを学ぶ」ための科目である　現代企業の経営活動には情報システムによる情報の効率的かつ効果的な管理が不可欠である。本科目では企業活動の中で情報システムがどのような役割を果たしているのか、またそのような情報システムはどのように構築されているのかを検討・理解していく。　本科目では経営情報システムに関する講義とコンピュータ実習を有機的に組み合わせることで企業内の情報および情報システムの管理についてより実務的な能力を養うことを目的とする。また、同時にパーソナルコンピュータを用いたオフィスアプリケーションの実習を行い、コンピュータの扱いに習熟することを目指している。
授業の方法	講義とコンピュータ実習によるアクティブ・ラーニングから構成される。また、プレゼンテーション実習ではグループでの調査・プレゼンテーション作成・発表を行う。学習支援システム（LMS）としてGoogle-ClassroomおよびMicrosoft Teamsを活用する。
予習と復習	（予習90分）ICT(情報通信技術)に関連したニュースなどに関心を持ち、チェックする（復習90分）授業ではICT分野や経営分野の基礎的用語・専門用語を多数使用するのでそれらを定着させる。また、授業時間内で完成しなかった実習課題に取り組む
テキスト等	Google-Classroomで授業用資料を事前に配布する。【参考図書】生稲 史彦・高井 文子・野島 美保『コア・テキスト 経営情報論』

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	0%	平常点	60%
	プレゼンテーション			10%				0%
	実習を伴う科目であるため､出席率70%未満はY3評価とする｡実習における提出物およびプレゼンテーションの貢献度を加点要素として評価に加算する｡授業内試験および実習課題についてGoogle-Classroomにて評価と所見のフィードバックを行う。							

授業計画
①ガイダンス
②企業活動と情報システム
③情報システムの発展過程
④事業活動と基幹系情報システム1：小売業
⑤事業活動と基幹系情報システム2：製造業
⑥事業活動と基幹系情報システム3：会計・人事等、支援業務のシステム
⑦組織活動と情報システム
⑧情報システムと意思決定
⑨データ活用とナレッジマネジメント
⑩電子商取引とインターネット／Webシステム
⑪情報セキュリティマネジメント
⑫プレゼンテーション実習準備
⑬プレゼンテーション実習1：発表準備
⑭プレゼンテーション実習2：発表と振り返り
⑮まとめと総復習

科目名	情報管理論B
英文科目名	Management of Information System B
担当者名	永戸哲也
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	INFO202

授業の概要と到達目標	【履修登録にあたっての注意】　この科目は経営学部企業経営コース/情報コース専門科目、商学部他学部聴講科目となる。この科目を履修しても学部基礎科目(情報)の単位とはならないので注意すること　経営学部のディプロマポリシー「ICT(情報通信技術)を経営に生かすために必要な知識・スキルを学ぶ」ための科目である　現代企業の経営活動には情報システムによる情報の効率的かつ効果的な管理が不可欠である。本科目では情報システムを計画・開発・導入するための方法論および導入された情報システムを安定的に管理・運用していくための手法について学習する。システム導入の目的である経営活動の支援、経営成果に結びつけるためにはどのような課題があり、それらにどのように対処することが必要なのか。システムを通じて得られる情報を意思決定に応用するための基礎的な方法についても解説する。　また、オフィスアプリケーション(Microsoft Excel)を活用したシミュレーション、意思決定演習を行い、データをもとにした意思決定について理解すると同時にソフトウェアへの習熟度を高めることを目指す。
授業の方法	講義とコンピュータ実習によるアクティブラーニングの部分から構成される。学習支援システム（LMS）としてGoogle-ClassroomおよびMicrosoft Teamsを活用する。
予習と復習	（予習90分）事前に配布するプリントを授業前に十分読んでおくこと（復習90分）授業ではICT分野や経営分野の基礎的用語・専門用語を多数使用するのでそれらを定着させる。また、授業時間内で完成しなかった実習課題に取り組む
テキスト等	Google-Classroomで授業用資料を配布する。【参考図書】生稲 史彦・高井 文子・野島 美保『コア・テキスト 経営情報論』

定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
			0%				0%

評価方法	実習を伴う科目であるため､出席率70%未満はY3評価とする｡実習における提出物および意思決定演習の貢献度を加点要素として評価に加算する｡授業内試験および実習課題についてGoogle-Classroomにて評価と所見のフィードバックを行う。

授業計画	①ガイダンス
	②コンピュータと情報システムの構成要素
	③情報の基礎理論
	④経営戦略と情報システム戦略
	⑤情報システムの導入計画とIT資源調達
	⑥情報システムの開発1：ビジネスプロセスの分析
	⑦情報システムの開発2：システム開発技術
	⑧情報システムの開発3：プロジェクトマネジメント
	⑨情報システムの運用と管理
	⑩情報セキュリティの技術と管理
	⑪情報システム監査とITガバナンス
	⑫データ分析の基礎
	⑬データ分析と意思決定
	⑭意思決定演習
	⑮まとめと総復習

科目名	経営財務論A
英文科目名	Business Finance A
担当者名	青淵正幸
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM305

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞　経営財務論は企業における資金の調達と運用を主たるテーマとする学問である。実務では、資金の調達と運用に加え、財務分析や資金管理も財務部門で扱われる。経営財務論Aでは、まずは経営資源の１つである「カネ」の流れを記録する財務諸表の構造を説明する。続いて財務諸表を用いた分析手法を習得する。最後に、企業における資金調達の種類と特徴について学ぶ。＜到達目標＞１．財務管理と会計の関係の理解２．財務諸表の構造の理解と分析手法の習得３．企業における資金調達の特徴の理解　本科目は経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の回では課題を提示してその解決を目指すPBL（課題解決型学習）を実施する。
予習と復習	予習(90分)：前回の授業内容の見直しを行い、課題内容を確認しておくこと。復習(90分)：授業内容について復習したのち、課題に取り組み期限内に提出すること。
テキスト等	『「知識ゼロ」の人のための超ざっくり分かるファイナンス』（光文社）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	授業内にて中間試験および期末試験を実施し、全般的な評価と所見を授業内で伝達する。							

授業計画	①オリエンテーション
	②企業活動における財務と会計の位置づけ
	③企業活動と財務諸表
	④貸借対照表の構造
	⑤短期的支払能力の分析
	⑥長期的支払能力の分析
	⑦中間試験の実施
	⑧中間試験の解説
	⑨損益計算書の構造
	⑩収益性の分析
	⑪効率性の分析
	⑫直接金融と間接金融
	⑬外部金融と内部金融
	⑭期末試験の実施
	⑮期末試験の解説と授業の振り返り

科目名	経営財務論B
英文科目名	Business Finance B
担当者名	青淵正幸
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM306

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞　経営財務論Bのテーマは投資の経済性計算である。　企業が事業活動を行うには、経営資源の１つであるカネ（資金）が必要である。調達された資金にはコストが発生する。企業は調達した資金を投じて活動し、コストを上回るリターン（利益）の獲得が求められる。そのため、経営者は選択する投資案がふさわしいかを判断する能力が必要となる。この授業ではその知識の習得を目標とする。＜到達目標＞１．企業における資金調達の種類と特徴の理解２．企業における投資の種類と意思決定手法の理解　本科目は経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の回では課題を提示してその解決を目指すPBL（課題解決型学習）を実施する。
予習と復習	予習(90分)：前回の授業内容の見直しを行い、課題内容を確認しておくこと。復習(90分)：授業内容について復習したのち、課題に取り組み期限内に提出すること。
テキスト等	『「知識ゼロ」の人のための超ざっくり分かるファイナンス』（光文社）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%
授業内中間試験および期末試験を実施し、全般的な評価と所見を授業内で伝達する。								

授業計画
①オリエンテーション
②時間価値と複利計算
③時間価値と割引計算
④企業活動と資金調達
⑤資金調達と資本コスト１（概論）
⑥資金調達と資本コスト２（演習）
⑦授業内中間試験の実施
⑧投資の経済性計算と投資の分類
⑨授業内中間試験の解説・加重平均資本コスト
⑩回収期間法による意思決定
⑪正味現在価値法による意思決定
⑫内部利益率法による意思決定
⑬事業価値と企業価値
⑭授業内期末試験の実施
⑮授業内期末試験の解説と授業の振り返り

科目名	経営労務論A
英文科目名	Human Resource Management A
担当者名	田口和雄
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM307

授業の概要と到達目標	【授業の目標】・人的資源管理に関する理論を習得､活用して人的資源管理に関する様々な課題等を議論するレベルに達すること【概要】・経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。本講座は、企業が経営活動を展開する上で不可欠な｢ヒト｣､｢モノ｣､｢カネ｣､｢情報｣から構成される｢経営資源｣の中で、｢ヒト=人的資源｣を対象としています。近年､IT化の進展､少子高齢化､就業形態の多様化､経営活動のグローバル化など､組織(特に企業)を取り巻く経営環境が変化しつつある中で､｢人的資源｣の重要性が高まってきています｡本講座では､企業(とくに日本企業)の人的資源管理を構成する「人事管理」分野の仕組みとその特質を理論的な枠組みだけではなく､最近の実証研究や事例等を取り上げながら講義していきます。
授業の方法	・アクティブラーニングとして、一部の授業回でPBLを実施する。
予習と復習	【予習(90分)】テキストの熟読、人的資源管理に関する記事等の情報収集をしておくこと。【復習(90分)】講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	・今野浩一郎『人事管理入門〈第2版〉(日経文庫)』(日本経済新聞社)

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	20%	平常点	0%
				0%				0%
	・授業内試験（持ち込み不可）と授業内レポート（数回実施）による総合評価を行います。・成績評価結果について全般的な評価と所見を授業内で伝達します。							

授業計画	
	①ガイダンス(春学期の講義概要を説明します。)
	②人的資源管理の理論
	③人的資源管理の枠組み
	④採用管理(1)－理論
	⑤採用管理(2)－枠組み
	⑥配置と異動の管理(1)－理論
	⑦配置と異動の管理－枠組み
	⑧人事制度(1)－社員区分制度
	⑨人事制度(2)－社員格付け制度
	⑩教育訓練と人材育成(1)－理論
	⑪教育訓練と人材育成(2)－枠組み
	⑫人事評価(1)－理論
	⑬人事評価(2)－実践
	⑭まとめと総復習(1)－春学期のまとめ
	⑮まとめと総復習(2)－総括

科目名	経営労務論B
英文科目名	Human Resource Management B
担当者名	田口和雄
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM308

授業の概要と到達目標	【授業の目標】・人的資源管理に関する理論を習得､活用し人的資源管理に関する様々な課題等を議論するレベルに達すること【概要】・経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。本講義は、企業が経営活動を展開する上で不可欠な｢ヒト｣､｢モノ｣､｢カネ｣､｢情報｣から構成される｢経営資源｣の中で、｢ヒト=人的資源｣を対象としています。近年､IT化の進展､少子高齢化､就業形態の多様化､経営活動のグローバル化など､組織(特に企業)を取り巻く経営環境が変化しつつある中で､｢人的資源｣の重要性が高まってきています｡本講座では､企業(とくに日本企業)の人的資源管理を構成する「労務管理」分野の仕組みとその特質を理論的な枠組みだけではなく､最近の実証研究や事例等を取り上げながら講義していきます。
授業の方法	・アクティブラーニングとして、一部の授業回でPBLを実施する。
予習と復習	【予習(90分)】テキストの熟読、人的資源管理に関する記事等の情報収集をしておくこと。【復習(90分)】講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	・今野浩一郎『人事管理入門〈第2版〉(日経文庫)』(日本経済新聞社)

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	20%	平常点	0%
				0%				0%
	・授業内試験（持ち込み不可）と授業内レポート（数回実施）による総合評価を行います。・成績評価結果について全般的な評価と所見を授業内で伝達します。							

授業計画	①ガイダンス(秋学期の講義概要を説明します。)
	②昇進･昇格管理(1)－総額管理
	③昇進･昇格管理(2)－個別賃金管理
	④報酬管理
	⑤福利厚生と退職金･企業年金
	⑥労働条件管理(1)－労働時間
	⑦労働条件管理(2)－勤務形態
	⑧雇用調整･解雇･退職
	⑨労使関係管理(1)－労働組合
	⑩労使関係管理(2)－労使交渉
	⑪少子高齢化と人的資源管理
	⑫就業形態の多様化と人的資源管理
	⑬グローバル化と人的資源管理
	⑭まとめと総復習(1)－秋学期のまとめ
	⑮まとめと総復習(2)－復習

科目名	賃金管理論A
英文科目名	Pay Management A
担当者名	田口和雄
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM309

授業の概要と到達目標	【授業の目標】・報酬管理に関する理論を習得､応用し賃金を巻く様々な課題等を議論するレベルに達すること 【概要】・経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。本講義は､企業の人的資源管理の主要な管理活動である報酬管理の仕組みとその特質に関する基礎を学習することを目的としています。卒業後､社会人として働き出すと会社等から給料やボーナスが支払われますが､これらはどのように決められているのでしょうか？報酬管理は皆さんに身近で､生活していく上で不可欠な分野なのです｡本講座では､企業(特に､日本企業)の報酬管理の仕組みとその特質を理論的な枠組みだけではなく､最近の実証研究や事例等を取り上げながら講義していきます。
授業の方法	・アクティブラーニングとして、一部の授業回でPBLを実施する。
予習と復習	【予習(90分)】テキストの熟読、人的資源管理に関する記事等の情報収集をしておくこと。【復習(90分)】講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	今野浩一郎･佐藤博樹『新装版　マネジメント・テキスト　人事管理入門』(日本経済新聞社)

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	20%	平常点	0%
				0%				0%
	・授業内試験（持ち込み不可）と授業内レポート（数回実施）による総合評価を実施します。・成績評価結果について全般的な評価と所見を授業内で伝達します。							

授業計画	①ガイダンス(春学期の講義概要を説明します。)
	②人的資源管理を捉える枠組み
	③報酬管理を捉える枠組み(1)－労働費用の管理
	④報酬管理を捉える枠組み(2)－賃金の総額管理
	⑤社員区分と人事制度
	⑥人事評価
	⑦総額人件費の管理
	⑧個別賃金の管理
	⑨賃金制度の管理
	⑩基本給の諸類型
	⑪基本給の決め方
	⑫基本給の上がり方－昇給の仕組み
	⑬賞与の仕組み
	⑭まとめと総復習(1)－春学期のまとめ
	⑮まとめと総復習(2)－総括

科目名	賃金管理論B
英文科目名	Pay Management B
担当者名	田口和雄
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	BMGM310
授業の概要と到達目標	【授業の目標】・報酬管理に関する理論を習得､応用し賃金を巻く様々な課題等を議論するレベルに達すること 【概要】・経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。本講義は､企業の人的資源管理の主要な管理活動である報酬管理の仕組みとその特質に関する基礎を学習することを目的としています。 卒業後､社会人として働き出すと会社等から給料やボーナスが支払われますが､これらはどのように決められているのでしょうか？報酬管理は皆さんに身近で､生活していく上で不可欠な分野なのです｡本講座では､企業(特に､日本企業)の報酬管理の仕組みとその特質を理論的な枠組みだけではなく､最近の実証研究や事例等を取り上げながら講義していきます。
授業の方法	・アクティブラーニングとして、一部の授業回でPBLを実施する。
予習と復習	【予習(90分)】テキストの熟読、人的資源管理に関する記事等の情報収集をしておくこと。【復習(90分)】講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	今野浩一郎･佐藤博樹『新装版　マネジメント・テキスト　人事管理入門』(日本経済新聞社)

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	20%	平常点	0%
				0%				0%

・授業内試験（持ち込み不可）と授業内レポート（数回実施）による総合評価を行います。・成績評価結果について全般的な評価と所見を授業内で伝達します。

授業計画
①ガイダンス(秋学期の講義概要を説明します。)
②報酬管理を捉える枠組み
③報酬管理の構成分野
④賞与･一時金の理論
⑤賞与･一時金の仕組み
⑥法定福利厚生
⑦法定外福利厚生
⑧退職給付
⑨企業年金
⑩労働組合の組織と機能
⑪労使関係
⑫労使協議
⑬事例研究
⑭まとめと総復習(1)－秋学期のまとめ
⑮まとめと総復習(2)－復習

科目名	企業法（企業形態法）
英文科目名	Business Law (Companies Act Ⅰ)
担当者名	村上誠
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM201

授業の概要と到達目標	この授業では、株式会社制度を中心に会社法について講義します。国内の会社のほとんどは株式会社の形態を採用しており、その仕組みを正確に理解することを目標とします。株式会社といっても、中小零細企業から上場企業に至るまで、その規模には大きな違いがあり、適用される規制も異なります。なお本授業は、経営学部のディプロマポリシー「企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目です。
授業の方法	一部の授業回でアクティブ・ラーニング（反転学習等）の時間を設ける。
予習と復習	予習（90分）グーグルクラスルームにアップされた授業プリントを事前に確認し、疑問点をまとめておくこと。復習（90分）授業内容をまとめ、重要な点を再確認すること。
テキスト等	授業時にプリント、資料等を配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	授業課題			70%	まとめ課題			30%
	授業課題及びまとめ課題について、全般的な評価と所見を授業時またはグーグルクラスルームに掲示する。							

授業計画	①株式会社とステークホルダー
	②会社法の概要
	③有限責任と会社の種類
	④株式会社制度の概要
	⑤株主の権利－自益権・共益権
	⑥株主の権利－株主平等原則ほか
	⑦普通株式
	⑧種類株式－譲渡制限株式ほか
	⑨種類株式－議決権制限株式ほか
	⑩株式会社の資金調達の方法
	⑪株式会社の資金調達－公募増資を中心に
	⑫株式会社の資金調達－第三者割当増資を中心に
	⑬株式会社の設立－発起設立・募集設立
	⑭株式会社の設立－出資の履行ほか
	⑮まとめと総復習

科目名	企業法（株式会社法）
英文科目名	Business Law (Companies Act Ⅱ)
担当者名	村上誠
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM202

授業の概要と到達目標	979条から成る会社法の大部分は株式会社に関する規制となっています。この授業では、会社法のうち株式会社における企業統治の仕組みを中心に講義し、株式会社を組織し、運営する上での法規制を正確に理解することを目標とします。なお、春学期に開講される「企業法（企業形態法）」において習得する知識が必要となる場合も少なくないので、事前に同授業を履修しておくことが望ましい。本授業は、経営学部のディプロマポリシー「企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目です。
授業の方法	一部の授業回でアクティブ・ラーニング（反転学習等）の時間を設ける。
予習と復習	予習（90分）グーグルクラスルームにアップされた授業プリントを事前に確認し、疑問点をまとめておくこと。復習（90分）授業内容をまとめ、重要な点を再確認すること。
テキスト等	授業時にプリント、資料等を配布する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
授業課題			70%	まとめ課題			30%
授業課題及びまとめ課題について、全般的な評価と所見を授業時またはグーグルクラスルームに掲示する。							

授業計画
①株式会社制度の基本
②株式会社の機関設計の概要
③株式会社の機関－株主総会（決議事項・決議要件）
④株式会社の機関－株主総会（株主提案）
⑤株式会社の機関－取締役
⑥株式会社の機関－取締役会
⑦株式会社の機関－監査役、監査役会
⑧上場会社における機関設計の選択
⑨監査役会設置会社
⑩指名委員会等設置会社
⑪監査等委員会設置会社
⑫上場会社における企業統治
⑬役員等の民事責任
⑭株式会社の組織再編（株式交換・株式移転）
⑮まとめと総復習

科目名	経済法A
英文科目名	Anti Trust Law A
担当者名	丸山慎悟
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM203

授業の概要と到達目標	本授業では、市場経済において公正で自由な競争を確保するための法制度である経済法（競争法）について、主として日本の独占禁止法を中心に学ぶ。企業活動においては、価格設定、取引条件の決定、事業者間の協力関係など、さまざまな場面で競争法が問題となる。本授業では、不当な取引制限（カルテルや談合）、私的独占、企業結合規制、事業者団体規制などの規制類型を取り上げ、企業行動がどのような場合に法的問題となるのかを、具体的な事例や判例を素材として検討する。また、企業経営の観点から、企業活動と競争政策の関係について基本的な理解を得ることを目的とする。なお本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシーである企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材の育成に寄与する科目である。
授業の方法	パワーポイントと事前設例を用いた講義形式。アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でディスカッションの機会を設け、その他リアクションペーパーや反転学習とそのフィードバック等により講義内容の理解を深める。
予習と復習	予習：テキストの該当部分及び事前設例に目を通し、要点・当該設例で問題となるポイントをレポートにまとめておくこと復習：講義後、その日のうちに講義内容を再確認し、事前設例について法的な結論を検討すること
テキスト等	土田　和博ほか「条文から学ぶ独占禁止法（第３版）」（有斐閣、２０２４年）川濵　昇ほか編「経済法判例・審決百選（第３版）」（有斐閣、２０２４年）

評価方法							
定期試験	100%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

授業計画
①経済法学入門・イントロダクション
②独占禁止法の基礎概念（１）独占禁止法の対象
③独占禁止法の基礎概念（２）市場支配力
④独占禁止法の条文・事例解説（１）「不当な取引制限の要件」
⑤独占禁止法の条文・事例解説（２）「談合・ハードコアカルテル」
⑥独占禁止法の条文・事例解説（３）「非ハードコアカルテル」
⑦独占禁止法の条文・事例解説（４）「企業結合規制の要件」
⑧独占禁止法の条文・事例解説（５）「企業結合規制の近時の事例」
⑨独占禁止法の条文・事例解説（６）「私的独占の要件」
⑩独占禁止法の条文・事例解説（７）「私的独占における人為性」
⑪独占禁止法の条文・事例解説（８）「私的独占の事例検討」
⑫独占禁止法の条文・事例解説（９）「事業者団体規制」
⑬独占禁止法の条文・事例解説（１０）「独占禁止法エンフォースメント」
⑭独占禁止法の条文・事例解説（１１）「独占禁止法と隣接法域」
⑮まとめと総復習

科目名	経済法B
英文科目名	Anti Trust Law B
担当者名	丸山慎悟
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM204

授業の概要と到達目標	本授業では、市場経済において公正で自由な競争を確保するための法制度である経済法（競争法）について、主として日本の独占禁止法を中心に学ぶ。企業活動においては、価格設定、取引条件の決定、事業者間の協力関係など、さまざまな場面で競争法が問題となる。本授業では、不公正な取引方法（取引拒絶、抱き合わせ、優越的地位濫用等）の規制類型を取り上げ、企業行動がどのような場合に法的問題となるのかを、具体的な事例や判例を素材として検討する。また、企業経営の観点から、企業活動と競争政策の関係について基本的な理解を得ることを目的とする。なお本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシーである企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材の育成に寄与する科目である。
授業の方法	パワーポイントと事前設例を用いた講義形式。アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でディスカッションの機会を設け、その他リアクションペーパーや反転学習とそのフィードバック等により講義内容の理解を深める。
予習と復習	予習：テキストの該当部分及び事前設例に目を通し、要点・当該設例で問題となるポイントをレポートにまとめておくこと復習：講義後、その日のうちに講義内容を再確認し、事前設例について法的な結論を検討すること
テキスト等	土田　和博ほか「条文から学ぶ独占禁止法（第３版）」（有斐閣、２０２４年）川濵　昇ほか編「経済法判例・審決百選（第３版）」（有斐閣、２０２４年）

評価方法							
定期試験	100%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

授業計画
①独占禁止法の条文・事例解説（１）「不公正な取引方法総論-問題となる行為類型」
②独占禁止法の条文・事例解説（２）「不公正な取引方法総論-公正競争阻害性」
③独占禁止法の条文・事例解説（３）「共同の取引拒絶」
④独占禁止法の条文・事例解説（４）「その他の取引拒絶」
⑤独占禁止法の条文・事例解説（５）「差別的取扱い」
⑥独占禁止法の条文・事例解説（６）「不当廉売」
⑦独占禁止法の条文・事例解説（７）「抱き合わせ販売等の要件」
⑧独占禁止法の条文・事例解説（８）「抱き合わせ販売等に関する近時の事例」
⑨独占禁止法の条文・事例解説（９）「事業活動の不当拘束-再販売価格拘束」
⑩独占禁止法の条文・事例解説（１０）「事業活動の不当拘束-排他条件付き取引」
⑪独占禁止法の条文・事例解説（１１）「事業活動の不当拘束-拘束条件付き取引」
⑫独占禁止法の条文・事例解説（１２）「事業活動の不当拘束に関する事例検討」
⑬独占禁止法の条文・事例解説（１３）「取引妨害」
⑭独占禁止法の条文・事例解説（１４）「優越的地位濫用の要件と関係法令」
⑮まとめと総復習

科目名	労働法A
英文科目名	Labor Law A
担当者名	藤川久昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM205

授業の概要と到達目標	弁護士としての訴訟実務、企業顧問経験、企業経営者としての知見をもとに講義します。１つ目の目標＝経営学部のディプロマポリシーである、企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材を育成することです。２つ目の目標は、本講義では､みなさんが働くときに出会う可能性のある労働法上の問題について、どういったルールが存在し､どの点に気をつければいいか､学ぶことです｡３つ目の目標は、法的考え方を学ぶということです。「要件・効果・趣旨」をきちんと駆使できるようにすることです。自分の身を守るために必要になりえます。４つ目の目標は、講義中にしっかりと集中して勉強できるようにすることです（したがって厳格な受講態度が求められます）｡私語、居眠り、よそ見一切厳禁です（もともと、居眠りの余裕もない講義ではありますが）。遅刻も、理由の如何をとわず、一切許しません＝入室不許可。
授業の方法	前提として、法的分析方法＝問題の解き方を教えます。毎回の講義では事例を一緒に読み、それを解くための論点、ルールを教え、実際に解いてもらい、ミニレポートを提出します。要するに課題解決型学習を実践します。
予習と復習	予習では、法的ものの考え方、要件効果趣旨、レポートの書き方について、毎回きちんと確認して下さい。復習では、作成レポートを見なおして、法的ものの考え方を踏まえているかどうか、毎回きちんと確認して下さい。目安の時間は９０分です。
テキスト等	こちらから配布するレジュメとします｡忘れないで毎回持ってきて下さい｡欠席した場合には、インフォメーションまで、必ずレジュメを取りに行くか、ＧＣからダウンロードして下さいね。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	0%
	ガイダンスへの出席とミニレポート出席			20%	毎回のミニレポート			30%
	ガイダンス＝初回の講義に必ず出席して下さい。講義内容を完全に理解していただくことが理由です。授業内試験ですが２回やります。２回目はものすごく難しいです。２回とも受験することも可能です。実施方法等は講義で説明します。							

授業計画	
	①講義ガイダンス&労働法入門【超重要】
	②交通事故をもとに法的考え方を学ぶ
	③ミスをしたらすぐにクビになるの？
	④会社の経営が悪いとクビになるの？
	⑤期間が終わったらさよなら？
	⑥出身大学を理由に採用しないなんていいの？
	⑦法的文書＝答案作成指導・質問コーナー　(02) から (06) まで
	⑧採用内定切りにどう対応すればいいの？
	⑨お試し期間が終わったら理由なく切られるの？
	⑩給与から罰金が天引きされちゃったのですが？
	⑪アルバイト先から損害賠償を請求されたんですが？
	⑫時給って急に下げられるものなの？
	⑬法的文書＝答案作成指導・質問コーナー　(08) から (12) まで
	⑭授業内試験その１
	⑮授業内試験その２

科目名	労働法B
英文科目名	Labor Law B
担当者名	藤川久昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM206

授業の概要と到達目標	弁護士としての訴訟実務、企業顧問経験、企業経営者としての知見をもとに講義します。１つ目の目標＝経営学部のディプロマポリシーである、企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材を育成することです。２つ目の目標は、本講義では､みなさんが働くときに出会う可能性のある労働法上の問題について、どういったルールが存在し､どの点に気をつければいいか､学ぶことです｡３つ目の目標は、法的考え方を学ぶということです。「要件・効果・趣旨」をきちんと駆使できるようにすることです。自分の身を守るために必要になりえます。４つ目の目標は、講義中にしっかりと集中して勉強できるようにすることです（したがって厳格な受講態度が求められます）｡私語、居眠り、よそ見一切厳禁です（もともと、居眠りの余裕もない講義ではありますが）。遅刻も、理由の如何をとわず、一切許しません＝入室不可。
授業の方法	前提として、法的分析方法＝問題の解き方を教えます。毎回の講義では事例を一緒に読み、それを解くための論点、ルールを教え、実際に解いてもらい、ミニレポートを提出します。要するに課題解決型学習を実践します。
予習と復習	予習では、法的ものの考え方、要件効果趣旨、レポートの書き方について、毎回きちんと確認して下さい。復習では、作成レポートを見なおして、法的ものの考え方を踏まえているかどうか、毎回きちんと確認して下さい。目安の時間は９０分です。
テキスト等	こちらから配布するレジュメとします｡忘れないで毎回持ってきて下さい｡欠席した場合には、インフォメーションまでレジュメを取りに行くか、ＧＣからダウンロードして下さい。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	0%
	ガイダンスへの出席・ミニレポートの提出			20%	毎回提出するミニレポート			30%
	ガイダンス＝初回の講義に必ず出席して下さい。講義内容を完全に理解していただくことが理由です。授業内試験ですが２回やります。２回目はものすごく難しいです。２回とも受験することも可能です。実施方法等は講義で説明します。							

授業計画	
	①講義ガイダンス&労働法入門【超重要】
	②名誉毀損事案を通じて法的考え方を学ぶ
	③サービス残業って労働時間じゃないの?
	④残業は絶対しなきゃいけないの?
	⑤名ばかり管理職って何?
	⑥アルバイトも休暇はとれるのかな?
	⑦法的文書＝答案作成指導・質問コーナー　(02)から(06)まで
	⑧アルバイト中に怪我をしたら補償がでるの？
	⑨バイトの帰り道､交通事故にあったら？
	⑩過労死したときの補償は？
	⑪パワハラを受けたらどうしたらいいですか？
	⑫正社員よりかなり賃金が低いのですが？
	⑬法的文書＝答案作成指導・質問コーナー　(8)から(12)まで
	⑭講義内試験その１
	⑮講義内試験その２

科目名	企業法（知的財産法）
英文科目名	Business Law (Intellectual Property Law)
担当者名	村上誠
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM301

授業の概要と到達目標

知的財産権は企業価値を構成する重要な要素のひとつであり、その法律上の仕組みを理解することが欠かせません。また、個人、企業を問わず、他者（他社）の知的財産権を侵害しないという点にも十分な注意が必要となります。この授業では、知的財産権に関わる各法律の基本を理解することを目標とします。なお本授業は、経営学部のディプロマポリシー「企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目です。

授業の方法

一部の授業回でアクティブ・ラーニング（反転学習等）の時間を設ける。

予習と復習

予習（90分）グーグルクラスルームにアップされた授業プリントを事前に確認し、疑問点をまとめておくこと。復習（90分）授業内容をまとめ、重要な点を再確認すること。

テキスト等

授業時にプリント、資料等を配布する。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
授業課題			70%	まとめ課題			30%

授業課題及びまとめ課題について、全般的な評価と所見を授業時またはグーグルクラスルームに掲示する。

授業計画

①知的財産権とは
②知的財産権に関する法律
③商標法
④特許法－発明とは
⑤特許法－特許要件
⑥特許法－特許を受ける権利
⑦特許法－特許権の活用
⑧著作権法－著作物とは
⑨著作権法－支分権
⑩著作権法－著作者人格権
⑪著作権法－著作隣接権
⑫著作権法－著作権侵害への対応
⑬不正競争防止法－営業秘密
⑭不正競争防止法－表示行為
⑮まとめと総復習

科目名	企業法（有価証券法）
英文科目名	Business Law (Negotiable Instrument Act)
担当者名	村上誠
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM302
授業の概要と到達目標	「電子記録債権」と「上場株式」に関する法規制について講義します。前者は企業間の取引における支払手段のひとつとして利用されており、電子記録債権法に基づきその仕組みを理解することを授業の目標とします。後者の上場株式に関する法規制については、インサイダー取引規制など個人投資家にも関係するものを中心に、金融商品取引法に基づき理解することを授業の目標とします。なお本授業は、経営学部のディプロマポリシー「企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目です。
授業の方法	一部の授業回でアクティブ・ラーニング（反転学習等）の時間を設ける。
予習と復習	予習（90分）グーグルクラスルームにアップされた授業プリントを事前に確認し、疑問点をまとめておくこと。復習（90分）授業内容をまとめ、重要な点を再確認すること。
テキスト等	授業時にプリント、資料等を配布する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
授業課題			70%	まとめ課題			30%
授業課題及びまとめ課題について、全般的な評価と所見を授業時またはグーグルクラスルームに掲示する。							

授業計画
①電子記録債権の役割
②電子記録債権の基本
③電子記録債権法に基づく法律関係
④電子記録債権における人的抗弁
⑤電子記録債権の譲渡
⑥電子記録債権の善意取得
⑦電子記録債権の割引・電子記録債権を利用した貸付と保証
⑧金融商品取引法の概要
⑨開示規制
⑩インサイダー取引規制－規制対象者・重要事実
⑪インサイダー取引規制－情報伝達・取引推奨行為
⑫公開買付制度の概要
⑬公開買付制度の詳細（買付条件の設定等）
⑭投資勧誘規制
⑮まとめと総復習

科目名	行政法A
英文科目名	Administrative Law A
担当者名	山根雅昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM303

授業の概要と到達目標	社会分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。合理的･客観的な法的基準に基づいて、法的安定性のもとで市民が市民的･社会的生活を営めるようにするために規制を行う、行政が従うべき法規範の総体が行政法である。この講義は、行政法諸原則を理解し、さらに経営に関する紛争の法的な解決、その予防、さらに戦略法務(政府規制、税務などの法的枠組みの中で、効率的に有効な戦略を駆使してリスクの少ない取引形態を採用する)のそれぞれの行政法との関係の重要性を説明できるようになることを目標とする。行政法Aでは行政法総論、行政組織法、行政の行為形式を扱う。＜準備学修(予習･復習)＞憲法・民法の基礎知識は必須。範囲を指定するので事前にテキストを予習しておくこと。
授業の方法	講義形式。アクティブラーニングとしてフィールドワーク（例）国立ハンセン病資料館を見学したうえで、公衆衛生行政の過誤を学び、レポートにまとめる。
予習と復習	予習（90分）指定教科書を読む。復習（90分）講義内容を、教科書・ノート等で復習する。
テキスト等	市橋克哉他『アクチュアル行政法〔第3版〕』（法律文化社）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
				0%				0%
	レポート(論述式)と平常点（出席状況）により評価する。フィードバック方法は、全般的な評価と所見を授業内で提示。							

授業計画
①現代行政の特徴
②行政法の概念と行政法の法源
③法治主義･民主主義･法律の留保論･法律の授権論
④多元的な法的拘束･比例原則･平等原則･適正手続
⑤行政体と行政機関
⑥行政機関相互の関係
⑦行政準則･法規命令
⑧行政規則
⑨行政行為の意義･類型･成立･効力の発生と消滅
⑩処分手続･法律の授権･行政行為の適法性要件
⑪行政行為の効力･欠効･撤回、司法審査
⑫行政指導
⑬行政契約
⑭消費者行政
⑮まとめと総復習

科目名	行政法B
英文科目名	Administrative Law B
担当者名	山根雅昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM304

授業の概要と到達目標	社会分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。合理的･客観的な法的基準に基づいて、法的安定性のもとで市民が市民的･社会的生活を営めるようにするために規制を行う、行政が従うべき法規範の総体が行政法である。この講義は行政法諸原則を理解し、さらに経営に関する紛争の法的な解決、その予防、さらに戦略法務(政府規制、税務などの法的枠組みの中で、効率的に有効な戦略を駆使してリスクの少ない取引形態を採用する)のそれぞれの行政法との関係の重要性を説明できるようになることを目標とする。行政法Bでは行政上の諸制度、行政上の苦情処理･行政争訟、国家補償を扱う。＜準備学修(予習･復習)＞憲法・民法の基礎知識は必須。範囲を指定するので事前にテキストを予習しておくこと。
授業の方法	講義形式。アクティブラーニングとしてフィールドワーク（例）国立ハンセン病資料館を見学したうえで、公衆衛生行政の過誤を学び、レポートにまとめる。
予習と復習	予習（90分）指定教科書を読む。復習（90分）講義内容を、教科書・ノート等で復習する。
テキスト等	市橋克哉他『アクチュアル行政法〔第3版〕』（法律文化社）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
				0%				0%
	レポート(論述式)と平常点（出席状況）により評価する。フィードバック方法は、全般的な評価と所見を授業内で提示。							

授業計画	①行政調査
	②行政上の強制執行制度･即時強制制度
	③行政上の制裁制度
	④行政情報の管理･利用、行政機関における個人情報
	⑤行政機関における情報公開、行政情報の開示等
	⑥行政上の苦情処理、行政上の不服申し立て
	⑦行政事件訴訟の概念･沿革、行政事件訴訟と司法権
	⑧取消訴訟の訴訟要件
	⑨取消訴訟の審理･判決
	⑩無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟、義務付け
	⑪行政事件訴訟と仮の救済
	⑫損失補償
	⑬国家賠償の概念と憲法、国家賠償法1条
	⑭国家賠償法2条、国家賠償法3条から6条、国家賠償
	⑮まとめと総復習

科目名	税法A
英文科目名	Tax Law A
担当者名	住倉毅宏
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM305

授業の概要と到達目標	現在の社会で税の果たす役割は大変大きいものです。授業では、税法の基礎知識及び税法の基本的な考え方を習得することを主な目標とします。まず、租税の意義などの説明を行い、次いで、所得税法について扱います。所得税法は、公平な課税を行うために、所得を発生要因別に10種類に区分しています。授業では、この各所得の意義について検討することにより、所得税法の考え方を習得していきます。春学期の後半では、相続税・贈与税の概要、消費税法の概要、さらに、税務調査上の諸問題などの説明を行います。また、国税の職場での勤務経験も踏まえて、社会で実際に問題となっていることにも触れたいと思っています。この授業は、「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる人材を育成する」というディプロマ・ポリシーを達成するための科目です。したがって、税法の学習には、簿記・会計の知識を必須とし、さらに法律の基本科目として憲法・民法の知識も求められます。履修に当たってはこれらの分野の学習も心掛けてください。
授業の方法	講義形式が原則ですが、クリッカーの使用によるアクティブラーニングを一部の授業で実施し、クリッカー課題に答えてもらい、フィードバックします。
予習と復習	予習（９０分）事前配布のレジュメ及び税大講本の該当箇所をよく読み整理しておくこと復習（９０分）授業後、その日のうちに授業内容を再確認すること
テキスト等	毎回の授業においてレジュメを配付参考書・参考資料等　税大講本『税法入門』『所得税法』『相続税法』『消費税法』（税務大学校HP）、租税法概説（第4版）（中里実他、有斐閣）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%

平常点は、出席をした上で課題を提出した者を評価対象とします。　課題、試験につき授業内等でフィードバックします。

授業計画
①ガイダンス及びわが国における租税制度の概要
②国税に関する通則規定
③所得税法総論（１）（総論）
④所得税法総論（２）（所得種類、所得控除）
⑤所得税法各論（利子、配当、不動産、事業所得）
⑥所得税法各論（給与、退職、山林所得）
⑦所得税法各論（譲渡、一時、雑所得）
⑧所得税額の計算（収益計上時期、必要経費等）
⑨相続税法の概要
⑩贈与税の概要及び財産の評価
⑪消費税法（１）（総論）
⑫消費税法（２）（仕入税額控除等）
⑬税務調査及び争訟制度
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	税法B
英文科目名	Tax Law B
担当者名	住倉毅宏
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM306

授業の概要と到達目標

本授業においては、法人税法の基本的な考え方を習得することを主な目標とします。企業の行動において、税金の存在は決して小さなものではありません。皆さんが、社会人として企業に勤めることになれば、多少なりとも関係してきます。法人税法は企業の会計上の利益を対象に課税をしますが、課税所得の計算上、多くの修正を加えます。授業では、法人税法独自の所得計算やその趣旨について説明します。そして、今日的課題である国際課税上の諸問題などに関しても扱います。また、国税の職場での勤務経験も踏まえて、社会で実際に問題となっていることにも触れたいと思っています。　この授業は、「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる人材を育成する」というディプロマ・ポリシーを達成するための科目です。したがって、税法の学習には、簿記・会計の知識を必須とし、さらに法律の基本科目として憲法・民法の知識も求められます。履修に当たってはこれらの分野の学習も心掛けてください。

授業の方法

講義形式が原則ですが、クリッカーの使用によるアクティブラーニングを一部の授業で実施し、クリッカー課題に答えてもらい、フィードバックします。

予習と復習

予習（９０分）事前配布のレジュメ及び税大講本の該当箇所をよく読み整理しておくこと復習（９０分）授業後、その日のうちに授業内容を再確認すること

テキスト等

毎回の講義においてレジュメを配布。参考書　税大講本『法人税法』『税法入門』（税務大学校HP）、渡辺徹也『スタンダード法人税法（第３版）』（弘文堂）

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
			0%				0%

平常点は、出席をした上で課題を提出した者を評価の対象とします。　課題、試験につき授業内等でフィードバックします。

授業計画

①ガイダンス及び日本の財政と法人税
②法人税法総論（１）（法人税の基本構造）
③法人税法総論（２）（課税所得の計算原理）
④益金の額の計算（１）（収益の計上時期、無償取引等）
⑤益金の額の計算（２）（受取配当の益金不算入等）
⑥損金の額の計算（１）（費用の計上時期、役員給与等）
⑦損金の額の計算（２）（寄附金、交際費等）
⑧損金の額の計算（３）（減価償却費等）
⑨損金の額の計算（４）（貸倒引当金）
⑩損失、繰越欠損金
⑪税額控除、申告等
⑫公益法人に対する課税
⑬国際課税
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	労働基準法
英文科目名	Labor Standard Law
担当者名	藤川久昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LMGM307

授業の概要と到達目標	弁護士としての訴訟実務、企業顧問経験、企業経営者としての知見をもとに講義します。１つ目の目標＝経営学部のディプロマポリシーである、企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材を育成することです。２つ目の目標は、労働法を深く勉強したい方が、労働基準法に関するテーマに関して「深掘り」をします。具体的には、有名な判例・裁判例を一緒に読みます。３つ目の目標は、法的考え方を学ぶということです。「要件・効果・趣旨」をきちんと駆使できるようにすることです。自分の身を守るために必要になりえます。４つ目の目標は、講義中にしっかりと集中して勉強できるようにすることです（したがって厳格な受講態度が求められます）。私語、居眠り、よそ見一切厳禁です（もともと、居眠りの余裕もない講義ではありますが）。遅刻も、理由の如何をとわず、一切許しません＝入室不可。
授業の方法	前提として、法的分析方法＝問題の解き方、と、判例・裁判例の読み方を教えます。毎回の講義では、判例・裁判例を配り、それを一緒に読み、論点・ルール・あてはめを読み取ってもらって、ミニレポートを提出します。課題解決型学習を実践します。
予習と復習	予習では、法的ものの考え方、要件効果趣旨、レポートの書き方について、毎回きちんと確認して下さい。復習では、作成レポートを見なおして、法的ものの考え方を踏まえているかどうか、毎回きちんと確認して下さい。目安の時間は９０分です。
テキスト等	こちらから配布する資料・レジュメとします。忘れないで毎回持ってきて下さい。欠席した場合には、インフォメーションまでレジュメを取りに行って下さい。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	0%
	ガイダンスへの出席とミニレポート出席			20%	毎回提出するレポート			30%
	ガイダンス＝初回の講義に必ず出席して下さい。講義内容を完全に理解していただくことが理由です。授業内試験ですが２回やります。２回目はものすごく難しいです。２回とも受験することも可能です。実施方法等は講義で説明します。							

授業計画	①講義ガイダンス【超重要】
	②テーマ１　労働事案をもとに法的分析方法を学ぶ
	③テーマ２　判例・裁判例の読み方を学ぶ
	④テーマ３　労働基準法３６条に関する裁判例
	⑤テーマ３　議論＆ミニレポート
	⑥テーマ４　労働基準法３７条に関する裁判例
	⑦テーマ４　議論＆ミニレポート
	⑧ここまでのまとめと復習・質問コーナー
	⑨テーマ５　労働基準法３２の２に関する裁判例
	⑩テーマ５　議論＆ミニレポート
	⑪テーマ６　労働基準法７５条に関する裁判例
	⑫テーマ６　議論＆ミニレポート
	⑬講義内試験と解説
	⑭講義内試験と解説
	⑮まとめと総復習

科目名	事業計画論A
英文科目名	Business Planning　A
担当者名	城裕昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENTP301
授業の概要と到達目標	【授業の概要】・事業計画の「基礎」、作成目的・作成内容・作成手順を学修する。・新しい「商品・サービス」の事業計画書を実際に作成する。　・作成した事業計画を人に伝え、周囲から協力を得られるようにする。・教員の社会人経験を活かし、ビジネス現場における事業計画の活用方法を指導する。【到達目標】・経営学部のディプロマ・ポリシー「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」「経営管理を学びライン部門・スタッフ　部門のマネジメントとなり得る人材育成」のための科目である。
授業の方法	・事業計画作成の基本的な知識・手法を学修する。・アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークやプレゼンテーションを実施する。・ノートPC持参が望ましい。
予習と復習	・予習（90分）事前にテキスト・資料を精読し、要点をまとめておくこと。・復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	・教科書：原 尚美『51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方』（日本実業出版社）・授業前に資料データを配布する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	20%	平常点	40%
			0%				0%

・6回以上欠席すると、単位は取得できない。・レポートは返却せず般的な評価と所見を講義内で説明する。・中間と期末に確認試験を行う。

授業計画
①オリエンテーション、事業計画の役割
②事業コンセプト、5年後のビジョン
③事業ドメイン
④社会的背景
⑤市場規模、競合他社の動向
⑥顧客のメリット、当社の強み
⑦商品･サービス、販売戦略、中間テスト
⑧外部講師による講義
⑨ビジネスモデルの基礎
⑩社内体制
⑪売上計画 、売上原価計画
⑫人員計画、設備計画
⑬利益計画、資金計画
⑭ストーリーづくり、アクションプラン、期末テスト
⑮全体まとめと総復習

科目名	事業計画論B
英文科目名	Business Planning B
担当者名	城裕昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENTP302

授業の概要と到達目標	【授業の概要】・ビジネスプラニングの「応用」を学修する。・クラウドファンディングを使った商品・サービス開発手法や、ビジネスモデルの構築法を学修する。・ビジネスモデルを理解し、それを可視化できるようになる。・教員の社会人経験を活かし、ビジネス現場における事業計画の活用方法を指導する。【到達目標】・経営学部のディプロマ・ポリシー「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材育成」のための科目である。
授業の方法	・アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークやプレゼンテーションを実施する。・ノートPC持参が望ましい。
予習と復習	・予習（90分）事前にテキスト・資料を精読し、要点をまとめておくこと。・復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	・参考書：板越ジョージ『クラウドファンディングで夢をかなえる本』（ダイヤモンド社）・教科書：今津美樹『ビジネスモデル・キャンバス徹底攻略ガイド』（翔泳社）・授業前に資料データを配布する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	30%	平常点	30%
				0%				0%

・6回以上欠席すると、単位は取得できない。・レポートは返却せず般的な評価と所見を講義内で説明する。・中間と期末に確認試験を行う。

授業計画
①オリエンテーション
②クラウドファンディング概論
③クラファンプロジェクトの成功事例
④クラファンサイトのチェックポイント
⑤演習 ①（タイトル、カテゴリー、目標金額）
⑥演習 ②（プロジェクトの概要、リターン、SNSの活用）
⑦中間テスト
⑧外部講師による講義
⑨ビジネスモデル概論、ビジネスモデルの図解
⑩ビジネスモデル・キャンバスの基礎
⑪ビジネスモデルの構築、セカンドキャンバス
⑫チームモデルの構築
⑬リーンキャンバス、パーソナルキャンバス
⑭期末テスト
⑮全体まとめと総復習

科目名	中小企業経営論A
英文科目名	The Theory of Small and Medium Business Management A
担当者名	藤木寛人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENTP201

授業の概要と到達目標	中小企業は日本の企業数の99%以上を占め、日本経済において重要な役割を果たしています。また、全従業者数の約3分の2が中小企業で働いており、雇用の場としても重要です。おそらく皆さんの大多数が将来的に中小企業で働くことになるでしょう。中小企業について学ぶことが自身の今後のキャリアを見据える上で役に立つはずです。中小企業経営論Aでは、中小企業が抱える諸問題や現代社会において果たす役割などについて総合的に学び、中小企業に関する幅広い知識を得ることを目指します。また、本講義は、起業・事業承継コースの選択必修科目であり、経営学部のディプロマ・ポリシーである「事業承継者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目です。
授業の方法	中小企業経営論Aは基本的に対面形式で行います（一部オンデマンド方式あり）。また、不定期で授業内テストを実施し、反転学習を行います（アクティブラーニング）。
予習と復習	予習（90分）：前回の配布プリントによく目を通しておいてください。復習（90分）：不定期で授業内試験を実施します。配布プリントを中心に復習してください。
テキスト等	テキスト：テキストは使用しません。資料：パワーポイント資料を授業毎に配布します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	授業内試験の翌週に答案を返却し、平均点の公表と復習を兼ねた解説を行います。また、6回以上欠席した学生は成績評価を「Y3」とします。							

授業計画
①ガイダンス：中小企業の定義
②中小企業の社会的役割を考える
③中小企業の発展性を考える（販売の不確実性と情報発見活動）
④中小企業の発展性を考える（情報発見システムとしての企業）
⑤授業内試験
⑥授業内試験の解説／中小企業の問題性を考える（大企業体制の形成）
⑦中小企業の問題性を考える（大企業の市場管理行動と中小企業問題）
⑧授業内試験
⑨授業内試験の解説／事業承継問題（事業承継問題とは何か）
⑩事業承継問題（事業承継対策・支援策）
⑪中小企業金融（中小企業と資金繰り）
⑫中小企業金融（中小企業問題としての金融）
⑬中小企業金融（中小企業専門金融機関と資金調達）
⑭授業内試験
⑮授業内試験の解説／中小企業と新卒採用

科目名	中小企業経営論B
英文科目名	The Theory of Small and Medium Business Management B
担当者名	藤木寛人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENTP202

授業の概要と到達目標	中小企業は日本の企業数の99%以上を占め、日本経済において重要な役割を果たしています。また、全従業者の約3分の2が中小企業で働いており、雇用の場としても重要です。おそらく皆さんの大多数が将来的に中小企業で働くことになるでしょう。中小企業について学ぶことが自身の今後のキャリアを見据える上で役に立つはずです。中小企業経営論Bでは、中小企業を①イノベーションを起こす主体、②競争を促進する主体、③地域経済を活性化する主体として位置づけ、国の中小企業政策の今日的展開について学修します。また、本講義は、起業・事業承継コースの選択必修科目であり、経営学部のディプロマ・ポリシーである「事業承継者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目です。
授業の方法	中小企業経営論Bは基本的に対面形式で行います（一部、オンデマンド方式あり）。また、不定期で授業内試験を実施し、反転学習を行います（アクティブラーニング）。
予習と復習	予習（90分）：前回の授業内容によく目を通しておいてください。復習（90分）：不定期で授業内試験を実施します。配布プリントを中心に復習してください。
テキスト等	テキスト：テキストは使用しません。資料：パワーポイント資料を授業毎に配布します。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	授業内試験の翌週に答案を返却し、平均点の公表と復習を兼ねた解説を行います。また、6回以上欠席した学生は成績評価を「Y3」とします。							

授業計画	①中小企業問題と中小企業政策
	②中小企業政策の変遷（基礎的施策の展開）
	③中小企業政策の変遷（産業構造型中小企業政策の展開）
	④中小企業政策の変遷（産業調整型中小企業政策の展開）
	⑤中小企業政策の変遷（競争政策型中小企業政策の展開）
	⑥授業内試験
	⑦授業内試験の解説／異業種連携による新事業展開
	⑧地域資源活用による新事業展開（地域産業資源としての鉱工業品およびその技術）
	⑨地域資源活用による新事業展開（地域産業資源としての伝統的工芸品）
	⑩地域資源活用による新事業展開（地域産業資源としての観光）
	⑪農商工連携による新事業展開
	⑫中小商業問題
	⑬商店街の活性化を考える
	⑭授業内試験
	⑮授業内試験の解説／まとめ

科目名	企業家論A
英文科目名	Entrepreneurship A
担当者名	大島久幸
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENTP303

授業の概要と到達目標	<授業の概要>企業家論で取扱う対象は、新規事業機会を発見し、事業化する企業家である。本講義では、企業者理論の系譜を簡単に振り返った後、主としてシュンペータの企業者理論を拠り所として、歴史上に登場した企業家の分析を行なう。なお、秋学期と併せて履修することが望ましい。<到達目標>日本の経営発展に登場した、重要な企業家を取り上げ、その革新的企業者活動を分析することにより、企業経営ないし経営発展に必要な企業者活動ないし企業者精神とはいかなるものなのかを明かにしていきたい。なお本講義は、企業経営、経営法務、起業・事業承継、情報のコース制の下、専門的知識の深化を目指す科目であり、ディプロマポリシー「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目である。
授業の方法	この講義では、具体的な企業家を取り上げるに際して、自律的な学習(アクティブ・ラーニング)を促進するため、ディベート形式で講義を行う。講義には積極的な参加が求められる。
予習と復習	予習(90分)講義に関する教材・資料等を予習し、必要な情報等を収集し、ディベートに備える。復習(90分)当日のディベートの内容を復習し、次回に備える。
テキスト等	佐々木聡『日本の企業家群像』（丸善 2001年）、同『日本の企業家群像２』（丸善 2003年）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	【課題に対するフィードバック】ディベートの結果と評価者の評価について、全般的所見を提示する。							

授業計画
①企業者とはなにか
②企業者論の系譜
③企業者史学の誕生
④ペンローズとドラッカー
⑤革新の概念：新結合と企業者精神
⑥会社企業の成立：岩崎と渋沢
⑦国産新製品の創製：長瀬と鈴木
⑧新事業群の形成：鮎川と豊田
⑨都市型第三次産業の開拓者：小林と堤
⑩技術志向型と市場志向型：小平と松下
⑪戦後型企業：井深・盛田と本田・藤沢
⑫流通革新と消費の多様化：中内と鈴木
⑬先端技術への挑戦：服部・早川
⑭ケースの振り返り
⑮まとめと総復習

科目名	企業家論B
英文科目名	Entrepreneurship B
担当者名	大島久幸
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENTP304

授業の概要と到達目標	〈授業の概要〉企業家論で取扱う対象は、新規事業機会を発見し、事業化する企業家である。本講義では、企業者理論の系譜を簡単に振り返った後、主としてシュンペータの企業者理論を拠り所として、歴史上に登場した企業家の分析を行なう。なお、春学期と併せて履修することが望ましい。〈到達目標〉日本の経営発展に登場した、重要な企業家を取り上げ、その革新的企業者活動を分析することにより、企業経営ないし経営発展に必要な企業者活動ないし企業者精神とはいかなるものなのかを明かにしていきたい。なお本講義は、企業経営、経営法務、起業・事業承継、情報のコース制の下、専門的知識の深化を目指す科目であり、ディプロマポリシー「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目である。
授業の方法	この講義では、具体的な企業家を取り上げるのに際し、自律的な学習(アクティブ・ラーニング)を促進するため、ディベート形式で授業を行う。講義には積極的にな参加が求められる。
予習と復習	予習(90分)講義に関する教材・資料等を予習し、必要な情報等を収集し、ディベートに備える。復習(90分)当日のディベートの内容を復習し、次回に備える。
テキスト等	佐々木聡『日本の企業家群像』（丸善 2001年）、同『日本の企業家群像２』（丸善2003年）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	【課題に対するフィードバック】ディベートの結果と評価者の評価について、全般的所見を提示する。							

授業計画
①企業家とは何か
②紡績業と労務管理の近代化：武藤と大原
③製紙業の企業間競争：大川と藤原
④舶来品の国産化：福原と小林
⑤伝統的商業から純国産品へ：鳥居と石橋
⑥規制に抗した反骨の経営者：松永と出光
⑦ベンチャービジネスの展開：山内と稲盛
⑧新サービスのパイオニア：小倉と飯田
⑨日本鉄鋼業の革新者：西山弥太郎
⑩技術と経営の狭間で：池田敏夫
⑪志と責任感をもった経営者：木川田・工光
⑫食と健康の覇者：大塚・安藤
⑬企業者精神と創造的破壊
⑭歴史に見る革新
⑮まとめと総復習

科目名	企業研究A
英文科目名	Entrepreneurship Study A
担当者名	藤木寛人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENTP305

授業の概要と到達目標	企業研究Aは、起業・事業承継コースの選択必修科目であり、経営学部のディプロマ・ポリシーである「事業承継者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目です。春学期は事業承継について学び、 後継者としての自覚を深めることを目標とします。今日では、中小企業における事業承継の形態は約半数が親族外承継です。経営者になるルートは起業だけではありません。「事業承継なんて自分には関係ない」と思っている学生も受講することをおすすめします。企業研究Aでは下記のテキストを採用します。初回授業までに準備しておいてください。なお、外部講師（経営者）2名を招聘する予定です。
授業の方法	授業は基本的に対面形式で実施します（一部オンデマンド方式あり）。また、不定期で授業内テストを実施し、反転学習を行います（アクティブラーニング）。
予習と復習	予習（90分）：教科書や前回の配布プリントに目を通しておいてください。復習（90分）：授業開始時に前回の授業内容について質問します。各自復習を行ってください。
テキスト等	落合康裕(2019)『事業承継の経営学:企業はいかに後継者を育成するか』白桃書房(2,500円)。

定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

授業内試験の翌週に答案を返却し、平均点の公表と復習を兼ねた解説を行います。また、6回以上欠席した学生は成績評価を「Y3」とします。

授業計画
①事業承継とは何か
②経営者による講演（講師未定）
③事業承継問題とは何か
④現経営者の役割と課題
⑤後継者育成
⑥先代経営者と後継者の関係性
⑦授業内試験
⑧授業内試験の解説／社内の利害関係者と後継者の関係性
⑨社外の利害関係者と後継者の関係性
⑩経営戦略と次世代組織の構築
⑪事業承継後の後継者の思考と行動：起業家としての後継者
⑫事業承継後の後継者の思考と行動：後継者に対するガバナンス
⑬経営者による講演（講師未定）
⑭授業内試験
⑮授業内試験の解説

科目名	企業研究B
英文科目名	Entrepreneurship Study B
担当者名	藤木寛人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENTP306

授業の概要と到達目標	企業研究Bは、起業・事業承継コースの選択必修科目であり、経営学部のディプロマ・ポリシーである「事業承継者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目です。事業承継者は経営環境の変化に適応していかなければなりません。また、春学期では事業承継者が社内で獲得的地位を確立するためには新規事業への取り組みが有効であることを学修しました。それを踏まえ、秋学期ではこれまで学修してきた分析ツールを使って受講学生の家業について研究するとともに、着想した新規事業についてビジネスモデルキャンバスの作成に取り組んでもらいます。なお、秋学期も外部講師（経営者）2名を招聘する予定です。
授業の方法	・授業は対面形式で実施します。・毎回の授業でグループワークとプレゼンテーションを行います（アクティブ・ラーニング）。発表者以外は質問を行ってください。
予習と復習	予習（90分）：授業時間外にプレゼンテーションの準備に取り組んでください。復習（90分）：授業開始時に前回の授業内容について質問します。各自復習を行ってください。
テキスト等	テキストは使用しません。パワーポイント資料を授業毎に配布します。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	0%
	プレゼンテーションの良否			50%				0%
	・プレゼンテーションの良否や質問の回数で評価します。プレゼンテーションに対する評価は授業内でコメントします。・レポートに対する評価は授業内でコメントします。・6回以上欠席した学生は成績評価を「Y3」とします。							

授業計画	①ガイダンス：授業の進め方、グループ決めなど
	②経営者による講演（講師未定）
	③後継者育成と新規事業
	④新規事業の構想
	⑤PEST分析の方法
	⑥ビジネスモデルの設計
	⑦プレゼンコンテスト／ゼミ発表会
	⑧家業のビジネスモデルの検討
	⑨ビジネスモデルキャンバスの作成（顧客セグメント、価値提案）
	⑩ビジネスモデルキャンバスの作成（チャネル、顧客との関係）
	⑪ビジネスモデルキャンバスの作成（収益の流れ、主要リソース）
	⑫ビジネスモデルキャンバスの作成（主要活動、主要パートナー）
	⑬ビジネスモデルキャンバスの作成（コスト構造）
	⑭ビジネスモデル・キャンバスのプレゼンテーション
	⑮経営者による講演（講師未定）

科目名	事業創造論A
英文科目名	Entrepreneur Business A
担当者名	藤木寛人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENTP203

授業の概要と到達目標	事業創造論Aは、起業・事業承継コースの選択必修科目であり、経営学部のディプロマ・ポリシーである「事業承継者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目です。春学期は、起業または事業承継を目指す学生を想定し、ビジネスをデザインするためのフレームワーク（＝分析方法）について学修します。ビジネスアイデアをブラッシュアップするために実践的に活用できるアプローチを中心に解説していきます。また、グループワークで実際にビジネスアイデアを考えてもらいます。後半の授業では現役経営者に対してビジネスアイデアを発表する機会を設ける予定です。
授業の方法	対面形式で実施します。適宜、グループワークやプレゼンテーションを行ってもらいます（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習（90分）：授業時間外に授業内で与えられた課題に取り組んでください。復習（90分）：授業開始時に前回の授業内容について質問します。各自復習を行ってください。
テキスト等	テキスト：使用しません。資料：パワーポイント資料を授業毎に配布します。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	0%
	プレゼンテーション			50%				0%
	・授業内試験の翌週に答案を返却し、平均点の公表と復習を兼ねた解説を行います。・プレゼンテーションに対する評価は授業内で行います。・6回以上欠席した学生は成績評価を「Y3」とします。							

授業計画	①ビジネスをデザインする
	②創造的思考法
	③外部講師による講演
	④課題ドリブンとは
	⑤顧客を理解する①（共感マップ）
	⑥顧客を理解する②（ペルソナ法）
	⑦顧客を理解する③（カスタマージャーニーマップ）
	⑧授業内試験
	⑨授業内試験の解説／未来の社会を予測する（シナリオ・プランニング法）
	⑩顧客を理解する③（カスタマージャーニーマップ）
	⑪未来の社会を予測する（シナリオ・プレンニング法）
	⑫製品・サービスのコンセプトを考える（モーフォロジカル分析法）
	⑬ビジネスアイデアの中間発表
	⑭授業内試験
	⑮授業内試験の解説

科目名	事業創造論B
英文科目名	Entrepreneur Business B
担当者名	藤木寛人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENTP204

授業の概要と到達目標	事業創造論Bは、起業・事業承継コースの選択必修科目であり、経営学部のディプロマ・ポリシーである「事業承継者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目です。秋学期も起業または事業承継を目指す学生を想定し、ビジネスをデザインするためのフレームワーク（＝分析手法）について学修します。学習したフレームワークを用いて春学期に発表したビジネスアイデアをブラッシュアップしてください。秋学期の後半に実施するコース内研修のなかで、インキュベーション施設を見学し、現役経営者や経営支援者に対してビジネスプランの最終発表を行ってもらいます（予定）。
授業の方法	対面形式で行います。適宜、グループワークやプレゼンテーションを行ってもらいます（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習（90分）：授業時間外に、授業内で与えられた課題に取り組んでください。復習（90分）：授業時間時に前回の授業内容について質問します。各自復習を行ってください。
テキスト等	テキスト：使用しません。資料：パワーポイント資料を授業毎に配布します。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	0%
	プレゼンテーション			50%				0%
	・授業内試験の翌週に答案を返却し、平均点の公表と復習を兼ねた解説を行います。・プレゼンテーションに対する評価は授業内で行います。・6回以上欠席した学生は成績評価を「Y3」とします。							

授業計画	①ガイダンス／春学期の復習
	②製品・サービスのコンセプト案を評価する（トレードオフ分析法）
	③製品・サービスのコンセプトを可視化する
	④市場投入の計画を立てる
	⑤製品・サービスの価格を考える
	⑥ビジネスモデルを描く
	⑦授業内試験
	⑧授業内試験の解説／ビジネスのコストを見積もる
	⑨収益性を評価する
	⑩ビジネスプランの書き方
	⑪プレゼンテーションの方法
	⑫準備日
	⑬ビジネスプランの最終発表
	⑭授業内試験
	⑮授業内試験の解説／まとめ

科目名	企業経営実習
英文科目名	Management Seminar and Field Study
担当者名	城裕昭
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ENTP307

授業の概要と到達目標	【授業の概要】・経営者として保有すべき「コンピテンシー」を理解する。。・企業経営の基本的事項や各種課題について、演習形式で学修する。・製造業、流通業、サービス業、飲食業などのケース事例を使い、双方向で討議を行う。。・人的資源管理、マーケティング、マネジメント、会計・ファイナンスの切り口から課題を捉える。・経営者などを外部講師に招き、ビジネスの実際や想いを聴く。・企業訪問し、現場体験や経営者の話を聴き、ビジネスのポイントを学ぶ。（夏季研修）・教員のビジネス経験を活かし、経営者として必要な考え方･心構えを指導する。【到達目標】・経営学部のディプロマ・ポリシー「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材育成」のための科目である。
授業の方法	・ビジネスの基本や課題解決を通じて経営を学ぶ。・ケースを理解するためのビジネスフレームワークを学ぶ。・アクティブ・ラーニングとして、グループワークやプレゼンテーションを実施する。・ノートPC持参が望ましい。
予習と復習	・予習（90分）事前にテキスト・資料を精読し、要点をまとめておくこと。・ケース資料は、内容を把握・理解しておくこと。・復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	・教科書：「図解でわかる 小さな会社の経営戦略 いちばん最初に読む本」六角明雄著、アニモ出版・参考書：「中小企業白書 小規模企業白書」2026年版（上)(下)・授業前に資料データ（ケース資料等）を配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	50%
	プレゼンテーション			30%				0%
	・年間11回以上欠席すると、単位は取得できない。・夏季休暇中に実施する夏季研修は参加必須とする。・レポートは返却せず般的な評価と所見を講義内で説明する。・各学期の中間・期末に、それぞれ確認試験を行う。							

授業計画	①①オリエンテーション（春学期）	⑯オリエンテーション（秋学期）
	②②人的資源管理(1) 出題・説明	⑰人的資源管理(2) 出題・説明
	③③人的資源管理(1) 討議	⑱人的資源管理(2) 討議
	④④人的資源管理(1) 発表・解題	⑲人的資源管理(2) 発表・解題
	⑤⑤マーケティング(1) 出題・説明	⑳マーケティング(2) 出題・説明
	⑥⑥マーケティング(1) 討議	㉑マーケティング(2) 討議
	⑦⑦マーケティング(1) 発表・解題	㉒マーケティング(2) 発表・解題
	⑧⑧外部講師による講義	㉓外部講師による講義
	⑨⑨マネジメント(1) 出題・説明	㉔マネジメント(2) 出題・説明
	⑩⑩マネジメント(1) 討議	㉕マネジメント(2) 討議
	⑪⑪マネジメント(1) 発表・解題	㉖マネジメント(2) 発表・解題
	⑫⑫会計・ファイナンス(1) 出題・説明	㉗会計・ファイナンス(2) 出題・説明
	⑬⑬会計・ファイナンス(1) 討議	㉘会計・ファイナンス(2) 討議
	⑭⑭会計・ファイナンス(1) 発表・解題	㉙会計・ファイナンス(2) 発表・解題
	⑮⑮まとめと総復習（春学期）	㉚まとめと総復習（秋学期）

科目名	経営情報論A 社会情報システム論(情報通信技術)
英文科目名	Management and Information TechnologyA SocialInformatics(InformationAndCommunicationTech)
担当者名	中山景央
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞経営情報論Aでは情報技術にはどのようなものがあるのか，またその情報技術を経営へどの様に活用するのかを学習します．IT,ICT，IoT，AI等の情報技術に関するキーワードが溢れる現在において，それら情報技術はどのような技術なのかを紹介し，さらにその情報技術をどの様に経営へ活かすのかや，そもそも経営に情報を活かすとはどの様なことなのかを学んでいきます．＜到達目標＞情報通信技術や経営情報及び情報システムに関する基礎知識の習得．＜経営学部ディプロマ・ポリシーとの関連＞ＩＣＴ（情報通信技術）の知識とスキルを企業活動に生かせる人材の育成
授業の方法	本講義は座学が半分、演習が半分の授業構成になっています。授業時はｸﾘｯｶｰとしてgoogleﾌｫｰﾑ（ｽﾏｰﾄﾌｫﾝ使用）による双方向授業を実施します．一部の授業ではﾌﾟﾚｾﾞﾝ及びﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝを実施します（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ）．
予習と復習	【予習（90分）】教科書や講義終了時に指定されたキーワードを次回までに調査することを通して予習を行っていただきます．【復習（90分）】配布したレジュメや教科書を用いて復習を行っていただきます．
テキスト等	レジュメを配布します．必要に応じて適宜，書籍や資料は紹介します．

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
最終課題			60%	授業内課題			40%

評価方法：・評価点の合計が60点以上を合格とする．（ただし最終課題未提出者は評価の対象とならない）・欠席回数が5回以上の者は成績評価の対象としない（第1回授業もカウントに含む）．・授業内課題は次回授業時に解説及び質疑対応にてフィードバックを行う．

授業計画

①ガイダンス：社会を取り巻く情報技術
②経営情報論とは
③インターネット技術の発展と社会への影響
④情報通信技術①ICTとIoT
⑤情報通信技術②クラウドコンピューティング，ビッグデータ解析
⑥情報通信技術③AI
⑦情報通信技術④ブロックチェーン技術
⑧経営環境分析手法①：外部環境と内部環境の分析
⑨経営環境分析手法②：総合環境分析
⑩統計情報の入手とその分析
⑪特許情報の入手とその分析
⑫演習Ⅰ：テーマに関する資料の収集（テーマは授業時に指定する）
⑬演習Ⅱ：資料を用いた考察と主張の作成
⑭演習Ⅲ：プレゼンテーションとディスカッション
⑮まとめと総復習

科目名	経営情報論B 社会情報システム論(情報化と社会)
英文科目名	Management and Information TechnologyB Social Informatics (Information and Society) Social Informatics (Information and Society)
担当者名	中山景央
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞経営情報論Bでは，経営情報論Aで学んだ情報を経営に利用するということを演習を通して理解を深めていきます．演習ではMicrosfot Excelを用いた簡易シミュレーションを行い経営情報分析の基礎を学習していきます．＜到達目標＞情報を経営に活かすことのイメージを得ると共に簡単な情報分析が出来るようになること．＜経営学部ディプロマ・ポリシーとの関連＞ＩＣＴ（情報通信技術）の知識とスキルを企業活動に生かせる人材の育成
授業の方法	前半30分程度を座学，後半60分を演習という形で授業を展開していく．適宜，講義内でのディスカッションやgoogle classroomを用たQ&Aなどを行いアクティブラーニングを実施する．
予習と復習	【予習（90分）】教科書や講義終了時に指定されたキーワードを次回までに調査することを通して予習を行っていただきます．【復習（90分）】配布したレジュメや教科書を用いて復習を行っていただきます．
テキスト等	レジュメを配布します．必要に応じて適宜，書籍や資料は紹介します．

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	最終課題			60%	授業内課題			40%
	・評価点の合計が60点以上を合格とする．・欠席回数が5回以上の者は成績評価の対象としない（第1回授業もカウントに含む）．・授業内課題は次回授業時に解説及び質疑対応にてフィードバックを行う．							

授業計画	①ガイダンス：情報技術と経営
	②Excelを用いたデータ分析概論
	③データの見方
	④シミュレーションとは？
	⑤不確実性の考慮
	⑥需要予測
	⑦ゼミ発表聴講
	⑧回帰分析
	⑨柔軟性とは
	⑩柔軟性を考慮したシミュレーション
	⑪在庫管理
	⑫待ち行列問題Ⅰ：定期的にお客さんが来る場合
	⑬待ち行列問題Ⅱ：ランダムにお客さんが来る場合
	⑭最終課題
	⑮まとめと最終課題の講評

科目名	キャリアデザイン論A
英文科目名	Introduction to Career Construction A
担当者名	赤羽根和恵
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT201

授業の概要と到達目標	【授業の概要】キャリアとは、生涯を通じての生き方とその表現であり人生そのものである。職業は生活の糧を得るだけでなく、やりがいや自己実現を図ることができる。本授業では、仕事に軸を置いたワークキャリアを中心として取り上げ、自己理解、仕事理解を通じて職業選択のイメージ形成に至る基礎理論や分析手法を学び、キャリアデザインの大まかな全体像を掴むことを目的としている。時事問題やケーススタディを取り入れて、人材ビジネス及び人材育成企業での経験を生かした実践的な指導を行う。後半に外部講師の招聘を検討している。本授業は、経営学部のディプロマポリシー「ライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」、「業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目であり、組織において活躍できる人材の育成を目指している。【到達目標】・自己理解と他者理解を深めて、自分の適性や職業について考えることができる。・産業・業態・職種について知り、就職活動の準備に取り組むことができる。・主体的に生きるために必要な目標を設定できる。
授業の方法	対面授業では、ペアワークまたはグループワークを複数回設ける。アクティブ・ラーニング（演習・ディスカッション・発表・リアクションペーパー等）を重視する。期中と第15回にオンデマンド授業を行い、その案内は授業内とGoogle Classroomを利用する。
予習と復習	・予習（90分）：事前配布資料を読み、指定されたキーワードについて調べておく。・復習（90分）：授業内容を振り返り、自分の考えを文章にまとめる。トピックスに関する目標を設定して、自分の視野と行動を広げるように努める。
テキスト等	・参考書：西本万映子（2023）『新版 キャリアデザインの教科書』（労働調査会）、岩井洋・他（2025）「キャリアデザイン（第６版）」（弘文堂）を挙げる。・授業投影資料：事前にGoogleClassroomに掲載をするので予習を行うこと。・その他：授業内で適宜紹介

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	40%
	課題			20%				0%

・授業回数の3分の2以上の出席（リアクションペーパー等の提出を含む）を評価の前提条件とする。・評価：キーコンセプトの理解に基づいた論述を重視する。・課題・レポート等のフィードバック：提出された答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。

授業計画
①オリエンテーション・キャリアを考える1：キャリアとは何か（キャリアデザイン）
②キャリアを考える2：今というキャリアを生きる（PDCA）
③自分自身を理解する1：自己理解の基本（ライフストーリー、マズローの5段階欲求）
④自分自身を理解する2：自分の興味や関心、特性、こだわり（ホランドの六角形モデル）
⑤自分自身を理解する3：自分の性格を理解する（エゴグラム、リフレーミング）
⑥自分自身を理解する4：他者を通して自己理解する（ジョハリの窓、フィードバック）
⑦自分自身を理解する5：キャリアの棚卸し（キャリア・プランシート）
⑧働き方を考える1：仕事とは何か（P・ドラッカー）
⑨働き方を考える2：組織との関係 就職と就社（ジェネラリストとスペシャリスト）
⑩働き方を考える3：正社員という働き方（正社員、非正社員）
⑪働き方を考える4：多様な働き方（フリーランス）
⑫働き方を考える5：ライフキャリアとワークキャリア（ライフ・キャリア・レインボー）
⑬職業イメージの形成1：仕事に関する情報を集める（アルバイト、インターンシップ）
⑭職業イメージの形成2：職業イメージを膨らませる
⑮まとめと総復習（オンデマンド授業）：キャリアデザインの実施

科目名	キャリアデザイン論B
英文科目名	Introduction to Career Construction B
担当者名	赤羽根和恵
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT202

授業の概要と到達目標	【授業の概要】キャリアデザインの基礎的な知識を基に、実際の仕事の世界を理解できるように、キャリアに対する考え方の深堀りを図る。本授業では、仕事に軸を置いたワークキャリアを中心として取り上げ、仕事に必要な能力と会社のしくみやワークルールの知識を得る。そして、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）に即した職業選択ができるように、自身の価値観に基づいて考えることを目的としている。時事問題やケーススタディを取り入れて、人材ビジネス及び人材育成企業での経験を生かした実践的な指導を行う。後半に外部講師の招聘を検討している。本授業は、経営学部のディプロマポリシー「ライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」、「業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目であり、組織において活躍できる人材の育成を目指している。【到達目標】・仕事に必要な能力と会社のしくみを理解することができる。・ワーク・ルールについて知り、就職活動及び仕事をする上で生かすことができる。・自律型キャリアに必要な目標を設定することができる。
授業の方法	対面授業では、ペアワークまたはグループワークを複数回設ける。アクティブ・ラーニング（演習・ディスカッション・発表・リアクションペーパー等）を重視する。期中と第15回にオンデマンド授業を行い、その案内は授業内とGoogle Classroomを利用する。
予習と復習	・予習（90分）：事前配布資料を読み、指定されたキーワードについて調べておく。・復習（90分）：授業内容を振り返り、自分の考えを文章にまとめる。トピックスに関する目標を設定して、自分の視野と行動を広げるように努める。
テキスト等	・参考書：西本万映子（2023）『新版 キャリアデザインの教科書』（労働調査会）／安達智子・下村英雄『キャリア・コンストラクションワークブック』（金子書房）・授業投影資料：事前にGoogleClassroomに掲載、授業内資料あり・その他：適宜紹介

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	40%
	課題			20%				0%

・授業回数の3分の2以上の出席（リアクションペーパー等の提出を含む）を評価の前提条件とする。・評価：キーコンセプトの理解に基づいた論述を重視する。・課題・レポート等のフィードバック：提出された答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。

授業計画
①オリエンテーション・仕事に必要な能力1：職場で求められる力を知る
②仕事に必要な能力2：やりがいと意欲を育てる（ビリーフ、ウェルビーイング）
③仕事に必要な能力3：集団の中で自分を活かす（アサーティブネス）
④仕事に必要な能力4：伝える力を伸ばす（コミュニケーション能力）
⑤仕事の世界を考える1：ワークルールのしくみ1（労働法1）
⑥仕事の世界を考える2：ワークルールのしくみ2（労働法2）
⑦仕事の世界を考える3：会社のしくみを知る（コーポレート・ガバナンス）
⑧仕事の世界を考える4：会社で働くことをイメージする（プロティアン・キャリア）
⑨仕事の世界を考える5：収入と生活設計を知る（マネー・プラン）
⑩キャリアを持続させる1：能力を高める（リスキング）
⑪キャリアを持続させる2：職業の資格を考える（ワーク・エンゲージメント）
⑫キャリアを持続させる3：ワーク・ライフ・バランス考（アンコンシャス・バイアス）
⑬自分の就く職業を選ぶ1：職場や仕事の違いを学ぶ（産業と職業）
⑭自分の就く職業を選ぶ2：新卒採用と就職理解
⑮まとめと総復習（オンデマンド授業）：職業とキャリア

科目名	地方自治A
英文科目名	Local Government A
担当者名	五野井郁夫
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT203

授業の概要と到達目標	本講義では，地方自治についての基本的な知識の体得を目的とする。学校，警察，消防など，私たちの日常生活に密接なかかわりをもつのが，地方自治である。本講義においては，従来の地方行政に関する法令や制度の解説のみならず，広い視野から日本の地方行政と社会を論じてみたい。日本の地方自治の歴史を戦前・戦中・戦後と振り返りつつ、地方自治の二大アクターである議会と首長の関係や、議会の役割、広域行政としての道州制導入の有無など，地方自治の新しい課題も探る。商学部・経営学部の関連科目として国内外における社会の仕組みを学ぶ科目である。
授業の方法	講義形式で行い、アクティブラーニングとして理解度把握のために講義内での小テストも実施する。映像資料も積極的に活用する。ゲスト講師も適宜招聘予定である。授業計画は変更される場合もある。オンデマンド講義等も適宜活用する。
予習と復習	教科書等での予習(90分)にくわえて，講義では適宜参考文献を提示するので，各自で読み，講義の復習(90分)に充てること。「Ｔ－Ｎａｖｉ」にて予習・復習用の文献や課題等を配信する場合もある。
テキスト等	宇賀克也『地方自治法概説〔第11版〕』（有斐閣）、今井照『地方自治講義』（ちくま新書）。その他文献等は開講時に開示する。

定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

評価方法：授業内試験で評価を行う。講義内では小テスト等も実施し，適宜評価に加点する。ただしコロナ禍が続く場合は、毎回の講義でのレポートと期末レポートを評価へと振り替える。

授業計画

①イントロダクション：地方自治とは何か
②日本政治と地方自治
③自治体の組織　首長
④自治体の組織　議会
⑤日本の地方自治の発展　戦前
⑥日本の地方自治の発展　戦後
⑦中央と地方の関係
⑧諸外国の地方自治
⑨自治体の統治システムと地方税財政
⑩地方自治体の組織と地方公務員・人事行政
⑪ガバナンスの時代の地方自治
⑫合併と広域連携
⑬福祉政策と費用負担
⑭市民参加と情報公開
⑮まとめと復習　地方自治の今後

科目名	地方自治B
英文科目名	Local Government B
担当者名	五野井郁夫
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT204

授業の概要と到達目標	本講義では，地方自治の中心的課題のひとつである都市について学ぶ。現代の都市とはさまざまなメディアに媒介された関係の空間であると同時に，メディアを通じて生産・流通・消費される様々なイメージや表象を構成要素とする空間である。したがって本講義は，地方自治との関連で都市論と都市計画，そして建築理論を主軸としつつ，アニメ，マンガ，文学，映画等に登場する多様な都市像を具体的に検討しながら，諸テーマについて思考を深めることを目指す。商学部・経営学部の関連科目として国内外における社会の仕組みを学ぶ科目である。
授業の方法	講義形式で行うとともに，理解度把握のために講義内での小テストも実施する。パワーポイントや映像資料も積極的に活用する。アクティブラーニングとしてフィールドワークを課す。ゲスト講師も適宜招聘予定である。授業計画は変更される場合もある。
予習と復習	教科書等での予習(90分)にくわえて，講義では適宜参考文献を提示するので，各自で読み，講義の復習(90分)に充てること。「Ｔ－Ｎａｖｉ」にて予習・復習用の文献やレポート課題等を配信する場合もある。
テキスト等	以下必ずしも購入の必要はないが、吉原直樹『都市社会学: 歴史・思想・コミュニティ』東京大学出版会、松田達他『建築思想図鑑』学芸出版社も熟読されたい。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	40%	平常点	0%
				0%				0%
	授業内試験で評価を行う。講義内では小テスト等も実施し，適宜評価に加点する。毎回の講義でのレポートと期末レポートを評価へと振り替える。							

授業計画
①イントロダクション：都市論と地方自治の現在
②都市と地方自治の歴史
③近代都市計画とその限界
④現代都市の理論１：工業都市、田園都市
⑤現代都市の理論２：モダニズムの都市、ル・コルビュジエの輝く都市
⑥現代都市の理論３：ポストモダニズムの都市、コルハースのニューヨーク
⑦グローバル都市と自治１：グローバル資本主義と都市の貧困
⑧グローバル都市と自治２：セキュリティと郊外問題
⑨東京論１：戦前の東京
⑩東京論２：戦後、東京オリンピックまで
⑪東京論３：バブルと震災以降
⑫東京論４：ストリート・カルチャーとしての東京
⑬東京論５：メディアとしての東京
⑭都市と自治のフィールドワーク
⑮まとめと復習：現代都市と地方自治の課題

科目名	民法（法律行為）
英文科目名	Civil law (legal act)
担当者名	山里盛文
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT205

授業の概要と到達目標	この授業では、民法という法律のなかの「法律行為」について学びます。「法律行為」は、民法の冒頭部分の「総則（「民法総則」と呼ばれています）」のところに規定されています。民法総則は、私たちの生活に密接に関係していますが、抽象的な規定や専門性の高い規定も多くあります。そこで、授業においては、具体的な事例を用いて、理解が深まるようにします。民法（法律行為）についての基礎的な知識を習得し、民法（法律行為）が、どのような法律であり、現在の社会の中でどのような機能を果たしているか理解することを目標とします。この授業は、経営学部のディプロマポリシーである「企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材」の育成を達成する科目です。
授業の方法	授業においては、（事例）を用いて説明を加えます。課題解決学習として、（事例）の解決の方法について、履修者の皆さんも一緒に考えてください（アクティブラーニング）。この授業では、グーグルクラスルームを使用します。
予習と復習	予習として、授業資料・教科書・六法などを読み、法律学の独特な言い回しや用語について触れておいてください（90分）。復習として、授業資料・教科書・六法・授業でメモしたノートなどをみて復習をしてください（90分）。
テキスト等	テキスト：山本敬三監修『有斐閣ストゥディア　民法 1』（有斐閣・2021年）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	100%	平常点	0%
				0%				0%
	欠席が多い場合、Y3評価とし、単位は認めません。全般的な評価と所見をグーグルクラスルームなどで提示します。							

授業計画	①ガイダンス　民法の基礎
	②民法の意義・基本原則
	③権利能力　意思能力　行為能力
	④意思表示 ①（総論　心裡留保　虚偽表示）
	⑤意思表示 ②（錯誤）
	⑥意思表示 ③（詐欺・強迫）
	⑦法律行為の内容規制
	⑧消費者契約の特則
	⑨無効・取消し
	⑩代理 ①（総論　有権代理）
	⑪代理 ②（無権代理　代理権濫用など）
	⑫代理 ③（表見代理）
	⑬条件　期限・期間
	⑭時効
	⑮まとめと総復習

科目名	民法（債権）
英文科目名	Civil law (credit, right to claim for the person)
担当者名	山里盛文
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT206

授業の概要と到達目標	この授業では、民法という法律の債権編の「総則(一般的に「債権総論」と呼ばれています。)」の部分、「不法行為」を扱います。具体的には、債務が履行されない場合(契約違反)の債権者の救済手段、債権を確実に回収するための手段、事故処理に関する規定などについて、具体的な事例を取り入れながら、理解が深まるようにします。民法(債権)についての基礎的な知識を習得し、民法（債権）が、どのような法律であり、現在の社会の中でどのような機能を果たしているか理解することを目標とします。この授業は、経営学部のディプロマポリシーである「企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材」の育成を達成する科目です。なお、この授業は、商学部のディプロマポリシーである「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」の育成の達成にも役立つ科目です。
授業の方法	授業においては、（事例）を用いて説明を加えます。課題解決学習として、（事例）の解決の方法について、履修者の皆さんも一緒に考えてください（アクティブラーニング）。この授業では、グーグルクラスルームを使用します。
予習と復習	予習として、授業資料・教科書・六法などを読み、法律学の独特な言い回しや用語について触れておいてください（90分）。復習として、授業資料・教科書・六法・授業でメモしたノートなどをみて復習をしてください（90分）。
テキスト等	ﾃｷｽﾄ：山本敬三監修『有斐閣ストゥディア　民法4（第2版）』（有斐閣・2024年）　『有斐閣ストゥディア　民法6』（有斐閣・2022年）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	100%	平常点	0%
			0%				0%

欠席が多い場合、Y3評価とし、単位は認めません。全般的な評価と所見をグーグルクラスルームなどで提示します。

授業計画
①ガイダンス　債権法の基礎
②債権の目的
③債務不履行 ①(債務不履行の構造・種類)
④債務不履行 ②(損害賠償の要件)
⑤債務不履行 ③(損害賠償の範囲等)
⑥債権譲渡　債務引受
⑦弁済 ①(総論)
⑧弁済 ②(弁済の相手方　弁済の提供・受領遅滞)
⑨弁済 ③(弁済による代位　弁済の充当・方法)
⑩相殺
⑪不法行為 ①(一般不法行為の要件　損害賠償 ①(総論・請求主体))
⑫不法行為 ②(損害賠償 ②(損害額の算定・範囲・損害賠償額の減額))
⑬不法行為 ③(特殊不法行為)
⑭不法行為 ④(製造物責任　消費者安全　運行供用者責任)
⑮まとめと総復習

科目名	経済地理学A
英文科目名	Economic Geography A
担当者名	新井智一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT301

授業の概要と到達目標	この授業では、日本の経済の中心である東京とその郊外をおもに取り上げ、現象の分布を通じて場所や地域を理解する学問である地理学の観点から、東京大都市圏が日本の政治・経済とのかかわりの中でどのように発展してきたかを説明し、現在抱える課題についても考えます。それを通じて、東京大都市圏という身近な地域から現代社会の諸課題についての知識と関心が深まることと、地域経済についての分布図や統計表を難なく読解できることを目標とします。この授業は、商学部のディプロマ・ポリシーにある「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができる人材」育成や、経営学部のディプロマ・ポリシーにある「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を担う科目の一つです。
授業の方法	基本的に講義形式で行います。一部の授業回で反転学習（アクティブ・ラーニング）を実施します。複数回の小テストを授業内に行います。
予習と復習	予習（90分）あらかじめ提示された資料を熟読しておく復習（90分）資料と地図帳を用いて授業内容を理解する
テキスト等	教科書：使用しませんが、学修支援システム（Google Classroom）であらかじめ資料を提示します。参考書：中学校、高校で使用した地図帳

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	複数回の授業内小テストの解答、解説、全般的な評価と所見は、次回の授業で示します。							

授業計画
①経済をめぐる地理学の視点－分布・景観・空間スケール
②東京の都市構造－関東大震災後における「郊外」の誕生
③1980年代における東京の再開発とバブル経済
④2000年代の「都市再生」政策とタワーマンション
⑤東京大都市圏郊外の都市化－1950～1990年代の埼玉県にみる
⑥ニュータウンの理想と現実－東京都の多摩ニュータウンにみる
⑦2000年代における人口の都心回帰と郊外の商業空間
⑧東京大都市圏郊外の団地と日本の住宅政策
⑨独身男性・女性の住む場所、働く女性と東京
⑩外国人との共生－在留資格を中心に
⑪「むらおこし」か「むらおさめ」か？－東京都檜原村にみる
⑫農業のグローバル化と農山村－産地と条件不利地域
⑬マーケティングによる郊外都市の人口増加策－千葉県流山市にみる
⑭不平等の地理学－さまざまな空間スケールにおける不平等の測定
⑮まとめと総復習

科目名	経済地理学B
英文科目名	Economic Geography B
担当者名	新井智一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT302

授業の概要と到達目標	この授業では、現象の分布を通じて場所や地域を理解する学問である地理学の観点から、経済をめぐる現象とそれを取り巻く地域とのかかわりについて説明します。それを通じて、地域経済を左右する現代社会の諸課題についての知識と関心が深まることと、地域経済についての分布図や統計表を難なく読解できることを目標とします。この授業は、商学部のディプロマ・ポリシーにある「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができる人材」育成や、経営学部のディプロマ・ポリシーにある「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を担う科目の一つです。
授業の方法	基本的に講義形式で行います。一部の授業回で反転学習（アクティブ・ラーニング）を実施します。複数回の小テストを授業内に行います。
予習と復習	予習（90分）あらかじめ提示された資料を熟読しておく復習（90分）資料と地図帳を用いて授業内容を理解する
テキスト等	教科書：使用しませんが、学修支援システム（Google Classeroom）であらかじめ資料を提示します。参考書：中学校、高校で使用した地図帳

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	複数回の授業内小テストの解答、解説、全般的な評価と所見は、次回の授業で示します。							

授業計画	①経済をめぐる地理学の視点－地域とは？
	②うなぎ養殖とグローバル化－静岡県と愛知県にみる
	③企業による野菜栽培と地域－高知県の植物工場にみる
	④地場産業と地域ブランド－愛媛県にみる
	⑤「町工場」地域とミネラルウォーターの採取－産業集積
	⑥日本の工業立地政策と市町村合併－地域構造論とは？
	⑦農村工業化と「分工場」－埼玉県と山形県にみる
	⑧「企業城下町」の地理学－神奈川県にみる
	⑨農業立地論と中心地理論
	⑩不動産証券化による東京の再開発
	⑪地方の都市再開発とメガソーラー－鳥取県と岡山県にみる
	⑫都会と地方の保育士労働市場－千葉県と青森県にみる
	⑬間接雇用と地域－大分県にみる
	⑭過疎化と「マルチワーカー」－青森県と秋田県にみる
	⑮まとめと総復習

科目名	外書講読A
英文科目名	Reading of Foreign Books A
担当者名	池内朋子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	REM301

授業の概要と到達目標

経営学部のディプロマ・ポリシーである「国際的経営センスを有するビジネス・パーソンを養成」することを目的とした科目です。本科目では、ビジネスや経営に関する基礎的な英語文献の読解を通じて､英語的な発想への理解を深めます｡具体的には、英字新聞の記事や経営者紹介文の輪読を行い、ビジネス英語の語彙力の向上を図ります。英和・和英辞典（オンライン辞典・アプリも可）を活用しながら正確な読解を行い、文章の表面的な意味だけでなく、筆者の意図を読み取る力を養うことを目指します。　後期開講科目の「外書講読B」との連続性を意識したカリキュラム構成により、１年を通して英文読解能力の向上を図ります。なお、国際的なビジネス・パーソンの実践例を学ぶため、外部講師を招聘する場合があります。

授業の方法

毎回指定された講読箇所を事前に読み、個人またはグループで内容を理解したうえで授業で共有・発表するアクティブ・ラーニング形式で実施します。履修者には、課題への主体的な取り組みと、授業への積極的な参加を求めます。

予習と復習

予習（120分）：指定された資料を精読し、課題の発表準備および要点を整理しておくこと。復習（60分）：当日講義の内容を配布プリントを用いて復習し、重要と思われる点などを追記した上でまとめておくこと。

テキスト等

授業ごとに、教員が準備したプリントを配布します。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	30%
			0%				0%

レポート（講読課題）、平常点（2/3以上出席、授業への積極的参加）を総合的に評価します。提出された課題については返却のうえ、全体的な評価および所見を示します。

授業計画

①Introduction
②News Article Reading (1): The New York Times
③News Article Reading (2): The New York Times
④News Article Reading (3): The New York Times
⑤News Article Reading (4): Harvard Business Review
⑥News Article Reading (5): Harvard Business Review
⑦News Article Reading (6): Harvard Business Review
⑧News Article Discussion
⑨Biography of Business Leader (1): Elon Musk
⑩Biography of Business Leader (2): Elon Musk
⑪Midterm Review & Reflection
⑫Biography of Business Leader (3): Jeff Benzos
⑬Biography of Business Leader (4): Jeff Benzos
⑭Business Leader Discussion
⑮Summary & Reflection

科目名	外書講読B
英文科目名	Reading of Foreign Books B
担当者名	池内朋子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	REM302

授業の概要と到達目標

経営学部のディプロマ・ポリシーである「国際的経営センスを有するビジネス・パーソンを養成」することを目的とした科目です。本科目では、ビジネスや経営に関する基礎的な英語文献の読解を通じて､英語的な発想への理解を深めます｡具体的には、ビジネスや経営分野で広く読まれている英書の輪読を行い、英語の語彙力の向上を図ります。英和・和英辞典（オンライン辞典・アプリも可）を活用しながら正確な読解を行い、文章の表面的な意味だけでなく、筆者の意図を読み取る力を養うことを目指します。　前期開講科目の「外書講読A」との連続性を意識したカリキュラム構成により、１年を通して英文読解能力の向上を図ります。なお、国際的なビジネス・パーソンの実践例を学ぶため、外部講師を招聘する場合があります。

授業の方法

毎回指定された講読箇所を事前に読み、個人またはグループで内容を理解したうえで授業で共有・発表するアクティブ・ラーニング形式で実施します。履修者には、課題への主体的な取り組みと、授業への積極的な参加を求めます。

予習と復習

予習（120分）：指定された資料を精読し、課題の発表準備および要点を整理しておくこと。復習（60分）：当日講義の内容を配布プリントを用いて復習し、重要と思われる点などを追記した上でまとめておくこと。

テキスト等

授業ごとに、教員が準備したプリントを配布します。使用予定資料：Dale Carnegie著『How to Win Friends and Influence People』、Morgan Housel著『The Psychology of Money』＊履修者の興味関心に応じて、他の資料や教材を取り入れることもあります。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	30%
			0%				0%

レポート（講読課題）、平常点（2/3以上出席、授業への積極的参加）を総合的に評価します。提出された課題については返却のうえ、全体的な評価および所見を示します。

授業計画

①Introduction
②Book Reading Introduction:『How to Win Friends and Influence People』
③Book Reading (1)
④Book Reading (2)
⑤Book Reading (3)
⑥Book Reading (4)
⑦Book Reading (5)
⑧Midterm Review & Reflection
⑨Book Reading Introduction: 『The Psychology of Money』
⑩Book Reading (6)
⑪Book Reading (7)
⑫Book Reading (8)
⑬Book Reading (9)
⑭Book Reading (10)
⑮Summary & Reflection

科目名	法文化論A
英文科目名	Legal Culture A
担当者名	寺内一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT305

授業の概要と到達目標

ビジネス・経営におけるさまざまな活動の基礎となる「法」を「文化」という観点から学ぶ。「法」とは言語・神話・宗教・道徳・経済・政治と同じく文化の一部ないし一側面であり、「文化」はわれわれの「環境の中の人為的な部分」である。「法」は国の文化の象徴であるが、その文化を構成しているともいえる。本講においては文化の一構成要素である「法」が何故存在するかを3本の法廷映画を観ながら考察していく。特に、西洋の法思想の中心に位置する「正義」という概念がまさに「法」そのものなのであるのに対して、日本では「正義＝法」ととらえることが可能なのかを考えてみたい。なお、本講座は商学・経営学・人間科学の関連科目として位置づけられており、専門領域の学習の礎となっている。この科目は、商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」、経営学部の「国際的経営センスを有するビジネス・パーソンとなるための力」、また人間科学部の「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できこと」を達成する科目である。

授業の方法

授業の前半は講義形式で行ってから、後半は授業のポイントを整理するために、受講生同士で課題に対する回答を話し合い発表してもらう（アクティブラーニング＋クリッカー）。授業の最後に確認レポートの提出を４回行う。

予習と復習

予習（90分）授業前に法廷映画を見ることを含め、前の授業内に出された課題をして次の授業時に臨むこと。復習（90分）毎授業内に確認レポートを提出してもらうので、復習を心がけること。

テキスト等

教科書は使わず授業時にプリントを配布する。なお、碧海純一『法と社会―新しい法学入門』（中公新書）を参考書として推薦する。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	50%	平常点	0%
課題・参加態度			20%				0%

上記の方法で総合評価する。レポート（4回）については返却せずに全般的な評価と所見を授業中に提示する。

授業計画

①オリエンテーション（法とは何か）
②法と法律
③法と正義、法と言語、法と文化
④法と道徳、法と政治、法と経済
⑤法と翻訳語
⑥法廷映画『評決』
⑦法廷映画『陪審員』
⑧中間まとめと第1回授業内試験
⑨第1回授業内試験の解説・英米法と大陸法（歴史的背景）
⑩法廷映画『推定無罪』
⑪英米法と隊六法（ニュルンベルク裁判を例に）
⑫法廷映画『JFK』
⑬法廷映画のまとめと第2回授業内試験
⑭第2回授業内試験の解説と総まとめ
⑮レポートのまとめと解説

科目名	法文化論B
英文科目名	Legal Culture B
担当者名	寺内一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT306

授業の概要と到達目標	ビジネス・経営におけるさまざまな活動の基礎となる「法」を「文化」という観点から学ぶ。本講においては文化のひとつの構成要素である「法」の役割を古代、中世・近代、現在社会に分けて考察する。具体的には、中国・エジプト・メソポタミア・インドの四大文明の法、現在の大陸法の源泉となった古代ギリシア・古代ローマと中世ローマの法とその後の法の継受、古代ゲルマン人由来の慣習法と英米法の関係を把握し、最終的には現在の世界の法体系を対極的にとらえる。全授業をとおして法がなぜ存在してきたのか、将来、法は社会においてどのような役割を演じるのかを考えていく。なお、本講座は商学・経営学・人間科学の関連科目と位置付けられており、各専門領域の学習の礎となっている。この科目は、商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」、経営学部の「国際的経営センスを有するビジネス・パーソンとなるための力」、また人間科学部の「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できこと」を達成する科目である。
授業の方法	授業は講義形式で行うこととなる。授業の前半でポイントを整理するために、教員から受講生に問いかけを行う（アクティブラーニング＋クリッカー）。授業の最後に課題を出すので指定された期間内に提出する。
予習と復習	予習（90分）授業前に授業内に出された課題をして次の授業時に臨むこと。復習（90分）毎授業後に課題を提出してもらうので、復習を心がけること。
テキスト等	教科書は使用せず授業時にプリントを配布するが、21世紀研究会（編）『法律の世界地図』（文芸春秋）を参考書として推薦する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	50%	平常点	0%
	課題・参加態度			20%				0%
	上記の方法で総合評価する。レポート（2回）については返却せずに全般的な評価と所見を授業中に提示する。							

授業計画
①オリエンテーション（法とは何か）
②世界の法体系
③古代メソポタミアの法・古代エジプトの法
④古代中国の法・古代インドの法
⑤古代ギリシャ・古代ローマの法
⑥第１回レポート解説と中間まとめ
⑦中世ローマの法と大陸法
⑧ローマ法の継受と大陸法の発展
⑨大陸法諸国の特徴
⑩古代ゲルマンの法と英米法の萌芽
⑪英米法諸国の発展と特徴
⑫イスラームの法
⑬その他の国の法
⑭第2回レポート解説と総まとめ
⑮レポートのまとめと解説

科目名	民法（契約）
英文科目名	Civil law (contract)
担当者名	山里盛文
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT307

授業の概要と到達目標	この授業では、民法という法律の債権編の「契約」の部分を扱います。具体的には、契約の成立、契約の効力、契約の解除、売買契約などの各種契約について、具体的な事例を取り入れながら、理解が深まるようにします。　民法（契約）についての基礎的な知識を習得し、民法（契約）が、どのような法律であり、現在の社会の中でどのような機能を果たしているか理解することを目標とします。この授業は、経営学部のディプロマポリシーである「企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材」の育成を達成する科目です。
授業の方法	授業においては、（事例）を用いて説明を加えます。課題解決学習として、（事例）の解決の方法について、履修者の皆さんも一緒に考えてください（アクティブラーニング）。この授業では、グーグルクラスルームを使用します。
予習と復習	予習として、授業資料・教科書・六法などを読み、法律学の独特な言い回しや用語について触れておいてください（90分）。復習として、授業資料・教科書・六法・授業でメモしたノートなどを参照ししてください（90分）。
テキスト等	テキスト：山本敬三監修『有斐閣ストゥディア　民法5』（有斐閣・2022年）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	100%	平常点	0%
			0%				0%

欠席が多い場合、Y3評価とし、単位は認めません。全般的な評価と所見をグーグルクラスルームなどで提示します。

授業計画
①ガイダンス　契約法の基礎
②契約の成立
③契約の効力（同時履行の抗弁権　第三者のためにする契約　契約上の地位の移転）
④契約の解除　危険負担
⑤売買契約 ①（売買契約の成立　買戻し）
⑥売買契約 ②（売買契約の効力）
⑦贈与契約　交換契約
⑧消費貸借契約　使用貸借契約
⑨キャッシュレス決済
⑩賃貸借契約 ①（総論）
⑪賃貸借契約 ②（賃貸借契約と第三者）
⑫賃貸借契約 ③（借地借家法）
⑬請負契約
⑭委任契約　寄託契約　和解契約
⑮まとめと総復習

科目名	民法（物権変動と担保）
英文科目名	Civil law (transfer of the real right and regal security)
担当者名	山里盛文
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT308

授業の概要と到達目標	この授業では、民法という法律の物権編（物権変動と担保物権を中心とした部分）と債権編の「多数当事者の債権・債務」の部分を扱います。この授業で扱う物権変動と担保は、不動産取引や金融取引の基本となります。授業では、物権変動と担保についての基本的な知識を備えられるよう具体的な事例を取り上げながら、理解が深まるようにします。民法（物権変動と担保）についての基礎的な知識を習得し、民法（物権変動と担保）が、どのような法律であり、現在の社会の中でどのような機能を果たしているか理解することを目標とします。この授業は、経営学部のディプロマポリシーである「企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材」の育成を達成する科目です。なお、この授業は、商学部のディプロマポリシーである「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」の育成の達成にも役立つ科目です。
授業の方法	授業においては、（事例）を用いて説明を加えます。課題解決学習として、（事例）の解決方法について、履修者の皆さんも一緒に考えてください（アクティブラーニング）。この授業では、グーグルクラスルームを使用します。
予習と復習	予習として、授業資料・教科書・六法などを読み、法律学の独特な言い回しや用語について触れておいてください（90分）。復習として、授業資料・教科書・六法・授業でメモしたノートなどを参照ししてください（90分）。
テキスト等	テキスト：山本敬三監修『有斐閣ストゥディア　民法2』（有斐閣・2025年）　『有斐閣ストゥディア　民法3』（有斐閣・2021年）　『有斐閣ストゥディア　民法4（第2版）』（有斐閣・2024年）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	100%	平常点	0%
			0%				0%

欠席が多い場合、Y3評価とし、単位は認めません。全般的な評価と所見をグーグルクラスルームなどで提示します。

授業計画
①ガイダンス　物権法の基礎
②物権変動 ①(総論)
③物権変動 ②(不動産物権変動)
④物権変動 ③(動産物権変動)　物権の消滅
⑤所有権(総論　所有者不明土地対策関連法制　相隣関係)
⑥担保権総論
⑦抵当権 ①(総論)
⑧抵当権 ②(抵当権の効力)
⑨抵当権 ③(抵当権と抵当不動産の利用)
⑩抵当権 ④(共同抵当　根抵当　抵当権の消滅)
⑪分割債権・債務　連帯債権・債務　不可分債権・債務
⑫保証債務
⑬責任財産の保全 ①(債権者代位権)
⑭責任財産の保全 ②(詐害行為取消権)
⑮まとめと総復習

科目名	年金論A
英文科目名	Pension A
担当者名	角田大祐
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC301

授業の概要と到達目標	年金論Aでは公的年金の役割と仕組みを中心に講義します。近年、公的年金については不安を持っている方も多いようです。しかし公的年金は老齢期の所得保障として合理的な仕組みで運営されており、また障害や死亡（遺族）に対して所得補てんを行い、社会保障制度の一つとして重要な役割を果たしています。学生の皆さん（20歳以上）は、公的年金の被保険者であり社会に出てからも公的年金とは永く関わります。公的年金に関する正しい知識を身に付けましょう。担当教員は開業社会保険労務士であり企業や個人への相談・助言等の経験を活かし諸問題について解説して行きます。本講義は人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけること」を達成するための科目です。
授業の方法	授業中に配布するプリントに沿って進めます。毎回授業に関する感想や考察をコメントペーパーに書いて提出してもらいます。毎回の授業時にディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間を設けます。
予習と復習	予習（90分）事前に配布するプリントを読んで、要点をまとめておいて下さい。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認して下さい。
テキスト等	プリントを配布します。参考文献は適宜指示します。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	10%	平常点	30%
				0%				0%
	授業内試験は指定資料のみ持込可です。授業中にレポートの提出を一回求めます。平常点は、コメントペーパーの提出状況に基づき決定します。単位取得のためには、２／３以上の出席を必要とします。							

授業計画
①ガイダンス
②年金制度の概要
③公的年金の役割・社会保障制度における位置づけ
④公的年金の構成・国民年金・厚生年金保険
⑤公的年金の被保険者
⑥公的年金の保険料
⑦公的年金の給付①老齢年金
⑧公的年金の給付②障害年金
⑨公的年金の給付③遺族年金
⑩公的年金の給付④給付通則
⑪公的年金の負担①財源調達
⑫公的年金の負担②財政方式
⑬公的年金の主な課題①（給付縮小が見込まれる中で個人の視点から）
⑭公的年金の主な課題②（少子高齢化社会における国と企業の視点から）
⑮まとめと復習

科目名	年金論B
英文科目名	Pension B
担当者名	角田大祐
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC302

授業の概要と到達目標	年金論Bでは現在の日本における公的年金の論点、さらには公的年以外の年金制度（企業年金制度等）、自助努力の制度、労働者災害補償保険の年金、世界の年金について講義します。学生の皆さんにとっては、ご自身の将来・老後の生活設計について考えるきっかけとなるでしょう。年金専門職（日本年金機構職員、社会保険労務士、ファイナンシャルプランナー等）を目指す場合、これらの知識はより重要です。担当教員は開業社会保険労務士であり、企業や個人への相談・助言等の経験を活かし諸問題を解説して行きます。本講義は人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけること」を達成するための科目です。
授業の方法	授業時に配布するプリントに沿って進めます。毎回授業に関する感想や考察をコメントペーパーに書いて提出してもらいます。コメントペーパーに対する評価を教員から伝えるようにしコミュニケーション（アクティブ・ラーニング）の時間を設けることとします。
予習と復習	予習（90分）事前に配布するプリントを読んで、要点をまとめておいて下さい。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認して下さい。
テキスト等	プリントを配布します。参考文献は適宜指示します。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	10%	平常点	30%
				0%				0%
	授業内試験は指定された資料を参照可とします。平常点は、コメントペーパーの提出状況に基づき決定します。単位取得のためには、２／３以上の出席を必要とします。							

授業計画	①ガイダンス
	②年金論Aの復習
	③老後所得保障の全体像
	④公的年金
	⑤企業保障
	⑥退職金・企業年金①（中退共、内部留保）
	⑦退職金・企業年金②（確定給付企業年金）
	⑧退職金・企業年金③（企業型確定拠出年金）
	⑨自助努力の全体像
	⑩自助努力①（個人型確定拠出年金）
	⑪自助努力②（その他）
	⑫労働者災害補償保険①（労災保険の年金）
	⑬労働者災害補償保険②（精神障害、脳心臓疾患の労災認定要件）
	⑭年金の方向性（世界の年金を参考に）
	⑮まとめと復習

科目名	商学特別講義
英文科目名	Special Lecture on Commercial
担当者名	上原義子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT312

授業の概要と到達目標	この講義は地域のマーケティングに関する企画立案を行うために必要な知識や考え方を身につけることを目的としている。近年、我が国では、インバウンド消費や観光立国といった点から、地域への関心が高まってきている。サービス・マーケティングや地域ブランドや地域のエコシステムなど、従来のマーケティングの考え方を発展させた枠組みが求められている。そこで、本講義では、地域デザイン学会の協力のもと、地域のマーケティング活動に必要な地域や考え方に関する講演を聴くとともに、関連団体への訪問およびポスターによる提案を行うことで、マーケティング活動の企画立案に必要な能力を身につけることを目的とする。「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」の達成に大きく関連する科目である。
授業の方法	この講義では、担当教員の講義、外部講師の講演、および自律的な学習（アクティブラーニング）からなる。アクティブラーニングとしてはグループワークをもとにしたポスター発表を行う。
予習と復習	＜予習（90分）＞事前に示された範囲に基づき、指定された資料を読んでおくこと。＜復習（90分）＞授業内容を整理し、課題を実施すること。
テキスト等	テキスト：原田保・西田小百合編著『地域デザイン研究のイノベーション戦略』学文社、2023年。参考書：ラッシュ、バーゴ著（庄司他訳）『サービス・ドミナント・ロジックの発想と応用』同文舘出版、2016年。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
	授業中課題の実施			60%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示し、個別に指導する。							

授業計画
①観光と地域の視点
②地域デザインのための戦略発想：外部講師
③プレゼンテーション企画
④データ収集（質的データ）
⑤地域とコンテクスト転換
⑥SDGsの時代に「テロワール・ツーリズム」を起こす
⑦地域を磨いてデザインする ：外部講師
⑧SDGsとブランディング～MICE業界における実践事例を通して ：外部講師
⑨データ収集（量的データ）
⑩プレゼンテーション準備
⑪デジタル技術を活用したまちづくり～地域共創ビジネスの事例を通して：外部講師
⑫プレゼンテーション準備（詳細の検討）
⑬プレゼンテーション（全体概要）
⑭プレゼンテーション（詳細）
⑮まとめと総復習

科目名	経営学特別講義A
英文科目名	Special Lecture on Management A
担当者名	竹内慶司
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT313

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞　本講義は、「(一社)日本販売士協会」による寄附講座であり、貴重な学習機会を与えられるものである。 初回はガイダンスとし､毎回異なる講師によるオムニバス形式で、全回に渡り各分野の専門家が理論的かつ実践的なアプローチを展開していく。　また、日商リテールマーケティング検定1級・2級を目指す学生にとっても有意義な内容になっている。　この講義により、小売・流通業界における実態と展望を理解すると共に､職業人となるための基本的姿勢についても確認して頂きたい。。＜到達目標＞　流通業界の歴史・現状・将来展望についての講義が主に展開されることとなる。小売流通業界研究に関する貴重な機会であり、理論的かつ実務的能力を育成されたい。　また経営学部のディプロマポリシーである「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなりうる人材」の育成に資する内容が多く含まれているので、深く学ぶことを心がけて欲しい。
授業の方法	原則として各回パワーポイントによる講義形式となる。講師により質疑応答（アクティブ・ラーニング）がなされることもある。
予習と復習	予習復習時間は、各90分以上確保すること。（予習）13回各々の講師及び、テーマが公表されるため、各テーマに関連する文献、資料等確認すること。（復習）毎回の講義内容についてノート・テイキングを行ない、配布された資料と共に整理すること。
テキスト等	各講師の投影資料、配布資料等。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	上記の方法にて総合評価する｡平常点は出席を重視する。							

授業計画
①第1回ガイダンスⅠ(竹内慶司)
②第2回(外部講師)
③第3回(外部講師)
④第4回(外部講師)
⑤第5回(外部講師)
⑥第6回(外部講師)
⑦第7回(外部講師)
⑧第8回(外部講師)
⑨第9回(外部講師)
⑩第10回(外部講師)
⑪第11回(外部講師)
⑫第12回(外部講師)
⑬第13回(外部講師)
⑭第14回(外部講師)
⑮第15回まとめと総復習(竹内慶司)

科目名	経営学特別講義B
英文科目名	Special Lecture on Management B
担当者名	小林康一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	RELT314

授業の概要と到達目標	各講義における講師の講義内容を通し、食品及び、流通業界の実態と展望を理解すると共に、職業人となるための基本的姿勢についても確認する。本講義は、「一般社団法人全国スーパーマーケット協会」による寄附講座である。初回及び最終回はガイダンスとし、10回に渡り上記テーマに関して専門家が理論的及び、実務的アプローチを展開する。ディプロマポリシーとの関連については、経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」の育成を目的とした科目である。
授業の方法	原則各回毎レジュメを配布されるので、レジュメを参考としつつ、講義形式にて展開される。講師により質疑応答（アクティブ・ラーニング）がなされることもある。
予習と復習	予習(90分)前回講義の終了時に紹介した次回講義のテーマや後援企業の事業内容を事前に調査し、自分なりの意見をまとめておく。復習(90分)講義の内容を再度検討し、改めて理解を深める、また疑問がある場合は次回までに質問をまとめる。
テキスト等	各回毎レジュメを配布

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%

上記の方法で総合評価する。毎回の講義内容に関する要旨あるいは感想(合計11回)。ガイダンスを含め全講義回数のうち、正当であると判断できる欠席を除き、3回以上欠席した者は、成績評価対象とはしない。

授業計画
①（学内向け）経営学特別講義Bの授業目的（ガイダンス）
②（学内向け）小売業界の現況とビジネスモデルの変化
③人生百歳時代、“一日一膳”の健康経営で 健康寿命をみんなが延ばせる新世紀に
④豚があなたと日本の未来を救う！
⑤（学内向け）日本の農業ビジネスの実際 ～JA組織の研究～
⑥小売業におけるロジスティクスの重要性
⑦（学内向け）中間のまとめ
⑧超加速経済アフリカ
⑨スーパーマーケットはおもしろい！
⑩人生100歳時代のマーケティング
⑪エフピコモデルの資源循環型リサイクル ～トレーtoトレー＆ボトルto透明容器～
⑫老舗企業だからできること「酒造りから酒創りへ」
⑬「農×食×健」で日本を救う
⑭サッポロビールが実践するブランドマーケティング
⑮新フォーマットで描く成長戦略

科目名	Current Social Problems
英文科目名	Current Social Problems
担当者名	三津田悠
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SAP201

授業の概要と到達目標	この授業では、当該年度の中期留学留学生を対象として、現代社会における様ざまな「社会問題」について、英語による集中講義を実施します（12月帰国後の講義日程については受講者に別途連絡する予定です）。各回のトピックとして、現代社会の在り様を考察する素材として適切な時事問題を取り扱う予定ですが、参加者の関心や専門領域、留学中の活動などに鑑み、適宜追加・変更する予定です。人文・社会分野の視点から幅広く教養を身につけるとともに、外国語を用いたコミュニケーション能力――「聞く（リスニング）」「話す（スピーキング）」「読む（リーディング）」「書く（ライティング）」の４技能――を向上させることを目指します。参加者に対しては、講義内容の理解を深めるための課題（リスニング、ライティング、翻訳）のほか、英語によるコミュニケーション能力を高めるための課題（ディスカッション、プレゼンテーション、スライド作成、小レポート等）に取り組むことを求めます。
授業の方法	授業担当者による講義も行ないますが、主としてアクティブ・ラーニング（学生自らの関心から出発する問題解決型学習、授業内でのディスカッションおよびプレゼンテーション、授業外での予習を前提とした反転学習）を実施します。
予習と復習	予習（90分）…事前に指示された課題に取り組む。配布資料の精読と要点整理、英文での資料収集、小レポートや翻訳などの課題を課す予定である。復習（90分）…講義やフィードバックを整理し、今後の課題や改善点を発見する。
テキスト等	各トピックに関する資料を適宜配布します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%
	学内講義は12月帰国後に集中して実施する予定です。希望者に対して、課題に対するフィードバックを個別に行ないます。							

授業計画
①Introduction
②What is a “Social Problem”?: Theories
③What is a “Social Problem”?: Issues
④Family and Society 1: Theories
⑤Family and Society 2: Issues
⑥Gender and Sexuality 1: Theories
⑦Gender and Sexuality 2: Issues
⑧Summary and Quiz 1
⑨Communication and Society 1: Theories
⑩Communication and Society 2: Issues
⑪Generations and Society 1: Theories
⑫Generations and Society 2: Issues
⑬Political Situation in Japan
⑭SDGs and Contemporary Social Issues
⑮まとめと総復習（Summary and Quiz 2）

科目名	人間科学概論A
英文科目名	Introduction to Human Sciences A
担当者名	小平健太
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	HMSC101

授業の概要と到達目標

【目標】現代社会における諸問題（自己・他者理解、学問の方法論、ルッキズム、異文化共生、ジェンダー問題等）とそれに対する思考法をさまざまな哲学者や研究者から学び、人間科学の歴史の基礎を知るとともに、最終的にさまざまな文化的事象に自ら問いを立て、解決するための基礎体力を身に付けることが目標です。 【概要】本科目の目的は、現代社会における様々な文化的事象と私たち自身との関わりを学ぶことで、現代社会の諸問題を解決するための思考の基礎と方法論を学ぶことにあります。そこで本講義では、各回のトピックに応じて人間科学が私たちの生きる社会においてそれぞれ機能する瞬間にともに立ち会うことで、その思考がもつ多様な意義について学びを深めます。各人が今を生きる上で抱える疑問や問題意識を具体的に思考し実践する場として、主体的に授業に取り組むことを期待します。本科目は、人間科学部のすべてのディプロマ・ポリシー達成のための科目ですが、特に「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」の育成に資する科目となります。

授業の方法

本科目は配布資料、スライドを参照しつつ、適宜板書を行う講義形式の授業ですが、各回において教員と学生の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間も設定し、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を行ってもらいます。

予習と復習

授業中に各主題に即した参考文献を適宜挙げるので、その都度該当箇所を読んで授業に出席すること（予習：90分）。また、毎回の授業において配布するスライド資料・板書した内容を復習し、「課題シート」に従ってまとめを作成すること（復習90分）。

テキスト等

基本的に毎授業、資料とレジュメを配布します。授業の内容に直接関連する一次文献は、その都度授業中に指示します。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	60%
			0%				0%

平常点とは単なる「出席点」ではありません。毎回の授業では、終了時にリアクションペーパーを提出してもらいます。コメントの内容はその水準に応じて、成績に加点されます。総合成績の60点以上を合格点とし、全体の1/3以上の欠席は、成績評価の対象外とします。

授業計画

①オリエンテーション：「人間科学」とは何か？これまで人間科学が問題としてきたもの
②「倫理」とは、なにか？：トロッコ問題と幸福への問い
③「美しさ」とは、なにか？：エモいってなんだろう
④「感性」の働きとは？：現代メディアの功罪
⑤「芸術」とは、なにか？：近代美学の理論と思考
⑥「自分」とは、なにか？：「存在」をめぐる問いと思考
⑦「他者」とは、なにか？：コミュニケーション理論と社会学
⑧「自然」とは、なにか？：メディア表現から見る自然と人間の関係
⑨「環境」とは、なにか？：SDGsと環境問題のこれからを考える
⑩「言葉」とは、なにか？：話し言葉と書き言葉の違い
⑪（続）「言語」とは、なにか？：理解現象の哲学的考察
⑫「期末レポート」の概要・作成要項の説明
⑬「ジェンダー」とは、なにか？：LGBTQをめぐる現状と課題
⑭「人間性」とは、なにか？：教養と文化をめぐる理論（海外と日本の教育）
⑮まとめと総復習

科目名	人間科学概論B
英文科目名	Introduction to Human Sciences B
担当者名	小平健太
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	HMSC102

授業の概要と到達目標

【目標】現代社会における諸問題（自己・他者理解、教育格差、戦争と平和、現代メディアと表現、環境問題、多文化共生等）とそれに対する思考法をさまざまな哲学者や研究者から学び、人間科学の歴史の基礎を知るとともに、最終的にさまざまな文化的事象に自ら問いを立て、解決するための基礎体力を身に付けることが目標です。
【概要】本科目の目的は、現代社会における様々な文化的事象と私たち自身との関わりを学ぶことで、現代社会の諸問題を解決するための思考の基礎と方法論を学ぶことにあります。そこで本講義では、各回のトピックに応じて人間科学が私たちの生きる社会においてそれぞれ機能する瞬間にともに立ち会うことで、その思考がもつ多様な意義について学びを深めます。各人が今を生きる上で抱える疑問や問題意識を具体的に思考し実践する場として、主体的に授業に取り組むことを期待します。本科目は、人間科学部のすべてのディプロマ・ポリシー達成のための科目ですが、特に「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」の育成に資する科目となります。

授業の方法

本科目は配布資料、スライドを参照しつつ、適宜板書を行う講義形式の授業ですが、各回において教員と学生の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間も設定し、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を行ってもらいます。

予習と復習

授業中に各主題に即した参考文献を適宜挙げるので、その都度該当箇所を読んで授業に出席すること（予習：90分）。また、毎回の授業において配布するスライド資料・板書した内容を復習し、「課題シート」に従ってまとめを作成すること（復習90分）。

テキスト等

基本的に毎授業、資料とレジュメを配布します。授業の内容に直接関連する一次文献は、その都度授業中に指示します。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	60%
			0%				0%

平常点とは単なる「出席点」ではありません。毎回の授業では、終了時にリアクションペーパーを提出してもらいます。コメントの内容はその水準に応じて、成績に加点されます。総合成績の60点以上を合格点とし、全体の1/3以上の欠席は、成績評価の対象外とします。

授業計画

①オリエンテーション：秋学期の講義テーマとグループワーク
②「倫理」とは？命の価値について：「火山島ワーク」をやってみよう！
③グループワークの“振り返り”：倫理をめぐる様々な“考え方”
④文化「批評」の方法論：文芸学・新批評学の理論
⑤文化「批評」の方法論：音楽は時代を映す鏡―音楽の文化的意味について
⑥「人間性」とは？：日本と海外の教育制度（心と身体の発達・教育・教養）
⑦「文化」とは？：①人間性の涵養と文化理論
⑧「文化」とは？：②表象文化とサブカルチャー
⑨「自由」とは？：積極的自由と消極的自由
⑩「無知のベールゲーム」：①個人ワーク＋②グループワーク
⑪「無知のベールゲーム」：振り返り
⑫「期末レポート」の概要・作成要項の説明
⑬「囚人のジレンマ」：最善の戦略とは（グループワーク）
⑭「囚人のジレンマ」振り返り：ゲーム理論と戦略
⑮まとめと総復習

科目名	人間科学基礎論
英文科目名	Basic Lectures of Human Sciences
担当者名	崔　玉芬
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	HMSC103

授業の概要と到達目標	「人間科学基礎論」は、「自立的個人・自他共生的社会人としての人材の育成」(人間科学部の5つ全てのディプロマポリシー)を実現するための科目です。本講義では、人間科学部と他学部の教員が毎回交代で講義を行います(オムニバス形式)。人間科学は「人間本性」(Human Nature＝人間とはいかなる存在か)を探究するため、人間の本質を、道徳、歴史、文化、社会等々に見出しつつ、様々な知識と方法に依拠して歴史的に形成されてきた学際的な学びの分野といえます。本講義はこの学際的な学びの分野を、人間科学部に所属する教員を中心にオムニバス形式の講義で学びます。授業の目的は、人間科学とはどのようなことを学ぶ分野なのかを知り、人間科学への興味関心を深め、専門ゼミ選択など、より専門的な研究を進めていく際の足掛かりとすることです。人間の営みに関する学問です。
授業の方法	複数教員によるオムニバス形式で講義を行います。講義では担当者の裁量に応じてアクティブラーニング(授業内ワーク、質疑応答、ディベート等)を随時取り入れます。各回では授業内容に関する課題の提出あるいは小テストなどを実施し、理解度を確認します。
予習と復習	予習(90分)　授業で指定された学問分野の概要を図書館やインターネットを利用して調べて下さい。復習(90分)　授業で配布された資料を読み返して下さい。参考文献を図書館などで確認して下さい。
テキスト等	各担当教員が必要に応じて授業時にプリントなどを配布します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	課題			100%				0%
	毎回、課題を課し、結果を総合して評価します。							

授業計画
①崔玉芬：ガイダンス
②浅井泰詞：健康と運動
③池内朋子：もし１日だけ2076年に行けたら
④岡田泰介：「過去は異郷」：異文化理解の歴史学
⑤小平健太：Bereal.の魅力とは？−現代メディアと表象文化
⑥柴田徹平：就職に強くなるってどういうこと？―大学在学中にできること
⑦鈴木隆弘：学校教育を振り返る
⑧竹内淨：数理や科学と人間
⑨時津裕子：ココロとモノから人間を知る ― 心理学の方法・考古学の方法 ―
⑩松谷明美：ことばの成り立ちについて
⑪吉村竜：異文化理解の人類学
⑫三津田悠：社会学の視点
⑬松丸啓子：日本の道徳教育
⑭渡辺賢治：文学から豊かな感性や多角的視点を養う
⑮崔玉芬：まとめ

科目名	人間科学方法論
英文科目名	Methodology of Human Sciences
担当者名	吉村竜
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	HMSC104

授業の概要と到達目標

＜概要＞本講義では、社会調査法の基本を学び、調査の方法と心構え、その背景にある思想を理解し、身につけることを目指す。そのために本講義は一部、実践形式（社会調査の実習）の授業となる。人間が生み出す／身を置く社会について何かを明らかにするのは容易ではないが、私たちは社会に関する情報に取り囲まれてもいる。どの情報を信じ、信じるべきでないか。どこを見れば、違いがわかるだろうか。社会調査法は、私たちが社会を認識し、批判的に考察するための視点の持ち方に通じる。この意味で社会調査法のリテラシーは、人間科学部で学ぶため、あるいは社会人として生きる上での土台となる。人間科学部のディプロマ・ポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」を達成するための科目である。＜到達目標＞①社会調査の基本的な種類と方法を説明することができる。②自身の関心にもとづき問いを立て、調査計画を立てることができる。

授業の方法

講義と課題の提出を中心に行う。授業時に毎回「授業プリント」（穴埋め問題・筆記問題）を配布するので、受講生は答えと自身の考え・経験を書き授業終了時に提出する。一部の授業回ではフィールドワーク、実習を行う（アクティブ・ラーニング）。

予習と復習

予習（90分）　事前に指定された課題について自ら調べて要点をまとめておくこと。復習（90分）　資料内の空欄がすべて埋まっていることを確認し、不明な部分は参考文献等から調べる。

テキスト等

事前に資料を配布する。参考文献：三井さよ（他編）（2023）『はじめての社会調査』世界思想社。／菅原和孝編（2006）『フィールドワークへの挑戦』世界思想社／小田博志（2010）『エスノグラフィー入門：＜現場＞を質的研究する』春秋社。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
			0%				0%

「平常点」は各回の穴埋め問題の点数を、「レポート」は各回の筆記問題の点数の合計を意味する。これらと授業内試験を合わせて評価対象とする。本講義は提出された課題にもとづき評価点数を重ねる加点主義をとる。提出された課題のうち優れた内容は授業内で開示する。

授業計画

①オリエンテーション
②どうして社会調査をするの？：社会調査の基礎知識
③どうやって社会調査をするの？：フィールドワークの方法
④どうやって相手の社会に入るの？：参与観察の方法
⑤社会に生きる人間を知るために：インタビューの方法
⑥社会に生きる人間を知るために：インタビューの実践
⑦どうやって社会を理解するの？：量的調査の方法
⑧社会の全体を理解するために：アンケート調査の方法
⑨社会の全体を理解するために：アンケート調査の実践
⑩質的調査と量的調査（小まとめ）
⑪「調査のため」なら何をしてもいいの？：調査倫理
⑫どうやって調査の記録をまとめるの？：コード・カテゴリ化とKJ法
⑬社会を撮ろう：フィールド撮影術
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	哲学A
英文科目名	Philosophy A
担当者名	齋藤元紀
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PHIL101

授業の概要と到達目標	【目標】①ものごとの本質を批判的かつ抽象的に考えることができる。②代表的な哲学思想や思考法を理解できている。③自分の考えを論理的かつ説得的に主張することができる。【概要】＜テーマ：哲学入門①身近なことがらを哲学してみよう＞私は何者なのか。この世界は本当に存在するのか。みなさんもこれまでに少なからず一度はそうした問いを発したことがあるでしょう。こうした問いは一見無意味に感じられるかもしれませんが、実のところ私たちが生きているかぎり発しなければならない必然的な問いです。こうした問いをとことん考えてみるのが「哲学」という学問です。この授業では、教員と学生間および学生間での対話をとおして、身近な問いをじっくり一つ一つ考え抜き、哲学的思考力を身につけていきます。なお、テーマに応じて外部講師を招き、思考力を深める講義も予定しています。本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につける」ための科目です。
授業の方法	この授業では、教員と学生との対話、学生間の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、すべての授業回で実施する。また、スマートフォンを用いたクリッカー(Google フォーム)による双方向授業を実施する。
予習と復習	予習（90分）課題のテーマについて自分の考えの要点をまとめておくこと。復習（90分）配布資料により哲学史的知識を再確認するとともに自分の考えを再考すること。
テキスト等	テキストとして、予習プリント、授業内プリントを使用します。予習プリント・授業内プリントは毎回配布します。参考文献として、『ゼロからはじめる哲学対話（哲学プラクティス・ハンドブック)』（ひつじ書房、2020年）に目を通しておくとよいでしょう。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	30%
	毎回の課題（毎授業回のフォームへの回答）提出	30%						0%
	(1)毎回の課題（毎授業回のフォームへの回答）の提出を出欠（平常点）の代替とする。(2)締切以後の課題提出・課題未提出は欠席とする。(3)2/3以上の出席回数に満たない場合、不可とする。（4）毎回の課題については、返却し全般的な評価と所見を授業内で開示する。							

授業計画
①イントロダクション（講義概要の説明）
②「人生の意味」とは何か
③「死」とは何か
④「コミュニケーション」とは何か
⑤「常識」とは何か
⑥「大人になる」とはどういうことか
⑦「友だち」とは何か
⑧「恋」とは何か
⑨「学び」とは何か
⑩「笑い」とは何か
⑪「優しさ」とは何か
⑫「争い」とは何か
⑬「労働」とは何か
⑭「知恵」とは何か
⑮まとめと総復習

科目名	哲学B
英文科目名	Philosophy B
担当者名	齋藤元紀
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PHIL102

授業の概要と到達目標	【目標】①ものごとの本質を批判的かつ抽象的に考えることができる。②代表的な哲学思想や思考法を理解できている。③自分の考えを論理的かつ説得的に主張することができる。【概要】＜テーマ：哲学入門②抽象的なことがらを哲学してみよう＞哲学が問いかけるのは、身近なことがらだけではありません。誕生とは何か、死とは何か。確率とは何か。思考とはそもそも何か。ふだんはあまり考えることがなくても、私たちの生にとって避けることのできないこれらの問いは、哲学の重要な問題です。この授業では、春期の哲学Aを踏まえ、教員と学生間および学生間での対話をとおして、抽象的な問題をじっくり一つ一つ考え抜き、より高度な哲学的思考力を身につけていきます。なお、テーマに応じて外部講師を招き、思考力を深める講義も予定しています。本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につける」ための科目です。
授業の方法	この授業では、教員と学生との対話、学生間の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、すべての授業回で実施する。また、スマートフォンを用いたクリッカー(Google フォーム)による双方向授業を実施する。
予習と復習	予習（90分）予習プリントを読み、課題のテーマについて事前に自分の考えの要点をまとめておくこと。復習（90分）配布プリントを読み、哲学史的知識を再確認するとともに自分の考えを再考すること。
テキスト等	テキストとして、予習プリント、授業内プリントを使用します。予習プリント・授業内プリントは毎回配布します。参考文献として、『ゼロからはじめる哲学対話（哲学プラクティス・ハンドブック)』（ひつじ書房、2020年）に目を通しておくとよいでしょう。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	30%
	毎回の課題（毎授業回のフォームへの回答）提出	30%						0%
	(1)毎回の課題（毎授業回のフォームへの回答）の提出を出欠（平常点）の代替とする。(2)締切以後の課題提出・課題未提出は欠席とする。(3)2/3以上の出席回数に満たない場合、不可とする。（4）毎回の課題については、返却し全般的な評価と所見を授業内で開示する。							

授業計画
①イントロダクション（講義概要の説明）
②「愛」とは何か
③「行為」とは何か
④「思考」とは何か
⑤「時間」とは何か
⑥「認識」とは何か
⑦「感情」とは何か
⑧「権威」とは何か
⑨「美」とは何か
⑩「人工知能」とは何か
⑪「価値」とは何か
⑫「自然」とは何か
⑬「宇宙」とは何か
⑭「対話」とは何か
⑮まとめと総復習

科目名	倫理学A
英文科目名	Ethics A
担当者名	齋藤元紀
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ETHC101

授業の概要と到達目標	【目標】①人間の生の本質を批判的かつ抽象的に考えることができる。②代表的な倫理思想や思考法を理解できている。③倫理的問題に対する自分の考えを論理的かつ説得的に主張することができる。【概要】＜テーマ：倫理学入門①善き生をおくるためにはどうしたらいいか＞善さとは何か。生きるとはどういうことか。善き生をおくるためにはどうしたらいいか。これらはいずれも、私たちが生きていく上でつねにぶつかる倫理的問題です。この授業では、倫理学の代表的な問題や道徳的ジレンマを取り上げ、基本的な倫理学説を学びながらディスカッションをとおして実践的な倫理的思考力を身につけます。なお、テーマに応じて外部講師を招き、思考力を深める講義も予定しています。本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につける」ための科目です。
授業の方法	この授業では、教員と学生との対話、学生間の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、すべての授業回で実施する。また、スマートフォンを用いたクリッカー(Google フォーム)による双方向授業を実施する。
予習と復習	予習（90分）課題のテーマについて自分の考えの要点をまとめておくこと。復習（90分）配布プリントを読み、倫理学的知識を再確認するとともに自分の考えを再考すること。
テキスト等	テキストとして、予習プリント、授業内プリントを使用します。予習プリント・授業内プリントは毎回配布します。参考文献として、マーティン・コーエン『倫理問題101問』（ちくま学芸文庫、2007年）には目を通しておくとよいでしょう。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	30%
	毎回の課題（毎授業回のフォームへの回答）提出	30%						0%
	(1)毎回の課題（毎授業回のフォームへの回答）の提出を出欠（平常点）の代替とする。(2)締切以後の課題提出・課題未提出は欠席とする。(3)2/3以上の出席回数に満たない場合、不可とする。（4）毎回の課題については、返却し全般的な評価と所見を授業内で開示する。							

授業計画	①イントロダクション（講義概要の説明）
	②浮気の境界線とは
	③自殺の是非
	④殺人の是非
	⑤エゴイズムは悪か
	⑥善悪とは何か
	⑦快苦とは何か
	⑧人を助けるために嘘をついてもよいか
	⑨選択とは何か
	⑩10人を救うために1人の人を殺してもよいか
	⑪幸福を計算することはできるか
	⑫差別とは何か
	⑬寛容さとは何か
	⑭生きることに意味はあるか
	⑮まとめと総復習

科目名	倫理学B
英文科目名	Ethics B
担当者名	齋藤元紀
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ETHC102

授業の概要と到達目標	【目標】①人間の生の本質を批判的かつ抽象的に考えることができる。②代表的な倫理思想や思考法を理解できている。③倫理的問題に対する自分の考えを論理的かつ説得的に主張することができる。【概要】＜テーマ：倫理学入門②現代社会における新たな倫理学的問題＞文明や科学技術の進歩によって現代社会は豊かになった反面、これまでにない多くの倫理的問題を抱えることにもなりました。この授業では、現代社会の倫理的問題を取り上げ、伝統的な倫理学説や現代の最新の倫理学説を踏まえながら、ディスカッションをとおして実践的な倫理的思考力を身につけていきます。なお、テーマに応じて外部講師を招き、思考力を深める講義も予定しています。本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につける」ための科目です。
授業の方法	この授業では、教員と学生との対話、学生間の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、すべての授業回で実施する。また、スマートフォンを用いたクリッカー(Google フォーム)による双方向授業を実施する。
予習と復習	予習（90分）予習プリントを読み、課題のテーマについて事前に自分の考えの要点をまとめておくこと。復習（90分）配布プリントを読み、倫理学的知識を再確認するとともに自分の考えを再考すること。
テキスト等	テキストとして、予習プリント、授業内プリントを使用します。予習プリント・授業内プリントは毎回配布します。参考文献として、マーティン・コーエン『倫理問題101問』（ちくま学芸文庫、2007年）には目を通しておくとよいでしょう。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	30%
	毎回の課題（毎授業回のフォームへの回答）提出			30%				0%
	(1)毎回の課題（毎授業回のフォームへの回答）提出を出欠（平常点）の代替とします。(2)締切以後の課題提出は遅刻、課題未提出は欠席とします。(3)2/3以上の出席回数に満たない場合、不可となります。							

授業計画	①イントロダクション（講義概要の説明）
	②リーヴァイス社の判断（ケース・スタディー）
	③企業倫理とは何か
	④デザイナーズ・ベイビーを作れるとしたら（ケース・スタディー）
	⑤遺伝子操作の倫理的是非
	⑥戦争が起こるとしたら（ケース・スタディー）
	⑦戦争の倫理
	⑧インターネットで生じる危険（ケース・スタディー）
	⑨情報の倫理
	⑩原発再稼働は是か非か（ケース・スタディー）
	⑪世代間倫理とは何か
	⑫イサク奉献（ケース・スタディー）
	⑬宗教と倫理
	⑭善悪の彼岸
	⑮まとめと総復習

科目名	心理学A
英文科目名	Psychology A
担当者名	時津裕子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PSY101

授業の概要と到達目標	心理学とはどんな学問だろうか。私たちの心をめぐる疑問は、心の病や性格に関するものだけではない。たとえば、せっかく勉強したことを忘れてしまうのはなぜだろう。気をつけていても、交通事故や医療ミスはなかなか防ぐことができない。方向音痴を克服したり、外国語を身につけるコツはあるのだろうか。何かを見聞きしたり考えたり、といった何気ない行動の裏側ではいつも、私たちの心にあるプログラムが働いており、こうした謎の答えもそこにあると考えられる。本講義では「行動科学としての心理学」という視点に立ち、私たちの行動を読み解く鍵となる心の性質や働きについて概観する。とくに日常生活や経済活動と関わりの深い現象や，社会で実用化されている応用的な研究事例について積極的に紹介していきたい。受講学生はこれらを通じて、「心理学的に考える」ことのアウトラインをつかんでもらいたい。関連科目に「心理学B」、「認知心理学」、「実験心理学」がある。人間科学部のディプロマポリシーのうち、主として「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」育成のための科目である。
授業の方法	基礎的事項はスライドを用いて講義形式で解説するが、簡単な実験や心理検査など実習的課題を可能な限り採り入れる。後者については、アクティブラーニングとしてグループワークやディスカッションを行うことがある.
予習と復習	授業内で都度、課題内容と提出方法を指示する。予習課題（90分：資料確認・アンケートへの回等など）を完了させた上で授業に出席すること。それらの一部は提出を求める。復習課題（90分：学習内容のまとめ・実験データ整理など）は、期日までに提出すること。
テキスト等	教科書は指定しない。授業内で資料を配布する。<参考書籍>S. ノーレンホークセマ他 2015、『ヒルガードの心理学 第16版』（金剛出版）武藤隆・森敏昭・遠藤由実・玉瀬耕治 2018、『心理学（新版）』（有斐閣） ほか

評価方法								
	定期試験	60%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	課題提出（コメント，小レポート，実験データほか）			40%				0%
	提出された課題へのフィードバックは、授業時間内またはT-Navi等で全体に対して講評を行う形で実施する。一部のレポートについては返却し、個別フィードバックを行う予定である。							

授業計画
①イントロダクション：心理学とはどのような学問か
②知覚(1)視覚系の基礎と様々な錯視現象
③知覚(2)錯視のメカニズムと知覚の恒常性
④心の「情報処理」
⑤記憶(1)効率よく覚える
⑥記憶(2)記憶の維持
⑦記憶(3)日常記憶をめぐる問題
⑧イメージ(1)基本機能と性質
⑨イメージ(2)イメージと知覚の類同性
⑩イメージ(3)空間イメージと行動
⑪行動を変える学習のしくみ(1) 古典的条件付け
⑫行動を変える学習のしくみ(2) オペラント条件付け
⑬視線の心理学(1)視線から何が分かるか
⑭視線の心理学(2)視線とコミュニケーション
⑮まとめと総復習

科目名	心理学B
英文科目名	Psychology B
担当者名	時津裕子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PSY102

授業の概要と到達目標	私たちは、自分の心の働きについてどれほど知っているだろう。誰かを好きになる時、商品を選ぶ時、その基準は何だろうか。発言や行動内容は自分の意思で自由に決めている――それは本当だろうか（少人数クラスでは平気なのに、大教室になると途端に挙手や発言がしづらくなるのはなぜだろう？）。ストレスを感じている時も、元気な時と同様に振る舞えるだろうか。歴史も文化も異なる国においても、人は同じように感じ考えるのだろうか。本講義では、私たちの心理が他者の存在や特別な環境・状況に置かれることでどう変化するかに焦点を当てて解説する。また、これらの知識を応用した、技術・技法についても紹介する。関連科目に「心理学A」、「認知心理学」、「実験心理学」がある。人間科学部のディプロマポリシーのうち、主として「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」ならびに「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」育成のための科目である。
授業の方法	基礎的事項はスライドを用いて講義形式で解説するが、簡単な実験や心理検査など実習的課題を可能な限り採り入れる。後者については、アクティブラーニングとしてグループワークやディスカッションを行うことがある。
予習と復習	授業内で都度、課題内容と提出方法を指示する。予習課題（90分：資料確認・アンケートへの回等など）を完了させた上で授業に出席すること。それらの一部は提出を求める。復習課題（90分：学習内容のまとめ・実験データ整理など）は、期日までに提出すること。
テキスト等	教科書は指定しない。授業内で資料を配布する。<参考書籍>S。ノーレンホークセマ他 2015、『ヒルガードの心理学 第16版』（金剛出版）ロバート・B・チャルディーニ 2018、『影響力の武器 第3版』（誠信書房）　ほか

評価方法								
	定期試験	60%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	課題提出（コメント、小レポート、実験データほか）			40%				0%
	提出された課題へのフィードバックは、授業時間内またはT-Navi等で全体に対して講評を行う形で実施する。一部のレポートについては返却し、個別フィードバックを行う予定である。							

授業計画
①イントロダクション
②ストレス：ストレッサーとストレス反応
③ストレス：ストレスへの対処
④対人魅力と好意の形成：基礎理論
⑤対人魅力と好意：恋愛の心理
⑥嘘の心理学
⑦態度と説得
⑧説得技法の活用：知覚的コントラスト、返報性
⑨説得技法の活用：希少性、一貫性
⑩説得技法の活用：好意、権威、社会的証明
⑪消費者心理と広告
⑫集団と組織の心理：同調，服従，傍観者効果ほか
⑬集団と組織の心理：共同作業，リーダーシップ
⑭ステレオタイプの影響（文化，社会，ジェンダー）
⑮まとめと総復習

科目名	教育学A
英文科目名	Science of Education A
担当者名	金英美
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ED101

授業の概要と到達目標	教育とは何か。よい教育とはどのようなものか。本授業は、この根源的な問いから出発する。受講者自身の被教育経験を手がかりに、教育を「当たり前のもの」としてではなく、問い直す対象として捉え直す。さらに、教育を単なる知識伝達や制度としてではなく、人間の尊厳と成長・発達に関わる営みとして理解することを目指す。本授業では、教育をめぐる問い（教育とは何か、学ぶとは何か、子どもとはどのような存在か）を段階的に検討し、教育と社会の関係へと視野を広げていく。その過程を通じて、受講者が自らの教育観を形成し、言語化できるようになることを重視する。本授業は、人間科学部のディプロマポリシーである『教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材』の育成を目指す科目である。 到達目標・教育に関する基本的問いを自ら設定できる・自らの教育観を言語化できる・教育と社会の関係を説明できる・教育を尊厳および学習権の観点から捉えることができる
授業の方法	講義を基盤としつつ、ディスカッションやグループワークを取り入れた双方向型授業を行う。受講者による発言や問いを重視し、主体的な学びを促す。なお、授業の進行状況や受講者の関心に応じて、内容を一部変更する場合がある。
予習と復習	予習（90分）指定テキストを読み、①内容の要点整理（3～5行）、②自らの経験や考えとの関連づけ、③問いの設定（1つ以上）を行うこと。復習（90分）授業内容を整理し（3～5行）、議論を踏まえて自らの考えを再構成すること（5～8行）。
テキスト等	勝野正章・庄井良信 『問いからはじめる教育学』有斐閣配布資料（韓国教育事例）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	20%
	プレゼンテーション			40%				0%
	欠席回数が4回以上の場合、原則として不合格とする。遅刻・早退は２回で、欠席１回として扱う。							

授業計画	①教育学を学ぶ意義／教育とは何か
	②あなたにとって教育とは何か
	③よい教育とは何か
	④子どもとはどのような存在か
	⑤学びとは何か
	⑥教育と成長・発達
	⑦教育を社会の視点から考える
	⑧教育と不平等
	⑨教育と文化・共同体
	⑩学校とは何か
	⑪教師とは何か
	⑫学びを支える条件
	⑬教育と尊厳／学習権
	⑭教育観の再検討（プレゼンテーション）
	⑮まとめと総復習(あなたにとって教育とは何か)

科目名	教育学B
英文科目名	Science of Education B
担当者名	金英美
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	ED102

授業の概要と到達目標	教育はどのように作られてきたのか。そして、それは誰のためのものなのか。本授業では、教育学Aで培った問いを出発点として、教育の歴史・制度・政策および現代的課題を検討する。特に、日本と韓国の教育を比較することで、教育制度が社会的・歴史的条件のもとで形成されてきたことを理解する。さらに本授業では、教育を単なる制度としてではなく、人間の尊厳を保障する公共的営みとして捉え、教育格差、競争、貧困といった現代的課題を批判的に分析する力を養う。本授業の目的は、「教育の仕組みを知ること」ではなく、「教育を批判的に読み解く力を身につけること」にある。人間科学部のディプロマポリシーである『教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材』の育成を目指す科目である。 到達目標・教育史および制度の基本構造を理解できる・教育問題を社会構造との関係で説明できる・日韓比較を通じて教育を相対化できる・教育を尊厳・学習権・公共性の観点から分析できる
授業の方法	講義を基盤としつつ、ディスカッションやグループワークを取り入れた双方向型授業を行う。受講者による発言や問いを重視し、主体的な学びを促す。なお、授業の進行状況や受講者の関心に応じて、内容を一部変更する場合がある。
予習と復習	予習（90分）指定テキストを読み、①主要概念の整理、②内容の要約（3～5行）、③問いの設定（1つ以上）を行うこと。復習（90分）授業内容を整理し（3～5行）、予習で設定した問いを再検討したうえで、自らの考えを記述すること（5～8行）。
テキスト等	松本麻人・石川裕之・田中光晴・出羽孝行『現代韓国の教育を知る』明石書店山﨑準二編著『未来の教育を創る教職教養指針第1巻 教育原論』（学文社）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	20%
	プレゼンテーション			40%				0%
	欠席回数が4回以上の場合、原則として不合格とする。遅刻・早退は２回で、欠席１回として扱う。							

授業計画
①教育の目的と基本構造
②近代学校の成立
③教育思想の展開
④新教育運動
⑤日本の教育制度の①（近代形成）
⑥日本の教育制度の②（拡張と改革）
⑦日本の教育制度の③（戦後体制）
⑧韓国教育の歴史
⑨教育行政と政策
⑩学校制度とカリキュラム
⑪学歴社会と教育格差
⑫教育の商品化と競争
⑬子どもの貧困と学習権
⑭教育福祉と包摂
⑮まとめと総括(教育は誰のためのものか)

科目名	科学史A
英文科目名	History of Science A
担当者名	鈴木岳人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SECD101

授業の概要と到達目標	科学史Bと合わせて、人類が築き上げてきた自然科学の歴史を振り返る講義である。本講義では文明の発祥から17世紀までの自然科学の発展の歴史を概観する。四大文明、現在の自然科学の源流である古典ギリシアの哲学、ローマ時代を経た後の中世ヨーロッパの暗黒時代、イスラム科学の発展とヨーロッパへの逆輸入、ルネサンス、ガリレオやニュートンによる科学革命などをテーマとする。自然分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。社会人として要求される自然科学的知識を身につけるということであるが、加えて、自然科学的・論理的思考も同時に身につけることは重要である。これらは現代の日常生活において重要であるが、それは一朝一夕に構築されたものではない。科学者たち、あるいは市井の人々の不断の努力の上に築き上げられたものである。そういった歴史的経緯を知ることによって、現代に生きる上での論理的思考の訓練とすることを目指す。
授業の方法	基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を行う。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、簡単な課題提出やディスカッション、授業内試験によって講義内容の理解を確認する。
予習と復習	予習(90 分）授業で扱う項目について調べておくこと。復習(90 分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	参考書として山中康資『はじめて学ぶ科学史』（共立出版）を挙げる。その他は適宜紹介する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	67%	レポート	0%	平常点	33%
				0%				0%
	授業回数の3分の2以上の出席（課題提出）を評価の前提条件とする。試験答案及び毎回課す予定の簡易な課題の解答を2:1の割合で評価する。なお、提出された答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①イントロダクション（科学史概観）
②自然科学とは何か
③四大文明
④古代ギリシアの自然科学
⑤ヘレニズム時代の自然科学
⑥古代アジアの自然科学
⑦ローマ時代の科学
⑧中世前期のヨーロッパの科学・イスラムの科学
⑨中世後期のヨーロッパの科学
⑩ルネサンスと科学革命、レオナルド・ダ・ヴィンチ、天動説から地動説へ
⑪ガリレオ・ガリレイ
⑫医学と生物学の進歩
⑬アイザック・ニュートン
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	科学史B
英文科目名	History of Science B
担当者名	鈴木岳人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SCED102

授業の概要と到達目標	科学史Aと合わせて、人類が築き上げてきた自然科学の歴史を振り返る講義である。本講義では18世紀以降現在までの自然科学の発展の歴史を概観する。この時代は古典力学・古典電磁気学といった文字通り古典的分野が完成し、加えて非ユークリッド幾何学、量子力学、相対論、統計力学、地質学、生命科学など全く新しい学問分野が誕生していった時代である。科学史Aと同様に、自然分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。そして自然科学的・論理的思考を身につけることも目標となる。特に本講義で扱う時代は、科学というものが爆発的にその限界を広げていった時代である。現代に生きる人々が日々の困難を乗り越えるのに常に要求される自然科学的・論理的思考を訓練するのに、この時代を詳しく知るのはうってつけである。
授業の方法	基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を行う。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、簡単な課題提出やディスカッション、授業内試験によって講義内容の理解を確認する。
予習と復習	予習(90 分）授業で扱う項目について調べておくこと。復習(90 分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	参考書として山中康資『はじめて学ぶ科学史』（共立出版）を挙げる。その他は適宜紹介する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	67%	レポート	0%	平常点	33%
				0%				0%
	授業回数の3分の2以上の出席（課題提出）を評価の前提条件とする。試験答案及び毎回課す予定の簡易な課題の解答を2:1の割合で評価する。なお、提出された答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①イントロダクション（科学史概観）
②18世紀から19世紀前半の物理学（電磁気学）
③18世紀から19世紀前半の数学（解析学・確率論・オイラーとガウス）
④18世紀から19世紀前半の化学（原子論）
⑤18世紀から19世紀前半の生物学・地学（細胞説・地質学）
⑥19世紀後半の物理学（熱力学・統計力学・光学）
⑦19世紀後半の化学・医学・生物学・天文学（周期律・進化論・遺伝）
⑧20世紀以降の科学－１（原子・素粒子）
⑨20世紀以降の科学－２（量子力学）
⑩20世紀以降の科学－３（相対論）
⑪20世紀以降の科学－４（宇宙論）
⑫20世紀以降の科学－５（生命科学）
⑬発明で見る科学史
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	健康科学A
英文科目名	Health Science A
担当者名	新井健之
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	HHS101

授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学人間科学部が目指す「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」育成を達成するための科目である。健康的な生活を一生涯送ることは、万人の願いであろう。科学的な知識を学び、受講者にとって健康的な生活とは何かを模索する。本講義では、健康に対する知識だけを学ぶのでは無く、受講者の私生活応用方法の理解を目標とする。従って、可能な限り演習形式で授業を進める。受講者は講義内容をもとに私生活での応用を試み、まとめる。順不同で良いが、授業目標を達成するためには、ＡＢ両方の受講が必要となる。外部講師招聘：外部講師による健康や栄養指導、実践事例の講義を予定する。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～13は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。
授業の方法	実技と講義を組み合わせた演習形式を中心に行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を発表し、講師及び他の受講者と議論を行う（アクティブ・ラーニング）。運動処方の基礎知識を授業内試験にて確認する。必要に応じて体力測定を行う。
予習と復習	予習（90分）として自らの健康状態・体力状態を把握し、授業中に質問できるようにまとめる。復習（90分）として授業で学んだ知識を元に、健康維持増進方法の部分的な実践を行い、現状を把握する。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	授業内でテストおよび出席状況により評価			100%				0%
	出席率82%以上評価対象。授業内でのテストおよび出席状況により評価する。出席状況は授業への参加度を減点法で評価する。欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延・通信環境等の不具合の場合は要状況写真。最後に全体的な評価と所見を伝える。							

授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）
	②体力測定、02から13は状況に応じて順不同
	③ウォーミングアップとクーリングダウン
	④運動の重要性
	⑤運動の安全性確保
	⑥ストレスマネージメント
	⑦トレーニング科学基礎
	⑧授業内中間テストと解説
	⑨健康のための身体運動
	⑩体のつくり（神経生理）とタバコ
	⑪持久力トレーニング
	⑫呼吸循環器系の働き
	⑬様々なトレーニング方法と運動処方について
	⑭授業内総合テストと解説
	⑮まとめと復習

科目名	健康科学B
英文科目名	Health Science B
担当者名	新井健之
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	HHS102

授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学人間科学部が目指す「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」育成を達成するための科目である。健康的な生活を一生涯送ることは、万人の願いであろう。科学的な知識を学び、受講者にとって健康的な生活とは何かを模索する。本講義では、健康に対する知識だけを学ぶのでは無く、受講者の私生活応用方法の理解を目標とする。従って、可能な限り演習形式で授業を進める。受講者は講義内容をもとに私生活での応用を試み、まとめる。順不同で良いが、授業目標を達成するためには、ＡＢ両方の受講が必要となる。外部講師招聘：外部講師による健康や栄養指導、実践事例の講義を予定する。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～13は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。
授業の方法	実技と講義を組み合わせた演習形式を中心に行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を発表し、講師及び他の受講者と議論を行う（アクティブ・ラーニング）。運動処方の基礎知識を授業内試験にて確認する。必要に応じて体力測定を行う。
予習と復習	予習（90分）として自らの健康状態・体力状態を把握し、授業中に質問できるようにまとめる。復習（90分）として授業で学んだ知識を元に、健康維持増進方法の部分的な実践を行い、現状を把握する。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	授業内でのテストおよび出席状況により評価	100%						0%
	出席率82%以上評価対象。授業内でのテストおよび出席状況により評価する。出席状況は授業への参加度を減点法で評価する。欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延・通信環境等の不具合の場合は要状況写真。最後に全体的な評価と所見を伝える。							

授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）
	②体力測定、02から13は状況に応じて順不同
	③ウォーミングアップとクーリングダウン
	④運動の重要性
	⑤運動の安全性確保
	⑥ストレスマネージメント
	⑦トレーニング科学基礎
	⑧授業内中間テストと解説
	⑨神経生理学
	⑩筋生理学
	⑪レジスタンストレーニング
	⑫運動処方
	⑬トレーニングの種類
	⑭授業内総合テストと解説
	⑮まとめと復習

科目名	言語学A
英文科目名	Linguistics A
担当者名	松谷明美
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LING101

授業の概要と到達目標	言語（ことば）の仕組みが理解できるようにする。自分の考え・感情を相手に直接伝える手段としての言語（ことば）は人間という種にだけ生まれながらに備わった能力である。この講義では、まずヒトの言語とはどのようなものであるか、さらにその言語を研究対象とする言語学とはどのようなものかについて考える。その後、音声そのものを対象とする音声学および各言語における音の現象に関する法則性を研究する音韻論、そして語・形態素について研究する（語形成を含む）形態論の視点から、具体的なデータを基に言葉が持つ特徴や規則について考察する。人文科学を中心とする理論を学際的・総合的に学ぶための科目である。
授業の方法	PowerPointを使い、授業を進める。アクティブラーニングとして、毎回の授業で取り上げるトピックについてディスカッションを行う。授業内容を確認するためのGoogle Formによる課題を実施する。課題のフィードバックとして、全般的な評価と所見を授業中に伝える。
予習と復習	予習(90分)：授業中の指示に従い、次の授業で取り上げるトピックについて、自主的にデータや情報を収集する。 復習(90分)：講義後、その日のうちに講義内容を再確認して、Google Classroomにて配信した課題に取り組み、提出期限までに解答フォームを提出する。
テキスト等	特定のテキストは使用しない。授業時にプリントを配布する。参考書等は必要に応じて指示する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	授業中の課題を含む授業参加度			60%				0%
	上記の方法で総合評価する。課題や授業内試験についての詳細はGoogle Classroomにて配信する。また、授業中に毎回の課題について解説し、そして全体の評価と所見を伝える。							

授業計画
①ガイダンス
②言語とは （1　一般的特徴）
③言語とは （2　言語能力と言語運用）
④言語とは （3　ことばの起源と進化）
⑤音声学 （1　音声と文学）
⑥音声学 （2　音声器官と発音）
⑦授業内中間試験
⑧音韻論 （1　音節）
⑨音韻論 （2　拍）
⑩音韻論 （3　アクセント）
⑪形態論 （1　語彙部門）
⑫形態論 （2　語形成：線形型）
⑬形態論 （3　語形成：非線形型）
⑭授業内期末試験
⑮まとめと総復習

科目名	言語学B
英文科目名	Linguistics B
担当者名	松谷明美
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	LING102

授業の概要と到達目標	言語（ことば）の仕組みが理解できるようにする。先ず、言語学の各分野の中で、語をどのように配列し、文が構築されるかを考える統語論の視点から、言語事実の特徴と関連する規則について考察する。続いて、意味について研究する意味論の視点から意味解釈がどのように生じるのかについて、動詞を中心に考える。そして、ことばを状況およびその伝達内容との関係で研究する運用論の立場からどのように、何のために言葉が使われるのか、さらに身振り言語（非言語伝達）が示すメッセージは何なのかを議論する。人文科学を中心とする理論を学際的・総合的に学ぶための科目である。
授業の方法	PowerPointを使い、授業を進める。アクティブラーニングとして、毎回の授業で取り上げるトピックについてディスカッションを行う。授業内容を確認するためのGoogle Formによる課題を実施する。課題のフィードバックとして、全般的な評価と所見を授業中に伝える。
予習と復習	予習(90分)：授業中の指示に従い、次の授業で取り上げるトピックについて、自主的にデータや情報を収集する。 復習(90分)：講義後、その日のうちに講義内容を再確認して、Google Classroomにて配信した課題に取り組み、提出期限までに解答フォームを提出する。
テキスト等	特定のテキストは使用しない。授業時にプリントを配布する。参考書等は必要に応じて指示する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	授業中の課題を含む授業参加点			60%				0%
	上記の方法で総合評価する。課題や授業内試験についての詳細はGoogle Classroomにて配信する。また、授業中に毎回の課題について解説し、そして全体の評価と所見を伝える。							

授業計画	
	①ガイダンス
	②言語の生得性
	③統語論　（1　再帰代名詞、相互代名詞、普通代名詞）
	④統語論　（2　能動文と受動文）
	⑤統語論　（3　数量詞）
	⑥意味論　（2　動詞の意味と構造）
	⑦意味論　（3　自動詞と他動詞）
	⑧授業内中間試験
	⑨運用論　（1　共有知識と前提）
	⑩運用論　（2　会話の公理）
	⑪運用論　（3　発話行為）
	⑫非言語　（1　身振り）
	⑬非言語　（2　表情）
	⑭授業内期末試験
	⑮まとめと総復習

科目名	社会学A
英文科目名	Sociology A
担当者名	三津田悠
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC101

授業の概要と到達目標	私たちはそれぞれ個性をもちながら、他者とともに社会のなかで生きています。他方で、その個性が社会のなかでおさえつけられることも、あるいは逆に、個々人の行動によって社会のまとまりが失われることもあります。いったい「個人」と「社会」はいかなる関係にあるのでしょうか。本授業ではこの問いを念頭に、また、現代に至るまでの社会学の歩みを視野に収めつつ、具体的な事例とともに社会学の基本的な理論や概念について講義します。受講者の皆さんが自ら「社会学とは何か」という問い、そして「社会とは何か」という問いについて考え、また、その「社会」とそこで生きる「人間」にいかにして向き合っていくのか、自分なりの見方・考え方や態度を身につけることが目標です。本講義では、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」を育成することを目指します。
授業の方法	パワーポイントとプリントを用いた講義形式で行ないます。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を実施します。アクティブ・ラーニングの手法（授業外での予習を前提とした反転学習）を取り入れることがあります。
予習と復習	予習（90分）…授業内での指示を手がかりに、自分の関心や疑問点を整理する。復習（90分）…授業内での指示を手がかりに、自分の関心および疑問点に対する授業内容の意義を整理する。※わからない言葉については、そのつど書籍や辞典で調べることを推奨します。
テキスト等	特に指定しません。資料を配布するほか、参考文献をそのつど紹介します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%
	授業内容の理解度を問う課題（小テストやコメントシート）の内容および提出状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断して平常点を評価します。また、課題に対する総評を授業内で行なう予定です。							

授業計画
①イントロダクション：講義の進め方・注意事項
②社会が人間を動かすのか、人間が社会を動かすのか（１）：「社会学的想像力」とは何か
③社会が人間を動かすのか、人間が社会を動かすのか（２）：É. デュルケムの社会学
④社会が人間を動かすのか、人間が社会を動かすのか（３）：「意図せざる結果」とは何か
⑤社会が人間を動かすのか、人間が社会を動かすのか（４）：M. ウェーバーの社会学
⑥社会秩序はいかにして可能か：T. パーソンズの社会学
⑦社会化と個人のなかの社会：C. H. クーリー、G. H. ミードの社会学
⑧相互行為とドラマとしての社会：G. ジンメル、E. ゴフマンの社会学
⑨授業の中間まとめ
⑩ジェンダーとセクシュアリティ：フェミニズムの視角
⑪役割と相互行為（１）：エスノメソドロジー
⑫役割と相互行為（２）：ゴフマンの『アサイラム』
⑬逸脱と社会問題（１）：ラベリング理論
⑭逸脱と社会問題（２）：構築主義の視角
⑮まとめと総復習

科目名	社会学B
英文科目名	Sociology B
担当者名	三津田悠
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC102

授業の概要と到達目標	現代は「多様性の時代」であると言われ、私たちひとりひとりが個性を発揮して生きることの意義が広く認められています。他方で、個々人の自由な生き方を妨げる様々な社会的な問題が存在していること、また、個々人の生活を支える社会的な仕組みが失われた結果、個々人の生活が脅かされている事例があることも事実です。多様性を尊重することと社会としてのまとまりを維持することとのバランスをいかにして取っていくのかが現代社会の課題となっています。本授業では、この課題が「近代化」の過程で生まれたことに着目し、「近代社会」とはどのような社会であるのかについて理解することをとおして、現代社会の諸問題について批判的に捉える視座を身につけることを目指します。本講義では、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」を育成することを目指します。
授業の方法	パワーポイントとプリントを用いた講義形式で行ないます。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を実施します。アクティブ・ラーニングの手法（授業外での予習を前提とした反転学習）を取り入れることがあります。
予習と復習	予習（90分）…授業内での指示を手がかりに、自分の関心や疑問点を整理する。復習（90分）…授業内での指示を手がかりに、自分の関心および疑問点に対する授業内容の意義を整理する。※わからない言葉については、そのつど書籍や辞典で調べることを推奨します。
テキスト等	特に指定しません。資料を配布するほか、参考文献をそのつど紹介します。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
			0%				0%

授業内容の理解度を問う課題（小テストやコメントシート）の内容および提出状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断して平常点を評価します。また、課題に対する総評を授業内で行なう予定です。

授業計画
①イントロダクション――講義の進め方・注意事項
②社会学の見方・考え方――「個人」と「社会」
③「社会というものは存在しない」？――「近代」について考える
④集団と組織（１）――集団の見方・考え方
⑤集団と組織（２）――「シン・ゴジラ」から考える
⑥変容する家族のかたち（１）――家族の見方・考え方
⑦変容する家族のかたち（２）――「逃げるは恥だが役に立つ」から考える
⑧変容する家族のかたち（３）――現代の家族をめぐる諸問題
⑨授業の中間まとめ
⑩「後期近代」を生きる（１）――U. ベックの「リスク社会」論
⑪「後期近代」を生きる（２）――専門知の「危機」
⑫「後期近代」を生きる（３）――「見識ある市民」をめぐって
⑬「後期近代」を生きる（４）――個人化のゆくえと「社会学的想像力」
⑭「後期近代」を生きる（５）――「共生」について考える
⑮まとめと総復習

科目名	外書講読 外書講読A
英文科目名	Reading of Foreign Books Reading of Foreign Books A
担当者名	池内朋子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	REM201
授業の概要と到達目標	「外書講読」は、人間科学部のディプロマ・ポリシーである「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」の育成を達成することを目的とした科目です。　本科目では、英語で書かれた書物、文献、ニュース記事などの読解を通じて、グローバル社会におけるコミュニケーションの基礎を身につけます。まず英文に慣れることから始め、段階的に英語によるメッセージの理解力を高めていきます。英和・和英辞典（オンライン辞典・アプリも可）を活用しながら正確な読解を行い、文章の表面的な意味だけでなく、文化的背景や筆者の意図を読み取る力を養うことを目指します。教材として、英字新聞の記事や広く読まれている英書を扱いますが、履修者の興味関心に応じて他の教材を取り入れることもあります。後期開講科目の「グローバル・コミュニケーション」との連続性を意識したカリキュラム構成により、1年を通して「コミュニケーション」を多角的な視点から学びます。コミュニケーションの実践例を学ぶため、外部講師を招聘する場合があります。
授業の方法	毎回指定された講読箇所を事前に読み、個人またはグループで内容を理解したうえで授業で共有・発表するアクティブ・ラーニング形式で実施します。履修者には、課題への主体的な取り組みと、授業への積極的な参加を求めます。
予習と復習	予習（120分）：指定された資料を精読し、課題の発表準備および要点をまとめておくこと。復習（60分）：当日講義の内容を配布プリントを用いて復習し、重要と思われる点などを追記した上でまとめておくこと。
テキスト等	授業ごとに、教員が準備したプリントを配布します。使用予定資料：The New York Times紙の記事、Morgan Housel著『The Psychology of Money: Timeless Lessons on Wealth, Greed, and Happiness』

評価方法							
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	30%
			0%				0%

レポート（講読課題）、平常点（2/3以上出席、授業への積極的参加）を総合的に評価します。提出された課題については返却のうえ、全体的な評価および所見を示します。

授業計画
①Introduction
②News Article Reading (1): The New York Times
③News Article Reading (2): The New York Times
④News Article Reading (3): The New York Times
⑤News Article Discussion
⑥Book Reading Introduction: 『The Psychology of Money』
⑦Book Reading (1)
⑧Book Reading (2)
⑨Midterm Review & Reflection
⑩Book Reading (3)
⑪Book Reading (4)
⑫Book Reading (5)
⑬Book Reading (6)
⑭Presentations & Discussion
⑮Summary & Reflection

科目名	ライフデザイン論A
英文科目名	Life Design A
担当者名	柴田徹平
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC101

授業の概要と到達目標	〈授業の概要＞　私たちの生活設計（ライフデザイン）においては、ライフイベント（就職、恋愛、働く、出産・育児、環境問題との共存）でどのような選択をするのか、どのように対処するのかが重要になってきます。したがって、これらのライフイベントに関する知識の習得と活用は、これからの人生を生き抜く上で非常に重要です。ライフデザイン論では、心理学、社会学、経済学の知見を用いながら、若年雇用・就職、恋愛、地球環境問題との共存、女性の社会進出、ワークライフバランスなどについて具体的事例を用いて解説します。なお本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を達成するための科目です。＜到達目標＞①ライフデザインの前提となる知識を説明できるようになる。②身につけた知識をライフデザインに関する問題解決のために、どのように使うことができるのかを説明できるようになる。③人間の発達過程を学び、生活における社会学、心理学、経済学の知識を身につけた人材になること。
授業の方法	基本的に講義形式で行います。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施します。一部の授業では、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを行います。
予習と復習	予習（90分）次回講義時までに出された課題に関するキーワードや事柄について自主的に調べ、疑問点をまとめておいてください。復習（90分）当日の授業内容を復習し、疑問点や重要な箇所をまとめておいてください。
テキスト等	授業開始前までに、PDF形式の授業資料を配信します。参考になる資料は授業内で紹介します。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	65%	平常点	35%
				0%				0%
	授業への参加度（討論への参加、積極的な発言、授業内課題取組状況等）やコメントペーパーの提出状況等を平常点とし、レポートとあわせて評価を行います。単位認定には２／３以上の出席が必須となります。課題の一部は、返却して個別に評価と所見を提示します。						

授業計画	①ガイダンス（講義の概要紹介）
	②日本企業の新卒採用と就職活動
	③若者の雇用政策と労働問題
	④若者とアルバイト―ブラックバイトにご用心
	⑤恋愛論―心理学と社会学は“恋”と“愛”をどのように扱ってきたか
	⑥恋と愛の違いを知ろう―恋愛様相モデルを用いたワークショップ
	⑦若者の恋愛とメディア―メディアは若者の恋愛をどのように扱ってきたか
	⑧多様化する時代と若者の恋愛―若者の恋愛離れは本当か？
	⑨地球環境問題とライフデザイン―人生における環境問題の意味とは？
	⑩女性の社会進出とライフデザイン―キャリア・生活・育児の諸相
	⑪女性労働問題の未来を考える―出産・育児がしやすい社会のあり方とは？
	⑫レポート作成に関する基礎知識
	⑬女性の社会進出と家事・育児（1）―就労の男女平等は家庭内から
	⑭女性の社会進出と家事・育児（2）―グループディスカッション
	⑮まとめと総復習

科目名	ライフデザイン論B
英文科目名	Life Design B
担当者名	柴田徹平
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC102

授業の概要と到達目標	私たちの生活設計（ライフデザイン）においては、ライフイベント（就職、恋愛、働く、出産・育児、環境問題との共存）でどのような選択をするのか、どのように対処するのかが重要になってきます。したがって、これらのライフイベントに関する知識の習得と活用は、これからの人生を生き抜く上で非常に重要です。ライフデザイン論Bでは、ライフデザイン論Aで得た基礎的知識を踏まえ、将来設計において知っておくべき様々な問題を具体的なトピックス（①容姿の良し悪しが人生に与える影響、②恋愛と結婚、③働き過ぎとWLB、④子どもの貧困問題など）を取り上げながら、解説します。なお本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を達成するための科目です。＜到達目標＞①ライフデザインに関わる具体的な課題に関する知識を説明できるようになる。②身につけた知識をライフデザインに関する具体的な課題の問題解決のために、どのように使うことができるのかを説明できるようになる。
授業の方法	基本的に講義形式で行います。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施します。一部の授業では、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを行います。
予習と復習	予習（90分）次回講義時までに出された課題に関するキーワードや事柄について自主的に調べ、疑問点をまとめておいてください。復習（90分）当日の授業内容を復習し、疑問点や重要な箇所をまとめておいてください。
テキスト等	授業開始前までに、PDF形式の授業資料を配信します。参考になる資料は授業内で紹介します。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	65%	平常点	35%
			0%				0%

授業への参加度（討論への参加、積極的な発言、授業内課題取組状況等）やコメントペーパーの提出状況等を平常点とし、レポートとあわせて評価を行います。単位認定には２／３以上の出席が必須となります。課題の一部は、返却して個別に評価と所見を提示します。

授業計画
①ガイダンス（講義の概要紹介）
②“モテる”ってなんだ？―人の魅力とモテの関係を科学する
③外見的美しさと就職活動―就職活動に美貌格差は存在するのか？
④恋愛関係はどのように進展するのか―愛情の三角理論とアイデンティティの形成
⑤結婚と恋愛の違いは何か―結婚観の変容と結婚の条件
⑥子育てとライフデザイン―子育て世代を支える様々な諸制度
⑦働き過ぎとWLB（1）―人生をよりよくするためにできること
⑧働き過ぎとWLB（2）―グループディスカッション
⑨AI労働とライフデザイン―AI・ロボティクスと私たちの生活
⑩社会保障とは何か？（1）―仕組みと制度
⑪社会保障とは何か？（2）―歴史と現状
⑫社会保障に関するグループディスカッション
⑬子どもの貧困とライフデザイン（1）―子どもの貧困とその要因
⑭子どもの貧困とライフデザイン（2）―貧困の経験がもたらすもの
⑮まとめと総復習

科目名	ヒューマンコミュニケーション論A
英文科目名	Human Communication Theories A
担当者名	三津田悠
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM101

授業の概要と到達目標

私たちは日々生活するなかで、自分の気持ちや考えが相手に伝わらなかったり、相手が何を考えているのかわからなかったりして悩むことがあります。この悩みは、自分と他者とが「わかりあえない」から生じているものです。本授業では、こうした「わかりあえない」ことに伴う生きづらさの経験について、コミュニケーションという観点から、特に社会学的なコミュニケーション論を手がかりに探究していきます。理論的な見方・考え方を身近な、かつ具体的な事例をとおして学ぶことによって、他者とともに生きるということの困難と可能性について深く理解すること、そして、人間と社会に対していかにして向き合っていくのか、自分なりの見方・考え方や態度を身につけることが目標です。本講義では、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」を育成することを目指します。

授業の方法

パワーポイントとプリントを用いた講義形式で行ないます。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を実施します。アクティブ・ラーニングの手法（授業外での予習を前提とした反転学習）を取り入れることがあります。

予習と復習

予習（90分）…授業内での指示を手がかりに、自分の関心や疑問点を整理する。復習（90分）…授業内での指示を手がかりに、自分の関心および疑問点に対する授業内容の意義を整理する。※わからない言葉については、そのつど書籍や辞典で調べることを推奨します。

テキスト等

特に指定しません。資料を配布するほか、参考文献をそのつど紹介します。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
			0%				0%

授業内容の理解度を問う課題（小テストやコメントシート）の内容および提出状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断して平常点を評価します。また、課題に対する総評を授業内で行なう予定です。

授業計画

①イントロダクション――講義の進め方・注意事項
②コミュニケーションと生きづらさ――社会学の見方・考え方
③友人関係とコミュニケーション
④恋愛とコミュニケーション
⑤「甘え」とコミュニケーション
⑥ドラマとしてのコミュニケーション――E. ゴフマンの視角
⑦コミュニケーションと自己（1）――E. ゴフマンの『アサイラム』
⑧コミュニケーションと自己（2）――C. H. クーリーとG. H. ミードの視角
⑨中間まとめと復習
⑩世界の複数性とコミュニケーション（1） ――『羅生門』から考える
⑪世界の複数性とコミュニケーション（2） ――「羅生門問題」をめぐって
⑫世界の複数性とコミュニケーション（3） ――「他者理解」をめぐって
⑬世界の複数性とコミュニケーション（4） ――日常の現実とドン・キホーテ
⑭コミュニケーションと共生――「社会化」から「社会化」へ
⑮まとめと総復習

科目名	ヒューマンコミュニケーション論B
英文科目名	Human Communication Theories B
担当者名	三津田悠
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM102

授業の概要と到達目標

私たちが日々の生活において経験する「生きづらさ」は、それを経験している個々人の問題として捉えられることが多いように思われます。他方で、その経験が社会のなかで生み出されている以上、個人ではなく社会の側に問題の原因を見出すこともできるはずです。この意味で、生きづらさは社会のなかに問題を発見し、改善するための契機ともなり得ます。しかし、実際には私たちは社会のあり方を変えることを思いつくことすら難しく、現在のあり方に合わせられない自分自身あるいは他者を責めてしまうことすらあります。本授業では、コミュニケーションという観点から、私たちが自らの生きる社会のなかに問題を見出し、改善しようとすること――社会を批判すること――はいかにして可能なのだろうか、という問いを探究します。授業をとおして、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を育成することを目指します。

授業の方法

パワーポイントとプリントを用いた講義形式で行ないます。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を実施します。アクティブ・ラーニングの手法（授業外での予習を前提とした反転学習）を取り入れることがあります。

予習と復習

予習（90分）…授業内での指示を手がかりに、自分の関心や疑問点を整理する。復習（90分）…授業内での指示を手がかりに、自分の関心および疑問点に対する授業内容の意義を整理する。※わからない言葉については、そのつど書籍や辞典で調べることを推奨します。

テキスト等

特に指定しません。資料を配布するほか、参考文献をそのつど紹介します。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
			0%				0%

授業内容の理解度を問う課題（小テストやコメントシート）の内容および提出状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断して平常点を評価します。また、課題に対する総評を授業内で行なう予定です。

授業計画

①イントロダクション――講義の進め方・注意事項
②生きづらさから社会批判へ？（１）――「社会学的想像力」とは何か
③生きづらさから社会批判へ？（２）――現代社会と「努力」
④道徳と社会批判（１）――人間と社会との関係を考える
⑤道徳と社会批判（２）――Z. バウマンの道徳論
⑥社会批判は難しい？（１）――『自由からの逃走』
⑦社会批判は難しい？（２）――権威主義と排外主義
⑧中間まとめと復習
⑨社会批判は難しい？（３）――日常生活の経験から考える
⑩社会批判は難しい？（４）――社会問題は「構築」される
⑪共生とコミュニケーション（１）――現代社会の諸問題
⑫共生とコミュニケーション（２）――多様性と凝集性
⑬共生とコミュニケーション（３）――社会的カテゴリの更新
⑭共生とコミュニケーション（４）――「ずれ」と共生社会
⑮まとめと総復習

科目名	環境科学 環境科学A
英文科目名	Environmental Science Environmental Science A
担当者名	竹内淨
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC103

授業の概要と到達目標	「環境科学」は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」の教育を達成するための科目である。本講義の目標は、環境問題に関する基礎知識を習得することである。企業や自治体での実務経験を活かして講義を行う。様々な環境問題について、経緯、現状、背景にある課題について考え、社会に出た際に環境の側面からものごとを捉える素地を養う。※一部の回で外部講師を招聘する予定である。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして一部の授業回でディスカッションを行う。
予習と復習	予習(90分)　事前に授業計画に示したテーマについて確認すること。復習(90分)　講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	教場にて資料を配布する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	授業内試験について全般的な評価と所見を提示する。授業内試験は持込不可。							

授業計画
①環境問題とは何か
②公害の発生と規制
③水の利用と水質汚濁
④環境問題の考察
⑤上下水道と環境
⑥大気汚染
⑦地球規模の大気環境
⑧化学物質と環境
⑨二酸化炭素の特性と地球温暖化
⑩気候変動の影響と対策
⑪生物多様性
⑫循環型社会
⑬近世日本のライフスタイルと環境
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	キャリアデザイン論 キャリアデザイン論A
英文科目名	Introduction to Career Construction Introduction to Career Construction A
担当者名	赤羽根和恵
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC201
授業の概要と到達目標	【授業の概要】キャリアとは、生涯を通じての生き方とその表現であり人生そのものである。職業は生活の糧を得るだけでなく、やりがいや自己実現を図ることができる。本授業では、仕事に軸を置いたワークキャリアを中心として取り上げ、自己理解、仕事理解を通じて職業選択のイメージ形成に至る基礎理論や分析手法を学び、キャリアデザインの大まかな全体像を掴むことを目的としている。時事問題やケーススタディを取り入れて、人材ビジネス及び人材育成企業での経験を生かした実践的な指導を行う。後半に外部講師の招聘を検討している。本授業は、人間科学部のディプロマポリシー「社会生活の構築やコーディネートができる人材の育成」を達成するための科目であり、組織において活躍できる人材の育成を目指している。【到達目標】・自己理解と他者理解を深めて、自分の適性や職業について考えることができる。・産業・業態・職種について知り、就職活動の準備に取り組むことができる。・主体的に生きるために必要な目標を設定できる。
授業の方法	対面授業では、ペアワークまたはグループワークを複数回設ける。アクティブ・ラーニング（演習・ディスカッション・発表・リアクションペーパー等）を重視する。期中と第15回にオンデマンド授業を行い、その案内は授業内とGoogle Classroomを利用する。
予習と復習	・予習（90分）：事前配布資料を読み、指定されたキーワードについて調べておく。・復習（90分）：授業内容を振り返り、自分の考えを文章にまとめる。トピックスに関する目標を設定して、自分の視野と行動を広げるように努める。
テキスト等	・参考書：西本万映子、北浦正行編著（2023）『新版 キャリアデザインの教科書』（労働調査会）、岩井洋他（2025）「キャリアデザイン（第６版）」（弘文堂）を挙げる。・授業投影資料：事前にGoogleClassroomに掲載するので予習を行うこと。・その他：適宜紹介

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	40%
	課題			20%				0%

・授業回数の3分の2以上の出席（リアクションペーパー等の提出を含む）を評価の前提条件とする。・評価：キーコンセプトの理解に基づいた論述を重視する。・課題・レポート等のフィードバック：提出された答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。

授業計画
①オリエンテーション・キャリアを考える1：キャリアとは何か（キャリアデザイン）
②キャリアを考える2：今というキャリアを生きる（PDCA）
③自分自身を理解する1：自己理解の基本（ライフストーリー、マズローの5段階欲求）
④自分自身を理解する2：自分の興味や関心、特性、こだわり（ホランドの六角形モデル）
⑤自分自身を理解する3：自分の性格を理解する（エゴグラム、リフレーミング）
⑥自分自身を理解する4：他者を通して自己理解する（ジョハリの窓、フィードバック）
⑦自分自身を理解する5：キャリアの棚卸し（キャリア・プランシート）
⑧働き方を考える1：仕事とは何か（P・ドラッカー）
⑨働き方を考える2：組織との関係 就職と就社（ジェネラリストとスペシャリスト）
⑩働き方を考える3：正社員という働き方（正社員、非正社員）
⑪働き方を考える4：多様な働き方（フリーランス）
⑫働き方を考える5：ライフキャリアとワークキャリア（ライフ・キャリア・レインボー）
⑬職業イメージの形成1：仕事に関する情報を集める（アルバイト、インターンシップ）
⑭職業イメージの形成2：職業イメージを膨らませる
⑮まとめと総復習（オンデマンド授業）：キャリアデザインの実施

科目名	家族社会学 家族社会学A
英文科目名	Family Sociology Family Sociology A
担当者名	吉原千賀
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC205

授業の概要と到達目標	家族とは､我々にとってあまりにも身近であるが故にそれにまつわる様々な事柄が自明視されている｡本講義では､①家族の捉え方およびその変化を現代社会状況とのかかわりで理解すること､②家族や家族関係の現状について具体的に把握すること、③家族を相対化する視点を養うこと､を目標に､そのような家族に対し､改めて｢家族とは何か?｣を考えてみたい｡具体的には､制度､文化､時代といった複数の次元･領域における｢家族｣の〈比較〉を通して家族を相対化して捉える視点を養う｡この視点は､家族について具体的に考え､考察を深めていくうえでの基本的視角となる｡なお、人間科学部のディプロマポリシー「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を育成するための科目である。
授業の方法	一部の授業回でグループワーク(アクティブ・ラーニング)を実施予定である。
予習と復習	予習(90分)普段から意識して新聞や雑誌等で家族にかかわる法律や制度にかんする情報に触れ考えておくこと。 復習(90分)講義終了後、講義内で紹介した文献や配布資料をその日のうちに復習しておくこと。
テキスト等	テーマに応じて適宜参考文献を紹介し､資料等を配布する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	レポートや講義内で課すワーク､講義への取組姿勢、出席状況を総合評価する｡なお､4回以上欠席した場合は単位を認めない｡【課題に対するフィードバック】ワークの一部について、講義内で全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①オリエンテーション
②「家族とは何か？」を考える
③the family からfamilies へ
④家族をめぐる基本概念と法律
⑤家族をどうとらえるか?
⑥家族の形成とそのプロセス
⑦家族と血縁―生殖補助医療―
⑧家族と血縁―特別養子縁組と里親制度―
⑨家族の変化をどうとらえるか？
⑩家族観の変遷
⑪子どもと定位家族
⑫家族の変化と家庭教育
⑬家族の解消とそのプロセス
⑭家族の解消とその後の生活
⑮まとめと総復習

科目名	家族関係論 家族社会学B
英文科目名	Family Relations Family Sociology　B
担当者名	吉原千賀
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC206

授業の概要と到達目標	本講義では、①家族やそれを構成する個人の変化を現代社会状況とのかかわりで理解すること、②現代社会において家族が抱える問題や課題について具体的に把握すること、③それらを身近な出来事や経験を題材にしながら分析、考察する力を養うこと、を目標に、家族社会学の中心的方法論「ライフコース論」、「ネットワーク論」の視点からアプローチする。具体的には、家族メンバー個々人の幼少期から高齢期にいたるライフコースを「タテ」軸に、夫婦・親子・きょうだいといった家族メンバー間の関係性の広がり、すなわちネットワークを「ヨコ」軸にしながら考える。事前に家族社会学(家族社会学A)を履修していることが望ましい。なお、人間科学部のディプロマポリシー「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を育成するための科目である。
授業の方法	一部の授業回でグループワーク(アクティブ・ラーニング)を実施予定である。
予習と復習	予習(90分)：普段から意識して新聞や雑誌等で家族にかかわる制度や法律にかんする情報に触れ考えておくこと。 復習(90分)：講義終了後、講義内で紹介した文献や配布資料をその日のうちに復習しておくこと。
テキスト等	テーマに応じて適宜参考文献を紹介し、資料等を配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	レポートや講義内で課すワーク、講義への取組姿勢、出席状況を総合評価する。4回以上欠席した場合は単位を認めない。【課題に対するフィードバック】ワークの一部について、講義内で全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画	①イントロダクション
	②家族関係とは？
	③子育てについて考える：歴史的な視点から
	④母性神話と三歳児神話
	⑤職業生活と子育て
	⑥父親の子育て
	⑦イクメン現象について考える
	⑧子育てについて考える：制度的な視点から
	⑨職業生活と家族
	⑩家族危機とワーク・ライフ・コンフリクト：仕事と育児
	⑪就労曲線とライフイベント
	⑫育児ストレスと児童虐待
	⑬家族危機とワーク・ライフ・コンフリクト：仕事と介護
	⑭「老い」と「成熟」をめぐる家族関係
	⑮まとめと総復習

科目名	ジェンダー論 ジェンダー論A
英文科目名	The Theory of Gender The Theory of Gender A
担当者名	加藤敦也
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC203

授業の概要と到達目標	概要：ジェンダーとは、社会的・□化的につくられた性のありかたを意味します。最近では、性差別やジェンダーに関する不平等について、様々なメディアを通して報じられる機会が増えています。本講義では、フェミニズムや男性学などジェンダー論を構成するいくつかの分野の成果について具体的事例を交えて、性差別と性に基づく不平等について説明します。また、性の多様性についても時間を割いて取り上げます。人間科学部のディプロマ・ポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を育成するための科目である。目標：ジェンダー論の考え方や立場を理解することにより、現代社会におけるジェンダーに基づく不平等問題、またはジェンダーにとらわれない諸個人の生き方・考え方の多様性について知識と見聞を得ることを目標とします。
授業の方法	講義形式。授業終了後にコメントを提出してもらいます。そのコメントの内容を平常点として評価します。また、一部の授業回でディスカッション（アクティブ・ラーニング）を設けます。
予習と復習	授業ごとに下記の予習(90分）・復習（90分）が求められます。・授業テーマに関するキーワードを調べておきましょう。・講義後は、配布資料を参考にし、講義内容の要点をノートにまとめることをすすめます。・講義で紹介した文献を読んでみましょう。
テキスト等	教科書は使用しません。参考文献を以下に示します。林香里・田中東子編，2023，『ジェンダーで学ぶメディア論』世界思想社．多賀太，2022，『ジェンダーで読み解く――男性の働き方・暮らし方』時事通信社．そのほかは授業中に指示する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	全体の3分の2以上の出席を評価の前提とします。優れたコメントペーパーを書いたものは、提出日の翌週に匿名で読み上げます。そうしたコメントの紹介をもって授業のフィードバックとします。また、試験は小論文試験となります。							

授業計画
①イントロダクション：ジェンダーとは何か？
②性別役割分業：家族、労働の現場における女／男の区分
③メンズリブ・男性学（「男」は社会的につくられる）
④男性の家事・育児（父親としての男性）
⑤就労におけるジェンダー格差とジェンダー規範について（非正規雇用問題）
⑥若者の恋愛離れ（草食系男子現象とジェンダー）
⑦ファッションとジェンダー
⑧ルッキズムの諸問題――思春期のアイデンティティ・クライシス
⑨ゲイ／クィアスタディーズ
⑩同性婚とパートナーシップ制度
⑪ポルノグラフィと性差別
⑫ジェンダーと暴力―DV、デートDV
⑬ケアとジェンダー（少子高齢化社会の保育と介護）
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	社会保障論 社会保障論A
英文科目名	Social Security Social Security A
担当者名	柴田徹平
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC207

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞この授業では、私たちの暮らしのなかでどのように社会保障制度が組み込まれているのか、また、日本の社会保障制度の特徴と課題を理解することを目的とします。その上で、現在の日本における貧困の現状を解説し、受講者の皆さんがこうした社会問題をどのように解決していけばよいのかを主体的に考えられるようになることを目的とします。なお本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を達成するための科目です。＜授業の目的＞①社会保障制度がどのような特徴を有しているかを説明できるようになる。②社会保障制度を取り巻く社会・経済環境がどうなっているかを説明できるようになる。外部講師招聘の可能性があります。
授業の方法	基本的に講義形式で行います。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施します。一部の授業では、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを行います。
予習と復習	予習（90分）次回講義時までに出された課題に関するキーワードや事柄について自主的に調べ、疑問点をまとめておいてください。復習（90分）当日の授業内容を復習し、疑問点や重要な箇所をまとめておいてください。
テキスト等	授業開始前までに、PDF形式の授業資料を配信します。参考になる資料は授業内で紹介します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	65%	平常点	35%
				0%				0%
	授業への参加度（積極的な発言、授業内課題取組状況等）やコメントペーパーの提出状況等を平常点とし、レポートとあわせて評価を行います。単位認定には２／３以上の出席が必須となります。課題の一部は、返却して個別に評価と所見を提示します。							

授業計画
①ガイダンス（講義の概要紹介）
②社会保障の仕組みと考え方
③公的年金制度
④医療保険制度と国民皆保険
⑤労働保険制度
⑥日本の社会保障体制の課題
⑦子どもの貧困と子ども家庭福祉
⑧社会保障の歴史と制度体系
⑨格差・貧困問題の背景
⑩アメリカの社会保障
⑪ドイツの社会保障
⑫韓国の社会保障
⑬スウェーデンの社会保障
⑭グローバル化の中の貧困問題を考える
⑮まとめと総復習

科目名	公的扶助論 社会保障論B
英文科目名	Public Assistance Theory Social Security B
担当者名	柴田徹平
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC208

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞　貧困は社会福祉の最も古い、根源的なテーマである。今日の先進諸国においても、貧困はその姿を変えて拡大・再生産されている。今日の貧困は、経済的な貧しさを意味するだけでなく、機会の不平等、標準的な生活スタイルからの逸脱、人間関係の希薄・粗雑化、精神の荒廃など、広く人間生活の「自立」を脅かす現象である。その貧困の防止と貧困者の救済の仕組みは、現代国家の最後のセーフテイ・ネットである。その仕組みと、社会福祉全体における公的扶助の位置と機能について理解を深める。なお本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を達成するための科目です。＜授業の目標＞①生活保護の原理・原則と法制度を理解する。②貧困問題が生じる社会的要因を理解する。③生活保護の動向と近年の改革の意味を理解する。
授業の方法	基本的に講義形式で行います。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施します。一部の授業では、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを行います。
予習と復習	予習（90分）次回講義時までに出された課題に関するキーワードや事柄について自主的に調べ、疑問点をまとめておいてください。復習（90分）当日の授業内容を復習し、疑問点や重要な箇所をまとめておいてください。
テキスト等	授業開始前までに、PDF形式の授業資料を配信します。参考になる資料は授業内で紹介します。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	65%	平常点	35%
				0%				0%
	授業への参加度（積極的な発言、授業内課題取組状況等）やコメントペーパーの提出状況等を平常点とし、レポートとあわせて評価を行います。単位認定には２／３以上の出席が必須となります。課題の一部は、返却して個別に評価と所見を提示します。							

授業計画
①ガイダンス（講義の概要紹介）
②公的扶助の特徴と機能□
③公的扶助の歴史と貧困政策□
④生活保護制度の原理・原則（無差別平等と自立助長）
⑤生活保護制度の原理・原則（収入認定・資産保有）
⑥生活保護制度の原理・原則（扶養義務・世帯認定）□
⑦生活保護の権利と不服申立て制度
⑧生活保護制度から考える社会のあり方―グループディスカッション□
⑨生活保護受給者の動向
⑩生活保護の財政の現状□
⑪生活保護基準額について考える―グループディスカッション（ディスカッション編）□
⑫生活保護基準額について考える―グループディスカッション（発表編）
⑬日本の生活保護制度の生成と発展
⑭貧困対策をめぐる近年の状況
⑮まとめと総復習

科目名	健康と医療の社会学
英文科目名	Sociology of Health and Medicine
担当者名	高山　智子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC202

授業の概要と到達目標	＜授業の目標＞①健康を守り、保健医療や環境や社会とのよりよい関係を築き、それらをよりよく変えていく上で必要な知識やスキルを習得する。②生物医学的な見方・考え方に片寄らない多様な見方・考え方や、見識としてのクリティカル(科学的批判的)な見方・考え方を学ぶ。＜授業の概要＞人の受胎・出生から死亡までの生涯発達、ライフコースの視点を重要視する。毎回異なるテーマを取り上げ、健康と生き方とを結びつけて考え、健康や医療等の情報を集めて主体的に判断して行動できるように、問題の見方・考え方を鍛える。タイムリーな内容とするために講義内容が前後する場合がある。人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を目指す科目である。※遠隔・対面授業の実施状況により、授業計画の一部が変更になる可能性がある。
授業の方法	アクティブ・ラーニングを重視するため、全授業回数の3分の2以上の出席を求める。アクティブ・ラーニングを実施する：ワークシートや課題による能動的学習。
予習と復習	予習（９０分）授業テーマに関する調べ学習。復習（９０分）各授業回の課題に取り組む。
テキスト等	教科書：『新・生き方としての健康科学(第2版)』山崎喜比古監修(有信堂)

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	75%	平常点	25%
				0%				0%
	①全授業回の3分の2以上の出席を求める。②遅刻・早退、欠席は、平常点から減点する。③居眠り、授業以外のスマホ操作、その他の授業以外の行動は、平常点から減点する。④毎回、授業の理解確認・振り返りのレポートを提出する。						

授業計画	①生き方としての健康科学とは
	②生涯発達と健康、社会、生き方
	③健康に生きる力
	④食と健康
	⑤身体、身体活動、睡眠と健康
	⑥薬品、薬物と健康
	⑦心と身体の病気、口腔保健と医療・健康サービス
	⑧生活の場(大学)と健康①
	⑨生活の場(大学)と健康②
	⑩生活の場(職場、家庭、地域)と健康
	⑪国境を越える人の移動と健康
	⑫環境・自然災害と健康
	⑬セックス、ジェンダー、セクシュアリティと健康
	⑭病・障害の体験／老いること、死にゆくこと
	⑮まとめと総復習：先端医療と医療に関わる社会のルール／医療と福祉を支える社会

科目名	ライフコース論
英文科目名	Life Course Theory
担当者名	吉原千賀
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC204

授業の概要と到達目標	本講義は、個人が一生のあいだにたどる人生の道筋であるライフコースに対し、学問的にアプローチするものである。従来、人の一生はあるパターンが繰り返されるものとして捉えられてきた。しかしながら、現代社会において進学、就職、結婚、出産、転職、退職、死などの人生の出来事を経験するのかしないのか、経験するとすれば「いつ」「どんな順序で」「どんな風に」経験するのか等についての選択は個人にゆだねられ、多様化している。そこで、①ライフコースの時代的変化とその背景について理解し、②それと関わらせながらライフコース選択にまつわる問題点や課題について追究、考察する方法の修得を目指す。社会心理学、家族社会学、対人関係論、家族関係論を履修していることが望ましい。なお、人間科学部のディプロマポリシー「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」の育成のための科目である。
授業の方法	一部の授業回でグループワーク(アクティブ・ラーニング)を実施予定である。
予習と復習	予習(90分)：普段から意識して新聞や雑誌等で就職をはじめとする様々なライフイベントに関する情報に触れ考えておくこと。復習(90分)：講義終了後、講義内で紹介した文献や配布資料をその日のうちに復習しておくこと。
テキスト等	テーマに応じて適宜参考文献を紹介し､資料等を配布する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	レポートや講義内で課すワーク､講義への取組姿勢、出席状況を総合評価する｡なお､4回以上欠席した場合は単位を認めない。【課題に対するフィードバック】ワークの一部について、授業内で全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①イントロダクション
②ライフコースと世代
③ライフサイクルからライフコースへ
④「人生の多様化」とライフコース
⑤人間の発達と歴史的・時代的コンテクスト
⑥家族変動とライフコース
⑦恋愛・結婚・出産とライフコース
⑧職業キャリアとライフコース
⑨キャリアシュミレーションプログラム
⑩ライフコースの形成と転機
⑪ライフコースにおける出会いと別れ
⑫ライフコースの交錯とコンボイ
⑬生きがいとライフコース
⑭高齢期における人生物語の再構築
⑮まとめと総復習

科目名	ジェロントロジー ジェロントロジーA
英文科目名	Gerontology Gerontology A
担当者名	池内朋子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC209

授業の概要と到達目標	「ジェロントロジー」は、人間科学部のディプロマ・ポリシーである「人間の生涯にわたる成長を支援し、社会生活のコーディネイトを担える人材」の育成を達成することを目的とした科目です。ジェロントロジーとは、エイジング（加齢）に関するあらゆる側面を研究し、高齢者のウェルビーング（幸福）を促進する学問です。人間の老年期までを視野に入れた生涯発達や人生観・社会観について、学際的な視点から学びます。　大学生という立場にある皆さんにとっては、就職や結婚、家庭形成といった将来像までは比較的想像しやすいかもしれません。しかし実際には、退職後や子どもが独立した後にも、長い「老後の人生」が続いています。本授業では、そうした人生後半期をどのように考え、どのように行動していくかを主体的に考える力を養うことを目指します。　本科目は、後期開講科目である「高齢社会論」とのペア科目として位置づけられています。なお、教室外の現場で起きている実践的な内容を学ぶため、外部講師を招聘する場合があります。
授業の方法	授業は講義を中心に進めますが、必要に応じてディスカッションやリアクションペーパーを用いたアクティブ・ラーニングを取り入れます。また、グループワークによる課題も実施します。履修者には、ディスカッション等を通して積極的に授業へ参加する姿勢を求めます。
予習と復習	予習（90分）：事前に指定された資料を精読し、気づいたことや疑問点を把握・整理しておくこと。復習（90分）：当日中に、講義の内容を再度復習し、重要と思う点などを追記してまとめておくこと。
テキスト等	授業ごとに、教員が準備した教材や資料を配信・配布します。参考書：佐藤眞一著『あなたのまわりの「高齢さん」の本』（主婦と生活者）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	25%
	リアクションペーパー			35%				0%
	リアクションペーパー（35%）、レポート（中間課題20%、グループ課題20%）、平常点（2/3以上出席、授業への積極的参加）を総合的に評価します。提出された課題については返却のうえ、全体的な評価および所見を示します。							

授業計画
①イントロダクション：ジェロントロジーとは
②エイジング（加齢）の概念、自立・自律
③高齢期のウェルビーング・幸福感、健康、生きがい
④エイジズム（年齢差別）、高齢者像とステレオタイプ
⑤生涯発達・エイジングに関する理論①：サクセスフル・エイジング
⑥生涯発達・エイジングに関する理論②：社会情動的選択理論、コンボイモデル
⑦発達課題、多様性と個人差
⑧身体的老化、獲得と喪失（SOC理論）
⑨老性自覚、老いの受容、心の老化
⑩社会的アイデンティティ、年齢アイデンティティ、主観年齢
⑪ソーシャルネットワーク、就労・退職・引退、社会的役割
⑫孤立・孤独、社会的孤立、閉じこもり
⑬おひとりさま、高齢期のペット飼育、ペット家族
⑭うつ、認知症、独居認知症高齢者
⑮まとめと総復習

科目名	高齢社会論 ジェロントロジーB
英文科目名	Issues on Aged Society Gerontology B
担当者名	池内朋子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SLDC210

授業の概要と到達目標	「高齢社会論」は、人間科学部のディプロマ・ポリシーである「人間の生涯にわたる成長を支援し、社会生活のコーディネイトを担える人材」の育成を達成することを目的とした科目です。日本は世界に冠たる長寿国ですが、世界では不老長寿の実現を目指した科学研究が加速しています。将来、若さを保ったまま老後を迎えたり、死を遠い未来の出来事として捉えたりする時代が到来するかもしれません。そうした社会においては、年齢を重ねても自己を最適化し続ける「生涯にわたる自分づくり」について考えることがより重要になります。　本授業では、大学生という人生の早い段階から人生全体を見通し、高齢期を含めた生き方について思索します。高齢者を取り巻く問題や課題について考えることは、誰もが幸せに暮らせる社会の実現に貢献するとともに、皆さん自身の未来をより良いものにすることにもつながります。　本科目は、前期開講科目である「ジェロントロジー」とのペア科目として位置づけられています。なお、教室外の現場で起きている実践的な内容を学ぶため、外部講師を招聘する場合があります。
授業の方法	授業は講義を中心に進めますが、必要に応じてディスカッションやリアクションペーパーを用いたアクティブ・ラーニングを取り入れます。また、グループワークによる課題も実施します。履修者には、ディスカッション等を通して積極的に授業へ参加する姿勢を求めます。
予習と復習	予習（90分）：事前に指定された資料を精読し、気づいたことや疑問点を把握・整理しておくこと。復習（90分）：当日中に、講義の内容を再度復習し、重要と思う点などを追記してまとめておくこと。
テキスト等	授業ごとに、教員が準備した教材や資料を配信・配布します。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	25%
	リアクションペーパー			25%				0%
	リアクションペーパー（25%）、レポート（個人課題25%、グループ課題25%）、平常点（2/3以上出席、授業への積極的参加）を総合的に評価します。提出された課題については返却のうえ、全体的な評価および所見を示します。							

授業計画	①イントロダクション：グローバル・エイジング（老いる世界）
	②長寿社会の課題①：少子高齢化、人口減少
	③長寿社会の課題②：過疎地域、医療・介護
	④長寿社会の課題③：後継者問題、空き家問題
	⑤家族観の変容、家族介護、老親扶養、単独世帯
	⑥エンドオブライフ・ケア、在宅死、孤立死
	⑦老い・看取り・死をめぐる〈迷惑〉意識（「周りに迷惑をかけたくない」思い）
	⑧死生観、死に方の質（QoDD）、終活
	⑨グループワーク（課題調査、発表テーマ検討）
	⑩高齢者とテクノロジー、デジタル・デバイド問題
	⑪高齢者の事故、詐欺・犯罪被害、自殺とその背景
	⑫認知症高齢者の行方不明、成年後見制度
	⑬住まいと地域、エイジング・イン・プレイス
	⑭グループ発表、ディスカッション
	⑮まとめと総復習

科目名	キャリア心理学 キャリアデザイン論B キャリアデザイン論B
英文科目名	Psychological approaches to career Introduction to Career Construction B
担当者名	赤羽根和恵
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM201

授業の概要と到達目標	【授業の概要】仕事に必要な能力と会社のしくみやワークルールについて知ることは、働く上で自分を守るために必須である。そのしくみの中でいかに働くか、自分の価値観に基づくキャリア形成の検討が重要になる。本授業では、会社のしくみとワークルールを理解した上で、今日的な職業相談やキャリアに関する問題等を、キャリア理論とキャリア・カウンセリングの手法を用いて理解を深めることを目的としている。ケーススタディは、人材育成企業での職務経験と、産業カウンセラー及びキャリアコンサルタントとして得たノウハウを生かした実践的な内容を取り入れる。また、外部講師の招聘を検討している。本授業は、人間科学部のディプロマポリシー「社会生活の構築やコーディネートができる人材の育成」を達成するための科目であり、組織において活躍できる人材の育成を目指している。【到達目標】・仕事に必要な能力と会社のしくみを理解することができる。・ワーク・ルールについて知り、就職活動及び仕事をする上で生かすことができる。・キャリア心理学を生かし自律型キャリアに必要な目標を設定することができる。
授業の方法	対面授業では、ペアワークまたはグループワークを複数回設ける。アクティブ・ラーニング（演習・ディスカッション・発表・リアクションペーパー等）を重視する。期中と第15回にオンデマンド授業を行い、その案内は授業内とGoogle Classroomを利用する。
予習と復習	・予習（90分）：事前配布資料を読み、指定されたキーワードについて調べておく。・復習（90分）：授業内容を振り返り、自分の考えを文章にまとめる。トピックスに関する目標を設定して、自分の視野と行動を広げるように努める。
テキスト等	・参考書：西本万映子（2023）『新版 キャリアデザインの教科書』（労働調査会）／安達智子・下村英雄『キャリア・コンストラクションワークブック』（金子書房）・授業投影資料：事前にGoogleClassroomに掲載、授業内資料あり・その他：適宜紹介

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	40%
	課題			20%				0%

・授業回数の3分の2以上の出席（リアクションペーパー等の提出を含む）を評価の前提条件とする。・評価：キーコンセプトの理解に基づいた論述を重視する。・課題・レポート等のフィードバック：提出された答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。

授業計画
①オリエンテーション・仕事に必要な能力1：職場で求められる力を知る
②仕事に必要な能力2：やりがいと意欲を育てる（ビリーフ、ウェルビーイング）
③仕事に必要な能力3：集団の中で自分を活かす（アサーティブネス）
④仕事に必要な能力4：伝える力を伸ばす（コミュニケーション能力）
⑤仕事の世界を考える1：ワークルールのしくみ1（労働法1）
⑥仕事の世界を考える2：ワークルールのしくみ2（労働法2）
⑦仕事の世界を考える3：会社のしくみを知る（コーポレート・ガバナンス）
⑧仕事の世界を考える4：会社で働くことをイメージする（プロティアン・キャリア）
⑨仕事の世界を考える5：収入と生活設計を知る（マネー・プラン）
⑩キャリアを持続させる1：自分の能力を高める（リスキング、エンプロイアビリティ）
⑪キャリアを持続させる2：職業の資格を考える（ワーク・エンゲージメント）
⑫キャリアを持続させる3：ワーク・ライフ・バランス考（アンコンシャス・バイアス）
⑬キャリア・カウンセリング：職場や仕事の相談（キャリア・カウンセリング）
⑭自分の就く職業：新卒採用と就職理解（ストレス、レジリエンス）
⑮まとめと総復習（オンデマンド授業）：職業とキャリア

科目名	異文化間コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション論A
英文科目名	Intercultural Communication Theories Intercultural Communication Theories A
担当者名	吉村竜
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM205

授業の概要と到達目標

＜概要＞本講義では、異なる文化の間でなされるコミュニケーションの構造と特徴、あるいはズレとその原因について学ぶ。文化（いろいろな要素が含まれる概念だが、言語はとくに重要である）が異なる状況下では、しばしばコミュニケーションがうまくとれないことがある。それは言語だけの問題なのか。本講義では、彼我の文化の違いを意識し、自分自身について考え直し、こうした問題を客観的に考察する方法を扱う。人間科学部のディプロマ・ポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を達成するための科目である。＜到達目標＞①異文化コミュニケーションに関わる基本的用語や考え方を理解する。②異文化について考えることを通じて、自分自身の考え方を捉え直す。

授業の方法

講義と課題の提出を中心に行う。授業時に毎回「授業プリント」（穴埋め問題・筆記問題）を配布するので、受講生は答えと自身の考え・経験を書き授業終了時に提出する（アクティブ・ラーニング）。

予習と復習

予習（90分）　事前に指定された課題について自ら調べて要点をまとめておくこと。復習（90分）　資料内の空欄がすべて埋まっていることを確認し、不明な部分は参考文献等から調べる。

テキスト等

授業時に資料を配布する。参考文献：石井敏ほか（2018）『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書／八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
			0%				0%

「平常点」は各回の穴埋め問題の点数を、「レポート」は各回の筆記問題の点数の合計を意味する。これらと授業内試験を合わせて評価対象とする。本講義は提出された課題にもとづき評価点数を重ねる加点主義をとる。提出された課題のうち優れた内容は授業内で開示する。

授業計画

①オリエンテーション
②文化ってなんだろう？：文化の基礎知識
③異文化コミュニケーションってなんだろう？：コミュニケーションの基礎知識
④異文化とむきあう「わたし」はなにもの？：自己、アイデンティティ
⑤異文化とどのようにつきあうの？：偏見、ステレオタイプ、差別のしくみ
⑥文化がちがうとケンカになる？：差異と衝突（映像の視聴）
⑦ケンカしたらどうやって仲直りする？：衝突からの異文化理解（映像の視聴）
⑧言語と文化ってどう関係するの？：言語コミュニケーション、サピア＝ウォーフの仮説
⑨謙遜は日本の文化なの？：アサーティブネス、シャイネス
⑩「おいでおいで」は「あっちにいけ」？：非言語コミュニケーションと文化のちがい
⑪友達なら何を言ってもいいの？：文化と対人コミュニケーション
⑫コミュニケーション「したくない」はどこからくるの？：カルチャー・ショックのしくみ
⑬ケンカできるほど近しい関係になる：衝突から反省的思考へ
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	多文化共生論 異文化間コミュニケーション論B
英文科目名	Multicultural Society Intercultural Communication Theories B
担当者名	吉村竜
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM206

授業の概要と到達目標

＜概要＞本講義では多文化共生のために文化のちがい（文化的差異）をどのように理解するかを学ぶ。文化はその内部にさまざまな要素を内包し、さらに外部の要素を取り入れながら成り立っている。国内外では単一の伝統や文化が強調されることがあるが、実態としては文化の内部・外部のさまざまな要素を組み込みつつ外部に影響を与えてもいる。本講義では、国内外におけるこのような文化のちがいに関する事例を踏まえながら、グローバルな文化交流と権力・暴力や闘争の歴史、多文化主義の考え方などを学ぶ。それによって、文化のちがいをどのように理解しどう乗り越えるかを考える力と、「共」に「生」きるための多文化共生の考え方を身につけることを目指す。人間科学部のディプロマ・ポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を達成するための科目である。＜到達目標＞①異文化理解の基本的概念を理解する。②事例や自身の経験を踏まえて文化の差異を理解し、多文化共生の考え方を身につける。

授業の方法

講義と課題の提出を中心に行う。授業時に毎回「授業プリント」（穴埋め問題・筆記問題）を配布するので、受講生は答えと自身の考え・経験を書き授業終了時に提出する（アクティブ・ラーニング）。

予習と復習

予習（90分）　事前に配布する資料について自ら調べ、要点をまとめておくこと。復習（90分）　配布資料を踏まえて授業内容を振り返り、不明な部分は参考文献等から調べること。

テキスト等

授業時にレジュメを配布する。参考文献は、高城玲編『大学生のための異文化・国際理解：差異と多様性への誘い』（丸善出版、2017年）。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
			0%				0%

「平常点」は各回の穴埋め問題の点数を、「レポート」は各回の筆記問題の点数の合計を意味する。これらと授業内試験を合わせて評価対象とする。本講義は提出された課題にもとづき評価点数を重ねる加点主義をとる。提出された課題のうち優れた内容は授業内で開示する。

授業計画

①オリエンテーション
②マジョリティが文化をつくるの？①：多文化共生の基礎知識
③文化のちがいは国のちがい？：国家・国民・民族（nation）と文化
④文化はいったい、誰のもの？：マイノリティと多文化主義
⑤「人種」の差異をどうやって乗り越えるの？：人種主義と民主主義
⑥文化のちがいをどうやって受け止める？：結婚とカルチャー・ショック（映像の視聴）
⑦文化のちがいをどうやって受け止める？：差延と異文化理解（映像の視聴）
⑧男・女「らしさ」の規範をなくせば平等になるの？：ジェンダーと文化
⑨文化の差異から共生を考えてみよう（小まとめ）
⑩マジョリティが文化をつくるの？②：ディスアビリティ、優勢思想
⑪「生きづらさ」はどこからくるの？：福祉とケア（映像の視聴）
⑫「炎上」も罪になる？：犯罪とメディア文化
⑬文化のちがいを乗り越える：学校と「人間教育」の思想
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	社会心理学 社会心理学A
英文科目名	Social Psychology Social Psychology A
担当者名	吉原千賀
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM209

授業の概要と到達目標	社会心理学とは、文字通り「社会」と「心理」にかかわる学問である。それ故、「心理学的」社会心理学と「社会学的」社会心理学という2つアプローチがある。本講義では、このような社会心理学という学問領域が持つ特徴について概説したうえで、主として後者すなわち「社会学的」社会心理学の立場から社会心理学の基礎的な理論や考え方の検討を行う。そして、「社会的な存在」である個人の行動や心理を社会というコンテクストのなかで、①社会心理学的な人間観を理解すること、ならびに②それと関わらせながら身近な出来事や自らの経験から発見した問題点、課題を追究・考察する視点・方法の修得を目指す。なお、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」の育成のための科目である。
授業の方法	一部の授業回でグループワーク(アクティブ・ラーニング)を実施予定である。
予習と復習	予習(90分)：普段から意識して新聞や雑誌等で社会の動きや人間関係、心理についての情報に触れ考えておくこと。復習(90分)：講義終了後、講義内で紹介した文献や配布資料をその日のうちに復習しておくこと。
テキスト等	テーマに応じて適宜参考文献を紹介し、資料等を配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	レポートや講義内で課すワーク、講義への取組姿勢、出席状況を総合評価する。なお、4回以上欠席した場合は単位を認めない。【課題に対するフィードバック】ワークの一部について、講義内で全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画	①オリエンテーション
	②身近なものが映し出す「社会」
	③社会心理学とは?
	④1+1=2+α:創発特性
	⑤あだ名をつけること・つけられること:逸脱論
	⑥ジベタリアンの「羞恥心」:準拠集団論
	⑦「世間体」の構造
	⑧ウチラとアイツラ:内集団と外集団
	⑨隣の芝生はなぜ青い?:相対的不満
	⑩援助行動とソーシャル・サポート
	⑪冷淡な傍観者：傍観者効果と社会的交換理論
	⑫占いはなぜ当たるのか：予言の自己成就
	⑬年齢規範について考える
	⑭自分さがし・自分史ブームについて考える
	⑮まとめと総復習

科目名	対人関係論 社会心理学B
英文科目名	Science of Human Relations Social Psychology B
担当者名	吉原千賀
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM210

授業の概要と到達目標	人間は社会において互いに影響を与えあいながら生きている。そのような相互作用のなかで人間はどのように考え、行動するのか。本講義は、①「自己とは」「他者とは」等の問いをスタートに、広く人間関係について再考すること、②身近な出来事や社会現象に潜む問題点を発見、考察する力を養うこと、を目標に、「社会学的」社会心理学の立場から社会的役割、その獲得プロセスとしての社会化、社会的自我など社会(集団)レベルでの人間性の問題、社会的相互作用のあり方の問題に対して、「人間関係」をキーワードにアプローチ、考察していく。事前に社会心理学(社会心理学A)を履修していることが望ましい。なお、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」の育成のための科目である。
授業の方法	一部の授業回でグループワーク(アクティブ・ラーニング)を実施予定である。
予習と復習	予習(90分)：普段から意識して新聞や雑誌等で社会の動きや人間関係、心理についての情報に触れ考えておくこと。復習(90分)：講義終了後、講義内で紹介した文献や配布資料をその日のうちに復習しておくこと。
テキスト等	テーマに応じて適宜参考文献を紹介し、資料等を配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	レポートや講義内で課すワーク、講義への取組姿勢、出席状況を総合評価する。なお、4回以上欠席した場合は単位を認めない。【課題に対するフィードバック】ワークの一部について、講義内で全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画	①イントロダクション
	②IとmeワタシのIの対話：自我論
	③IとmeワタシのIの対話：役割理論
	④「第二の名刺」をつくってみよう！
	⑤役割と演技：自己呈示
	⑥役割と演技：印象操作
	⑦好意をもつこと・もたれること：対人魅力
	⑧印象形成とバイアス
	⑨人づきあいとその技術
	⑩マクドナルド化と感情
	⑪感情の教育とコントロール
	⑫バーンアウトと役割距離
	⑬こころの健康とストレス対処
	⑭人間関係の働きについて考える
	⑮まとめと総復習

科目名	青年心理学
英文科目名	Adolescent Psychology
担当者名	徳田治子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM204

授業の概要と到達目標	青年期は、「子どもから大人への移行期または過渡期」として位置づけられ、「第２の自己の誕生」とも言われる発達変化の著しい時期である。本講義では、青年期を前期（思春期：小学校高学年～中学生）、中期（高校生～大学生前半）、後期（大学生後半～20歳代半ば）の3つに区分し、①各時期の特徴、②変化のメカニズムと要因、③個人差と共通性について学ぶ。講義では、アイデンティティの獲得やゆらぎといった青年期のあり方に関する基礎的理論を学ぶとともに、人間形成の途上にある受講生自身が自己を見つめ、自分とは異なる他者のあり方を理解することを目指す。受講生の問題・関心に応じて、外部講師を招聘する。人間科学部のディプロマポリシー「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」を達成するための科目である。
授業の方法	教室内でのグループワーク、ディスカッション（アクティヴ・ラーニング）を一部の授業回で実施する。
予習と復習	予習(90分)：授業時に配布する資料および課題プリントによる予習をすること。復習(90分)：毎時間の学びを問う振り返り課題に回答し、提出すること。
テキスト等	授業時に毎回プリントを配布する。参考文献等については適宜紹介する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	平常点（70%）と期末レポート（30%）により、評価します。平常点は、Googleフォームによる振り返り課題の提出とその内容に応じて評価します。振り返り課題の全般的な評価や疑問点に関する解説を授業内で行います。4回以上の欠席は単位を認めません。							

授業計画	①オリエンテーション
	②「青年期」とは何か？
	③青年期前期(1)：思春期の到来と心身の変化
	④青年期前期(2)：自立へと向かう親子関係の変化
	⑤青年期前期(3)：環境移行と心理的危機
	⑥ビデオ視聴&ディスカッション
	⑦青年期中期(1)：自己意識の高まりと青年期心性
	⑧青年期中期(2)：自己評価と心理的適応
	⑨青年期中期(3)：友人関係の発達
	⑩グループディスカッション：自分と友人関係の変化について
	⑪青年期後期(1)：アイデンティティの形成
	⑫青年期後期(2)：時間的展望と自伝的記憶
	⑬青年期後期(3)：青年期の恋愛
	⑭青年期後期(4)：自己実現と生きる意味の探究
	⑮まとめと総復習

科目名	文化交流史 文化交流史A
英文科目名	The History of Cultural Exchange The History of Cultural Exchange A
担当者名	岡田泰介
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM211

授業の概要と到達目標	人間科学部のディプロマポリシーの一つ、「異文化理解の重要性を学び、家族、組織、国家の関係性を理解できる人材」のための授業である。　この授業では、20世紀以降現代にいたる世界の歴史をとりあげる。16世紀に始まった欧州の拡大は、19世紀にいたって欧米を中心とする世界の政治的・経済的支配として完成を見た。しかし、20世紀前半の二度の世界大戦を経て欧州の力が低下する一方、ソ連と米国が台頭し、これら二大国を両極として世界を二分した冷戦期が20世紀末まで続く。20世紀末の冷戦終結後しばらく続いた米国の一極支配は中国やロシアなど非欧米諸国の台頭によって揺らぎ、2022年に勃発したウクライナ紛争を契機として世界の多極化への動きが一気に加速している。このようにダイナミックに展開した近現代の歴史を政治・経済・軍事・文化などの諸側面から学ぶ。
授業の方法	アクティブラーニングの方法として、毎回の授業について小テストを行い、点数を開示する。
予習と復習	〈予習（90分）〉下に挙げた文献を事前に読み、該当する時代について全体像を把握しておくことが望ましい。 〈復習（90分）〉授業ノートを読み直し、以下に挙げたテキストや他の文献を用いながら理解を深める。疑問点は自分で調べるか、担当教員に質問すること。
テキスト等	南塚信吾ほか（2016）『新しく学ぶ西洋の歴史 : アジアから考える』ミネルヴァ書房、木村靖二ほか（2017）『詳説世界史研究』山川書店など。その他の文献は適宜紹介する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
			0%				0%

毎回の授業内での試験として小テストを課す（各10点、合計140点）。60点以上取得した者に単位を認定する。期末テストはおこなわない。出席は成績に影響しないが、出席しなければ小テストは零点となる。

授業計画
①ガイダンス
②帝国主義と列強の世界分割
③帝国主義時代のアジア
④第一次世界大戦とロシア革命
⑤戦間期の欧州
⑥戦間期のアジアとアフリカ
⑦第二次世界大戦
⑧戦後世界秩序の形成
⑨米ソ冷戦の時代（1）
⑩米ソ冷戦の時代（2）
⑪ポスト冷戦の時代（1）
⑫ポスト冷戦の時代（2）
⑬ポスト冷戦の時代（3）
⑭ウクライナ紛争と世界の多極化
⑮まとめと総復習

科目名	文化変容史 文化交流史B
英文科目名	History of Acculturation The History of Cultural Exchange B
担当者名	岡田泰介
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM212

授業の概要と到達目標	人間科学部のディプロマポリシーの一つ、「異文化理解の重要性を学び、家族、組織、国家の関係性を理解できる人材」のための授業である。 この授業では、20世紀半ばから今日にいたるまで、西アジア（中東）やアフリカ、アジアなどの諸地域で起きた紛争の歴史をとりあげる。まず、それぞれ固有の歴史と文化を持つこれらの地域が、16世紀以降に展開していった欧州による世界の政治的・経済的支配にどのように向き合ったのか、そして20世紀にいたって国民国家を形成していく過程でどのような問題に直面したのかを学ぶ。その上で、地域固有の問題と欧米の政治的・経済的な利害の絡み合いのなかで発生した紛争の構造を読み解いていく。
授業の方法	アクティブラーニングの方法として、毎回の授業について小テストを行い、点数を開示する。
予習と復習	〈予習（90分）〉下に挙げた文献を事前に読み、該当する時代について全体像を把握しておくことが望ましい。 〈復習（90分）〉授業ノートを読み直し、以下に挙げたテキストや他の文献を用いながら理解を深める。疑問点は自分で調べるか、担当教員に質問すること。
テキスト等	佐藤次高（2002）『新版世界各国史8 西アジアI』山川出版社、永田雄三編（2002）『新版世界各国史9：西アジア史Ⅱ』山川出版社など。その他の文献は適宜紹介する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	毎回の授業内での試験として小テストを課す（各10点、合計140点）。60点以上取得した者に単位を認定する。期末テストはおこなわない。出席は成績に影響しないが、出席しなければ小テストは零点となる。							

授業計画
①ガイダンス
②戦後史概観
③朝鮮戦争（1950-1953）
④中東戦争（1948-1973）
⑤パレスティナ紛争（1948-2023）
⑥ベトナム戦争（1955-1975）
⑦湾岸戦争（1990-1991）
⑧コソヴォ紛争（1999）
⑨アフガニスタン紛争（1979-2023）
⑩イラク戦争（2003-2011）
⑪リビア紛争（2011）
⑫シリア紛争（2011-2024）
⑬ウクライナ紛争（2014-2022）
⑭ウクライナ紛争（2022-2024）
⑮まとめと総復習

科目名	認知心理学 環境心理学A
英文科目名	Cognitive Psychology Environmental Psychology A
担当者名	時津裕子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM207

授業の概要と到達目標	「〇〇心理学」と名の付く学問は数多いが、認知心理学ほど知名度が低く「中身を想像しがたい」領域はないかもしれない。一言でその研究対象を語るなら、私たち人間が何かを感じ・考えるやり方、つまり心の中で行われる「知的な営み」すべてである。見ること、記憶すること、イメージすることはもちろん、美しい風景や音楽に感動すること、難解なパズルを解いたり、技を磨いて達人になること、不注意から起きる事故、使いやすい道具のデザインに至るまで、すべてが含まれる。これほど日常生活と深く関わり、社会に開かれた学問もないだろう。領域の柱となる重要概念・理論について解説しながら、研究成果の豊富な実用・応用事例についても示していく。関連科目に「心理学A」、「心理学B」、「実験心理学」がある。「心理学A・B」を履修後に受講することが望ましい。人間科学部のディプロマポリシーのうち、主として「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」育成のための科目である。
授業の方法	基礎的事項はスライドを用いて講義形式で解説するが、簡単な実験や心理検査など実習的課題を可能な限り採り入れる。後者については、アクティブラーニングとしてグループワークやディスカッションを行うことがある。
予習と復習	授業内で都度、課題内容と提出方法を指示する。予習課題（90分：資料確認・アンケートへの回等など）を完了させた上で授業に出席すること。それらの一部は提出を求める。復習課題（90分：学習内容のまとめ・実験データ整理など）は、期日までに提出すること。
テキスト等	教科書は指定しない。授業内で資料を配布する。<参考書籍>兵藤宗吉・野内類 2013、『認知心理学の冒険：認知心理学の視点から日常生活を捉える』（ナカニシヤ出版）ほか

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	0%
	課題提出（コメント、小レポート、実験データほか）			30%				0%
	提出された課題へのフィードバックは、授業時間内またはT-Navi等で全体に対して講評を行う形で実施する。一部のレポートについては返却し、個別フィードバックを行う予定である。							

授業計画
①イントロダクション：認知心理学とはどのような心理学か
②注意：基本機能
③注意：時空間特性
④注意：視覚的注意と運転行動
⑤カテゴリー化：基本機能とメカニズム
⑥カテゴリー化：典型的なものの性質
⑦カテゴリー化：熟達化・文化・障害とカテゴリー化
⑧記憶：メカニズム
⑨記憶：加齢，障害の影響
⑩顔・表情と認知心理学
⑪犯罪捜査と認知心理学
⑫熟達者の技と認知心理学（認知技能）
⑬感性と認知心理学（美しさ，気持ち悪さ，違和感）
⑭授業内試験
⑮まとめと総復習

科目名	実験心理学 環境心理学B
英文科目名	Experimental Psychology Environmental Psychology B
担当者名	時津裕子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM208

授業の概要と到達目標	実験は、調査や検査と並んで心理学を代表する研究手法の１つである。心理学の知見として紹介される知識の多くは、実験によってもたらされてきた。この授業では、まず実験の基本的な構成と考え方について解説する。また代表的な実験を取り上げ、実験の計画から遂行、データ解析と結果の解釈を経てレポート作成に至るまでを実習形式で体験してもらう。受講生は個々の実験手法について知識を得るだけでなく、疑問点に対して「実験」という問題解決方法を選択しうる知性とセンスを養うこと、それらの計画を滞りなく遂行する技術を磨くことを目標としてほしい。関連科目に「心理学A」、「心理学B」、「認知心理学」がある。これらから2科目以上を履修した後に受講してほしい。人間科学部のディプロマポリシーのうち、主として「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」育成のための科目である。
授業の方法	解説はスライドを用いて行う。実験の計画・実施・データ解析を体験する実習を含むため、アクティブラーニングとしてグループワークやディスカッションを行う機会が多くなる。これらの実習を原則として欠席せず、主体的に取り組める学生に受講してほしい。
予習と復習	授業内で都度、課題内容と提出方法を指示する。予習課題（90分：資料確認、実験準備など）を完了させた上で授業に出席すること。それらの一部は提出を求める。復習課題（90分：実験データの解析作業・レポート作成など）は、期日までに提出すること。
テキスト等	教科書は指定しない。授業内で資料を配布する。<参考書籍>Robert L。 Solso Homer H。 Johnson 2002、『心理学実験計画入門』（学芸社）三浦麻子 監修 佐藤暢哉・小川洋和 2017、『なるほど！心理学実験法』（北大路書房）ほか

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	10%
	課題提出（小レポート、実験データほか）			70%				0%
	平常点はグループワークやディスカッションへの取り組み・貢献に応じて付与する。提出された課題へのフィードバックは、全体に対して講評を行う形で実施する。一部レポートについては返却し、個別フィードバックを行う予定である。							

授業計画	①イントロダクション：実験とは何か、授業の進め方
	②実験を構成する基本要素：独立変数、従属変数、剰余変数と統制
	③感覚・知覚の大きさを測る(1)実験の体験
	④感覚・知覚の大きさを測る(2)実験結果の整理と分析
	⑤記憶を測る(1) 実験の体験
	⑥記憶を測る(2) 実験結果の整理と分析
	⑦注意力を測る(1) 実験の体験
	⑧注意力を測る(2) 実験結果の整理と分析
	⑨好み・印象を測る(1) 実験の体験
	⑩好み・印象を測る(2) 実験結果の整理と分析
	⑪コミュニケーションを測る(1) 実験の体験
	⑫コミュニケーションを測る(2) 実験結果の整理と分析
	⑬生理指標の測定(1) 様々な生理指標
	⑭生理指標の測定(2) 実験結果の整理と分析
	⑮まとめと総復習

科目名	現代哲学
英文科目名	Modern Philosophy
担当者名	齋藤元紀
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM203

授業の概要と到達目標	この授業のねらいは、（１）主として20世紀以降の現代思想において一大潮流をなす「解釈学」の考え方とそれをめぐる諸問題を学び、（２）みずから哲学的に思考する力を身につけることにあります。授業では、古代・中世・近世における解釈学思想を踏まえたうえで、さまざまな哲学者・思想家の著作をとおして現代の多様な解釈学の考え方を学びます。それによって、文化・社会・政治を含めた現代における思想的問題点を批判的に見出し、哲学的思考を展開しうる力を養います。なお、テーマに応じて映像資料等を視聴し、思考力を深める授業も予定しています。本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につける」ための科目です。
授業の方法	授業は講義形式で行う。教員と学生との対話・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）をすべての授業回で実施する。また、スマートフォンを用いたクリッカー(Google フォーム)による双方向授業を実施する。
予習と復習	授業のプリントを授業時に配布します。プリントを読んで予習・復習を行ってください。予習(90分)プリントを事前に読んで、テーマにかんする自分の考えの要点をまとめておくこと。復習(90分)講義後、その日のうちに講義内容の復習をすること。
テキスト等	テキストはプリントにて配布する。参考文献：H・ダンナー『解釈学入門』（法政大学出版局、2024年）齋藤元紀・増田靖彦編『21世紀の哲学をひらく――現代思想の最前線への招待』（ミネルヴァ書房、2016年）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	30%
	毎回の課題（毎授業回のフォームへの回答）提出	30%						0%
	(1)毎回の課題（毎授業回のフォームへの回答）の提出を出欠（平常点）の代替とする。(2)締切以後の課題提出・課題未提出は欠席とする。(3)2/3以上の出席回数に満たない場合、不可とする。（4）毎回の課題については、返却し全般的な評価と所見を授業内で開示する。							

授業計画
①イントロダクション①授業の狙いと進め方・解釈学とは何か
②イントロダクション②解釈学の根本概念
③古代ギリシアにおける解釈学
④中世神学における解釈学
⑤一般解釈学への胎動
⑥一般解釈学の成立
⑦ロマン主義の解釈学
⑧精神科学としての解釈学
⑨現存在の解釈学
⑩哲学的解釈学
⑪系譜学としての解釈学
⑫脱構築と解釈学
⑬英米哲学における解釈学
⑭現代における解釈学
⑮まとめと総復習

科目名	グローバル・コミュニケーション
英文科目名	Global Communication
担当者名	池内朋子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM202

授業の概要と到達目標	「グローバル・コミュニケーション」は、人間科学部のディプロマ・ポリシーである「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」の育成を達成することを目的とした科目です。個性化・多様化が進む現代社会でのコミュニケーションにおいては、言語能力だけでなく、相手の文化や慣習、価値観への理解が重要になります。例えば、英語という言語をコミュニケーションの「道具」と捉えるならば、その道具を使いこなす力に加え、相手の文化的背景を理解することによって、より深い「コミュニケーション能力」を身につけることが可能となります。　本科目では、言語的要素にとどまらず、非言語的要素も含めた包括的コミュニケーション能力を養うこと目指します。前期開講科目の「外書購読」との連続性を意識したカリキュラム構成により、１年を通して「コミュニケーション」を多角的な視点から学びます。教室外の社会や現場で実際に行われているコミュニケーションの実践例を学ぶため、必要に応じて外部講師を招聘する場合があります。
授業の方法	授業は講義を中心に進めますが、毎回ディスカッションを取り入れたアクティブ・ラーニングを行います。また、グループワークやプレゼンテーション課題も実施します。履修者には、ディスカッション等を通して、主体的に授業へ参加する姿勢を求めます。
予習と復習	予習（90分）：配布されたプリントの次回講義に該当する箇所を精読し、気づいたことや疑問点をまとめておくこと。復習（90分）：当日講義の内容を再度、プリントを用いて復習し、重要と思う点などを追記し、まとめておくこと。
テキスト等	授業ごとに、教員が準備したプリントを配布します。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	50%
			0%				0%

レポート（プレゼンテーション課題、グループ課題）、平常点（2/3以上出席、授業への積極的参加）を総合的に評価します。提出された課題については返却のうえ、全体的な評価および所見を示します。

授業計画
①Introduction to Global Communication
②Communication and Culture
③Japanese Communication Styles
④Politeness and Social Roles
⑤Nonverbal Communication: Gestures, Space, and Silence Across Cultures
⑥Communication in Sign Language
⑦Communication and Gender
⑧Kawaii Culture as Communication Strategy
⑨Communication in Speech and Public Talk
⑩Humor Across Cultures
⑪Visual Storytelling: Manga
⑫Visual Storytelling: Anime
⑬Social Media and Digital Communication
⑭AI, Chatbots, and Human Communication
⑮Presentations & Discussion

科目名	文化人類学 文化人類学A
英文科目名	Cultural Anthropology Cultural Anthropology A
担当者名	吉村竜
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM301

授業の概要と到達目標

＜概要＞本講義では、文化人類学の基礎を学ぶ。文化人類学とは、人間がはぐくんできた文化の多様性と、その中にある文化の普遍性の両方の目線から、人間とはなにかを探究する学問である。文化によって異なる価値観や世界観、家族や信仰、社会関係のあり方に触れることで、私たちが生きている世界とのちがい（多様性）と同時に、人間であるからこその共通点（普遍性）を導きだすという文化人類学の視点・思考法を理解し、身につけることを目指す。人間科学部のディプロマ・ポリシー「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」を達成するための科目である。＜到達目標＞①文化人類学の基本的な概念や専門用語を理解する。②人類学的思考にもとづき、自分の経験や意見を見直すことができる。

授業の方法

講義と課題の提出を中心に行う。授業時に毎回「授業プリント」（穴埋め問題・筆記問題）を配布するので、受講生は答えと自身の考え・経験を書き授業終了時に提出する（アクティブ・ラーニング）。

予習と復習

予習（90分）　事前に指定された課題について自ら調べ、要点をまとめておくこと。復習（90分）　レジュメの空欄がすべて埋まっていることを確認し、不明な部分は参考文献等から調べる。

テキスト等

授業時にレジュメを配布する。参考文献：綾部恒雄ほか（2019）『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房／浜本満ほか（2018）『人類学のコモンセンス』学術図書出版社／松村圭一郎（2023）『旋回する人類学』講談社。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
			0%				0%

「平常点」は各回の穴埋め問題の点数を、「レポート」は各回の筆記問題の点数の合計を意味する。これらと授業内試験を合わせて評価対象とする。本講義は提出された課題にもとづき評価点数を重ねる加点主義をとる。提出された課題のうち優れた内容は授業内で開示する。

授業計画

①オリエンテーション
②人間も文化も進化するの？：ヨーロッパの文化人類学
③文化に優劣はあるの？：アメリカと日本の文化人類学
④血のつながった人だけが家族なの？：出自と親族の構造
⑤だれとでも結婚できるの？：婚姻とタブー
⑥母系社会からみる家族と結婚（映像の視聴）
⑦子どもと大人はどうちがうの？：儀礼の過程
⑧赤ちゃんはどこからやってくるの？：性と文化①
⑨「男らしい」「女らしい」ってなんだろう？：性と文化②
⑩贈り物をもらったらお返しをするのはなぜだろう？：贈与と経済
⑪おカネにはどんな意味があるの？：貨幣と経済
⑫生業（ナリワイ）ってなんだろう？：狩猟採集・牧畜・農耕
⑬どうやって文化を調べるの？：フィールドワークと民族誌
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	比較文化論 文化人類学B
英文科目名	Comparative Study of Cultures Cultural Anthropology B
担当者名	吉村竜
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PCOM302

授業の概要と到達目標	＜概要＞本講義では、現代社会におけるさまざまなフィールドでいまなにが起こっているのか、それをどのように捉えることができるのかを、文化人類学の視点から考える。自文化と異文化の比較は、相手の立場から出来事を捉える文化人類学の基本姿勢である。本講義では、そのような立場から世界で生じている出来事（紛争、差別、格差など）を自分事として捉えなおすことができる力を身につける。人間科学部のディプロマ・ポリシー「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」を達成するための科目である。＜到達目標＞①現代社会の問題群を文化人類学の観点から理解する。②事例や自身の経験などにもとづいて自文化と異文化を比較し、考察することができる。
授業の方法	講義と課題の提出を中心に行う。授業時に毎回「授業プリント」（穴埋め問題・筆記問題）を配布するので、受講生は答えと自身の考え・経験を書き授業終了時に提出する（アクティブ・ラーニング）。
予習と復習	予習（90分）　事前に配布する資料について自ら調べ、要点をまとめておくこと。復習（90分）　配布資料を踏まえて授業内容を振り返り、不明な部分は参考文献等から調べること。
テキスト等	授業前に資料を配布する。参考文献：綾部恒雄・桑山敬己編（2025）『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房／箕曲在弘（2024）『自分のあたりまえを切り崩す文化人類学入門』

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%

「平常点」は各回の穴埋め問題の点数を、「レポート」は各回の筆記問題の点数の合計を意味する。これらと授業内試験を合わせて評価対象とする。本講義は提出された課題にもとづき評価点数を重ねる加点主義をとる。提出された課題のうち優れた内容は授業内で開示する。

授業計画	①オリエンテーション
	②「名前がない」「年齢がない」文化は遅れた文化なの？
	③日本国籍を持つ人だけが日本人なの？：国家と民族
	④「人種」ってなんだろう？：人種・人種主義と文化
	⑤ケンカしたらどうやって仲直りするんだろう？：法と文化
	⑥きたないものに触れたくないのはなぜ？：汚穢（ケガレ）と禁忌
	⑦「ツイてない」ってどういうことだろう？：呪術と妖術
	⑧病院に行けば病いはなおるの？：医療と文化
	⑨目に見えないものから文化の差異を考えてみよう（小まとめ）
	⑩困っている人を「助ける」ってどういうことだろう？：開発人類学
	⑪観光地の文化はホンモノ？ニセモノ？：観光人類学
	⑫文化は売り物にしていいの？：観光開発と文化
	⑬サブカルチャーと文化人類学
	⑭授業内試験と解説
	⑮まとめと総復習

科目名	児童学概論A
英文科目名	Introduction to Child Studies A
担当者名	徳田治子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED101

授業の概要と到達目標	社会や家族のあり方が大きく変化する現代社会においては、子どもの教育に関わる一人ひとりが複雑化する社会との関連で多様な子どものあり方やその問題性について理解を深め、自分なりの児童観や人間観を養っていくことが重要となる。講義では、まず、「子ども」や「児童」という用語の定義や子どもの社会全体での位置づけ等、“社会・文化・歴史的存在”としての「子ども」について学ぶ。続いて、人間発達のメカニズムに関する基本的知見について学び、“育ちゆく存在”としての子どもへの理解を深める。最後に、子どもを養育する親の問題に焦点をあて、“育てられる子ども”と“親の成長”について学ぶ。講義においては、ディスカッションや協同学習の形式を積極的に取り入れ、様々な事例を通して学生自身が自分なりの子ども観や人間観を形成していくことをめざす。受講生の問題関心に応じて外部講師を招聘する。人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」を達成するための科目である。
授業の方法	教室内でのグループ・ディスカッションおよびグループワーク（アクティヴ・ラーニング）を一部の授業回で実施する。
予習と復習	予習(90分)：事前に配布される資料および課題による予習を行うこと。復習(90分)：毎回の授業の学びを問う課題に回答し、期日までに提出すること。
テキスト等	毎回、授業時にプリントを配布する。参考文献：堀尾 輝久(2007)『子育て・教育の基本を考える―子どもの最善の利益を軸に』（童心社）その他の参考文献については授業時に適宜紹介する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	10%	平常点	90%
				0%				0%
	平常点には、受講態度のほか、毎回出題する振り返り課題や授業時に指示した課題等から評価する。尚、全体の３分の１以上の回数を欠席した者については単位を認めない。提出された振り返り課題については、全般的な評価ならびに疑問点に対する解説を授業内に行う。							

授業計画
①オリエンテーション
②“社会・文化・歴史的存在”としての「子ども」(1)：「子ども」とは？
③“社会・文化・歴史的存在”としての「子ども」(2)：「子ども」観の歴史的変遷
④“社会・文化・歴史的存在”としての「子ども」(3)： 子どもの権利条約と日本の子ども
⑤“社会・文化・歴史的存在”としての「子ども」(4)： 日本の子どもは幸せか？
⑥“社会・文化・歴史的存在”としての「子ども」(5)： 子どもが幸福な国からの示唆
⑦ 小まとめ：子どもの権利と「最善の利益（幸福）」について
⑧“育ちゆく存在”としての子ども(1)：人間発達のメカニズムをめぐる論争の歴史
⑨“育ちゆく存在”としての子ども(2)：レディネスと相互作用説
⑩ “育ちゆく存在”としての子ども(3)：行動遺伝学からのアプローチ
⑪小まとめ：子どもの「育ち」における「最善の利益（幸福）」と大人の役割
⑫“育てられる子ども”と“親の成長”(1)：現代社会における子育ての難しさ
⑬“育てられる子ども”と“親の成長”(2)：養育者の傷つきやすさと成長
⑭“育てられる子ども”と“親の成長”(3)：子どもへの虐待と親支援
⑮まとめと総復習

科目名	児童学概論B
英文科目名	Introduction to Child Studies B
担当者名	徳田治子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED102

授業の概要と到達目標

現代の子どもを取り巻く問題状況と解決に向けた取り組みについて学ぶ。「いじめ」「学級経営と教師の役割」「対話的教育の実践」を主たるテーマとし、現代社会における教育の問題とそれに対する国内外の取り組みについて学ぶ。受講生が、自らが主体的な学習者として各テーマについて幅広い知識と深い洞察力を身につけることを目標に、各テーマについて互いに意見を交換する場を積極的に設ける。グループでの話し合いや発表、授業に関連し、課題を多く出すので、その点を十分理解して受講すること。受講生の問題関心に応じて外部講師を招聘する。人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」を達成するための科目である。

授業の方法

教室内でのグループ・ディスカッションならびにグループ・ワーク（アクティヴ・ラーニング）を一部の授業回で実施する。

予習と復習

予習(90分)：授業時に配布する資料と予習課題による予習を行うこと。復習(90分)：毎回の授業の学びを問う課題に回答し、期日までに提出すること。

テキスト等

授業時にプリントを配布する。参考文献：森田洋司（2010）『いじめとは何か―教室の問題、社会の問題（中公新書)』、森田ゆり（2013)『しつけと体罰―子どもの内なる力を育てる道すじ』（童話館出版）。その他の参考文献等については授業内で適宜紹介する。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	10%	平常点	90%
			0%				0%

特別な理由を除いて欠席は認めない。４回以上の欠席者は単位を認めない。平常点（90%）は、受講態度ならびに毎回出題する振り返り課題の提出と記述内容によって評価する。提出された課題や毎回の振り返り課題に関する全般的な所見と評価について、授業内で解説する。

授業計画

①オリエンテーション
②いじめ（１）：「いじめ」について10の考えを検証する
③いじめ（２）：ビデオ視聴「海外での取り組み」
④いじめ（３）： いじめの定義と日本の取り組み
⑤いじめ（４）：いじめが起きたときの対処と予防教育
⑥いじめ（5）：加害者と被害者の心理
⑦学級経営と教師の役割（１）：学級経営と学級崩壊
⑧学級経営と教師の役割（２）：優れた教師の実践の秘密を探る(1)
⑨学級経営と教師の役割（３）：優れた教師の実践の秘密を探る(2)
⑩学級経営と教師の役割（４）：優れた教師の実践の秘密を探る(3)
⑪学級経営と教師の役割（５）： 学びのコミュニティに貢献する教師の特徴
⑫対話的教育の実践（１）：対話的教育とポジティヴ行動支援
⑬対話的教育の実践（２）：サークル対話とこども会議
⑭対話的教育の実践（3）：修復的対話とピア・メディエーション
⑮まとめと総復習

科目名	児童心理学
英文科目名	Child Psychology
担当者名	徳田治子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED103

授業の概要と到達目標	乳児期、幼児期、児童期の心身の発達ならびに各発達段階において必要とされる関わりについて学ぶ。講義においては、児童期の子どもを理解するためには、それに先立つ乳幼児期とその後に続く思春期、青年期の発達の見取り図をもっておくことが有益であるとの考えから、生涯発達の観点を組み込んだ授業内容とする。具体的には，乳幼児期から児童期を中心とした基礎的な発達のメカニズムについて学ぶとともに、認知や言語の発達、親子の関係性や仲間関係等といった対人関係を通して形成される社会情緒的な発達、学習に対する動機づけなどについてとりあげる。受講生の問題関心に応じて外部講師を招聘する。人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を達成するための科目である。
授業の方法	教室内でのグループ・ディスカッション、グループ・ワーク（アクティヴ・ラーニング）を一部の授業回で実施する。
予習と復習	予習(90分)：授業時に配布する資料と予習課題による予習をすること。復習(90分)：毎回の授業の学びを問う課題に回答し、期日までに提出すること。
テキスト等	授業時に資料を配布する。参考文献等については授業時に適宜紹介する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	80%
				0%				0%
	平常点には、受講態度、Googleフォームによる毎回の振り返り課題の提出状況、内容によって評価する。4回以上の欠席者は単位を認めない。提出された課題については、授業内において全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画	①オリエンテーション：授業の概要と目標
	②発達とは何か（１）発達の定義と５つの原理
	③発達とは何か（２）発達と個人差
	④発達とは何か（３）発達団会と発達課題
	⑤乳児期の発達：赤ちゃんは未熟か有能か？
	⑥世界への信頼はどのように獲得されるか
	⑦親子の情緒的絆（１）：アタッチメント理論と展開
	⑧親子の情緒的絆（２）：アタッチメントの発達と個人差
	⑨幼児期の人間関係：仲間関係の重要性
	⑩世界の認識の獲得：ピアジェの認知発達理論
	⑪知能とは何か：知能の多様性と個性
	⑫IQ神話と多様な知のあり方：EQと非認知的能力
	⑬学ぶ意欲と成長する力：動機づけの心理学
	⑭学ぶ意欲と大人の関わり：帰属理論とマインドセット
	⑮まとめと総復習

科目名	ボランティア論A
英文科目名	The Volunteer Activity A
担当者名	鈴木良東
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED104

授業の概要と到達目標	〈授業目標〉子どもに関するボランティア活動の理念・内容・方法について学び、ボランティアの課題を理解する。〈授業の概要〉授業時に実際のボランティア活動を体験する。体験の準備・実施・振り返りを繰り返しながら、よりよいボランテァ活動を創りあげていく。また、外部講師として、児童青少年センターや放課後児童クラブの職員を招き、子どもの年齢や発達に応じたボランティア活動についての理解も深めていく。人間科学部のディプロマシー「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」を目指す科目である。※外部講師を招いた授業を１コマ実施予定。
授業の方法	アクティブラーニングによる①実習や演習による体験学習②ディスカッション・ロールプレイ・ワールドカフェなどのグループ活動、KJ法などを用いてのプレゼンテーション
予習と復習	予習（90分）テーマに基づく調べ学習、グループごとの事前準備、復習（90分）
テキスト等	教科書：『学生のためのボランティア論』岡本 栄一(大阪ボランティア協会出版部)

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	30%
				0%				0%
	①全授業の3分の2の出席を求める。②遅刻・早退・欠席は平常点から減点する。③定期的に実施する振り返りレポートを提出する。							

授業計画	
	①ボランティアとは何か
	②ボランティア活動のオリエンテーション
	③ボランティア活動の種類
	④私の生き方とボランティア
	⑤向社会的活動とボランティア
	⑥ボランティア活動の企画書の作成
	⑦ボランティア活動を評価する
	⑧幼児を対象としたボランティア活動
	⑨小学生を対象としたボランティア活動
	⑩中・高校生を対象としたボランティア活動
	⑪地域におけるボランティアネットワークⅠ(地域住民のネットワーク)
	⑫地域におけるボランティアネットワークⅡ（行政機関のネットワーク）
	⑬SDGsとボランティア
	⑭ボランティア活動とリスクマネジメント
	⑮まとめと総復習

科目名	ボランティア論B
英文科目名	The Volunteer Activity B
担当者名	鈴木良東
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED105
授業の概要と到達目標	〈授業目標〉障がい者支援ボランティア・災害ボランティア・国際ボランティアの理念・内容・方法について学び、ボランティアの課題を理解する。〈授業の概要〉授業時に実際のボランティア活動を体験する。体験の準備・実施・振り返りを繰り返しながら、よりよいボランテァ活動を創りあげていく。複数回にわたりバングラデシュのストリートチルドレン施設への支援品を作成するボランテァ活動を予定している。また、外部講師として、公的支援サービスやボランティア団体関係者等の外部講師を招く予定がある。人間科学部のディプロマシー「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」を目指す科目である。※外部講師を招いた授業を１コマ実施予定。
授業の方法	全授業回数の3分の2以上の出席を求める。アクティブラーニングによる。①実習や演習による体験学習②ディスカッション・ロールプレイ・ワールドカフェなどのグループ活動、KJ法などを用いてのプレゼンテーション
予習と復習	予習（90分）テーマに基づく調べ学習。グループごとの事前準備、復習（90分）
テキスト等	教科書：『新学生のためのボランティア論』　（社会福祉法人大阪ボランティア協会）

評価方法							
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	30%
			0%				0%

①全授業の3分の2の出席を求める。②遅刻・早退・欠席は平常点から減点する。③定期的に実施する振り返りレポートを提出する。

授業計画
①障がい者支援ボランティア活動とは
②障がい者支援ボランティア活動Ⅰ（視覚障がい者への支援）
③障がい者支援ボランティア活動Ⅱ（聴覚覚障がい者への支援）
④障がい者支援ボランティア活動Ⅲ（身体障がい者への支援）
⑤パラスポーツへの理解
⑥パラスポーツのボランティア活動
⑦国際ボランティアとは何か
⑧国際ボランティア活動の種類
⑨国際ボランティア活動の実践　Ⅰ（実施計画書の作成）
⑩国際ボランティア活動の実践　Ⅱ（玩具や教材の作成）
⑪国際ボランティア活動の実践　Ⅲ（玩具や教材の発表）
⑫災害ボランティア活動とは
⑬被災地支援の内容と方法
⑭災害ボランティアセンターのしくみ
⑮まとめと総復習

科目名	臨床心理学 カウンセリング論A ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ論A
英文科目名	Clinical Psychology Theory of Counseling A
担当者名	田原直久
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED201

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞臨床心理学は人々の心の健康や心理的な苦悩・困難のなりたちを研究し、その知見をもとに人々を支援する学問である。本講義の前半では精神疾患やストレスとの付き合い方などメンタルヘルスに関する知識の習得や自己理解を深めるための内容を取り上げる。後半では心理専門職の専門活動に焦点を当て、主要な心理アセスメント、心理支援のアプローチを紹介する。講師の心理専門職としての臨床経験を踏まえて講義を行う。＜到達目標＞メンタルヘルスに関連する諸問題と対処法について説明できること、代表的な心理アセスメント・心理支援の方法について説明できることを目標とする。さらに、日常においても自分自身や身近な人々の心の健康に関心を寄せて生活できるようになることもねらいとする。本講義は人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を達成するための科目である。＜関連科目＞カウンセリング論（より実践的なカウンセリング技法について扱う）
授業の方法	講義形式を中心とするが、多くの回でグループワーク、ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を実施する。また、スマートフォンやタブレットを使用する課題を課すことがある。
予習と復習	予習(90分)：授業時に配布する資料および参考書の該当箇所に目を通し、疑問や考えを整理しておくこと。事前課題が指示された場合はそれに取り組むこと。復習(90分)：授業時に配布された資料や参考書を読み返しながら、自分自身の考えや経験を振り返ること。
テキスト等	【教科書】講義時に資料を配布する【参考図書】下山晴彦編(2009)『よくわかる臨床心理学(改訂新版)』(ミネルヴァ書房),岩壁茂監修(2020)『完全カラー図解 よくわかる臨床心理学』(ナツメ社)

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	50%
			0%				0%

平常点（出席状況、リアクションペーパー、ワークへの取り組み）50%、学期末レポート50%から成績を評価する。なお､遅刻2回で欠席1回とみなし､5回以上欠席した場合は単位を認めない｡課題へのフィードバックとして、授業内で全般的な評価と所見を提示する。

授業計画
①オリエンテーション：臨床心理学とは
②メンタルヘルス：心の健康とは
③メンタルヘルス：疾病とその支援
④メンタルヘルス：さまざまな精神疾患
⑤メンタルヘルス：ストレス・コーピング
⑥メンタルヘルス：レジリエンス（自分のもつ力を「知る」）
⑦ メンタルヘルス：レジリエンス（自分のもつ力を「発揮する」）
⑧心理アセスメント：心理検査
⑨心理アセスメント：面接・観察
⑩心理支援：心理療法（代表的な理論の紹介）
⑪心理支援：心理療法（家族療法／ブリーフセラピー）
⑫心理支援：心理療法（理論に基づく事例検討）
⑬心理支援：対人心理
⑭心理支援：キャリア心理学
⑮まとめと総復習

科目名	カウンセリング論 カウンセリング論B ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ論B
英文科目名	Theory of Counseling Theory of Counseling B
担当者名	田原直久
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED202

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞カウンセリングは対話を通して、心理的な問題の解決、予防、人間的な成長をはかり、人々がより良く生きることを支援する手法である。本講義ではカウンセリングの基礎となる姿勢や技法を学ぶ。講義前半はカウンセリングを行ううえでの基本的な姿勢や、傾聴技法、質問技法について扱う。後半は複数の理論に基づいて具体的な問題にアプローチしていく手法を紹介する。講師の心理専門職としての経験を踏まえた内容を取り入れる。 ＜到達目標＞カウンセリングを行ううえで必要な姿勢、技法について説明できること、また、学んだ姿勢や技法を実際に日常でのセルフケアやコミュニケーションにおいて活用することができることを目標とする。本講義は人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を達成するための科目である。＜関連科目＞臨床心理学（心の健康に関する基礎的な知識を学ぶ）
授業の方法	講義形式を中心とするが、ほとんどの回でロールプレイやワークなどを通じた実践・体験を取り入れる（アクティブラーニング）。質疑応答は適宜行う。
予習と復習	予習(90分)：配布資料および参考書の該当箇所に目を通し、疑問や考えを整理すること。指示された事前課題に取り組むこと。復習(90分)：配布資料や参考書を読み返しながら、自分自身の考えや経験を振り返ること。授業で学んだ技法を日常生活で取り入れてみること。
テキスト等	【教科書】講義時に資料を配布する【参考図書】岩壁茂 編著(2018)『カウンセリングテクニック入門』（金剛出版）　若島孔文、野口修司（2021）『テキスト家族心理学』（金剛出版）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	50%
			0%				0%

平常点（出席状況、リアクションペーパー、ワークへの取り組み）50%、学期末レポート50%から成績を評価する。なお､遅刻2回で欠席1回とみなし､5回以上欠席した場合は単位を認めない｡課題へのフィードバックとして、授業内で全般的な評価と所見を提示する。

授業計画
①オリエンテーション：カウンセリングとは
②カウンセリングの実際：デモンストレーション
③カウンセリングの基本：カウンセラーに求められる姿勢
④カウンセリングの基本：カウンセリングにおける「傾聴」
⑤カウンセリングの基本：カウンセリングにおける「質問」
⑥カウンセリングの基本：モチベーションとゴールの設定
⑦カウンセリングの展開：「感情」に焦点を当てたアプローチ
⑧カウンセリングの展開：「思考」に焦点を当てたアプローチ
⑨カウンセリングの展開：「行動」に焦点を当てたアプローチ
⑩カウンセリングの展開：「からだ」に焦点を当てたアプローチ
⑪カウンセリングの展開：「スキル」を育むアプローチ
⑫カウンセリングの展開：「関係性」に焦点を当てたアプローチ
⑬カウンセリングの展開：「解決」に焦点を当てたアプローチ
⑭カウンセリングの展開：デモンストレーション
⑮まとめと総復習

科目名	児童教育論A
英文科目名	Childhood Education A
担当者名	高橋丈夫
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED203

授業の概要と到達目標	教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる力を身につける科目である。児童の権利や学習指導要領への理解を深め、児童期における教育の重要性を学び、教職をはじめ児童等の対人援助職に携わる者としての基礎を培うことを目標とする。小学校教育を中心に、現行学習指導要領の概要や児童に対して育むべき内容、今求められている学校教育のあり方、望ましい教師のあり方など学校現場における実践的内容を通して、望ましい児童期の教育のあり方を体験的に考察し深める。本授業を踏まえた各論的な内容として児童教育論Bが設けられているので、児童教育論A・Bを通して受講することが望ましい。
授業の方法	対面で授業を行い、受講生相互のコミュニケーションを図る。毎回の授業で、グループワークとディスカッション（トーキングサークル）を実施する。毎授業終了時にリアクションペーパー記述の時間を設け、授業の振り返りを図ると共に、次の講義へ学びをつなぐ
予習と復習	(予習90分)予習範囲を指定するので、事前に資料等で予習をしておくこと。(復習90分)授業終了後、その日のうちに課題に取り組み、講義内容を再確認すること。
テキスト等	教科書：文部科学省(H29年3月)：「小学校学習指導要領解説（総則編）」(東洋館出版社)、参考図書：高橋丈夫他(2021)「算数×学級経営　魔法の言葉でもう一歩」(光文書院)

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%

・平常点は、毎回の参加態度の他、授業終了時に記入する振り返りシートで学んだことを理解できているかを評価する。・レポートは出題課題に正対しているか、レポートの内容の構成が適切か等も含めて総合的に判断する。・提出物はコメントつけて返却する。

授業計画
①ガイダンス　受講生相互のコミュニケーションづくり、本授業のねらいなど
②子どもの権利①　子どもの権利に関する条約とは
③子どもの権利②　子どもの権利を守るとは
④子どもの権利③　子どもの権利意識を育てるとは
⑤学習指導要領の枠割と変遷①
⑥学習指導要領の役割と変遷・教育の成立と公教育
⑦現行学習指導要領の特色
⑧これからの教育とICTの活用
⑨主体的・対話的で深い学びとは①
⑩主体的・対話的で深い学びとは②
⑪主体的・対話的で深い学びとは③
⑫主体的・対話的で深い学びとは④
⑬学校教育の新たな視点（マルトリートメント）
⑭これからの学校教育の方向性を考える　　（７つの習慣　から）
⑮まとめと総復習　ファシリテーション演習

科目名	児童教育論B
英文科目名	Childhood Education B
担当者名	高橋丈夫
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED204

授業の概要と到達目標	個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身に付けるための科目である。　学校現場で生じている今日的課題について知り、その解決にアプローチしていくことを通して、児童期の教育現場についての理解を深め、教職はじめ児童等の対人援助職に携わる者としての基礎を培うことを目標とする。　学校教育現場の多岐にわたる教育課題を取り上げたり、子どもの気持ちになって授業をつくったりすることを通して、多岐にわたる教育課題へのアプローチについて、ファシリテーション技法などを通して体験的に考察する。本授業の総論的な内容として児童教育論Aが設けられているので、児童教育論A・Bを通して受講することが望ましい。
授業の方法	・対面で授業を行い、受講生相互のコミュニケーションを図る。　・毎回の授業で、グループワークとディスカッション（トーキングサークル）を実施する。毎授業終了時にリアクションペーパー記述の時間を設け、授業の振り返りを図ると共に、次の講義へ学びをつなげる。
予習と復習	(予習90分)予習範囲を指定するので、事前に資料等で予習をしておくこと。(復習90分)授業終了後、その日のうちに課題に取り組み、講義内容を再確認すること。
テキスト等	教科書：文部科学省(H29年3月)小学校学習指導要領解説（総則編）、テキスト：高橋丈夫他(2021)算数×学級経営魔法の言葉でもう一歩先の授業・クラスを！（光文書院）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	・平常点は、毎回の参加態度の他、授業終了時に記入する振返りシートで学んだことを理解できているかを評価する。・レポートは、出題課題に正対しているか、レポート内容の構成が適切か等も含めて総合的に判断する。・提出物はコメントをつけて返却する。							

授業計画	
	①ガイダンス　受講生相互のコミュニケーションづくり、本授業のねらいなど
	②現代教育課題①　回復共同体・修復的対話①
	③現代教育課題②　回復共同体・修復的対話②
	④現代教育課題③　回復共同体・修復的対話③
	⑤現代教育課題④　哲学対話と修復的対話 座右の銘
	⑥現代教育課題⑤　いじめと、その対応
	⑦現代教育課題⑥　学級経営の実際　学級経営で大切なことは何だろう？　⇔　学級崩壊
	⑧現代教育課題⑦　学級崩壊のイメージ・理由から考える対策①
	⑨現代教育課題⑧　学級崩壊のイメージ・理由から考える対策②
	⑩現代教育課題⑨　学級経営＜学級崩壊への備えと対処①
	⑪現代教育課題⑩　学級経営＜学級崩壊への備えと対処②
	⑫現代教育課題⑪　学級経営と授業①　NGワードとレジリエンス①
	⑬現代教育課題⑫　学級経営と授業②　NGワードとレジリエンス②
	⑭現代教育課題⑬　個別最適な学びと協働的な学び
	⑮まとめと総復習・ファシリテーション演習

科目名	社会福祉論A
英文科目名	Social Welfare A
担当者名	柳在貞
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED205

授業の概要と到達目標

＜授業の目標＞社会福祉全般にわたり、関連する制度・法・組織・専門職・キーワードについて学ぶ。日々のニュースから、講義で取り上げた話題や関連性がある問題に目を向け、社会福祉の視点から物事を考える習慣を身につけることが目標である。＜授業の概要＞現在展開されている各種社会福祉サービスについて具体例に触れながら、その問題点と今後の動向を探る視座を培う。授業では視聴覚教材を利用し具体的事例を考察し、簡単なレポートを作成する。障がい者や社会福祉関係の外部講師を招いて、実際の社会福祉の現場について理解するための講義も予定している。時事、外部講師の状況により、講義内容が前後する場合がある。人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を目指す科目である。

授業の方法

アクティブ・ラーニングを重視するため、全授業回数の3分の2以上の出席を求める。アクティブ・ラーニングを実施する。①グループワークとディスカッション、②ワークシートによる能動的学習、③履修者全員によるワークシート記入情報の意見交換・プレゼンテーション

予習と復習

予習（９０分）授業テーマに関する調べ学習(キーワード等)。復習（９０分）各授業回の課題に取り組む。

テキスト等

教科書：『社会福祉とわたしたち』一瀬小百合(萌文書林)参考書：『国民の福祉と介護の動向2025/2026年』(厚生労働統計協会)

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	75%	平常点	25%
			0%				0%

①全授業回の3分の2以上の出席を求める。②遅刻・早退、欠席は、平常点から減点する。③居眠り、授業以外のスマホ操作、その他の授業以外の行動は、平常点から減点する。④毎回、授業の理解確認・振り返りのレポートを提出する。

授業計画

①社会福祉論Aでの学習目標と課題
②社会福祉とわたしたち
③社会福祉の理念と歴史的変遷
④現代社会の生活問題と社会福祉
⑤社会福祉行政と実施体系
⑥社会福祉と社会保障の制度①
⑦社会福祉と社会保障の制度②
⑧社会福祉の専門職
⑨共生社会の実現と障がい者施策
⑩子ども家庭福祉と社会福祉
⑪少子高齢社会と子育て支援
⑫社会福祉における相談援助
⑬社会福祉における利用者保護にかかわるしくみ
⑭社会福祉の動向と課題
⑮まとめと総復習

科目名	社会福祉論B
英文科目名	Social Welfare B
担当者名	柳在貞
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED206

授業の概要と到達目標	＜授業の目標＞特に高齢者福祉に焦点を当て、関連する制度・法・組織・専門職・キーワードについて学ぶ。日々のニュースから、講義で取り上げた話題や関連性がある問題に目を向け、社会福祉の視点から物事を考える習慣を身につけることが目標である。＜授業の概要＞現在展開されている各種社会福祉サービスについて具体例に触れながら、その問題点と今後の動向を探る視座を培う。障がい者や社会福祉関係の外部講師を招いて、実際の社会福祉の現場について理解するための講義も予定している。時事、外部講師の状況により、講義内容が前後する場合がある。人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を目指す科目である。
授業の方法	アクティブ・ラーニングを重視するため、全授業回数の3分の2以上の出席を求める。アクティブ・ラーニングを実施する。①グループワークとディスカッション、②ワークシートによる能動的学習、③履修者全員によるワークシート記入情報の意見交換・プレゼンテーション
予習と復習	予習（９０分）授業テーマに関する調べ学習。復習（９０分）各授業回の課題に取り組む。
テキスト等	教科書：『高齢者福祉の世界(補訂版)』直井道子、他編，有斐閣　参考書：『国民の福祉と介護の動向2025/2026年』厚生労働統計協会

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	75%	平常点	25%
				0%				0%
	①全授業回の3分の2以上の出席を求める。②遅刻・早退、欠席は、平常点から減点する。③居眠り、授業以外のスマホ操作、その他の授業以外の行動は、平常点から減点する。④毎回、授業の理解確認・振り返りのレポートを提出する。							

授業計画	
	①今、高齢者福祉を学ぶ
	②老化と高齢者
	③高齢者と家族
	④少子高齢社会
	⑤所得保障
	⑥社会参加と生きがい
	⑦福祉コミュニティの形成
	⑧ソーシャルサービス・ニードと現行サービス
	⑨ソーシャルサービス・ニードのとらえ方
	⑩ケアサービス保障の仕組み
	⑪相談援助
	⑫高齢者のケア
	⑬新しい高齢者像
	⑭介護ガバナンスと福祉レジーム
	⑮まとめと総復習

科目名	人間形成論 人間形成論A
英文科目名	The Theory of Human Becoming The Theory of Human Becoming A
担当者名	小平健太
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED207

授業の概要と到達目標	【目的】なぜ、私たちは「美しさ」や「芸術」に心を惹かれるのでしょう。ときに自然の美しさに心奪われ、また人が制作した「作品」に触れ、感動し、それを誰かに伝えたくなるのでしょう。本科目では、これまでの様々な学説や、標準理論に触れながらも、「美しさ」について〝自ら考える〟思索力と、それを人に適切に伝えるための言語化能力を養います。【概要】本科目は自ら自由に考え、自らの考えを表現するための練習として、津上英輔『美学の練習』を読みます。現代社会において、私たちは様々な文化（映画、音楽、文学、絵画、演劇、マンガ、アニメーション、サブカルチャー等も含む）に囲まれて生きています。その中でも、芸術は私たちの人生を豊かにし、私たちの心を育ててくれる大切なものです。本科目では、一人ひとりが心の中に抱く「好き」や「美しさ」についてじっくり粘り強く考え、それを言葉にするべく、『美学の練習』を丁寧に読み進めながら授業を行います。本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材の育成」に資する科目です。
授業の方法	授業に向けた予習・復習が必須となります。毎回、指定テキスト（『美学の練習』）の決められた範囲の予習を行い、それについて用意されたワークシートを作成する。そのうえで、教室では講義とディスカッション（アクティブラーニング）を行います。
予習と復習	予習（90分）テキストの指定箇所を読み、事前に配布されたワークシートを行う。復習（90分）テキストの指定箇所を読み返し、ワークシートに即した小レポートを作成する（２回の小レポート執筆）。
テキスト等	津上英輔『美学の練習』春秋社、2023年参考図書：津上英輔『あじわいの構造』春秋社、2012年、『危険な「美学」』集英社インターナショナル、2019年

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	60%
				0%				0%
	平常点は、議論への参加度（30%）とワークシートの作成（30%）に加え、小レポート（2回×20%）にて評価します。							

授業計画
①オリエンテーション：美学とは、なにか？「美しい」とはどういうことか。
②第一講「快の一種としての美」：「第１節」および「第２節」
③第一講「快の一種としての美」：「第３節」および「補講１」
④第二講「三大価値の中の美」：「第１節」および「第２節」
⑤第二講「三大価値の中の美」：「第３節」および「補講２」
⑥第三講「美と美的」：「第１節」および「第２節」
⑦第三講「美と美的」：「第３節」および「コラム」
⑧第四講「感性」：「第１節」および「第２節」
⑨第四講「感性」：「コラム　感性のくらい働きと我々の美論の限界」
⑩第五講「芸術は術の中の術」：「第１節」および「第２節」
⑪第五講「芸術は術の中の術」：「第３節」および「コラム」
⑫第六講「芸術は術のための術」：「第１節」および「第２節」
⑬第六講「芸術は術のための術」：「第３節」および「コラム」
⑭第七講「芸術は術を超える術」：「第一節」「第二節」
⑮まとめと総復習

科目名	特別支援教育A 障害児教育A
英文科目名	Special Needs Education A Special Needs Education A
担当者名	横倉久
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED208

授業の概要と到達目標

本科目は、人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材や、教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材を育成するための科目である。【授業の目標】障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な指導及び必要な支援を行う「特別支援教育」についての理解を深め、障害のある幼児児童生徒への教育実践の在り方を探求することを目標とする。【授業の概要】特別支援教育の歴史的背景や法制度、各障害教育論、最近のインクルーシブ教育システムの推進の現状と課題等についての内容を取り扱う。　授業は、高千穂大学が大切にする「人間教育の本質を理解すること」につながるものである。

授業の方法

講義は、障害のある幼児児童生徒への教育のあり方について、自身の学校教育の現場及び教育行政での経験を踏まえた情報を提供し、受講学生の主体的・対話的で深い学びの実現のためのPBL（課題解決型学習）を取り入れ、アクティブラーニングを推進する。

予習と復習

予習（90分）テキストや特別支援教育に関連する文献（記事）等を読み、要点をまとめ、次週の授業に備えておくこと。　復習（90分）テキストや配付資料等を読み、学んだことを自ら振り返り、受講した授業についての理解を深めておくこと。

テキスト等

【テキスト】「特別支援教育の基礎・基本第4版」（ジアース教育新社）、【参考】宮崎英憲・横倉久編「特別支援学校　小・中学部新学習指導要領の展開」（明治図書）、「小学校　新学習指導要領の展開　特別支援教育編」（明治図書出版）

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	10%
課題レポート			30%				0%

※授業内試験、課題レポート、平常点を総合的に考慮し成績を評価する。※出席回数を単位取得の前提条件とし、３回を越える欠席者（遅刻・早退は２回で欠席１回分に相当）は、原則として単位を認定しない。

授業計画

①オリエンテーション、特別支援教育とは（特別支援教育をめぐる現状）
②特別支援教育に関わる法制度（教育基本法、学校教育法等を中心に）
③障害児教育の歴史（日本の障害児教育の歴史）
④特別支援教育の現状と課題１（視覚障害教育）
⑤特別支援教育の現状と課題２（聴覚障害教育）
⑥特別支援教育の現状と課題３（言語障害教育）
⑦特別支援教育の現状と課題４（発達障害教育：ＬＤ・ＡＤＨＤ）
⑧特別支援教育の現状と課題５（発達障害教育：高機能自閉症等）
⑨特別支援教育の現状と課題６（知的障害教育）
⑩特別支援教育の現状と課題７（肢体不自由教育）
⑪特別支援教育の現状と課題８（病弱身体虚弱教育）
⑫特別支援教育の現状と課題９（重複障害教育、その他）
⑬インクルーシブ教育システム構築に向けて（合理的配慮の提供や基礎的環境整備等）
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	特別支援教育B 障害児教育B
英文科目名	Special Needs Education B Special Needs Education B Special Needs Education B
担当者名	横倉久
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED209

授業の概要と到達目標

本科目は、人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材や、教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材を育成するための科目である。【授業の目標】特別支援教育を学ぶ意義は、子どもたち一人ひとりの可能性を引き出すための教育者としての基盤を築くとともに、多様性を尊重する社会の実現に貢献する姿勢を探求することを目標とする。【授業の概要】特別支援教育の基本理念、障害の理解、指導方法と指導理念、インクルーシブ教育、実践的学習等の学びを通じて、特別な支援が必要な子どもたちを支えるための知識とスキルを理解する。併せて、障害のある児童への配慮や「特別の教育課程」について考察をしたり、個別の教育支援計画や学習指導案の作成等の授業づくりの体験を行う。　授業は、高千穂大学が大切にする「人間教育の本質を理解すること」につながるものである。

授業の方法

講義は、障害のある幼児児童生徒への教育のあり方について、自身の特別支援学校教諭の経験を踏まえた話題を提供し、受講学生の主体的・対話的で深い学びの実現のためのPBL（課題解決型学習）を取り入れ、アクティブラーニングを推進する。

予習と復習

予習（90分）テキストや特別支援教育に関連する文献（記事）等を読み、要点をまとめ、次週の授業に備えておくこと。　復習（90分）テキストや配付資料等を読み、学んだことを自ら振り返り、受講した授業についての理解を深めておくこと。

テキスト等

【テキスト】「特別支援教育の基礎・基本第4版」（ジアース教育新社）、【参考】「小学校新学習指導要領の展開支援教育編」（明治図書）、文科省「小学校学習指導要領解説総則編」「特別支援学校学習指導要領解説各教科編等」「学習指導要領解説自立活動編」

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	10%
課題レポート			30%				0%

※授業内試験、課題レポート、平常点を総合的に考慮し成績を評価する。※出席回数を単位取得の前提条件とし、３回を越える欠席者（遅刻・早退は２回で欠席１回分に相当）は、原則として単位を認定しない。

授業計画

①オリエンテーション、特別支援教育概論1（インクルーシブな社会について考える）
②特別支援教育概論２（特別支援教育の全体像を知る）
③特別支援教育概論３（障害のある児童生徒等の多様な学びの場について理解する①）
④特別支援教育概論４（障害のある児童生徒等の多様な学びの場について理解する②）
⑤特別支援教育概論５（インクルーシブ教育システムの構築と推進について理解する）
⑥個別の指導計画の作成と活用１（個別の指導計画、個別の教育支援計画とは何か）
⑦個別の指導計画の作成と活用２（個別の指導計画を作成してみよう①）
⑧個別の指導計画の作成と活用３（個別の指導計画を作成してみよう②）
⑨個別の指導計画の作成と活用４（個別の指導計画の活用を考える）
⑩授業づくり１（小学校：各教科等における障害のある児童への配慮について理解する）
⑪授業づくり２（自立活動について理解する）
⑫授業づくり３（知的障害教育の教科について理解する）
⑬授業づくり４（特別支援教育の学習指導案の作成）
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	生涯発達論 発達心理学B
英文科目名	@ Psychology of Development B
担当者名	徳田治子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CED301

授業の概要と到達目標	人の生涯にわたる発達と生き方の問題について、心理学を中心とした学際的見地から学ぶ。①発達心理学を中心に蓄積されてきた発達理論や各人生段階の特徴および成人期以降の発達や生き方について学ぶことを通して、現実に生きる人生の多様性や可塑性について理解を深め、自らの成長や人生、ならびに様々な状況に置かれた人々のケアや支援に役立てる実践的な知識の修得を目指す。②ライフサイクルモデル、ライフコース理論、ライフストーリー法といった生涯にわたる人間の変化や発達を捉える研究アプローチを通して全人的存在としての人間の成長を捉える方法について学ぶ。②では、特に、自身の人生を受講生同士が互いの人生を語り/聞き取り合う「ライフストーリーインタビュー」を実施し、期末課題としてレポートを提出してもらう。なお、受講生の問題関心に応じて外部講師を招聘する場合がある。人間科学部のディプロマポリシー「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」を達成するための科目である。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回で学生によるプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを実施する。また、インタビュー法の実践を行う。
予習と復習	予習（９０分）配布プリントならびに指定されたテキストを読み、要点を整理しておく。復習（９０分）講義資料を読み返し、指定課題について考えをまとめる。
テキスト等	講義時に資料を配布する。参考図書/テキストは適宜紹介、指定する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	50%
				0%				0%
	平常点（50%）とレポート課題（50%）により、評価します。平常点は、Googleフォームによる振り返り課題の提出とその内容に応じて評価します。提出された課題のコメントならびにレポートの一部について、授業内で全般的な評価と所見を提示します。							

授業計画	①オリエンテーション：生涯発達を捉える多様なモデル
	②生涯発達を捉える多様な研究アプローチ(1)：生涯の変化をとらえるイメージとモデル
	③生涯発達を捉える多様な研究アプローチ(2):人生のイメージを表現してみよう！
	④生涯発達を捉える多様な研究アプローチ(3):ライフサイクルモデルの理論と課題
	⑤生涯発達を捉える多様な研究アプローチ(4):ライフコースの理論と選択の心理学
	⑥生涯発達を捉える多様な研究アプローチ(5)：物語としての人生とライフストーリー
	⑦ライフストーリーインタビューの実践（1）：ライフストーリーインタビューとは
	⑧ライフストーリーインタビューの実践（2）自伝的探究法（自分の人生を振り返る）
	⑨ライフストーリーインタビューの実践（3）インタビューの様々な質問技法
	⑩ライフストーリーインタビューの実践（4）インタビュー実習①
	⑪ライフストーリーインタビューの実践（5）インタビュー実習②
	⑫人間発達における傷つきと喪失(1):幼児期・児童期における死の理解□
	⑬人間発達における傷つきと喪失(2):青年期以降の死の理解とグリーフケア
	⑭人間発達の多様性と可塑性：レジリエンスと生きる力
	⑮まとめと総復習□

科目名	教師論(小学校免許用)
英文科目名	Theory about Teacher
担当者名	山田良一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED201

授業の概要と到達目標

【授業のテーマ】　長年の教育現場での経験を活かし、教師を目指す際に必要となる知識・技能や職務内容を理解し、学生自らが教師としての適性を培い、教師としての基本的な資質や能力を培うことを本授業のテーマとする。また、この科目は「教養と社会モラルを兼ね備えた人間教育を実践できる人材」を達成する科目でもある。【到達目標】①教育に関連する法規に定められている「教育の目的」「全体の奉仕者」を理解し、望ましい姿を明確にする。②教師としての専門的な知識や技能の基本を理解し、身につける。③これからの学習指導要領を学び、教育の方向性を理解し、自らの理想とする教師像を追求する。④「チームとしての学校」を実現するための三つの視点を理解する。必要に応じて外部講師を招聘することがある【到達目標】①教育に関連する法規に定められている「教育の目的」「全体の奉仕者」を理解し、望ましい姿を明確にする。②教師としての専門的な知識や技能の基本を理解し、身につける。③これからの学習指導要領を学び、教育の方向性を理解し、自らの理想とする教師像を追求する。

授業の方法

授業の大枠として「教師としての役割・職務を理解すること」「教師としての教育力や指導力・人間力を高める」ことを目標に、主体的対話的深い学びとなるようなアクティブラーニングを活用したグループワークや対話型授業を中心にすすめる。

予習と復習

予習（90分）トピックについて、もてる手段をフル活用して自分なりの問題意識をもって授業に臨む。復習（90分）復習：テーマ・トピックについて、次のテーマ・トピックと関連づけながら整理し、理解を深める。

テキスト等

『教職論』　ミネルヴァ書房適宜授業内容に関連したレジュメを配布する。　小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）等

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
			0%				0%

平常点の中に「ワークシート」を活用して学習内容の整理や自分自身の考えや課題、感想まとめる。

授業計画

①オリエンテーション：授業「教師論」の進め方について　小学校でのエピソード紹介
②小学校　教師の一日の仕事や職務内容（校務分掌）を理解する。
③全体の奉仕者としての理解を深める。
④教師の歴史的変遷と現在の教師について
⑤具体的な事例を考察しながら、教師の役割と職責を理解する。
⑥教師の専門性Ⅰ　学習指導に関して　新学習指導要領を学ぶ。
⑦教師の専門性Ⅱ 生徒理解と生活指導 子どもに寄り添う傾聴姿勢（体罰によらない指導）
⑧子どもの成長過程を知る。幼児期・児童期・思春期
⑨小学校における教育的課題Ⅰ：いじめ対応と教師の姿勢（具体的な事例を通して）
⑩小学校における教育的課題Ⅱ：不登校（具体的な事例を通して）
⑪地域・家庭とを結ぶチームとしての学校づくり
⑫健全な学校・学級経営をするために、チームとしての学校の視点を学ぶ
⑬教師の服務と義務・責任（綱紀粛正）
⑭学生達が理想とする未来の学校を創ろう：グループ討議
⑮私が目指す教師像　自身の適性と課題を知る。シンキングツールを使って(まとめと復習

科目名	教師論(中･高校免許用)
英文科目名	Theory about Teacher
担当者名	山田良一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED201

授業の概要と到達目標	【授業のテーマ】　長年の教育現場での経験を活かし、教師を目指す際に必要となる知識・技能や職務内容を理解し、学生自らが教師としての適性を培い、教師としての基本的な資質や能力を培うことを本授業のテーマとする。また、この科目は「教養と社会モラルを兼ね備えた人間教育を実践できる人材」を達成する科目でもある。【到達目標】①教育に関連する法規に定められている「教育の目的」「全体の奉仕者」を理解し、望ましい姿を明確にする。②教師としての専門的な知識や技能の基本を理解し、身につける。③これからの学習指導要領を学び、教育の方向性を理解し、自らの理想とする教師像を追求する。④「チームとしての学校」を実現するための三つの視点を理解する。必要に応じて外部講師を招聘することがある。　【到達目標】①教育に関連する法規に定められている「教育の目的」「全体の奉仕者」を理解し、望ましい姿を明確にする。②教師としての専門的な知識や技能の基本を理解し、身につける。③これからの学習指導要領を学び、教育の方向性を理解し、自らの理想とする教師像を追求する。
授業の方法	授業の大枠として「教師としての役割・職務を理解すること」「教師としての教育力や指導力・人間力を高める」ことを目標に、主体的対話的深い学びとなるようなアクティブラーニングを活用したグループワークや対話型授業を中心にすすめる。
予習と復習	予習（90分）トピックについて、もてる手段をフル活用して自分なりの問題意識をもって授業に臨む。復習（90分）復習：テーマ・トピックについて、次のテーマ・トピックと関連づけながら整理し、理解を深める。
テキスト等	『教職論』　ミネルヴァ書房適宜授業内容に関連したレジュメを配布する。参考書：教員をめざそう（平成21年文部科学省初等中等教育局）、中学校学習指導指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%
	平常点の中に「ワークシート」を活用して学習内容の整理や自分自身の考えや課題、感想まとめる。							

授業計画	①オリエンテーション 授業「教師論」の進め方について 中・高等学校でのエピソード紹介
	②中学校　教師の一日の仕事や職務内容（校務分掌）を理解する。
	③全体の奉仕者としての理解を深める。
	④教師の歴史的変遷と現在の教師について
	⑤具体的な事例を考察しながら、教師の役割と職責を理解する。
	⑥教師の専門性Ⅰ　学習指導に関して　新学習指導要領を学ぶ。
	⑦教師の専門性Ⅱ　生徒理解と生活指導　子どもに寄り添う傾聴姿勢（体罰によらない指導
	⑧子どもの成長過程を知る。幼児期・児童期・思春期
	⑨中・高等学校における教育的課題Ⅰ：いじめ対応と教師の姿勢（具体的な事例を通して）
	⑩中・高等学校における教育的課題Ⅱ：不登校（具体的な事例を通して）
	⑪地域・家庭とを結ぶチームとしての学校づくり
	⑫健全な学校・学級経営をするためにチームとしての学校の視点を学ぶ）
	⑬教師の服務と義務・責任（綱紀粛正）
	⑭学生達が理想とする未来の学校を創ろう：グループ討議
	⑮私が目指す教師像　自身の適性と課題を知る。シンキングツールを使って（まとめと復習

科目名	教育原理(小学校免許用)
英文科目名	Principles of Education
担当者名	松丸啓子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED203

授業の概要と到達目標	教育に関する基本概念にはどのようなものがあるかについて理解し、そうした諸概念が教育の歴史の中でどのように現れ、変遷してきたかを学ぶとともに、それらが実際の教育活動とどのように関わってきたかについての考察を深めます。こうした学習は、本学における教員養成の目標の一つである「透徹した人間観、教育観にたち、誠実でしかも情熱をもった教員の養成」の基盤を形成するものとしても意義を持つものです。※履修生からの要望がある場合には、外部講師を招いた特別講義を実施する予定です。
授業の方法	授業計画に従って資料を配布しますので、受講者は主体的に学んで内容を理解するようにしましょう。また、授業内容に関連するアクティブラーニング(ディスカッション）の課題を出題しますので、積極的に取り組みましょう。
予習と復習	「予習（90分）」：講義前には、配布資料等に目を通し、学習する内容を予習しておくようにしましょう。「復習（90分）」：講義後には、配布資料やノートを整理しながら復習しましょう。
テキスト等	資料等を配布いたします。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	平常点として、講義中の質疑に対する応答やディスカションへの参加状況等を評価の対象とします。１／３以上欠席の場合は評価の対象としません。上記の方法で、総合的に評価します。							

授業計画
①「教育原理」とは何か
②教育学の諸概念
③教育の本質
④教育の目標
⑤家庭における教育の歴史
⑥社会における教育の歴史
⑦近代教育制度の成立と展開
⑧現代社会における教育の課題
⑨家庭観と教育思想
⑩子供観と教育思想
⑪学校観と教育思想
⑫学習観と教育思想
⑬代表的な教育思想家
⑭授業内試験
⑮まとめと総復習

科目名	教育原理(中･高校免許用)
英文科目名	Principles of Education
担当者名	松丸啓子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED203

授業の概要と到達目標	教育に関する基本概念にはどのようなものがあるかについて理解し、そうした諸概念が教育の歴史の中でどのように現れ、変遷してきたかを学ぶとともに、それらが実際の教育活動とどのように関わってきたかについての考察を深めます。こうした学習は、本学における教員養成の目標の一つである「透徹した人間観、教育観にたち、誠実でしかも情熱をもった教員の養成」の基盤を形成するものとしても意義を持つものです。※履修生からの要望がある場合には、外部講師を招いた特別講義を実施する予定です。
授業の方法	授業計画に従って資料を配布しますので、受講者は主体的に学んで内容を理解するようにしましょう。また、授業内容に関連するアクティブラーニング(ディスカッション）の課題を出題しますので、積極的に取り組みましょう。
予習と復習	「予習（90分）」：講義前には、配布資料等に目を通し、学習する内容を予習しておくようにしましょう。「復習（90分）」：講義後には、配布資料やノートを整理しながら復習しましょう。
テキスト等	資料等を配布いたします。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	平常点として、講義中の質疑に対する応答やディスカションへの参加状況等を評価の対象とします。１／３以上欠席の場合は評価の対象としません。上記の方法で、総合的に評価します。							

授業計画
①「教育原理」とは何か
②教育学の諸概念
③教育の本質
④教育の目標
⑤家庭における教育の歴史
⑥社会における教育の歴史
⑦近代教育制度の成立と展開
⑧現代社会における教育の課題
⑨家庭観と教育思想
⑩子供観と教育思想
⑪学校観と教育思想
⑫学習観と教育思想
⑬代表的な教育思想家
⑭授業内試験
⑮まとめと総復習

科目名	教育心理学(小学校免許用)
英文科目名	Educational Psychology
担当者名	崔玉芬
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED205

授業の概要と到達目標	本授業は，人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び，生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を育成するための科目である。授業では，人間の成長と発達，学習の仕組みに関する知識を身につけると同時に，特別な支援を必要とする子どもの成長と発達，学習支援について学ぶ。教師として，生徒理解と支援方法について，具体的な事例を用いて理解，考察する。＜到達目標＞(1)人間の発達に関する理論を説明することができる。(2)学習，学習指導・支援に関する理論を説明することができる。(3)特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援方法について説明することができる。(4)生徒が抱える発達と教育上のさまざまな困難，問題について深く理解することができる。同時にそれらの問題の解決，支援の方法に関する知識を説明することができる。
授業の方法	講義形式。授業時に，グループワーク，ディスカッション，ペア学習などのアクティブラーニングを行う。また，一部の授業においては，教育現場経験豊かな外部講師を招き，教育現場の話を伺うこともある。
予習と復習	予習（90分）：シラバス記載の当該章に目を通し，キーワードを調べてまとめる。復習（90分）：授業で配布した資料やノートを再読し，授業内容を見直す。
テキスト等	教科書：使用しない。授業中にレジュメを配布する。参考書：大村彰通（編）　「教育心理学Ⅰ」　東京大学出版会　　下山晴彦（編）　「教育心理学Ⅱ」　東京大学出版会　　ほかの参考書は講義中に紹介する

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	第8回目と15回目に授業内試験を実施する。全体評価の80%を占めるため，基本的にその回の授業に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取組みも含まれる。欠席の合計が5回以上は不合格とする。							

授業計画	①発達とは
	②発達の規定因
	③発達理論ーエリクソンの発達理論
	④身体・認知の発達
	⑤言語の発達
	⑥人格の発達
	⑦社会性の発達
	⑧授業内試験①と解説
	⑨学習の基礎としての条件づけ
	⑩学習の動機づけ
	⑪記憶の仕組み
	⑫注意と集中力
	⑬学習評価
	⑭発達障害と特別支援教育
	⑮授業内試験②と総まとめ

科目名	教育心理学(中･高校免許用)
英文科目名	Educational Psychology
担当者名	崔玉芬
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED205

授業の概要と到達目標

＜講義概要＞本授業は，人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び，生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を育成するための科目である。授業では，人間の成長と発達，学習の仕組みに関する知識を身につけると同時に，特別な支援を必要とする子どもの成長と発達，学習支援について学ぶ。教師として，生徒理解と支援方法について，具体的な事例を用いて理解，考察する。＜到達目標＞(1)人間の発達に関する理論を説明することができる。(2)学習，学習指導・支援に関する理論を説明することができる。(3)特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援方法について説明することができる。(4)生徒が抱える発達と教育上のさまざまな困難，問題について深く理解することができる。同時にそれらの問題の解決，支援の方法に関する知識を説明することができる。

授業の方法

講義形式。授業時に，グループワーク，ディスカッション，ペア学習などのアクティブラーニングを行う。また，一部の授業においては，教育現場経験豊かな外部講師を招き，教育現場の話を伺うこともある。

予習と復習

予習（90分）：シラバス記載の当該章に目を通し，キーワードを調べてまとめる。復習（90分）：授業で配布した資料やノートを再読し，授業内容を見直す。

テキスト等

教科書：使用しない。授業中にレジュメを配布する。参考書：大村彰通（編）　「教育心理学Ⅰ」　東京大学出版会　　下山晴彦（編）　「教育心理学Ⅱ」　東京大学出版会　　ほかの参考書は講義中に紹介する

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
			0%				0%

第8回目と15回目に授業内試験を実施する。全体評価の80%を占めるため，基本的にその回の授業に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取組みも含まれる。欠席の合計が5回以上は不合格とする。

授業計画

①発達の概念
②発達の規定因
③発達理論ーエリクソンの発達理論
④身体・認知の発達
⑤言語の発達
⑥人格の発達
⑦社会性の発達
⑧授業内試験①と解説
⑨学習の基礎としての条件づけ
⑩学習の動機づけ
⑪記憶の仕組み
⑫注意と集中力
⑬学習評価
⑭発達障害と特別支援教育
⑮授業内試験②と総まとめ

科目名	教育制度(小学校免許用)
英文科目名	Educational System
担当者名	大西健介
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED207

授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師の養成」を達成するための科目である。本科目を通じて、公教育の意義と理念を理解するとともに、公教育の原理や法的・制度的仕組み、教員の服務、学校と地域との連携など、教職を目指す上で必要な基礎的知識を身につける。また、教育制度の創造的発展に向けて、受講者が主体的に考察する姿勢を養う。専門職としての教師になるために、公教育制度と学習権保障の意義を深く理解するとともに、公教育の原理や法的・制度的仕組みなどに関する基礎的知識を身につけることが到達目標である。
授業の方法	この授業では、スマートフォンを用いたクリッカー(Google フォーム)による双方向授業を実施する。また、アクティブラーニングとして、グループワーク、ディスカッションを行う。
予習と復習	予習（90分）事前に教科書の指定箇所を一読し、要点をノートにまとめること。また、専門用語の意味を調べて、ノートに記すこと。復習（90分）授業内容の要点と自身の考えをノートにまとめること。ミニレポートを次回の授業までに取り組むこと。
テキスト等	森田健宏・田爪宏二監修　吉田薫・山下晃一編著『よくわかる！教職エクササイズ7　法規で学ぶ教育制度』（ミネルヴァ書房）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	欠席回数が5回以上の場合、原則として単位不認定とする。遅刻・早退は２回で、欠席１回として扱う。レポートは、返却せずに全般的な評価と所見を提示する。平常点は授業で実施する小レポートを評価し、授業で全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画	①オリエンテーション・教育制度を学ぶ意義
	②日本国憲法と教育基本法
	③学校教育制度―一条校と教育を受ける権利―
	④教育行政と教育委員会
	⑤教職員に関する制度
	⑥教職員の免許や研修に関わる制度
	⑦学校の管理運営に関わる制度
	⑧チーム学校と校務分掌
	⑨学校安全と学校危機管理制度
	⑩学校と地域連携
	⑪学習指導要領
	⑫教科書制度
	⑬児童生徒に関わる制度
	⑭現代的な教育課題と教育制度
	⑮まとめと総復習

科目名	教育制度(中･高校免許用)
英文科目名	Educational System
担当者名	大西健介
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED208

授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師の養成」を達成するための科目である。本科目を通じて、公教育の意義と理念を理解するとともに、公教育の原理や法的・制度的仕組み、教員の服務、学校と地域との連携など、教職を目指す上で必要な基礎的知識を身につける。また、教育制度の創造的発展に向けて、受講者が主体的に考察する姿勢を養う。専門職としての教師になるために、公教育制度と学習権保障の意義を深く理解するとともに、公教育の原理や法的・制度的仕組みなどに関する基礎的知識を身につけることが到達目標である。
授業の方法	この授業では、スマートフォンを用いたクリッカー(Google フォーム)による双方向授業を実施する。また、アクティブラーニングとして、グループワーク、ディスカッションを行う。
予習と復習	予習（90分）事前に教科書の指定箇所を一読し、要点をノートにまとめること。また、専門用語の意味を調べて、ノートに記すこと。復習（90分）授業内容の要点と自身の考えをノートにまとめること。ミニレポートを次回の授業までに取り組むこと
テキスト等	森田健宏・田爪宏二監修　吉田薫・山下晃一編著『よくわかる！教職エクササイズ7　法規で学ぶ教育制度』（ミネルヴァ書房）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	欠席回数が5回以上の場合、原則として単位不認定とする。遅刻・早退は２回で、欠席１回として扱う。レポートは、返却せずに全般的な評価と所見を提示する。平常点は授業で実施する小レポートを評価し、授業で全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①オリエンテーション・教育制度を学ぶ意義
②日本国憲法と教育基本法
③学校教育制度―一条校と教育を受ける権利―
④教育行政と教育委員会
⑤教職員に関する制度
⑥教職員の免許や研修に関わる制度
⑦学校の管理運営に関わる制度
⑧チーム学校と校務分掌
⑨学校安全と学校危機管理制度
⑩学校と地域連携
⑪学習指導要領
⑫教科書制度
⑬児童生徒に関わる制度
⑭現代的課題と教育制度
⑮まとめと総復習

科目名	教育課程論(小学校免許用)
英文科目名	Curriculum Studies
担当者名	小林祐一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED209

授業の概要と到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。地域教育資源調査を通して学校の「社会に開かれた教育課程」編成に寄与できるとともに、本学の教職課程のねらいの1つである「現代社会に応えうる見識と力量をもった教師の養成」を目指す科目である。
授業の方法	テーマ・トピックについての講義と、それを土台とした参加者の意見交換を交えてディスカッション（アクティブラーニング）を進める。毎回リアクションペーパーの提出を求める。
予習と復習	予習：授業のテーマ・トピックについて、もてる手段をフル活用して自分なりの問題意識をもって授業に臨む。（90分）復習：テーマ・トピックについて、次のテーマ・トピックと関連づけながら整理し、理解を深める。（90分）
テキスト等	鈴木敏正・降旗信一編著『教育の課程と方法―持続可能で包容的な未来のために―』〈学文社「ESDでひらく未来」シリーズ〉

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	20%	平常点	20%
			0%				0%

授業欠席・遅刻した場合は授業内で教員が示す課題をその日のうちに提出することが必要となります。

授業計画
①シラバス説明及びテキスト紹介、発表分担決め等
②学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景
③教育課程が社会において果たしている役割や機能
④教育課程の編成の方法(1)【授業づくりの歴史】
⑤教育課程の編成の方法(2) 【教育課程の自主編成】
⑥教育課程編成の基本原理(1) 【ESD時代の教育課程のあり方】
⑦教育課程編成の基本原理(2) 【教育課程の自主編成】
⑧教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法(1)
⑨教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法(2)
⑩教育課程や指導計画を検討することの重要性(1)
⑪教育課程や指導計画を検討することの重要性(2)
⑫学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と重要性(1)
⑬学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と重要性(2)
⑭カリキュラム評価の基礎的な考え方
⑮総合討議

科目名	教育課程論(中･高校免許用)
英文科目名	Curriculum Studies
担当者名	小林祐一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED209

授業の概要と到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。地域教育資源調査を通して学校の「社会に開かれた教育課程」編成に寄与できるとともに、本学の教職課程のねらいの1つである「現代社会に応えうる見識と力量をもった教師の養成」を目指す科目である。
授業の方法	テーマ・トピックについての講義と、それを土台とした参加者の意見交換を交えてディスカッション（アクティブラーニング）を進める。毎回リアクションペーパーの提出を求める。
予習と復習	予習：授業のテーマ・トピックについて、もてる手段をフル活用して自分なりの問題意識をもって授業に臨む。（90分）復習：テーマ・トピックについて、次のテーマ・トピックと関連づけながら整理し、理解を深める。（90分）
テキスト等	テキスト：鈴木敏正・降旗信一編著『教育の課程と方法―持続可能で包容的な未来のために―』〈学文社「ESDでひらく未来」シリーズ〉

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	20%	平常点	20%
				0%				0%
	授業に欠席・遅刻した場合は授業内で教員が示す課題をその日のうちに提出することが必要となります。							

授業計画	
	①シラバス説明及びテキスト紹介、発表分担決め等
	②学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景
	③教育課程が社会において果たしている役割や機能
	④教育課程の編成の方法(1)【授業づくりの歴史】
	⑤教育課程の編成の方法(2) 【教育課程の自主編成】
	⑥教育課程編成の基本原理(1) 【ESD時代の教育課程のあり方】
	⑦教育課程編成の基本原理(2) 【教育課程の自主編成】
	⑧教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法(1)
	⑨教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法(2)
	⑩教育課程や指導計画を検討することの重要性(1)
	⑪教育課程や指導計画を検討することの重要性(2)
	⑫学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と重要性(1)
	⑬学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と重要性(2)
	⑭カリキュラム評価の基礎的な考え方
	⑮総合討議□

科目名	商業科教育論
英文科目名	Education of Commerce
担当者名	今村一真
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED211

授業の概要と到達目標	教科としての商業科を捉えたとき、職業学科として体系的な科目が配置されていること、そして、専門性や実務との接続が意識されていることが理解できる。そこで、本講座では前者（職業学科として体系的な科目が配置されていること）がどのように位置づけられてきたのかを中心に理解を深める。　なお、①教科の構造や特徴に関する基礎的な知識を身につける、②職業教育の必要性について理解を深める、③講義で身につけた考え方に基づいた意見ができる、を到達目標とする。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教師」を達成するための科目である。
授業の方法	この科目は、商業教育の諸側面を理解し実践に必要な考え方を幅広く学ぶものである。受講者には模擬授業（アクティブラーニング）を求めるとともに、必要な学びを提供するために柔軟な運用を心掛ける。具体的な授業内容や実施の方法等は、担当教員の指示に従うこと。
予習と復習	【予習(60分)】次回の授業で学ぶ内容に触れ、現代の社会においてどのような教育が期待されるのかを考えてﾉｰﾄにまとめる。【復習(120分)】教員として実践するうえで、授業の要点や示された課題をどのように捉えて行動することが求められるのかを考えてノートにまとめる
テキスト等	テキスト：高等学校学習指導要領解説　商業編（平成30年5月　文部科学省）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	40%	平常点	30%
				0%				0%
	課題レポートを毎回実施する。							

授業計画	
	①商業教育の特徴、可能性：オリエンテーション
	②職業とは：分業と職業
	③キャリア教育とは：日本におけるキャリア教育の位置づけなど
	④職業教育とは：諸外国の職業教育との比較
	⑤商業教育とは：商業教育の必要性と意義
	⑥商業教育の歩み：日本の商業教育の歴史
	⑦今日の商業教育：教育課程における教科「商業」の位置づけ
	⑧各科目の概要①：「ビジネス基礎」
	⑨各科目の概要②：マーケティング分野・マネジメント分野
	⑩各科目の概要③：会計分野
	⑪各科目の概要④：ビジネス情報分野
	⑫各科目の概要⑤：総合的科目
	⑬商業教育のテーマ①：専門職志向の意義
	⑭商業教育のテーマ②：起業家教育実践の意義
	⑮全体のまとめ：商業教育の現状と課題を踏まえて

科目名	情報科教育論
英文科目名	Education of Infomation
担当者名	出井智子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED212

授業の概要と到達目標	高等学校の教員免許状「情報」を取得するために必要な科目である。なお、秋学期に「情報科指導法」を履修予定の場合には、先に履修しておくことを推奨する。情報科教育論では、学習指導要領の変遷および情報教育の歴史について触れ、情報教育の目標や教育課程における情報科の位置付けについて学ぶ。また、学習指導要領に示された共通教科と専門教科情報科の目標や内容、学習評価について学習し、学習指導案の作成を行う。到達目標は、学習指導要領（平成30年公示）に示された情報科の目標や学習内容を理解するとともに、その背景となる社会や学問領域について知り、学習指導案を作成する土台を理解することである。本科目は、 高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教師」を達成するための科目である。
授業の方法	講義中心の形態で行い、必要に応じてグループディスカッションや質疑応答を実施する。また、毎回授業の最後にリアクションペーパーの提出を求める。アクティブラーニングの授業を実施する授業の回もある。
予習と復習	予習（90分）　事前に指定された部分を読み，ノートなどにまとめ，わからない用語は調べておくこと。復習（90分）　授業で学習した内容について，整理し理解を深めること。
テキスト等	テキスト：高等学校学習指導要領解説　情報編（平成30年7月　文部科学省）参考書：文部科学省選定教科書「情報Ｉ」テキストおよび参考書については，授業内で指示を行う。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	30%	平常点	10%
	学習指導案			10%				0%
	提出物はすべて授業内で個別の評価と所見を提示する。							

授業計画
①ガイダンスと我が国の社会における情報化の進展
②学習指導要領の変遷と社会背景
③学習指導要領総説の理解
④情報教育の歴史と学習内容
⑤情報教育の目標と情報活用能力
⑥学習指導と学習評価
⑦高等学校の教育課程と情報科の位置付け
⑧共通教科「情報科」：「情報I」の目標および内容とその取扱い
⑨共通教科「情報科」：「情報II」の目標および内容とその取扱い
⑩共通教科「情報科」：　指導上の留意点と改訂点
⑪専門教科「情報科」：　各科目の目標および内容とその取扱い
⑫専門教科「情報科」：　指導上の留意点と改訂点
⑬教材・教具の工夫と情報通信技術の活用
⑭学習指導案の作成方法と作成
⑮これからの情報教育およびまとめと総復習

科目名	社会科・公民科教育論
英文科目名	Education of Social Studies and Civic Studies
担当者名	鈴木隆弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED214

授業の概要と到達目標

本講義は、中学校社会科・高等学校公民科担当教員として求められる資質・能力のうち、内容論に関する能力を育成することを目指している。　目標として、①社会科教育史への理解を通じて、社会科・公民科教授の方法を理解する、②中学校社会科・高等学校公民科の内容と教材研究の方法について発表等を通じて習得する、③社会科・公民科における学習評価について理解する、④政治学等の研究にもとづき、社会科・公民科における発展的内容について、自ら課題を見つけて探究し、授業への応用力を身に付けることを目標とする。 講義前半では、社会科・公民科の歴史を検討し、社会科ではどのような社会認識を育てようとしてきたのか、どのような子どもを育成しようとしてきたのかを検討する。講義後半では、社会科・公民科の内容と方法的特質を理解し、授業内容に関する基本的な理解を獲得し、社会科・公民科担当教員としての基礎能力を培う。 なお、外部講師をお招きする場合がある。　本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教師」を達成するための科目である。

授業の方法

アクティブラーニングとして、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワークを実施する。また、一部授業ではスマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を行うことがある。

予習と復習

予習（90分）学習指導要領解説社会編・公民編を読む。復習（90分）当該内容のノートを元に、復習する。

テキスト等

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編』日本公民教育学会編『新版テキストブック公民教育』(第一学習社)荒井正剛編『中等教育社会科教師の専門性育成』(学文社)他 ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教科書は教場で指示する

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	40%
プレゼンテーション			30%				0%

1/3以上の欠席は単位認定しない。平常点は複数回の課題。プレゼンテーションは12～14回の中で実施。レポートはプレゼンの内容。一部授業回の課題は、返却せずに授業内で全般的な評価と所見を提示、プレゼンテーションについては授業内で個別に評価と所見を提示する。

授業計画

①社会科・公民科とは何か　－社会認識形成と公民的資質育成－
②社会科・公民科の構造　－幼・小・中・高をつらぬく公民カリキュラム－
③社会科・公民科の歴史１　－戦前－
④社会科・公民科の歴史２　－経験主義と系統主義－
⑤社会科・公民科の歴史３　－公民科の成立と「生きる力」－
⑥学習指導要領１　社会科・公民科の目標と全体構造
⑦学習指導要領２　中学校社会科公民的分野と他分野の関係性
⑧学習指導要領３　高等学校公民科「公共」
⑨学習指導要領４　高等学校公民科「政治・経済」
⑩学習指導要領５　高等学校公民科「倫理」
⑪教材研究１　－社会科・公民科における評価　－社会的な見方・考え方と資質・能力－
⑫教材研究２　－親学問：社会学・倫理学・哲学、政治学・経済学・法学の関係－
⑬教材研究3　－18歳成人時代と社会科教育　法教育・主権者教育－
⑭外部講師による講義
⑮課題発表と全体のまとめ

科目名	商業科指導法
英文科目名	Methods of Teaching about Commercial Studies
担当者名	今村一真
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED215

授業の概要と到達目標

教科としての商業科を捉えたとき、職業学科として体系的な科目が配置されていること、そして、専門性や実務との接続が意識されていることが理解できる。そこで、本講座では後者（専門性の深化と実務との接続）がどのように位置づけられてきたのかを中心に理解を深める。　なお、①教科の構造や特徴に関する基礎的な知識を身につける、②実践的な教育の必要性について理解を深める、③講義で身につけた考え方に基づいた意見ができる、を到達目標とする。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教師」を達成するための科目である。

授業の方法

この科目は、商業教育の諸側面を理解し実践に必要な考え方を幅広く学ぶものである。受講者には模擬授業を求めるとともに、必要な学びを提供するために柔軟な運用を心掛ける。具体的な授業内容や実施の方法(アクティブラーニング）等は、担当教員の指示に従うこと。

予習と復習

【予習(60分)】次回の授業で学ぶ内容に触れ、現代の社会においてどのような教育が期待されるのかを考えてﾉｰﾄにまとめる。【復習(120分)】教員として実践するうえで、授業の要点や示された課題をどのように捉えて行動することが求められるのかを考えてノートにまとめる

テキスト等

テキスト：高等学校学習指導要領解説　商業編（平成30年5月　文部科学省）

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	30%
模擬授業			30%				0%

授業計画

①今日の商業教育：完成教育からの転換
②商業教育の多様性：専門学科と単位制高校や総合学科での展開の違い
③専門性の深化：会計専門職への接続を事例として
④実務との接続：卒業祖就職する生徒の指導を事例として
⑤商業教育の実際：挑戦できるさまざまな資格
⑥指導計画と授業展開：カリキュラム・マネジメントの推進
⑦授業展開の方法：学習評価と授業
⑧教育活動：育成したい生徒像、特別指導や生徒指導との関係
⑨教員に必要な資質：地域との連携、多様な成果との接続
⑩商業教育の課題：魅力ある商業教育を目指して
⑪商業教育の展望：専門性の深化と総合化に向けて
⑫商業教育の実際①：教育実践の事例から①（経営実務への参画）
⑬商業教育の実際②：教育実践の事例から②（新たなキャリア志向の展開）
⑭商業教育の可能性：教員に必要な視点と展望
⑮全体のまとめ：高等学校で商業を学ぶ意義とは

科目名	情報科指導法
英文科目名	Methods of Teaching about Information Studies
担当者名	出井智子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED216

授業の概要と到達目標	高等学校の教員免許状「情報」を取得するために必要な科目である。なお、本科目は、春学期に「情報科教育論」を履修済みであることを推奨する。情報科指導法では、情報科教育論で学んだ理論を実践へ結びつけていく。年間授業計画や単元の目標および学習評価について理解し、具体的な場面を想定した授業設計を行う。また、授業を設計するために、情報通信技術や教材・教具の効果的な活用法を理解し、話法や板書、個別の生徒への対応などについて学習するとともに、作成した学習指導案を元に授業の実践を行う。到達目標は、学習指導案の作成により、作成した学習指導案を元に授業を実践することができるようになること。また、授業の実践後、振り返りを通して、授業改善の視点をもてるようになることである。本科目は、 高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教師」を達成するための科目である。
授業の方法	学習指導案の作成や模擬授業などの体験学習やディスカッションなどのアクティブラーニングの授業を実施する。授業の回によっては，講義中心の形態となることもある。また、毎回授業の最後にリアクションペーパーの提出を求める。
予習と復習	予習（90分）　事前に指定された部分を読み，ノートなどにまとめ，わからない用語は調べておくこと。復習（90分）　授業で学習した内容について，整理し理解を深めること。
テキスト等	テキスト：文部科学省検定教科書　「情報Ⅰ」参考書：高等学校学習指導要領解説　情報編（平成30年7月　文部科学省）テキストおよび参考書については，授業内で指示を行う。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	20%	レポート	20%	平常点	10%
	学習指導案			30%	模擬授業			20%
	提出物はすべて授業内で個別の評価と所見を提示する。							

授業計画
①ガイダンスと学習指導要領の概要
②年間指導計画と単元計画
③授業設計と授業デザイン
④学習指導と学習評価
⑤実践研究の動向と学習指導案の作成方法
⑥情報活用の実践力：教科書研究と学習指導案作成
⑦情報活用の実践力：教材作成と学習指導案の検討（問題解決を中心に）
⑧情報活用の実践力：模擬授業と授業改善
⑨情報の科学的な理解：教科書研究と学習指導案作成
⑩情報の科学的な理解：教材作成と学習指導案の検討（情報通信技術の活用を中心に）
⑪情報の科学的な理解：模擬授業と授業改善
⑫情報社会に参画する態度：教科書研究と学習指導案作成
⑬情報社会に参画する態度：教材作成と学習指導案の検討（言語活動を中心に）
⑭情報社会に参画する態度：模擬授業と授業改善
⑮情報教育の課題およびまとめと総復習

科目名	社会科・公民科指導法
英文科目名	Methods of Teaching about Social Studies and Civic Studies
担当者名	鈴木隆弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED218

授業の概要と到達目標

本講義は､社会科・公民科担当教員として、「実際に授業ができる」ようになることを目的とし、授業づくりの力を身に付けるを目標としている。　講義前半では、学習指導要領の内容を把握していることを前提として､①生徒の実際をふまえた授業を立案･実施することができること､②教材、特にICT機器を用いた教材の活用ができること、③学習指導案の作成を通じて、授業をつくることができることを目標とする。　講義後半では、模擬授業を通じ、学習指導案と実際の授業の間に生じるズレを理解し、授業改善の方法を身に付けることを目標とする。さらに、社会科・公民科授業の新しい研究などをふまえ、実際の授業に応用できる力を身に付ける。　　本講義は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。

授業の方法

一部の授業回では、アクティブラーニングとして、授業の構想のプレゼンテーション、授業案の作成のためのフィールドワーク、模擬授業等の実習を行う。また、一部の授業回では、スマートフォンを用いたクリッカー(Google フォーム)による双方向授業を実施する。

予習と復習

予習（90分）　テキストの指定された部分を読んでくること。課題を期日までに作成し、講義に臨むこと。復習（90分）　テキストの確認及び、添削を受けた学習指導案や振り返り課題をこなすこと。

テキスト等

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編』日本公民教育学会編『新版テキストブック公民教育』(第一学習社)荒井正剛編『中等教育社会科教師の専門性育成』(学文社)他 ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教科書は教場で指示する

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%
学習指導案			40%	模擬授業			40%

1/3以上の欠席は単位認定しない｡平常点は一部授業回で実施するプレゼンや小レポート。プレゼンは授業内で個別に評価と所見を提示、学習指導案は添削し返却して個別に評価と所見を提示、模擬授業は授業内にて個別に評価と所見を提示する。

授業計画

①社会科・公民科における授業の位置づけ
②授業づくり１　生徒の社会認識形成と態度育成
③授業づくり２　効果的な教材提示方法　－新聞教材を使った授業－
④授業づくり３　効果的な教材提示方法　－電子黒板を使った対話のある授業づくり－
⑤学習指導案の作成１　－教材研究の方法、フィールドワーク－
⑥学習指導案の作成２　－社会科・公民科のカリキュラムと年間指導計画－
⑦学習指導案の作成３　－単元指導計画－
⑧学習指導案の作成４　－評価規準－
⑨学習指導案の作成５　－教師による模擬授業と学習指導案を用いた振り返り／授業改善－
⑩模擬授業１　－中学校社会科公民的分野－　（内容構成の観点から）
⑪模擬授業２　－高等学校公民科「公共」・「現代社会」－　（発問の観点から）
⑫模擬授業３　－高等学校公民科「政治・経済」－　（教材・ICT活用の観点から）
⑬模擬授業４　－高等学校公民科「倫理」－　（対話のある授業づくりの観点から）
⑭模擬授業５　－新しい社会科・公民科の授業内容とその方法－
⑮模擬授業の振り返りと学習指導案の改善

科目名	国語科指導法
英文科目名	Methods of Teaching about Japanese
担当者名	渡辺賢治
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED219

授業の概要と到達目標

小学校教員として、国語の授業を展開する上で必要となる技能や知識の修得を目標とする。学習指導要領に示された国語科の目標・内容・指導法について理解し、背景となる学問領域との関連も踏まえながら指導案作成に取り組む。そこから様々な学習指導理論を踏まえた授業場面を想定した、授業設計を行う方法を身につける。　本講義は、国語科指導法の修得を通して、高千穂大学の教員養成が目指す教員像の「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教員」を養成するための科目である。（事前に履修しておいたほうが望ましい科目）日本文学、日本文学史

授業の方法

『小学校学習指導要領解説 国語編』を踏まえ、各学年における「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった言語活動について確認する。また、毎回の授業において質疑応答（アクティブ･ラーニング）を実施し、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

予習と復習

（予習90分）『小学校　学習指導要領「国語」解説』や毎回の配布資料に目を通し、教材研究や学習場面に関する予習を行う。（復習90分）授業で学んだ内容について、その日のうちに整理・理解し、指導案作成・模擬授業に向けて備えておく。

テキスト等

文部科学省『小学校　学習指導要領「国語」解説』（東洋館出版社 2018年）　および、講義内の配付資料。　（参考文献）大内善一・渡邊洋子『小学校 国語科授業の創造』（渓水社 2013年）

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	10%	平常点	10%
その他Ⅰ（学習指導案作成）			40%	その他Ⅱ（模擬授業）			40%

各自、学習指導案を作成し、それに沿った模擬授業を行う。加えて、それらの考察をレポート課題として提出する。平常点には毎回の授業中に出す小課題（10分～15分程度）を含む（添削・返却し、個別にフィードバック）。出題時以外の小課題の提出は一切認めない。

授業計画

①イントロダクション―国語科の目標・内容・評価―
②教材研究と指導法（１）―説明文―
③教材研究と指導法（２）―物語文―
④国語科とＩＣＴ―効果的な活用―
⑤書写の指導法（毛筆・硬筆）
⑥学習指導案作成について
⑦小学校国語科における「伝統的言語文化」への認識や活用
⑧教師として求められる場面での「話すこと・聞くこと」の教材研究と指導法
⑨教師として求められる場面での「書くこと」「読むこと」の教材研究と指導法
⑩模擬授業（１）―低学年の物語文を中心に―
⑪模擬授業（２）―中学年の説明文を中心に―
⑫模擬授業（３）―中学年の物語文を中心に―
⑬模擬授業（４）―高学年の説明文を中心に―
⑭模擬授業（５）―高学年の物語文を中心に―
⑮まとめと総復習―適切な国語科指導法を身につける―

科目名	社会科指導法
英文科目名	Methods of Teaching about Social Studies
担当者名	鈴木隆弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED220

授業の概要と到達目標

本講義では､小学校社会科授業の指導法について､学習指導要領にもとづき、授業づくりの力を身につけ､指導計画及び学習指導案を作成し､授業化の方法を身につけることを目的とする。 講義前半では、学習指導要領に定められた社会科の目標及び内容を理解し、社会科全体の構造を理解すること、地域学習や歴史学習における指導上の留意点を把握し、社会科における学習評価について理解すること、また、地理学や歴史学、政治学などと社会科の関係について理解することを目標とする。講義後半では、授業づくりと模擬授業を通して、子どもと教材の関係を理解した上で、授業を設計できること、教材の適切な解釈と提示、適切な学習指導案を作成できること、これらを踏まえ、模擬授業を実施し、その振り返りから、各自の課題を見出し、自らの授業が改善できるようになることを目標とする。なお、模擬授業に際して、外部講師をお招きすることがある。 本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。

授業の方法

アクティブラーニングとして、一部授業回で学習指導案作成に向けたグループワーク、プレゼンテーション、模擬授業などの実習、フィールドワークを実施する。また、一部授業ではスマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を行うことがある。

予習と復習

予習（90分） 課題作成・学習指導案作成・模擬授業の準備に取り組むこと。復習（90分） 各授業の振り返りを各自で行い、添削された学習指導案の修正を行うこと。

テキスト等

文部科学省『小学校学習指導要領解説(平成29年告示)社会編』、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 社会』 ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教科書は教場で指示する

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%
学習指導案			40%	模擬授業			40%

1/3以上の欠席は単位認定しない｡平常点は小レポート等。小レポートは、返却せず全般的な所見を提示。学習指導案は、添削し返却して個別に評価と所見を提示。模擬授業は、個別に評価と所見を提示する。いずれも原則授業内で開示する。

授業計画

①小学校社会科教員に求められる力とは
②小学校学習指導要領社会編の概要・目標と全体構造
③学習指導要領１（地域学習と小学校３年生及び４年生の内容と方法、留意点）
④学習指導要領２（国土・産業学習と小学校５年生の内容と方法、留意点）
⑤学習指導要領３（歴史・政治・国際学習と小学校６年生の内容と方法、留意点）
⑥授業づくり１ －教材研究の方法（地理・歴史・政治学との関係から）－
⑦授業づくり２ －児童の実態にあわせた授業づくり－
⑧授業づくり３ －教育方法の観点から（電子黒板・タブレット端末等ICT機器の活用）－
⑨授業づくり４ －社会科における評価－
⑩教員による模擬授業と学習指導案の作成
⑪模擬授業 －地域学習－ （内容構成の観点から）
⑫模擬授業 －国土・産業学習－ （発問の観点から）
⑬模擬授業 －歴史学習－ （教材活用の観点から）
⑭模擬授業 －政治・国際学習－ （評価の観点から）
⑮模擬授業の反省と振り返り・外部講師による講評・改善した学習指導案の作成

科目名	算数科指導法
英文科目名	Methods of Teaching about Arithmetic
担当者名	牧一彦
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED221

授業の概要と到達目標	本科目は小学校学習指導要領に基づき、小学校算数科の指導内容や指導方法についての理解を深め、模擬授業の実施等を通して、教育実習での授業実践につながる資質能力を育むことをめざし、以下の目標で実施する。1. 小学校算数科の指導内容・目標を理解する。2. 小学校算数科の各領域における指導上の留意点を理解する。3. 小学校算数科における評価方法について理解する。4. 小学校算数科の指導案の作成し、模擬授業及び研究協議会を実施できる。本科目は、人間科学部のディプロマ・ポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる」力を修得する科目であり、本学の教職課程のねらい「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師の養成」を目指す科目である。なお、本科目の担当教員は小学校での教員経験を有している。その経験を活かしより具体的な算数科の実践例や指導法を示すとともに、数学的な見方・考え方を育てる算数指導の在り方について重点的に指導する。
授業の方法	1～9回では、講義や演習を通して資質・能力の育成を主眼とした算数指導の在り方を指導する。また、第10回以降の講義では、デジタル教科書を活用しつつ、アクティブ・ラーニングとして、グループワーク等を取り入れた協議や模擬授業の実施・協議に取り組む。
予習と復習	予習(90分)：テキストの該当箇所を読んでおくこと。復習(90分)：講義で学んだことをノートにまとめておくこと。また、第11回以降の講義では、模擬授業で用いるもの（指導案、掲示物等）を準備し、模擬授業後は協議で出てきた事柄を整理すること。
テキスト等	1. 文部科学省『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）算数編』（日本文教出版）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm からも閲覧可能）2. 新しい算数３年(東京書籍)令和７年版（旧版でも可）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	20%
	自作した学習指導案及び模擬授業			40%				0%
	出席回数が全体の2/3未満である場合、単位は認めない。【フィードバック】毎回の講義の振り返りや模擬授業に対する講評は、講義時に全体にフィードバックする。							

授業計画	
	①オリエンテーション（授業計画，評価についての説明）、自身の学習経験の省察
	②算数教育の目的・算数教育の目標の変遷　　算数科における資質・能力の育成
	③算数科における授業づくりの理論
	④「数と計算」領域の内容とその指導
	⑤「図形」領域の内容とその指導
	⑥「測定」「変化と関係」領域の内容とその指導
	⑦「データの活用」領域の内容とその指導
	⑧算数科における学習評価、算数科における教材研究（情報通信技術(ICT)の活用を含む）
	⑨指導計画・指導案の作成の方法とその作成　　デジタル教科書の活用法①
	⑩模擬授業の実施・協議①（領域全般）　デジタル教科書の活用法②
	⑪模擬授業の実施・協議②（「数と計算」領域等　）
	⑫模擬授業の実施・協議③（「図形」領域等　）
	⑬模擬授業の実施・協議④（「測定」「変化と関係」領域等　）
	⑭模擬授業の実施・協議⑤（「データの活用」領域等）
	⑮まとめと総復習

科目名	理科指導法
英文科目名	Methods of Teaching about Science
担当者名	鈴木岳人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED222

授業の概要と到達目標	学習指導要領に基づき、①小学校理科の教育目標・内容を体系的に理解すること、②児童の認識発達を考慮しながら、自然の事物・現象に関する問題を体験を通じて科学的に解決する資質・能力を学びとること、③理科の授業展開と指導法・評価法を習得することを目的とする。理科を学ぶことの大切さと面白さを伝えること、観察－仮説－実験－考察の流れで考えること、児童の発達に合わせた観察・実験の工夫と安全対策を行うこと、教材研究の手法などを理科模擬授業の実践を通じて学び取ってもらう。本講義は、理科指導法を通して、高千穂大学の教員養成が目指す教員像の「現代社会の要請に応え得る見識と力量をもった教員」を達成するための科目である。なお、２コマ開講ではあるが、履修者が少ないコマができると模擬授業の回数が増えて受講者の負担が増す可能性がある。極力単一のコマに集約してもらうことをお勧めする。
授業の方法	基本的にアクティブ・ラーニング授業である。指導案作成の実践的学び、模擬授業を通じて、小学校理科の教員として求められる基礎的資質を培ってもらう。履修者よる質疑応答、それにディスカッションより学んでもらう。また学んだ知識は、授業内テストで確認します。
予習と復習	予習（90分）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説：理科編』を読みこなしておくこと。　復習（90分）学習指導案の作成を中心とした模擬授業の準備、模擬授業から学んだことのまとめをしておくこと。
テキスト等	テキスト：小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月　文部科学省)参考書：安藤忠彦監修『小学校学習指導要領の解説と展開　理科編』（教育出版社）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	20%	平常点	40%
	レポートには学習指導案を含む			0%	平常点には模擬授業の評価を含む			0%
	模擬授業、学習指導案、他者の模擬授業レポート、それに授業内試験結果を総合的に評価する。授業内試験などの返却はしないが、全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画	①小学校学習指導要領理科の目標と内容/指導に求められる力
	②学習指導要領１（小学校理科第3学年・第4学年の目標及び内容/指導の留意点）
	③学習指導要領２（小学校理科第5学年・第6学年の目標及び内容/指導の留意点）
	④授業づくり１　（科学的な思考力と表現力）
	⑤授業づくり２　（安全な観察・実験）
	⑥授業づくり３　（観察・実験と問題解決の能力）
	⑦授業づくり４　（小学校理科におけるICT活用）
	⑧指導計画作成と内容取扱い１（指導計画作成上の配慮事項）
	⑨指導計画作成と内容取扱い２（内容の取扱いに関する配慮、事故防止と薬品の管理）
	⑩学習指導案の作成（内容の構成、発問の仕方、教材の活用、評価を含む）
	⑪模擬授業１（生命）
	⑫模擬授業２（地球）
	⑬模擬授業３（物質）
	⑭模擬授業４（エネルギー）
	⑮まとめと総復習（模擬授業振り返り・学習指導案の作成）

科目名	生活科指導法
英文科目名	Methods of Teaching about Life Studies
担当者名	鈴木隆弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED223

授業の概要と到達目標

小学校における生活科について理解し、その指導法を身に付け､小学校生活科の担当教員として求められる知識・資質・能力を身に付けることを本講義のテーマととする。　講義では、実際の授業づくりを教材にしながら、実践的な指導力を身につけることを目的とする。学習指導要領の基本的な内容等について理解し、指導上の留意点を把握、評価方法について身に付けた上で、低学年における児童の認識等について理解する。また、学習指導案の作成と模擬授業を通じ、生活科がその教科成立以降代わることのない、子どもたちの「自立」を促せる教員となることを目標とする。　本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。

授業の方法

アクティブラーニングとして、一部授業回にてグループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワークを行う。実習には栽培活動を含みます。

予習と復習

予習（90分）　事前に指示された課題について準備をしてくること。復習（90分）　指摘された事項についての修正を行うこと。

テキスト等

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編』、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　小学校　生活』その他教場で指示する。ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教科書は教場で指示する

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
学習指導案・単元指導計画案			40%	模擬授業			20%

1/3以上の欠席は単位認定しない。平常点は小レポート。返却して全般的な評価と所見を提示する。学習指導案・単元指導計画案は授業内で添削し返却して個別に評価と所見を提示、模擬授業は、単元指導計画案のプレゼン含む。個別に評価と所見を授業内で提示する。

授業計画

①生活科とは　－教科の歴史と「自立し生活を豊かにする」生活科－
②学習指導要領１　－教科の目標と全体構造－
③学習指導要領２　－学校、家庭及び地域の生活－
④学習指導要領３　－身近な人々、社会及び自然－□
⑤学習指導要領４　－自分自身の生活や成長－
⑥学習指導要領５　－方法的特徴と評価－
⑦授業づくり１　－低学年児童の特徴：その認識構造－
⑧授業づくり２　－気づき、思考・判断・表現、主体的に学びに向かう態度－
⑨授業づくり３　－気づきを促すための教材、ICT教材の活用、体験学習－
⑩授業づくり４　－学習指導案と評価規準－
⑪模擬授業と単元指導案づくり
⑫模擬授業「秋」　－「自然と自分」の観点から－
⑬模擬授業「まちたんけん」　－「社会と自分」の観点から－
⑭模擬授業「安全マップづくり」　－「人々と自分」の観点から－
⑮模擬授業の振り返りと学習指導案の改善

科目名	音楽科指導法
英文科目名	Methods of Teaching about School Music
担当者名	山本和寿
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED224

授業の概要と到達目標	本科目は、小学校音楽科学習指導要領の目標及び内容を的確に理解し、児童が主体的に音楽のよさや楽しさを感じ取り、自らの思いや意図をもって他者と協働する音楽科授業を計画・実践するための資質・能力を育成することを目的とする。あわせて、ICTの効果的な活用を踏まえ、これからの音楽科授業の在り方について考察し、本学が目指す「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師の養成」に資する。授業にあたっては、音楽科教員および学校管理職としての経験、ならびに教員研修の企画運営や公立小・中学校における教科研究に携わっている実務経験を生かし、理論と実践を関連付けた指導を行う。
授業の方法	小学校学習指導要領の内容をもとにした理論学習、教科書やデジタル指導書を用いた具体的な教材研究をする。課題解決学習（アクティブラーニング）で授業を構想し、実践を通して授業づくりの理解を深める。また、共通教材曲のピアノ伴奏練習に継続的に取り組む。
予習と復習	予習（９０分）次回の授業で取り上げる小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説音楽編の内容を読み要点をまとめる。復習（９０分）講義ごとの内容をふり返るレポートを提出する。
テキスト等	・個人で準備するもの、学習指導要領（平成２９年告示）解説音楽編、小学校音楽科教科書（教育芸術社）2年・3年・5年、ソプラノリコーダー（ジャーマンシステム）・授業毎に配布する参考資料、楽譜、ワークシート等。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	30%
	学習指導案			20%	模擬授業			20%
	毎授業のふり返りシートの内容、模擬授業における指導案やリフレクションシートの提出とその内容。振り返りシート等提出物は返却し個別に評価や所見を提示。４回以上欠席した場合単位は認めない。							

授業計画	
	①音楽科の目標と授業のあり方
	②音楽科の見方考え方
	③音楽科における題材構成
	④「歌唱」の活動における教材研究
	⑤「器楽」の活動における教材研究
	⑥「音楽づくり」の活動における教材研究
	⑦鑑賞の活動における教材研究
	⑧ICTの効果的な活用
	⑨音楽科の評価
	⑩学習指導案の作成
	⑪模擬授業：学習課題の設定、発問と児童への働きかけ
	⑫模擬授業：机間巡視の方法とグループ活動への関わり
	⑬模擬授業：歌唱、器楽の授業づくりと実践
	⑭模擬授業：音楽づくり、鑑賞の授業づくりと実践
	⑮まとめと総復習　音楽科における協働学習の実践

科目名	図画工作科指導法
英文科目名	Methods of Teaching about Arts and Crafts
担当者名	奥長英樹
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED225

授業の概要と到達目標	小学校の図画工作科における教育目標や育成すべき資質・能力について、演習を通して学ぶ。本学のディプロマポリシーである「教養と社会モラルを兼ね備えた人間教育を実践する」ために、造形活動を通じたコミュニケーションのあり方を理解し、子どもの発達段階に応じた豊かな視点や表現の多様さを尊重した指導力を身につけること、また小学校学習指導要領に示された目標、内容を理解した上で、適切な授業設計や演習をおこなう能力を修得することを目指す。情報通信技術を活用し、視覚的な題材開発も行う。
授業の方法	講義と演習、また、模擬授業や図画工作の学習活動に実際に取り組むアクティブ・ラーニングを通して学ぶ。また、情報通信技術を活用し、図画工作科の指導案等を作成する。また、個々のPBLと必然的なディスカッションにより、履修者も主体的に学べるような方法を取る。
予習と復習	予習・復習については、その都度授業内で指示する。復習は主にその授業の振り返りを記録していく。
テキスト等	テキストはその都度の学習により示す。原則自作の資料等を使用する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%
	その都度の造形課題提出			30%	学習指導案提出と模擬授業の実施			50%
	授業の記録・模擬授業の授業設計・年間指導計画作成などを行い、そこにコメント等でフィードバックしながら評価する。							

授業計画	①図画工作科の目標及び内容
	②図画工作科における評価及び指導の実際
	③表現活動と評価（造形遊び）
	④表現活動と評価（絵）
	⑤表現活動と評価（立体）
	⑥表現活動と評価（工作）
	⑦鑑賞活動と対話型鑑賞（地域連携をふまえて）
	⑧授業設計（各学年の特徴をふまえた情報機器及び教材の活用）
	⑨授業設計（他教科との連携をふまえた情報機器及び教材の活用）
	⑩学習指導案作成（題材開発と指導の工夫）
	⑪学習指導案作成（効果的な手立てと学習目標の設定）
	⑫学習指導案作成（学習の評価）
	⑬模擬授業の発表と討議
	⑭年間指導計画の作成　カリキュラム・マネジメント
	⑮図画工作の学習指導法　まとめ

科目名	家庭科指導法
英文科目名	Methods of Teaching about Home Economics Education
担当者名	横山みどり
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED226

授業の概要と到達目標

学習指導要領における小学校家庭科の目標、内容構成並びに内容を、児童の実態を踏まえて理解することができる。また、児童の手の巧緻性や心身の発達を踏まえ、安全に配慮しつつそのよさを引き出す授業のつくり方、活動の進め方、評価の仕方などについての要点を、つかみ、主体的に授業を計画・運営できる力を付ける。　小学校における長年の教員経験(現在を含む)を活かし、今日的な課題（Well-being・児童虐待の増加　など)に配慮した授業づくりや、実際の授業場面について指導する。これは、本学が目指す「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師の養成」と重なるところが大きい。

授業の方法

授業の立案の仕方を学ぶとともに、他の受講生に対して模擬授業を行う。個々の指導案や模擬授業について受講者同士で意見を交換（アクティブラーニング）し高め合う。

予習と復習

予習(90分):模擬授業の取り組みは各自が調べ指導案の作成や資料の準備などを進めていく。自分が工夫したことや上手くいかない点など、他の受講生が模擬授業を受ける視点を考える。復習(90分):授業で話し合ったことをもとに自分の課題を検討し、更に必要な点を調べる。

テキスト等

テキスト：小学校学習指導要領解説　家庭編（平成29年6月　文部科学省）その他に適宜プリントを配布するので、Ａ４サイズのファイルを用意すること。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%
課題提出			30%	授業指導案作成と模擬授業			50%

３分の１以上の欠席は単位を認めない。（オンラインの場合は課題提出を出席とみなす）

授業計画

①子どもと家庭科
②子どもの実態と学習指導要領（目標、内容構成）
③「身近な消費生活」の内容と方法(小学校の消費者教育とは?)
④「身近な消費生活と環境」の授業づくり実習
⑤食生活教育の内容と方法(家庭科の食育とは?)
⑥調理の基礎・基本と実習(洗う、切る、加熱する、盛り付ける)
⑦実習指導の実際、教材づくり(調理題材①)(野菜の調理、ゆでる・炒める)
⑧実習指導の実際、教材づくり(調理題材②)(炊飯・味噌汁作り)
⑨実習指導の実際、教材づくり(被服題材①)(布の特徴と裁縫の基礎)
⑩実習指導の実際、教材づくり(被服題材②)(ミシン縫いで教材製作)
⑪住生活教育の内容と方法
⑫年間指導計画、指導案の立て方、授業における情報通信技術の効果的な活用
⑬模擬授業づくり
⑭模擬授業相互評価
⑮評価の方法、講義のまとめ

科目名	体育科指導法
英文科目名	School of Health & Physical Education
担当者名	上條眞紀夫
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED227

授業の概要と到達目標	本授業は、担当教員の学校現場での実務経験を活かし、すぐに現場で使える体育授業の指導方法についてわかりやすく指導する。小学校における体育科の授業の目的・内容・方法について理解し、学習指導要領の領域ごとの視点から具体的な目的・内容・方法について模擬授業の体験や実技を中心に経験していくことでより深い理解へと繋げていく。　また、それらの模擬授業・実技や内容理解を通して小学校教員として必要な知識と技能を身につける。本学の学部ディプロマポリシーの１つである「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる力」を身につけるための科目である。　遠隔授業を行う場合、安全確保のために、運動を行う場合はケガ等に十分注意して行い、万が一ケガ等が生じた場合は、速やかにグーグルクラスルームにて連絡すること。授業計画は、順不同で行い、授業準備に支障が無いようにする。
授業の方法	授業は講義と模擬授業を組み合わせて行う。模擬授業は学生のグループワークを主体として授業を展開するアクティブラーニングを展開する。自立的な学習を促進するためレポート課題に取り組み、その内容の質疑を交えた双方向的な学習を展開する。
予習と復習	予習として、テキストに記載されている課題に事前に取り組むと共に模擬授業の準備をする。予習（90分）実際に学んだ運動ができるように繰り返し練習したり、テキストに記載されている事後課題に取り組んだりする。復習（90分）
テキスト等	初等体育の指導　白鴎社　上條眞紀夫　　文部科学省「学習指導要領解説体育編」東洋館出版（2017年）＊必ず授業前に購入する。テキストがない場合は授業に支障が出るため、受講出来ません。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	10%	レポート	30%	平常点	20%
	実技・模擬授業			20%	学習指導案			20%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】　毎授業ごとに授業内レポートについてコメントつけて返却し質問について解説する。学習指導案は、指導案に修正点を指摘し、それをもとに修正指導案を書いて提出することとする。							

授業計画	①オリエンテーション　体育科の目標と内容、学習指導案の作り方
	②模擬授業の見本、よい体育授業の条件と教師の役割、ICT機器のシンプルな使い方
	③模擬授業　体つくり運動の指導と方法　　体ほぐしの運動遊び
	④模擬授業　低～中学年のマット運動の指導と方法
	⑤模擬授業　高学年のマット運動の指導と方法
	⑥模擬授業　低～中学年の跳び箱運動の指導と方法
	⑦体育授業を観察評価する　期間記録、ICT機器の活用
	⑧模擬授業　なわとびの指導と方法
	⑨模擬授業　用具を使った運動遊びの指導と方法
	⑩模擬授業　おに遊びの指導と方法
	⑪模擬授業　ボール運動ゴール型の指導と方法
	⑫模擬授業　ボール運動ネット型の指導と方法
	⑬模擬授業　体つくり運動の指導と方法　　用具を使った運動遊び（投げる・捕る）
	⑭体育授業を観察評価する　フィードバック行動
	⑮まとめ・模擬授業の反省と振り返り

科目名	道徳教育論(小学校免許用)
英文科目名	Principle of Moral Education
担当者名	松丸啓子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED228

授業の概要と到達目標	本講義においては、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けます。こうした学習は、本学における教員養成の目標の一つである「商学をはじめ、教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教員の養成」の基盤を形成するものとしても意義を持つものです。※履修生からの要望がある場合には、外部講師を招いた特別講義を実施する予定です。
授業の方法	前半は、授業計画に従って配布資料や板書内容を手がかりに講義を行います。後半は、受講生各自による道徳教育に関する教材研究報告を手がかりにディスカションを実施するという、アクティブラーニング形式で授業を展開します。
予習と復習	「予習（90分）」：講義前には、配布したプリントに目を通し、学習する内容を予習してくるようにしましょう。 「復習（90分）」：講義後には、プリントやノートを整理しながら、講義内容を復習しておきましょう。
テキスト等	小学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）小学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編　（平成29年6月文部科学省）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
	教材研究・模擬授業			60%				0%
	平常点として、講義中の質疑に対する応答やディスカションへの参加状況等を評価の対象とします。１／３以上欠席の場合は評価の対象としません。上記の方法で総合的に評価します。							

授業計画	①道徳教育の意義と原理
	②日本の道徳教育(1)明治期
	③日本の道徳教育(2)大正期
	④日本の道徳教育(3)昭和期
	⑤日本の道徳教育(4)平成期
	⑥世界の道徳教育(総論)
	⑦世界の道徳教育(各論)
	⑧現代の道徳教育の課題
	⑨教材研究(1)小学１・２・３年
	⑩教材研究(2)小学４・５・６年
	⑪学習指導案(1)小学１・２・３年
	⑫学習指導案(2)小学４・５・６年
	⑬模擬授業(1)小学１・２・３年
	⑭模擬授業(2)小学４・５・６年
	⑮まとめと総復習

科目名	道徳教育論(中･高校免許用)
英文科目名	Principle of Moral Education
担当者名	松丸啓子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED228

授業の概要と到達目標	本講義においては、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けます。こうした学習は、本学における教員養成の目標の一つである「商学をはじめ、教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教員の養成」の基盤を形成するものとしても意義を持つものです。※履修生からの要望がある場合には、外部講師を招いた特別講義を実施する予定です。
授業の方法	前半は、授業計画に従って配布資料や板書内容を手がかりに講義を行います。後半は、受講生各自による道徳教育に関する教材研究報告を手がかりにディスカションを実施するという、アクティブラーニング形式で授業を展開します。
予習と復習	「予習（90分）」：講義前には、配布したプリントに目を通し、学習する内容を予習してくるようにしましょう。 「復習（90分）」：講義後には、プリントやノートを整理しながら、講義内容を復習しておきましょう。
テキスト等	中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）中学校学習指導要領解説　道徳編（平成27年7月　文部科学省）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
	教材研究・模擬授業			60%				0%
	平常点として、講義中の質疑に対する応答やディスカションへの参加状況等を評価の対象とします。１／３以上欠席の場合は評価の対象としません。上記の方法で総合的に評価します。							

授業計画	①道徳教育の意義と原理
	②日本の道徳教育(1)明治期
	③日本の道徳教育(2)大正期
	④日本の道徳教育(3)昭和期
	⑤日本の道徳教育(4)平成期
	⑥世界の道徳教育(総論)
	⑦世界の道徳教育(各論)
	⑧現代の道徳教育の課題
	⑨教材研究(1)中学１～２年
	⑩教材研究(2)中学２～３年
	⑪学習指導案(1)中学１～２年
	⑫学習指導案(2)中学２～３年
	⑬模擬授業(1)中学１～２年
	⑭模擬授業(2)中学２～３年
	⑮まとめと総復習

科目名	特別活動(小学校免許用)
英文科目名	Extra Curricular Activities
担当者名	鈴木隆弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED230

授業の概要と到達目標

特別活動は、学校生活や学級生活において生じるさまざまな課題解決を行い、望ましい集団を形成し、よりよい学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。　本講義においては、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点をふまえ、活動領域ごとの違い、低学年・中学年・高学年といった学年における違いを理解し、各教科等との関連性、地域住民との連携や学校における組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえ、その指導に必要とされる知識や素養を身に付けることを目的とする。本講義では、教育課程における「特別活動」について、①その役割と意義を理解すること、②学習指導要領にある「人間関係形成」などの視点をふまえた学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事が展開できること、③各活動領域の意義等を理解することを目標とする。　本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。

授業の方法

アクティブラーニングとして、一部授業回で、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習を行う。また、一部授業ではスマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を行うことがある。

予習と復習

予習（90分）　課題に取り組む。復習（90分）　学習指導要領解説の読み直し及び、添削された学習指導案の修正、模擬授業で指摘された事項の改善を行う。

テキスト等

文部科学省『小学校学習指導要領解説(平成29年告示)特別活動編』、国立教育政策研究所教育課程研究センター編『みんなで,よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)（特別活動指導資料）』、その他教場で指示する。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
学習指導案			30%	模擬授業			30%

1/3以上の欠席は単位認定しない。平常点は、学習指導案以外の課題、返却せずに全般的な評価と所見を提示。学習指導案は添削し返却して個別に評価と所見を提示、模擬授業は返却して個別に評価と所見を提示する。いずれも授業内で開示する。

授業計画

①特別活動の基本的性格　－学校における特別活動の意味－
②教育課程上における特別活動の意味
③特別活動の目標　－「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点からー
④特別活動の活動内容１　－学級活動－
⑤特別活動の活動内容２　－児童会活動－
⑥特別活動の活動内容３　－クラブ活動と学校行事－
⑦特別活動と他教科等の関係
⑧年間指導計画の検討　－学校全体の教育計画と特別活動の位置－
⑨児童の学校生活と話し合い活動の計画　－PDCAサイクルと特別活動－
⑩模擬学級会
⑪学習指導案の作成
⑫模擬授業（１）　－学級活動内容（２）　食育を中心に－
⑬模擬授業（２）　－学級活動内容（３）　キャリア教育－
⑭チーム学校と学校行事を中心とした地域住民等との連携
⑮全体のまとめと模擬学級会・模擬授業の振り返り

科目名	特別活動(中･高校免許用)
英文科目名	Extra Curricular Activities
担当者名	鈴木隆弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED230

授業の概要と到達目標

特別活動は、学校生活や学級生活において生じるさまざまな課題解決を行い、望ましい集団を形成し、よりよい学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。　本講義においては、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点をふまえ、活動領域ごとの違い、中学校・高等学校といった学校段階、各学校段階に学年の違いを理解し、各教科等との関連性、地域住民との連携や学校における組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえ、その指導に必要とされる知識や素養を身に付けることを目的とする。　本授業では、教育課程における「特別活動」について、①その役割と意義を理解すること、②学習指導要領にある「人間関係形成」などの視点をふまえた学級活動（ホームルーム活動）・生徒会活動・学校行事が展開できること、③各活動領域の意義等を理解することを目標とする。　本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。

授業の方法

アクティブラーニングとして、一部授業回で、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習を行う。また、一部授業回ではスマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を行うことがある。

予習と復習

予習（90分）　教場で指示された課題に取り組むこと。復習（90分）　指摘・添削されたものを修正すること。また、授業内容についてプリントをもとに復習すること。

テキスト等

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説　特別活動編』、文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説　特別活動編』、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校特別活動』他

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
学習指導案			30%	模擬授業			30%

1/3以上の欠席は単位認定しない。平常点は、学習指導案以外の課題、返却せずに全般的な評価と所見を提示。学習指導案は添削し返却して個別に評価と所見を提示、模擬授業は授業内で個別に評価と所見を提示する。

授業計画

①特別活動の基本的性格　－学校における特別活動の意味－

②教育課程上における特別活動の意味

③特別活動の目標　－「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点から－

④特別活動の活動内容１　－学級活動・ホームルーム活動－

⑤特別活動の活動内容２　－生徒会活動－

⑥特別活動の活動内容３　－学校行事、部活動の取扱い－

⑦特別活動と他教科等の関係

⑧年間指導計画と学習指導案の検討　－学校全体の教育計画と特別活動の位置－

⑨話し合い活動を通じたクラス・ホームルームづくり　－PDCAサイクルと特別活動－

⑩修学旅行の計画を立てよう（１）　―話し合い活動の準備－

⑪修学旅行の準備をしよう（２）　―話し合い活動の実施及び反省－

⑫模擬授業（１）　－学級活動内容（２）　ボランティア活動の意義を中心に－

⑬模擬授業（２）　－学級活動内容（３）　キャリア教育・就職指導を中心に－

⑭チーム学校と学校行事を中心とした地域住民等との連携

⑮まとめと振り返り

科目名	教育方法(小学校免許用) 教育方法（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）（小学校免許用）
英文科目名	Methods of Teaching about Education
担当者名	望月耕太
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED232

授業の概要と到達目標	現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師として、子どもたちの発達過程を理解すると共に、子どもたちがより良く生きていくために求められる資質・能力を育成するために、どのような教授法、学習形態や教育評価があるのかを知る。次に、教育の目的に適した指導技術を理解し、授業設計のあり方と授業設計を支える教材の研究・開発について学ぶ。その上で、情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な知識・方法、校務の推進の在り方に対する理解を深め、情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法について学修する。
授業の方法	基本的には講義形式で進めるが、アクティブラーニングとして、受講者同士でのディスカッションや発表を行う。そして、適宜課題レポートの提出を求める。
予習と復習	・予習：書籍やインターネットなどをもとに授業テーマに関連する事柄を調べ、自分の意見を他の受講者に発表できるようにまとめてくる。（90分）・復習：授業で扱った内容や授業中に話した内容を整理し、理解を深める。（90分）
テキスト等	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』、その他適宜、プリントを配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	80%
				0%				0%
	授業における演習や発表会への参加状況と課題レポートで評価する。							

授業計画
①シラバスの記載事項についての確認、教育方法を学ぶ意義と授業目標
②児童に求められる能力とその能力を育成するための教育方法
③初等教育における教育方法の思想と歴史
④学習科学の知見に基づく初等教育における教育理論と実践
⑤初等教育の授業における発問と板書の意義
⑥初等教育における教育評価の理論と実践
⑦初等教育における学習指導案を作成するための教材の研究・開発の方法
⑧初等教育にICTを活用する意義
⑨初等教育における情報モラル
⑩情報通信技術に関わる教育支援人材との連携による初等教育実践
⑪オンラインによる初等教育の授業の意義や実践例
⑫デジタル教材やインターネットを活用した初等教育実践
⑬LMS等の教育データ・校務システムを活用した初等教育実践
⑭個々の児童に応じた指導を実現するためのICT活用
⑮まとめと総復習

科目名	教育方法(中･高校免許用) 教育方法（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）（中・高校免許用）
英文科目名	Methods of Teaching about Education
担当者名	望月耕太
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED232

授業の概要と到達目標	現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師として、子どもたちの発達過程を理解すると共に、子どもたちがより良く生きていくために求められる資質・能力を育成するために、どのような教授法、学習形態や教育評価があるのかを知る。次に、教育の目的に適した指導技術を理解し、授業設計のあり方と授業設計を支える教材の研究・開発について学ぶ。その上で、情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な知識・方法、校務の推進の在り方に対する理解を深め、情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法について学修する。
授業の方法	基本的には講義形式で進めるが、アクティブラーニングとして、受講者同士でのディスカッションや発表を行う。そして、適宜課題レポートの提出を求める。
予習と復習	・予習：書籍やインターネットなどをもとに授業テーマに関連する事柄を調べ、自分の意見を他の受講者に発表できるようにまとめてくる。（90分）・復習：授業で扱った内容や授業中に話した内容を整理し、理解を深める。（90分）
テキスト等	文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編」，文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編」、その他適宜、プリントを配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	80%
				0%				0%
	授業における演習や発表への参加状況と課題レポートで評価する。							

授業計画	①シラバスの記載事項についての確認、教育方法を学ぶ意義と授業目標
	②生徒に求められる能力とその能力を育成するための教育方法
	③中等教育における教育方法の思想と歴史
	④学習科学の知見に基づく中等教育における教育理論と実践
	⑤中等教育の授業における発問と板書の意義
	⑥中等教育における教育評価の理論と実践
	⑦中等教育における学習指導案を作成するための教材の研究・開発の方法
	⑧中等教育にICTを活用する意義
	⑨中等教育における情報モラル
	⑩情報通信技術に関わる教育支援人材との連携による中等教育実践
	⑪オンラインによる中等教育の授業の意義や実践例
	⑫デジタル教材やインターネットを活用した中等教育実践
	⑬LMS等の教育データ・校務システムを活用した中等教育実践
	⑭個々の生徒に応じた指導を実現するためのICT活用
	⑮まとめと総復習

科目名	生徒指導論(小学校免許用)
英文科目名	Student　Instruction
担当者名	崔玉芬
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED234

授業の概要と到達目標	人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び，生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を育成するための科目である。生徒指導は学校教育現場において，教科指導とともに大切な教育活動である。変化の激しい社会において，今日の教育では子どもたちの「生きる力」を育むことが求められている。授業では，生徒指導の概念，理念，意義，組織と運営，方法などの知識を身につける。人間の成長と発達において，現代の児童・生徒が抱えている問題を理解したうえで，教師として生徒理解と支援方法について，具体的な事例を用いて理解，考察する。生徒指導において，他の教職員や関係機関と連携をしながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。現場経験豊かな外部講師を招き、現場での取組みについて理解を深める。＜到達目標＞（1）生徒指導の意義や原理を理解する。（2）現代の児童・生徒が抱えている問題や生徒指導上の課題を理解する。（3）児童・生徒を支援・指導する基礎力を身につく。（4）児童・生徒指導のあり方を理解する。
授業の方法	講義形式。授業時に，グループワーク，ディスカッション，ペア学習などのアクティブラーニングを行う。また，一部の授業においては，教育現場経験豊かな外部講師を招き，教育現場の話を伺うこともある。
予習と復習	予習（90分）：シラバス記載の当該章に目を通し，キーワードを調べてまとめる。復習（90分）：授業で配布した資料やノートを再読し，授業内容を見直す。
テキスト等	教科書：使用しない。必要に応じてレジュメを配布する。参考書：石隈利紀・庄司一子（編）『生徒指導とカウンセリング』共同出版　　文部科学省『生徒指導提要』　ほかの参考書は講義中に紹介する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	第8回目と15回目に授業内試験を実施する。全体評価の80%を占めるため，基本的にその回の授業に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取組みも含まれる。欠席の合計が5回以上は不合格とする。							

授業計画	①生徒指導の歴史と発展，意義と必要性
	②生徒指導の計画，実践，課題
	③生徒指導の組織と運営
	④生徒指導における組織的取組み―危機管理
	⑤積極的な生徒指導
	⑥生徒指導と子どもの発達、適応
	⑦生徒指導における今日的な課題
	⑧授業内試験①と解説
	⑨生徒指導の事例①不登校
	⑩生徒指導の事例②いじめ
	⑪生徒指導の事例③反社会的行動
	⑫生徒指導の事例④発達障害
	⑬生徒指導における予防的取組み①構成的グループエンカウンター
	⑭生徒指導における予防的取組み②対人関係ゲーム
	⑮授業内試験②と総まとめ

科目名	生徒指導論(中･高校免許用)
英文科目名	Student　Instruction
担当者名	崔玉芬
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED234

授業の概要と到達目標	人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び，生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を育成するための科目である。生徒指導は学校教育現場において，教科指導とともに大切な教育活動である。変化の激しい社会において，今日の教育では子どもたちの「生きる力」を育むことが求められている。生徒指導の概念，理念，意義，組織と運営，方法などの知識を身につける。人間の成長と発達において，現代の児童・生徒が抱えている問題を理解したうえで，教師として生徒理解と支援方法について，具体的な事例を用いて理解，考察する。また授業では，生徒指導において，他の教職員や関係機関と連携をしながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。現場経験豊かな外部講師を招き、現場での取組みについて理解を深める。＜到達目標＞（1）生徒指導の意義や原理を理解する。（2）現代の児童・生徒が抱えている問題や生徒指導上の課題を理解する。（3）児童・生徒を支援・指導する基礎力を身につく。（4）児童・生徒指導のあり方を理解する。
授業の方法	講義形式。授業時に，グループワーク，ディスカッション，ペア学習などのアクティブラーニングを行う。また，一部の授業においては，教育現場経験豊かな外部講師を招き，教育現場の話を伺うこともある。
予習と復習	予習（90分）：シラバス記載の当該章に目を通し，キーワードを調べてまとめる。復習（90分）：授業で配布した資料やノートを再読し，授業内容を見直す。
テキスト等	教科書：使用しない。必要に応じてレジュメを配布する。参考書：石隈利紀・庄司一子（編）『生徒指導とカウンセリング』共同出版　　文部科学省『生徒指導提要』　　ほかの参考書は講義中に紹介する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	第8回目と15回目に授業内試験を実施する。全体評価の80%を占めるため，基本的にその回の授業に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取組みも含まれる。欠席の合計が5回以上は不合格とする。							

授業計画	①生徒指導の歴史と発展，意義と必要性
	②生徒指導の計画，実践，課題
	③生徒指導の組織と運営
	④生徒指導における組織的取組み―危機管理
	⑤積極的な生徒指導
	⑥生徒指導と子どもの発達、適応
	⑦生徒指導における今日的な課題
	⑧授業内試験①と解説
	⑨生徒指導の事例①不登校
	⑩生徒指導の事例②いじめ
	⑪生徒指導の事例③反社会的行動
	⑫生徒指導の事例④発達障害
	⑬生徒指導における予防的取組み①構成的クループエンカウンター
	⑭生徒指導における予防的取組み②対人関係ゲーム
	⑮授業内試験②と総まとめ

科目名	教育相談の基礎(小学校免許用)
英文科目名	Consultaition of Educational Counseling
担当者名	崔玉芬
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED236

授業の概要と到達目標	＜講義概要＞人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を育成するための科目である。教育相談の理論と技法および生徒理解の方法を学習し，実際の学校現場で生徒に相談活動を行うための知識を身につける。ビデオ視聴による事例検討，ペアワーク，グループワーク，ロールプレイングなどのアクティブラーニングを通して，生徒への援助の技術を学習・習得する。学校で生じる「問題行動」だけでなく，学校に持ち込まれる家族や仲間関係の問題，発達障害の支援等にも触れ，連携の必要性・方法や守秘義務，職業倫理の問題など，教育相談をめぐる諸問題についても理解を深める。現場経験豊かな外部講師を招き、現場での取組みの理解を深める。＜到達目標＞(1)教育相談の意義と理論について説明できる。(2)「聴く」，「話す」などカウンセリングの基本的かかわり技法を習得し実行することができる。(3)子ども理解のために必要な知識と方法及び今日の教育的課題について心理学的視点から説明できる。
授業の方法	講義形式の授業となる。授業時にロールプレイや模擬事例を用いたグループワーク（アクティブ・ラーニング）を取り入れる。また，一部の授業においては，教育現場経験豊かな外部講師を招き，教育現場の話を伺うこともある。
予習と復習	予習（90分）：シラバス記載の当該章に目を通し，キーワードを調べてまとめる。復習（90分）：授業で配布した資料やノートを再読し，授業内容を見直す。
テキスト等	教科書：使用せず、必要に応じてレジュメ配布。参考書：庄司一子（監）杉本希映・五十嵐哲也（編）(2010)「児童・生徒への指導と援助」ナカニシヤ出版　　石隈利紀・庄司一子（編）（2014）「生徒指導とカウンセリング」協同出版　ほかの参考書は講義中紹介

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	第8回目と15回目に授業内試験を実施する。全体評価の80%を占めるため，基本的にその回の授業に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取組みも含まれる。欠席の合計が5回以上は不合格とする。							

授業計画
①教育相談とは
②教育相談における心理教育的アセスメント
③カウンセリング技法①―非言語的側面に関わる技法
④カウンセリング技法②―傾聴
⑤カウンセリング技法③―質問の仕方
⑥カウンセリング技法④―励まし，言いかえ，要約，意味の反映，感情の反映
⑦チーム援助とコンサルテーション
⑧授業内試験①と解説
⑨自己理解と他者理解
⑩心理療法
⑪ストレス・マネジメント①ストレスとは
⑫ストレス・マネジメント②ストレスへの対処
⑬心理的成長を促し問題を未然に防ぐ心理教育
⑭心理教育の実践
⑮授業内試験②と総まとめ

科目名	教育相談の基礎(中･高校免許用)
英文科目名	Consultaition of Educational Counseling
担当者名	崔玉芬
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED236

授業の概要と到達目標	いじめや不登校・非行などの学校現場で直面する諸問題から、その行動を理解する心理学理論の学習と関わり方について検討する。また生徒の自己有用感や問題対処能力を上げるための開発的教育相談の知識を身に付けることも到達目標とする。このためｸﾞﾙｰﾌﾟｴﾝｶｳﾝﾀｰ・ﾋﾟｱｻﾎﾟｰﾄといった、開発的教育相談活動の指導案作成能力も到達目標とする。さらに模擬授業を通じて、教育相談の計画の作成や、校内外の組織的な取り組みを計画する能力を獲得することを到達目標とする。次にﾛｰﾙﾌﾟﾚｲを通じて、児童生徒のSOSのｻｲﾝに気づく能力などの予防的教育相談を学ぶのみならず、問題解決的教育相談実施のための、ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞﾏｲﾝﾄﾞの必要性や、来談者中心的療法に基づくｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ技法の獲得を到達目標とする。特に言語化が不得意な小学生と比べ、言語による交流がある程度可能な中高生への教育相談能力獲得のため、口頭面談における注意事項や、受け答えの際の技法といった知識・能力の獲得に力を入れる。個性化・多様化する社会で適切なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを交わすことができるﾏｲﾝﾄﾞとｽｷﾙ・行動力・企画力を身につけた人材を育成するための科目である。
授業の方法	講義形式の授業となる。授業時にロールプレイや模擬事例を用いたグループワーク（アクティブ・ラーニング）を取り入れる。また，一部の授業においては，教育現場経験豊かな外部講師を招き，教育現場の話を伺うこともある。
予習と復習	予習（90分）として、シラバスに記載されているキーワードを調べ、まとめておくこと。また、2回目以降からは、テキストの関係する章を読んでおくことが望ましい。復習（90分）として、授業で配付された資料や、テキストの関係する章を再読すること。
テキスト等	教科書：使用せず、必要に応じてレジュメ配布。参考書：庄司一子（監）杉本希映・五十嵐哲也（編）(2010)「児童・生徒への指導と援助」ナカニシヤ出版　　石隈利紀・庄司一子（編）（2014）「生徒指導とカウンセリング」協同出版　ほかの参考書は講義中紹介

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	第8回目と15回目に授業内試験を実施する。全体評価の80%を占めるため，基本的にその回の授業に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取組みも含まれる。欠席の合計が5回以上は不合格とする。							

授業計画
①教育相談とは
②心理教育的アセスメント
③カウンセリング技法①ー非言語的コミュニケーション
④カウンセリング技法②ー傾聴
⑤カウンセリング技法③ー質問
⑥カウンセリング技法④ー励まし，言いかえ，要約，意味の反映，感情の反映
⑦チーム援助とコンサルテーション
⑧授業内試験①と解説
⑨自己理解と他者理解
⑩心理療法
⑪ストレス・マネジメント①ストレスとは
⑫ストレス・マネジメント②ストレスへの対処
⑬心理的成長を促し問題を未然に防ぐ心理教育
⑭心理教育の実践
⑮授業内試験②と解説

科目名	進路指導(小学校免許用)
英文科目名	Career Guidance and Counseling
担当者名	赤羽根和恵
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED238

授業の概要と到達目標	【授業の概要】　進路指導とそれを含むキャリア教育の意義や支援を理解することを目的とする。進路指導・キャリア教育の教育課程上の位置づけ、キャリア・パスポートの活用、キャリアガイダンスとキャリアカウンセリングの理論や方法を学ぶ。また、職業体験や近年の若者の労働問題などの現状を理解し、それらを踏まえた授業計画、キャリアガイダンス、キャリアカウンセリングを含む進路指導・キャリア教育に取り組む力を身につける。本授業は、人間科学部のディプロマポリシー「人間の生涯にわたる成長・発達を支援し、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」を育成するための科目であり、現代社会の要請に応えうる見識と力量を備えた教師の養成を目指す。外部講師を招聘する場合がある。　【到達目標】　・教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけを理解できるようになる。　・学校の教育活動全体を通じた進路指導・キャリア教育の視点と指導の在り方を例示できる。　・進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制や、家庭・関係機関との連携の在り方を理解できる。
授業の方法	グループワークを複数回設ける。アクティブ・ラーニング（演習・ディスカッション・発表・リアクションペーパー等）を重視。期中と第15回にオンデマンド授業を行い、その案内は授業内とGoogle Classroomを利用する。職業レディネステスト受検料（400円余）の負担あり。
予習と復習	・予習（90分）：事前配布資料を読み、ポイントまとめておくこと。・復習（90分）：授業内容を振り返り、トピックスに関する時事問題等を調べて、自分の視野を広げること。
テキスト等	教科書：使用しない。必要に応じて資料を配布する。・参考資料：文部科学省．学習指導要領（平成29年・30年告示）準拠「小学校キャリア教育の手引き（2022年3月）」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_01951.html

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	10%
	授業貢献度（発言・積極性）			20%				0%
	・授業回数の3分の2以上の出席（リアクションペーパー等の提出を含む）を評価の前提条件として、上記内容で総合的に評価する。・試験・レポート等のフィードバック：提出された答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画	
	①進路指導の概念と授業方針
	②キャリアの概念
	③カウンセリングの概念
	④進路指導の歴史的展開
	⑤進路指導の理論的基礎：３つのアプローチ①
	⑥進路指導の理論的基礎：３つのアプローチ②
	⑦進路指導の事例検討、グループワーク
	⑧職業レディネステスト受検体験
	⑨職業レディネステスト結果による自己探索体験、発表
	⑩キャリア教育の概念と目的
	⑪キャリア教育と実践計画、キャリア・パスポートの活用
	⑫キャリアカウンセリングのプロセスと求められる態度、事例検討、グループワーク
	⑬職業体験・インターンシップと現代の労働問題
	⑭授業内試験・解説
	⑮まとめと総復習（オンデマンド授業）：進路指導によるキャリア形成支援

科目名	教育実践研究A(小学校免許用)
英文科目名	Study of Educational Practice A
担当者名	山田良一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED301

授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる教員となるための見識や力量を培う教師の養成」を目的とする。教育実践研究は３年次の秋学期に「教育実践研究A」、４年次の春学期に「教育実践研究B」として継続的に行われる。「教育実践研究A」は、教育実習のための事前指導を長年の教育現場での経験を活かし行う。本科目では教育実習の意義と制度を理解するとともに、教師の資質や専門性について考察し、模擬授業とその準備を通じて実習生としての授業力を養う。教育実習生として学校の教育活動に参画できる水準にまで、意識や技量を高めることが到達目標である。必要に応じて外部講師を招聘することがある
授業の方法	この授業では、Google classroomを用いて双方向の授業を実施する。また、教育実習を想定し、アクティブラーニング（模擬授業、プレゼンテーション、ディスカッション）を中心に授業を進める。
予習と復習	予習（90分）事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をノートにまとめておくこと。復習（90分）模擬授業を振り返り、さらなる教材研究と指導案作成および修正を行うこと。
テキスト等	教科書：なし。参考書：授業時にプリントを配布し、適宜指示する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	0%
	模擬授業			50%				0%
	欠席回数が3回以上の場合、不合格とする。遅刻・早退は２回で、欠席１回として扱う。模擬授業の評価には指導案に関する評価を含める。授業内で個別に所見を提示する。レポートは、返却して全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①教育実習までのプロセスと教育実習の実際
②実習録の書き方、授業観察の視点
③教員採用試験演習①
④教員採用試験演習②
⑤模擬授業①―発問
⑥模擬授業②―指名
⑦模擬授業③―グループワーク
⑧模擬授業④―板書
⑨教育実習の事前打ち合わせ、準備状況のチェック
⑩模擬授業⑤
⑪模擬授業⑥
⑫模擬授業⑦
⑬教育実習の一日の流れ
⑭実習課題の設定
⑮まとめと総復習

科目名	教育実践研究A(中･高校免許用)
英文科目名	Study of Educational Practice A
担当者名	山田良一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED302

授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる教員となるための見識や力量を培う教師の養成」を目的とする。教育実践研究は３年次の秋学期に「教育実践研究A」、４年次の春学期に「教育実践研究B」として継続的に行われる。「教育実践研究A」は、教育実習のための事前指導を長年の教育現場での経験を活かし行う。本科目では教育実習の意義と制度を理解するとともに、教師の資質や専門性について考察し、模擬授業とその準備を通じて実習生としての授業力を養う。教育実習生として学校の教育活動に参画できる水準にまで、意識や技量を高めることが到達目標である。必要に応じて外部講師を招聘することがある
授業の方法	この授業では、Google classroomを用いて双方向の授業を実施する。また、教育実習を想定し、アクティブラーニング（模擬授業、プレゼンテーション、ディスカッション）を中心に授業を進める。
予習と復習	予習（90分）事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をノートにまとめておくこと。復習（90分）模擬授業を振り返り、さらなる教材研究と指導案作成および修正を行うこと。
テキスト等	教科書：なし。参考書：授業時にプリントを配布し、適宜指示する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	0%
	模擬授業			50%				0%
	欠席回数が3回以上の場合、不合格とする。遅刻・早退は２回で、欠席１回として扱う。模擬授業の評価には指導案に関する評価を含める。授業内で個別に所見を提示する。レポートは、返却して全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①教育実習までのプロセスと教育実習の実際
②実習録の書き方、授業観察の視点
③教員採用試験演習①
④教員採用試験演習②
⑤模擬授業①―発問
⑥模擬授業②―指名
⑦模擬授業③―グループワーク
⑧模擬授業④―板書
⑨教育実習の事前打ち合わせ、準備状況のチェック
⑩模擬授業⑤
⑪模擬授業⑥
⑫模擬授業⑦
⑬教育実習の一日の流れ
⑭実習課題の設定
⑮まとめと総復習

科目名	教育実践研究B(小学校免許用)
英文科目名	Study of Educational Practice B
担当者名	山田良一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED401

授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる教員となるための見識や力量を培う教師の養成」を目的とする。教育実践研究は３年次の秋学期に「教育実践研究A」、４年次の春学期に「教育実践研究B」として、継続的に行われる。「教育実践研究B」は、４年次の５月～６月頃に行う教育実習のための事前・事後指導を長年の教育現場での経験を活かし行う。事前指導の到達目標は、学校教育の法的・制度的な枠組み、教育実習生として守るべき姿勢や義務などを理解するとともに、教育実習の心構えを確認したうえで教壇実習の準備を進めることである。事後指導の到達目標は、教育実習の体験を省察し、課題を共有することである。必要に応じて外部講師を招聘することがある
授業の方法	この授業では、Google classroomを用いて双方向の授業を実施する。また、教育実習を想定し、アクティブラーニング（模擬授業、プレゼンテーション、ディスカッション）を中心に授業を進める。
予習と復習	予習（90分）事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をノートにまとめておくこと。復習（90分）模擬授業や教育実習を振り返り、さらなる教材研究と指導案作成および修正を行うこと。
テキスト等	教科書：なし。参考書：『新しい理科3年（指導者用デジタル教科書）』。授業時にプリントを配布し、適宜指示する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	0%
模擬授業			50%	プレゼンテーション			20%
欠席回数が3回以上の場合、不合格とする（教育実習による欠席を除く）。遅刻・早退は２回で、欠席１回として扱う。模擬授業の評価には指導案に関する評価を含める。模擬授業、レポート、プレゼンテーションに対して、授業内で全般的な所見を提示する。								

授業計画
①教育実習までの流れ
②教員の資質と教育実習の役割、模擬授業①
③教育実習中の心構え、模擬授業②
④観察実習のポイント、模擬授業③
⑤教育実習における授業設計、模擬授業④
⑥学習指導の実際、模擬授業⑤
⑦『教育実習録』の書き方、模擬授業⑥
⑧教育実習（１週目）
⑨教育実習（２週目）
⑩教育実習（３週目）
⑪教育実習（４週目）
⑫教育実習の課題の整理、プレゼンテーション①
⑬教育実習の課題の共有、プレゼンテーション②
⑭理想の教師像、プレゼンテーション③
⑮まとめと総復習

科目名	教育実践研究B(中･高校免許用)
英文科目名	Study of Educational Practice B
担当者名	山田良一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED402

授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる教員となるための見識や力量を培う教師の養成」を目的とする。教育実践研究は３年次の秋学期に「教育実践研究A」、４年次の春学期に「教育実践研究B」として、継続的に行われる。「教育実践研究B」は、４年次の５月～６月頃に行う教育実習のための事前・事後指導を長年の教育現場での経験を活かし行う。事前指導の到達目標は、学校教育の法的・制度的な枠組み、教育実習生として守るべき姿勢や義務などを理解するとともに、教育実習の心構えを確認したうえで教壇実習の準備を進めることである。事後指導の到達目標は、教育実習の体験を省察し、課題を共有することである。必要に応じて外部講師を招聘することがある
授業の方法	この授業では、Google classroomを用いて双方向の授業を実施する。また、教育実習を想定し、アクティブラーニング（模擬授業、プレゼンテーション、ディスカッション）を中心に授業を進める。
予習と復習	予習（90分）事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をノートにまとめておくこと。復習（90分）模擬授業や教育実習を振り返り、さらなる教材研究と指導案作成および修正を行うこと。
テキスト等	教科書：なし。参考書：『ビジネス基礎（指導者用デジタル教科書）』『最新情報Ⅰ（指導者用デジタル教科書）』。授業時にプリントを配布し、適宜指示する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	0%
	模擬授業			50%	プレゼンテーション			20%
	欠席回数が3回以上の場合、不合格とする（教育実習による欠席を除く）。遅刻・早退は２回で、欠席１回として扱う。模擬授業の評価には指導案に関する評価を含める。模擬授業、レポート、プレゼンテーションに対して、授業内で全般的な所見を提示する。							

授業計画	
	①教育実習までの流れ
	②教員の資質と教育実習の役割、模擬授業①
	③教育実習中の心構え、模擬授業②
	④観察実習のポイント、模擬授業③
	⑤教育実習における授業設計、模擬授業④
	⑥学習指導の実際、模擬授業⑤
	⑦『教育実習録』の書き方、模擬授業⑥
	⑧教育実習（１週目）
	⑨教育実習（２週目）
	⑩教育実習（３週目）
	⑪教育実習（４週目）
	⑫教育実習の課題の整理、プレゼンテーション①
	⑬教育実習の課題の共有、プレゼンテーション②
	⑭理想の教師像、プレゼンテーション③
	⑮まとめと総復習

科目名	教職実践演習(小学校免許用)
英文科目名	Educational Practice Seminer
担当者名	山田良一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED403

授業の概要と到達目標	長年の教育現場での経験を活かし、本学の教員養成が目指している教師像①透徹した人間観、教育観にたち、誠実でしかも情熱をもった教員、②現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教員、③教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教員の実現を目指し、実践に沿った知識・技能に加えて責任感や倫理感等を体得できるように授業を展開することが本科目のテーマである。①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科指導等の指導力に関する事項、という四つの事項に即して行う。本授業は、さらに、人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」を達成する科目でもある。外部講師を招いた授業を実施予定である
授業の方法	事前に課題を提示する。アクティブ・ラーニングを促すために、グループワークやワークシート・個人発表・討議などによって主体的対話的な授業を進める。
予習と復習	予習（90分）あらかじめ課題を示すので、準備したり考えたりしてくること。復習（90分）ワークシートを読み返すとともに、授業中のメモをノートなどに整理しておくこと。
テキスト等	山田良一『学校公開』成功のマニュアル　（学事出版）適宜、授業内容に関連したレジメの配布

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	80%
	学習の姿勢（提出期限・討議など）			20%				0%
	平常点は八つの課題を評価。やり残した課題がある場合、及び、出席回数が授業回数の３分の２未満の場合は、不合格とする。							

授業計画
①我が国の現行教育制度・教育法令
②教職員としての誇りと責任の自覚：服務規律の確保と綱紀粛正
③学校現場が求める教師像
④学級経営の基礎１　人間関係づくり
⑤学級経営の基礎２　他者理解やコミュニケーション能力
⑥児童生徒理解、特別に支援の必要な子ども達への理解と人間観
⑦いじめ・不登校問題への対応
⑧実践的授業スキル（１　授業展開・授業改善）
⑨実践的授業スキル（２　教室環境作りとその目的）
⑩人権問題への対応
⑪小学校教諭の一日の仕事や年間の行事
⑫学習指導案の書き方
⑬模擬授業（１　第一グループ）
⑭模擬授業（２　第二グループ）
⑮これまでの授業の振り返り・まとめ

科目名	教職実践演習(中･高校免許用)
英文科目名	Educational Practice Seminer
担当者名	山田良一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED404

授業の概要と到達目標	長年の教育現場での経験を活かし、本学の教員養成が目指している教師像①透徹した人間観、教育観にたち、誠実でしかも情熱をもった教員、②現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教員、③教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教員の実現を目指し、実践に沿った知識・技能に加えて責任感や倫理感等を体得できるように授業を展開することが本科目のテーマである。①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科指導等の指導力に関する事項、という四つの事項に即して行う。本授業は、さらに、ディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」を達成する科目でもある。外部講師を招いた授業を実施予定である。
授業の方法	事前に課題を提示する。アクティブ・ラーニングを促すために、グループワークやワークシート・個人発表・討議などによって、主体的対話的な授業を進める。
予習と復習	予習（90分）あらかじめ課題を示すので、準備したり考えたりしてくること。復習（90分）ワークシートを読み返すとともに、授業中のメモをノートなどに整理しておくこと。
テキスト等	山田良一『学校公開』成功のマニュアル　（学事出版）適宜、授業内容に関連したレジメの配布

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	80%
	学習の姿勢（提出期限・討議など）			20%				0%
	平常点は八つの課題を評価。やり残した課題がある場合、及び、出席回数が授業回数の３分の２未満の場合は、不合格とする。							

授業計画
①我が国の現行教育制度・教育法令
②教職員としての誇りと責任の自覚：服務規律の確保と綱紀粛正
③学校現場が求める教師像
④学級経営の基礎１　人間関係づくり
⑤学級経営の基礎２　他者理解やコミュニケーション能力
⑥児童生徒理解、特別に支援の必要な子ども達への理解と人間観
⑦いじめ・不登校問題への対応
⑧実践的授業スキル（１　授業展開・授業改善）
⑨実践的授業スキル（２　教室環境作りとその目的）
⑩人権問題への対応
⑪小学校教諭の一日の仕事や年間の行事
⑫学習指導案の書き方
⑬模擬授業（１　第一グループ）
⑭模擬授業（２　第二グループ）
⑮これまでの授業の振り返り・まとめ

科目名	教育実習A
英文科目名	Teaching Practice A
担当者名	鈴木隆弘・松丸明弘・松丸啓子・山田良一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED405

授業の概要と到達目標

本学において教員免許状取得を目指す学生は、必ず教育実習を履修しなければなりません。教育実習の目標は、（1）学校現場に直接身を置くことによって、教育活動の内容や方法を理解し、実践力を養う、（2）自分に教員としての適性があるかを確認する、などの点にあります。これらの目標を達成するため、真剣・誠実に実習を行ってください。なお、小学校の教員免許状を取得の場合は教育実習Ａ、中学校の教員免許状あるいは中・高等学校の教員免許状を併せて取得する場合は教育実習Ｂ、高等学校の教員免許状のみ取得する場合は教育実習Ｃを履修することになります。教育実習Ａの時期や期間は、一般的に４年次の４週間ですが、異なるケースが生じるかも知れません。実習期間や時期は、実習校の方針に従うことになります。注意して下さい。

授業の方法

実習校で実習（参観・参加・教壇実習）を行う。

予習と復習

実習校の指示に従い、事前(45分)の授業などの準備、事後(45分)「教育実習録」などの記入を行う。

テキスト等

本学の『教育実習録』

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	30%
「教育実習成績報告書」			30%	『教育実習録』の筆記内容			40%

平常点は、「教育実習生出勤票」で勤務態度等を評価、「教育実習成績報告書」は、実習校の報告書に基づいて勤務実績等を評価します。『教育実習録』は、筆記内容を評価し、担当教員の評価を平均します。

授業計画

①実習校での打ち合わせ
②実習校についての理解　学校目標等
③実習校についての理解　校務分掌等
④参観（1）　児童
⑤参観（2）　授業内容
⑥ 参観（3）　授業展開
⑦参加（1）　授業補助
⑧参加（2）　授業協力
⑨教壇実習（1）　教科（算数など）
⑩教壇実習（2）　教科（国語など）
⑪教壇実習（3）　領域
⑫教壇実習（4）　学級経営
⑬研究授業
⑭研究授業の検討会
⑮反省とまとめ

※授業計画は実習校により異なります。

科目名	教育実習B
英文科目名	Teaching Practice B
担当者名	鈴木隆弘・松丸明弘・松丸啓子・山田良一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED406

授業の概要と到達目標

本学において教員免許状取得を目指す学生は、必ず教育実習を履修しなければなりません。教育実習の目標は、（1）学校現場に直接身を置くことによって、教育活動の内容や方法を理解し、実践力を養う、（2）自分に教員としての適性があるかを確認する、などの点にあります。これらの目標を達成するため、真剣・誠実に実習を行ってください。なお、小学校の教員免許状を取得の場合は教育実習Ａ、中学校の教員免許状あるいは中・高等学校の教員免許状を併せて取得する場合は教育実習Ｂ、高等学校の教員免許状のみ取得する場合は教育実習Ｃを履修することになります。教育実習Bの時期や期間は、一般的に４年次の３週間ですが、異なるケースが生じるかも知れません。実習期間や時期は、実習校の方針に従うことになります。注意して下さい。

授業の方法

実習校で実習（参観・参加・教壇実習）を行う。

予習と復習

実習校の指示に従い、事前(45分)の授業などの準備、事後(45分)「教育実習録」などの記入を行う。

テキスト等

本学の『教育実習録』

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	30%
「教育実習成績報告書」			30%	『教育実習録』の筆記内容			40%

平常点は、「教育実習生出勤票」で勤務態度等を評価、「教育実習成績報告書」は、実習校の報告書に基づいて勤務実績等を評価します。『教育実習録』は、筆記内容を評価し、担当教員の評価を平均します。

授業計画

①実習校での打ち合わせ
②実習校についての理解　学校目標等
③実習校についての理解　校務分掌等
④参観（1）　生徒
⑤参観（2）　授業内容
⑥参観（3）　授業展開
⑦参加（1）　授業補助
⑧参加（2）　授業協力
⑨教壇実習（1）　教科：授業内容
⑩教壇実習（2）　教科：授業展開
⑪教壇実習（3）　領域
⑫教壇実習（4）　学級経営
⑬研究授業
⑭研究授業の検討会
⑮反省とまとめ　※授業計画は実習校により異なります。

科目名	教育実習C
英文科目名	Teaching Practice C
担当者名	鈴木隆弘・松丸明弘・松丸啓子・山田良一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED407

授業の概要と到達目標

本学において教員免許状取得を目指す学生は、必ず教育実習を履修しなければなりません。教育実習の目標は、（1）学校現場に直接身を置くことによって、教育活動の内容や方法を理解し、実践力を養う、（2）自分に教員としての適性があるかを確認する、などの点にあります。これらの目標を達成するため、真剣・誠実に実習を行ってください。なお、小学校の教員免許状を取得の場合は教育実習Ａ、中学校の教員免許状あるいは中・高等学校の教員免許状を併せて取得する場合は教育実習Ｂ、高等学校の教員免許状のみ取得する場合は教育実習Ｃを履修することになります。教育実習Ｃの時期や期間は、一般的に４年次の２週間ですが、異なるケースが生じるかも知れません。実習期間や時期は、実習校の方針に従うことになります。注意して下さい。

授業の方法

実習校で実習（参観・参加・教壇実習）を行う。

予習と復習

実習校の指示に従い、事前(45分)の授業などの準備、事後(45分)「教育実習録」などの記入を行う。

テキスト等

本学の『教育実習録』

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	30%
「教育実習成績報告書」			30%	『教育実習録』の筆記内容			40%

平常点は、「教育実習生出勤票」で勤務態度等を評価、「教育実習成績報告書」は、実習校の報告書に基づいて勤務実績等を評価します。『教育実習録』は、筆記内容を評価し、担当教員の評価を平均します。

授業計画

①実習校での打ち合わせ
②実習校についての理解　学校目標等
③実習校についての理解　校務分掌等
④参観（1）　生徒
⑤参観（2）　授業内容
⑥参観（3）　授業展開
⑦参加（1）　授業補助
⑧参加（2）　授業協力
⑨教壇実習（1）　教科：授業内容
⑩教壇実習（2）　教科：授業展開
⑪ 教壇実習（3）　領域
⑫教壇実習（4）　学級経営
⑬研究授業
⑭研究授業の検討会
⑮反省とまとめ　※授業計画は実習校により異なります。

科目名	職業指導
英文科目名	Vocational guidance & counseling
担当者名	赤羽根和恵
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED250

授業の概要と到達目標

【授業の概要】本授業は、中等教育における職業指導の理解を目的とする。生徒が将来の進路を選択・計画し、社会に適応するためには、職業の意義や自身の役割を理解し、職業観を養うことが重要である。その基盤となる資質・能力を育むキャリア支援の意義を学ぶ。複数回の事例検討を実施し、キャリア支援ツールを活用した演習やグループワークを多く取り入れる。これにより、キャリアガイダンスやカウンセリング、職業指導に取り組む力を身につける。本授業は、商学部および経営学部のディプロマポリシーに基づき、現代社会の要請に応え得る教師の養成を目指す。必要に応じて現場で活躍する外部講師を招聘する。【到達目標】・教育課程における職業指導・キャリア教育の位置付けを理解できる。・職業指導・キャリア教育における指導体制や、家庭・関係機関との連携のあり方を理解できる。・生徒が職場に定着し、長期的な視点で生活を維持しながらキャリア形成ができることの重要性が理解できる。

授業の方法

対面授業では、ペアワーク及びグループワークを複数回設ける。アクティブ・ラーニング（演習・ディスカッション・発表・リアクションペーパー等）を重視する。期中と第15回にオンデマンド授業を行い、その案内は授業内とGoogle Classroomを利用する。

予習と復習

・予習（90分）：事前配布資料を読み、ポイントまとめておくこと。・復習（90分）：授業内容を振り返りトピックスに関する時事問題等を調べて、自分の視野を広げること。

テキスト等

・教科書：使用しない。必要に応じて資料を配布する。・参考資料：文部科学省．学習指導要領（平成29年・30年告示）準拠「中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023年3月）」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	10%
授業貢献度（発言・積極性）			20%				0%

・授業回数の3分の2以上の出席（リアクションペーパー等の提出を含む）を評価の前提条件として、上記内容で総合的に評価する。・試験・レポート等のフィードバック：提出された答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。

授業計画

①職業指導と職業指導者に必要なコンピテンシー
②働くことの意味と仕事について考える
③職業適合性の理論
④労働関連法規の理解
⑤労働市場の理解
⑥非正規労働者問題（フリーター、請負、派遣労働者等）
⑦職業指導と職業教育（実践の基本的視点と職業観の観点）
⑧高等学校における職業指導（指導の概観と実務）
⑨職業指導の事例検討①、グループワーク
⑩職業指導の事例検討②、グループワーク
⑪エンプロイアビリティの開発と援助
⑫キャリアアセスメントツールの利用、グループワーク
⑬就職活動と職場への定着支援
⑭授業内試験
⑮まとめと総復習（オンデマンド授業）：職業指導とキャリア形成支援

科目名	地誌
英文科目名	Regional Geography
担当者名	新井智一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED251

授業の概要と到達目標	この授業では、高校で学習する世界地誌を基礎に、その発展的内容について講義します。また、中学校・高校の地理的分野に関して、模擬授業に準ずる「マイクロティーチング」を学生のみなさんが行います。それを通じて、教員採用試験を受験するために必要な世界地誌の知識と、学習課題に対する生徒の関心・理解・知識を深めさせる授業を行える能力が身につくことを目標とします。この授業は、本学の教員養成課程で追求する教師像「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」を育成するための科目の一つです。
授業の方法	高校で学習する世界地誌に関して問題演習を行います。マイクロティーチングを担当教員と学生のみなさんが行います。複数回の小テストを授業内に行います。一部の授業回で反転学習（アクティブ・ラーニング）を実施します。
予習と復習	予習（90分）あらかじめ提示された資料を熟読しておく復習（90分）資料と地図帳を用いて授業内容を理解する
テキスト等	教科書：使用しませんが、学修支援システム（Google Classroom）であらかじめ資料を提示します。参考書：佐藤徹編著(2013)『新しい社会科教育法』東海大学出版会

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	0%
	プレゼンテーション			50%				0%
	複数回の授業内小テストの解答、解説、全般的な評価と所見は、その回の授業で示します。							

授業計画
①マイクロティーチングとは？
②東アジアの地誌
③東南アジアの地誌
④南アジア・西アジアの地誌
⑤アフリカ・ロシアの地誌
⑥ヨーロッパの地誌
⑦アングロアメリカの地誌
⑧ラテンアメリカ・オセアニアの地誌
⑨担当教員によるマイクロティーチングの示範
⑩マイクロティーチングの指導計画の検討
⑪学生によるマイクロティーチング（1）
⑫学生によるマイクロティーチング（2）
⑬学生によるマイクロティーチング（3）
⑭マイクロティーチングの相互評価
⑮まとめと総復習

科目名	情報と職業
英文科目名	Information and Business
担当者名	小林康一
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED252

授業の概要と到達目標	本科目の到達目標は高校科目「情報と職業」の教員として授業を計画し、実施することができる学術的理解とスキルを身につけることにある。さらに、ディプロマポリシーとの関連については、高千穂大学の教員育成が目指す教師像「現代社会の養成に応えうる見識と力量をもった教師」を養成するための科目である。講義は３つの要素から構成されている。①ICTの原理と基礎技術：ここでは計算機やネットワークの原理や基礎技術について学ぶことにより，ICTを活用する際の基本的な概念や用語について理解することを目標とする.②職域の情報化と注意点：ここでは社会の情報化を考えると共に情報化に伴う注意点について学ぶことにより，社会の情報化がどのようになされているかと仕事に情報を活用する際に考慮すべきことを理解することを目標とする．③労働形態；ここでは働くという活動が現在の社会ではどのように扱われているかを学ぶことにより，将来の就業についての心構えについて理解することを目標とする．授業では適宜新聞や雑誌、映像資料などを活用し、教育方法を含めた情報技術についても議論していく。
授業の方法	基本的に授業前半を講義形式、授業後半を教室内でのグループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）によって進めていく。
予習と復習	（予習90分）指定されたテキストの該当箇所を熟読の上、講義に臨むこと。（復習90分）講義の内容を踏まえて、簡略なかたちでいいので授業計画を立ててみる。
テキスト等	講義内で改めて指定します。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	60%
	各講義で提出された課題			40%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】授業中に実施する課題について全般的所見を提示する。							

授業計画	①ガイダンス
	②情報化とはなにか
	③情報の基礎（１）情報システムとは
	④情報の基礎（２）ハードウェア・ソフトウェア
	⑤情報の基礎（３）ネットワークとデータベース
	⑥情報プロフェッショナル
	⑦職域の情報化（１）社会の情報化
	⑧職域の情報化（２）企業活動の情報化
	⑨職域の情報化（３）仕事の情報化
	⑩職域の情報化に際しての注意（１）情報セキュリティ
	⑪職域の情報化に際しての注意（２）コンプライアンス
	⑫職場教育・生涯教育
	⑬社会と労働情勢の変化（１）労働経済
	⑭社会と労働情勢の変化（２）経済政策
	⑮まとめと総復習

科目名	国語
英文科目名	Japanese
担当者名	渡辺賢治
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED253

授業の概要と到達目標	本講義では、小学校学習指導要領に示されている教科の内容構成を踏まえつつ、国語全般に関する総合的かつ体系的な知識の習得と理解力の養成を目的とする。そこから国語科としての見方や考え方を修得し、専門的な理解を深めていく。また、卒業後においても質の高い教材研究を行うための基本的姿勢として、国語に関する専門的知識を生涯にわたって高め続ける習慣や態度を身につける。　本講義は、国語力を高め、高千穂大学の教員養成が目指す教員像の「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教員」を養成するための科目である。（事前に履修しておいたほうが望ましい科目）日本文学、日本文学史
授業の方法	毎回、資料を配付し、授業を行う。また、授業内課題の質疑応答（アクティブ・ラーニング）を行い、授業内にてフィードバックする。その他、国語の基本的知識を養成するための授業外課題も配付する。
予習と復習	（予習90分）毎回、配布する資料やテキストの該当箇所に目を通し、予習を行う。分からない語句や言葉などは事前に調べておく。（復習90分）授業で学んだ内容について、その日のうちに整理・理解し、配付資料や授業外課題の復習を行い、授業内試験に備える。
テキスト等	牛頭哲宏・森篤嗣『現場で役立つ小学校国語科教育法 改訂版』（ココ出版 2024年）　および、講義内の配付資料。　（参考文献）田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典』（教育出版 2018年）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
				0%				0%

3分の2以上の出席をすること。出席回数が不足の場合、単位取得を認めない。平常点には毎回の授業中に出す小課題（10分～15分程度）を含む（添削・返却し、個別に評価や所見を提示し、フィードバックする）。出題時以外の小課題の提出は一切認めない。

授業計画
①イントロダクション―社会人として通用する国語力を持つ大切さ―
②音韻とアクセント
③表記法と書式、文字
④国語の基礎を確認する（１）―常用漢字、同音異義語・同訓異義語、四字熟語―
⑤国語の基礎を確認する（２）―慣用表現・ことわざ・故事成語―
⑥国語の基礎を確認する（３）―主題と構成、段落と文章の構造、助詞―
⑦書写について―毛筆・硬筆・ノートマス目の確認―
⑧文章読解のメソッド（１）―説明文―
⑨文章読解のメソッド（２）―物語文―
⑩自立語と付属語について
⑪「書き言葉」と「話し言葉」の違いについて
⑫敬語の種類―尊敬語・謙譲語・丁寧語―
⑬敬語の用法―過剰敬語、謙譲語＋尊敬語―
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習―近未来の教育を見据えた適切な国語力の養成―

科目名	算数
英文科目名	Arithmetic
担当者名	竹内淨
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED254

授業の概要と到達目標	「算数」は、人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる」ことを達成するための科目である。本講義の目標は、小学校教員志望の学生に求められる、算数及び数学に関する基礎知識を習得することである。企業や自治体での実務経験を活かして講義を行う。小学校算数科に関わるテーマをとりあげるとともに、中学校や高校の数学との繋がりについても考える。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして一部の授業回でディスカッションを行う。
予習と復習	予習(90分)　授業計画に示したテーマについて事前に確認すること。復習(90分)　講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。
テキスト等	教場にて資料を配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	授業内試験について全般的な評価と所見を提示する。授業内試験は持込不可。							

授業計画
①集合数と順序数
②位取りの原理
③足し算と引き算
④算数教育の考察
⑤掛け算と割り算
⑥量の種類
⑦数の構造
⑧量の大小
⑨図形の要素
⑩図形の性質
⑪図形と量
⑫方程式と関数
⑬割合、確率、統計
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	理科
英文科目名	Science
担当者名	鈴木岳人
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED255

授業の概要と到達目標	理科を学ぶ意義を生活や身近な現象とのかかわりを基に、科学的見方･考え方と豊かな自然観を持って授業に取り組めるよう講義を進める。「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」という４分野に対し、基礎に重点を置き、実験･演習を行いながら、より深い知識と経験を得てもらう。電気を通す物、磁石にくっつく物、光が屈折する理由、物の溶け方、光合成や蒸散作用のしくみ、月の満ち欠け、太陽や星の動きと暦などをしっかりと学んでもらい、自然界の不思議さと理科の面白さを児童に伝えられるようにする。児童にゆとりをもって接しながら実験･観察の指導ができ、理科を学ぶ楽しさを伝えられる教師の育成を目指す。本学教職課程のねらいの一つである「現代社会の要請に応え得る見識と力量をもった教師の養成」のための基礎科目である。なお、本講義は形式上１、２限に分かれているが、どちらか一方（特に２限）を履修することを強く推奨する。一方に少数しか登録がなかった場合、もう一方に移動してもらうこともあり得る。履修者が少数だと実験の実施に支障が出るためである。
授業の方法	輪番による問題解法の発表、それを受けての質疑、補足説明、ディスカッションなどによる（アクティブ・ラーニング）。実験、実験器具利用の訓練も行う。また学んだことは、その都度、授業内試験で知識の確認をする。
予習と復習	予習（90分）『小学校学習指導要領解説:理科編』を何度も繰り返し読み、自分のものにするための努力を怠らないこと。復習（90分）授業で学んだことをその日にまとめておくこと。
テキスト等	テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説:理科編』

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	90%	レポート	0%	平常点	10%
				0%				0%
	授業回数の3分の2以上の出席を評価の前提条件とする。試験得点、提出課題内容、それに講義参加度で評価する。							

授業計画
①小学校理科の目標／学習指導要領の読み方
②小学校理科の内容区分
③生命：植物のつくりと働き
④地球：気象・地象
⑤粒子：元素・気体・水溶液の濃さ
⑥エネルギー：振り子の運動・梃子・天秤
⑦総合課題演習A(③から⑥)と解説
⑧生命：動物の体のつくりと働き
⑨地球：月・星座・惑星
⑩粒子：物の温まり方・燃焼
⑪エネルギー：豆電球の回路・磁場
⑫エネルギー：音と光・波の伝播
⑬理科の楽しさをどう伝えるか
⑭総合課題演習B(⑧から⑬)と解説
⑮まとめと総復習

科目名	社会
英文科目名	Education of Social Studies
担当者名	鈴木隆弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED256

授業の概要と到達目標	本講義では､小学校社会科の目標及び教科内容を理解し､学校における社会科の意義について考察を深め､小学校社会科授業についての実践的指導力の基礎：教材研究の方法を身につけることを目標とする｡講義では､社会科の基本的性格とその歴史、また各学年における内容の特質などににについて学習し、考察を深める。 また外部講師をお招きし、教材並びに授業づくりの方法について検討する。 本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。
授業の方法	アクティブラーニングとして、一部の授業回でグループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワークをを行うことがある。また、一部授業ではスマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を行うことがある。
予習と復習	予習（90分） 事前配布したプリントを読んでくること。また、課題に取り組むこと。復習（90分） 授業中に配布したプリントを元に、復習を行うこと。
テキスト等	文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教科書は教場で指示する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%
	課題			80%				0%
	出席は評価の前提であり､1/3以上の欠席は単位認定をしない｡平常点は、一部授業回における小テストと小レポートの合計。課題は各学年の内容ごとに実施する。小テスト・小レポートは返却して全般的な評価と所見を提示、課題は返却せずに全般的な評価と所見を提示する。								

授業計画	①社会科とはなにか ーイントロダクションー
	②社会科の歴史 －戦前－
	③社会科の歴史 －初期社会科－
	④社会科の歴史 －現在までの変容－
	⑤社会科と現行学習指導要領 －現在の目標と内容－
	⑥第３学年の内容を調べよう －市区町村の調査－
	⑦第３学年の内容を調べて発表しよう －大学周辺のフィールドワーク－
	⑧第４学年の内容を調べよう －都道府県の調査－
	⑨第４学年の内容を調べて発表しよう －社会インフラと社会科－
	⑩第５学年の内容を調べよう －国土学習－
	⑪第５学年の内容を調べて発表しよう －産業学習－
	⑫第６学年の内容を調べて発表しよう －歴史学習－
	⑬第６学年の内容を調べて、友達に教えよう －政治・国際学習－
	⑭外部講師による講義
	⑮まとめと復習

科目名	生活
英文科目名	Education of Life Studies
担当者名	鈴木隆弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED257

授業の概要と到達目標	小学校における生活科の目標及び教科内容を理解し、生活科の意義についての考えを深め、生活科授業についての実践的指導力の基礎を身につけることを目的とする。生活科の意義と目的、基本的性格、各内容の特質などについて、実際に作業やフィールドワークなどを行いながら、内容などについて理解を深め、考察を行うこととする。なお、外部講師をお招きすることがある。　本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。
授業の方法	アクティブラーニングとして、一部授業回でプレゼンテーション、フィールドワークを実施する。飼育・栽培活動は講義全体を通じた活動で「生活科指導法」とも関連するが、天候・社会状況等により変更の可能性がある。「生活科指導法」と同年度に履修することが望ましい。
予習と復習	予習（90分）　指示された課題に取り組むこと。復習（90分）　指摘されたことへの改善を行うこと。
テキスト等	文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編』、国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　小学校　生活』ほか、プリントを配布する。ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教科書は教場で指示する

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	課題・発表	50%						0%
	出席は評価の前提であり、1/3以上の欠席は認めない。平常点は、一部授業回における課題。授業内で返却して個別に評価と所見を授業内で提示する。プレゼンテーション、実習、フィールドワークは、全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①ガイダンス
②生活科について
③はるさがしをしよう（自然探索）
④はるをみつけよう（グループ作業）
⑤はるをみつけよう（発表）
⑥生活科の内容とその構成
⑦生活科の内容　－人・社会・自然－
⑧生活科と環境教育
⑨飼育・栽培活動（1）　－植物に触れる－
⑩飼育・栽培活動（2）　－植物を育てる－
⑪まちたんけん
⑫安全マップづくり
⑬発表
⑭外部講師による講義
⑮まとめと復習

科目名	音楽
英文科目名	Music for Elememtary School Teacher
担当者名	山本和寿
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED258

授業の概要と到達目標

本授業では、小学校音楽科学習指導要領に示された目標の達成を目指し、教材として選択される楽曲を「音楽を形作っている要素」の視点から分析・考察する。これを通して、音楽科授業において児童が音楽のよさや楽しさを主体的に見いだすことができる授業づくりについて、理論と実践の両面から学ぶ。また、グループワークによる多様な表現活動や、キーボード等を用いた基礎的な演奏技能の習得を目的とした実技実習を行い、授業実践に生かせる指導力の育成を図る。本授業は、小学校教員として必要な音楽科指導に関する知識及び技能を身に付けることを通して、本学の掲げる「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師の養成」に資することを目的とする。指導にあたっては、公立小・中学校における音楽科授業研究指導に携わってる実務経験を生かす。

授業の方法

小学校学習指導要領（音楽）をもとに「音楽を形作っている要素」の視点で捉えた教材楽曲の構造や諸要素の働きを表現や鑑賞の活動を通して理解を深める。表現活動はグループワーク（アクティブラーニング）で行い、キーボード実技は毎時間継続して取り組む。

予習と復習

予習（９０分）次回の授業で取り上げる学習指導要領解説〔音楽編〕の内容を読み、要点を把握しておく。復習（９０分）講義ごとの内容をふり返るレポートを作成、提出する。

テキスト等

・個人で準備するもの、学習指導要領（平成２９年告示）解説音楽編、小学校音楽科教科　書（教育芸術社）2年・3年・5年、ソプラノリコーダー（ジャーマンシステム）・授業毎に配布する参考資料、楽譜、ワークシート等。

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	30%
実技			40%				0%

グループワーク、ディスカッション等の取組み状況。キーボード等の技能習得状況。毎時間提出するふり返りシートの内容。振り返りシートは返却し評価や所見を提示。４回以上欠席の場合単位を認めない。

授業計画

①ガイダンス
②音楽を形作っている要素とその働きについて
③音楽の「縦と横の関係」について
④音楽の「拍」と「拍子」について
⑤様々な「拍子」とリズム
⑥音楽の表情と「拍子」
⑦曲想と音楽の構造のかかわり
⑧曲想に合わせたリズム伴奏の創作
⑨創作作品のグループアンサンブル
⑩打楽器の音色と打楽器アンサンブル
⑪和音の響きとその働き
⑫コードネームによる伴奏法
⑬音階と調
⑭いろいろな音階と旋律　循環コードと旋律創作
⑮まとめと総復習

科目名	図画工作
英文科目名	Arts and Crafts for Elementary School Teacher
担当者名	奥長英樹
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED259

授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」を育成するための科目である。小学校の教師として図画工作科の基礎的な知識理解・技能習得を進め、将来の学校現場での実践に活かすための講義・演習を行う。学校現場の教員経験を活かし、図画工作科の目的や内容について実際の教育活動に触れながら、図画工作科の良さや学校教育の中での位置づけなどを学ぶ。また、学校教育において、子どもの理解の重要性や、学習に対する考え方、また教師としての働くための資質・能力についてを、体験的かつ図画工作に関わる活動を通して学ぶ。
授業の方法	講義と演習、制作や造形遊びなど図画工作科の学習活動に実際に取り組むアクティブ・ラーニングを通して学ぶ。
予習と復習	予習・復習については、その都度授業内で指示する。復習は主にその授業の振り返りを必要に応じて・記録していく。
テキスト等	テキストはその都度必要なものを示す。基本的に自作の資料を活用する。

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	20%
	ノート・作品の内容			20%	各題材での表現や取り組み			30%
	授業内のメモ、描画等をノートにまとめたり、作品制作したりする。毎時間ごとの提出にコメントするなどしてフィードバックする。							

授業計画
①子どもの造形表現
②図画工作科の学習活動（平面　描画）
③図画工作科の学習活動（平面　デザイン）
④図画工作科の学習活動（立体　紙）
⑤図画工作科の学習活動（立体　塑像）
⑥図画工作科の学習活動（造形遊び）
⑦図画工作科の学習活動（色）
⑧図画工作科の学習活動（素材）
⑨図画工作科の学習活動（目的からつくる）
⑩図画工作科の学習活動（活動からつくる）
⑪図画工作科の学習活動（低学年・中学年の活動）
⑫図画工作科の学習活動（高学年の活動）
⑬図画工作科の学習活動（鑑賞）
⑭図画工作のカリキュラム（題材として）
⑮まとめと総復習

科目名	家庭
英文科目名	Home Economics for Elememtary School Teacher
担当者名	横山みどり
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED260

授業の概要と到達目標	【目標】初等家庭科教育の意義と教科の特徴を理解し、家庭科の指導者として必要な資質と知識・技能を身につける。【概要】学習指導要領解説「家庭」を教材として、指導目標や指導内容について基本的な事項を解説する。その上で、「内容の取扱いと指導上の配慮事項」をひとつひとつ具体的な授業場面と関連付けて考察することを通して、理解を深めるようにする。受講生は、「自分自身の家庭生活を見直すチャンス」としてとらえ、学んだことを生活に生かして欲しい。また、学校現場での教員経験(現在の学校現場を含む)を活かし、今日的な課題（Well-being・いじめ　など）と小学生との関わりについて授業の中で考えていく。これは、本学の目指す教師像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師の養成」と重なるところが大きい。
授業の方法	実習（アクティブラーニング）なども取り入れ実感を伴った理解を目指す。オンラインの場合は、Google classroomを活用し、スライドを進めながら前時の課題解説や本時の課題を理解する。資料やリンクを参考にしながら課題に取り組み、回答を期限内に送信する。
予習と復習	予習(90分）授業内容を事前に予習し、資料を集めておく。復習(90分）授業で学んだ知識や技能を、再考し、記録する。
テキスト等	「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）家庭編」（文部科学省）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%
	課題			80%				0%

【課題に対するフィードバック】課題についての解説を次の授業で行う。オンライン授業の場合は個別の質問には、メールのやり取りで応じる。また、３分の１以上の欠席（回答の提出がされない）は単位を認めない。

授業計画
①ガイダンス（授業の進め方）
②初等家庭科教育の目標と内容
③衣生活をつくるライフスキル
④布を使った製作実習　（手縫いの基礎）
⑤布を使った製作実習　（応用）
⑥ミシン縫いによる製作実習
⑦食生活をつくるライフスキル
⑧調理実習
⑨調理実習
⑩食育と環境教育
⑪快適な住生活をつくるライフスキル
⑫正しい消費生活をつくるライフスキル
⑬よりよい家族・家庭生活を育むライフスキル
⑭これからの家庭生活の課題
⑮まとめ、レポート作成

科目名	体育
英文科目名	Physical Education for Elementary School Teacher
担当者名	新井健之
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED261

授業の概要と到達目標	本科目は、教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材の育成を目的とした科目である。小学校の学習指導要領に基づき、心と体を一体としてとらえ運動や健康、体力面についての知識と理解を深める。授業の達成目標は、小学校の体育実践に向けた基礎理論の習得し、基礎理論を踏まえた授業設計ができることである。そして、小学生に対して自信を持って体育の授業を行える知識・技術の習得を目指す。外部講師招聘：適任者がいれば、小学校教育現場での最新情報を得るために、小学校教諭や教職課程指導経験者の講義や食育など栄養指導の講義を予定する。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～13は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。
授業の方法	実技と講義を組み合わせた演習形式を中心に行う。自ら実践もしくはシミュレーションすることにより得た疑問や知識をグループ発表し、講師及び他の受講者と議論を行う（アクティブ・ラーニング）。体育の授業運営が出来る能力取得を目指す。必要に応じて体力測定を行う。
予習と復習	予習（90分）として学習指導要領解説体育編および教材研究を行い授業中に質問できるようまとめる。復習（90分）として授業で学んだ知識を元に教材研究を行う。指導案にまとめ、授業中に質問が出来るようまとめる。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。
テキスト等	「学習指導要領（平成29年告示）解説体育編」また、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%
	授業中の適時行う小テストまたは発表で評価			40%	授業内のレポートと指導計画により評価			40%
	出席率82%以上を評価対象とする。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/回、遅刻-5点/回。要遅延証明書／通信環境等の不具合の場合は要状況写真。授業中の積極的な発言や取組を評価。教材研究の発表や指導計画の内容を評価。最後に全体的な評価と所見を伝える							

授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）
	②体育授業のアウトライン・体力とは
	③準備運動と整理体操/体力測定
	④運動の重要性/子供の体力・コーディネーション
	⑤体育現場での応急処置
	⑥負荷による体の変化（トレーニング科学の基礎）
	⑦体のつくり（神経生理）とタバコ
	⑧対象に合わせた授業内容のアレンジ作成
	⑨対象に合わせた授業内容のアレンジグループ発表・議論
	⑩体育実技学習指導計画中・低学年グループ立案
	⑪体育実技学習指導計画中・低学年グループ発表・議論
	⑫体育実技学習指導計画高学年グループ立案
	⑬体育実技学習指導計画高学年グループ発表・議論
	⑭保健学習指導計画立案
	⑮まとめと復習

科目名	介護等体験
英文科目名	Experience of social care
担当者名	崔玉芬
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED303

授業の概要と到達目標	本授業は、本学の教職課程のねらいの１つである「透徹した人間観・教育観にたち、誠実でしかも情熱をもった教師の育成」を目指す科目であり、介護等体験に関して、事前指導・事後指導を含めた指導を行う。事前指導では、介護等体験に臨む心構え、高齢者や障がい児と接する際に必要な、基本的な知識について学習していく。事後指導では、体験を振り返り、各自が学んだことを学生同士で共有した上で、整理しつつ総まとめを行う。介護等体験では、特別支援学校等に7日行ってもらうことになる。体験を通じて学ぶことに重点があり、そのために必要な態度形成が特に重視される。なお本授業を履修しなければ、介護等体験を行うことができない。
授業の方法	基本的な講義に加えて、ディスカッション・プレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）を一部の授業回で実施する。履修者は講義に対する質疑応答ならびに、ディスカッションや発表を通じて、積極的に授業に貢献すること。
予習と復習	予習（90分）テキスト内の次回の講義に該当する箇所を精読し、疑問点や思いついたアイディアなどをまとめておくこと。復習（90分）講義の内容を改めてテキストで復習し、介護等体験学習ノートに重要な点を追記してまとめ直しておくこと。
テキスト等	全国特別支援学校長会(著)「介護等体験ガイドブック 新フィリア（インクルーシブ教育システム版）」ジアース教育新社

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	介護等体験学習ノート（日誌）			50%				0%
	事前・事後指導への取組み方、及び介護等体験ノートの内容。第6～12回にあたる介護等体験を修了する事で教員免許申請に必要な証明書が発行される。課題については返却して全般的な評価と所見を提示する。							

授業計画
①事前指導①：介護等体験とは、必要な心構え等
②事前指導②：様々な障がいと特別支援学校
③事前指導③：特別支援学校の実際
④事前指導④：障がいの理解
⑤事前指導⑤：障がい児への支援の実際
⑥介護等体験(特別支援学校)1日目（体験の詳細は施設によって差異が生じ得る）
⑦介護等体験(特別支援学校)2日目（1日目に引き続き、学びを活かした体験）
⑧介護等体験(特別支援学校)3日目（2日間の体験を踏まえたより深い学び）
⑨介護等体験(特別支援学校)4日目（環境になじむことで充実した体験に繋げる）
⑩介護等体験(特別支援学校)5日目（環境になじむことで充実した体験に繋げる）
⑪介護等体験(特別支援学校)6日目（環境になじむことで充実した体験に繋げる）
⑫介護等体験(特別支援学校)7日目（最終日にふさわしい対応ができること）
⑬事後指導①：介護等体験からの学び・気づき・振り返り（社会福祉・介護施設）
⑭事後指導②：介護等体験からの学び・気づき・振り返り（特別支援学校）
⑮事後指導③：まとめと総復習

科目名	教職インターンシップ(小学校免許用)
英文科目名	Educational Internship
担当者名	松丸啓子
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED262

授業の概要と到達目標	本授業は、人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた人間教育を実践できる人材」を育成するための科目である。本授業では、これまで大学で学んだ教職の知識を活かし、学校現場での様々な業務を体験し、教職への理解を深め、教職への意欲を高めることを目的とする。さらに、教職課程各受講科目への理解を深め、学校現場と講義科目の循環を図る。指定された学校での体験は45時間以上とする。インターンシップ生は、決められた期間中、受入学校側の指示に従い、以下の活動を行う。①授業支援・授業補助、②授業以外の業務への支援、③学校行事への参加・支援、④研修会への参加、⑤その他。インターンシップのまとめとして、12月から2月の間に、本学においてインターンシップ報告会を実施する。なお、インターンシップ活動の日程や内容については，受入学校との調整による。そのため、以下の授業計画は一例である。インターンシップの実施先は、協定を締結した学校となる。
授業の方法	本授業は、インターンシップ事前、インターンシップ活動中、インターンシップ事後で構成される。また、本学担当教員による受入校への訪問巡回指導が実施される。インターンシップ生は、活動期間中、受入校での補助業務及び教職インターンシップノートへの記入を行う。
予習と復習	インターンシップ活動校の指示に従い、事前準備、事後の振返りなどを「教職インターンシップノート」へ記入する。
テキスト等	「教職インターンシップノート」。その他の資料等は、必要に応じて配布する。

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
	教職インターンシップノート			30%	インターンシップ報告会発表			30%
	平常点は、受入校での活動への参加状況による。その他１及び２は、担当教員によって評価される。							

授業計画	①イントロダクション（説明会，面接，派遣先の決定）
	②受入学校の説明①（受入校説明，スケジュール調整等）
	③受入学校の説明②（校内支援活動について）
	④インターンシップ活動　授業支援①（学習補助）
	⑤インターンシップ活動　授業支援②（授業準備補助）
	⑥インターンシップ活動　授業支援③（校外学習補助）
	⑦インターンシップ活動　授業支援④（遠足・修学旅行等補助）
	⑧インターンシップ活動　土曜日授業参加
	⑨インターンシップ活動　校内研修への参加
	⑩インターンシップ活動　学校行事への参加
	⑪インターンシップ活動　学校事務への参加
	⑫インターンシップ報告会（準備，調査）
	⑬インターンシップ報告会（個別課題の修正，リハーサル）
	⑭インターンシップ報告会
	⑮総まとめと振返り

科目名	教職インターンシップ(中・高校免許用)
英文科目名	Educational Internship
担当者名	松丸明弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED263

授業の概要と到達目標	本授業は，人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた，人間教育を実践できる人材」を育成するための科目である。授業では，これまで大学で学んだ教職の知識を活かし、学校現場での様々な業務を体験し、教職への理解を深め、教職への意欲を高めることを目的とする。さらに、教職課程各受講科目への理解を深め、学校現場と講義科目の循環を図る。指定された学校での体験は45時間以上とする。インターンシップ生は、決められた期間の間、受入学校側の指示に従い、以下の業務を行う。①授業支援・授業補助。②授業以外の業務の支援。③学校行事への参加・支援。④研修会への参加。⑤その他。インターンシップのまとめとして、1月から2月の間に、本学においてインターンシップ体験報告会を実施する。なお、インターンシップ活動の日程や内容については、受入学校との調整による。そのため、以下の授業計画は一例である。インターンシップの実施先は、協定を締結した学校となる。
授業の方法	授業は、事前・事後指導，実習活動（期間中）、報告発表会で構成される。実習形式のアクティブ・ラーニングがおこなわれ、学生は期間中、インターンシップ活動校での補助業務を行い、実習日に実習ノートを実習内容を記載する。
予習と復習	インターンシップ活動校の指示に従い、事前準備、事後の振返りなど、「教職インターンシップ報告書」への記入を行う。
テキスト等	本学の「教職インターンシップ報告書」必要に応じて資料を配布する。

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
教職インターンシップノート			30%	実践報告会発表内容			20%
平常点は、受入校による業務への参加状況による。その他①及び②は、担当教員によって採点される。							

授業計画
①イントロダクション（説明会，面接，派遣先の決定）
②受入学校の説明①（受入校説明，スケジュール調整等）
③受入学校の説明②（校内支援活動について）
④インターンシップ活動　授業支援①（学習補助）
⑤インターンシップ活動　授業支援②（授業準備補助）
⑥インターンシップ活動　授業支援③（校外学習補助）
⑦インターンシップ活動　授業支援④（遠足・修学旅行等補助）
⑧インターンシップ活動　土曜日授業参加
⑨インターンシップ活動　校内研修への参加
⑩インターンシップ活動　学校行事への参加
⑪インターンシップ活動　学校事務への参加
⑫インターンシップ実践報告会（準備，調査）
⑬インターンシップ実践報告会（個別課題の修正，リハーサル）
⑭インターンシップ実践報告会
⑮総まとめと振返り

科目名	社会科･地理歴史科教育論
英文科目名	Education of Social Studies - Geographic & Histor
担当者名	松丸明弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED264

授業の概要と到達目標	人間が二人以上いれば、そこには必ず社会があります。社会とは、人間が生きてゆく上で関わり合わざるを得ない環境であり、人間の生活や成長に最も影響を与える要因です。社会科とは、自分が生まれてきて所属することになった場所がどういう場所なのか。今どうであるのか、そしてなぜそうなっているのかを認識する教科と言えます。本講義では学習指導要領に沿って、そのような中学校社会科・高等学校地理歴史科の目的・意義を理解するとともに、「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」（本学の教員養成目標）に必要な見識（理念・教養）・能力（情報機器等を活用した調査・伝達法等を含む）を養うことを目指します。特に学校現場での教員経験を活かし、教育実習で役にたつような実践的な授業を心がけます。
授業の方法	教育をめぐる現状に向き合い、自分の考えを作っていくためたくさん議論しましょう。また、欧米ではすでに行われているシュミレーションゲームを授業に取り入れるというアクティブラーニングをしていきたいと思っております。
予習と復習	予習90分：毎回宿題あります。「今週のニュース」。（1）気になったニュース、（2）なぜ気になったのか、（3）生徒にどう伝えるかメモしてください。それを毎回５分報告し、全員で意見交換します。復習90分：参加者の意見を踏まえ、報告内容を再考します。
テキスト等	『中学校学習指導要領解説　社会編』（平成29年告示　文部科学省）、『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（平成30年告示、文部科学省）

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	50%
				0%				0%
	少人数でインタラクティブに行われる授業であるため、大原則として、毎回必ず出席が求められます。ほかの授業よりも厳しく出席が要求されますので、履修する場合は、そのことを念頭に置いて下さい。特に、初回はスケジュールを決める上で全員出席が必須です。							

授業計画	①導入　社会科・地理歴史科教育の現状
	②社会科・地理歴史科で学ぶもの
	③社会科・地理歴史科を教えるということ：子供の地理・歴史学習
	④日本と世界の社会科教育・教員養成
	⑤近代の社会科・地理歴史科教育史１（明治維新後）
	⑥近代の社会科・地理歴史科教育史２（終戦まで）
	⑦戦後教育と「社会科」の誕生１
	⑧戦後教育と「社会科」の誕生２
	⑨学習指導要領の内容読解と要点理解（中学社会科-地理的分野）
	⑩学習指導要領の内容読解と要点理解（中学社会科-歴史的分野（世界史領域））
	⑪学習指導要領の内容読解と要点理解（中学社会科-歴史的分野（日本史領域））
	⑫学習指導要領の内容読解と要点理解（高校地理）
	⑬学習指導要領の内容読解と要点理解（高校世界史）
	⑭学習指導要領の内容読解と要点理解（高校日本史）
	⑮まとめと復習

科目名	社会科･地理歴史科指導法
英文科目名	Methods of Teaching about Social Studies,Geograph
担当者名	松丸明弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED265

授業の概要と到達目標	本講義では、学習指導要領の把握・理解を前提に、「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」（本学の教員養成目標）として、中学社会科・高校地理歴史科の授業を実施する上での実践的訓練を行います。前半では学習指導案を作成し、授業を計画・構成す能力の獲得を目標とします。後半ではそれに基づいて実際に模擬授業を行います。そして「教壇に立って科目を教えること（生徒に情報を伝えること、なぜ伝えねばならない情報なのかを伝えること、情報機器などの調べる手段・伝える手段を適切に活用すること、生徒の理解度を確認すること、調査を促すこと、生徒の発展的活動を促すこと〔問題意識の獲得、関心の拡大、思考、イノベーション、発信〕など）」がどういうことかを体験し、再認識することを目指します。特に学校現場での教員経験を活かし、教育実習で役に立つような実践的に授業をしていきます。
授業の方法	アクティブラーニングとして指導案の作成、模擬授業を全員が実施します。教育実習で生徒が理解できる授業ができるようになることが第一目標です。
予習と復習	予習（90分）：毎回の授業で、こちらから提示する学習指導案や授業映像から社会科授業としての意義と課題、自分の授業作成に応用できる点を整理してもらい、授業の冒頭にてグループで意見交換をします。　復習（90分）：作成した指導案の改善をします。
テキスト等	『中学校学習指導要領解説　社会編』（平成29年告示、文部科学省）、『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（平成30年告示、文部科学省）

評価方法								
定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
模擬授業の達成度・取り組み姿勢			50%	学習指導案の達成度・取り組み姿勢			50%
大原則として毎回の出席が求められます。指導案や模擬授業の質に加えて、他の学生の指導案や模擬授業への批評や、批評を含めた改善案も評価対象に含めます。お互いに批評し合うことで、この授業を通して学生全体の授業力向上をめざします。								

授業計画
①地理歴史学習（認識・思考の特色と学力の実態）に即した情報機器・教材の活用
②指導案作成演習：中学社会科-地理的分野の作成・指導
③指導案作成演習：中学社会科-地理的分野の検証と中学社会科-歴史的分野（世界史領域）
④指導案作成演習：中学社会科-歴史的分野（世界史領域）の検証と中学社会科-歴史的分野
⑤指導案作成演習：中学社会科-歴史的分野（日本史領域）の検証と高校地理の作成・指導
⑥指導案作成演習：高校地理の検証と高校世界史の作成・指導
⑦指導案作成演習：高校世界史の検証と高校日本史の作成・指導
⑧指導案作成演習：高校日本史の検証と指導案作成に係る総合的質疑
⑨模擬授業（中学社会科-地理的分野：実演）
⑩模擬授業（中学社会科-歴史的分野（世界史領域）：実演）
⑪模擬授業（中学社会科-歴史的分野（日本史領域）：実演）
⑫模擬授業（高校地理：実演）
⑬模擬授業（高校世界史：実演）
⑭模擬授業（高校日本史：実演）
⑮まとめと復習

科目名	進路指導(中・高校免許用)
英文科目名	Career Guidance and Counseling
担当者名	赤羽根和恵
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED266

授業の概要と到達目標

【授業の概要】　進路指導とそれを含むキャリア教育の意義を理解することを目的とする。進路指導・キャリア教育の教育課程上の位置づけ、キャリア・パスポートの活用、キャリアガイダンスやキャリアカウンセリングの理論と方法を学び、職業体験や近年の若者の労働問題について理解を深める。そのうえで、これらの視点を踏まえた授業計画、キャリアガイダンス、キャリアカウンセリングを含む進路指導・キャリア教育に取り組む力を養う。本授業は、商学部および経営学部のディプロマポリシーに基づき、現代社会の要請に応えうる見識と力量を備えた教師の養成を目指す。外部講師を招聘する場合がある。　【到達目標】　・教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけを理解することができる。　・学校の教育活動全体を通じた進路指導・キャリア教育の視点と指導の在り方を例示できる。　・進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制や、家庭・関係機関との連携の在り方を理解できる。

授業の方法

グループワークを複数回設ける。アクティブ・ラーニング（演習・ディスカッション・発表・リアクションペーパー等）を重視。期中と第15回にオンデマンド授業を行い、その案内は授業内とGoogle Classroomを利用する。職業レディネステスト受検料（400円余）の負担あり。

予習と復習

・予習（90分）：事前配布資料を読み、ポイントまとめておくこと。・復習（90分）：授業内容を振り返り、トピックスに関する時事問題等を調べて、自分の視野を広げること。

テキスト等

・教科書：使用しない。必要に応じて資料を配布する。・参考資料：文部科学省．学習指導要領（平成29年・30年告示）準拠「中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023年3月）」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	10%
授業貢献度（発言・積極性）			20%				0%

・授業回数の3分の2以上の出席（リアクションペーパー等の提出を含む）を評価の前提条件として、上記内容で総合的に評価する。・試験・レポート等のフィードバック：提出された答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。

授業計画

①進路指導の概念と授業方針
②キャリアの概念
③カウンセリングの概念
④進路指導の歴史的展開
⑤進路指導の理論的基礎：３つのアプローチ①
⑥進路指導の理論的基礎：３つのアプローチ②
⑦進路指導の事例検討、グループワーク
⑧職業レディネステスト受検体験・結果による自己理解・発表
⑨産業と職種の理解
⑩キャリア教育の概念と目的
⑪キャリア教育と実践計画、キャリア・パスポートの活用
⑫キャリアカウンセリングのプロセスと求められる態度、事例検討、グループワーク
⑬職業体験・インターンシップと現代の労働問題
⑭授業内試験
⑮まとめと総復習（オンデマンド授業）：進路指導によるキャリア形成支援

科目名	特別支援教育(小学校免許用)
英文科目名	Special Needs Education
担当者名	横倉久
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED267

授業の概要と到達目標

本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教師像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。テーマは「特別の支援等を必要とする児童に対する理解と対応」である。　現在、小学校では、通常の学級にも発達障害講義テーマはをはじめとする様々な特別の支援を必要とする児童が在籍している。そこで、本講義では、将来、教員をめざす者として、特別の支援等を必要とする児童に対して適切な指導及び必要な支援を行う「特別支援教育」についての理解を深めることを目標とする。そのためには、児童の障害特性や教育課程について知り、児童の教育的ニーズの把握の仕方や支援方法を身に付ける必要がある。また、昨今のインクルーシブ教育システムの構築についての理解を深め、障害のある児童一人一人に応じた合理的配慮の提供について理解することも必要である。　特別支援教育への理解を深めることで、小学校の教員として、児童の学習上又は生活上の困難への基礎的知識を身に付け、その困難さに対応することができるようにする。

授業の方法

講義は、障害のある幼児児童生徒への教育のあり方について、自身の特別支援学校教諭の経験を踏まえた話題を提供し、受講学生の主体的・対話的で深い学びの実現のためのPBL（課題解決型学習）を取り入れ、アクティブラーニングを推進する。

予習と復習

予習（90分）テキストや特別支援教育に関連する文献（記事）等を読み、要点をまとめ、次週の授業に備えておくこと。　復習（90分）テキストや配付資料等を読み、学んだことを自ら振り返り、受講した授業についての理解を深めておくこと。

テキスト等

【テキスト】「特別支援教育の基礎・基本第4版」（ジアース教育新社）、【参考】「小学校新学習指導要領の展開支援教育編」（明治図書）、文科省「小学校学習指導要領解説総則編」「特別支援学校学習指導要領解説各教科編等」「学習指導要領解説自立活動編」

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	10%
課題レポート			30%				0%

※授業内試験、課題レポート、平常点を総合的に考慮し成績を評価する。※出席回数を単位取得の前提条件とし、３回を越える欠席者（遅刻・早退は２回で欠席１回分に相当）は、原則として単位を認定しない。

授業計画

①特別支援教育とは（特別支援教育をめぐる現状）
②特別支援教育に関わる法や制度について
③特別支援教育の基礎知識１（視覚障害教育）
④特別支援教育の基礎知識２（聴覚障害教育）
⑤特別支援教育の基礎知識３（言語障害教育）
⑥特別支援教育の基礎知識４（発達障害教育：ＬＤ・ＡＤＨＤ）
⑦特別支援教育の基礎知識５（発達障害教育：高機能自閉症等）
⑧特別支援教育の基礎知識６（知的障害教育）
⑨特別支援教育の基礎知識７（肢体不自由教育）
⑩特別支援教育の基礎知識８（病弱身体虚弱教育）
⑪特別支援教育の教育課程について
⑫個別の指導計画、個別の教育支援計画
⑬インクルーシブ教育システム構築に向けて（合理的配慮提供や基礎的環境整備）
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	特別支援教育(中・高校免許用)
英文科目名	Special Needs Education
担当者名	横倉久
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED268

授業の概要と到達目標

本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教師像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。講義テーマは「特別の支援等を必要とする生徒に対する理解と対応」である。　現在、中学校や高等学校では、通常の学級にも発達障害をはじめとする様々な特別の支援を必要とする生徒が在籍している。そこで、本講義では、将来、教員をめざす者として、特別の支援等を必要とする生徒に対して適切な指導及び必要な支援を行う「特別支援教育」についての理解を深めることを目標とする。そのためには、生徒の障害特性や教育課程について知り、生徒の教育的ニーズの把握の仕方や支援方法を身に付ける必要がある。また、昨今のインクルーシブ教育システムの構築についての理解を深め、障害のある生徒一人一人に応じた合理的配慮の提供について理解することも必要である。　特別支援教育への理解を深めることで、中学校や高等学校の教員として、生徒の学習上又は生活上の困難への基礎的知識を身に付け、その困難さに対応することができるようにする。

授業の方法

講義は、障害のある幼児児童生徒への教育のあり方について、自身の特別支援学校教諭の経験を踏まえた話題を提供し、受講学生の主体的・対話的で深い学びの実現のためのPBL（課題解決型学習）を取り入れ、アクティブラーニングを推進する。

予習と復習

予習（90分）テキストや特別支援教育に関連する文献（記事）等を読み、要点をまとめ、次週の授業に備えておくこと。　復習（90分）テキストや配付資料等を読み、学んだことを自ら振り返り、受講した授業についての理解を深めておくこと。

テキスト等

【テキスト】「特別支援教育の基礎・基本第4版」（ジアース教育新社）、【参考】「中学校新学習指導要領の展開支援教育編」（明治図書）、文科省「中・高等学校学習指導要領解説総則編」「特別支援学校学習指導要領解説各教科編等」「学習指導要領解説」

評価方法

定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	10%
課題レポート			30%				0%

※授業内試験、課題レポート、平常点を総合的に考慮し成績を評価する。※出席回数を単位取得の前提条件とし、３回を越える欠席者（遅刻・早退は２回で欠席１回分に相当）は、原則として単位を認定しない。

授業計画

①特別支援教育とは（特別支援教育をめぐる現状）
②特別支援教育に関わる法や制度について
③特別支援教育の基礎知識１（視覚障害教育）
④特別支援教育の基礎知識２（聴覚障害教育）
⑤特別支援教育の基礎知識３（言語障害教育）
⑥特別支援教育の基礎知識４（発達障害教育：ＬＤ・ＡＤＨＤ）
⑦特別支援教育の基礎知識５（発達障害教育：高機能自閉症等）
⑧特別支援教育の基礎知識６（知的障害教育）
⑨特別支援教育の基礎知識７（肢体不自由教育）
⑩特別支援教育の基礎知識８（病弱身体虚弱教育）
⑪特別支援教育の教育課程について
⑫個別の指導計画、個別の教育支援計画について
⑬インクルーシブ教育システム構築に向けて（合理的配慮や基礎的環境整備を中心に）
⑭授業内試験と解説
⑮まとめと総復習

科目名	総合的な学習の時間(小学校免許用)
英文科目名	Integrated Studies
担当者名	望月耕太
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED269

授業の概要と到達目標	学習指導要領を基準として学校において編成される総合的な学習の時間について、その意義や編成の方法を理解するとともに、学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。全体目標：探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。実際に「総合的な学習の時間」の模擬授業の体験を通して学校の「社会に開かれた教育課程」編成に寄与できるとともに現代社会に応えうる見識と力量をもった教師の養成を目指す。
授業の方法	基本的には講義形式で進めるが、アクティブラーニングとして、受講者同士でのディスカッションや発表を行う。そして、適宜課題レポートの提出を求める。
予習と復習	・予習：書籍やインターネットなどをもとに授業テーマに関連する事柄を調べ、自分の意見を他の受講者に発表できるようにまとめてくる。（90分）・復習：授業で扱った内容や授業中に話した内容を整理し、理解を深める。（90分）
テキスト等	適宜、授業時にプリントを配布する。参考資料：・朝倉淳・永田忠道編著『総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の新展開』学術図書、2019年・関川悦雄・今泉朝雄編著『特別活動・総合的学習の理論と指導法』弘文堂、2019年

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	授業における演習や発表会への参加状況と課題レポート、期末レポートで評価する。							

授業計画
①ガイダンス（シラバスの説明）
②学習指導要領における「総合的な学習の時間」の意義と位置付け
③「総合的な学習の時間」の現状と課題
④「総合的な学習の時間」の教育目標
⑤「総合的な学習の時間」の内容
⑥「総合的な学習の時間」の課題・探究テーマの設定
⑦「総合的な学習の時間」と各教科･他領域との関連
⑧「総合的な学習の時間」の体験（まち探検①）
⑨「総合的な学習の時間」における「情報の収集」（まち探検②）
⑩「総合的な学習の時間」における「整理・分析」（発表会準備）
⑪「総合的な学習の時間」における「活動のまとめ・表現」（発表会）
⑫「総合的な学習の時間」の評価（ルーブリックの作成）
⑬「総合的な学習の時間」を実践するための支援のあり方（メディアの活用方法も含む）
⑭「総合的な学習の時間」の全体計画と年間指導計画
⑮まとめと総復習

科目名	総合的な学習の時間(中・高校免許用)
英文科目名	Integrated Studies
担当者名	松丸明弘
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED270

授業の概要と到達目標	横断的・総合的な学習、体験的な活動や言語的な活動を重視する学習である「総合的な学習の時間」の指導法を学ぶことが目標である。まず、科目創設までの経緯、背景にある社会情勢、修得すべき知識・技能について学習指導要領等を通じて理解し考察する。次に優れた実践について調べた上で、自分でテーマを決め、研究し、中間発表・討議、最終発表を行う。アクティブ・ラーニングを行うことで「総合的な学習の時間」の指導法について体験的に学ぶことになる。商学や経営学などをはじめとするさまざまな学問領域に深い探究心を持つ生徒を育てることができる教師になることも目標である。特に学校現場での教員経験を活かし、教育実習で役に立つような、実践的な授業を心がける。
授業の方法	講義のあとにはかならず課題を出し、さらに年間指導計画や単元計画の作成、研究テーマの決定から発表やレポート提出まで、発表やディスカッションなどの様々なアクティブ・ラーニングをおこなう。
予習と復習	〈予習（90分）〉授業内容の予習、課題への取り組み〈復習（90分）〉授業内容の復習、課題への取り組み
テキスト等	『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成29年告示、東山書房）　『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』（平成30年告示、学校図書）

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	30%
	年間指導計画・単元計画の作成			20%	発表やレポート			30%

授業計画
①総合的な学習の時間とは①（学習経験の振り返り、総合的な学習の時間創設の背景）
②総合的な学習の時間とは②（総説、総合的な学習とは）
③総合的な学習の時間とは③（学習指導要領の変遷と社会的背景）
④総合的な学習の時間をいかに組み立てるか①（目標と知識・技能）
⑤総合的な学習の時間をいかに組み立てるか②（教育内容と内容の取り扱い）
⑥総合的な学習の時間に触れる①（課題設定についての基本的な活動を学ぶ）
⑦総合的な学習の時間に触れる②（情報収集についての基本的な活動を学ぶ）
⑧総合的な学習の時間に触れる③（資料の整理・分析のための基本的な活動を学ぶ）
⑨総合的な学習の時間に触れる④（まとめ･表現のための基本的な活動を学ぶ）
⑩総合的な学習の時間をいかに評価するか（評価のための基本的な活動を学ぶ）
⑪単元計画と教材をつくる①（作成方法の確認、教材づくりの準備）
⑫単元計画と教材をつくる②（単元計画作成の確認、教材づくりの活動）
⑬単元計画と教材をつくる③（グループにおける発表）
⑭単元計画と教材をつくる④（発表の全体共有）
⑮まとめと総復習

科目名	英語
英文科目名	English
担当者名	宮﨑太樹
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED271

授業の概要と到達目標	長年の教育現場での経験を活かし、教育実習で役に立つよう、実践的に授業をしていきます。小学校における外国語活動・外国語の授業を行うために必要となる実践的な英語運用力と、外国語教育に係る背景的な知識を身に付ける。具体的には、授業場面で必要となる「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の力を身に付けること、他校種との連携を踏まえた英語、言語習得、異文化理解に関する知識を身に付けること、教育現場で直面しうる困難に対応するための思考力や判断力を養うこと、教師としての生き方や考え方を児童に伝えるための表現力を養うことを目標とする。　授業では、小学校における外国語教育に必要な英語表現と背景知識について講義を受けるだけでなく、自らの英語運用力に関する諸課題を発見し、調査や体験活動を通じて主体的に解決策を見出し、他者と互いに考えを表現し合うことで幅広い視点から考察する。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」を達成するための科目である。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、毎回の授業でグループワークを行い、実演や発表等を実施します。
予習と復習	予習（90分）次の時間に扱うテキストを読み込み、どのような箇所が自分にとって課題になるか考える。復習（90分）授業の内容に基づいて、学習したことを振り返り、小テストの準備を行うこと。
テキスト等	文部科学省(2018)『Let's Try! 1・2』東京書籍金森強ほか(2024)『One World Smiles 5・6』教育出版

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	30%
	小テスト			30%				0%
	授業への積極的な取り組み状況を平常点とする。小テストと授業内試験は個別に採点して返却する。							

授業計画	①小学校3年生で学ぶ英語①（聞くこと・話すこと）
	②小学校3年生で学ぶ英語②（聞くこと・話すこと）
	③小学校4年生で学ぶ英語①（聞くこと・話すこと）
	④小学校4年生で学ぶ英語②（聞くこと・話すこと）
	⑤小学校5年生で学ぶ英語①（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）
	⑥小学校5年生で学ぶ英語②（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）
	⑦小学校5年生で学ぶ英語③（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）
	⑧小学校5年生で学ぶ英語④（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）
	⑨小学校5年生で学ぶ英語⑤（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）
	⑩小学校6年生で学ぶ英語①（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）
	⑪小学校6年生で学ぶ英語②（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）
	⑫小学校6年生で学ぶ英語③（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）
	⑬小学校6年生で学ぶ英語④（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）
	⑭小学校6年生で学ぶ英語⑤（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）
	⑮まとめ（半期の振り返りとこれからの展望）

科目名	英語科指導法
英文科目名	Methods of English Language Teaching
担当者名	宮﨑太樹
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TED272

授業の概要と到達目標	長年の教育現場での経験を活かし、教育実習で役に立つよう、実践的に授業をしていきます。学習指導要領に基づき、小学校における外国語活動・外国語の指導方法を身に付ける。具体的には、他校種の外国語教育との連携、小学校外国語教育に係る教材、多様な教育環境、児童期の第二言語習得理論などの基本を理解する。その上で、実際の教育現場で遭遇するであろう諸課題を予測し、それに対応するための思考力や判断力を養う。さらに、教師としてどのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送っていくかについて主体的に考え、適切な教育観を身につける。　授業では、小学校における外国語教育法について講義を受けるだけでなく、小学校英語教育に関わる諸問題や、教師として生きていく上での諸課題を発見し、調査や実験を通じて主体的に解決策を見出し、他者と互いに考えを表現し合うことで幅広い視点から考察する。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」を達成するための科目である。
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、毎回の授業でプレゼンテーションや学習指導案の作成、模擬授業等を実施します。
予習と復習	予習（90分）発表の準備、学習指導案の作成、模擬授業の練習等に取り組むこと。復習（90分）授業の内容に基づいて、自分自身の発表、学習指導案、模擬授業の振り返りを行うこと。
テキスト等	文部科学省(2018)『Let's Try! 1・2』東京書籍金森強ほか(2024)『One World Smiles 5・6』教育出版赤沢真世(2022)『小学校外国語科・外国語活動の授業づくり』教育出版

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	20%	レポート	0%	平常点	20%
	学習指導案			30%	模擬授業			30%
	学習指導案は返却して個別に評価と所見を提示します。模擬授業は授業内で個別に評価と所見を提示します。							

授業計画
①体験授業と小学校外国語・外国語科の目的と目標
②コミュニケーション能力と第二言語習得理論、カリキュラムと単元構成
③指導者の英語と外国語活動の指導のポイント
④外国語科の指導のポイントと評価と振り返り
⑤チャンツや歌の指導と絵本を用いた指導
⑥読み書きの指導とCLIL
⑦ICTの有効活用と小中連携の在り方
⑧指導案作成
⑨外国語活動の指導案発表
⑩外国語の指導案発表
⑪小学校3年生の模擬授業
⑫小学校4年生の模擬授業
⑬小学校5年生の模擬授業
⑭小学校6年生の模擬授業
⑮模擬授業の反省と振り返り

科目名	基礎中国語（文法・読解）
英文科目名	Basic Chinese （grammar・reading）
担当者名	宮島琴美,李雲
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CHI101

授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞この授業は、外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。中国語の発音・文法・語彙等の基礎を学ぶとともに、限られた時間の中で効率的に中国語を学習し、今後教師の助けが無くても独力で中国語の習得を進めていくための基礎を身につけることを目標とする。＜学習到達目標＞・中国語の音韻体系に則した発音を身につけ、ピンインを正しく読める。・基礎的な中国語の文法ルール（特に語順を中心に）を理解し、500語程度の単語を獲得する。・簡単な中国語の文章を音読し、意味を理解した上で、的確な日本語に訳せること、長めの文章の解読力を養う。
授業の方法	アクティブ・ラーニング対応。テキストにでてきた単語や会話文の意味、文法事項を説明した上で発音を練習する。最後にグループワークで文章を音読することで発音や理解度を確認する。
予習と復習	・次回の授業に出てくる単語と文法に目を通しましょう。（予習45分）・授業後、授業で出た単語を覚え、本文を何度も音読しましょう。（復習45分）
テキスト等	宮島先生　おもてなし中国語教材開発研究チーム著　『初級中国語でおもてなし』改訂版　（金星堂）　李先生　陳淑梅・劉光赤著　しゃべっていいとも中国語 改訂版 朝日出版社　ISBN: 9784255453880

評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題（発音＆単語）・授業参加度			60%				0%
	・単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要とする							

授業計画	①ガイダンス（講義概要を説明する）
	②声調（四声）、単母音
	③複母音、子音
	④鼻母音、声調変化、ｒ化音
	⑤発音まとめ&小テスト①（発音）
	⑥人称代名詞、“是”
	⑦疑問文１、疑問文２
	⑧指示代名詞、動詞述語文
	⑨疑問詞３、副詞＆小テスト②（単語）
	⑩助動詞、提案・軽い命令表現
	⑪連動文、語順について
	⑫“的”の省略、疑問詞４
	⑬形容詞述語文、名詞述語文＆小テスト③（中国語会話）
	⑭定期試験（筆記）と解説
	⑮まとめと総復習

科目名	基礎中国語（会話・作文）
英文科目名	Basic Chinese （conversation・writing）
担当者名	李雲,宮島琴美
科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CHI102

授業の概要と到達目標	中国語未習の学生が中国語を母語とする教員から初級レベルの中国語を学ぶ。中国語の発音の基本となるピンイン（中国式ローマ字）を学び、さらに簡体字、基礎文法、初級レベルの単語などを学ぶが、特に会話と作文に重点を置く。この科目は、外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。
授業の方法	アクティブ・ラーニング対応。反転学習。事前に朝日出版社の無料オンライン支援コンテンツを確認した上で、授業に臨むことを求める。
予習と復習	予習（45分）、事前に指定範囲のテキストを精度し、CDを聞いておく。復習（45分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認し、課題をclassroomに提出する。
テキスト等	しゃべっていいとも中国語　中西君と一緒に中国へ行こう！　改訂版　朝日出版社

評価方法								
	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	40%
	小テスト			20%				0%
	原則として対面授業で行います。授業回数の四分の三以上の出席が必要です。正当な理由なく欠席が所定の回数を超えた場合は試験を受ける資格を失います。							

授業計画	
	①中国語概論（履修ガイダンスを含む）、第１課　　声調と単母音
	②第２課　複母音
	③第３課　第４課　子音
	④第４課　　鼻母音　発音総合練習　発音テストに備えて練習する。
	⑤ピンイン小テスト　５課本文会話練習
	⑥ 第５課　文法学習・ドリル　名前のいい方の作文
	⑦第6課　本文会話練習と文法学習
	⑧第６課　ドリル。大学と専門を紹介する作文
	⑨第7課　本文会話練習と文法学習
	⑩第７課　ドリル。どこへ行くかを紹介する作文
	⑪第８課　本文会話練習と文法学習
	⑫第８課　ドリル。なにをしたいかを紹介する作文
	⑬第9課　本文会話練習と文法学習
	⑭第9課　コンビニがどこにあるかを作文。
	⑮第５課～第９課の内容を総合復習